

習志野市 高齢者等実態調査結果 報告書

令和8年3月

習志野市高齢者支援課

目次

第Ⅰ部 調査結果.....	1
第1章 調査概要.....	2
1. 調査の概要.....	2
(1) 調査の目的.....	2
(2) 調査実施概要.....	2
(3) 調査方法.....	2
(4) 調査期間.....	2
2. 本報告書の見方.....	2
第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査.....	3
1. 回答者属性.....	4
(1) 調査票の回答者.....	4
(2) 年齢.....	4
(3) 居住地区.....	5
(4) 性別.....	5
(5) 家族構成.....	6
(6) 介護・介助の状況.....	7
(7) 要支援認定区分.....	9
(8) 経済状況.....	10
(9) 住まいの形態.....	11
2. からだを動かすことについて.....	12
(1) 運動機能の状況.....	12
(2) 外出の頻度.....	14
(3) 移動手段.....	18
3. 食べることについて.....	19
(1) BMI.....	19
(2) 口腔機能の状況.....	19
(3) 口腔ケアの状況.....	21
(4) 体重減少の状況.....	24
(5) 共食の状況.....	24
4. 健康について.....	25
(1) 主観的健康観.....	25
(2) 主観的幸福感.....	26
(3) うつ傾向.....	27
(4) 通院の状況.....	28
(5) 飲酒習慣.....	29
(6) 喫煙習慣.....	29
(7) 治療中や後遺症のある病気.....	30
(8) 健康診査、がん検診の状況(一般高齢者のみ).....	31

(9) 医療・介護についての知識・情報の入手元	36
5. 毎日の生活について	37
(1) 認知機能の状況	37
(2) 手段的日常生活動作(IADL)の状況	38
(3) 知的能動性の状況	42
(4) 他者との関わりの状況	44
(5) 楽しみや生きがいの有無	46
6. 地域での活動・ボランティアについて	47
(1) 地域の会・グループ等への参加状況	47
(2) 地域の会・グループ等への参加意向	58
(3) 地域における支え合いの意識	60
7. 就労について	64
(1) 就労状況	64
8. 「たすけあい」について	65
(1) 「たすけあい」の状況	65
(2) 相談相手	69
(3) 友人・知人との交流状況	70
9. 日常生活で困っていることや将来の不安について	72
(1) 現在困っていることや将来の不安	72
10. 将来への備えについて	74
(1) 人生会議・ACP の認知度	74
(2) 終活の準備状況	76
(3) 緊急事態が起きた時について	78
(4) 成年後見制度の認知度	79
11. 認知症について	80
(1) 「新しい認知症観」の認知度	80
(2) 認知症の症状の有無	80
(3) 認知症に関する相談窓口の認知度	81
(4) 自分や家族が認知症になった場合について	84
(5) 市の認知症施策の認知度	87
12. 介護保険の利用について	88
(1) ケアマネジャーに対する満足度	88
(2) 介護保険サービスの利用状況	88
(3) 介護サービスの自己負担割合と負担感	91
13. 介護保険制度・高齢者施策について	93
(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について	93
(2) 将来の生活と介護予防について	95
(3) 高齢者外出支援事業について	98
(4) 運転免許証自主返納者への支援について	101
(5) 高齢者相談センターの相談窓口の認知度	103
(6) 高齢者が地域で在宅を続けるために必要な施策	104
14. 主な介護者の方への質問	105
(1) 介護者の年齢	105

(2) 介護の種類.....	106
(3) 介護者の現状.....	107
(4) 介護者の仕事と介護の両立について.....	109
15. ご意見・ご要望.....	111
第3章 在宅要介護認定者調査.....	125
1. 回答者属性.....	126
(1) 回答者.....	126
(2) 年齢.....	126
(3) 居住地区.....	127
(4) 性別.....	127
(5) 家族構成.....	128
(6) 介護・介助の状況.....	129
(7) 認定区分.....	130
(8) 経済状況.....	131
(9) 住まいの形態.....	131
2. 地域交流・ボランティアについて.....	132
(1) 地域における支え合いの意識.....	132
(2) ボランティア支援の利用意向.....	132
3. 日常生活で困っていることや将来の不安について.....	134
(1) 困っていること.....	134
(2) 将来についての不安.....	135
4. 将来への備え等について.....	136
(1) 人生会議・ACP の認知度.....	136
(2) 新しい認知症観の認知度.....	137
(3) 緊急時の意思決定・金銭管理を担う人の有無.....	138
(4) 成年後見制度の認知度.....	138
(5) 医療・介護情報の入手先.....	139
(6) 認知症の有無(本人・家族).....	140
(7) 認知症相談窓口の認知度.....	141
5. 介護保険の利用について.....	143
(1) ケアマネジャー対応の満足度.....	143
(2) 介護保険サービス利用状況.....	143
6. 介護保険制度・高齢者施策について.....	148
(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について.....	148
(2) 今後希望する生活場所.....	150
(3) 高齢者外出支援事業.....	151
(4) 運転免許証自主返納者への支援.....	153
(5) 高齢者が地域で在宅を続けるために必要な施策.....	154
7. 主な介護者の方にかがいます。.....	155
(1) 介護者の年齢.....	155
(2) 介護の種類.....	156
(3) 介護を行う上で困っていること.....	157

(4) 介護サービスを利用することによる変化.....	158
(5) 介護者としてあったらいいと思う支援.....	159
(6) 介護者の勤務形態.....	160
(7) 仕事と介護の両立に効果のある支援.....	160
8. ご意見・ご要望.....	161
第4章 一般若年者調査.....	167
1. 回答者属性.....	168
(1) 年齢.....	168
(2) 居住地区.....	168
(3) 性別.....	169
(4) 家族構成.....	169
(5) 住まいの形態.....	170
2. 健康について.....	171
(1) 健康への配慮.....	171
(2) 医療・介護情報の入手先.....	177
(3) ACPの認知度.....	178
(4) 認知症について.....	180
(5) 健康診査等の状況.....	187
(6) 口腔機能の状況.....	193
3. 就労や社会参画などについて.....	196
(1) 就労の状況.....	196
(2) 生きがいや今後やりたいこと.....	197
4. 地域における交流、支え合いの状況.....	201
5. 将来の不安、備えについて.....	207
6. 介護保険制度・高齢者施策について.....	212
(1) 介護保険料と介護サービスのありかたについて.....	212
(2) 介護の経験.....	214
(3) ボランティアの参加意向.....	218
(4) 高齢者外出支援事業について.....	219
(5) 高齢者相談センターの相談窓口の認知度.....	221
(6) 高齢者が地域で在宅生活を続けるために必要な施策.....	222
7. ご意見・ご要望.....	223
第5章 施設入所者調査.....	228
1. 回答者属性.....	229
(1) 回答者.....	229
(2) 年齢.....	229
(3) 性別.....	230
(4) 認定区分.....	230
2. 入所している施設について.....	231
(1) 入所している施設の種類.....	231

(2) 入所の理由.....	232
(3) 部屋について.....	234
(4) 今後希望する介護.....	235
(5) 入所先の満足度.....	236
3. 現在の心配ごとや悩みごとについて.....	240
4. 将来への備えについて.....	241
5. 介護保険制度・高齢者施策について.....	242
(1) 介護保険料と介護サービスのあり方.....	242
(2) 介護サービスの自己負担割合と負担感.....	245
6. ご意見・ご要望.....	247
第6章 サービス提供事業者調査.....	250
1. 貴事業者の概要について.....	251
2. 介護保険サービスについて.....	252
3. サービスの質の向上について.....	260
4. ケアマネジメントについて(該当事業者のみ).....	265
5. 今後の高齢者介護について.....	271
6. ご意見・ご要望.....	273
第Ⅱ部 総括・整理.....	275
第7章 生活機能等の状況(一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果より)	276
1. 生活機能.....	276
(1) 運動器の機能低下.....	276
(2) 閉じこもり傾向.....	279
(3) 低栄養の傾向.....	281
(4) 口腔機能の低下.....	283
(5) 認知機能の低下.....	285
(6) うつ傾向.....	287
2. 手段的自立度(IADL).....	289
3. 社会参加.....	291
(1) 知的能動性.....	291
(2) 社会的役割.....	294
第8章 認知症に関する状況.....	296
1. 認知症への理解.....	296
(1) 「新しい認知症観」について.....	296
(2) 認知症の相談窓口について.....	296
(3) 市が取り組んでいる認知症施策について.....	296

2. 認知症に対する不安・実態	296
(1) 認知症の要介護状況	296
(2) 認知症向け介護サービスの状況.....	296
(3) 認知症への不安.....	297
3. 今後の共生社会への展望	297
(1) 認知症になった場合のイメージ	297
(2) 共生社会に向けて必要なこと	297
(3) 認知症向け介護サービスの今後の事業展開	297
第9章 将来への備えに関する状況.....	298
1. 将来への備えに関する理解	298
(1) ACP	298
(2) 身元保証制度.....	298
(3) 成年後見制度.....	298
2. 将来への備えの状況	299
(1) ACP の状況.....	299
(2) 終活.....	299
(3) 老後の生活に必要なだと思うこと	299
第10章 住み慣れた地域での生活継続に関する状況.....	300
1. 生活継続に対する意向	300
2. 生活継続に向けた支援ニーズ.....	300
(1) 住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な施策.....	300
(2) 自宅での生活を続けるために必要なサービス.....	300
3. 日常生活における困りごと・不安	301
(1) 現在困っていること.....	301
(2) 将来についての不安	301
4. 外出・移動環境の状況	302
(1) 高齢者外出支援事業の認知度	302
(2) 高齢者外出支援事業の見直しについて	302
(3) 運転免許証を自主返納した方への支援.....	302
5. 在宅生活を支える介護者の状況	303
(1) 介護者の年齢	303
(2) 介護を行う上で困っている(困った)こと.....	303
(3) 仕事との両立.....	303
第11章 社会参加・地域との関わりの状況	304
1. 地域の活動	304
(1) 参加状況.....	304
(2) 参加の意向.....	304
(3) 隣近所や地域で高齢者を支えることについて.....	304

第12章 介護サービスの利用・供給の状況.....	305
1. 介護保険制度に対する意識.....	305
(1) 介護保険制度における保険料と介護サービスのあり方	305
(2) 低所得者への配慮	305
2. 介護サービスの利用状況.....	305
(1) サービスの利用状況	305
(2) 利用しているサービス	305
(3) 介護者サービス利用による介護者の変化.....	306
(4) 利用していない理由.....	306
(5) サービスの自己負担感	306
(6) 福祉サービスの利用に結び付いていない高齢者	306
3. サービスの供給状況	307
(1) 事業者の人手不足.....	307
(2) インフォーマルサービスの利用.....	307
(3) 地域のボランティア意向	307

第 I 部 調查結果

第1章 調査概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる社会を築くために策定され、事業の推進を図っている市の「習志野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」の次期計画に市民等の意見を反映させ、高齢者の保健福祉や介護サービスの充実に向けた貴重な資料とすることを目的としています。

(2) 調査実施概要

調査区分	抽出方法	送付数	有効回収数	有効回収率	(参考) 前回回収率
一般高齢者 (65 歳以上)	無作為抽出	1,500 人	920	61.3%	67.4%
要支援認定者・ 事業対象者	無作為抽出	1,500 人	906	60.4%	65.1%
在宅要介護認定者	無作為抽出	1,500 人	752	50.1%	54.6%
一般若年者	無作為抽出	1,500 人	653	43.5%	48.6%
介護保険施設入所者	全員	852 人	467	54.8%	57.4%
介護サービス提供事業者	全事業者	174 人	92	52.9%	48.8%

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収及び Web 回答方式

(4) 調査期間

令和 7 年 12 月 15 日～令和 8 年 1 月 16 日

2. 本報告書の見方

- アンケートの選択肢や項目等の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがあります。
- 本文中の「n」は、設問に対する回答者数を示します。
- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第 2 位を四捨五入して算出しています。なお、四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常、100%を超えます。
- 【経年比較】における「前回調査」とは、令和4年度の高齢者等実態調査の結果を指しています。

第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

1. 回答者属性

(1) 調査票の回答者

(単位:%)

	あて名のご本人	あて名の方の配偶者 (夫・妻)	あて名の方のこども	あて名の方の親族	友人・知人	ケアマネジャー	施設の職員	ホームヘルパー	その他	無回答
一般高齢者 (回答者数 920)	91.7	1.7	1.1	0.0	0.1	—	—	—	0.2	5.0
要支援者・事業対象者 (回答者数 906)	83.3	2.3	5.2	1.2	0.0	0.2	0.0	0.0	1.5	6.2

(2) 年齢

あなたの年齢を教えてください。

一般高齢者では、「75～79 歳」が 25.3%と最も高く、次いで「70～74 歳」が 23.8%、「65～69 歳」が 22.8%となっている。

要支援者・事業対象者では、「85～89 歳」が 30.7%と最も高く、次いで「80～84 歳」が 27.7%、「75～79 歳」が 14.1%となっている。

(単位:%)

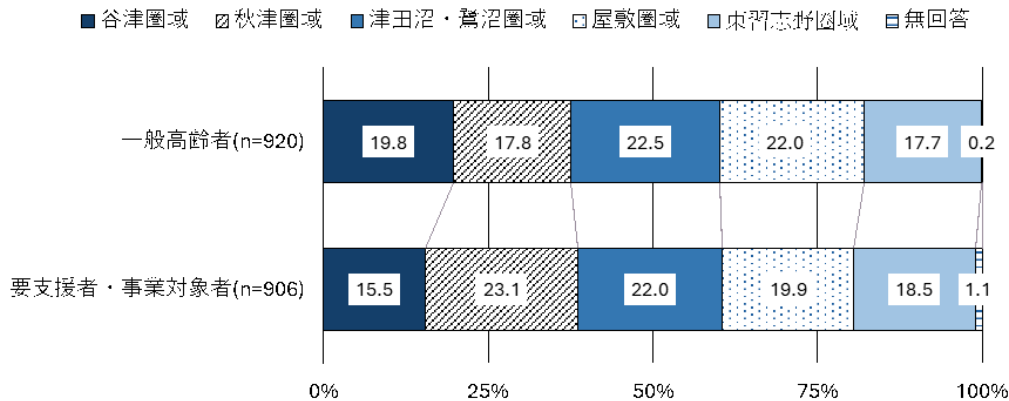
	65～ 69 歳	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90～ 94 歳	95～ 99 歳	100 歳 以上	無回答
一般高齢者 (回答者数 920)	22.8	23.8	25.3	17.2	8.0	2.2	0.2	0.0	0.4
要支援者・事業対象者 (回答者数 906)	2.8	5.7	14.1	27.7	30.7	13.7	3.4	0.2	1.7

(3) 居住地区

お住いの地区名を教えてください。

一般高齢者では、津田沼・鷺沼圏域が22.5%と最も多く、次いで屋敷圏域が22.0%となっている。

要支援者・事業対象者では、秋津圏域が23.1%と最も多く、次いで津田沼・鷺沼圏域が22.0%となっている。

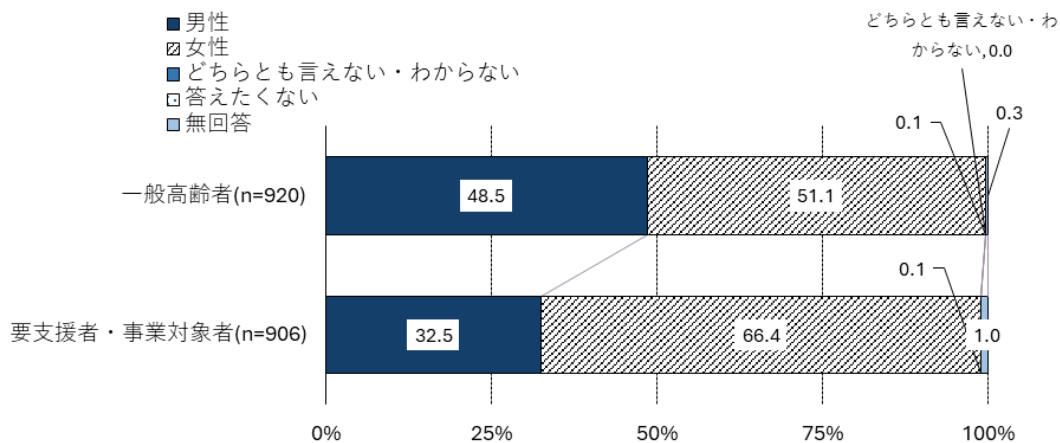


(4) 性別

あなたの性別をお答えください。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「女性」が最も高く、一般高齢者では51.1%、要支援者・事業対象者では66.4%となっている。

一方、「男性」は一般高齢者で48.5%、要支援者・事業対象者で32.5%となっている。「答えたくない」はそれぞれ0.1%である。

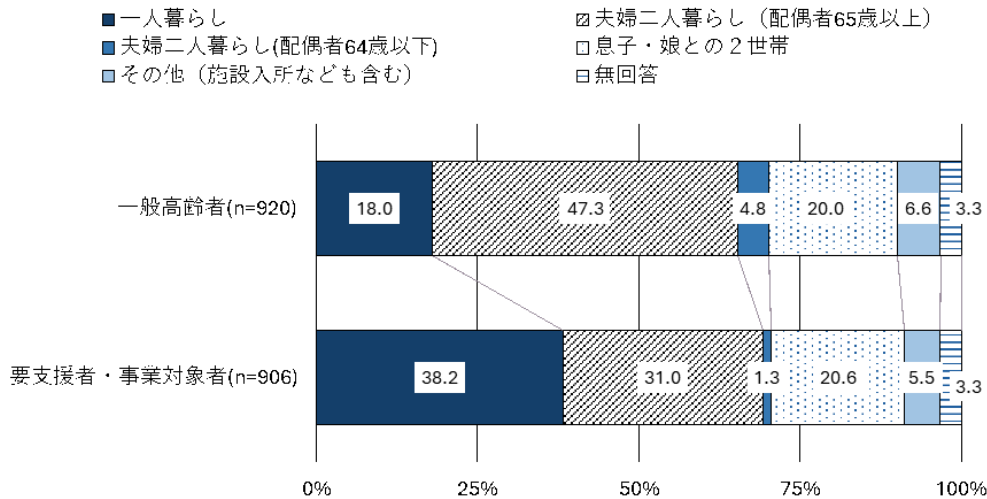


(5) 家族構成

家族構成をお答えください。

一般高齢者では、「夫婦二人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 47.3%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が 20.0%、「一人暮らし」が 18.0%となっている。

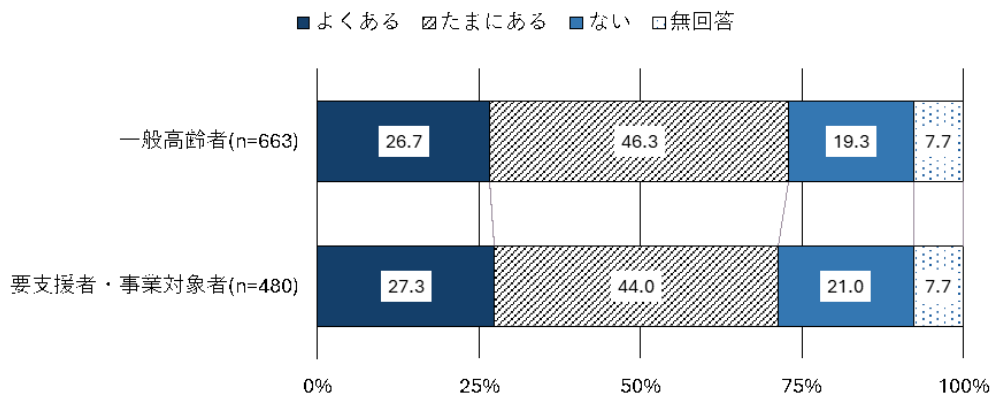
要支援者・事業対象者では、「一人暮らし」が 38.2%と最も高く、次いで「夫婦二人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 31.0%、「息子・娘との2世帯」が 20.6%となっている。



(ご家族と同居されている方)日中、一人になることがありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「たまにある」が最も高く、一般高齢者で 46.3%、要支援者・事業対象者で 44.0%となっている。

次いで「よくある」が一般高齢者で 26.7%、要支援者・事業対象者で 27.3%、「ない」が一般高齢者で 19.3%、要支援者・事業対象者で 21.0%となっている。

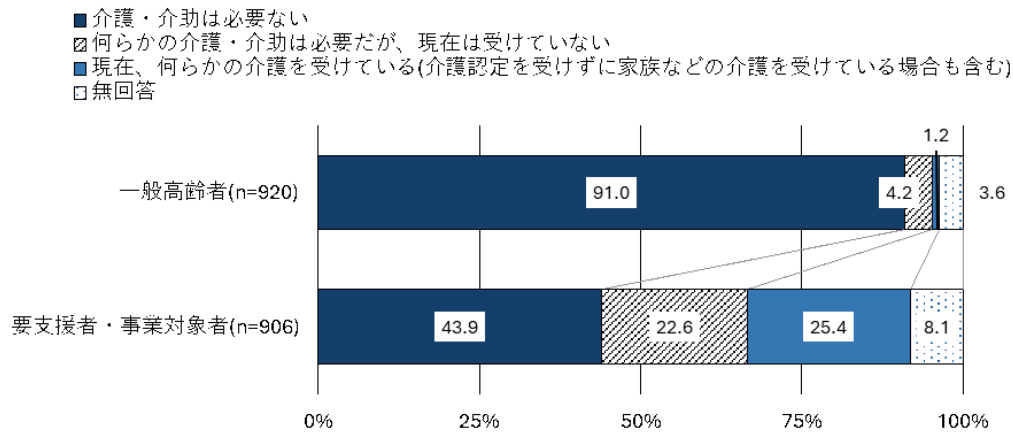


(6) 介護・介助の状況

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

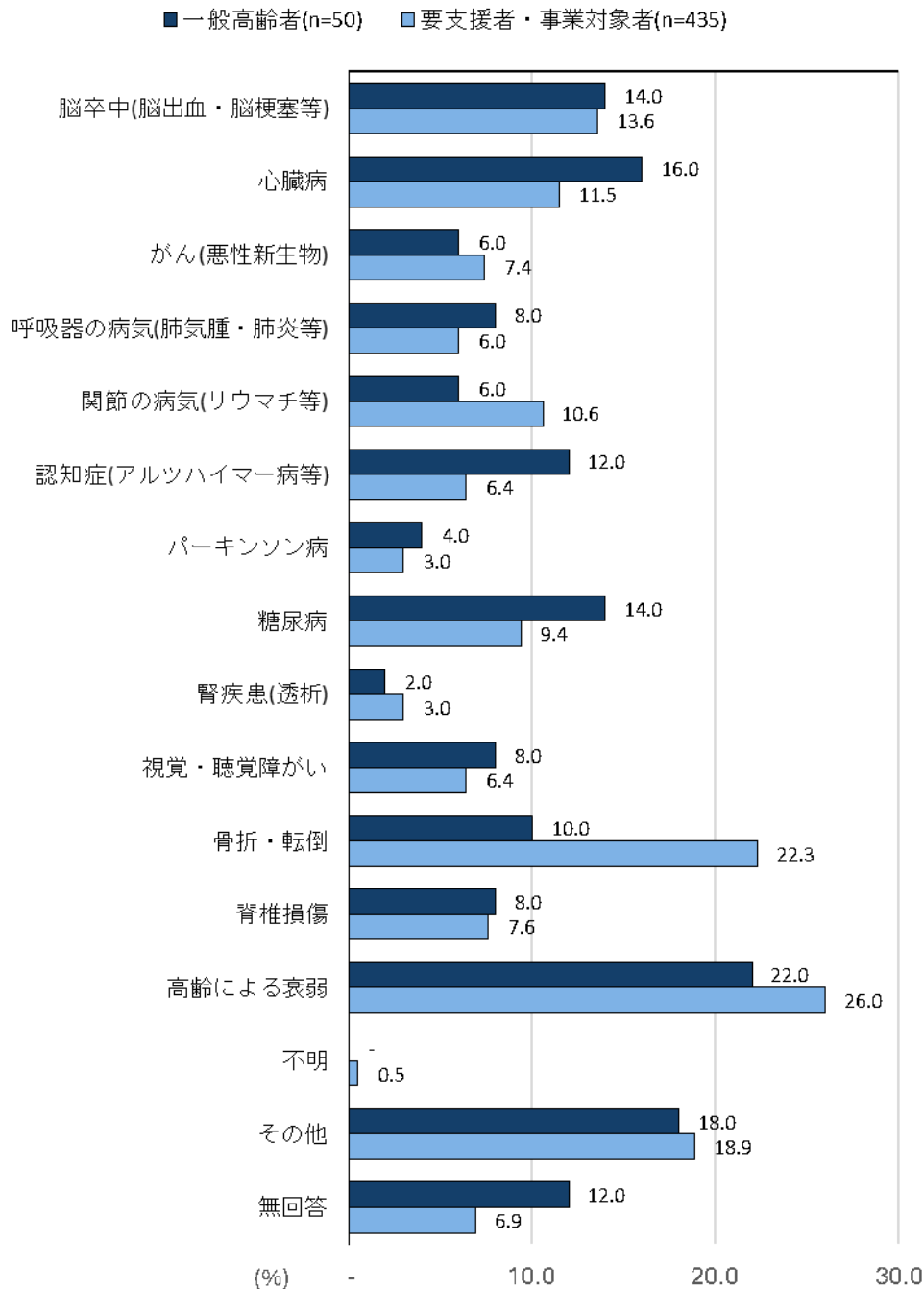
一般高齢者では、「介護・介助は必要ない」が91.0%と最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が4.2%、「現在、何らかの介護を受けている」が1.2%となっている。

要支援者・事業対象者では、「介護・介助は必要ない」が43.9%と最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が25.4%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が22.6%となっている。



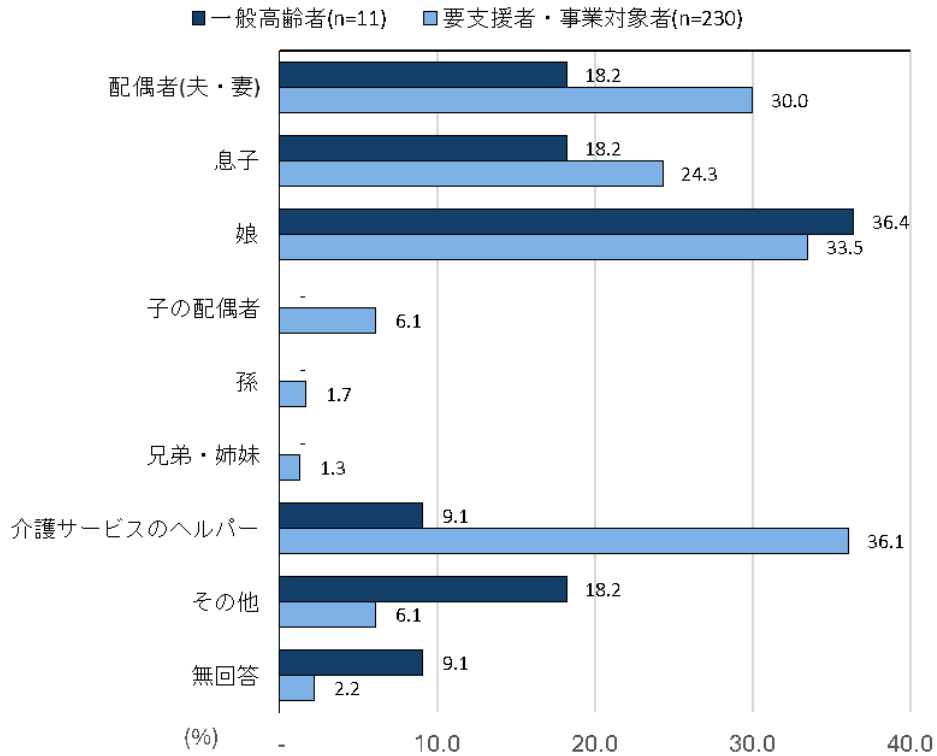
(介護が必要な方)介護・介助が必要となった主な原因は何ですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「高齢による衰弱」が最も高く、一般高齢者で 22.0%、要支援者・事業対象者で 26.0%となっている。次いで、一般高齢者では「心臓病」が 16.0%、要支援者・事業対象者では「骨折・転倒」が 22.3%となっている。



(現在、介護を受けている方)主にどなたの介護・介助を受けていますか。(○はいくつでも)

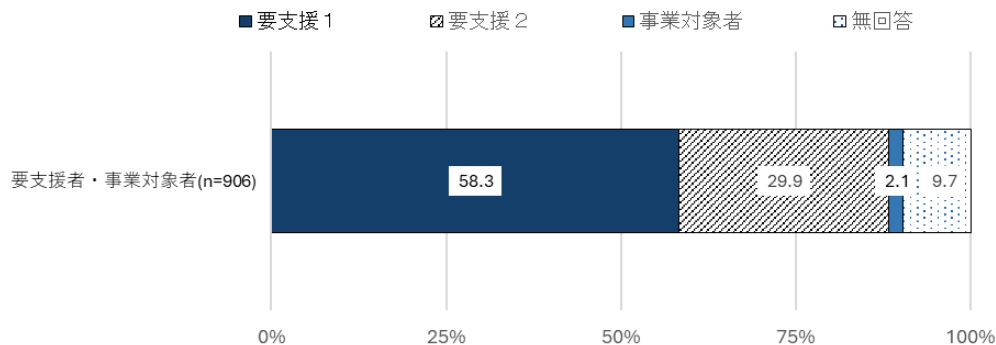
一般高齢者では「娘」が最も高く、36.4%となっており、次いで、「配偶者」、「息子」がともに18.2%となっている。要支援者・事業対象者では「介護サービスのヘルパー」が最も高く、36.1%となっており、次いで、「娘」が33.5%となっている。



(7) 要支援認定区分

(要支援者・事業対象者のみ)あなたの認定区分は次のどれにあたりますか。

「要支援1」が58.3%と最も高く、次いで「要支援2」が29.9%、「事業対象者」が2.1%となっている。

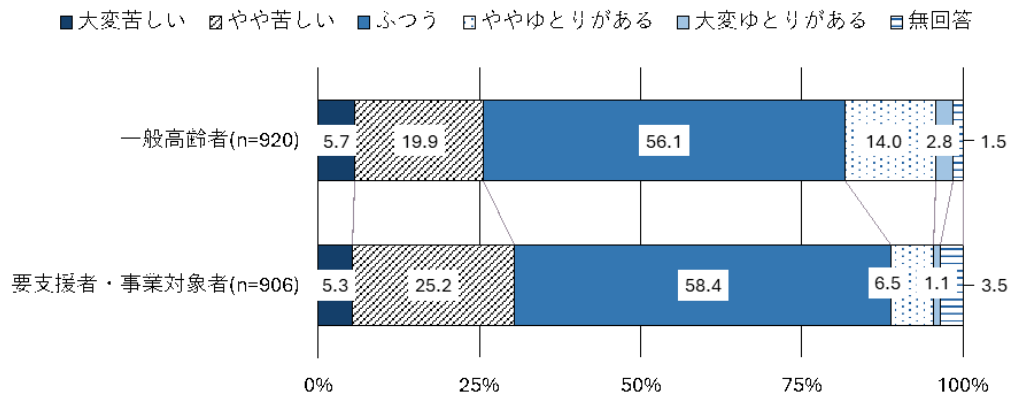


(8) 経済状況

現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「ふつう」が最も高く、一般高齢者で 56.1%、要支援者・事業対象者で 58.4%となっている。

「やや苦しい」は要支援者・事業対象者が 25.2%で、一般高齢者の 19.9%を 5.3 ポイント上回っている。一方で「ややゆとりがある」は要支援・事業対象者が 6.5%で、一般高齢者の 14.0%を 7.5 ポイント下回っている。

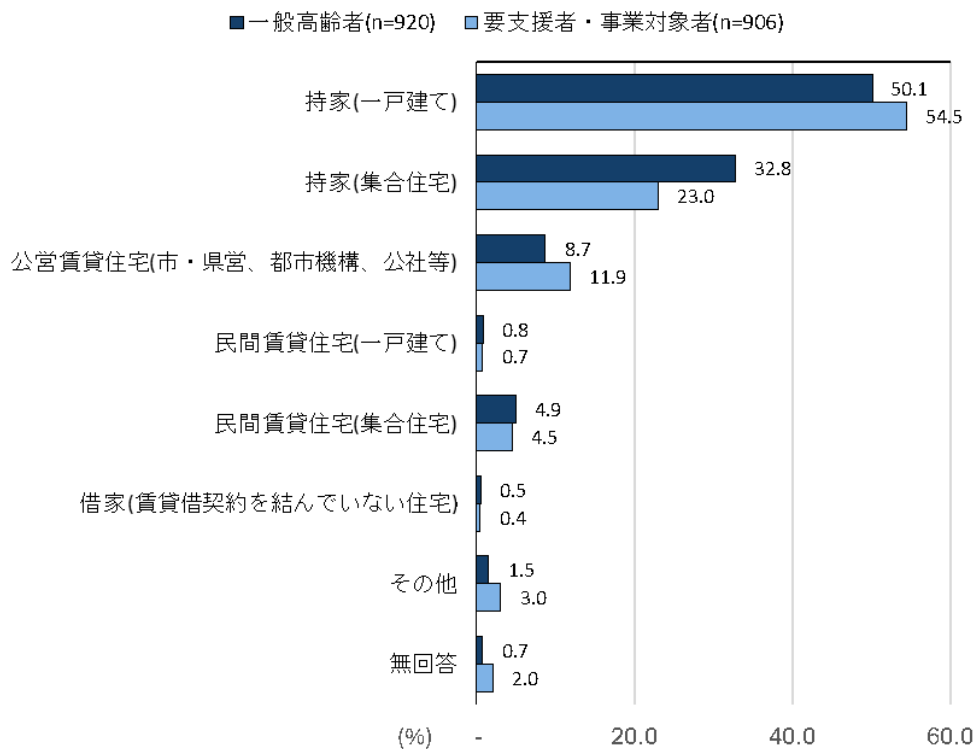


(9) 住まいの形態

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「持家(一戸建て)」が最も高く、一般高齢者で 50.1%、要支援者・事業対象者で 54.5%となっている。

「持家(集合住宅)」は一般高齢者が 32.8%で、要支援者・事業対象者の 23.0%を 9.8 ポイント上回っている。

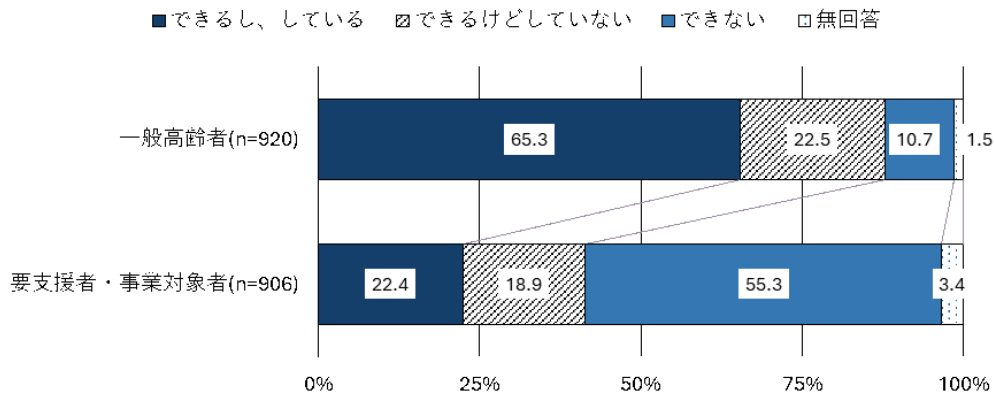


2. からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

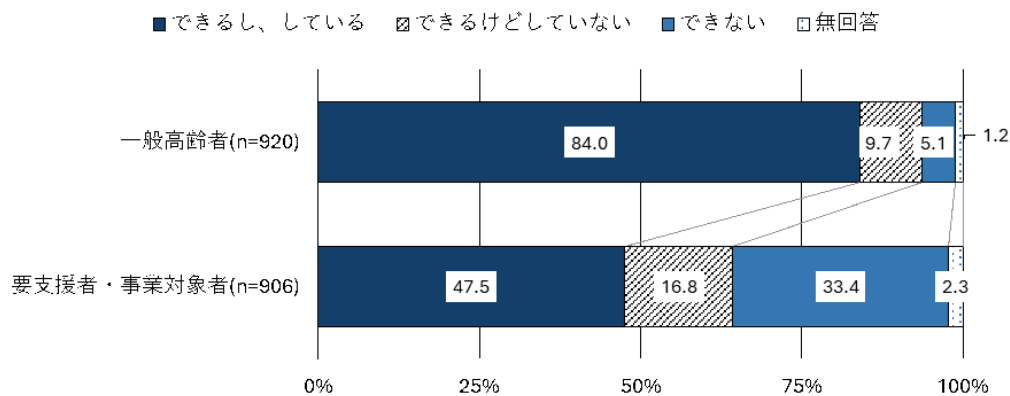
一般高齢者では、「できるし、している」が65.3%と最も高く、要支援者・事業対象者では「できない」が55.3%と最も高くなっている。



椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

「できるし、している」は一般高齢者が84.0%であるのに対し要支援者・事業対象者は47.5%と大幅に下回っている。

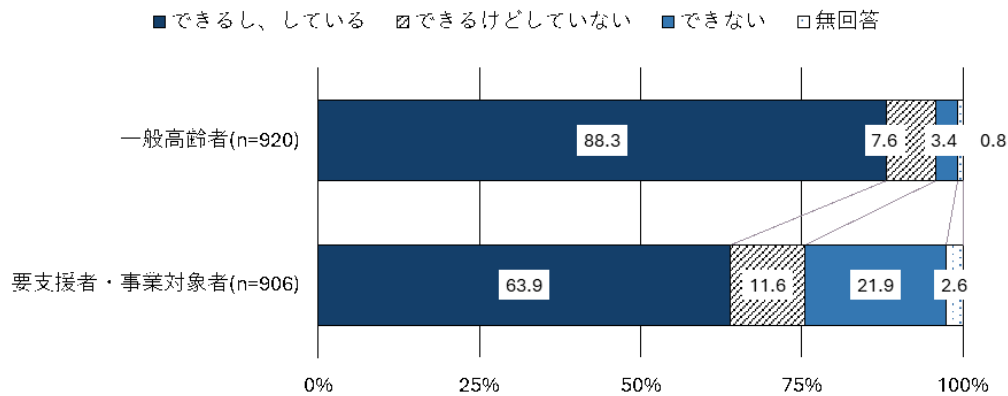
「できない」は要支援者・事業対象者の33.4%で一般高齢者が5.1%を28.3ポイント上回っている。



15 分位続けて歩いていますか。(買い物、散歩など、目的は問いません)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「できるし、している」が最も高く、一般高齢者で 88.3%、要支援者・事業対象者で 63.9%となっている。

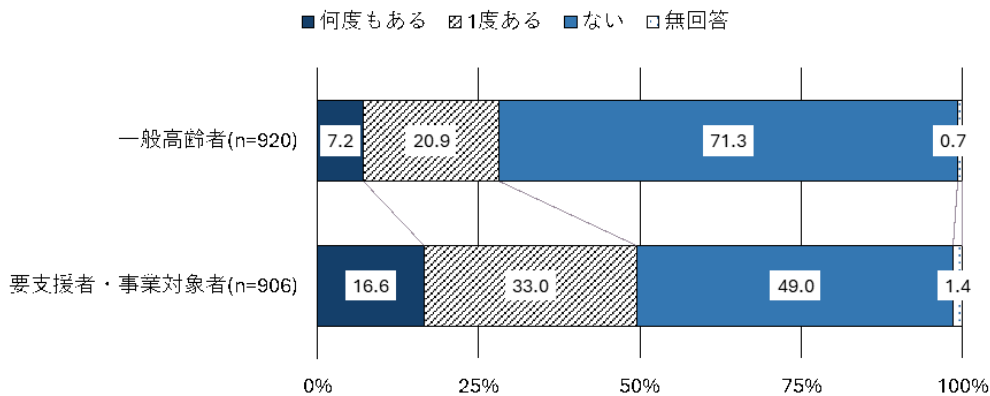
「できない」は要支援者・事業対象者が 21.9%で、一般高齢者の 3.4%を 18.5 ポイント上回っている。



過去1年間に転んだ経験がありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「ない」が最も高く、一般高齢者で 71.3%、要支援者・事業対象者で 49.0%となっている。

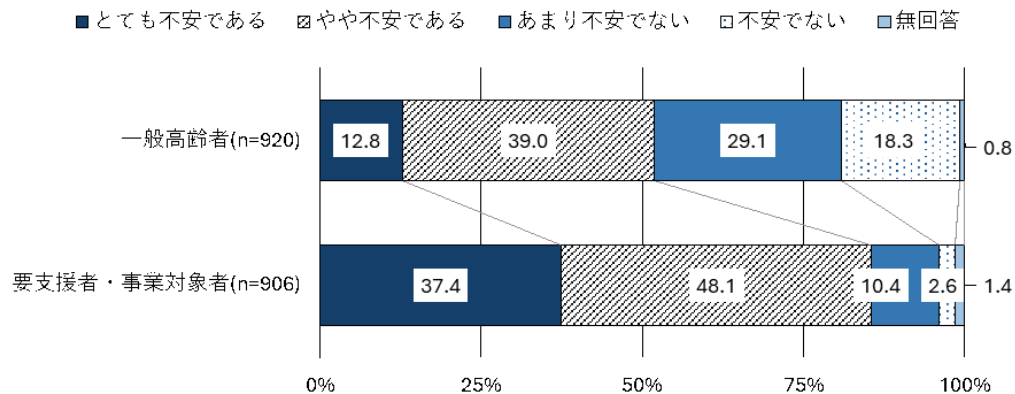
「何度もある」は要支援者・事業対象者が 16.6%で、一般高齢者の 7.2%を 9.4 ポイント上回っている。



転倒に対する不安は大きいですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「やや不安である」が最も高く、一般高齢者で 39.0%、要支援者・事業対象者で 48.1%となっている。

「とても不安である」は要支援者・事業対象者が 37.4%で、一般高齢者の 12.8%を 24.6 ポイント上回っている。

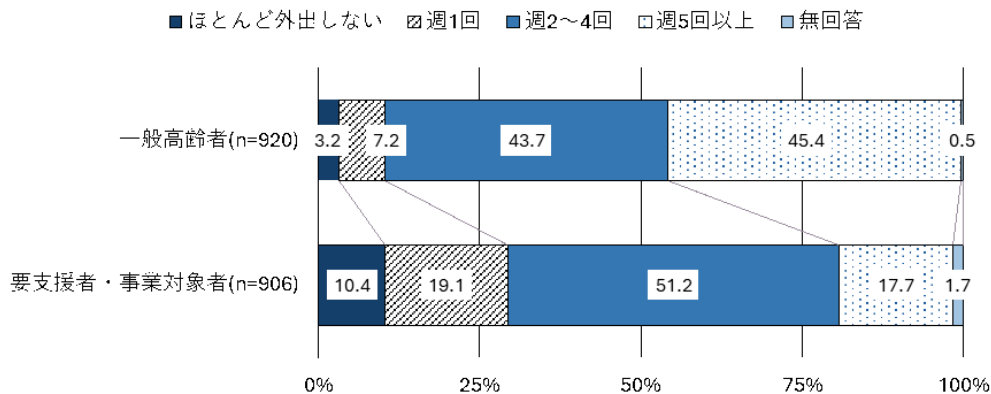


(2) 外出の頻度

週に1回以上は外出していますか。(手段・目的は問いません)

一般高齢者では、「週5回以上」が 45.4%と最も高く、要支援者・事業対象者では「週2～4回」が 51.2%と最も高くなっている。

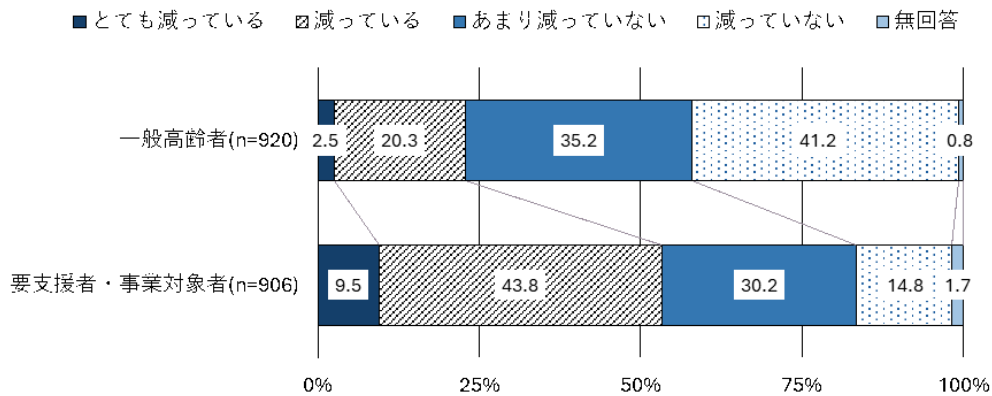
「週5回以上」は一般高齢者が 45.4%で、要支援者・事業対象者の 17.7%を 27.7 ポイント上回っている。



昨年(令和6年)と比べて外出の回数が減っていますか。

一般高齢者では、「減っていない」が41.2%と最も高く、要支援者・事業対象者では「減っている」が43.8%と最も高くなっている。

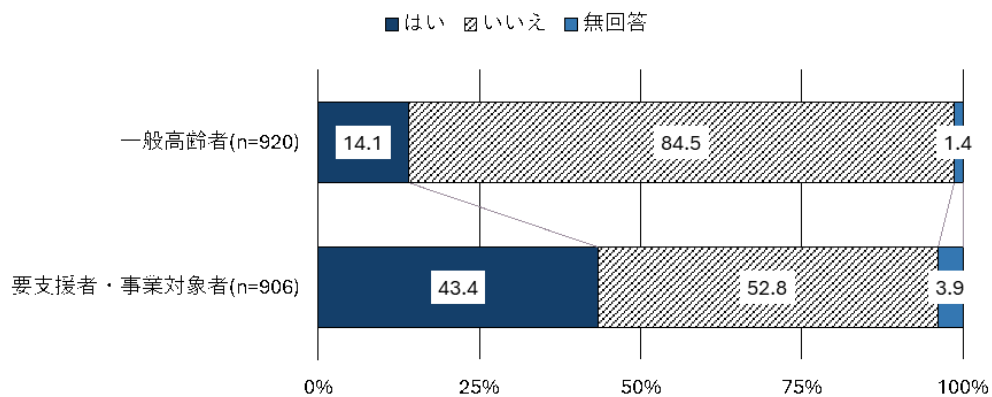
「減っている」は要支援者・事業対象者が43.8%で、一般高齢者の20.3%を23.5ポイント上回っている。



外出を控えていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「いいえ」が最も高く、一般高齢者で84.5%、要支援者・事業対象者で52.8%となっている。

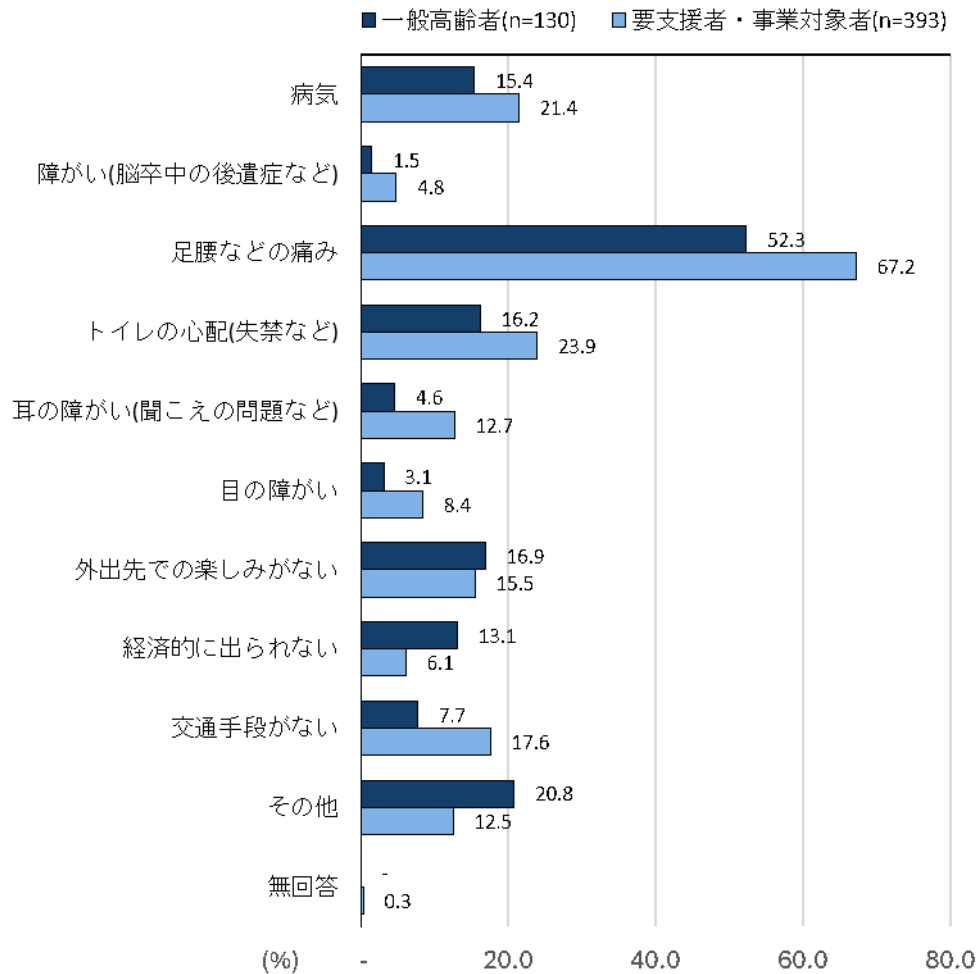
「はい」は要支援者・事業対象者が43.4%で、一般高齢者の14.1%を29.3ポイント上回っている。



(外出を控えている方)外出を控えている理由は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「足腰などの痛み」が最も高く、一般高齢者で 52.3%、要支援者・事業対象者で 67.2%となっている。

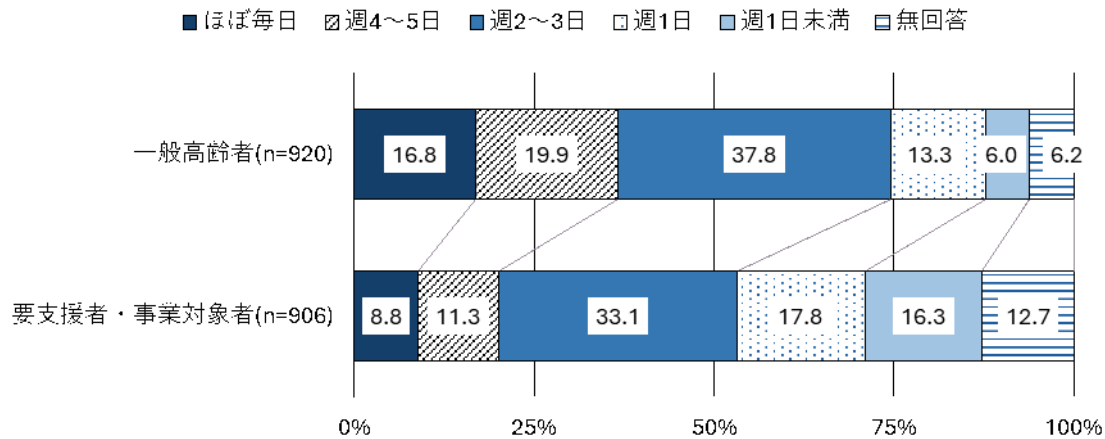
次いで、一般高齢者では「外出先での楽しみがない」が 16.9%となっており、要支援者・事業対象者では「トイレの心配」が 23.9%となっている。



買い物、散歩で外出する頻度はどのくらいですか。

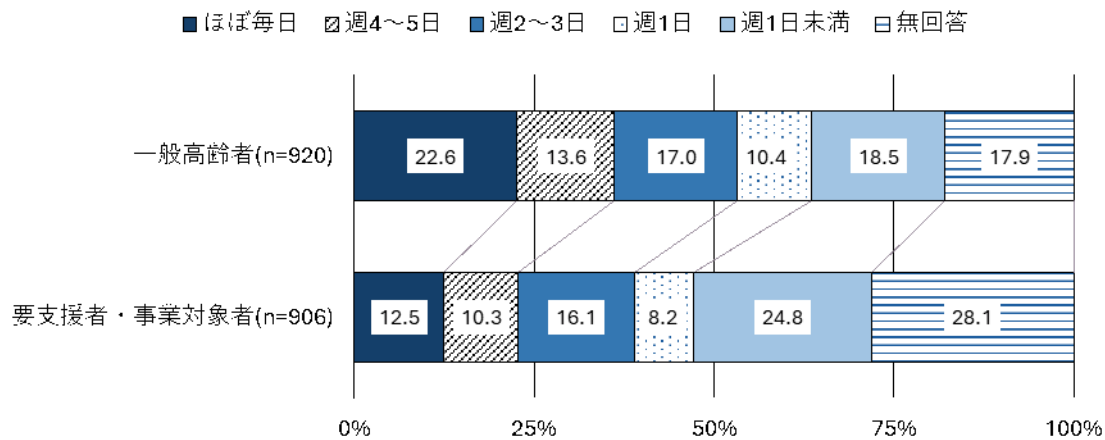
①買い物

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「週2～3日」が最も高く、一般高齢者で37.8%、要支援者・事業対象者で33.1%となっている。「ほぼ毎日」は一般高齢者が16.8%で、要支援者・事業対象者の8.8%を8.0ポイント上回っている。



②散歩

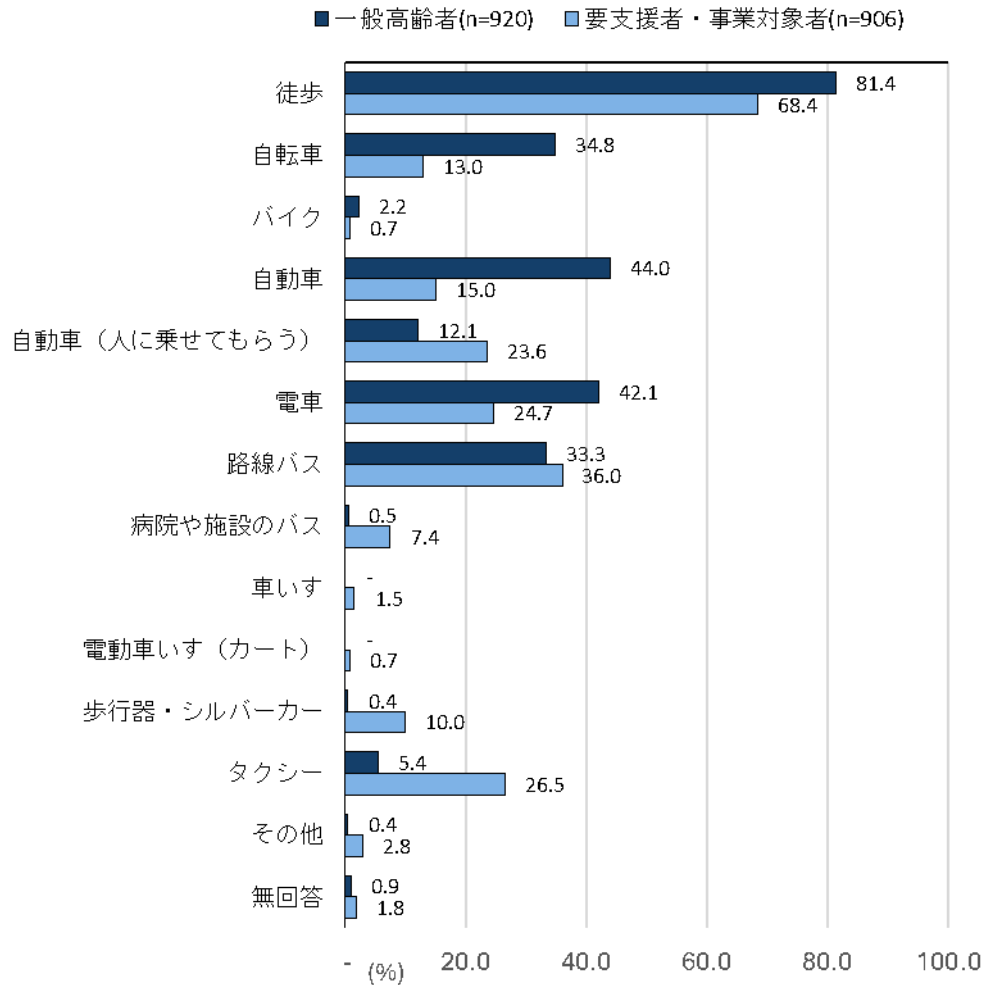
一般高齢者では、「ほぼ毎日」が22.6%と最も高く、次いで「週1日未満」が18.5%となっている。
要支援者・事業対象者では、「週1日未満」が24.8%と最も高く、次いで「週2～3日」が16.1%となっている。



(3) 移動手段

外出する際の移動手段は何ですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「徒歩」が最も高く、一般高齢者で 81.4%、要支援者・事業対象者で 68.4%となっている。次いで、一般高齢者では「自動車」が 44.0%、「電車」が 42.1%となっており、要支援者・事業対象者では「路線バス」が 36.0%、「タクシー」が 26.5%となっている。



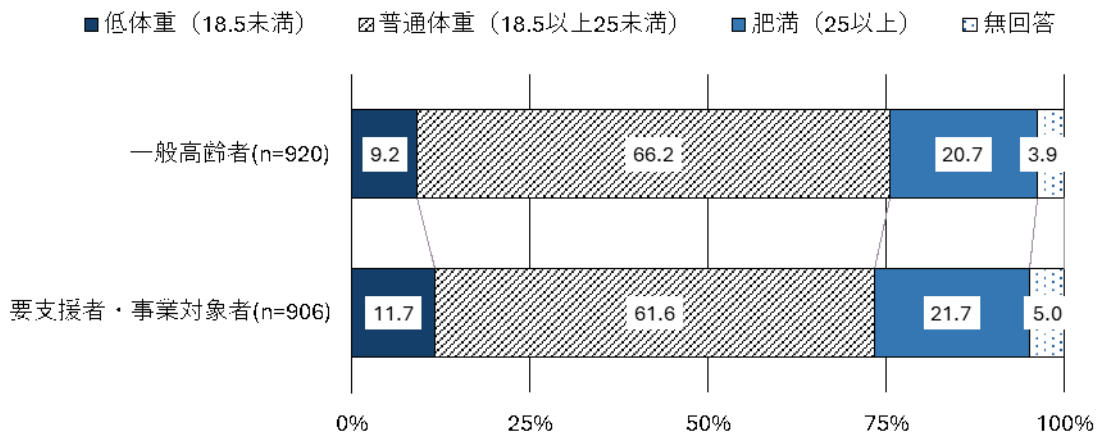
3. 食べることについて

(1) BMI

身長・体重を教えてください。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「普通体重」が最も高く、一般高齢者で 66.2%、要支援者・事業対象者で 61.6%となっている。

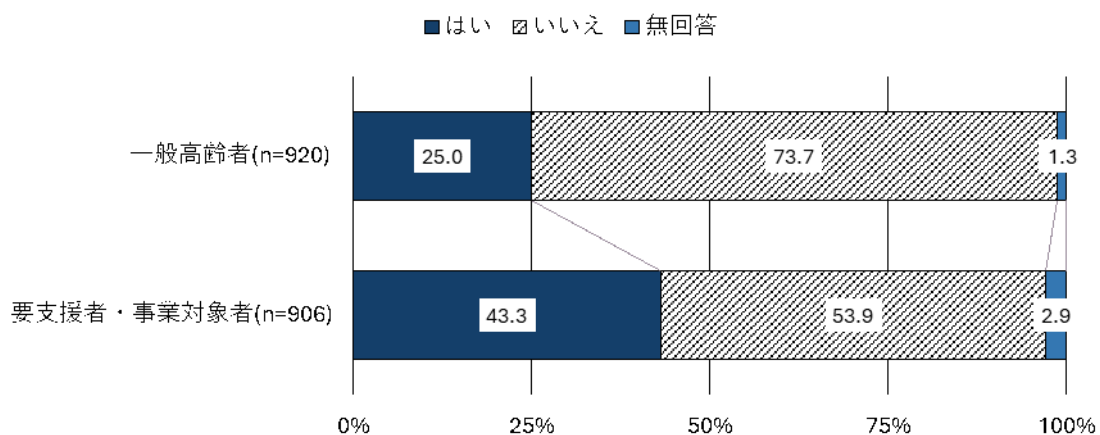
「低体重」は要支援者・事業対象者が 11.7%で、一般高齢者の 9.2%を 2.5 ポイント上回っている。



(2) 口腔機能の状況

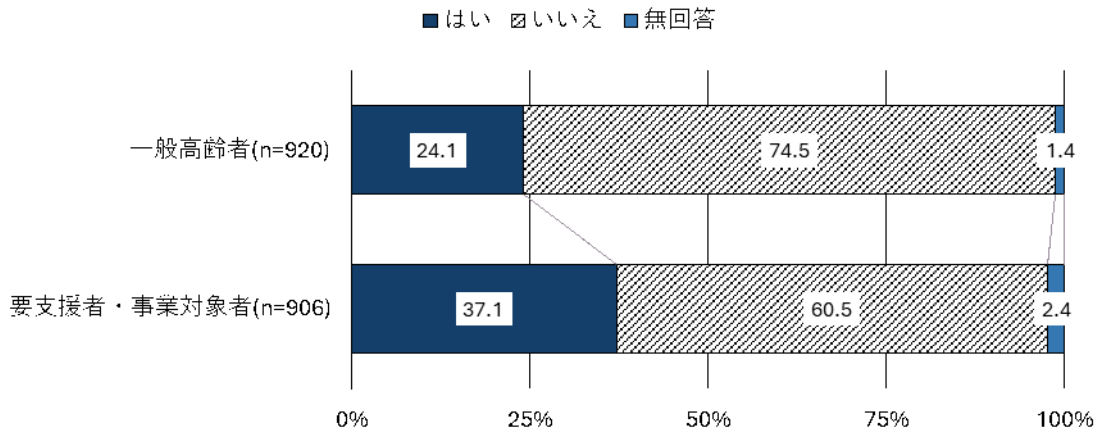
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

要支援者・事業対象者の「はい」が 43.3%で、一般高齢者の 25.0%を 18.3 ポイント上回っている。



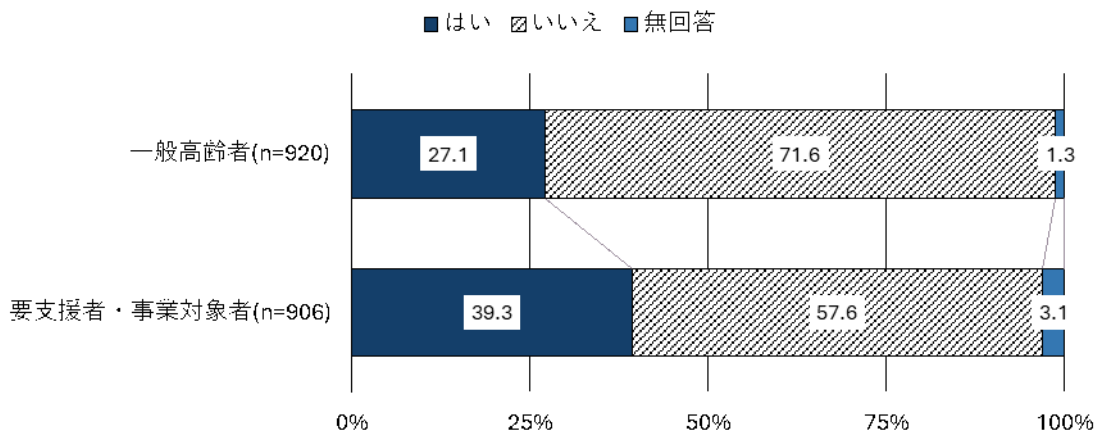
お茶や汁物等でむせることがありますか。

「はい」は要支援者・事業対象者が 37.1%で、一般高齢者の 24.1%を 13.0 ポイント上回っている。



口の渇きが気になりますか。

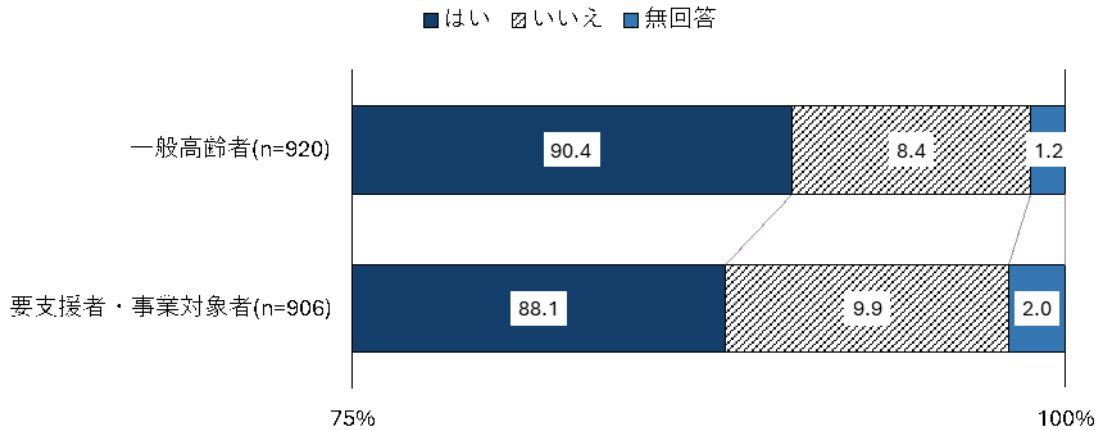
「はい」は要支援者・事業対象者が 39.3%で、一般高齢者の 27.1%を 12.2 ポイント上回っている。



(3) 口腔ケアの状況

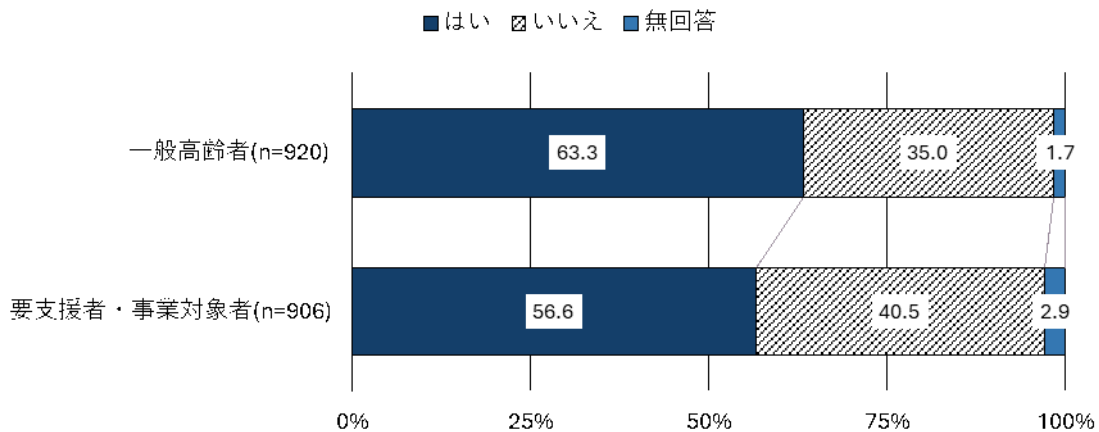
歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が最も高く、一般高齢者で 90.4%、要支援者・事業対象者で 88.1%となっている。



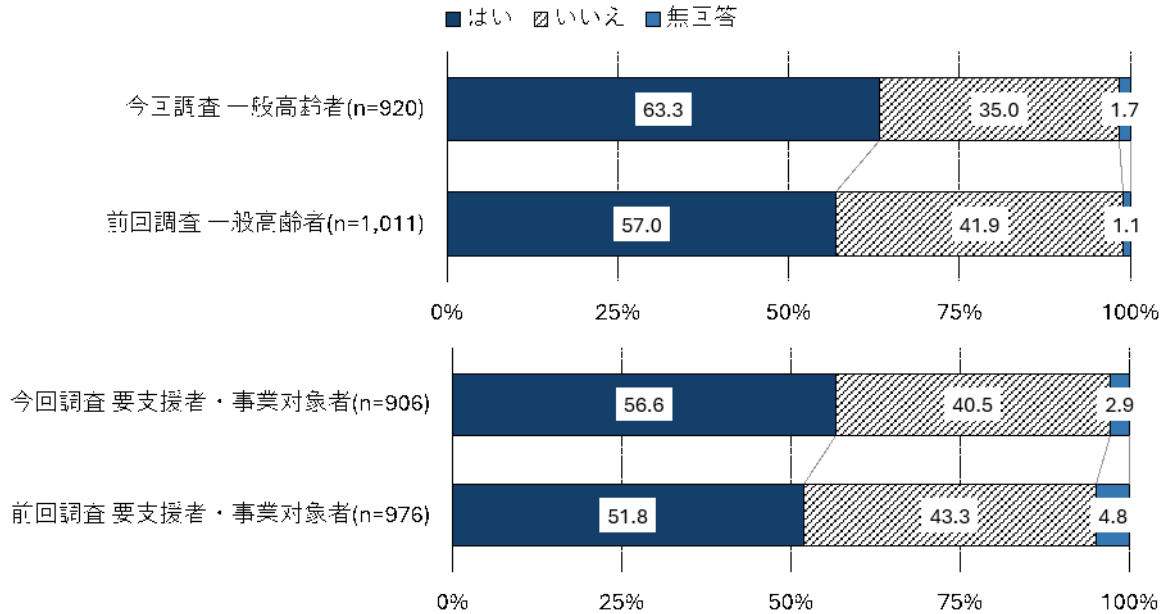
定期的に歯科を受診(※健診を含む)していますか。

「はい」は一般高齢者が 63.3%で、要支援者・事業対象者の 56.6%を 6.7 ポイント上回っている。



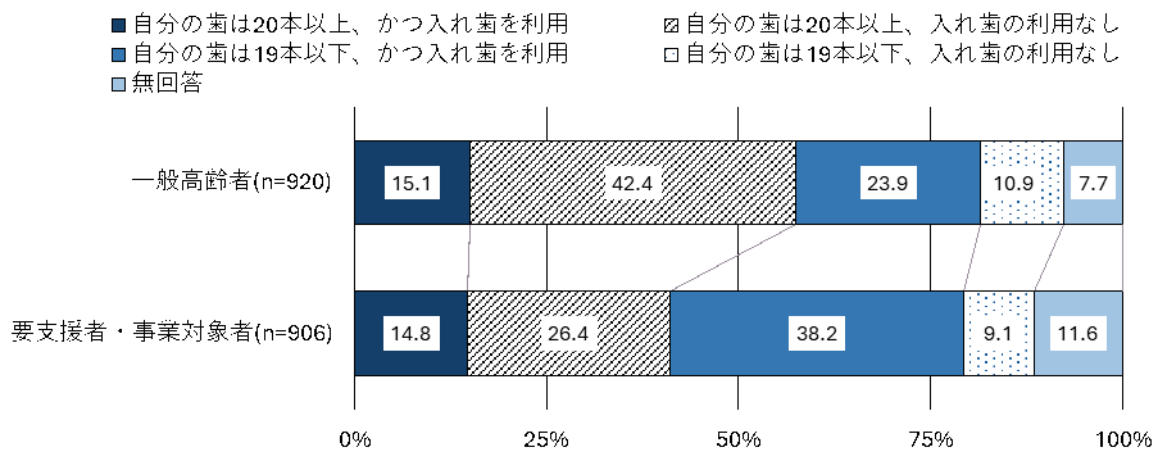
【経年比較】

前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに受診していると回答した割合が5ポイント前後上昇している。



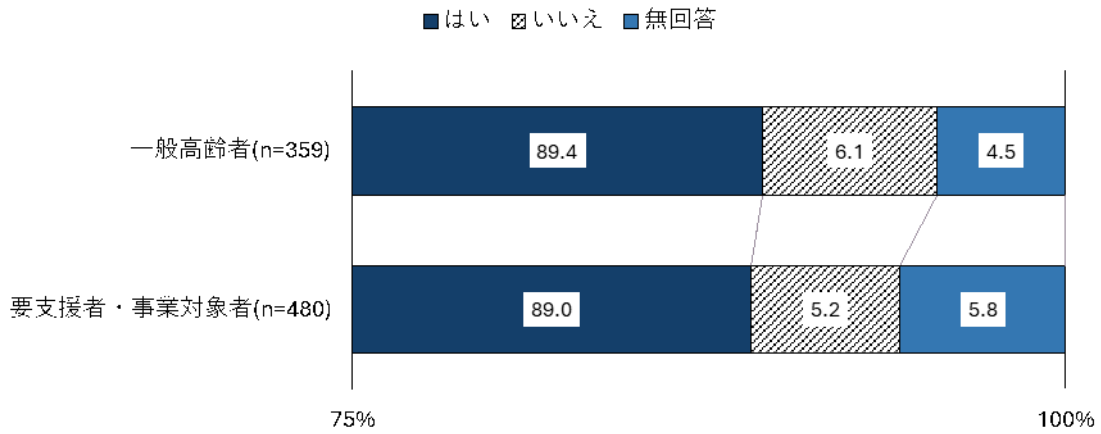
歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

一般高齢者では、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が42.4%と最も高く、要支援者・事業対象者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が38.2%と最も高くなっている。



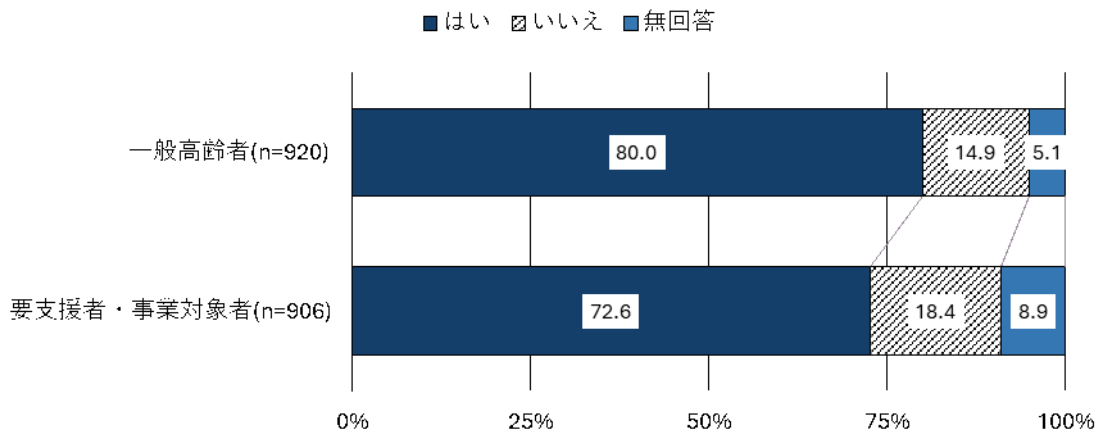
(入れ歯を利用している方)毎日入れ歯の手入れをしていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が約9割となっている。



噛み合わせは良いですか。

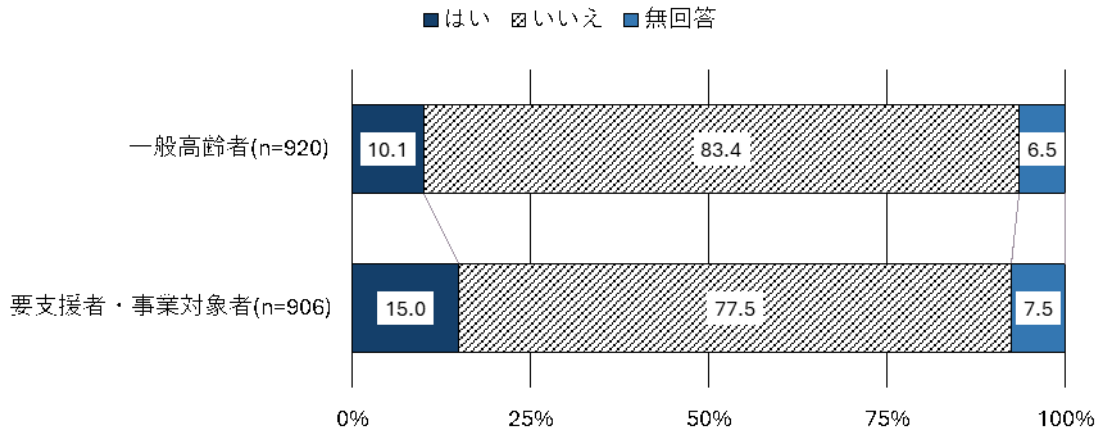
「はい」は一般高齢者が80.0%で、要支援者・事業対象者の72.6%を7.4ポイント上回っている。



(4) 体重減少の状況

6 か月で 2～3kg の体重減少がありましたか。

「はい」は要支援者・事業対象者が 15.0%で、一般高齢者の 10.1%を 4.9 ポイント上回っている。

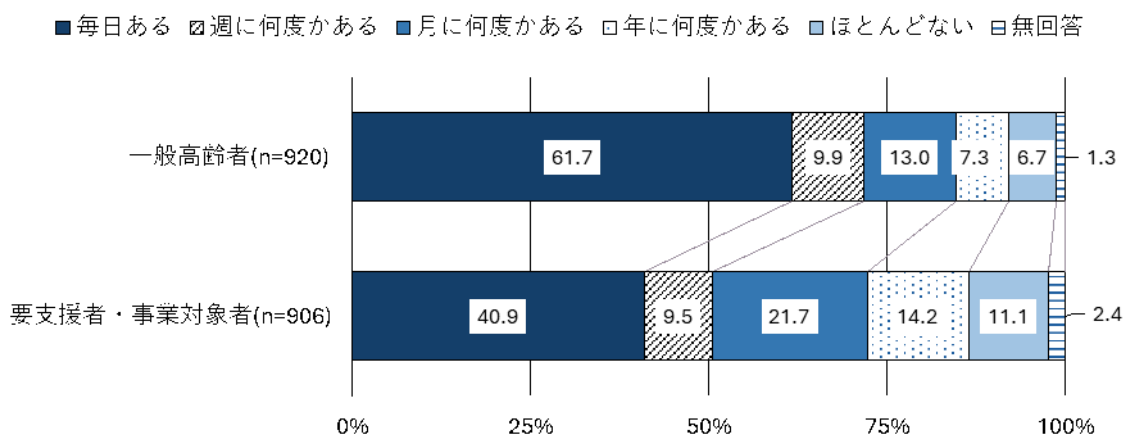


(5) 共食の状況

どなたかと食事をとにもする機会がありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「毎日ある」が最も高く、一般高齢者で 61.7%、要支援者・事業対象者で 40.9%となっている。

「毎日ある」は一般高齢者が 61.7%で、要支援者・事業対象者の 40.9%を 20.8 ポイント上回っている。



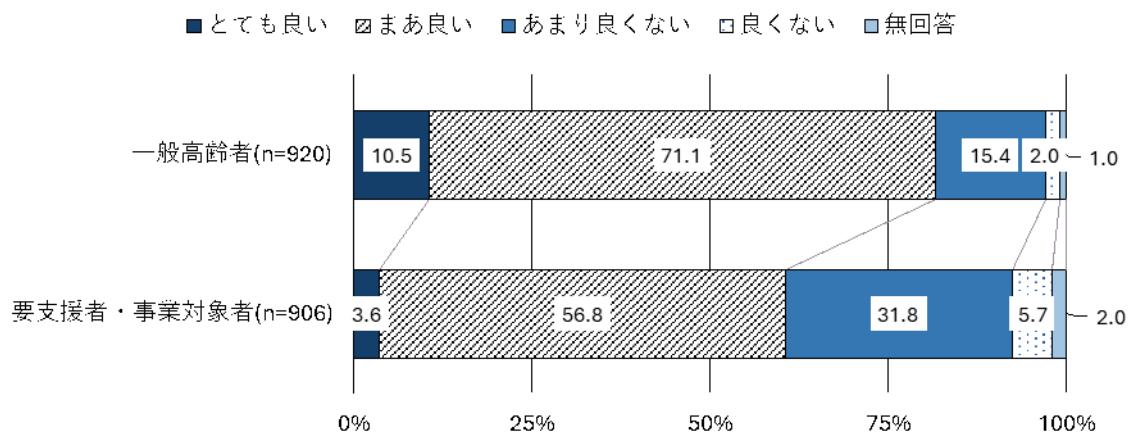
4. 健康について

(1) 主観的健康観

あなたの健康状態はいかがですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「まあ良い」が最も高く、一般高齢者で 71.1%、要支援者・事業対象者で 56.8%となっている。

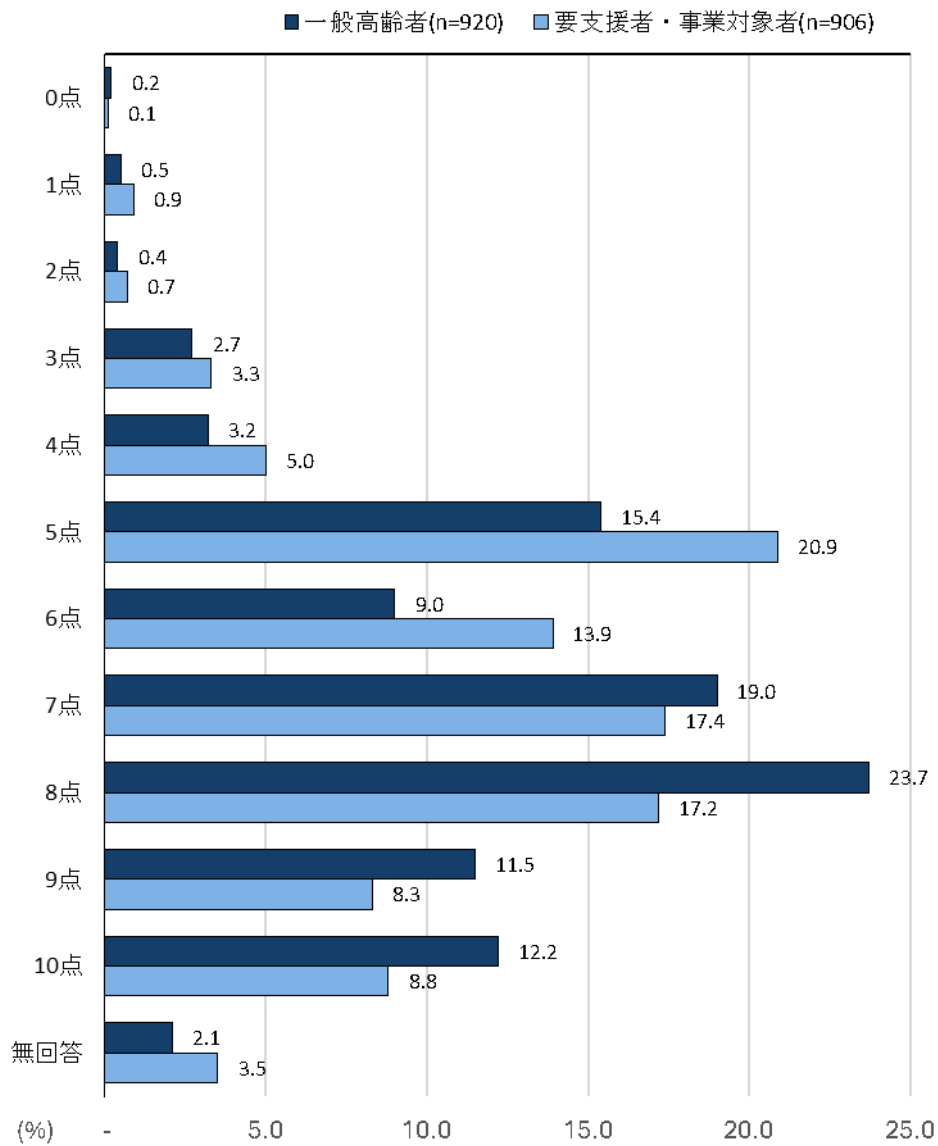
「あまり良くない」は要支援者・事業対象者が 31.8%で、一般高齢者の 15.4%を 16.4 ポイント上回っている。



(2) 主観的幸福感

あなたは、現在どの程度幸せですか。

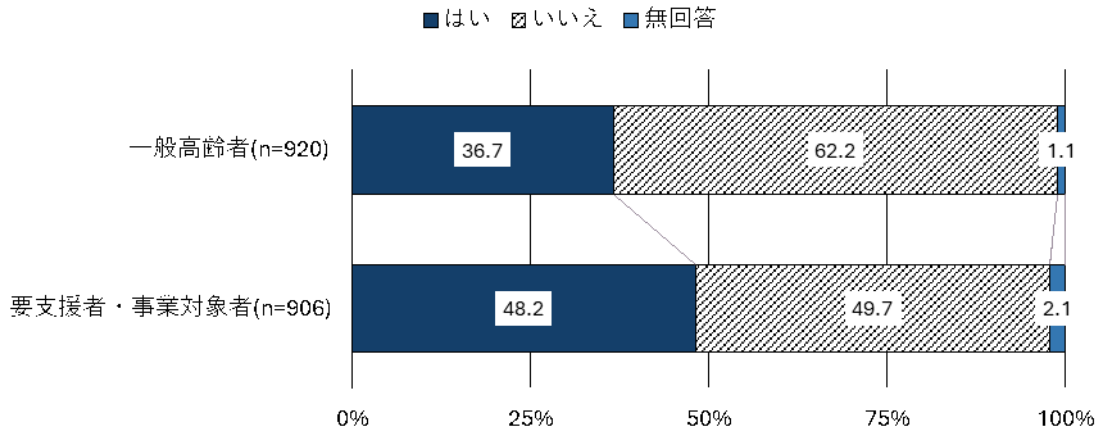
一般高齢者では「8点」が23.7%と最も高く、要支援者・事業対象者では「5点」が20.9%と最も高くなっている。



(3) うつ傾向

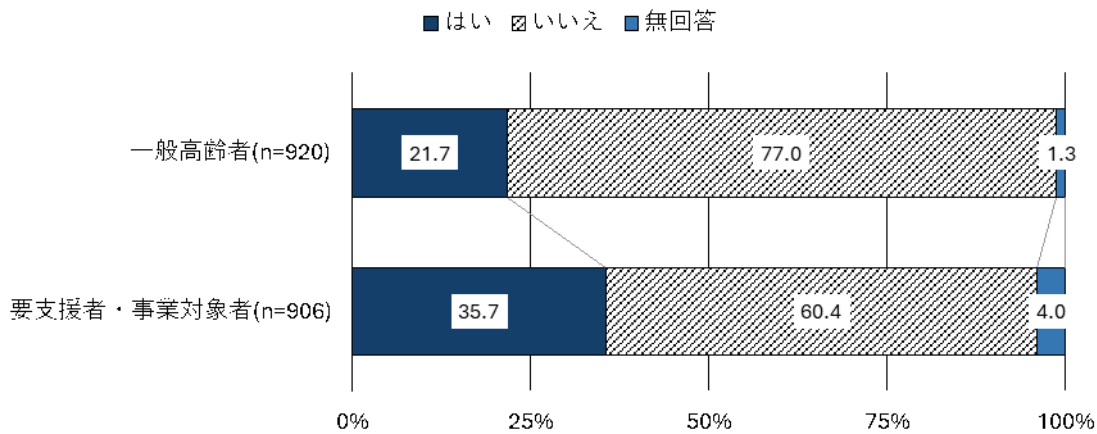
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。

「はい」は要支援者・事業対象者が48.2%で、一般高齢者の36.7%を11.5ポイント上回っている。



この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。

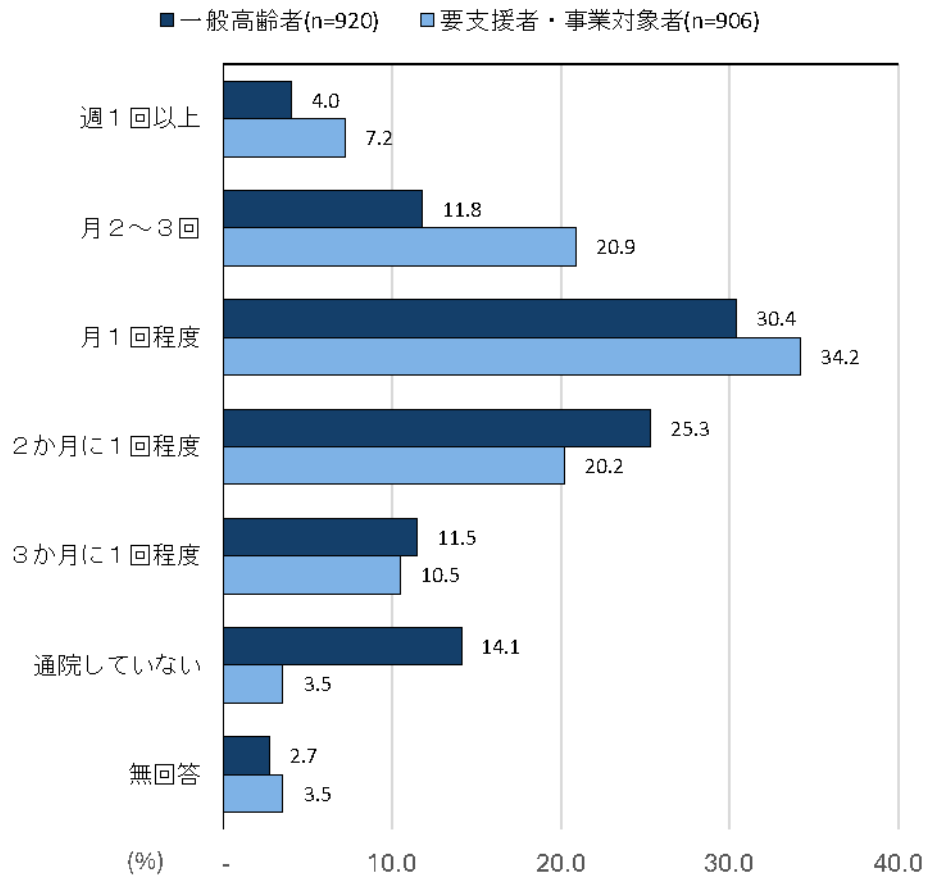
「はい」は要支援者・事業対象者が35.7%で、一般高齢者の21.7%を14.0ポイント上回っている。



(4) 通院の状況

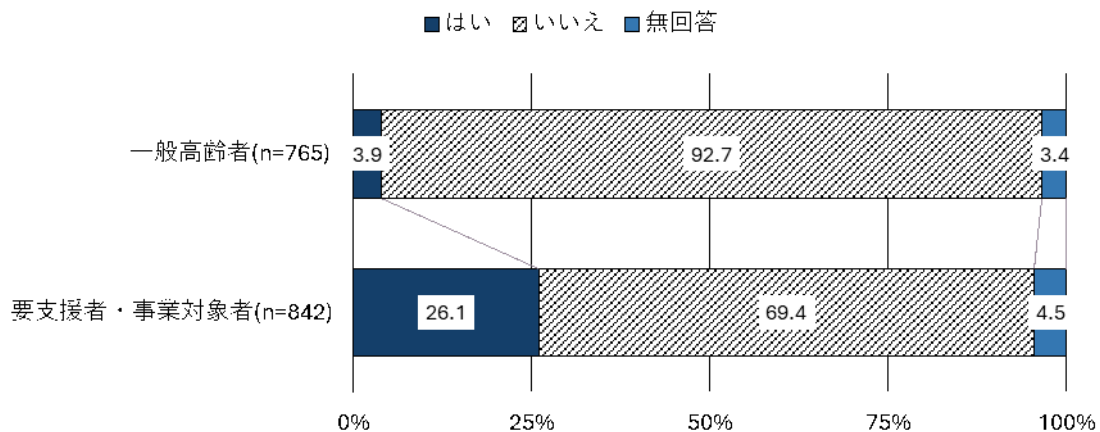
現在、病院・医院(診療所・クリニック)に通院していますか。また、その頻度はどれくらいですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「月1回程度」が最も高く、一般高齢者で30.4%、要支援者・事業対象者で34.2%となっている。



(通院している方)通院に介助が必要ですか。

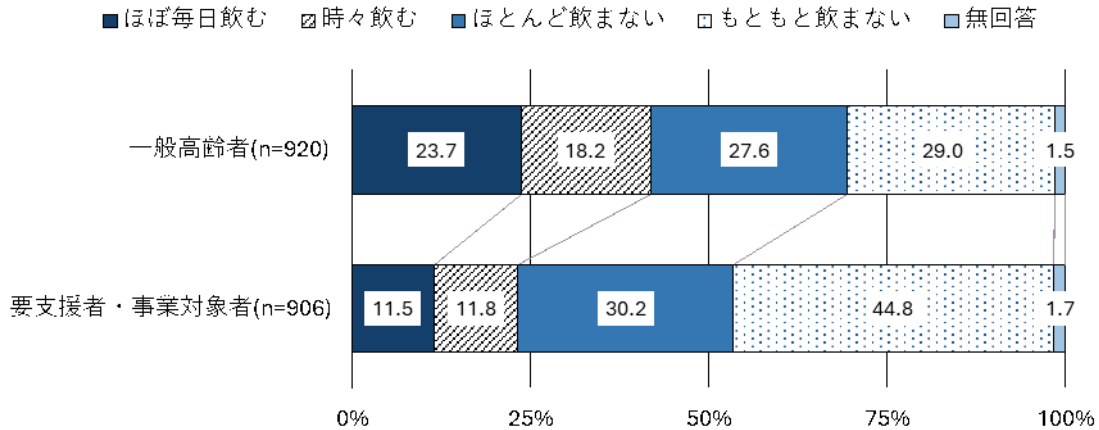
「はい」は要支援者・事業対象者が26.1%で、一般高齢者の3.9%を22.2ポイント上回っている。



(5) 飲酒習慣

お酒は飲みますか。

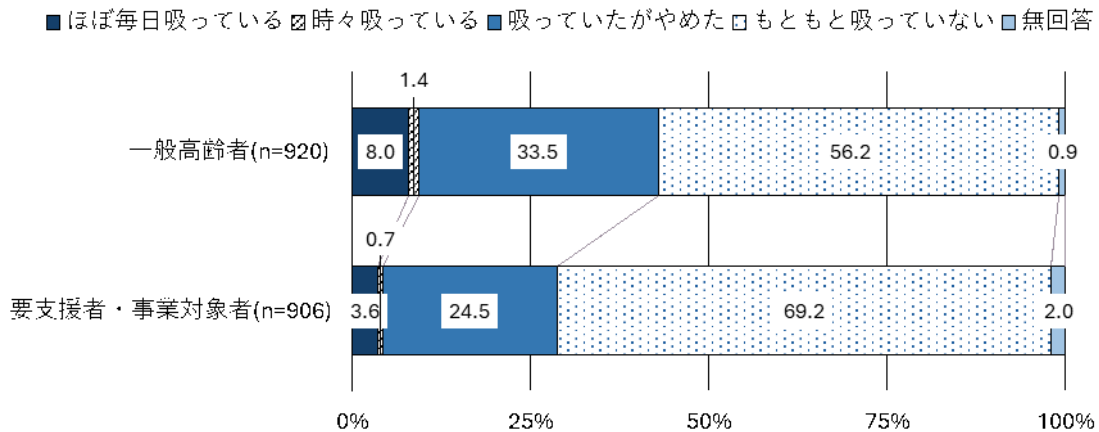
一般高齢者と要支援者・事業対象者でともに「もともと飲まない」が最も高く、一般高齢者では29.0%で要支援者・事業対象者では44.8%となっている。



(6) 喫煙習慣

タバコは吸っていますか。

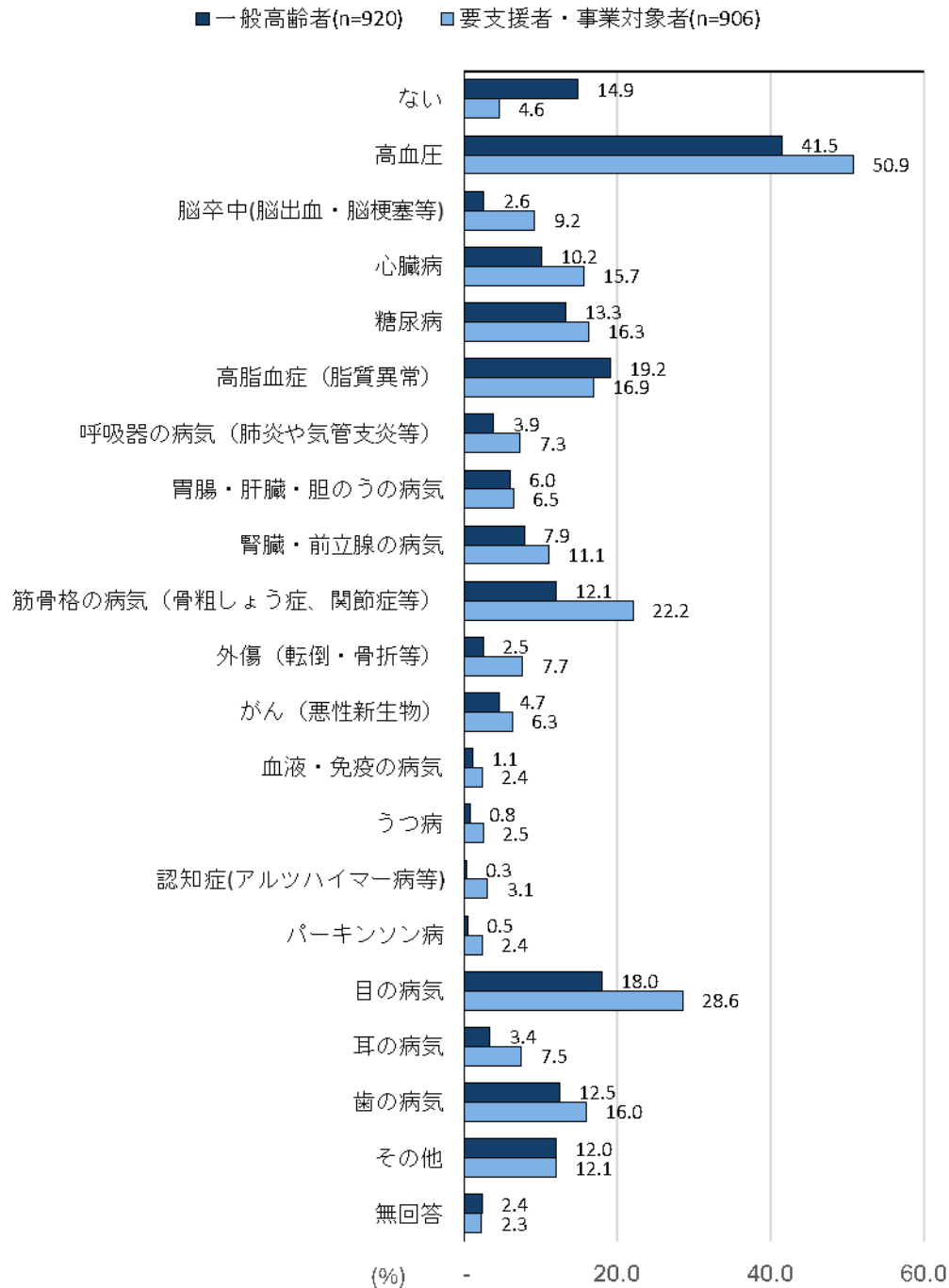
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「もともと吸っていない」が最も高く、一般高齢者で56.2%、要支援者・事業対象者で69.2%となっている。



(7) 治療中や後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(〇はいくつでも)

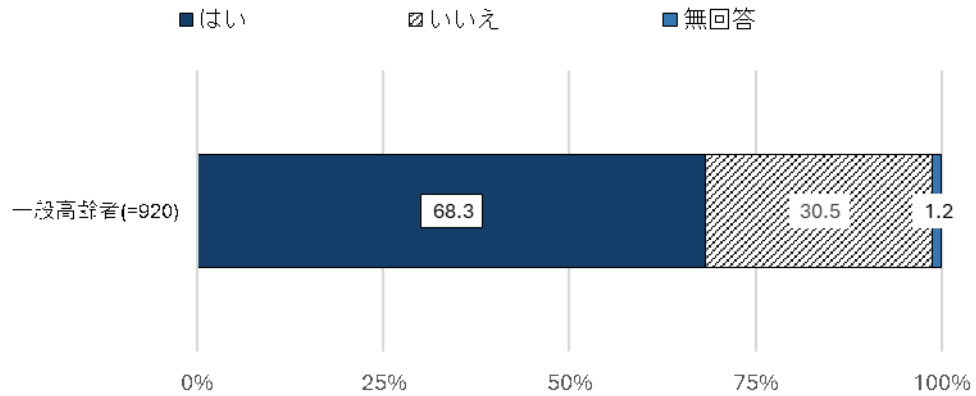
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「高血圧」が最も高く、一般高齢者で 41.5%、要支援者・事業対象者で 50.9%となっており、要支援者・事業対象者が 9.4 ポイント上回っている。次いで、一般高齢者では「高脂血症」が 19.2%、「目の病気」が 18.0%となっており、要支援者・事業対象者では、「目の病気」が 28.6%、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」が 22.2%となっている。



(8) 健康診査、がん検診の状況(一般高齢者のみ)

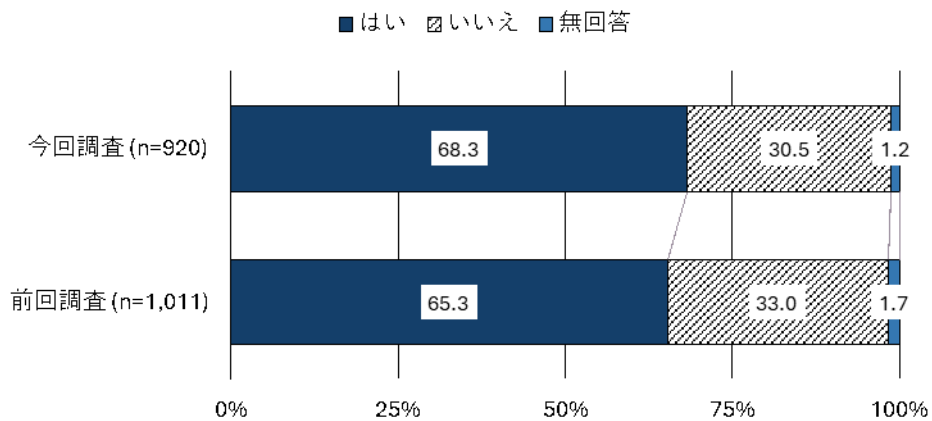
あなたは、1年以内に健康診査を受けましたか。

「はい」が 68.3%、「いいえ」が 30.5%となっている。



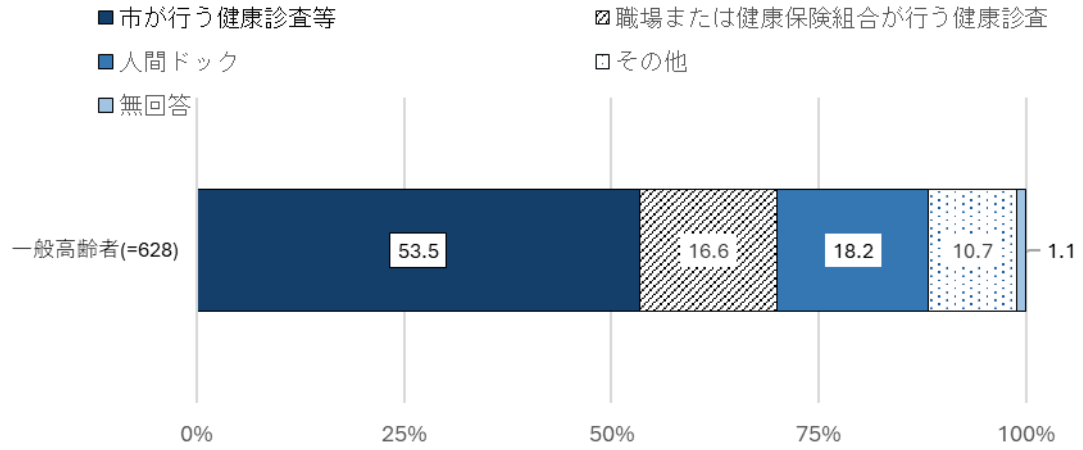
【経年比較】

前回調査と比較すると、受診割合がわずかに上昇している。



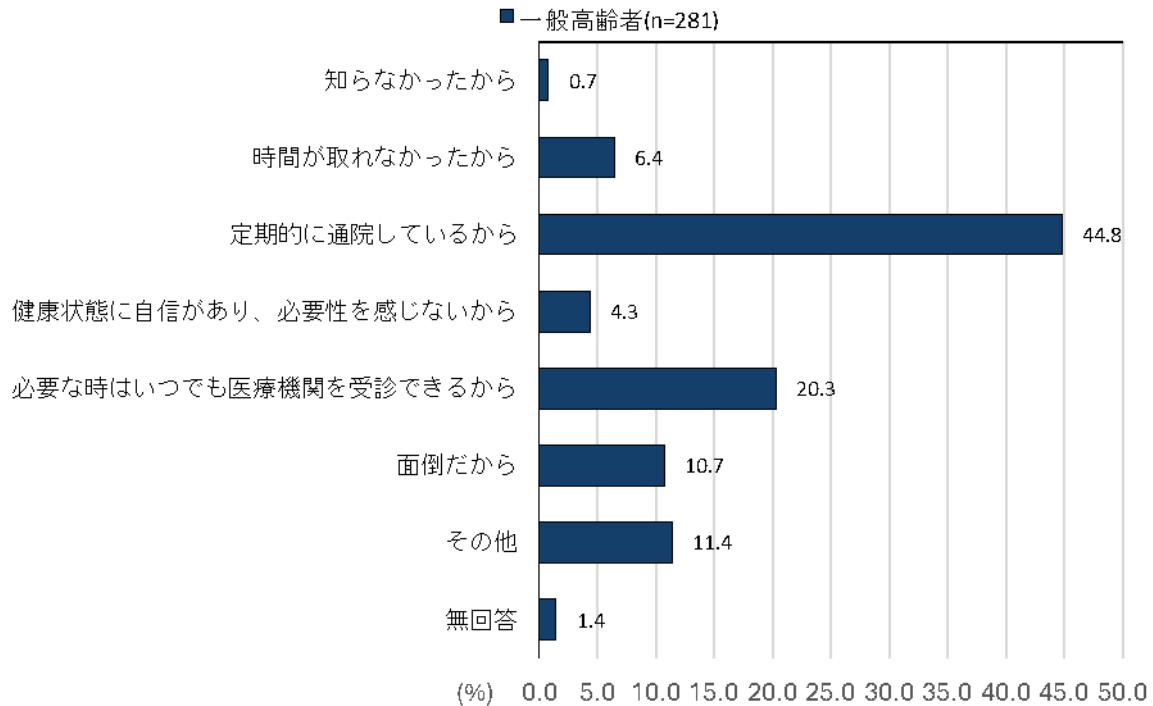
(1年以内に健康診査を受けた方)どちらで健康診査を受けましたか。

「市が行う健康診査等」が53.5%と最も高く、次いで「人間ドック」18.2%、「職場または健康保険組合」16.6%となっている。



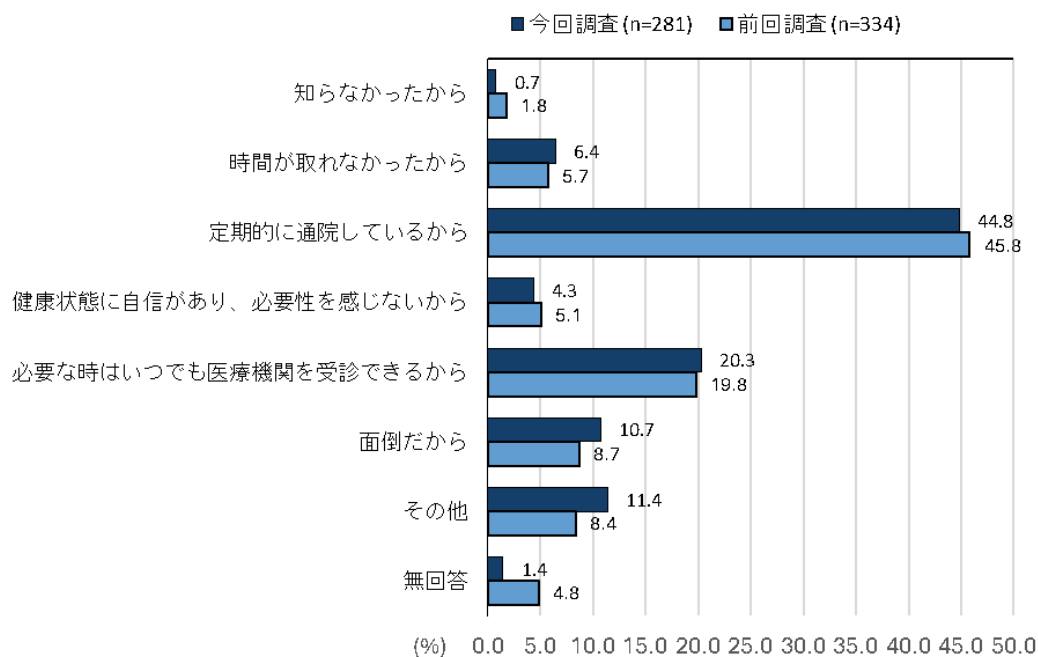
(1年以内に健康診査を受けてない方)健康診査を受けなかった理由は何ですか。

「定期的に通院しているから」が44.8%と最も高く、次いで「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」が20.3%、「面倒だから」が10.7%となっている。



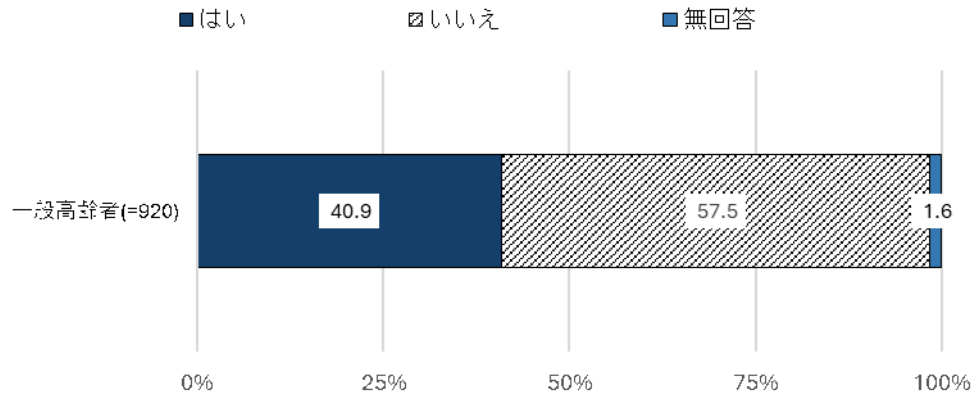
【経年比較】

前回調査と比較しても、概ね同程度の結果となっている。



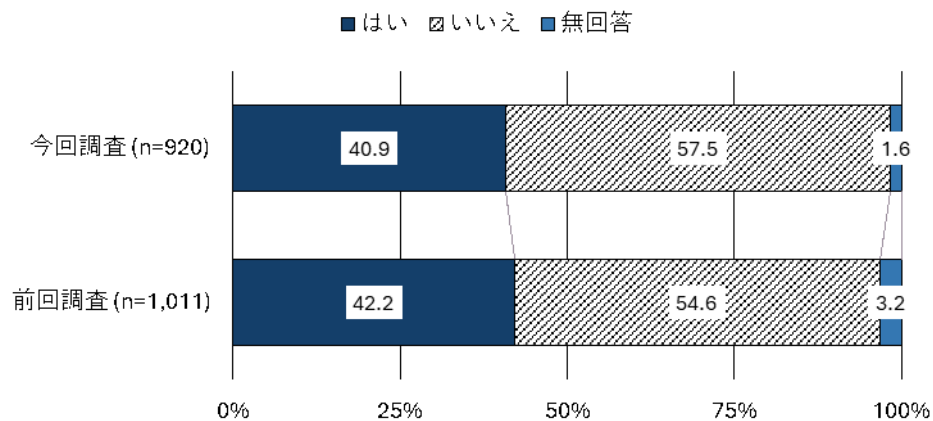
あなたは、1年以内にがん検診を受けましたか。

「受けた」が40.9%、「受けていない」が57.5%となっている。



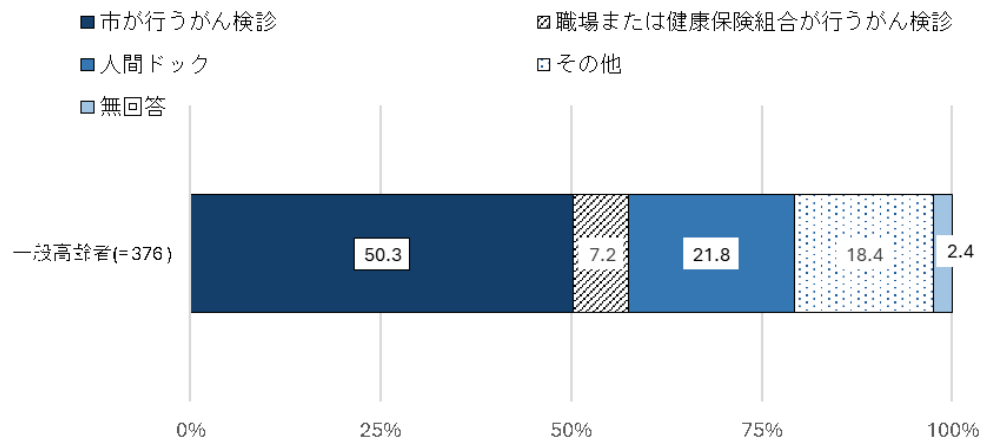
【経年比較】

前回調査と比較すると大きな差は見られないが、受診割合がわずかに下がっている。



(1年以内にがん検診を受けた方)どちらでがん検診を受けましたか。

「市が行うがん検診」が50.3%と最も高く、次いで「人間ドック」が21.8%となっている。



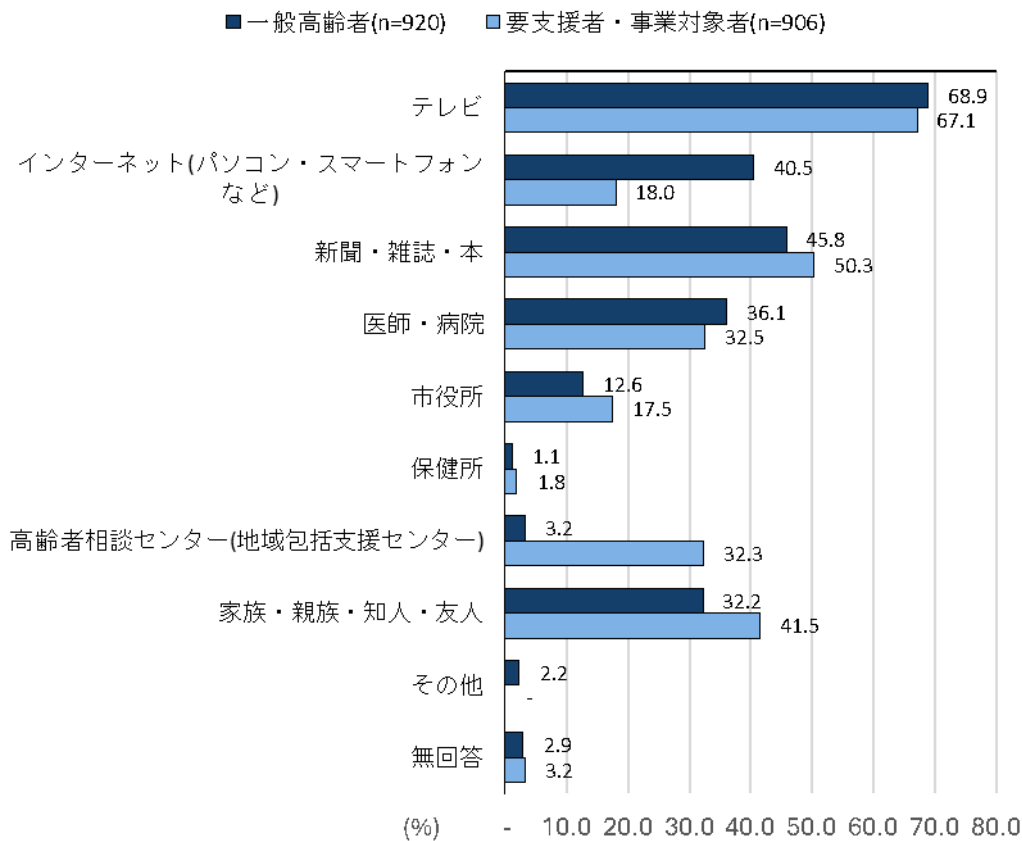
(9) 医療・介護についての知識・情報の入手元

医療や介護についての知識や情報を、何から得ていますか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「テレビ」が最も高く、一般高齢者で 68.9%、要支援者・事業対象者で 67.1%となっている。

また、「インターネット」は一般高齢者で 40.5%、要支援者・事業対象者で 18.0%と、一般高齢者が 22.5 ポイント上回っている。

一方、「高齢者相談センター」は一般高齢者で 3.2%、要支援者・事業対象者で 32.3%と、要支援者・事業対象者が 29.1 ポイント上回っている。

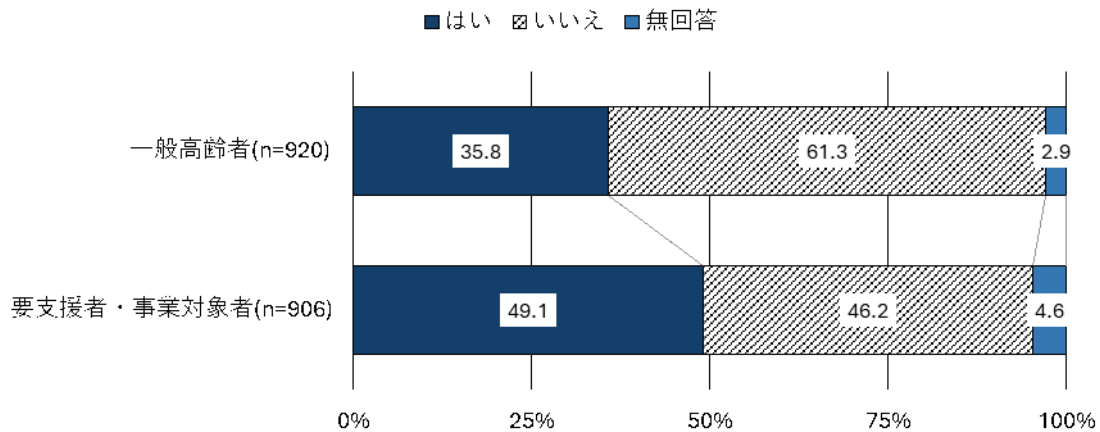


5. 毎日の生活について

(1) 認知機能の状況

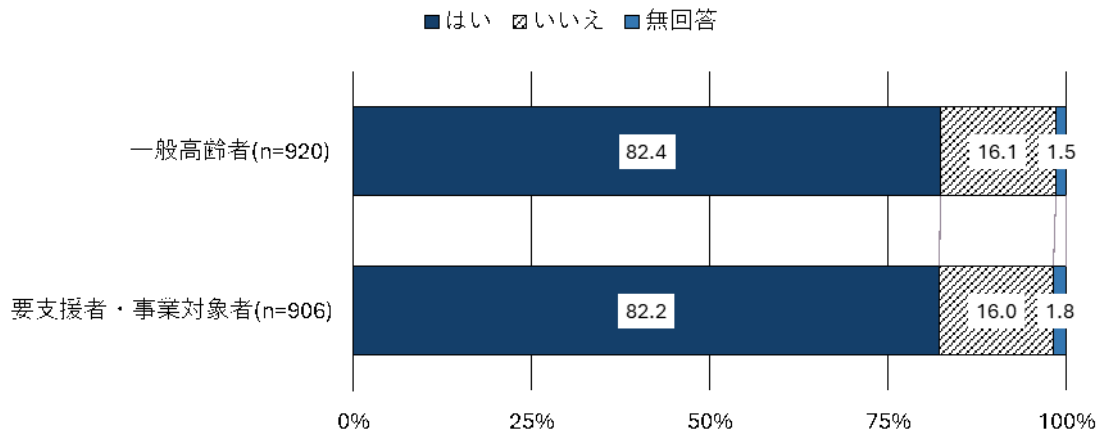
物忘れが多いと感じますか。

一般高齢者では「はい」が35.8%、要支援者・事業対象者では49.1%となっており、要支援者・事業対象者が13.3ポイント上回っている。



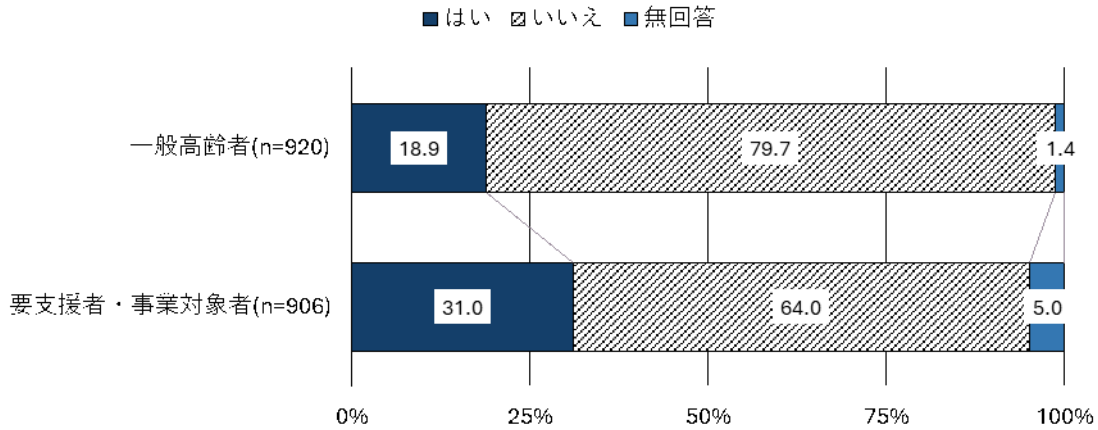
自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が約82%と同程度となっている。



今日が何月何日かわからない時がありますか。

一般高齢者では「はい」が18.9%、要支援者・事業対象者では31.0%となっており、要支援者・事業対象者が12.1ポイント上回っている。

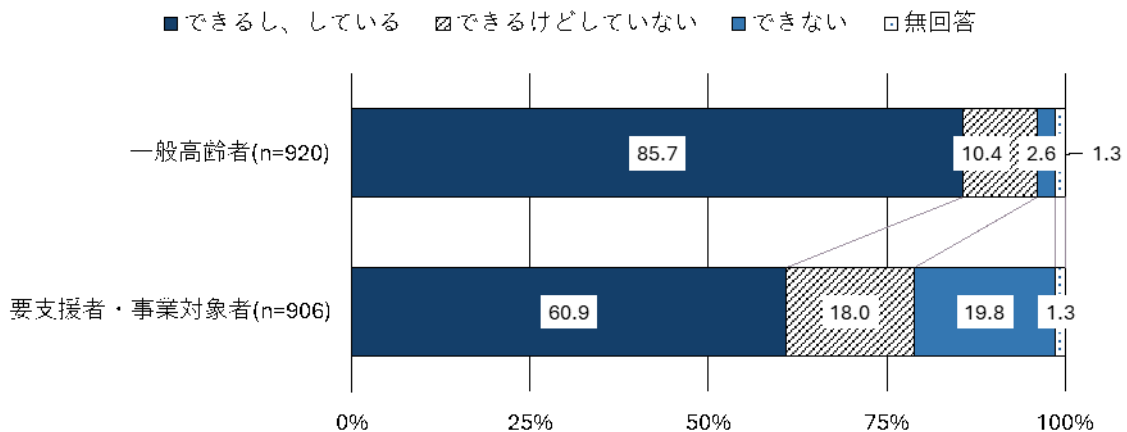


(2) 手段的日常生活動作(IADL)の状況

バスや電車を使って一人で外出していますか(自家用車でも可)。

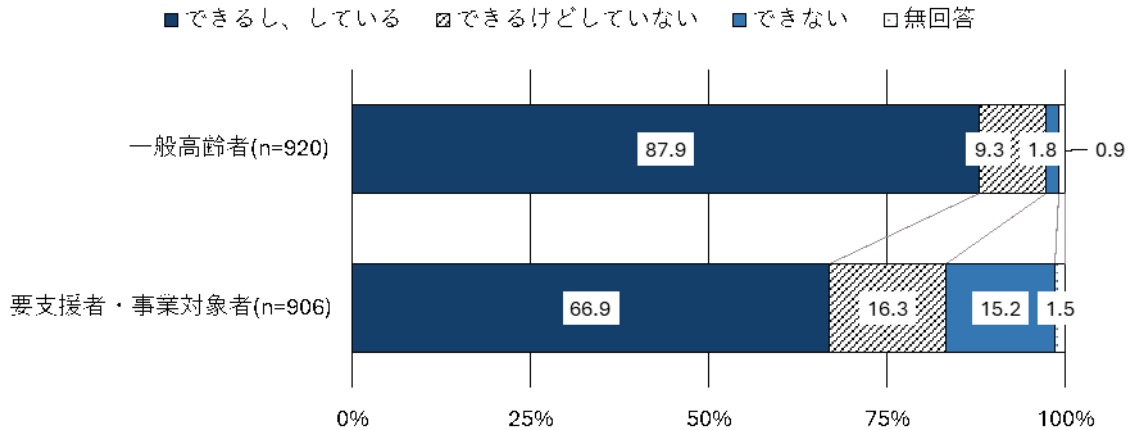
「できるけどしていない」は一般高齢者10.4%に対し、要支援者・事業対象者は18.0%と7.6ポイント上回っている。

一方、「できない」は一般高齢者2.6%に対し、要支援者・事業対象者は19.8%と、17.2ポイント上回っている。



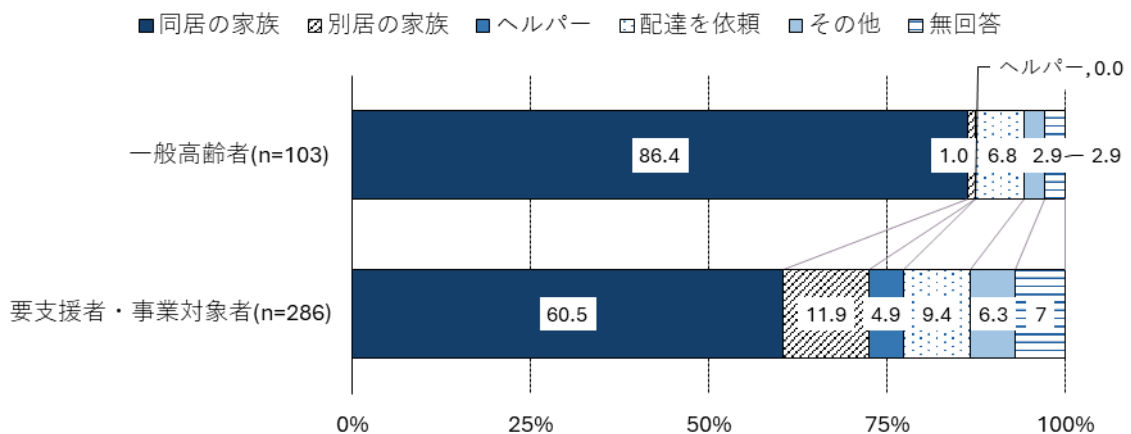
自分で食品・日用品の買い物をしていますか。

「できるけどしていない」は一般高齢者 9.3%に対し要支援者・事業対象者は 16.3%となっており、7 ポイント上回っている。「できない」は一般高齢者 1.8%に対し、要支援者・事業対象者では 15.2%となっており、13.4 ポイント上回っている。



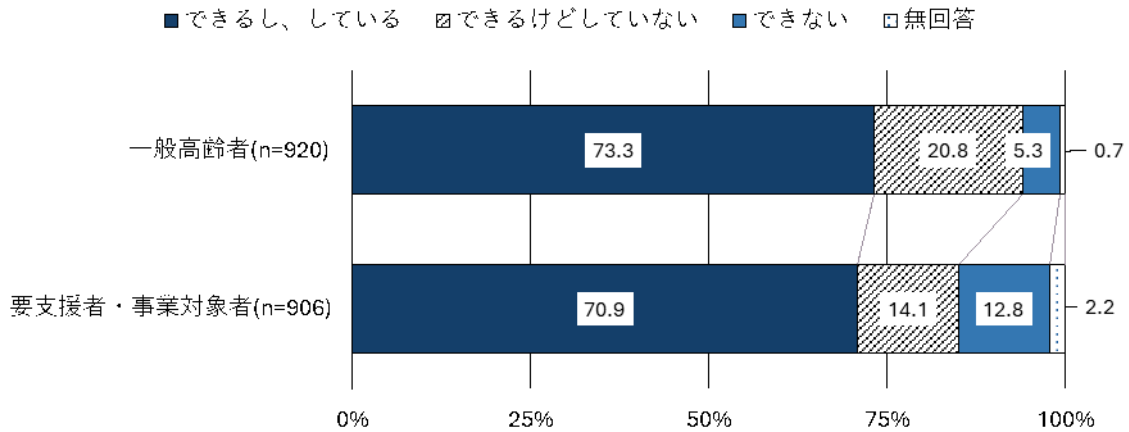
(自分で食品・日用品の買い物をしていない方)食品・日用品の買い物をする人は主にどなたですか。
(○は1つ)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「同居の家族」が最も高く、一般高齢者で 86.4%、要支援者・事業対象者で 60.5%となっており、25.9 ポイントの差がある。要支援者・事業対象者では「別居の家族」、「ヘルパー」、「配達を依頼」の割合が高くなっている。



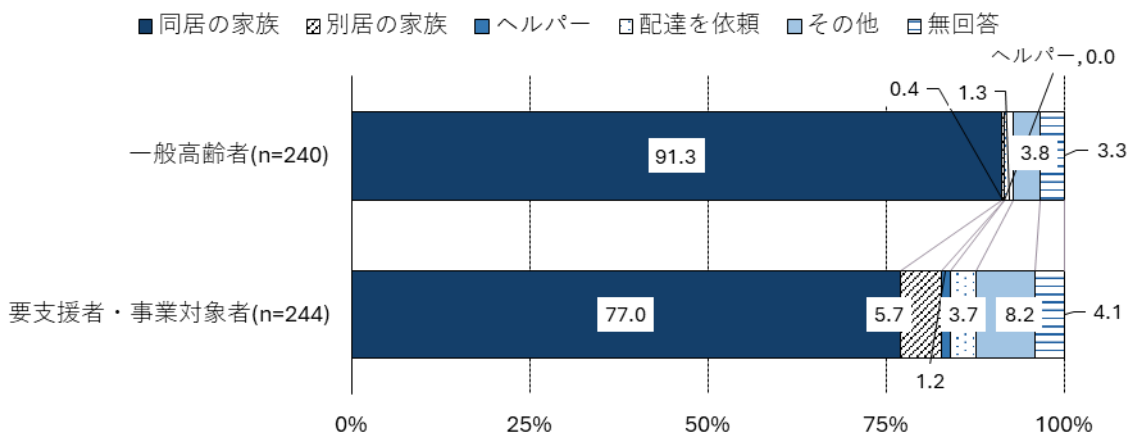
自分で食事の用意をしていますか。

「できるけどしていない」は一般高齢者 20.8%に対し、要支援者・事業対象者は 14.1%と 6.7 ポイントの差がある。「できない」は一般高齢者 5.3%に対し、要支援者・事業対象者では 12.8%となっており、7.5 ポイント上回っている。



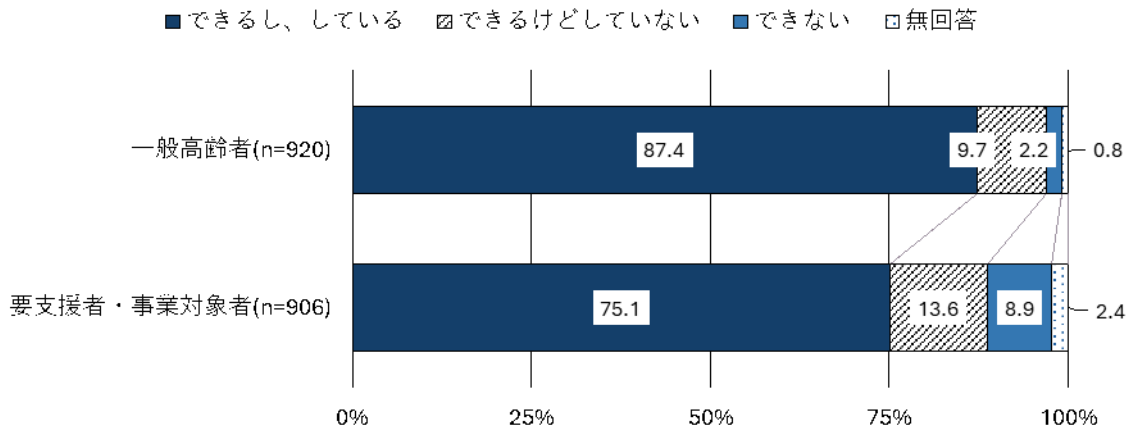
(自分で食事の用意をしていない方)食事の用意をする人は主にどなたですか。
(○はひとつ)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「同居の家族」が最も高く、一般高齢者で 91.3%、要支援者・事業対象者で 77.0%となっている。要支援者・事業対象者は「別居の家族」、「ヘルパー」、「配達を依頼」の割合がそれぞれ高くなっている。



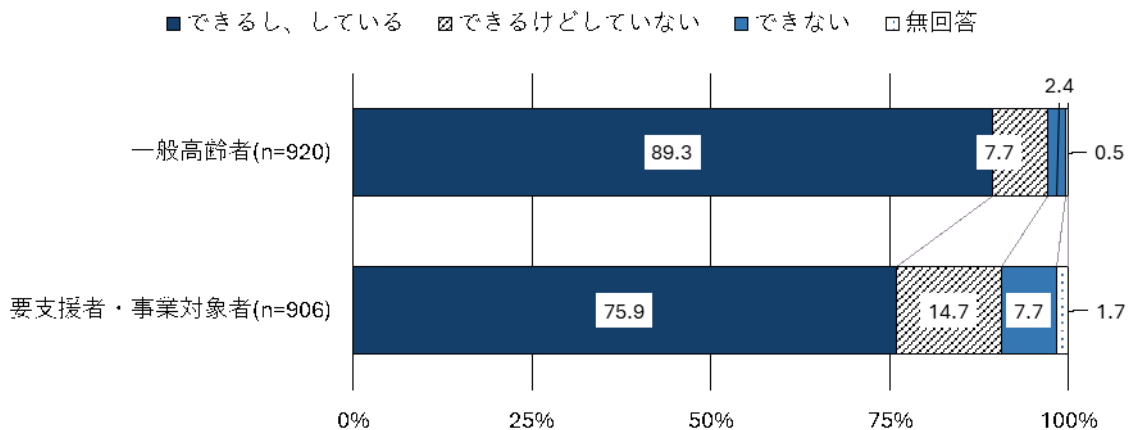
自分で請求書の支払いをしていますか。

「できるけどしていない」は一般高齢者 9.7%に対し要支援者・事業対象者は 13.6%と 3.9 ポイント上回っている。「できない」は一般高齢者 2.2%に対し、要支援者・事業対象者では 8.9%と 6.7 ポイント上回っている。



自分で預貯金の出し入れをしていますか。

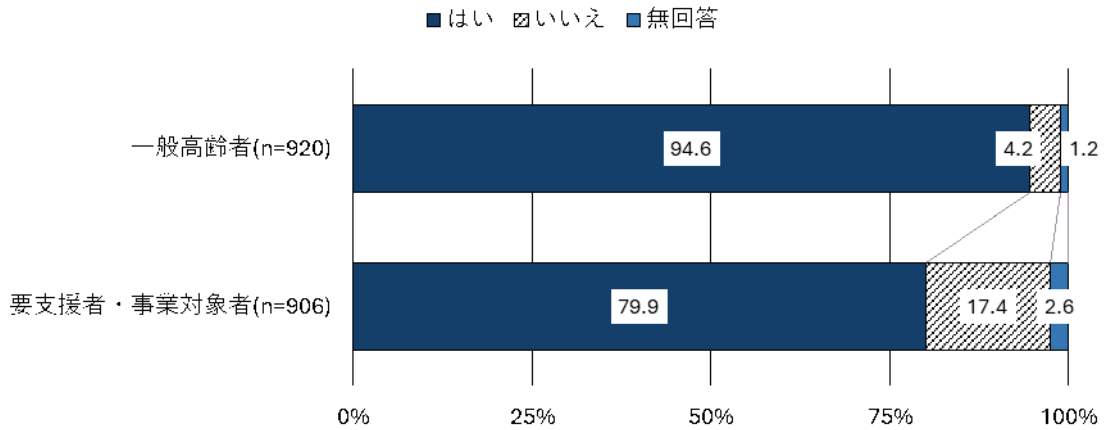
「できるけどしていない」は一般高齢者で 7.7%、要支援者・事業対象者で 14.7%となっており、7 ポイントの差がある。「できない」は一般高齢者 2.4%に対し、要支援者・事業対象者が 7.7%と 5.3 ポイント上回っている。



(3) 知的能動性の状況

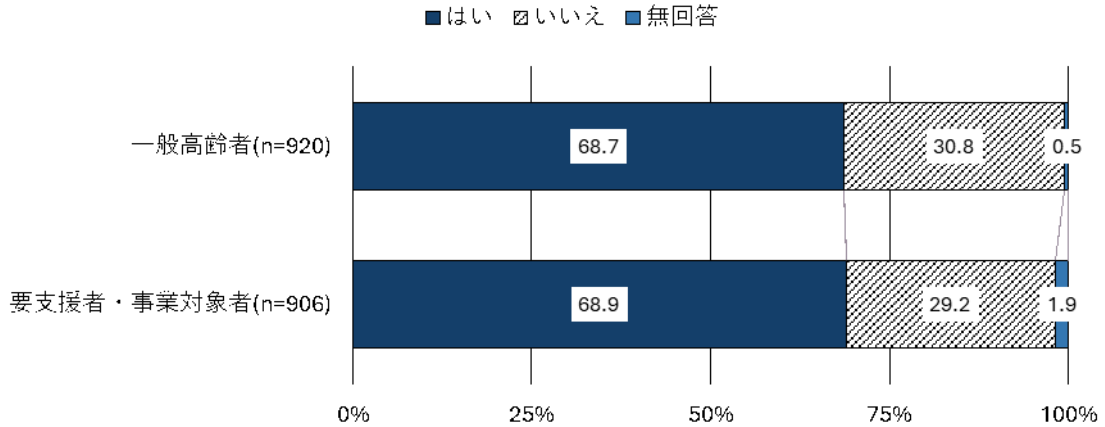
年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「はい」の割合が高い。「いいえ」が一般高齢者 4.2%に対し要支援者・事業対象者が 17.4%と 13.2 ポイント上回っている。



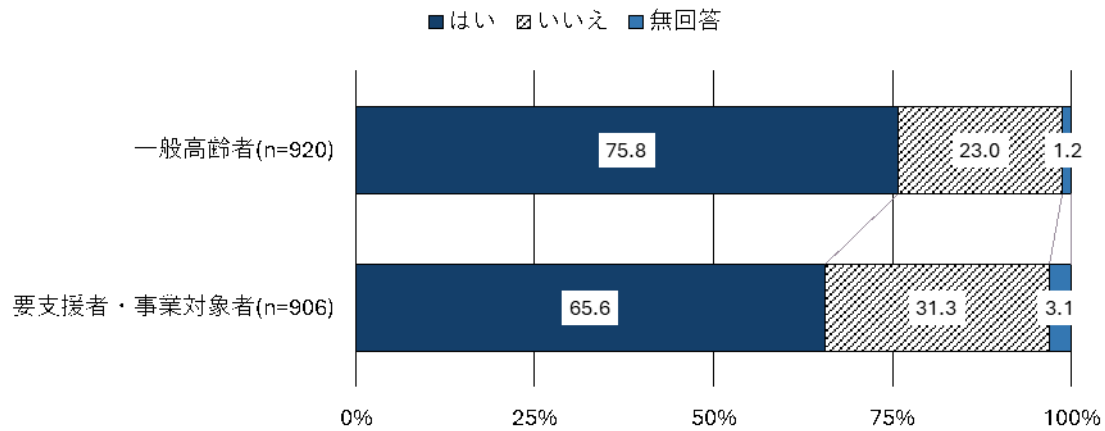
新聞を読んでいますか。

「はい」が一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに 7 割弱となっている。



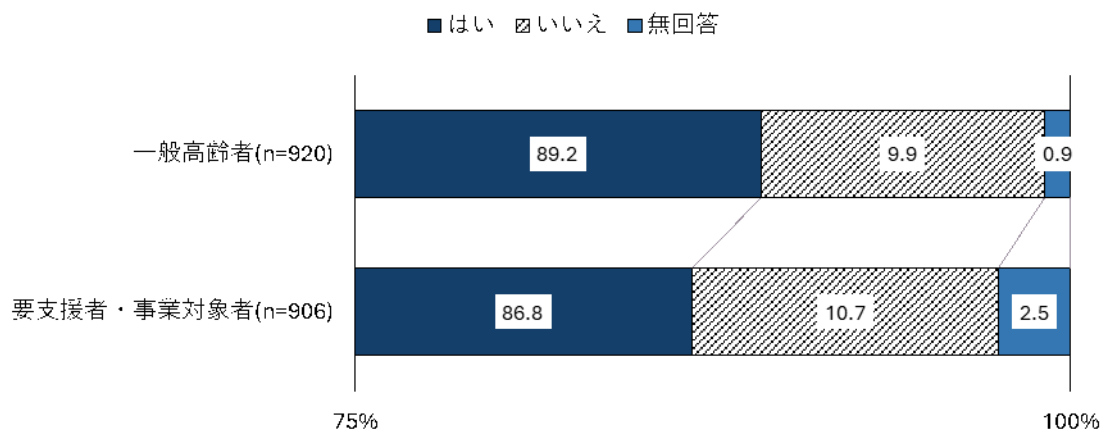
本や雑誌を読んでいますか。

「はい」が一般高齢者で 75.8%、要支援者・事業対象者で 65.6%となっている。



健康についての記事・番組に関心がありますか。

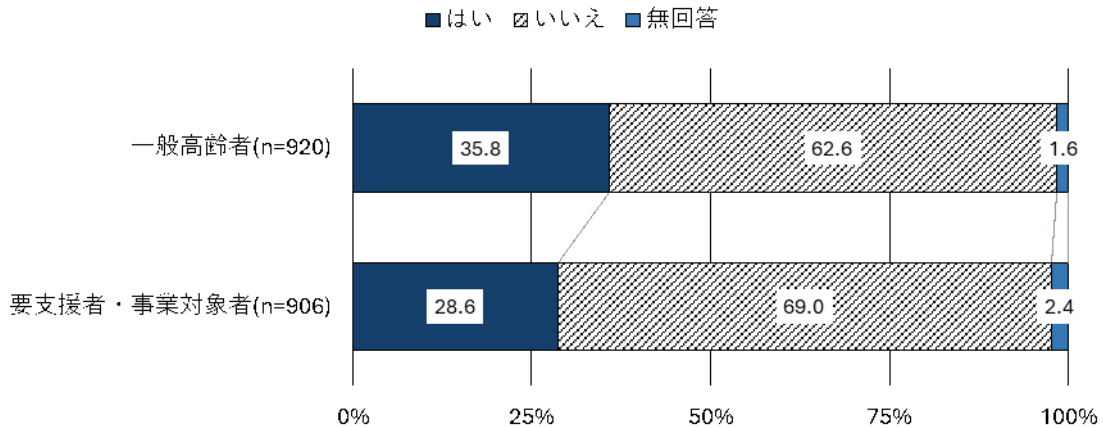
「はい」が一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに 9 割弱となっている。



(4) 他者との関わりの状況

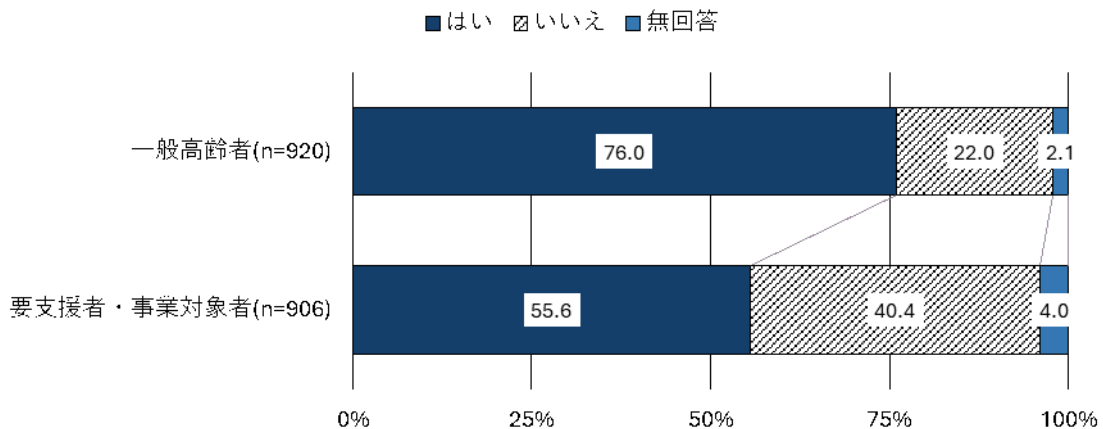
友人の家を訪ねていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「いいえ」が過半数となっており、一般高齢者に対し要支援者・事業対象者が 6.4 ポイント高い。



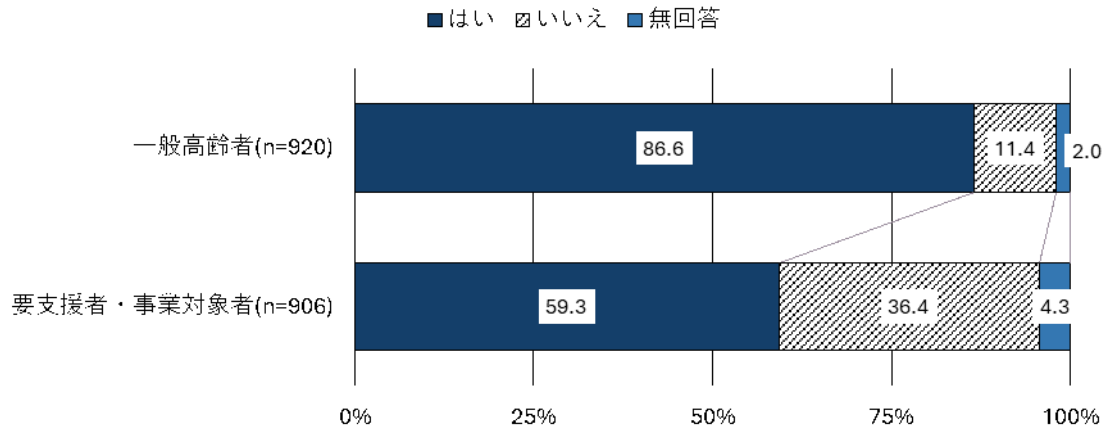
家族や友人の相談にのっていますか。

「はい」が一般高齢者 76.0%に対し要支援者・事業対象者では 55.6%と 20.4 ポイント下回っている。



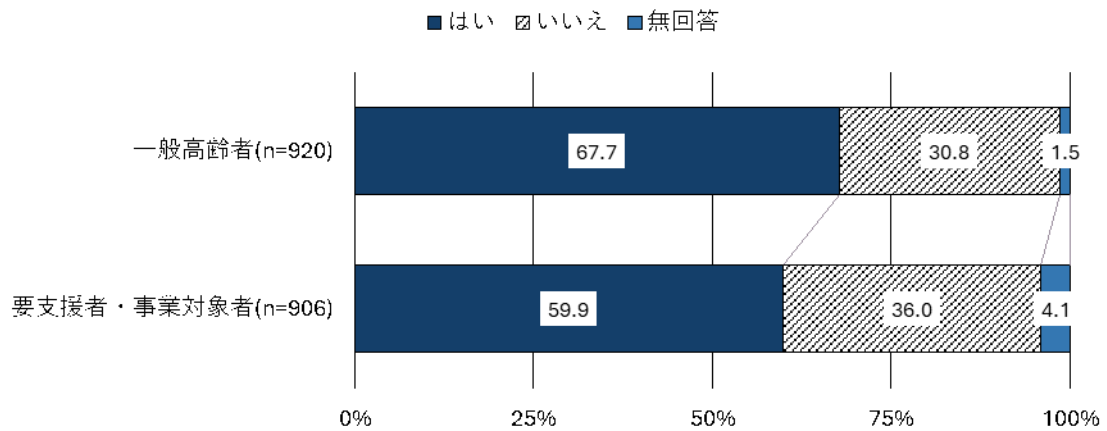
病人を見舞うことができますか。

「はい」が一般高齢者 86.6%に対し、要支援者・事業対象者では 59.3%と 27.3 ポイント下回っている。



若い人に自分から話しかけることがありますか。

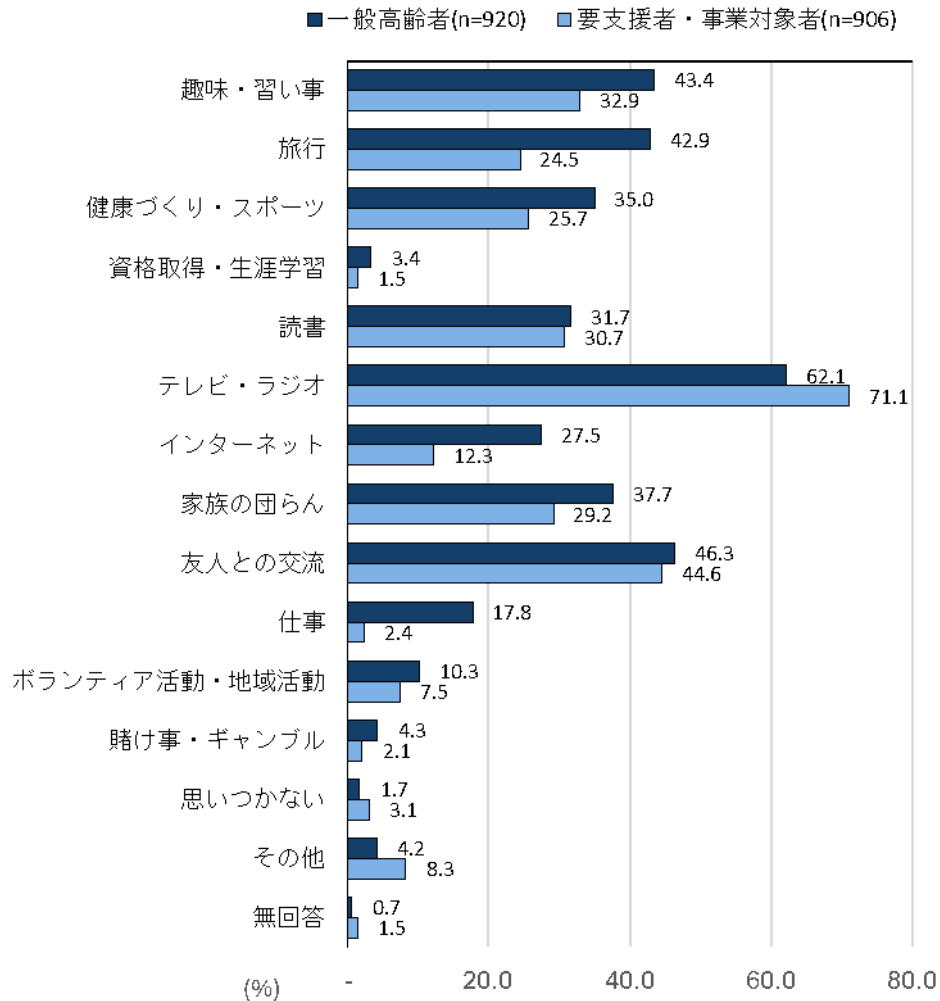
「はい」が一般高齢者 67.7%に対し、要支援者・事業対象者は 59.9%と 7.8 ポイント下回っている。



(5) 楽しみや生きがいの有無

あなたにとっての楽しみや生きがいはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「テレビ・ラジオ」が最も高く、一般高齢者で 62.1%、要支援者・事業対象者で 71.1%となっている。次いで、「友人との交流」が一般高齢者 46.3%、要支援者・事業対象者は 44.6%となっている。



6. 地域での活動・ボランティアについて

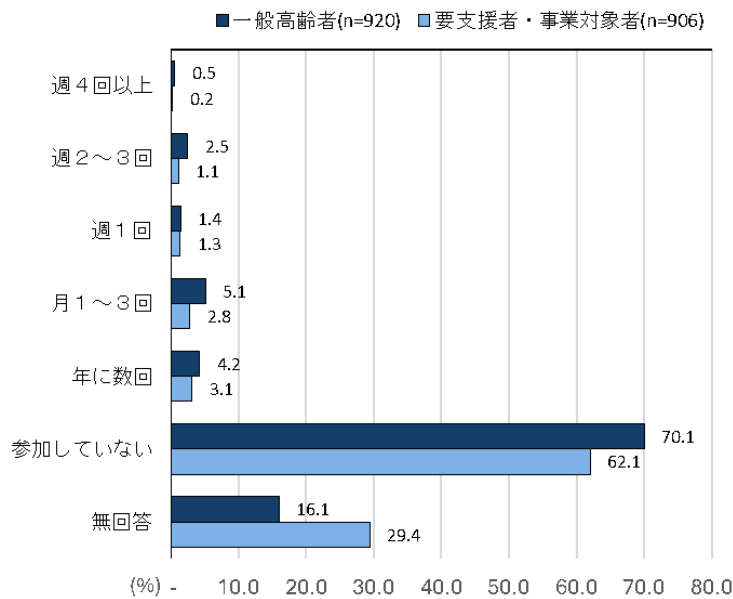
(1) 地域の会・グループ等への参加状況

以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか(個人の活動も含みます)。

①～⑩のすべての活動で、「参加していない」が過半数を占めている。

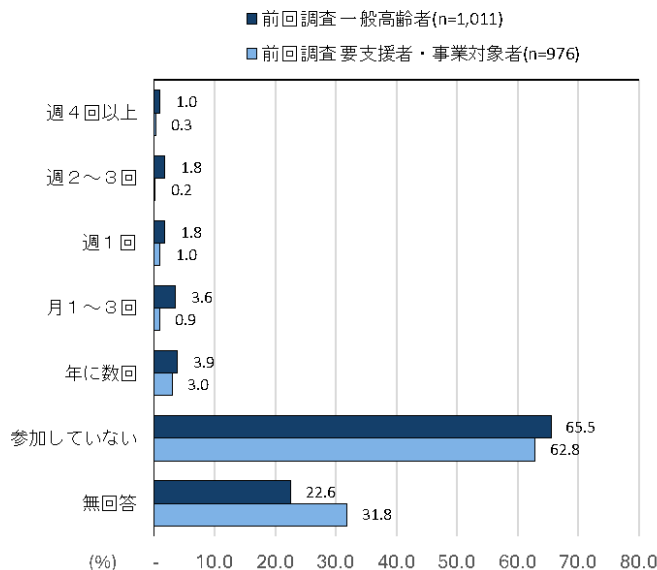
① ボランティア

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では13.7%、要支援者・事業対象者は8.5%となっている。



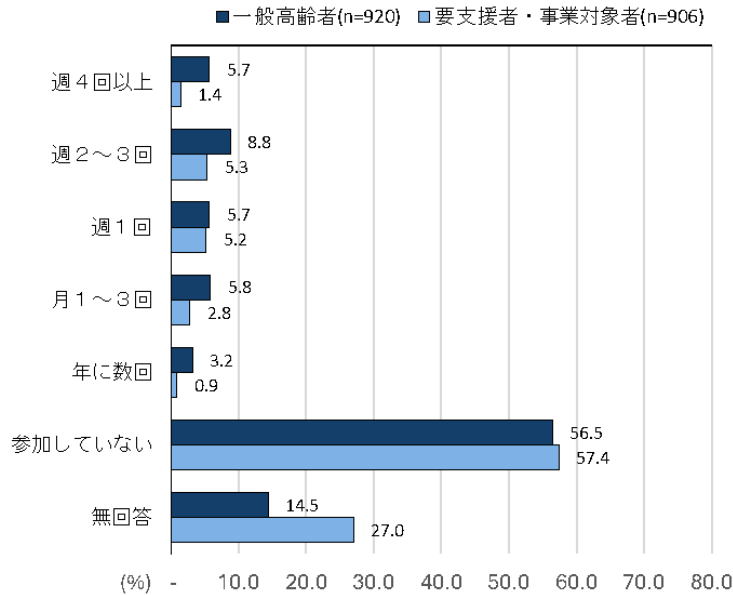
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で12.1%、要支援者・事業対象者で5.4%であり、今回調査で微増している。



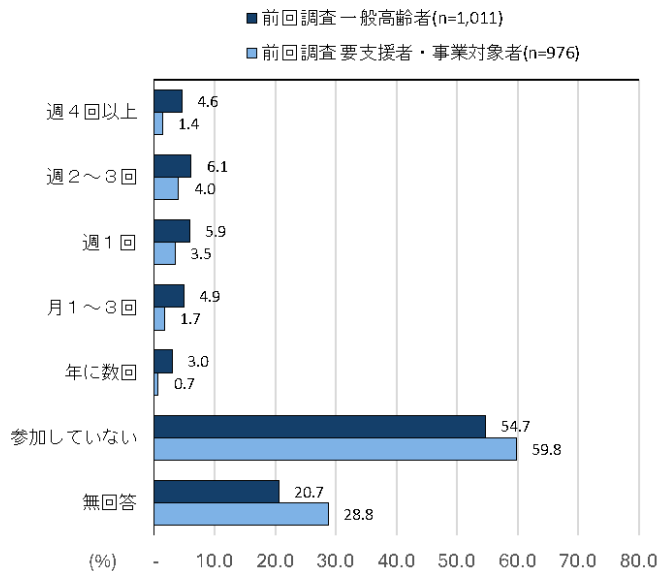
② スポーツ

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では29.2%、要支援者・事業対象者は15.6%となっている。



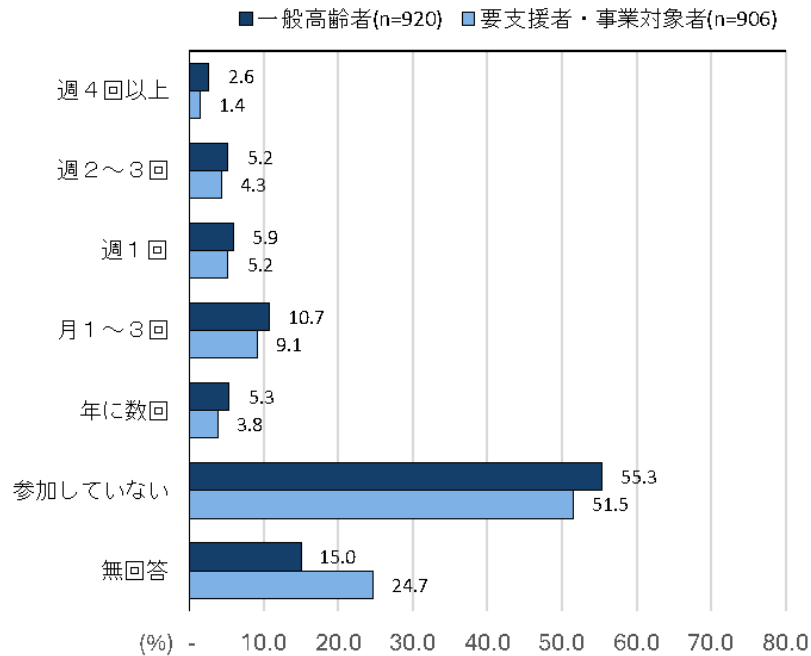
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で24.5%、要支援者・事業対象者で11.3%であり、今回調査で微増している。



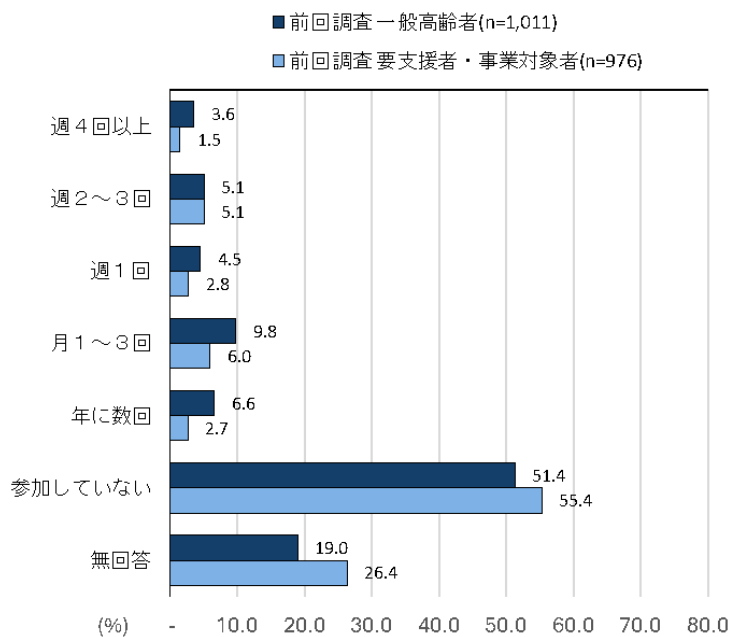
③ 趣味

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では29.7%、要支援者・事業対象者は23.8%となっている。



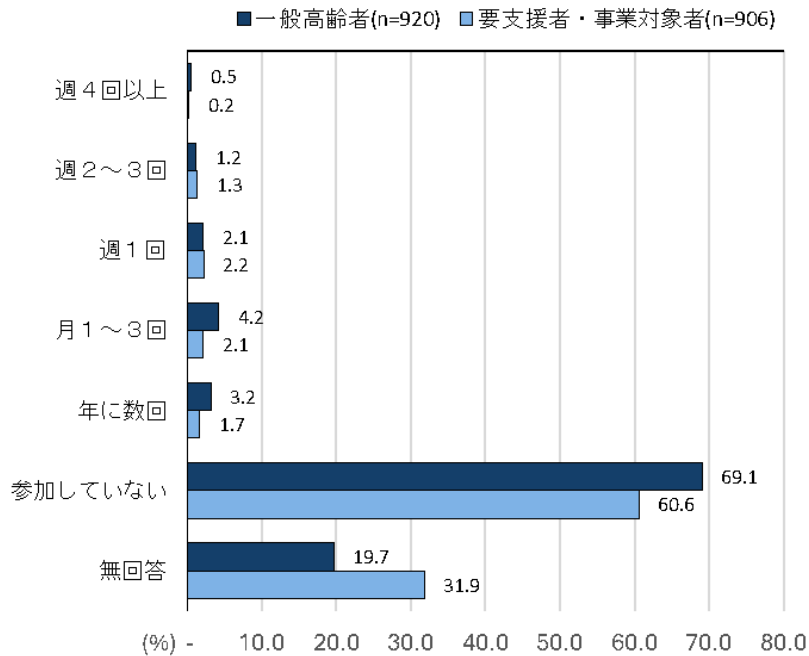
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者では29.6%、要支援者・事業対象者で18.1%であり、今回調査では一般高齢者が同程度である一方、要支援者・事業対象者は前回より5.7ポイント高くなっている。



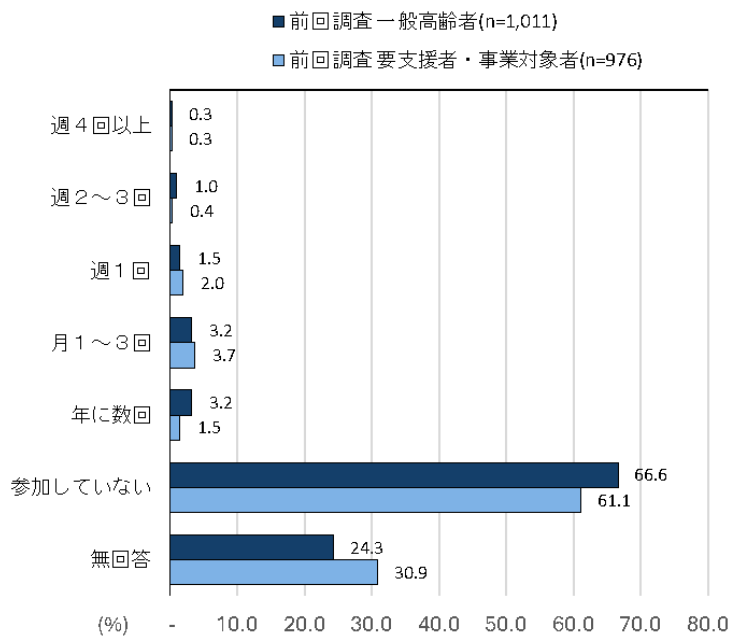
④ 学習・教養サークル

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では11.2%、要支援者・事業対象者は7.5%となっている。



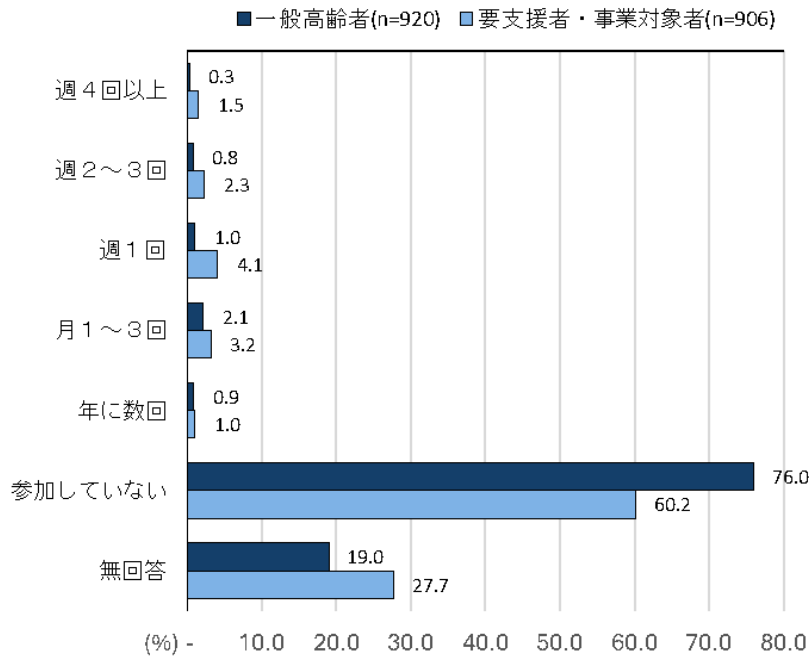
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で9.2%、要支援者・事業対象者で7.9%となっており、今回調査では一般高齢者が微増している一方、要支援者・事業対象者は同程度となっている。



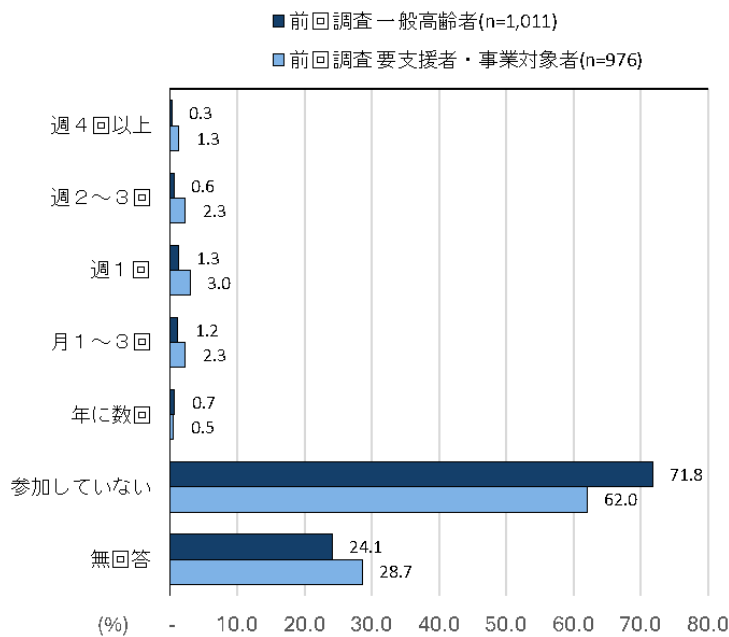
⑤ てんとうむし体操

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では5.1%、要支援者・事業対象者は12.1%となっている。



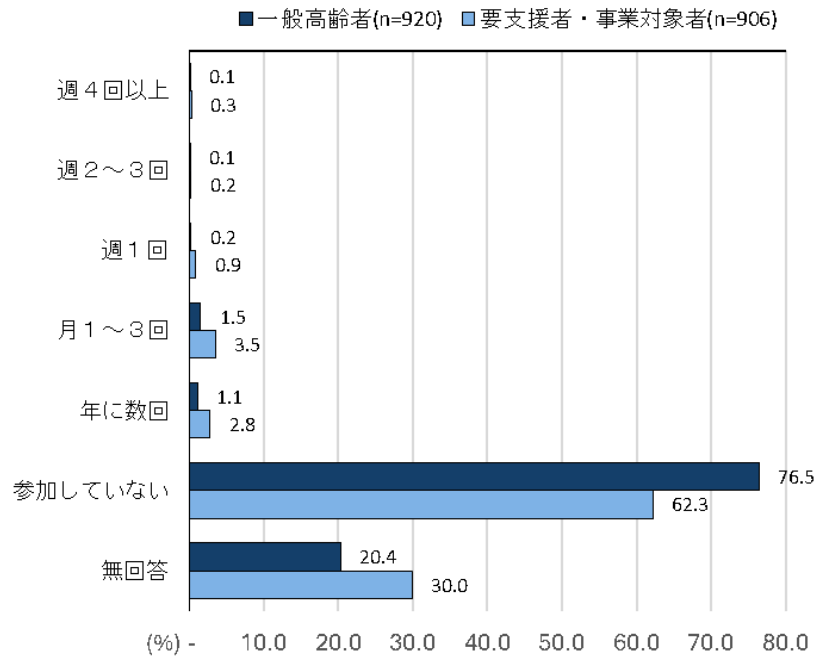
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で4.1%、要支援者・事業対象者で9.4%となっており、ともに前回よりも微増している。



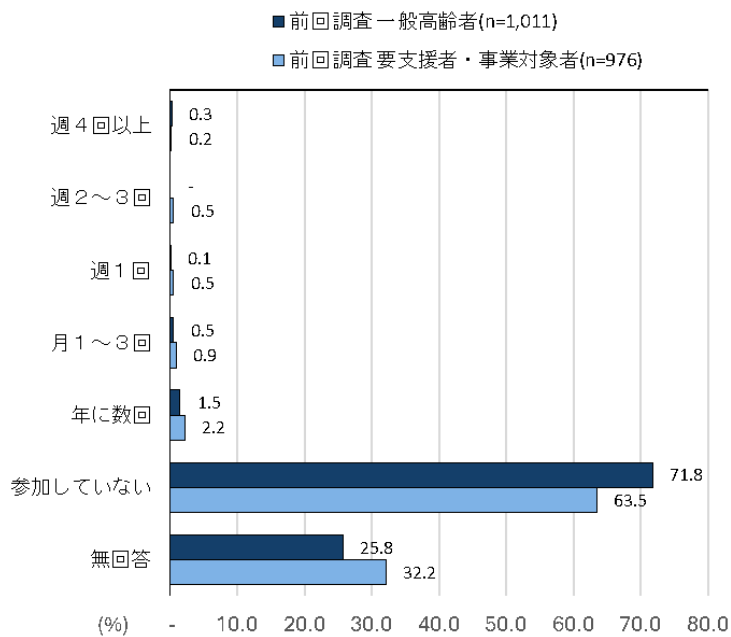
⑥ 地域サロン

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では3.0%、要支援者・事業対象者は7.7%となっている。



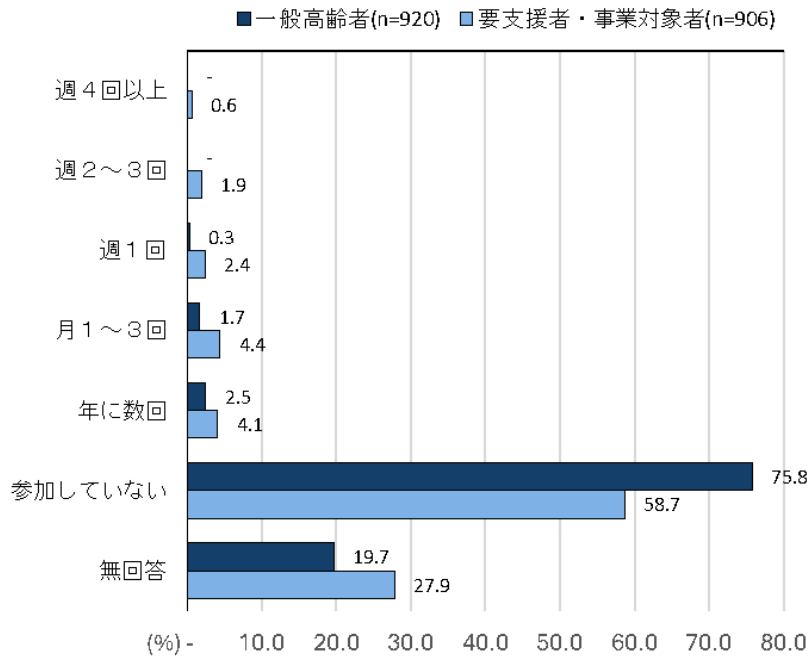
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で2.4%、要支援者・事業対象者で4.3%であり、今回調査で微増している。



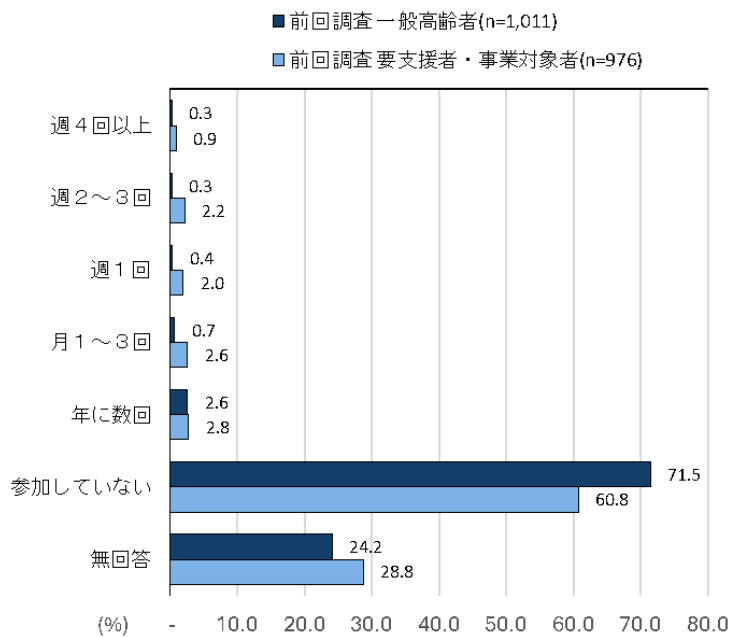
⑦ 高齢者のつどい

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では4.5%、要支援者・事業対象者は13.4%となっている。



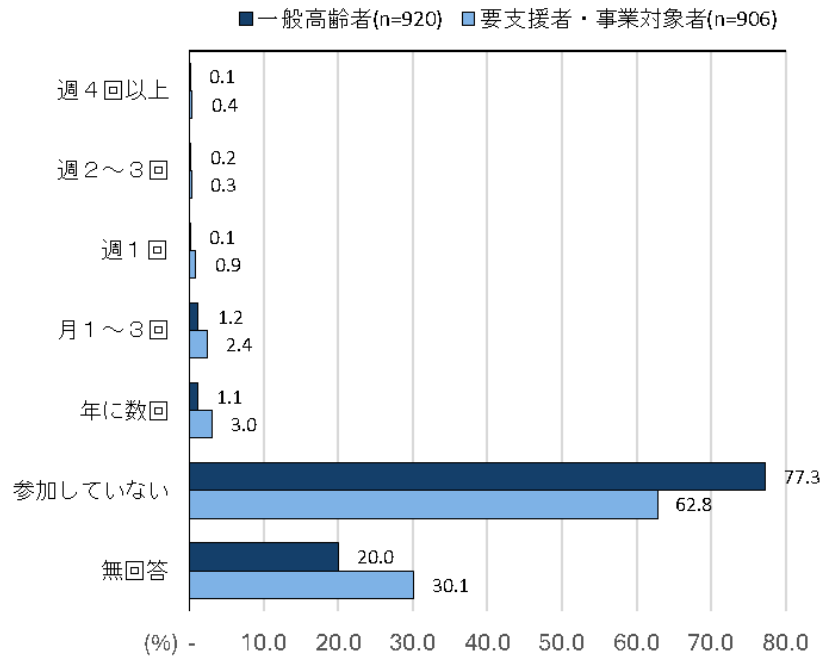
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で4.3%、要支援者・事業対象者で10.5%であり、今回調査では一般高齢者は同程度、要支援者・事業対象者は微増している。



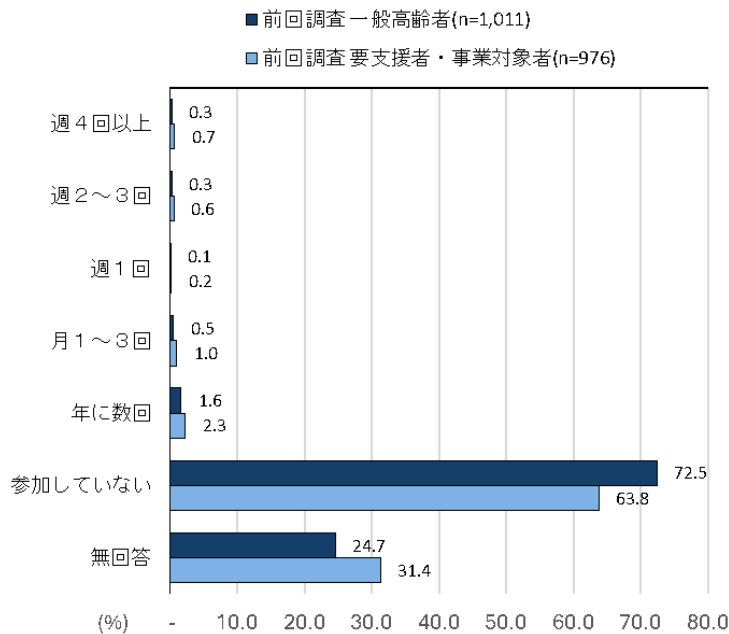
⑧ 老人クラブ

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では2.7%、要支援者・事業対象者は7.0%となっている。



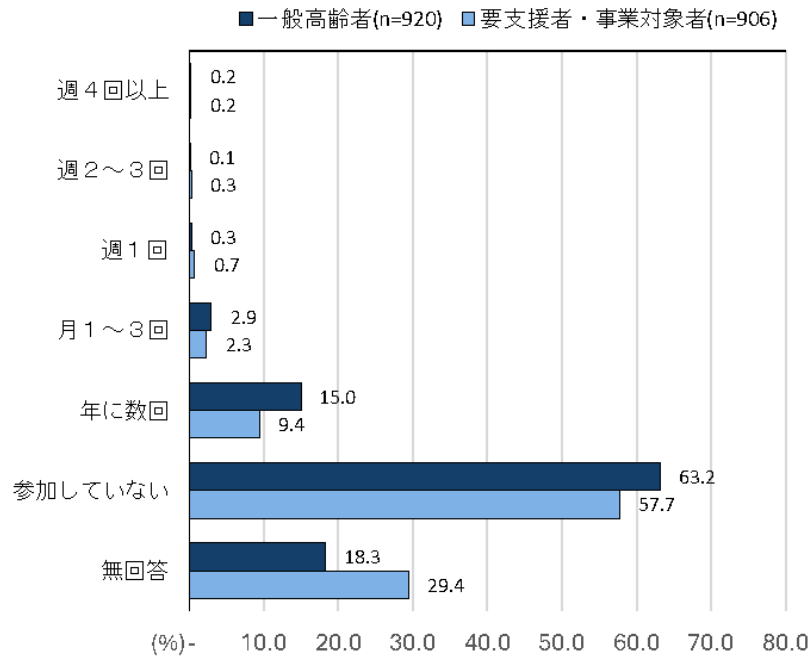
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で2.8%、要支援者・事業対象者で4.8%であり、今回調査では一般高齢者が同程度、要支援者・事業対象者は微増している。



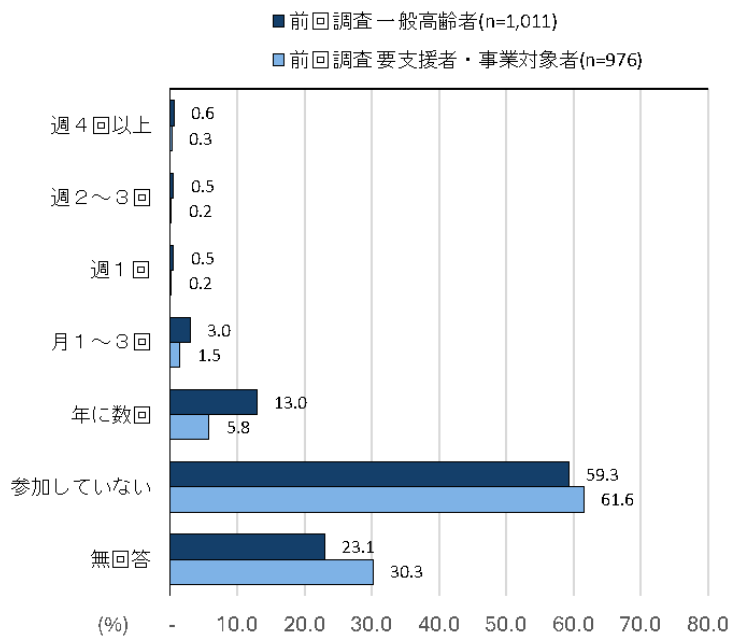
⑨ 町内会・自治会

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では18.5%、要支援者・事業対象者は12.9%となっている。



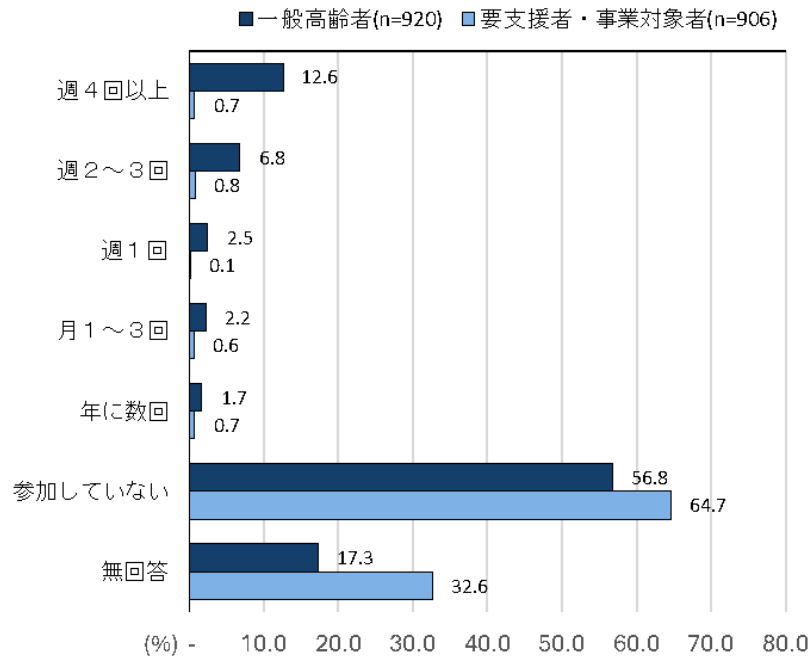
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で17.6%、要支援者・事業対象者は8%であり、今回調査で一般高齢者は微増、要支援者・事業対象者は4.9ポイント増加している。



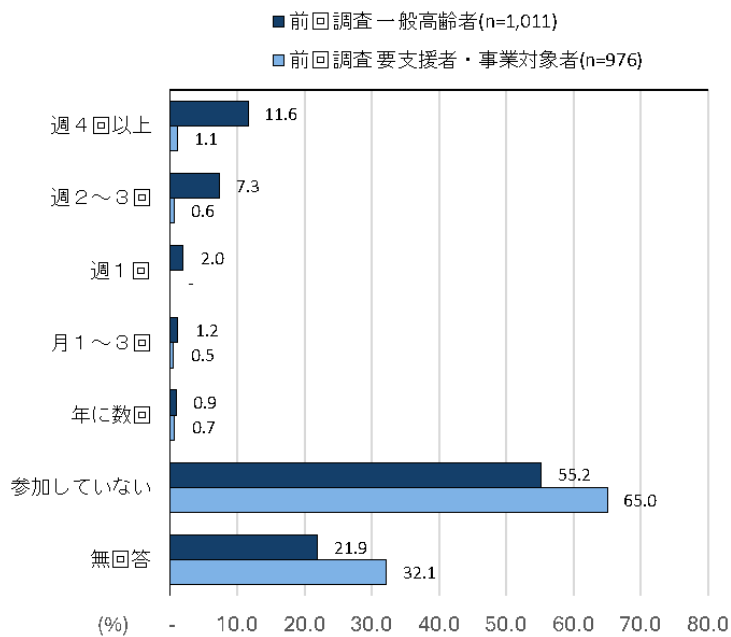
⑩ 収入のある仕事

「週4回以上」～「年に数回」参加している割合が一般高齢者では25.8%、要支援者・事業対象者は2.9%となっている。



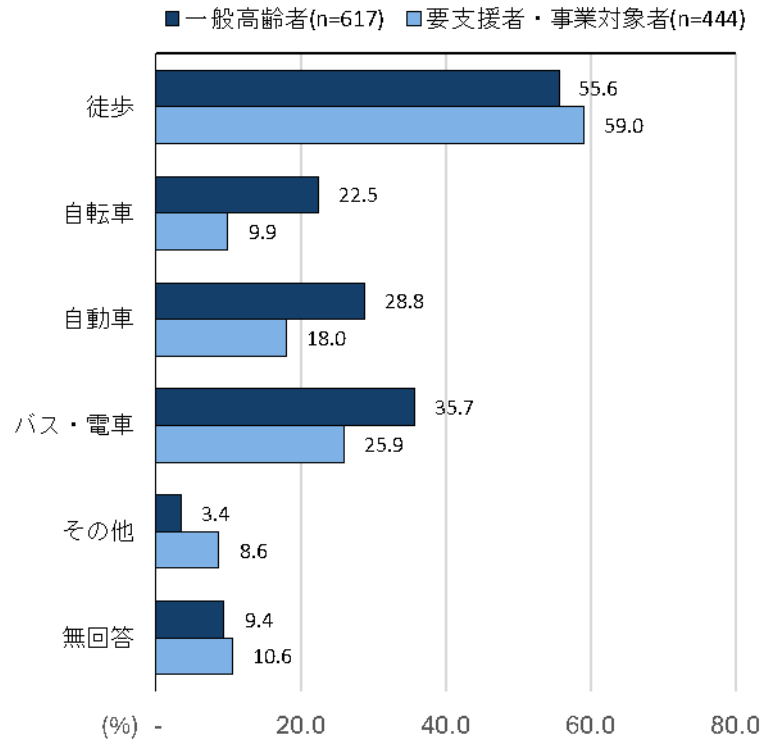
【前回調査】

前回調査における参加割合は一般高齢者で23%、要支援者・事業対象者で2.9%であり、一般高齢者は微増、要支援者・事業対象者は同程度となっている。



(上記の会・グループに参加している方)活動場所までの交通手段をお教えてください。(〇はいくつでも)

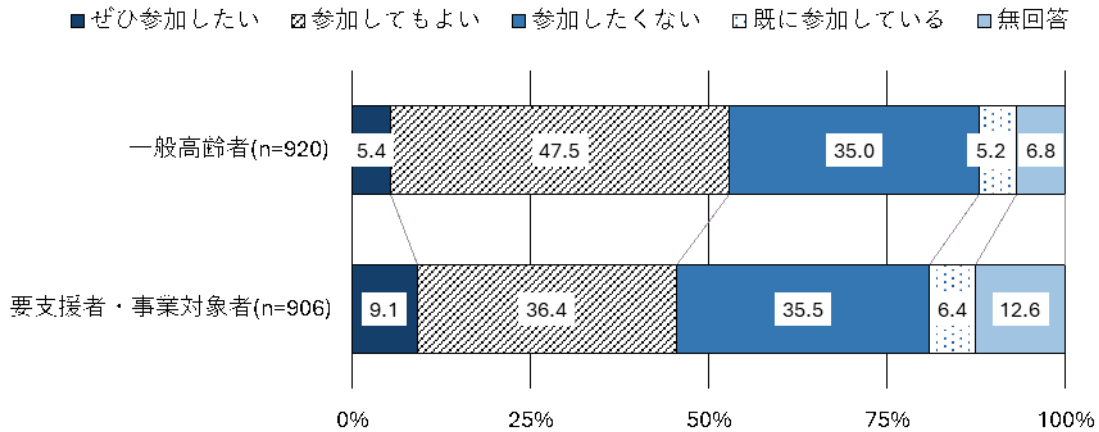
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「徒歩」が最も高く、一般高齢者で 55.6%、要支援者・事業対象者で 59.0%となっている。次いで「バス・電車」が一般高齢者で 35.7%、要支援者・事業対象者は 25.9%となっている。



(2) 地域の会・グループ等への参加意向

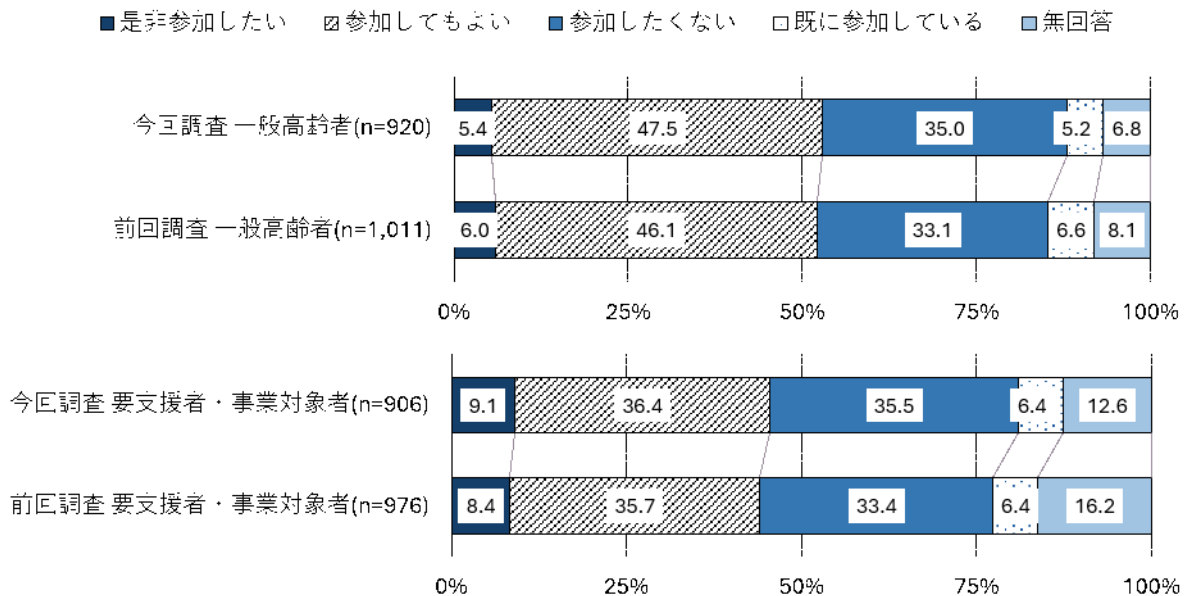
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」を「参加意向あり」とすると、一般高齢者では 58.1%、要支援者・事業対象者は 51.9%が「参加意向あり」となった。



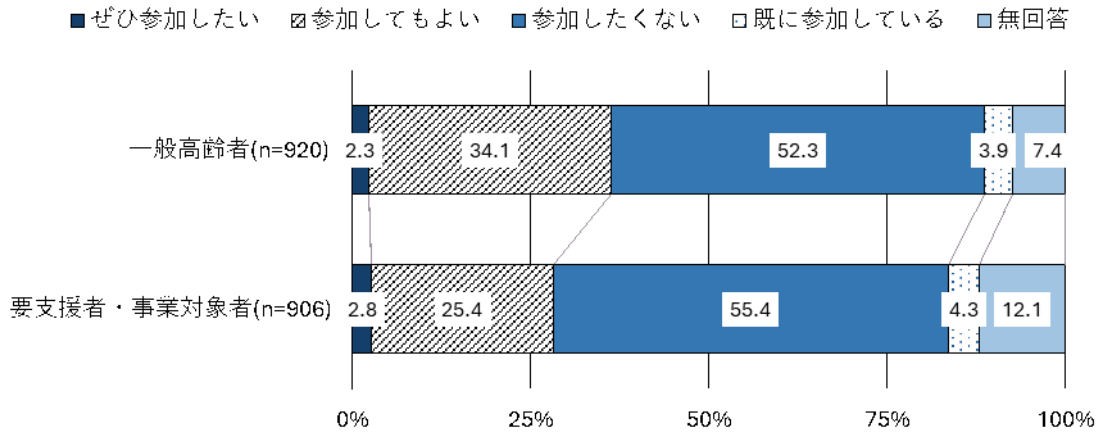
【経年比較】

前回調査と比較しても、概ね同程度の結果となっている。



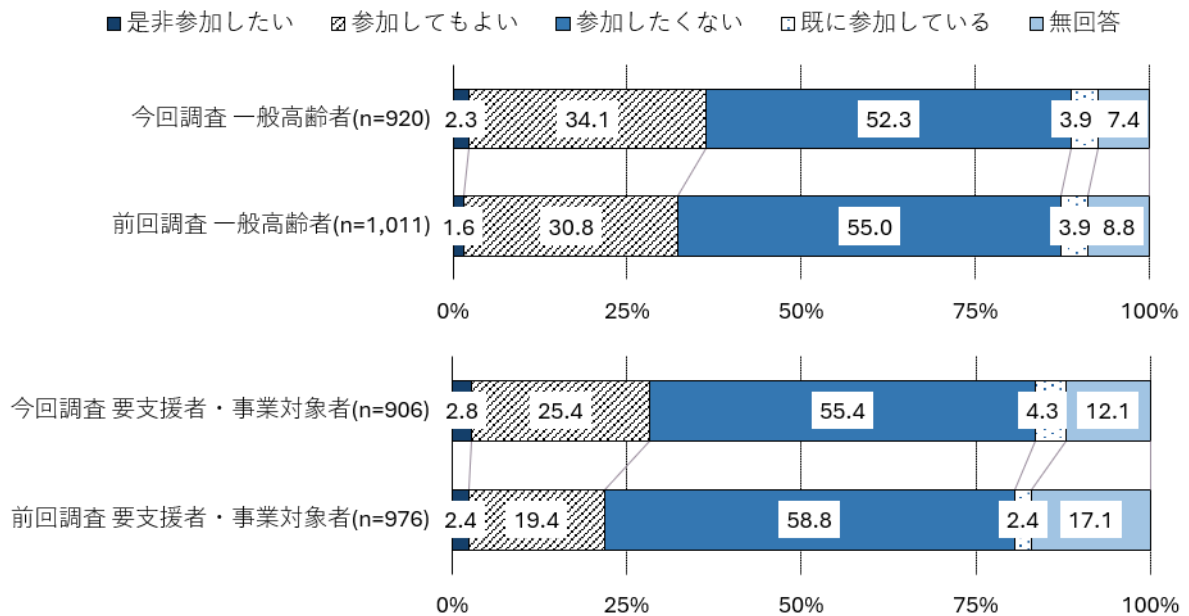
地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。

「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」を「参加意向あり」とすると、一般高齢者では40.3%、要支援者・事業対象者は32.5%が「参加意向あり」となった。



【経年比較】

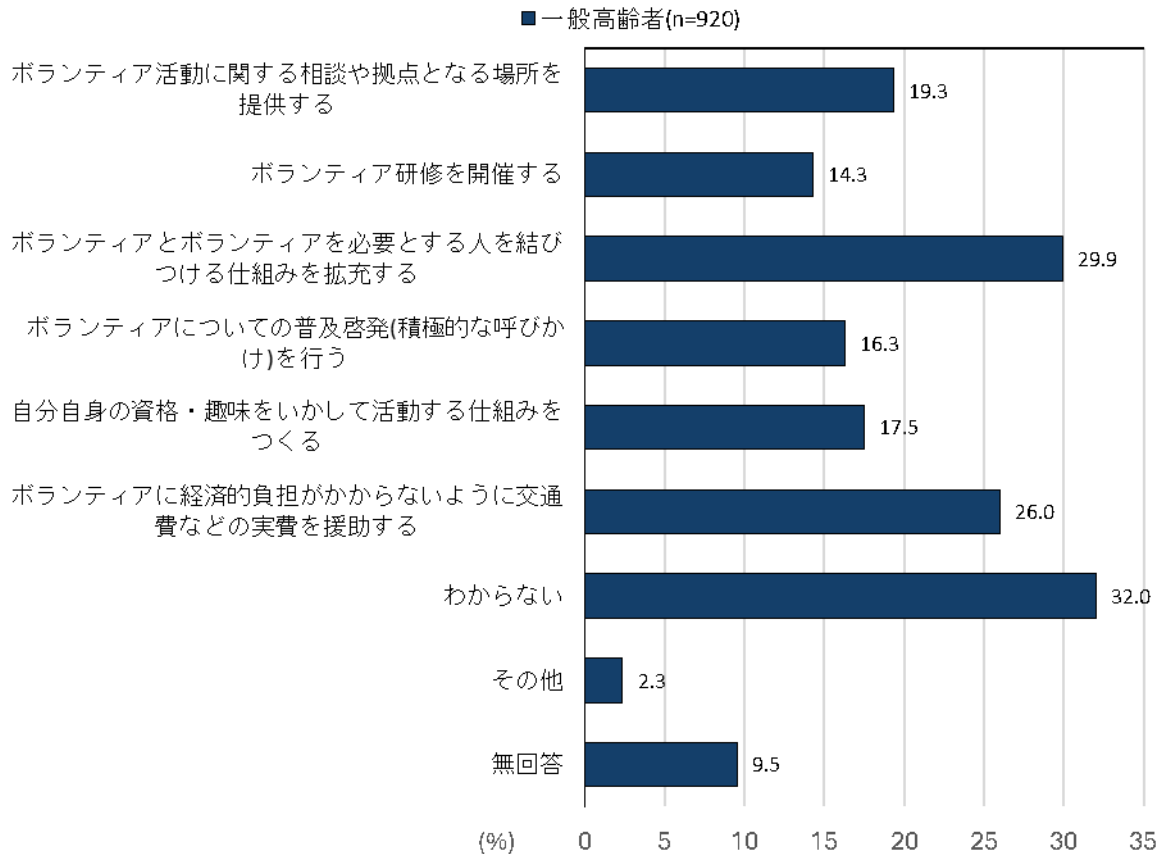
前回調査においては、一般高齢者の「参加意向あり」が36.3%、要支援者・事業対象者で24.2%となっており、今回調査ではやや上昇している。



(3) 地域における支え合いの意識

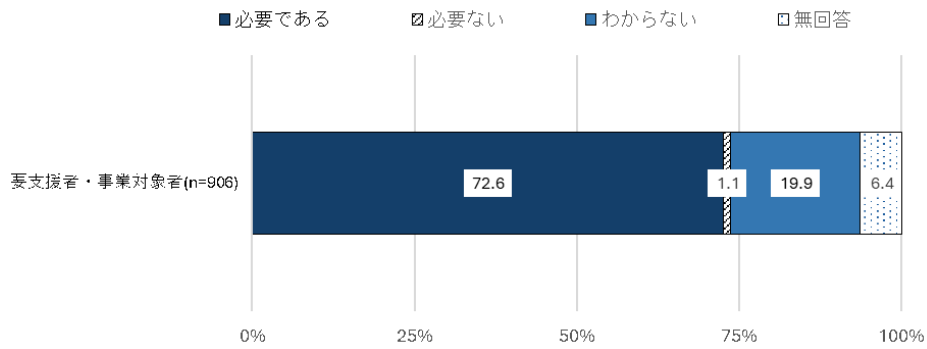
(一般高齢者のみ) 今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「わからない」が32.0%と最も高く、次いで「ボランティアとボランティアを必要とする人を結びつける仕組みを拡充する」が29.9%、「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を援助する」が26.0%となっている。



(要支援者・事業対象者のみ)独身世帯や高齢者世帯が近年増えていますが、隣近所や地域で高齢者を支えることが必要だと思いますか。

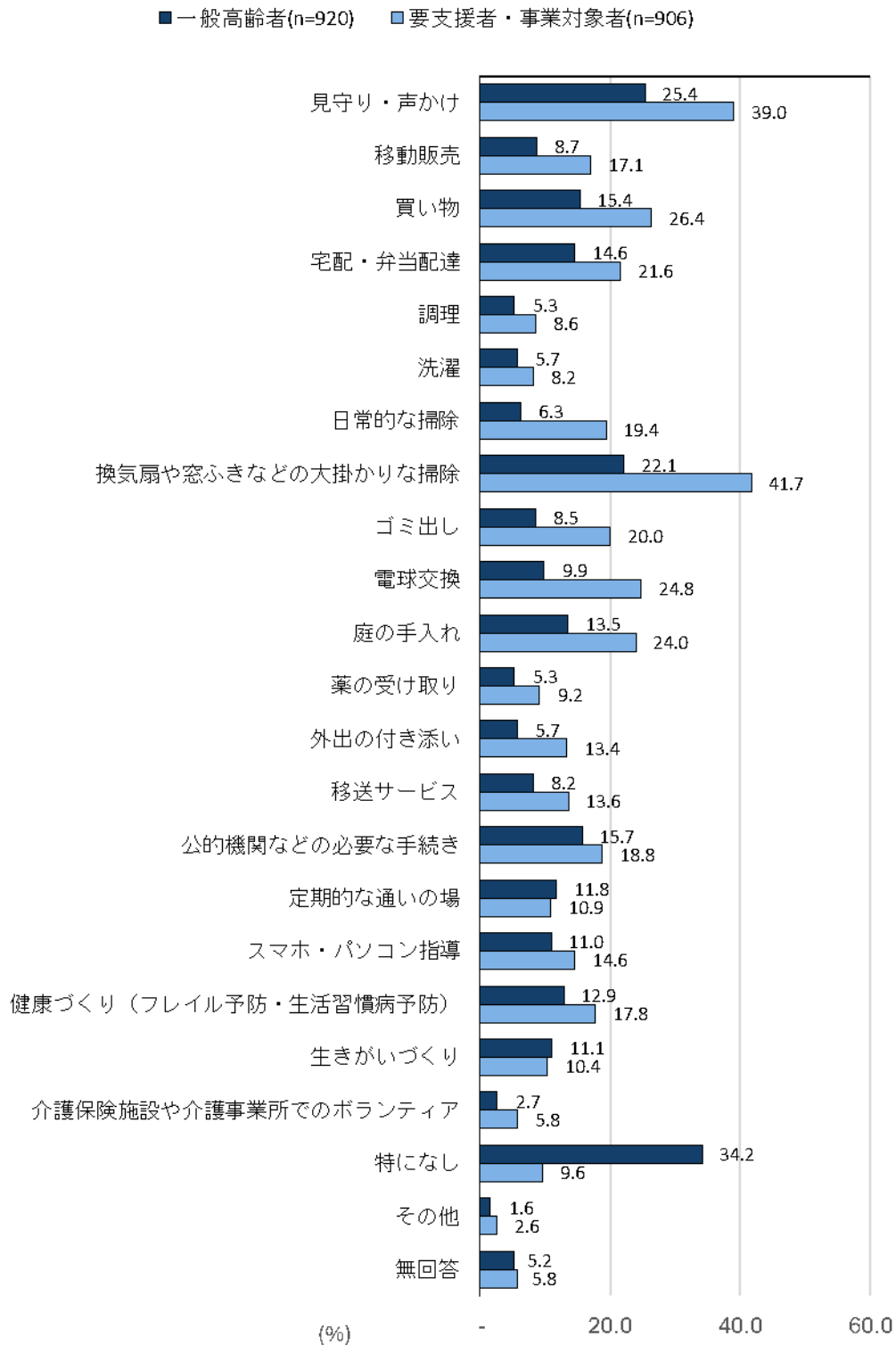
「必要である」が72.6%と最も高く、「必要ない」は1.1%程度となっている。



あなたは自宅での生活続けるために、どのようなサービスが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

一般高齢者では「特になし」が最も高く、34.2%となっている。次いで「見守り・声かけ」が25.4%となっている。

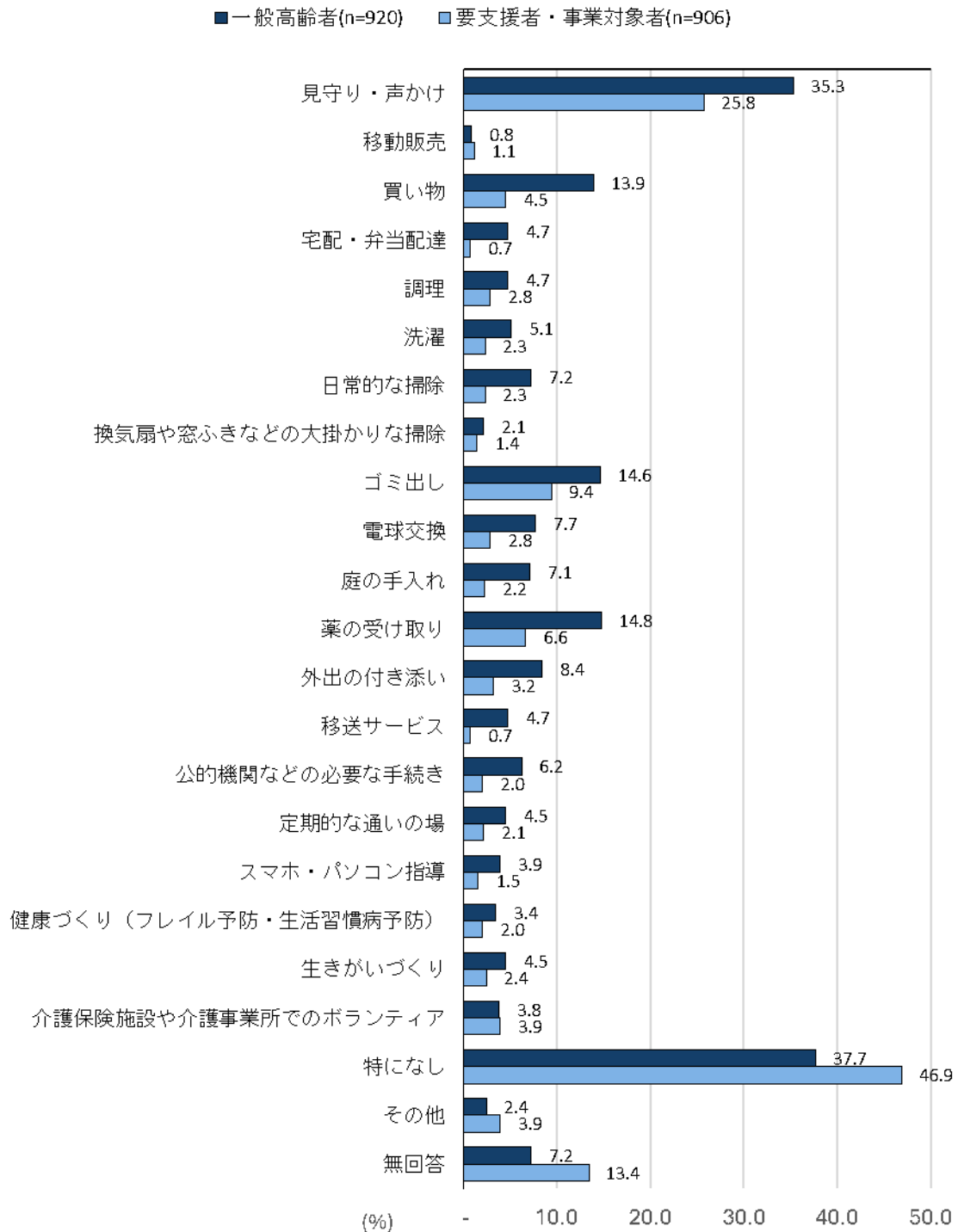
要支援者・事業対象者においては「換気扇や窓ふきなどの大掛かりな掃除」が41.7%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」が39.0%となっている。



第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

あなたがボランティア(無償もしくは有償)として活動するとしたら、協力できる内容はありますか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「特になし」が最も高く、一般高齢者で37.7%、要支援者・事業対象者で46.9%となっている。次いで「見守り・声かけ」が一般高齢者で35.3%、要支援者・事業対象者で25.8%となっている。



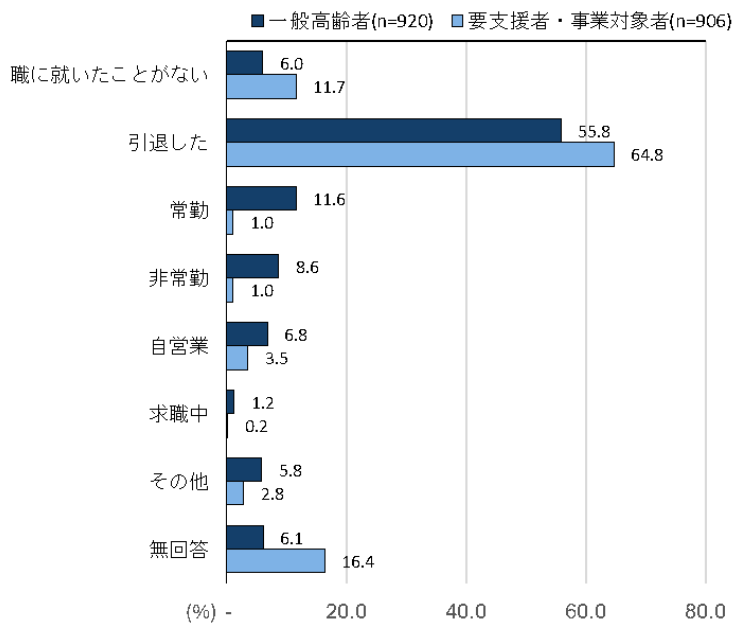
7. 就労について

(1) 就労状況

現在のあなたの就労状態はどれですか。(いくつでも)

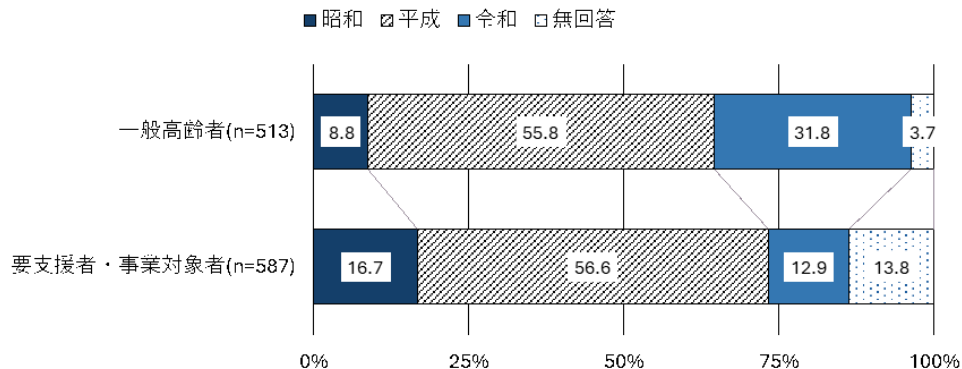
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「引退した」が最も高く、一般高齢者で 55.8%、要支援者・事業対象者で 64.8%となっており、要支援者・事業対象者が 9.0 ポイント上回っている。

一般高齢者では要支援者・事業対象者と比較して、「常勤」「非常勤」「自営業」の割合が高い。要支援者・事業対象者においては「職についたことがない」が 11.7%となっている。



(「引退した」を選択された方)あなたはいつ引退しましたか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「平成」が最も高く、半数以上を占めている。「昭和」が一般高齢者 8.8%に対し、要支援者・事業対象者では 16.7%と 7.9 ポイント上回っている。「令和」は一般高齢者が 31.8%に対し、要支援者・事業対象者が 12.9%と 18.9 ポイント下回っている。



8. 「たすけあい」について

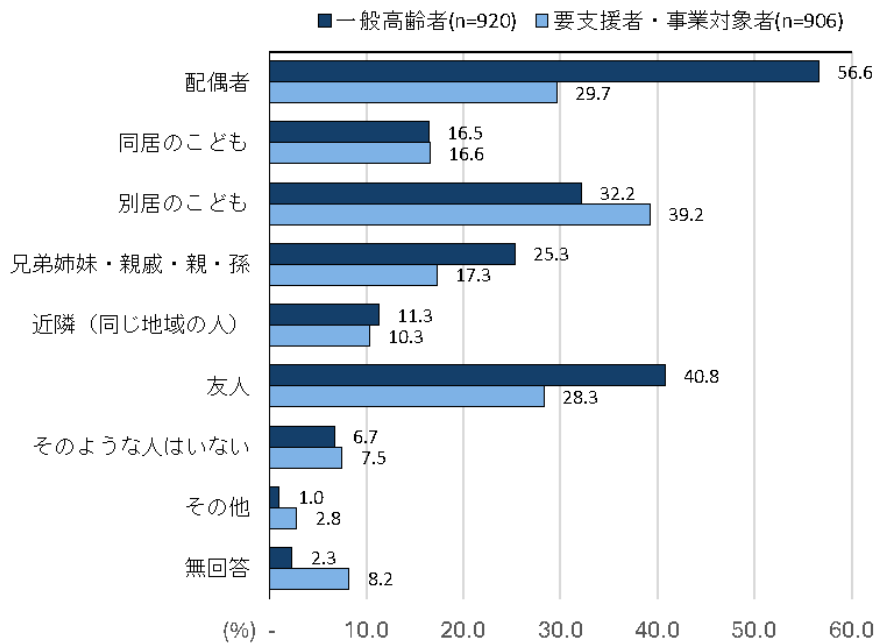
(1) 「たすけあい」の状況

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。以下に挙げる人について、あてはまる欄に○をつけてください。(それぞれ○はいくつでも)

「その他」の場合は具体的にご記入ください。

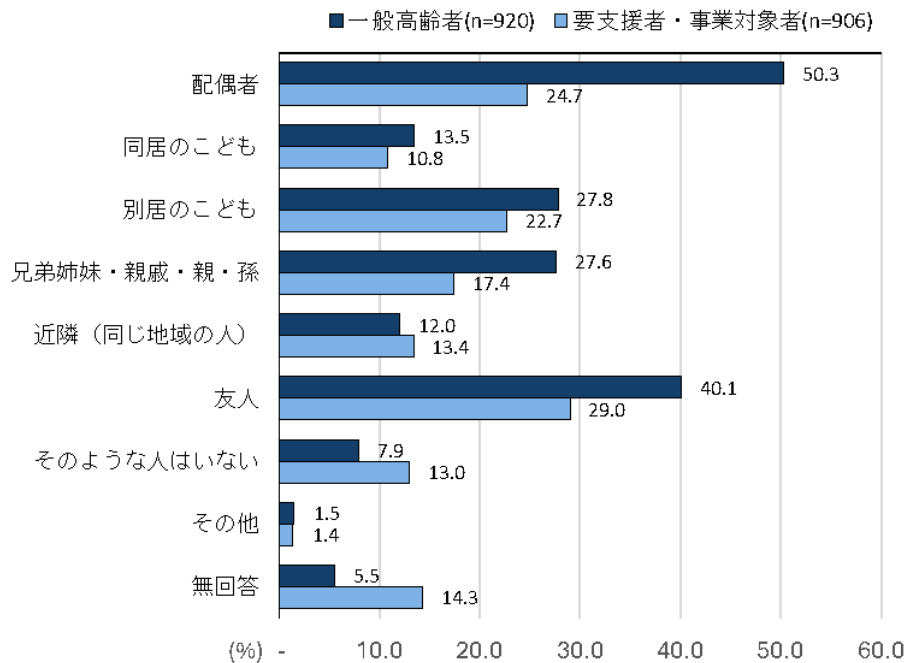
① 心配事や愚痴を聞いてくれる人

一般高齢者では「配偶者」が56.6%と最も高く、次いで「友人」が40.8%である。要支援者・事業対象者では「別居のこども」が39.2%と最も高く、次いで「配偶者」が29.7%である。



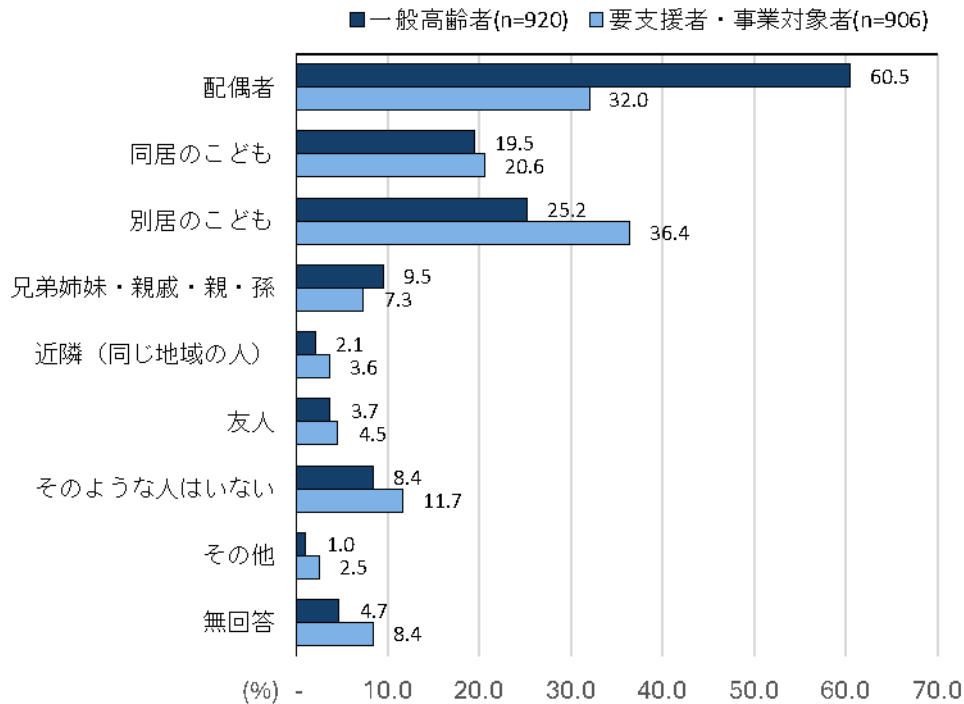
② 心配事や愚痴を聞いてあげる人

一般高齢者では「配偶者」が 50.3%と最も高く、次いで「友人」が 40.1%である。要支援者・事業対象者では「友人」が 29.0%と最も高く、次いで「配偶者」が 24.7%である。



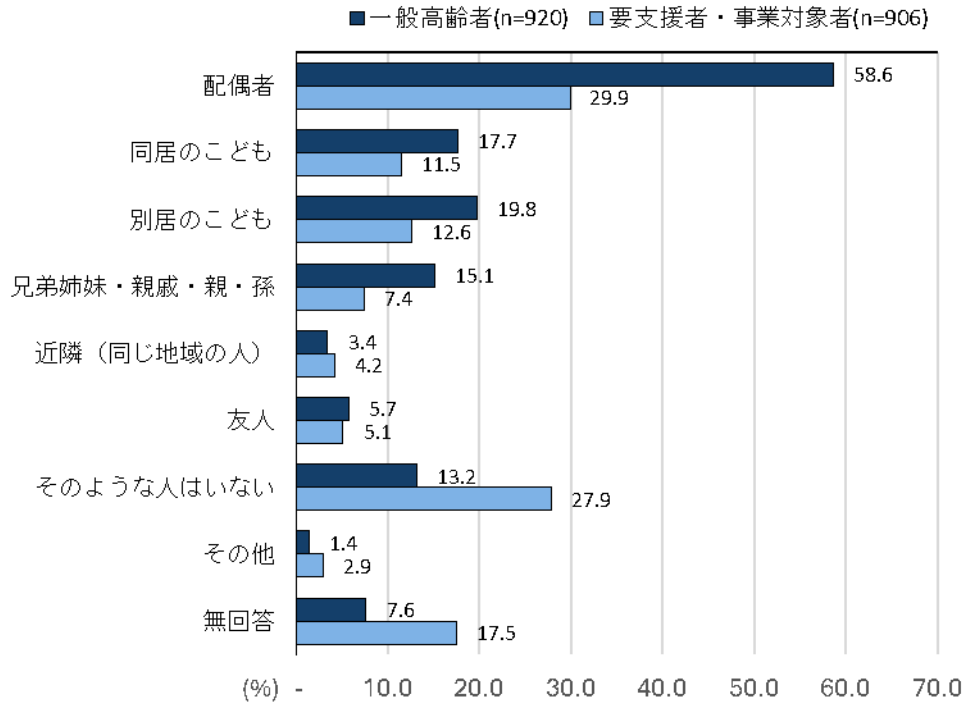
③ 病気で数日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人

一般高齢者では「配偶者」が60.5%と最も高く、次いで「別居のこども」が25.2%である。
要支援者・事業対象者では、「別居のこども」が36.4%と最も高く、次いで「配偶者」が32.0%である。



④ 看病や世話をしあける人

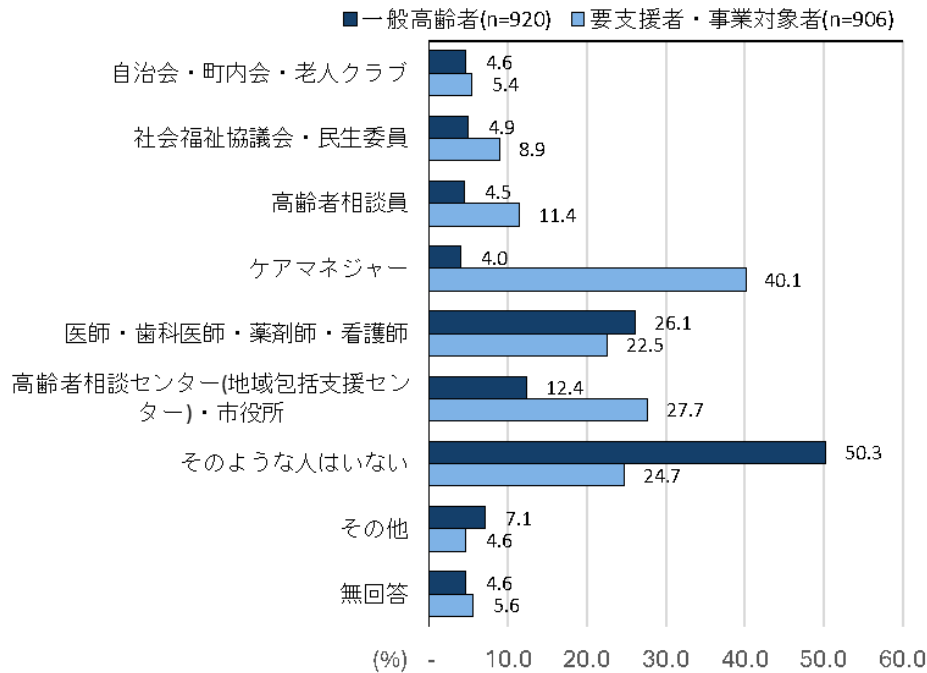
一般高齢者では「配偶者」が58.6%と最も高く、次いで「別居のこども」が19.8%である。
 要支援者・事業対象者では「配偶者」が29.9%と最も高く、次いで「そのような人はいない」が27.9%である。



(2) 相談相手

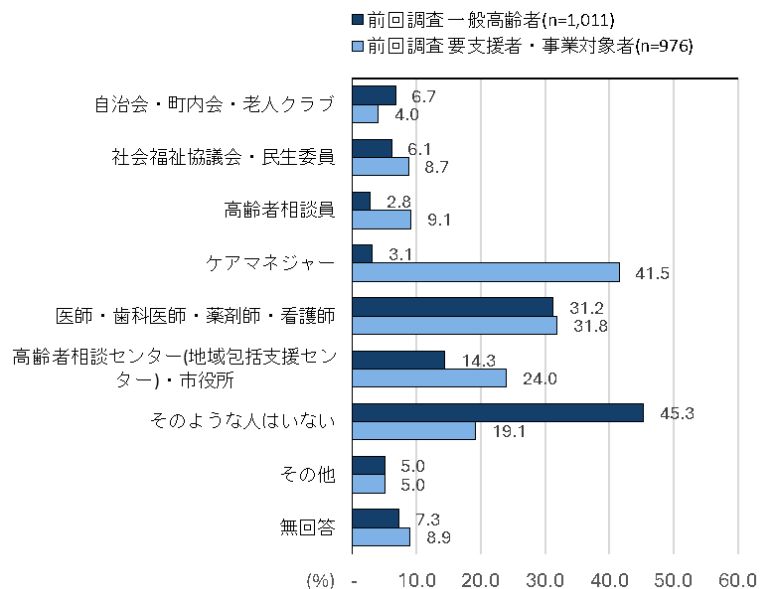
家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(〇はいくつでも)

一般高齢者では「そのような人はいない」が50.3%と最も高い。一方、要支援者・事業対象者では「ケアマネジャー」が40.1%と最も高くなっている。



【前回調査】

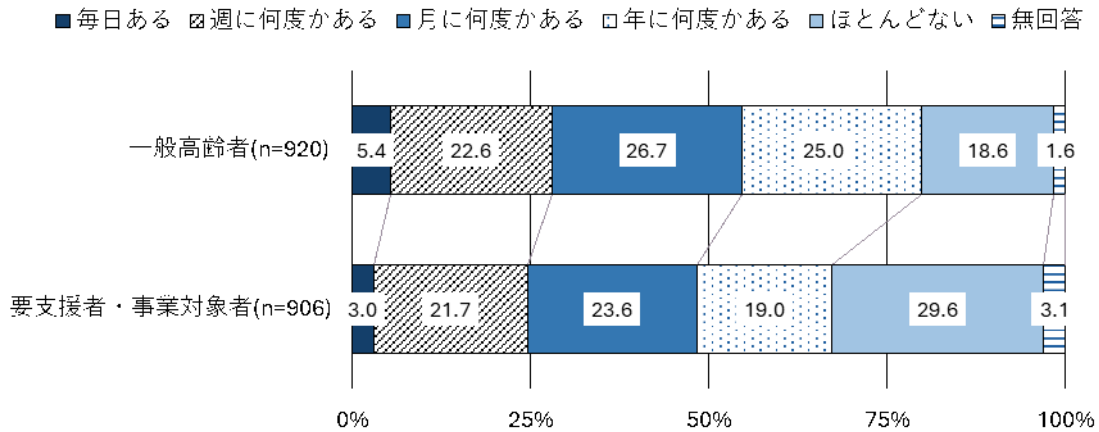
前回調査においても、一般高齢者で「そのような人はいない」が最も高く、要支援者・事業対象者では「ケアマネジャー」が最も高い点で同様の傾向にあるものの、一般高齢者における「そのような人はいない」は前回調査と比較すると5ポイント高くなっている。



(3) 友人・知人との交流状況

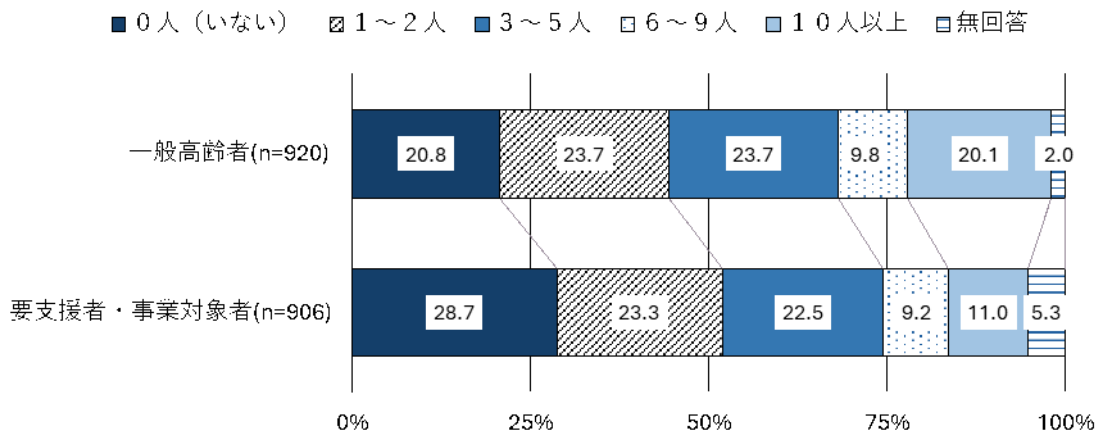
友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

一般高齢者では「月に何度かある」が26.7%と最も高い。一方、要支援者・事業対象者で「ほとんどない」が29.6%となっている。



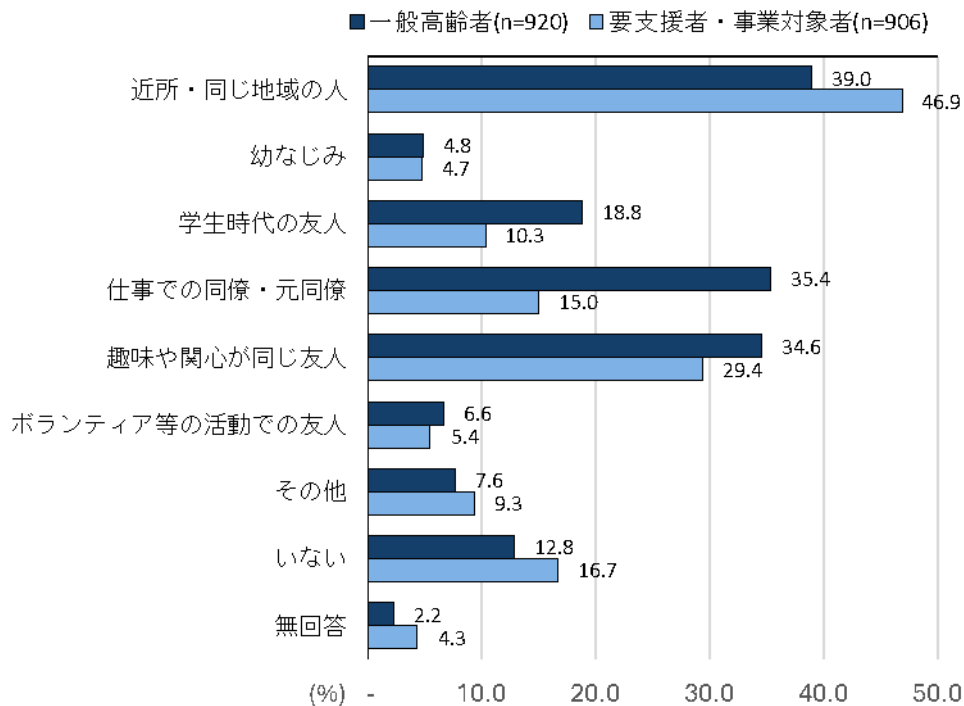
この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。

一般高齢者においては「1～2人」「3～5人」が最も高く、どちらも23.7%であり、要支援者・事業対象者においても同程度の割合である。「0人」の割合が一般高齢者の20.8%に対し要支援者・事業対象者は28.7%と7.9ポイント上回っている。



よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「近所・同じ地域の人」が最も高く、一般高齢者で39.0%、要支援者・事業対象者で46.9%である。一般高齢者においては「仕事の同僚・元同僚」(35.4%)「趣味や関心が同じ友人」(34.6%)も同程度であった。要支援者・事業対象者では「趣味や関心が同じ友人」が29.4%である。「いない」は一般高齢者で12.8%、要支援者・事業対象者で16.9%となっている。



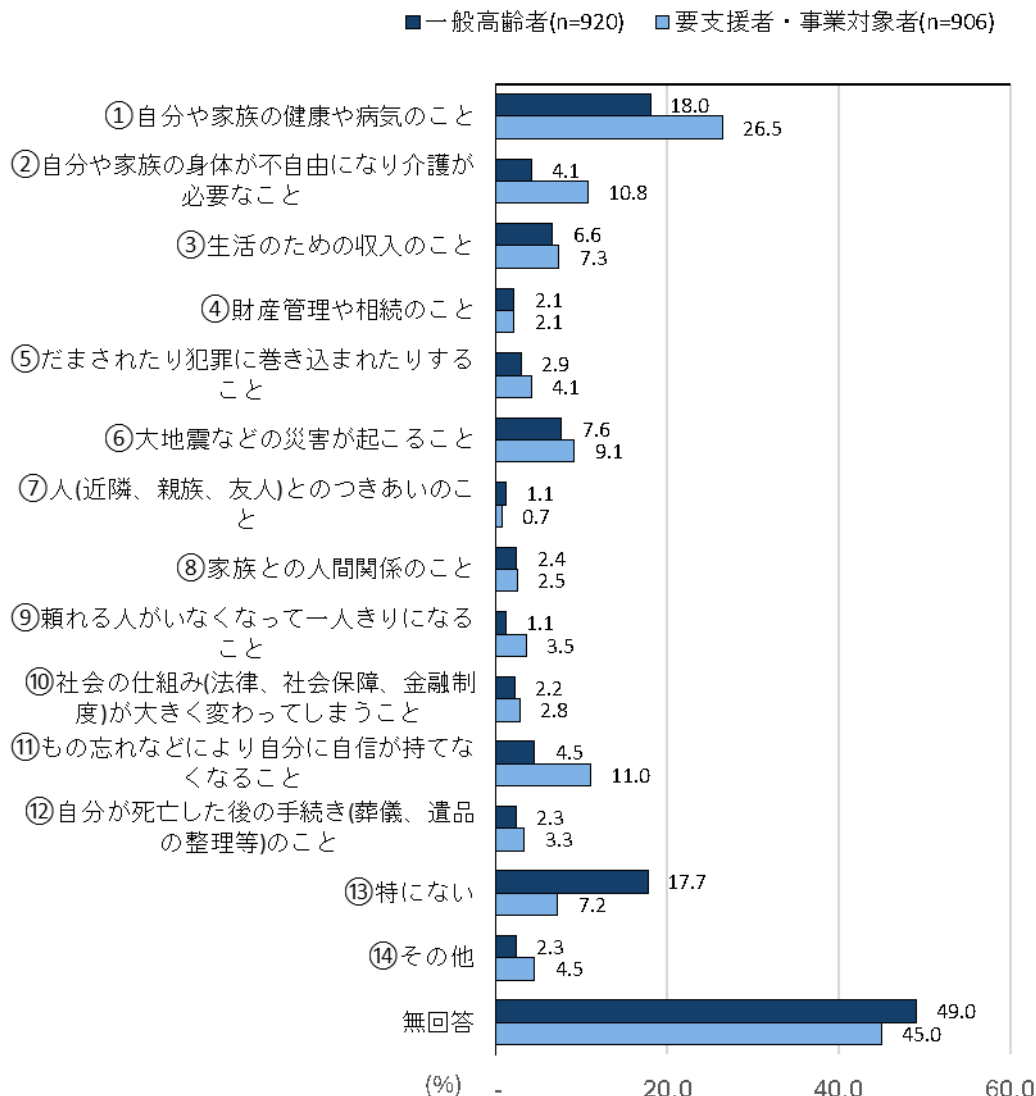
9. 日常生活で困っていることや将来の不安について

(1) 現在困っていることや将来の不安

現在困っていることと、将来についての不安はありますか。(〇はそれぞれ3つまで)

① 現在困っていること

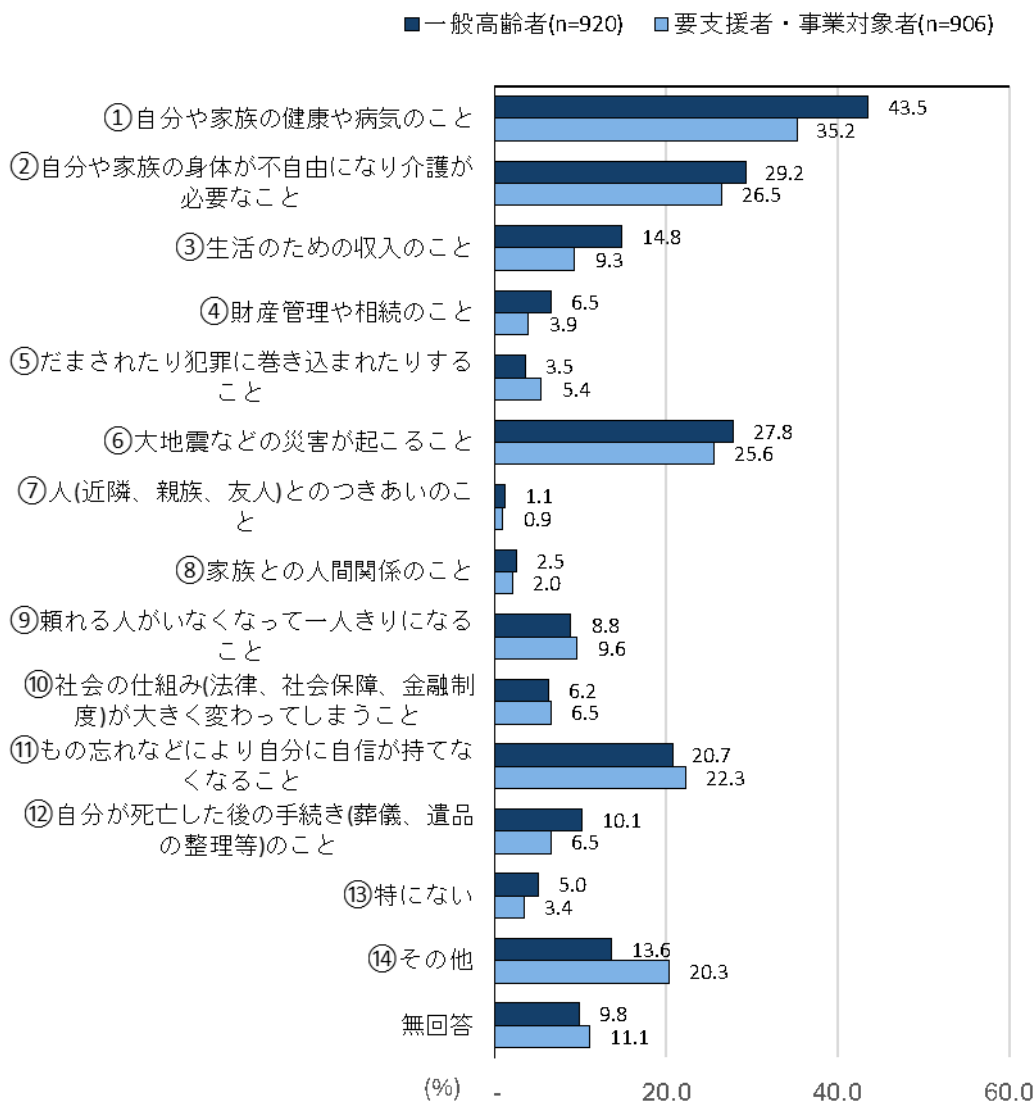
一般高齢者では、「自分の家族や健康のこと」が18.0%と最も高い。次いで「特になし」が17.7%となっている。要支援者・事業対象者では、「自分や家族の健康や病気のこと」が26.5%と最も高く、一般高齢者よりも8.8ポイント上回っている。次いで「物忘れなどにより自分に自信が持てなくなる」が11.0%となっている。



② 将来についての不安

「自分の家族の健康や病気のこと」が一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに最も高く、一般高齢者で43.5%、要支援者・事業対象者で35.2%となっている。

次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」が、一般高齢者で29.2%、要支援者・事業対象者で26.5%となっている。また、「大地震などの災害が起こること」もそれぞれ比較的割合が高くなっている。

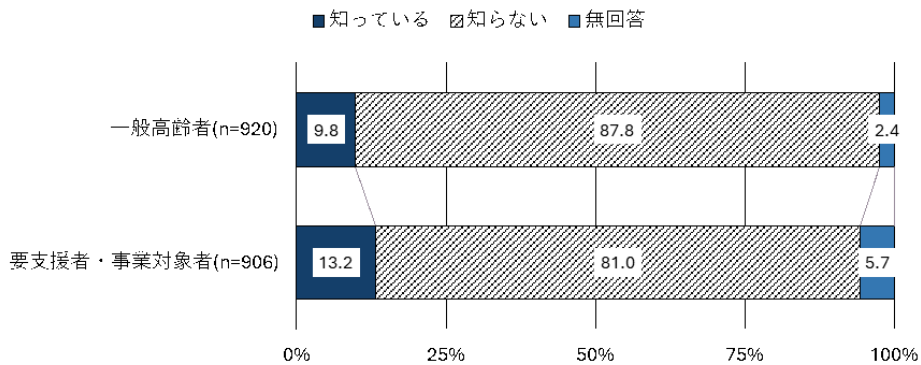


10. 将来への備えについて

(1) 人生会議・ACP の認知度

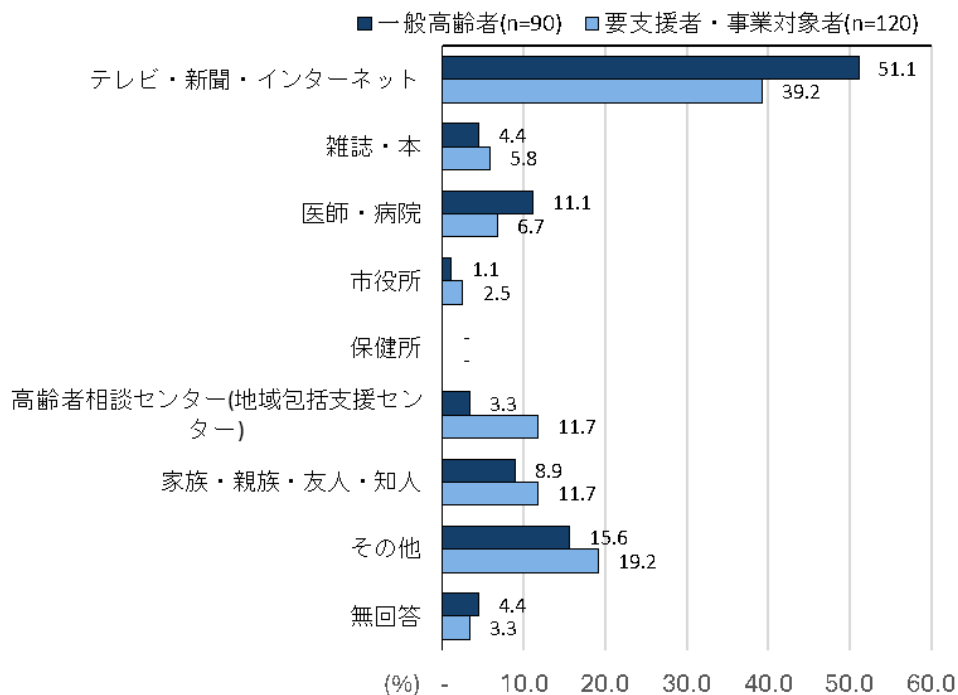
人生会議またはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)という言葉を知っていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「知らない」が8割台となっている。



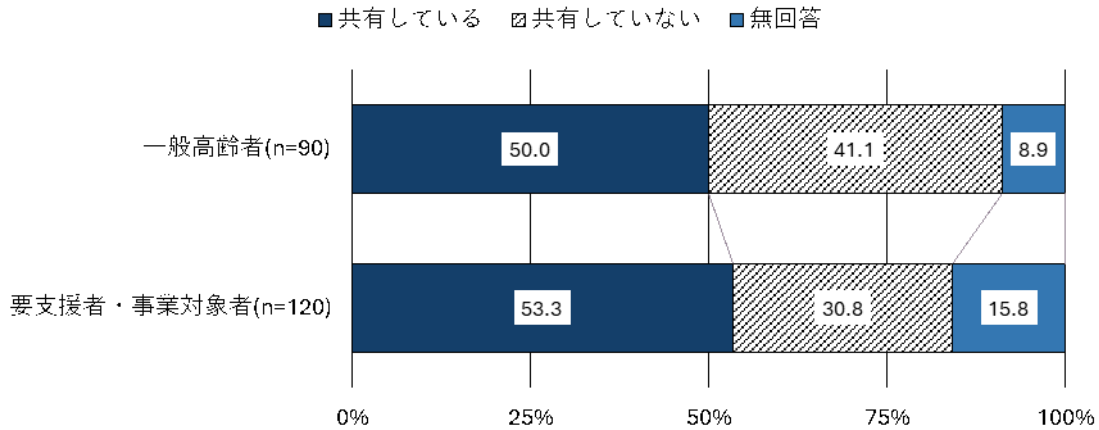
(「知っている」を選択された方) ACP という言葉をどこで知りましたか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「テレビ・新聞・インターネット」が最も高く、一般高齢者で51.1%、要支援者・事業対象者で39.2%となっている。次いで、一般高齢者では「医師・病院」が11.1%、要支援者・事業対象者では「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」、「家族・親族・友人・知人」がそれぞれ11.7%となっている。



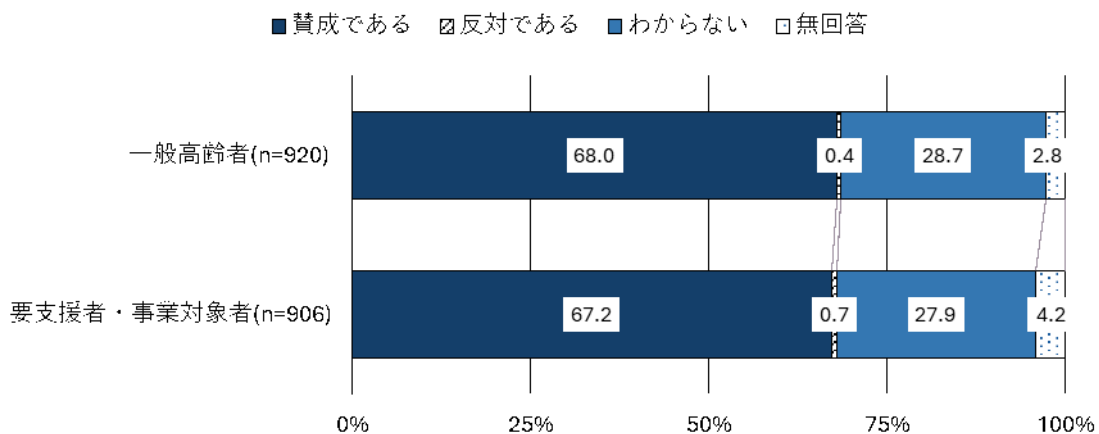
(「知っている」を選択された方)実際に家族や信頼する人たちと自分の考えを話し合ったり、共有していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「共有している」が半数以上となっている。一般高齢者の「共有していない」は41.1%で要支援者・事業対象者の30.8%を10.3ポイント上回っている。



人生の最終段階の医療・療養について、あなたの意思に沿った医療・療養を受けるためには、家族等や医療・ケアチームとあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことが重要といわれています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「賛成である」が7割弱、「反対である」は1%未満、「わからない」が3割弱となっている。



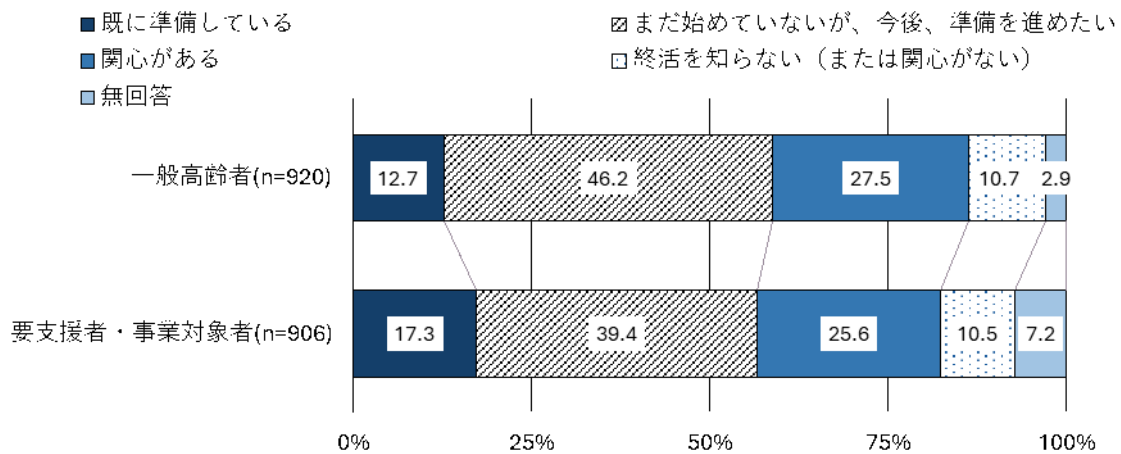
(2) 終活の準備状況

終活についておうかがいします。あなたは、終活に向けて何か準備していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「まだ始めていないが、今後準備を進めたい」が最も高く、一般高齢者で46.2%、要支援者・事業対象者で39.4%となっている。

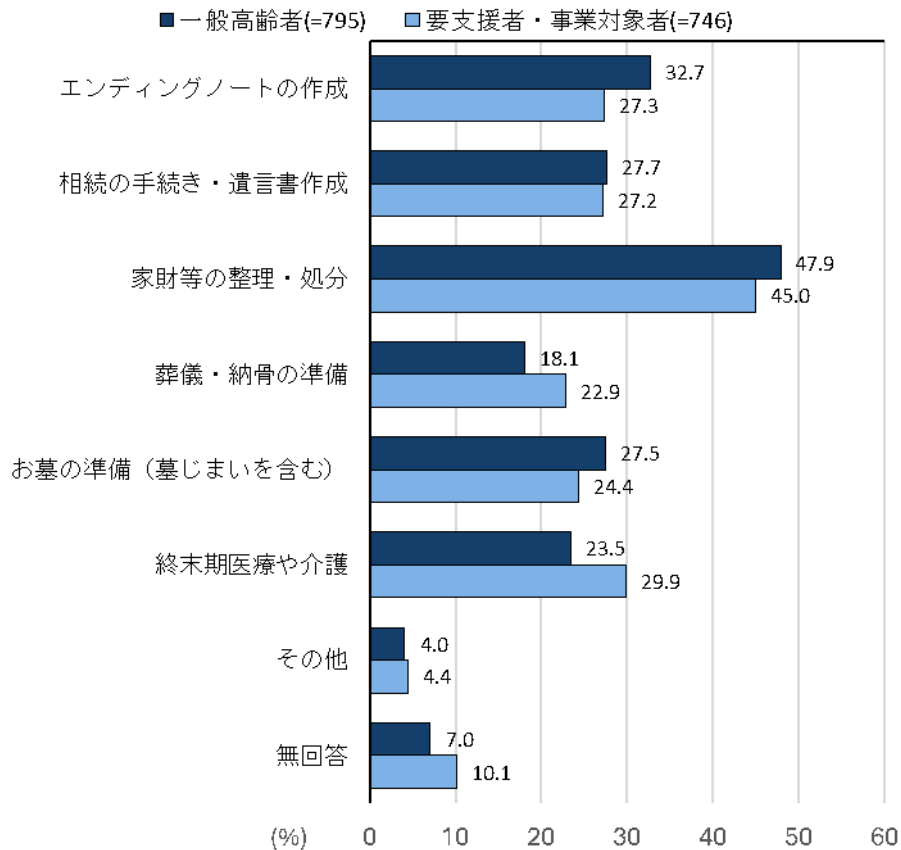
「既に準備している」が一般高齢者の12.7%に対し、要支援者・事業対象者で17.3%と4.6ポイント上回っている。

「既に準備している」「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」「関心がある」を合わせると、一般高齢者で86.4%、要支援者・事業対象者で82.3%とそれぞれ同程度が「関心あり」となっている。



(「既に準備している」「今後準備する」「関心がある」を選択された方)終活のために準備している(または準備を進めたい)ことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「家財等の整理・処分」が最も高く、一般高齢者で47.9%、要支援者・事業対象者で45.0%となっている。次いで、一般高齢者では「エンディングノートの作成」が32.7%、要支援者・事業対象者で「終末期医療や介護」が29.9%となっている。

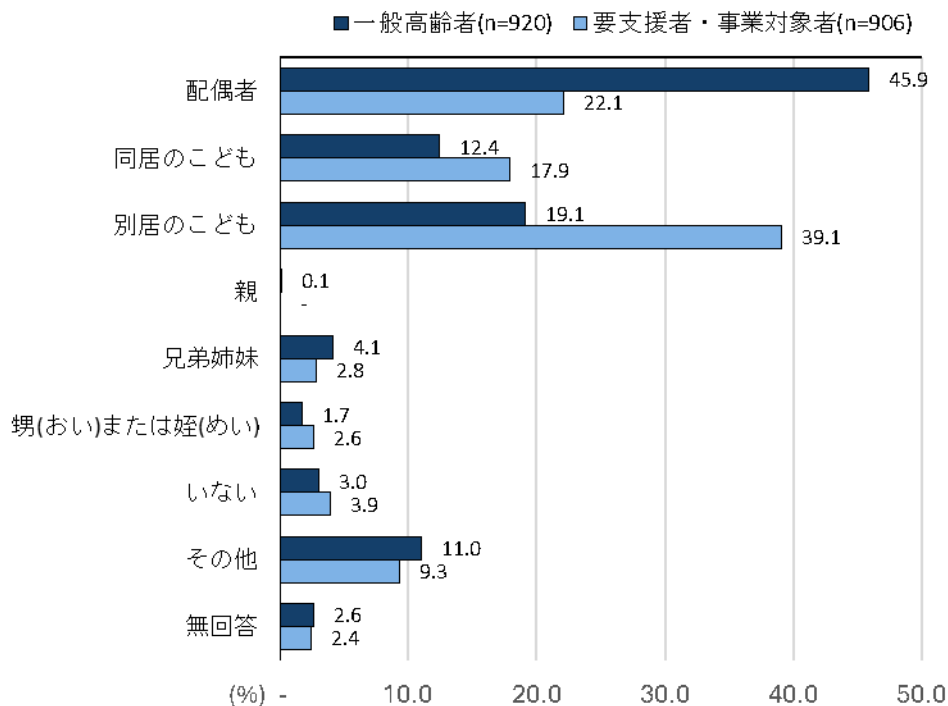


(3) 緊急事態が起きた時について

あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)のことについておうかがいします。

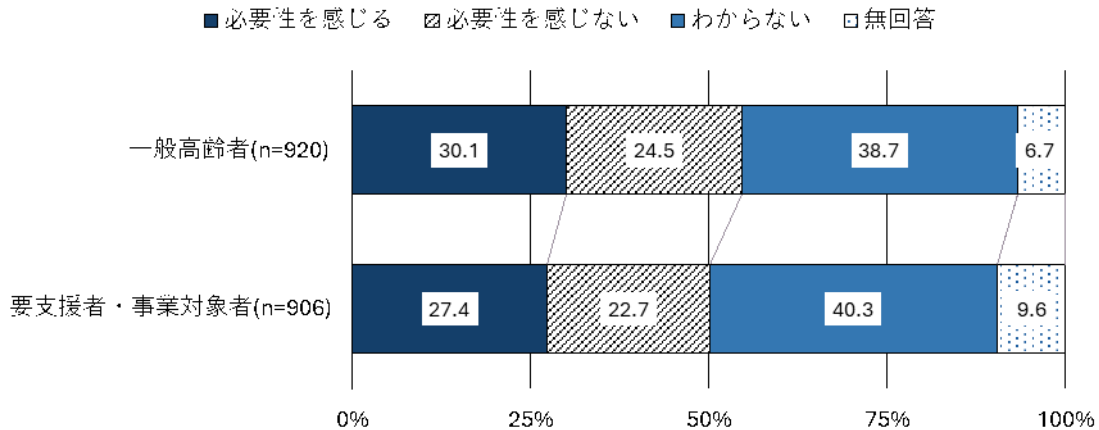
治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいませんか。いる場合は、主にどなたですか。(〇は1つ)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「配偶者」と「別居のこども」が高いが、両者で順位が逆転しており、一般高齢者では「配偶者」が45.9%と最も高く、要支援者・事業対象者では「別居のこども」が39.1%と最も高くなっている。



親族以外が身元保証等を行ってくれる制度は必要であると思いますか。

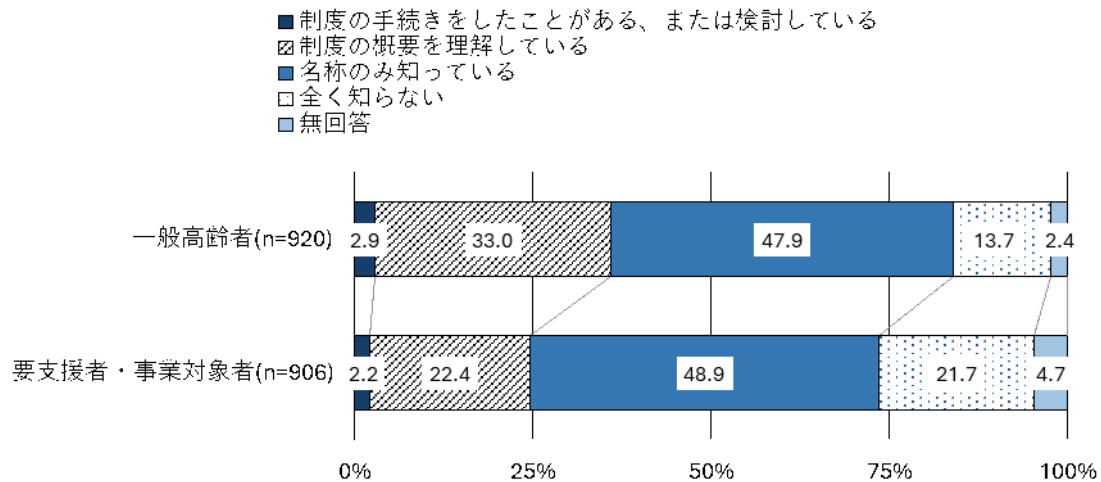
一般高齢者・要支援者・事業対象者ともに「わからない」が最も高く、一般高齢者で 38.7%、要支援者・事業対象者で 40.3%となっている。各選択肢の割合に両者で大きな差は見られない。



(4) 成年後見制度の認知度

あなたは「成年後見制度」について、どの程度ご存知ですか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「名称のみ知っている」が最も高く、一般高齢者で 47.9%、要支援者・事業対象者で 48.9%となっている。「制度の概要を理解している」は一般高齢者 33.0%に対し、要支援者・事業対象者では 22.4%と、一般高齢者が 10.6 ポイント上回っている。

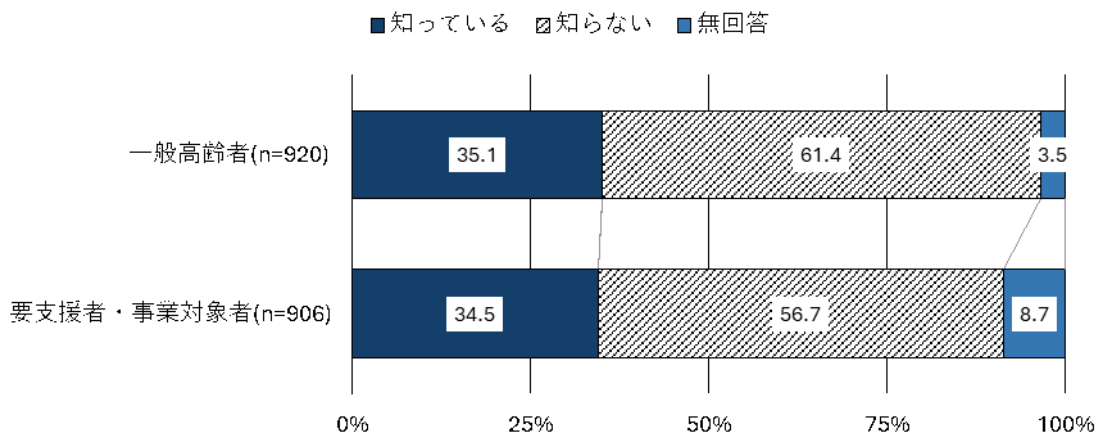


11. 認知症について

(1) 「新しい認知症観」の認知度

令和6年1月に認知症基本法が策定され、その中の考え方として「新しい認知症観」の普及を推進しています。「新しい認知症観」を知っていますか。

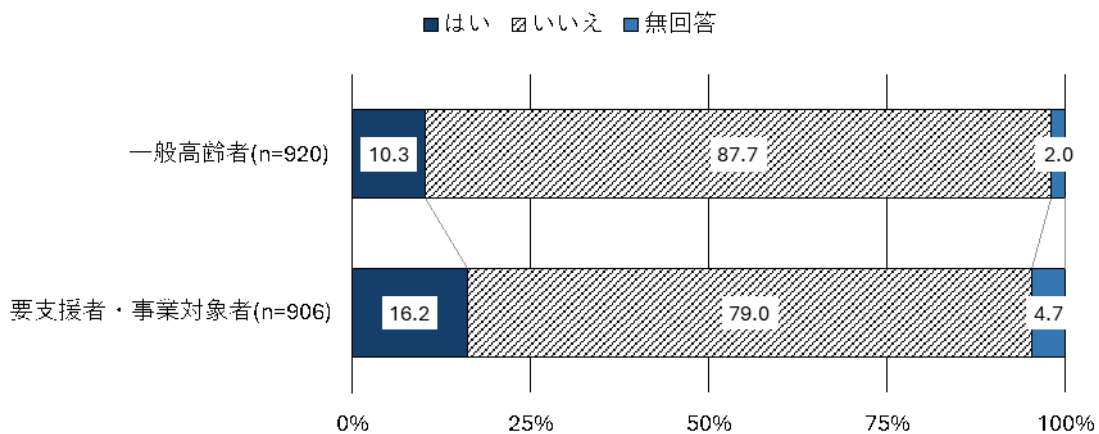
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「知らない」が最も高く、一般高齢者で61.4%、要支援者・事業対象者で56.7%となっている。各選択肢の割合に両者で大きな差は見られない。



(2) 認知症の症状の有無

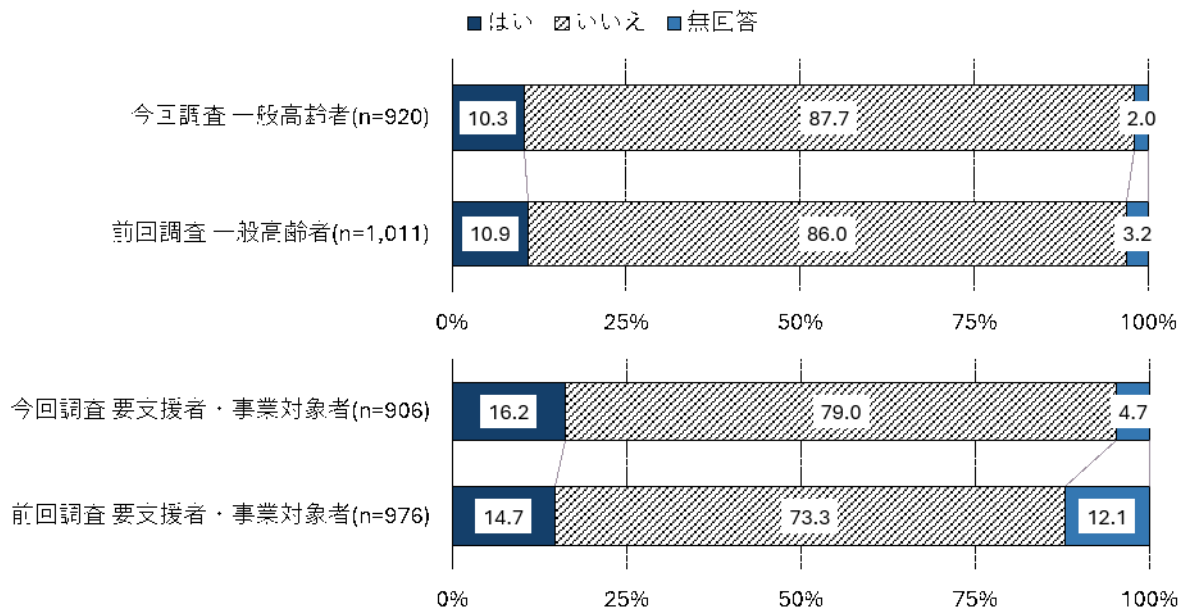
認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。

「はい」は要支援者・事業対象者が16.2%で、一般高齢者の10.3%を5.9ポイント上回っている。



【経年比較】

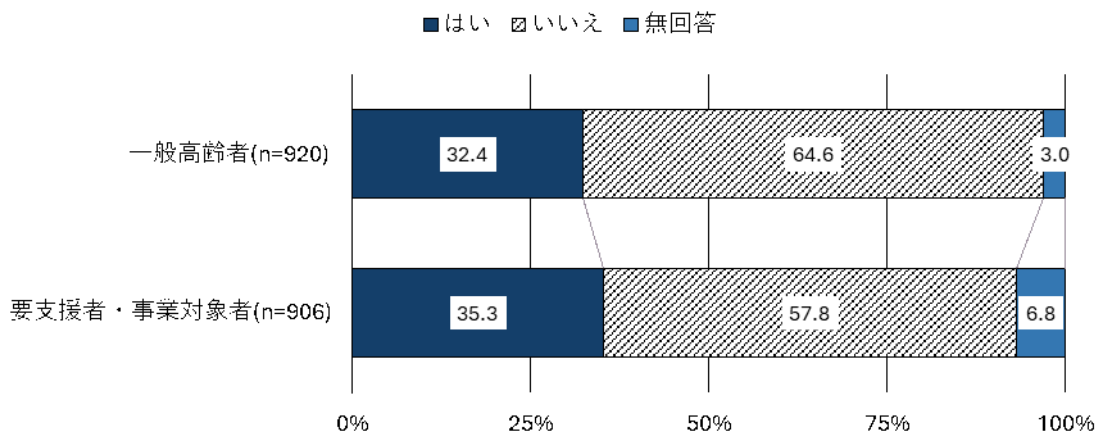
前回調査と比較しても、概ね同程度の結果となっている。



(3) 認知症に関する相談窓口の認知度

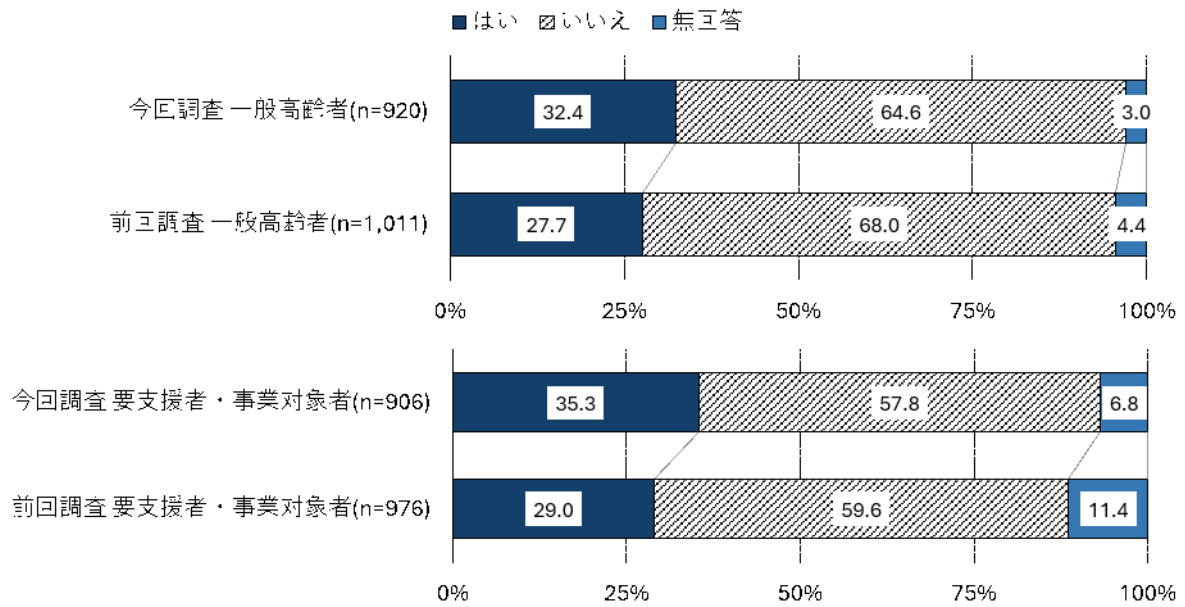
認知症に関する相談窓口を知っていますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「いいえ」が最も高く、一般高齢者で 64.6%、要支援者・事業対象者で 57.8%となっており、一般高齢者が 6.8 ポイント上回っている。



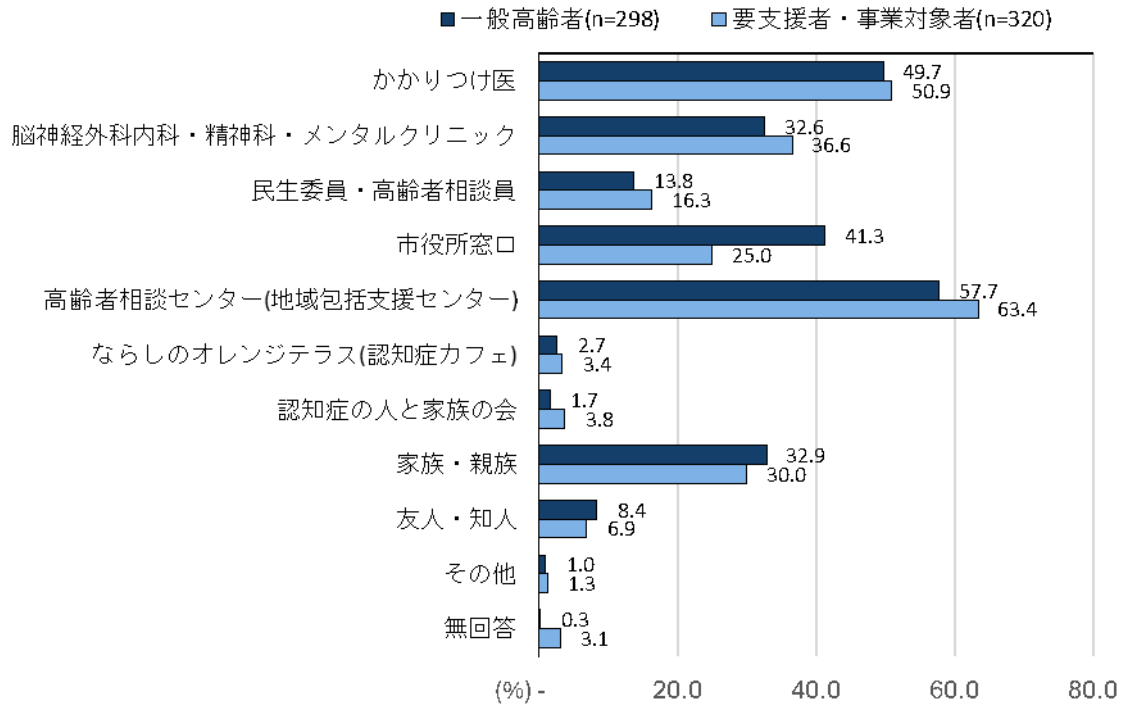
【経年比較】

前回調査と比較すると、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに相談窓口を認知している割合がやや上昇している。



(「認知症相談窓口を知っている」と答えた方)どこに相談すると思いますか、または相談しましたか。
(〇はいくつでも)

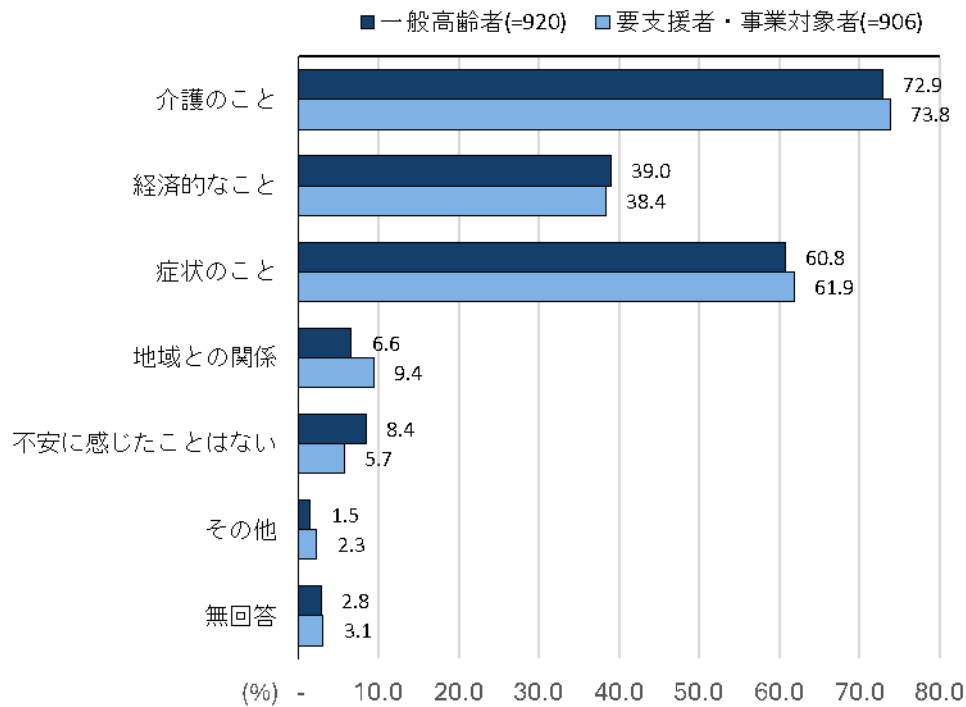
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」が最も高く、一般高齢者で 57.7%、要支援者・事業対象者で 63.4%となっている。次いで、「かかりつけ医」が一般高齢者で 49.7%、要支援者・事業対象者で 50.9%となっている。



(4) 自分や家族が認知症になった場合について

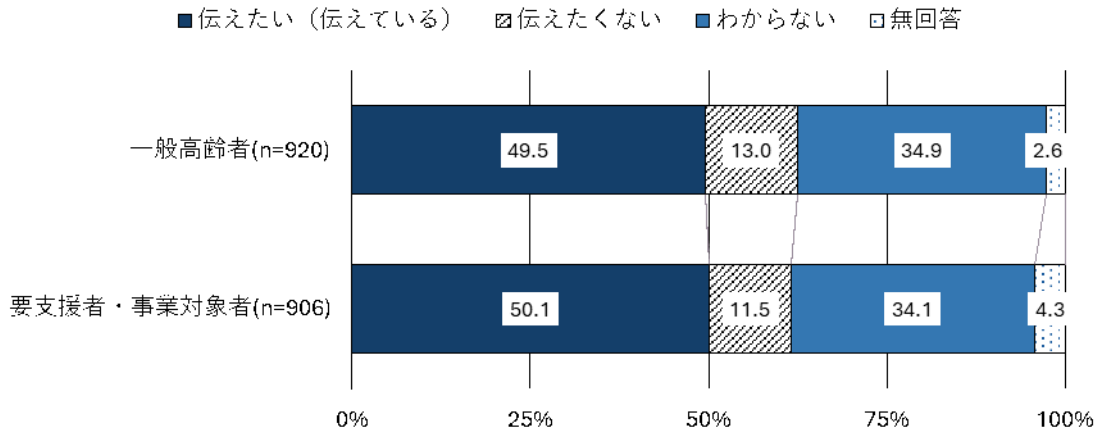
自分自身が認知症になったときにどうしたらいいのか、不安に感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「介護のこと」が最も高く、一般高齢者で 72.9%、要支援者・事業対象者で 73.8%、次いで「症状のこと」は一般高齢者で 60.8%、要支援者・事業対象者で 61.9%となっている。各選択肢の割合に両者で大きな差は見られない。



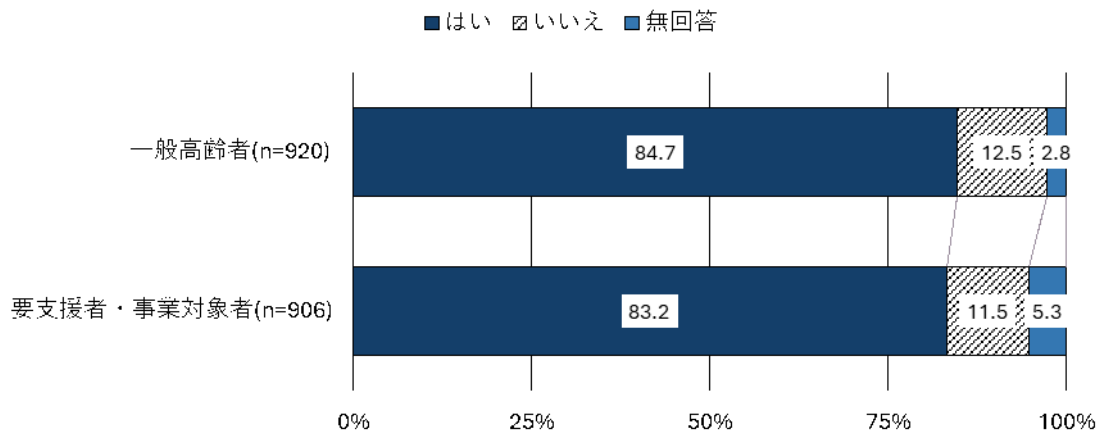
自分や家族が認知症になった場合、周囲に認知症であることを伝えたいと思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「伝えたい(伝えている)」が最も高く、一般高齢者で49.5%、要支援者・事業対象者で50.1%となっている。各選択肢の割合に大きな差はみられない。



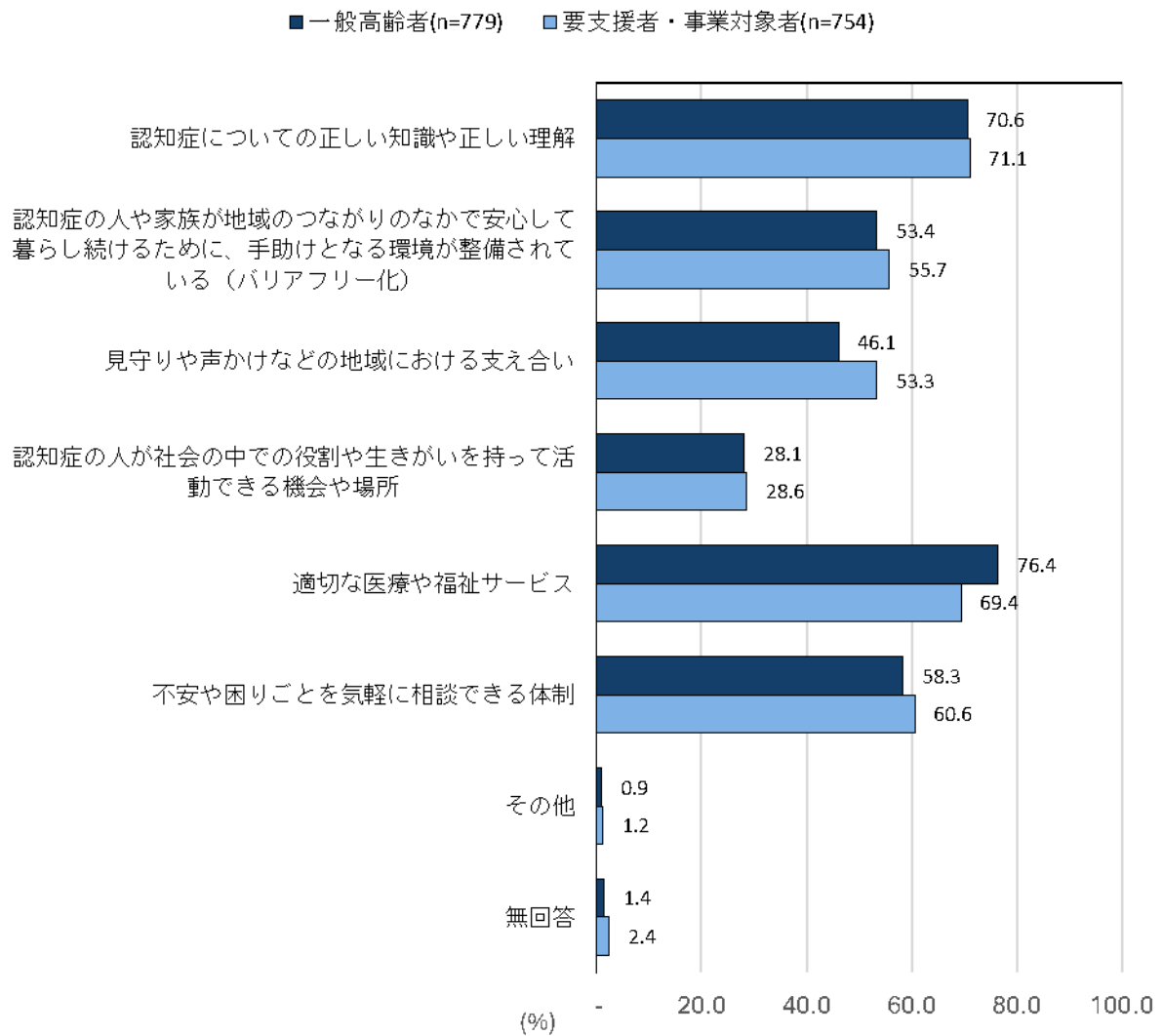
認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに、「はい」が最も高く、両者8割以上となった。各選択肢の割合に大きな差はみられない。



(暮らし続けたいと答えた方)認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる地域を作っていくために必要であると思うことは何ですか。
(〇はいくつでも)

一般高齢者では「適切な医療や福祉サービス」が76.4%と最も高く、次いで「認知症についての正しい知識や正しい理解」が70.6%となっている。要支援者・事業対象者では、「認知症についての正しい知識や理解」が71.1%と最も高く、次いで「適切な医療やサービス」が69.4%となっている。

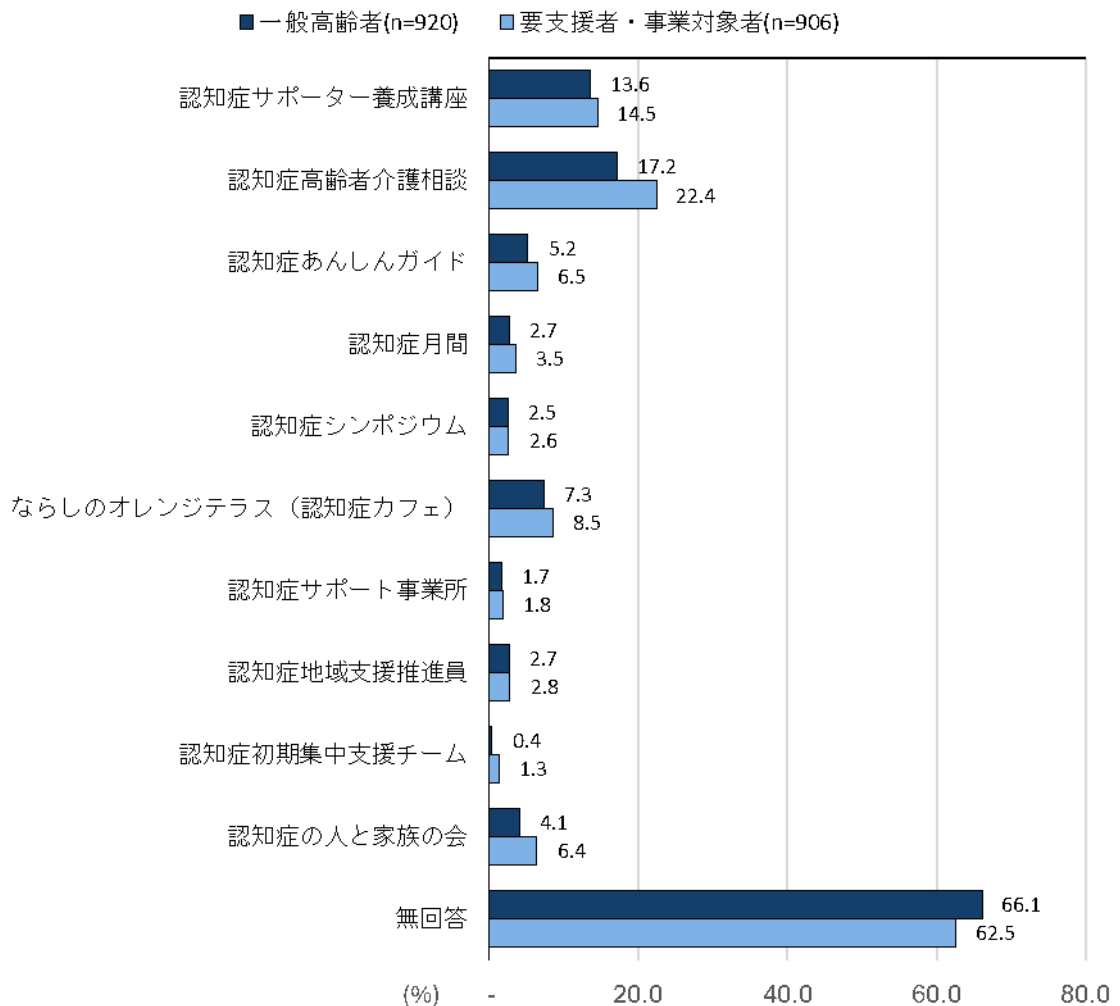


(5) 市の認知症施策の認知度

市が取り組んでいる認知症施策等で知っているものはありますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「認知症高齢者介護相談」が最も高く、一般高齢者が17.2%、要支援者・事業対象者が22.4%となっている。次いで、「認知症サポーター養成講座」が一般高齢者で13.6%、要支援者・事業対象者で14.5%となっている。

なお、本設問では「知っているものはない」の選択肢が設けられていないため、「無回答」が多くなっている可能性がある。全体のうち、知っている認知症施策がある人の割合は一般高齢者で312人(33.9%)、要支援者・事業対象者で340人(37.5%)となっており、それぞれ3割台にとどまっている。

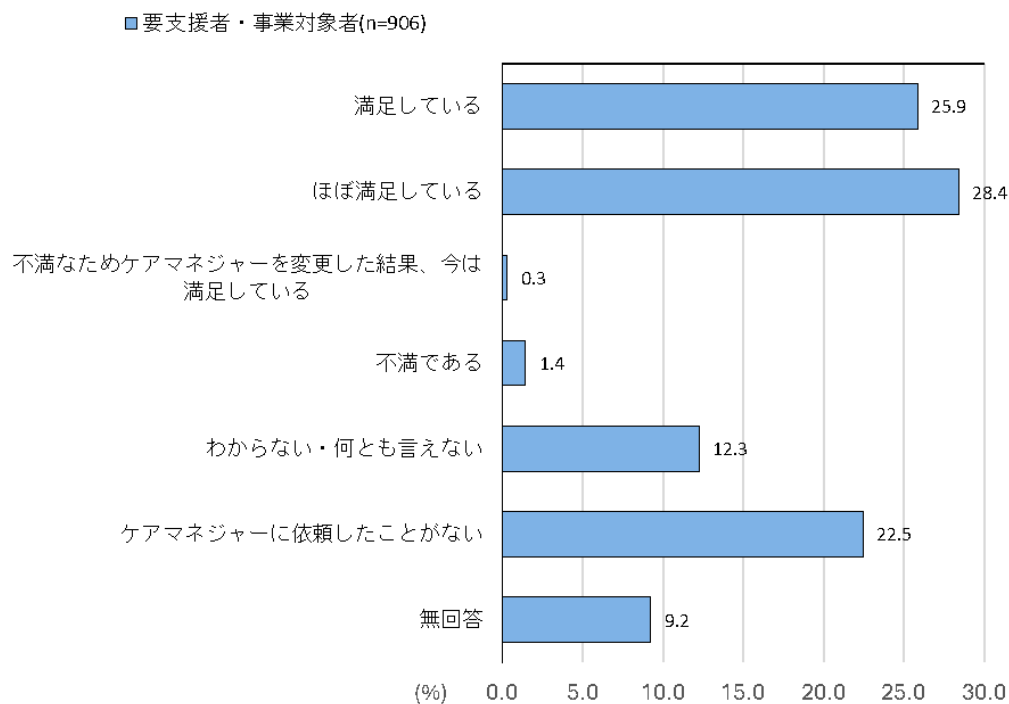


12. 介護保険の利用について

(1) ケアマネジャーに対する満足度

ケアマネジャーの対応に満足していますか。

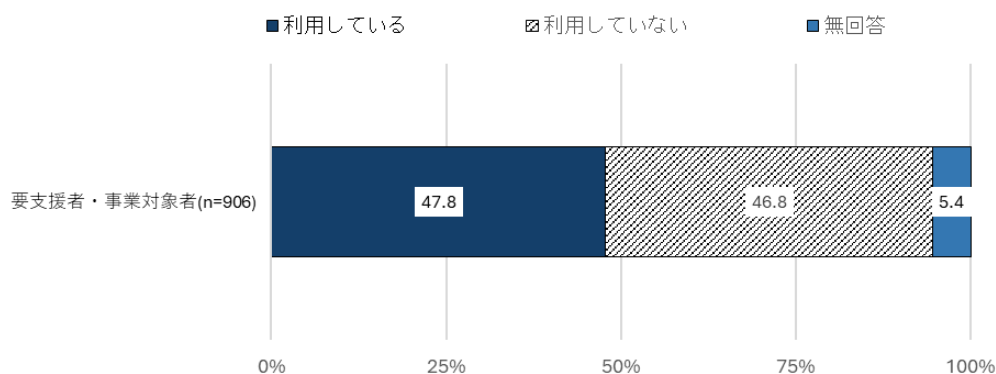
「満足している」「ほぼ満足している」「不満のためケアマネジャーを変更した結果、今は満足している」が合わせて 54.3%と半数以上が現状の対応に満足している。「不満である」は 1.4%となっている。



(2) 介護保険サービスの利用状況

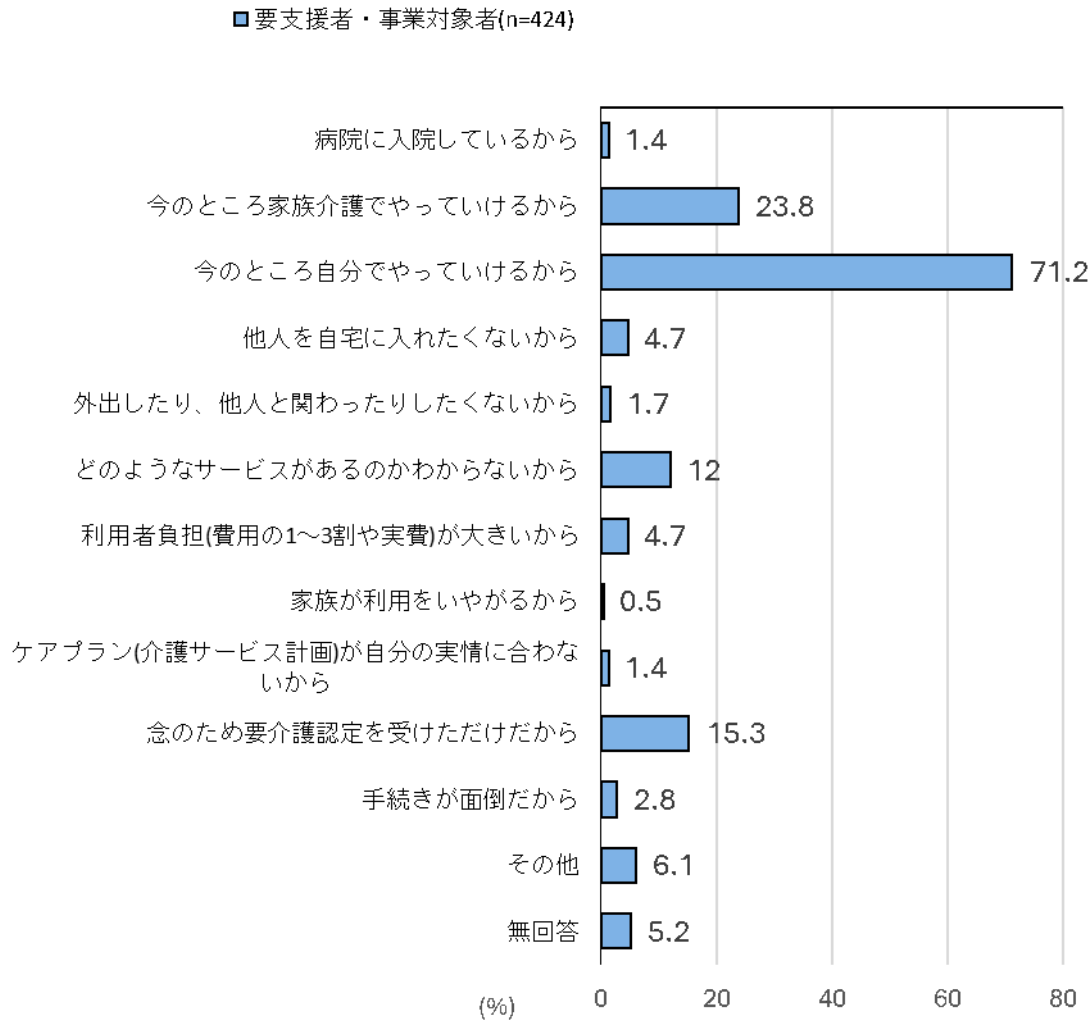
あなたは、この1か月に介護保険のサービスを利用しましたか。

「利用している」が 47.8%、「利用していない」が 46.8%となっている。



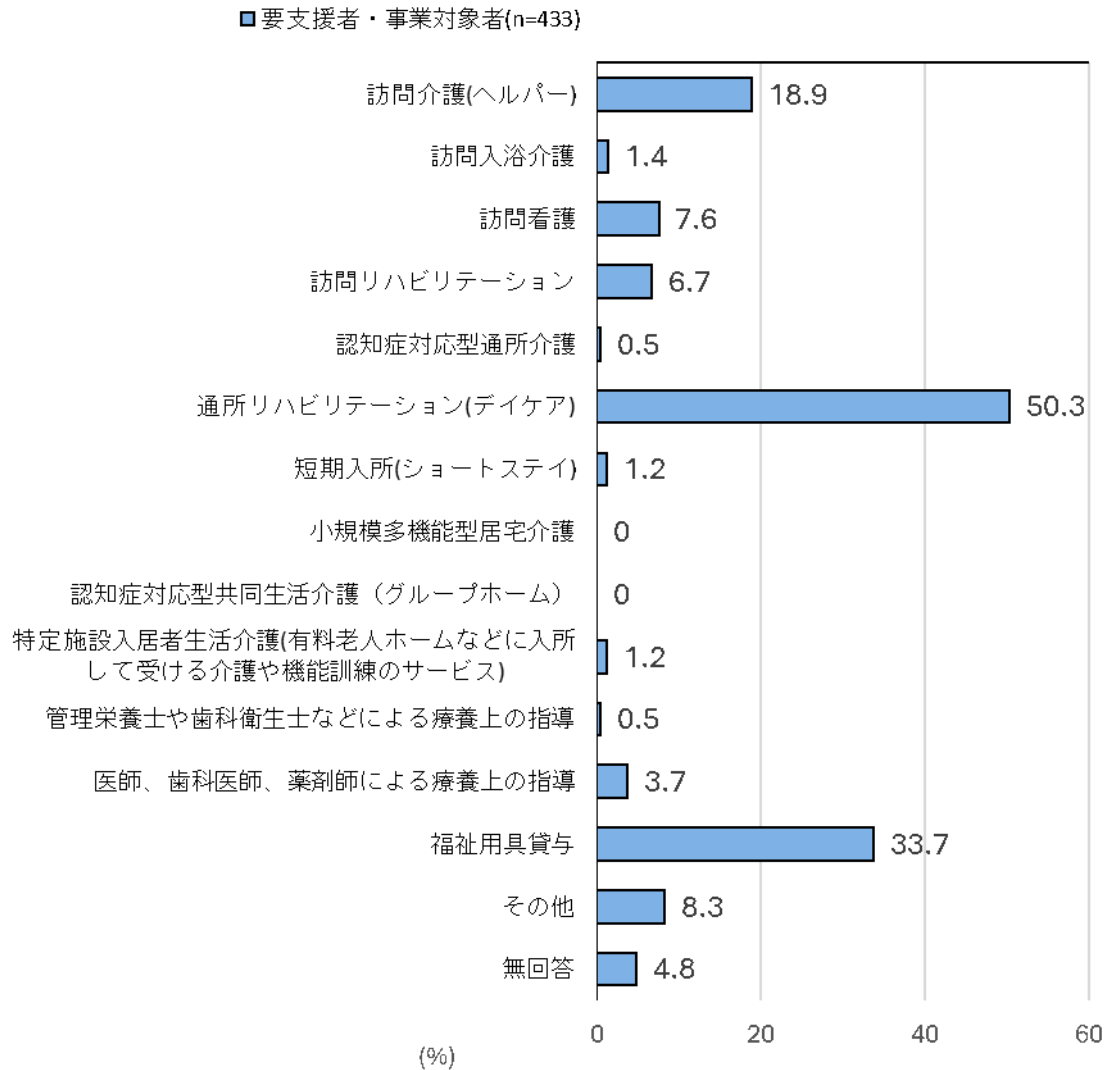
(利用していない人)利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「今のところ自分でやっていけるから」が71.2%と最も高く、次いで「今のところ家族介護でやっていけるから」が23.8%となっている。



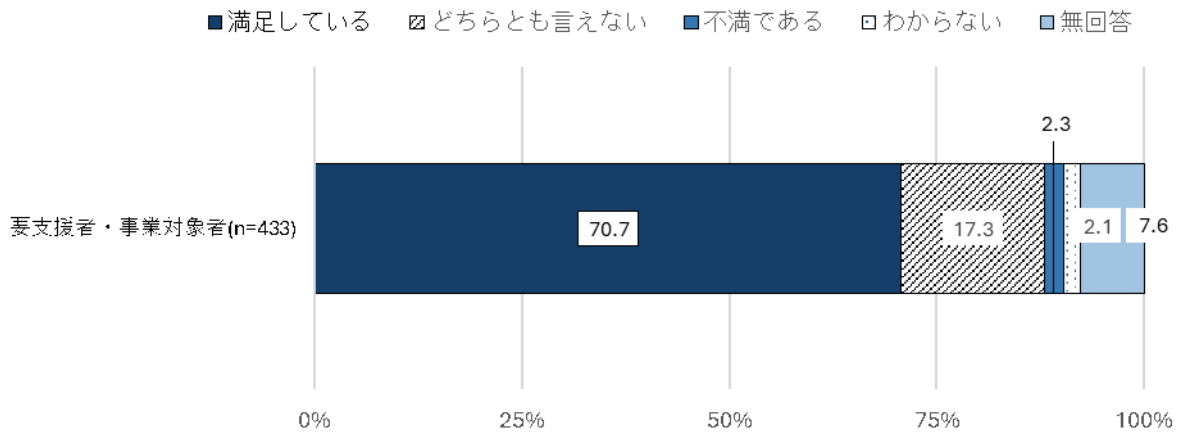
(利用している人)以下のサービスを利用していますか。(〇はいくつでも)

「通所リハビリテーション(デイケア)」が 50.3%と最も高く、次いで「福祉用具貸与」が 33.7%、「訪問介護(ヘルパー)」が 18.9%となっている。



(利用している人)利用しているサービスに満足していますか。

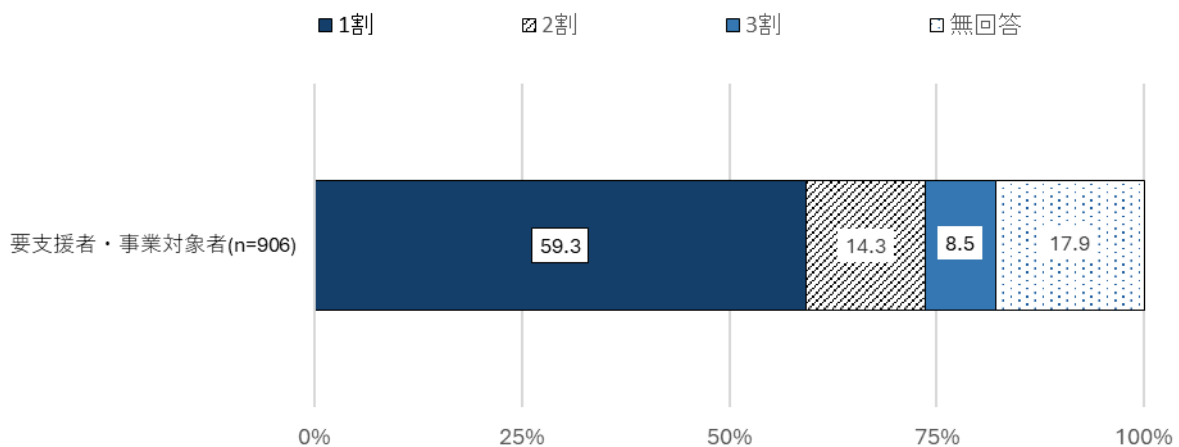
「満足している」が70.7%と最も高く、「どちらとも言えない」が17.3%、「不満である」が2.3%となっている。



(3) 介護サービスの自己負担割合と負担感

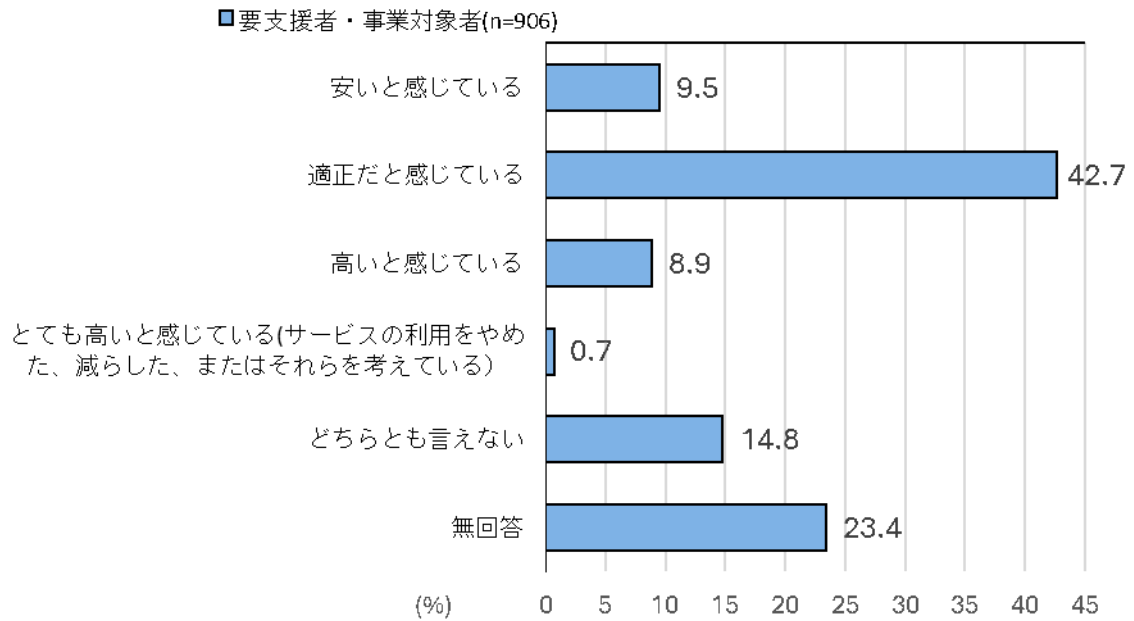
あなたの自己負担割合をお答えください。

「1割」が59.3%と最も高く、「2割」が14.3%、「3割」が8.5%となっている。



お答えいただいた費用(自己負担分)について、どのように感じていますか。

「適正だと感じている」が42.7%と最も高い。「安いと感じている」「高いと感じている」は同程度となっている。



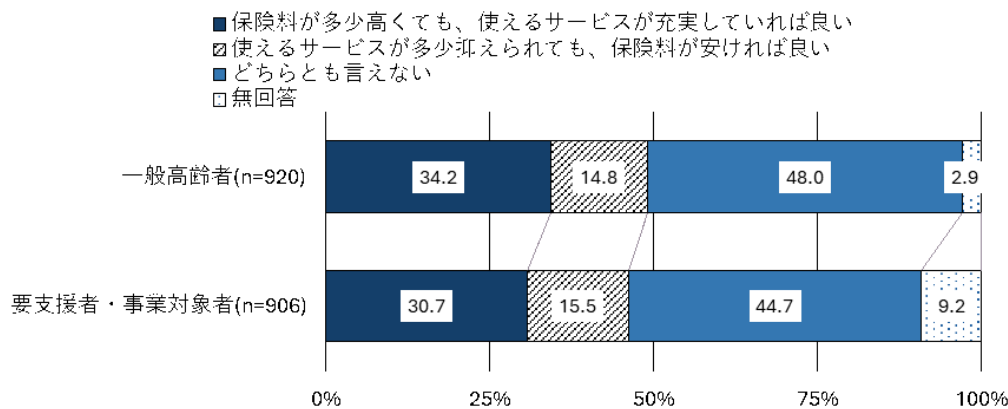
13. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について

介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用にあてていますが、保険料と介護サービスのあり方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

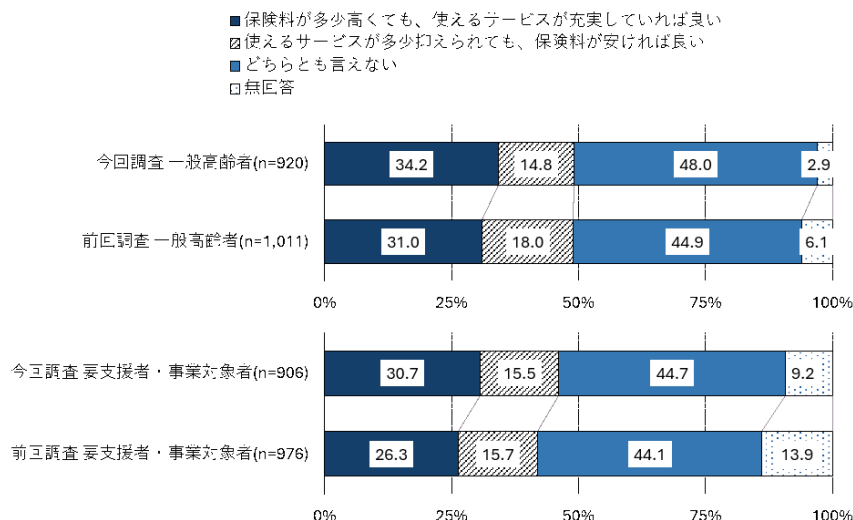
一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「どちらとも言えない」が最も高く、一般高齢者で48.0%、要支援者・事業対象者で44.7%と、いずれも半数近くを占めている。

次いで、「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が一般高齢者で34.2%、要支援者・事業対象者で30.7%、「使えるサービスが多少抑えられても、保険料が安ければ良い」がそれぞれ15%前後となっている。



【経年比較】

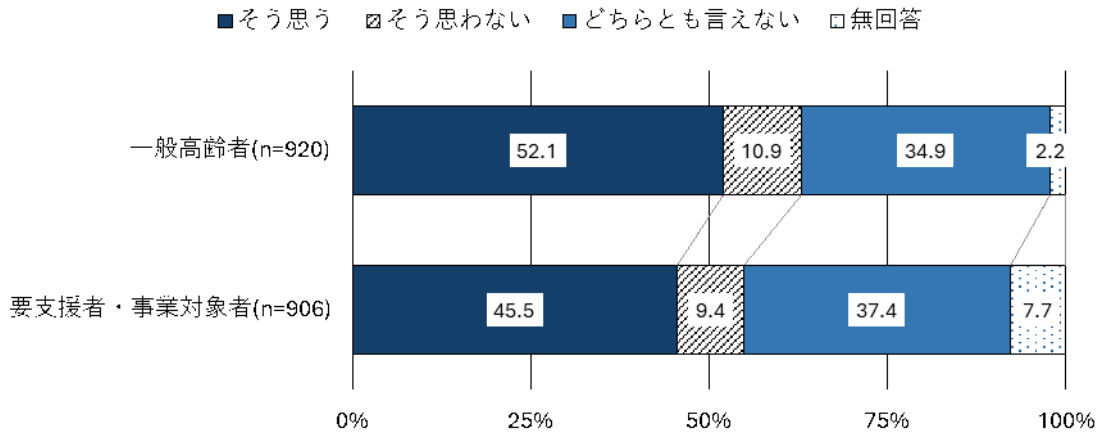
前回調査と比較すると、大きな差はないものの、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに保険料が高くてもサービス充実を重視する割合がわずかに上昇し、サービス抑制でも保険料の低さを重視する割合がわずかに下がっている。



第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

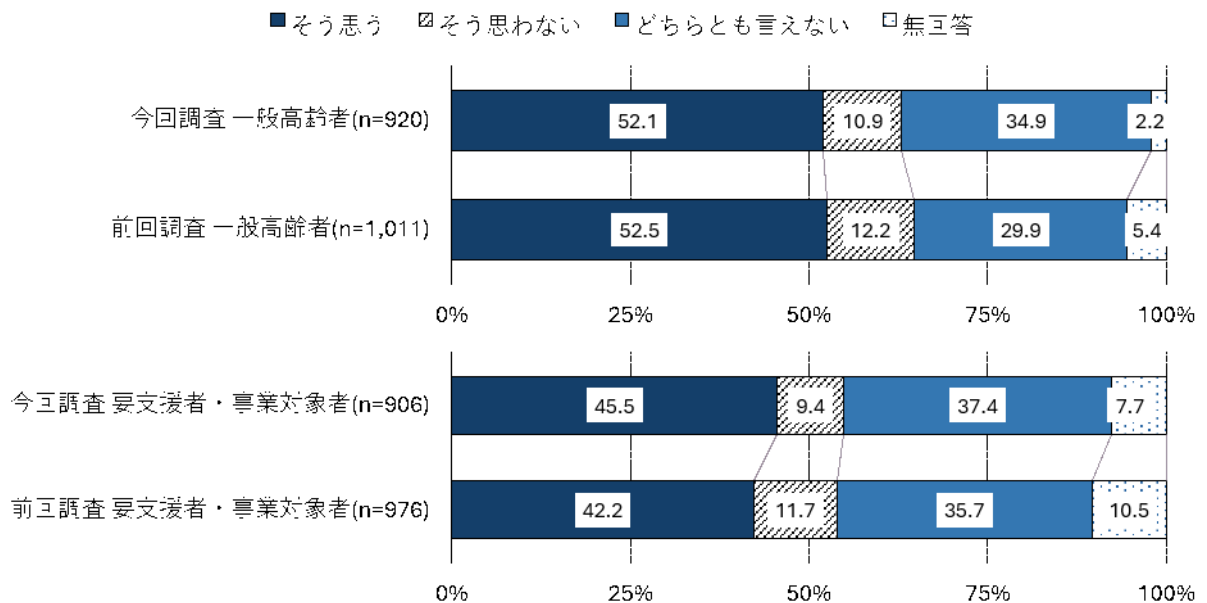
65歳以上の方の保険料に関して「低所得者に配慮するために、高所得者の負担を多少増やすのもやむを得ない」ということについて、あなたはどのようにお考えですか。

一般高齢者・要支援者・事業対象者ともに「そう思う」が最も高く、一般高齢者で52.1%、要支援者・事業対象者で45.5%となっており、一般高齢者が6.6ポイント上回っている。「そう思わない」は両者1割程度、「どちらとも言えない」は両者3割台となっている。



【経年比較】

前回調査と比較しても、概ね同程度の結果となっている。

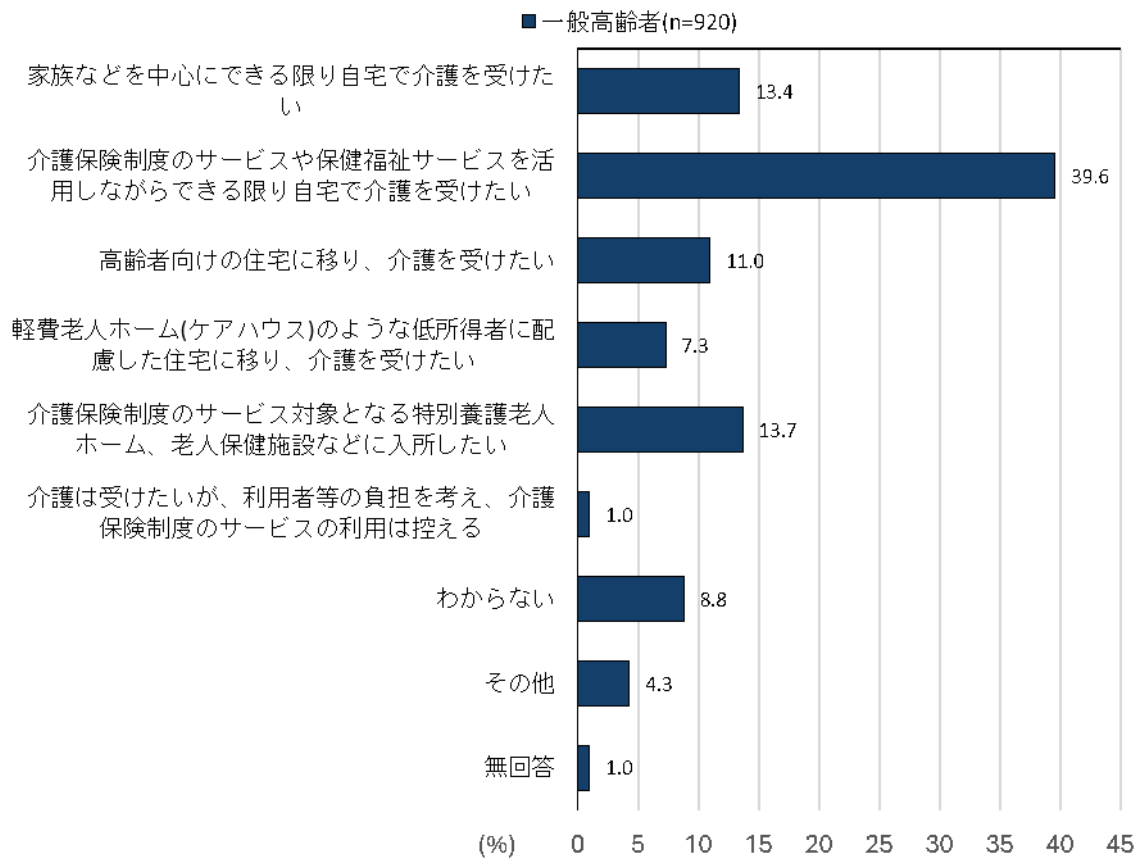


(2) 将来の生活と介護予防について

(一般高齢者のみ)今後、もしあなたご自身が介護が必要となった場合、どのようにしたいとお考えですか。

「介護保険制度のサービスや保健福祉サービスを活用しながらできる限り自宅で介護を受けたい」が39.6%と最も高くなっている。

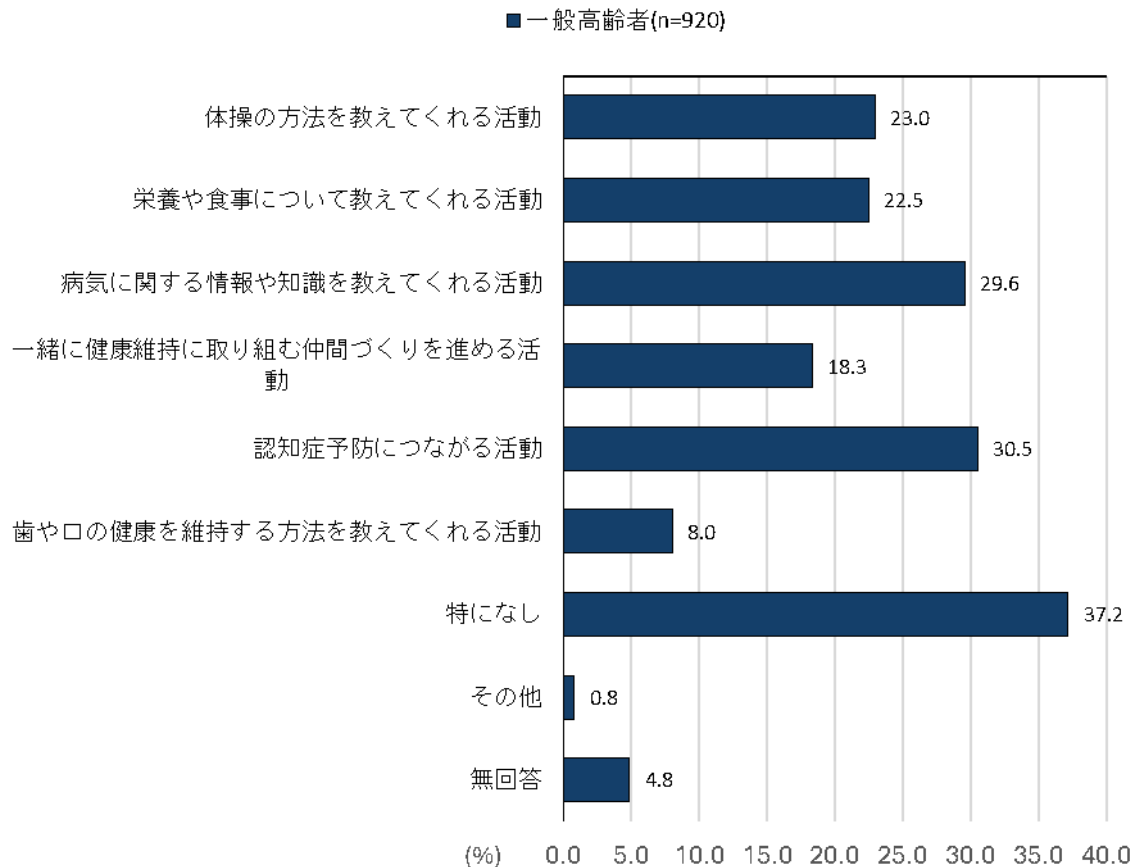
次いで、「介護保険制度のサービス対象となる特別養護老人ホーム、老人保健施設などに入所したい」が13.7%、「家族などを中心にできる限り自宅で介護を受けたい」が13.4%となっている。



(一般高齢者のみ)介護予防のために参加したい活動はありますか。

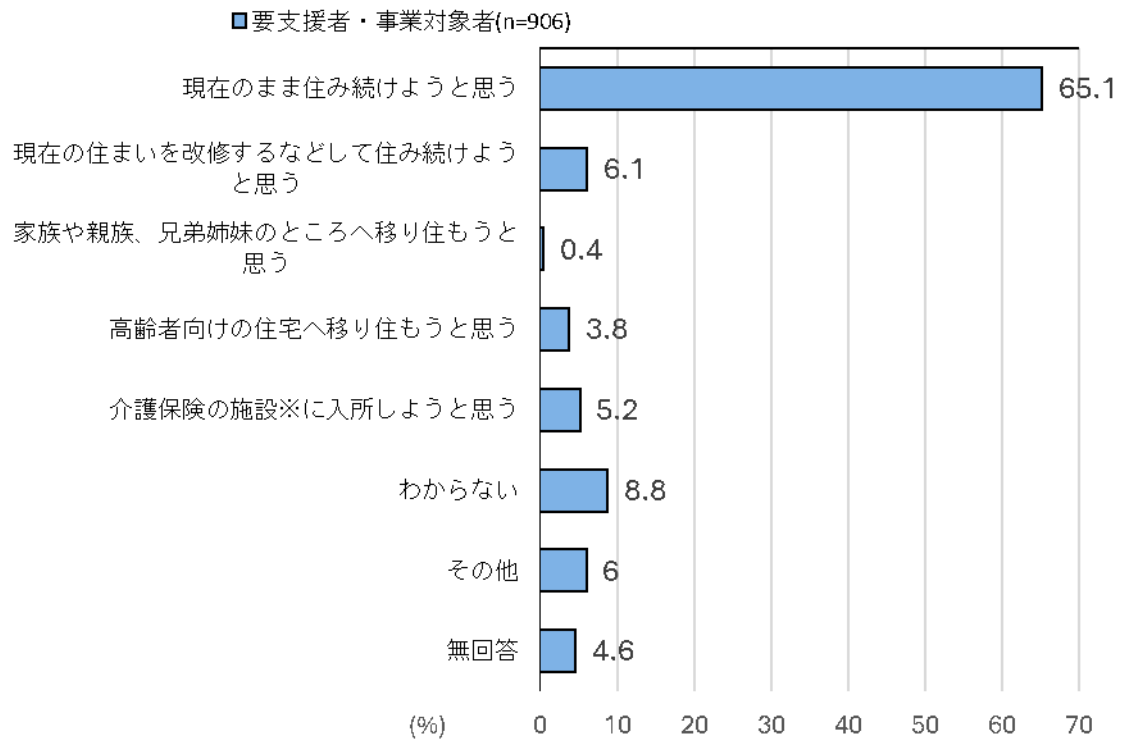
「特になし」が37.2%と最も高くなっている。

次いで、「認知症予防につながる活動」が30.5%、「病気に関する情報や知識を教えてくれる活動」が29.6%、「体操の方法を教えてくれる活動」が23.0%となっている。



(要支援者・事業対象者のみ)今後希望する生活場所についてうかがいます。

「現在のまま住み続けようと思う」が65.1%と最も高い。

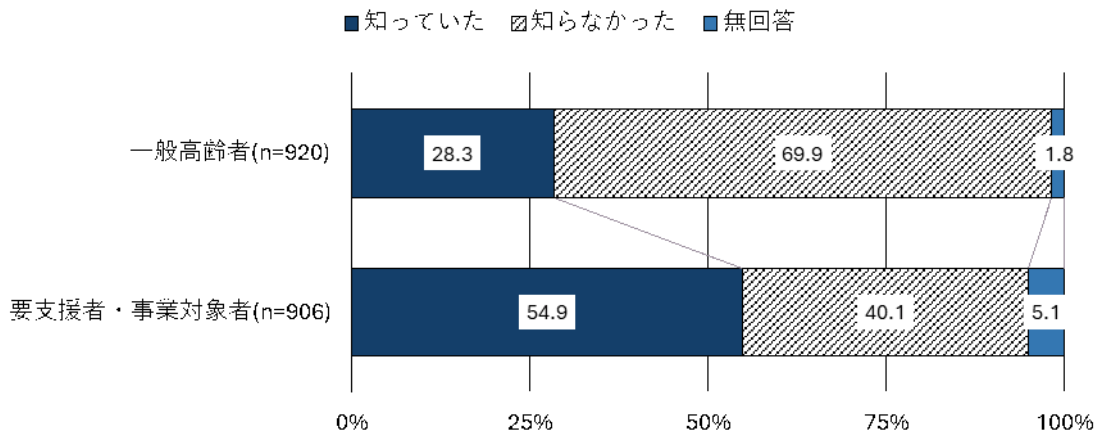


(3) 高齢者外出支援事業について

高齢者外出支援事業(タクシー券の支給)を知っていますか。

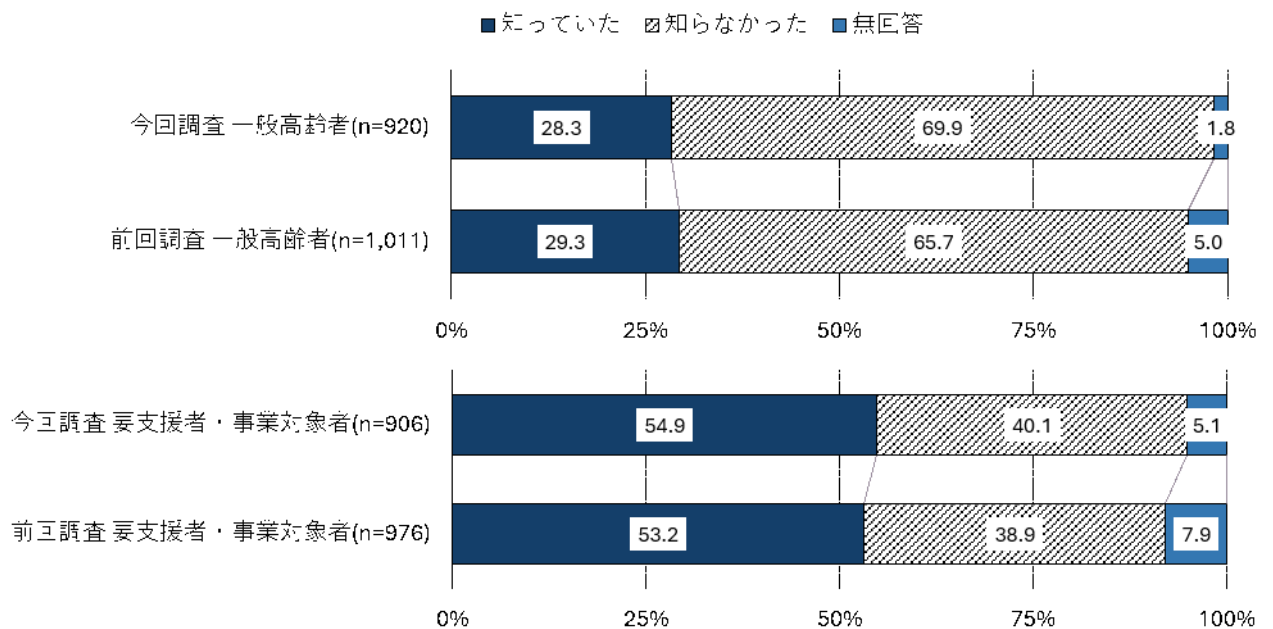
一般高齢者では「知らなかった」が69.9%と高く、「知っていた」は28.3%にとどまっている。

一方、要支援者・事業対象者では「知っていた」が54.9%で、「知らなかった」の40.1%を上回っており、一般高齢者と比べて26.6ポイント高くなっている。



【経年比較】

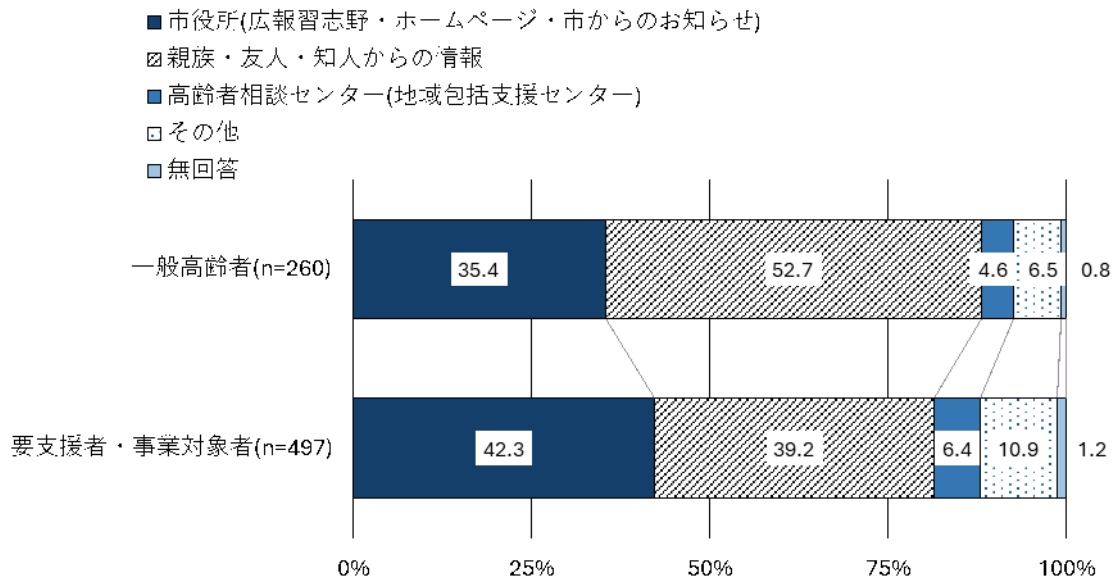
前回調査と比較しても概ね同程度の結果となっている。



(知っている方)本事業を何で知りましたか。

一般高齢者では「親族・友人・知人からの情報」が52.7%と最も高く、要支援者・事業対象者の39.2%を13.5ポイント上回っている。

一方、要支援者・事業対象者では「市役所(広報・ホームページ等)」が42.3%で最も高く、一般高齢者の35.4%を6.9ポイント上回っている。



より良い高齢者の外出支援策とするには、今後どのような事業の見直しを行うのが良いと思いますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が最も高い。一般高齢者においては69.3%で、要支援者・事業対象者の49.7%を19.6ポイント上回っている。

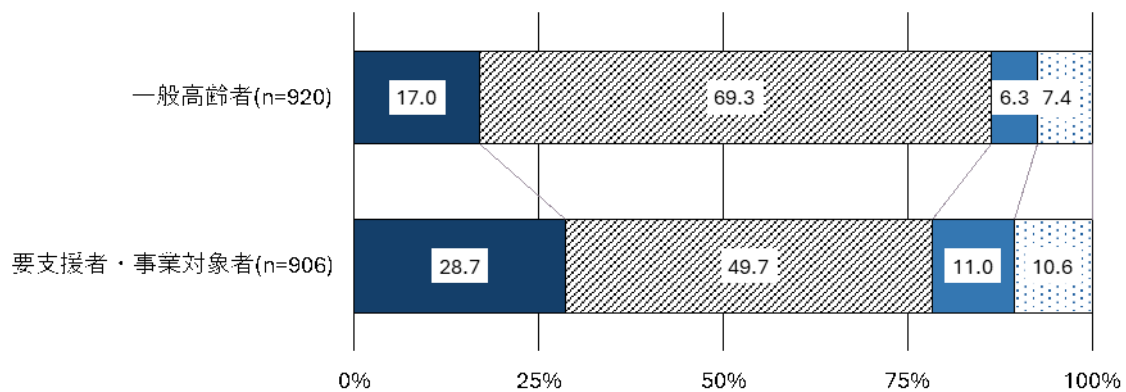
一方、「現状のタクシー券のまま継続してほしい」は要支援者・事業対象者が28.7%で、一般高齢者の17.0%を11.7ポイント上回っている。

■ 現状のタクシー券のまま継続してほしい

▨ タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい

■ その他

□ 無回答

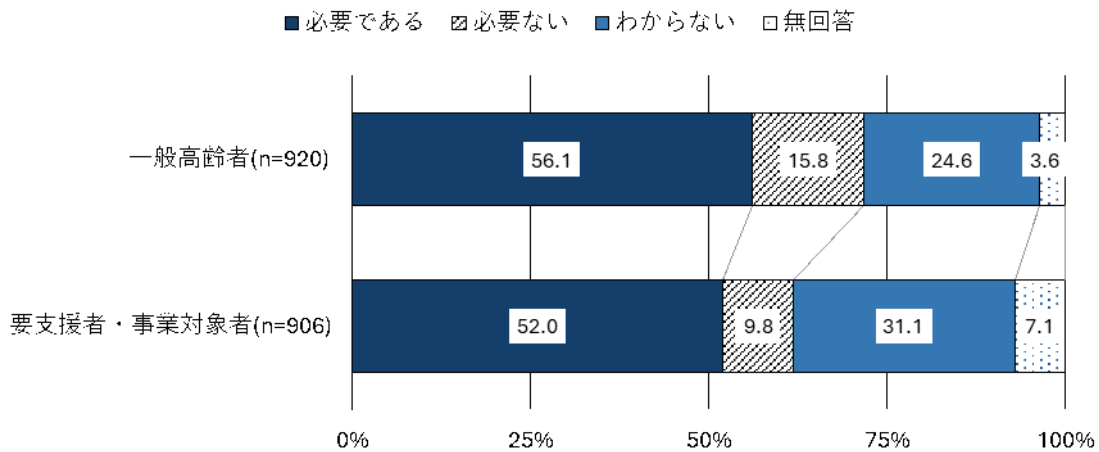


(4) 運転免許証自主返納者への支援について

近年、高齢者ドライバーが当事者となる痛ましい事故が多発し、運転免許証の自主返納に大きな関心が集まっています。本市の公共交通は比較的充実していることから、現時点でタクシー券等の支給は行っていないですが、今後、運転免許証を自主返納した方に対する税金を使った支援は必要であると思いますか。

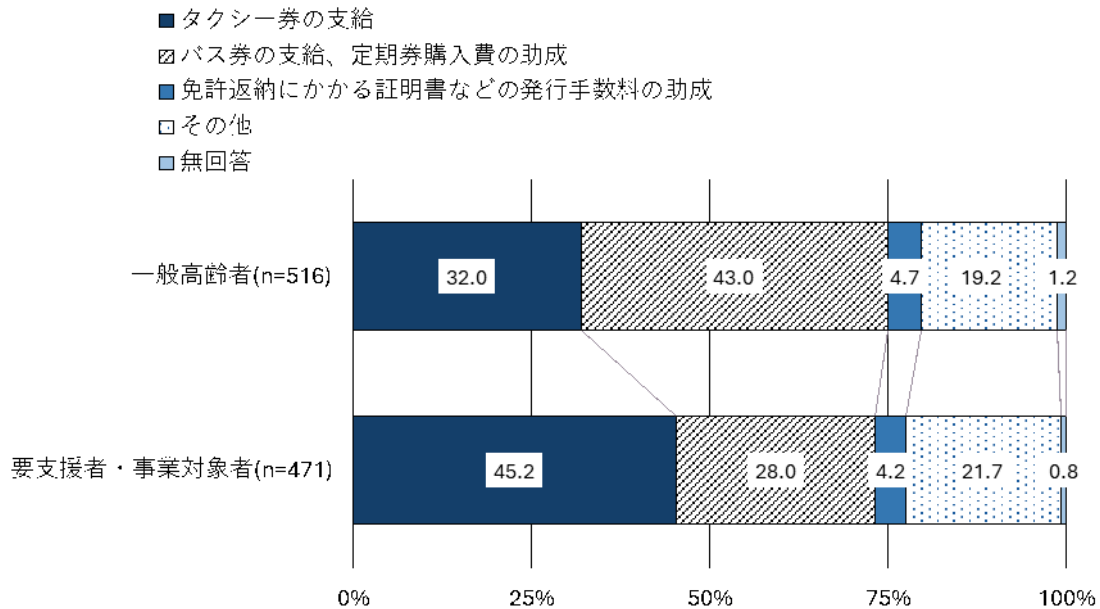
一般高齢者、要支援者・事業対象者とともに「必要である」が最も高く、一般高齢者で56.1%、要支援者・事業対象者で52.0%となっている。

一方、「必要ない」は一般高齢者で15.8%であり、要支援者・事業対象者の9.8%を6.1ポイント上回っている。「わからない」は要支援者・事業対象者で31.1%と、一般高齢者の24.6%を6.5ポイント上回っている。



(「必要である」を選択された方)どのような支援が必要であると思いますか。

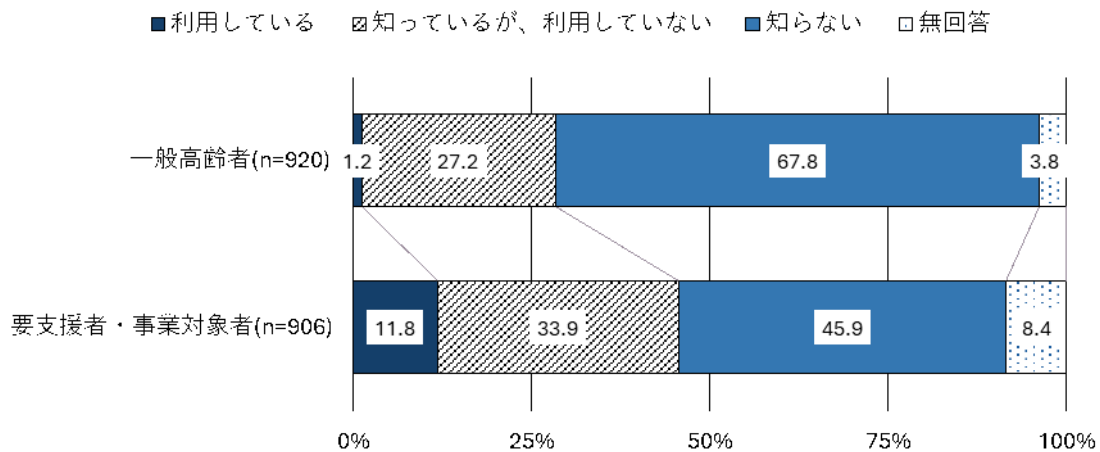
一般高齢者では「バス券の支給、定期券購入費の助成」が43.0%と最も高くなっている一方、要支援者・事業対象者では「タクシー券の支給」が45.2%と最も高くなっている。



(5) 高齢者相談センターの相談窓口の認知度

高齢者相談センターで、センター内での生活支援や介護予防についての相談ができることをご存じですか。もしくは利用していますか。

一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「知らない」が最も高い。一般高齢者が 67.8%で、要支援者・事業対象者の 45.9%を 21.9 ポイント上回っている。「利用している」は要支援者・事業対象者で 11.8%となっており、一般高齢者の 1.2%を 10.6 ポイント上回っている。「知っているが、利用していない」は両者 3 割程度である。

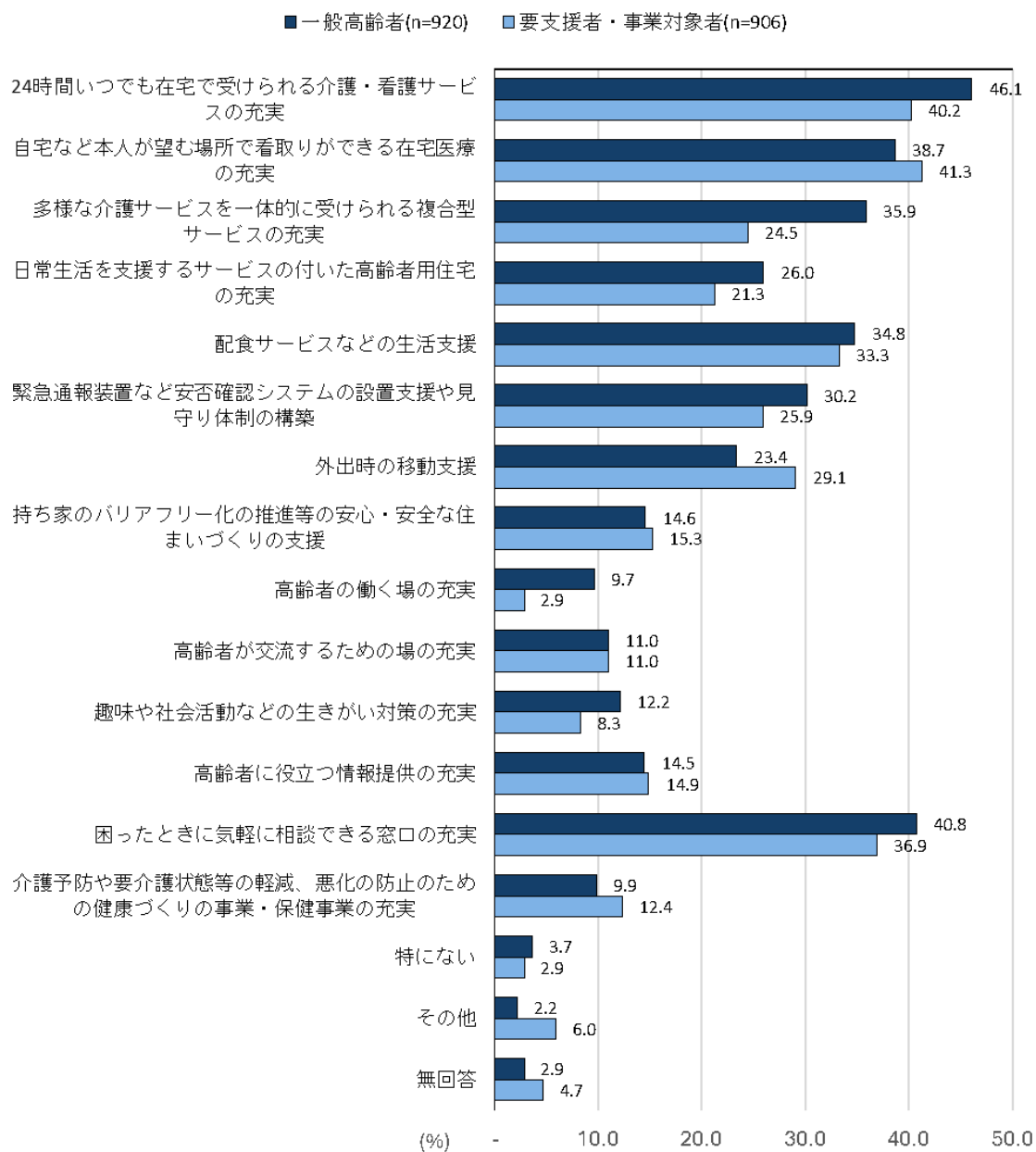


(6) 高齢者が地域で在宅を続けるために必要な施策

あなたは、高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために、主としてどのような施策が必要であると考えますか。(〇は5つまで)

一般高齢者では「24時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が46.1%と最も高くなっている。次いで、「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」が40.8%となっている。

要支援者・事業対象者では「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」が41.3%と最も高く、次いで「24時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が40.2%となっている。

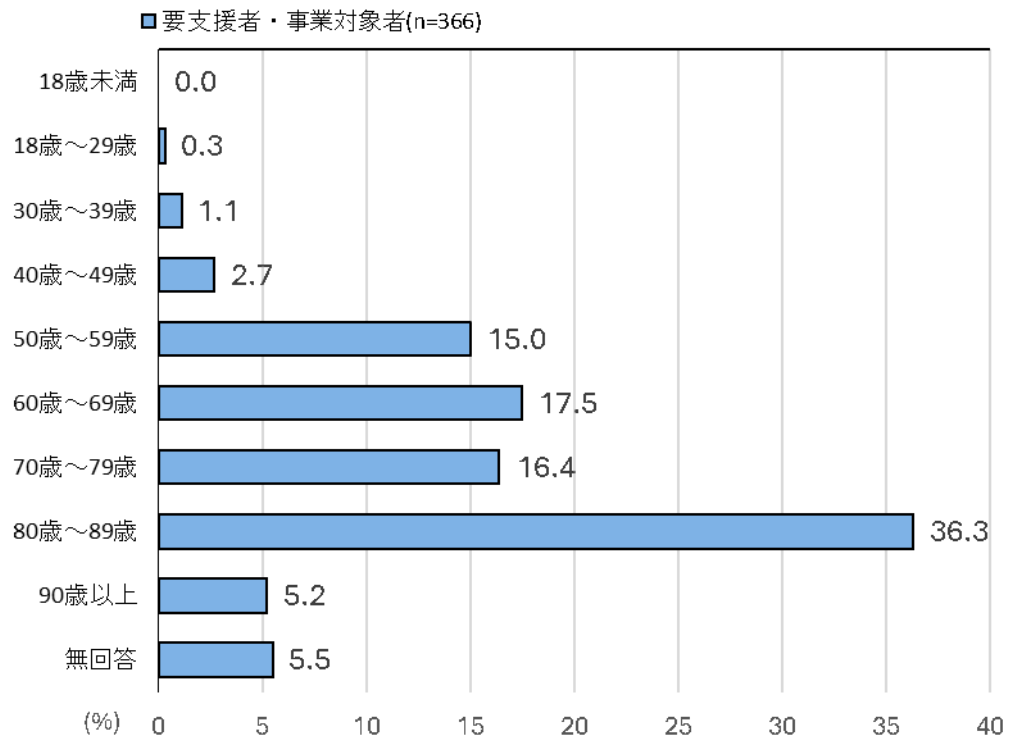


14. 主な介護者の方への質問

(1) 介護者の年齢

あなたの年齢をお答えください。

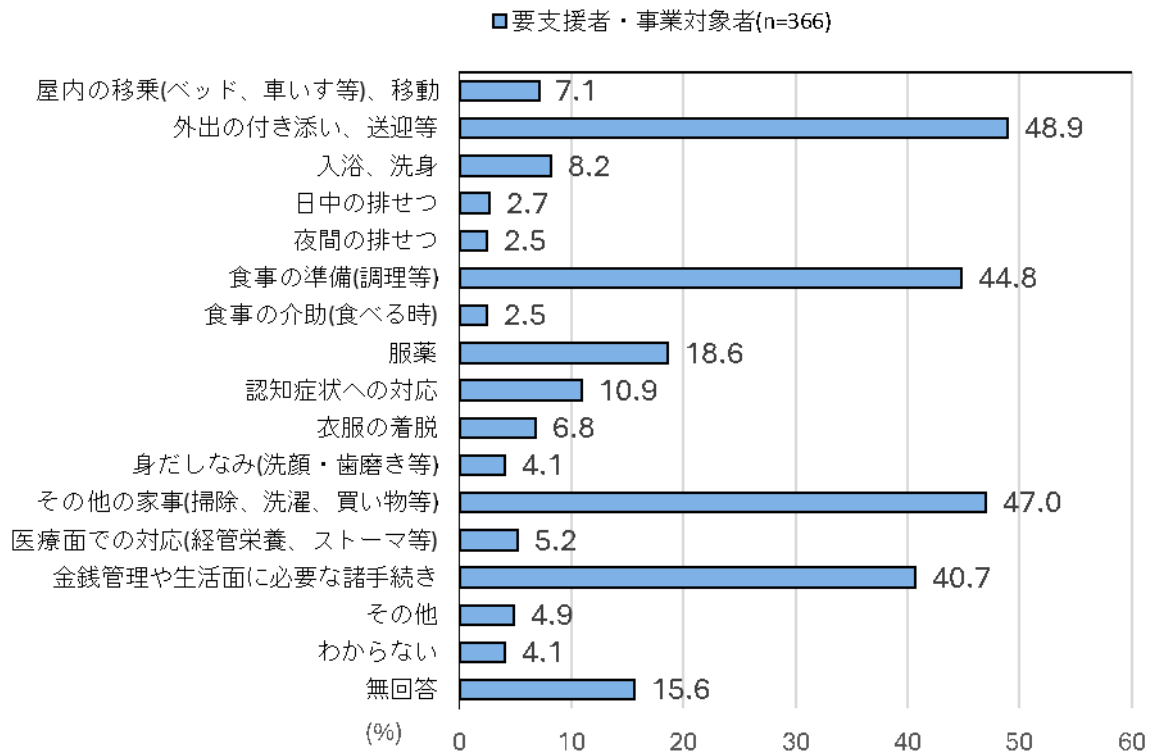
80代が36.3%と最も高く、次いで60代が17.5%、70代が16.4%となっている。



(2) 介護の種類

現在、主な介護者の方が行っている介護等は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

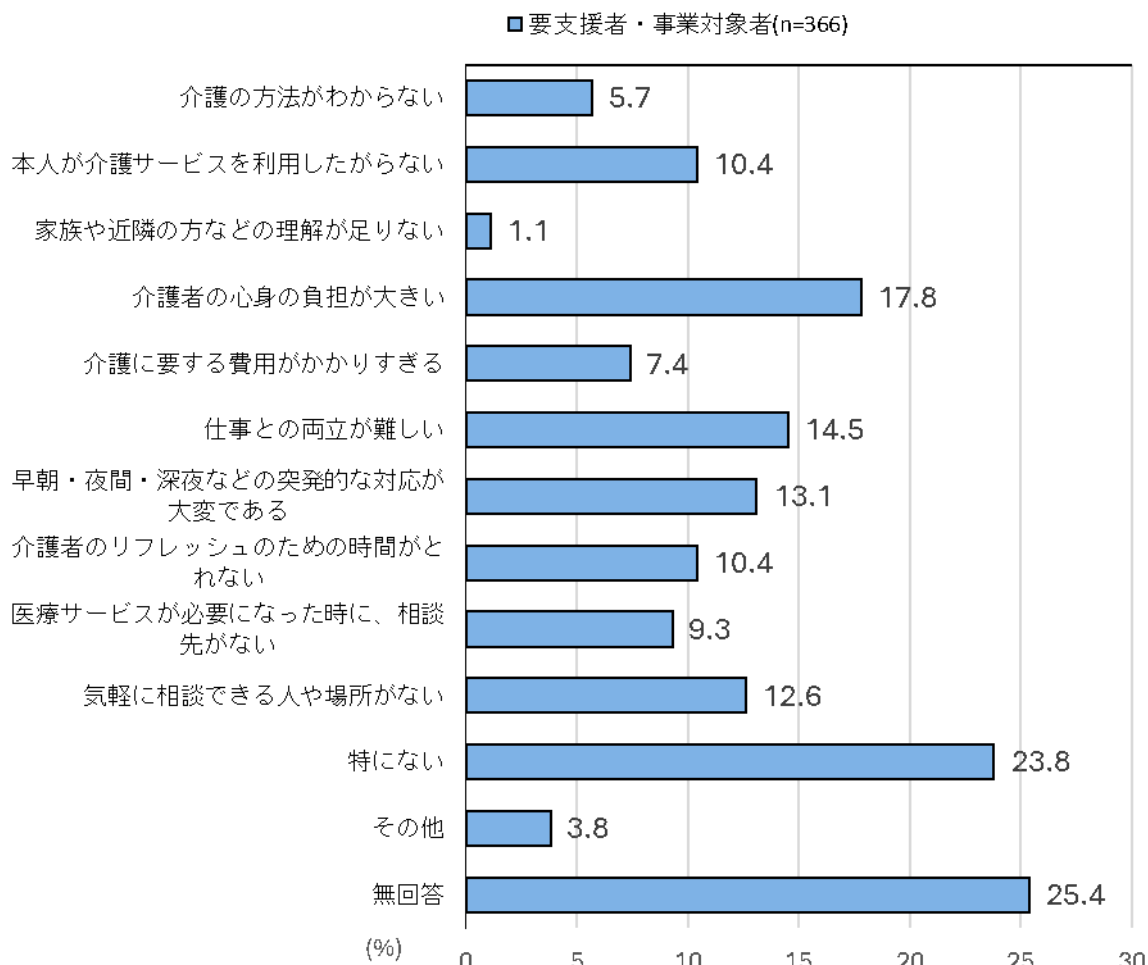
「外出の付き添い」が最も高く、48.9%となっている。その他、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」「(47.0%)」、「食事の準備(調理等)」「(44.8%)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(40.7%)が同程度に割合が高い。



(3) 介護者の現状

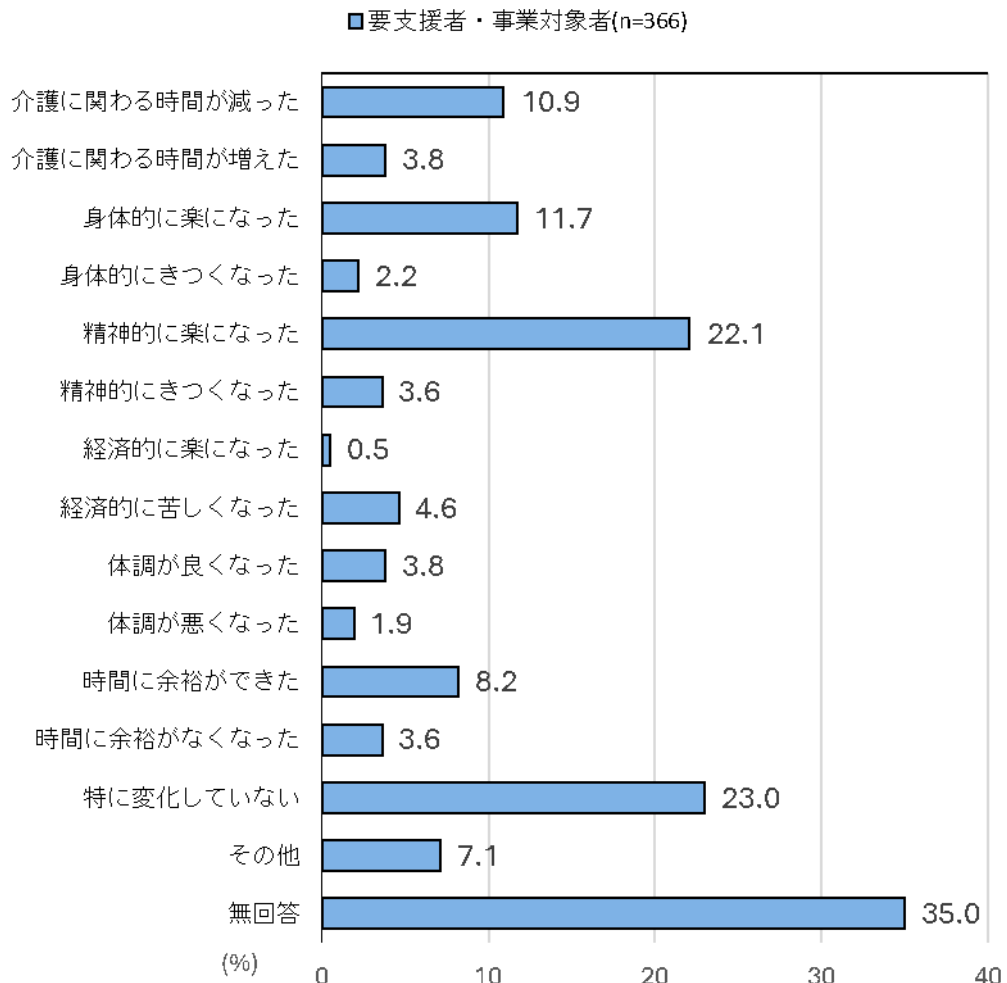
介護を行う上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

「特にない」が23.8%と最も高く、次いで「介護者の心身の負担が大きい」が17.8%、「仕事との両立が難しい」が14.5%となっている。



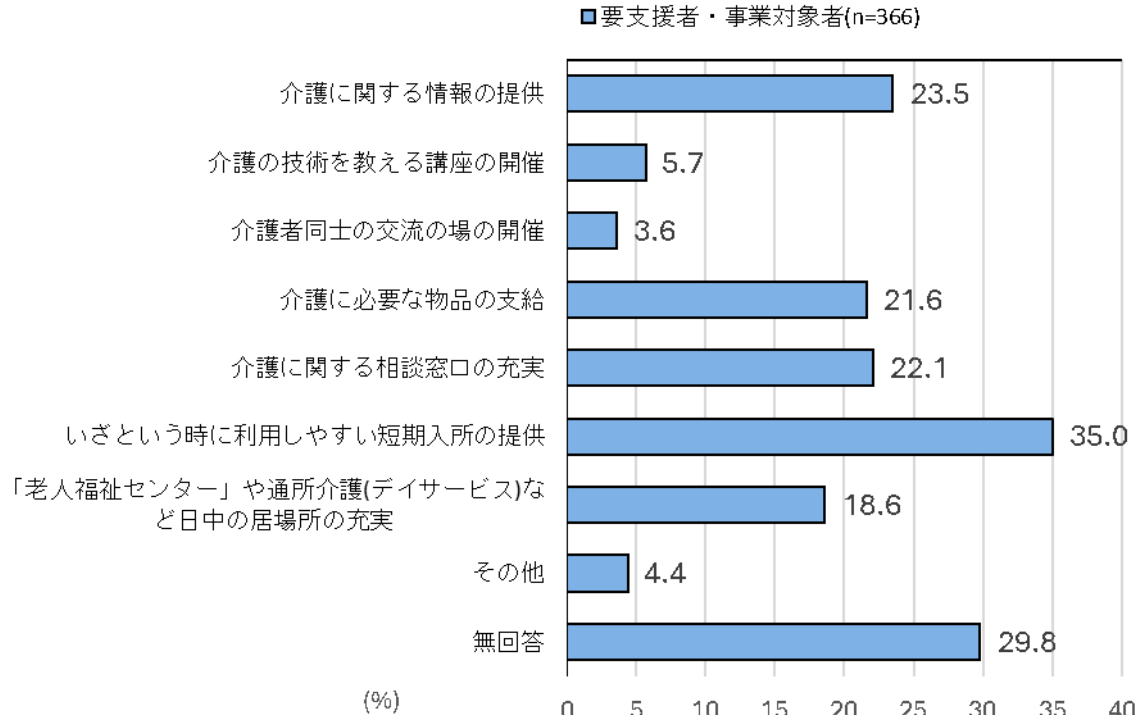
介護サービスを利用することによって、介護している方はどのように変化しましたか。(〇はいくつでも)

「特に変わっていない」が23.0%と最も高く、次いで「精神的に楽になった」が22.1%、「身体的に楽になった」が11.7%となっている。



介護者として、介護に関してどのような支援があったらいいと思いますか。(〇は3つまで)

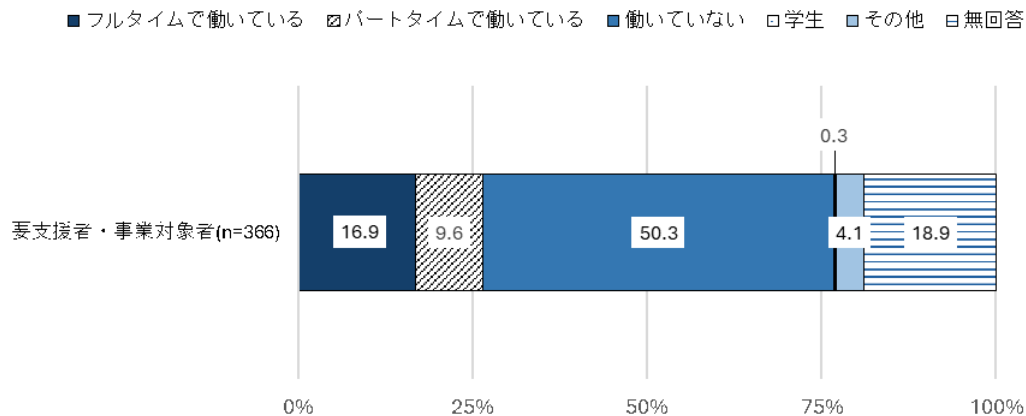
「いざという時に利用しやすい短期入所の提供」が35.0%と最も高く、次いで「介護に関する情報の提供」が23.5%、「介護に関する相談窓口の充実」が22.1%となっている。



(4) 介護者の仕事と介護の両立について

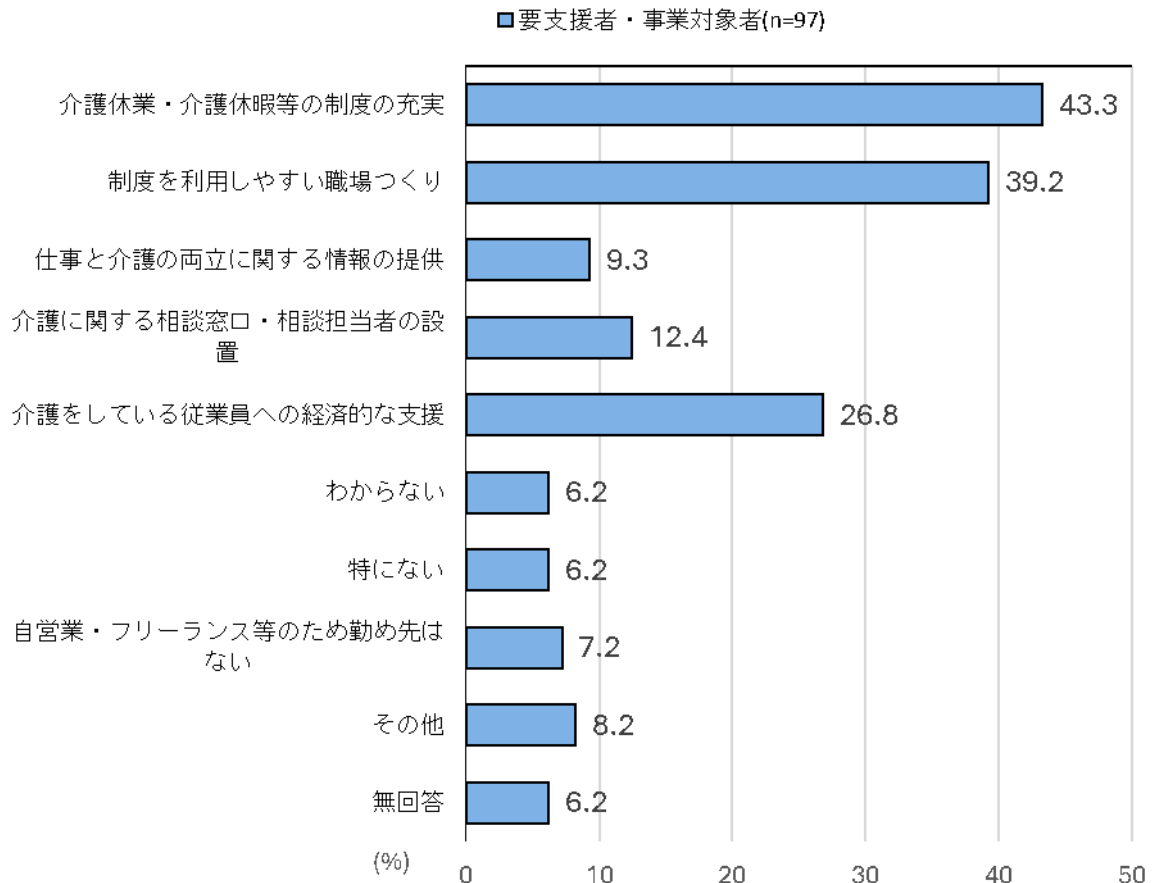
あなたの現在の勤務形態についてお答えください。

「働いていない」が50.3%と半数を占めており、「フルタイムで働いている」が16.9%、「パートタイムで働いている」が9.6%となっている。



(フルタイム・パートタイムで働いている方)あなたは、勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(〇は3つまで)

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が43.3%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が39.2%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が26.8%となっている。



15. ご意見・ご要望

市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

① 情報提供・相談窓口について

【一般高齢者】

- ・ 市の施設の状況をもっと発信してほしい。
- ・ 支援対応のある項目について知りたい。
- ・ 市 HP の高齢者介護や保険関係の情報をまとめた冊子がほしい。市発行の冊子一覧も HP に掲載してほしい。
- ・ 親が介護支援につながりやすいよう、子ども世代への情報の啓蒙が必要。早めにつながる方が家族も本人も安心できる。
- ・ 介護保険料を多く払っているが、どのような状況になればどの程度の保険給付があるのか説明がなく不満である。
- ・ スマホやインターネットを使えない高齢者もいるので、何でも機械にするのはやめ、口頭で分かりやすく説明してほしい。
- ・ 習志野市の広報で、毎月福祉施策の掲載や PR を続けてほしい。
- ・ 高齢者の外出支援策をもっと広く伝えてほしい。
- ・ 65 才になったら老人クラブから誘いが来ると思っていたが何もない。自分から調べる勇気もなく、一人で家にこもるのは淋しいので、市からパンフレットが届くだけでもきっかけになると思う。
- ・ アンケート集計結果を、市広報等に記載してほしい。
- ・ 市が高齢者への保健福祉、介護サービス、認知症施策に強い意識を持っていることを知り、心強く感じた。
- ・ 市から届く書類の理解が大変なので、相談窓口と書類記入の手伝いをしてほしい。介護保険外の家事支援や困りごと支援も必要。
- ・ 年金が少なく、家賃と光熱費で消えてしまう。どこに相談してよいか分からず、高齢者が過ごしやすい環境支援が増えることを期待している。
- ・ 情報を得る手段がない、または分からない。LINE や回覧でも見たことがないので、もっと情報発信してほしい。
- ・ 市の高齢者保健福祉施策について、老人会を通して具体策を発表し、意見を聞く場を設けてほしい。
- ・ 終活準備のために必要な資料やしおりがあればほしい。
- ・ 市に様々な高齢者保健福祉施策があることが分かった。今後はこれらの施策を利用して、楽しみや生きがいを見つけていきたい。

第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

- ・ 介護認定の受け方や必要なことを知らない人が多い。基本的なポイントだけでも、もっと簡単に多くの人が知れるようにしてほしい。
- ・ 認知症ではないかと家族に言われた時の相談先が知りたい。認知症についても分かりやすい講座をお願いしたい。
- ・ サービス窓口のワンストップ化を期待する。
- ・ 保健福祉や介護サービスをどう利用したらよいか分からない。どこに連絡するのか、誰に知らせるのか分からない。
- ・ 高齢者保健福祉施策という言葉は初めて見た。高齢者の件について、もっとPRすべきだと思う。
- ・ このアンケートで市の支援を知り、必要な時は市に相談すればよいと安心できた。
- ・ この一年ほどで体調不良が続き、今までの健康な生活が一変して戸惑っている。市役所にもお世話になり始めたので、今後はもっと積極的に相談したい。
- ・ 元気で動ける日々なので福祉や介護を身近に感じないが、もっと勉強しなくてはいけないと思った。
- ・ 最後まで自分の力で生活したいが、歩けなくなる不安がある。その時は市の相談窓口を訪れたい。
- ・ 高齢者に対しては、対面、実地、現物、現実の事象をよく検証することが必要。

【要支援・事業対象者】

- ・ 情報伝達の方法に困ることが多い。スマホも持っていないので、書面での回答や伝達を希望する。
- ・ 現在治療中だが、今は自分の周りのことはできている。何かあった時に電話などで相談できる窓口を知っておきたい。
- ・ 足が悪くなり外出できなくなった時、どこに相談するのか分かる方法を示してほしい。市から連絡がほしい。
- ・ 高齢者相談センターの存在を知らなかったので、もっとアピールしてほしい。
- ・ 習志野市民となり半年ですが、タクシー券のことを知らなかったので、もう少し情報提供がほしいです。
- ・ 高齢になると自分の事で精一杯。市で相談窓口や本人への声かけ、書類での連絡をしてほしい。
- ・ 介護サービス担当者との接点がなく、年とともに介助が必要になってきているため、アンケート形式でも近況把握や支援につなげる方法があるとよい。
- ・ 市役所の窓口や高齢者相談センターは丁寧に対応してくださるが、難病関係の複雑な書類作成についていけない方もいるのではと危惧しています。
- ・ 股関節手術前に要支援1をいただいたが、現在は介助なく普通に過ごしている。終末期に不安はあるが、健康寿命を長く維持し、介護制度や支援を勉強したい。

② 交通・外出支援

【一般高齢者】

- ・ 高齢者が移動する際の介護タクシーがなかなか来ない。タクシーがない。
- ・ 現在のタクシー券は、80才以上の人たちに平等に配布するべきだと思う。
- ・ 免許返納後は移動が制限され、講座や施設イベントに参加しにくい。東西・南北を結ぶ安価な交通網を整え、したいことを可能にしてほしい。
- ・ 屋敷地区は歩道が悪く車椅子移動が困難で、安心して外出できない。気軽に集まれる場所も少なく、食事しながら会話できる場があるとよい。
- ・ 物価高で歯医者に行くお金もない。免許返納後は外出機会が減ったが、今はそれほど不自由とは思っていない。
- ・ 都内のバス券支援のように、安く利用できるバス支援を導入してほしい。外出支援はフレイル予防や経済支援にも有効だと思う。
- ・ 外出支援は家庭状況により希望が異なるため、タクシー券やバス料金無料など選択肢があるとよい。
- ・ 高齢者が気軽に移動できる送迎バスを充実してほしい。介護認定がなくてもリハビリテーションを利用できるようにしてほしい。
- ・ 非課税世帯だけでなく、一般の高齢納税者にもバス・電車・タクシー等のチケットを配ってほしい。
- ・ 最寄り駅までの移動手段としてタクシー券やバス券がほしい。高齢者が楽しめるサロンが近くにあるとよい。
- ・ 課税世帯にもタクシー券を交付してほしい。高齢者の交流活動やボランティア活動についてもっと報道してほしい。
- ・ 子どもと同居しているとタクシー券などの援助が受けられず、非常に残念に思う。
- ・ 免許証を自主返納した人だけへの特別な支援は不要だと思う。税金で支援するなら、免許を持っていない人も含め高齢者全員に等しくすべき。
- ・ 非課税世帯でも、世帯分離した家族が同居しているとタクシー券が非支給になると聞き、困っている。

【要支援・事業対象者】

- ・ 京成バスの本数や行き先が利用しづらい。通院や買い物を自力でしたいので、バスの本数や地域を考えてほしい。
- ・ 地域バスは土日運休で不便。一日2便しかないバスも不便で、陸の孤島のように。
- ・ 割引定期券ではなく、日中のバス客が少ない時間帯の割引券を作してほしい。

- ・ 高齢者が移動する際の介護タクシーがなかなか来ない。タクシーがない。
- ・ タクシーがつかまりにくい。タクシー券よりバスの年間補助がよい。京成バスの降車時に車体を下げてくれず怖い思いをしている。
- ・ 外出支援サービスを充実してほしい。タクシー配車を断られることがあり、バス停までの移動にも不安がある。
- ・ 現在歩行するのに大変困っています。もっと気軽に移動手段が利用でき、バス停まで歩けないためドア to ドアが利用できればありがたいです。
- ・ 免許返納後に移動手段がなく落ち込むようになった。バスやタクシーも使いにくく、外出や交流がしやすい移動手段を望む。
- ・ 来年は車をやめようと思っているので、バスの年間パスがもらえるとうれしい。
- ・ 東京都のような無料バスや、地方都市のような市内バス半額カードの発行を希望します。
- ・ 歩道のフラット化、駅前歩道への自転車進入の危険、歩道の夜道の灯りを改善してほしい。
- ・ 子どもと同居しているとタクシー券がもらえないが、車がない人もいる。80才を過ぎたらもらえるようにしてほしい。
- ・ タクシー券の配布は、非課税世帯に限らず高齢者世帯にも適用してもらえるとありがたい。
- ・ 同居しているとタクシー券がもらえないので、せめて病院に行く時を援助してほしい。
- ・ 同じ住所で世帯主が複数いるとタクシー券がもらえない。市によってはもらえるのに、習志野市ではなぜもらえないのか。
- ・ 80歳以上の高齢者には、無条件でタクシー券の支給があれば助かる。
- ・ タクシー券は要支援1では対象外で、子供に会社を休ませて病院へ連れて行ってもらうことになり困っています。
- ・ 東習志野8丁目は交通の便が悪く市の施設に行けないため、市の方から寄り添ってほしい。非課税者以外にもタクシー券等を考慮してほしい。
- ・ 病院通いをしているが、施設に入っているという理由でタクシー券がもらえなかった。そういう人こそ必要ではないでしょうか。
- ・ タクシー券は運転手に嫌がられることが多く、嫌味を言われたこともある。チケット分を現金振込で頂けるとよい。
- ・ 母の介護時にタクシー券をもらったが、使い方に不便があった。交通費が半額程度になれば外出機会も増えると思う。
- ・ 介護は受けず、自分で時間をかけてやっている。タクシー券はぜひほしい。
- ・ 高齢者相談センターで親切に対応してもらいありがたい。タクシー券に加えてバスの援助もしてほしい。
- ・ 課税世帯にもタクシー券を交付してほしい。高齢者の交流活動やボランティア活動についてもっと報道してほしい。
- ・ 最寄り駅までの移動手段としてタクシー券やバス券がほしい。高齢者が楽しめるサロンが近くにあるとよい。

③ 医療・介護

【一般高齢者】

- ・ いつまでも自宅で生活できるよう、在宅医療の充実を望む。
- ・ 自宅で高齢者介護をしている家庭への支援として、紙おむつ等の割引券などがあると助かる。
- ・ 認知症介護は家族では不可能であり、公共の支援で負担を軽減してほしい。
- ・ 私は介護が必要になったら自宅にはいたくない。通院が続いているため、総合病院で医療を受けられる環境の老人福祉施設を増設してほしい。
- ・ 骨粗鬆症治療の補助金、津田沼駅近くの室内プール、小規模な体操教室の幅広く頻繁な開催を希望する。
- ・ 習志野市の規模では限界があるので広域化を図り、ゆくゆくは県単位で標準化したサービス体制にすべきだと思う。
- ・ 自分は衣食住や健康に恵まれていると思う。本当に困っている人には、温かい手を差し伸べてほしい。
- ・ 習志野市の高齢者福祉対策はよくできていると思う。予算内でやれることを丁寧に進め、できることをしっかり対応する市政でよいと思う。
- ・ 介護を受ける前に健康寿命を伸ばす政策をしてほしい。介護が必要になった時は、本人の意思にかなった介護が受けられる助成があればよい。
- ・ 福祉現場の人手不足が今後さらに進むと思うと心細い。若い人にとって魅力があり、働きやすく金銭的にも余裕のある職場として考えてほしい。
- ・ 人間ドックの費用助成を増額してほしい。
- ・ 市外で人間ドックを受ける場合にも補助を受けられるようにし、データ連携や市外受診への補助を検討してほしい。
- ・ 子育てだけでなく高齢者も含め、市民が公平にサービスを受けられるようにしてほしい。支援事業が広く知られ、福祉施設も充実してほしい。
- ・ 施策実施の第一歩は高齢者の実態把握だと思う。声を上げられない人も含め、本当に助けを求める人を知る方法を市で考えてほしい。
- ・ 年金や介護など、高齢者が安心して生活できるように考えてほしい。
- ・ 身寄りや知人がいない人が増えており、いざという時の支援は民間より自治体に行ってもらう方が安心である。
- ・ 一人暮らし高齢者が増えているため、生活に不安がないよう、きめ細かな温かい施策がほしい。
- ・ 高齢者保健福祉施設の多様化や評価は見えづらく、人材確保や待遇が課題ではないか。介護施設に助けられた経験があり感謝している。

第 2 章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

- ・ 独り住まいの安全・安心には見回り、心配り、声かけが大切。高齢者が元気に楽しい時間を持てる生活や福祉が必要だと思う。
- ・ 定期的な訪問。
- ・ 夫が歩行困難となり施設に入居したが、費用負担が大きい。人生の終わりを心配なく穏やかに締めくくる施策を考えてほしい。
- ・ 高齢者施設の利用者は増えたが、介護する人手不足は変わらない。利用料が高く、貧しい人は入れない。
- ・ 現在 82 才で健康に生活している。介護保険は使っていないが、自分が健康なので他人の役に立てばよいと思う。習志野市は住みよい所である。
- ・ 現在は大きな障害なく生活しているが、近い将来の変化をまだ実感できない。現状維持に努め、変化には順応したい。
- ・ 耳に関するアンケートがない。両耳の突発性難聴で会話ができない。
- ・ 夫は足腰やもの忘れ、耳の不調があり、自分の体も含め今後が不安。住宅ローンや物価高もあり、年金生活には厳しい。
- ・ 家族内で精神・身体の介護が必要な者がいると家族の負担が大きい。介護保険の利用範囲を広げ、高齢者向け住宅の設立を希望する。

【要支援・事業対象者】

- ・ 民生委員の人数が少なく、1 人で 50 人近くを受け持っているようなので、増やしてきめ細やかなサービスを望む。
- ・ 認知症の家族が施設と病院を行き来し、二重払いになっている。少ない年金では不安で、今後こうした人が増えることを思うと心配です。
- ・ 子どもに車を出してもらい生活しており感謝している。将来は市の施設に世話になると思う。健康診断に足の診断もあればよかった。
- ・ 視覚障害があり、以前は外出もできず入退院の日々だった。習志野市に来て前向きに過ごせており、地域の皆様に感謝している。
- ・ 現在要支援 1 だが、もう少し積極的な施策があるとよい。例えばリハビリなど。
- ・ 毎週水曜日の午前中、リハビリに歩いて通っている。生活のリズムになり感謝している。
- ・ 老々介護や寝たきりになった時に安心できる介護や施設が整ってほしい。特養が少なく、夜間吸引に対応できる施設も含め充実してほしい。
- ・ 介護支援を受けたくて手術前に申し込んだが、退院直後には役立たず家族に無理をさせた。すぐ利用できる方法があるとよい。
- ・ 要支援 2 でも、同居者が数日不在になる時などに 1 か月 1 週間程度ショートステイを利用できるとありがたい。

第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

- ・ ある程度自分でできるように頑張ったところです。そのかわり時間はかかりますが、また要支援を受ける時はよろしくお願いします。
- ・ 介護職の人々の待遇を改善して離職することが無いようにして欲しい。介護職の専門知識を持つ人々を増やして欲しい。
- ・ 支援に依存する考えに偏らないよう努力し、頑張っている高齢者のための支援の仕組みを作ってほしい。
- ・ 要支援1や障害認定を受けずに頑張っている人にも、継続的に軽体操を公費で受けられる方法を拡大してほしい。
- ・ 自宅で介護しており、ヘルパーや訪問リハビリ、ケアマネジャーの支援に心から感謝しています。
- ・ だんだん足腰が弱くなってくるので、週2回行けるとうれしく思います。
- ・ 通所リハビリテーションは配車等のサービスは良いが、内容が単純でコミュニケーションがなく、年齢差や男女区分も合わなかった。
- ・ 妻が大病をして5年になるが、何もできず大変で、現在は少し動けるようになり助かっています。
- ・ 本当に介護が必要な人に介護が受けられるようにしてほしい。
- ・ 福祉制度の充実を図る努力をいただければありがたいと思います。
- ・ 市内にはケアマネジャーが不足していると聞きました。福祉の仕事にかかわる方の給料アップを強く希望します。
- ・ 親を20年間介護しました。入浴サービスやケアマネジャー、かかりつけ医がいたことに感謝しています。
- ・ リハビリしてくれる施設が少ないように思います。
- ・ 妻を介護していますが、自分も聴覚障害があり、コミュニケーションに支障があります。税制上の優遇措置がもう少し上がればと思います。
- ・ 私は耳が悪く補聴器を使っているが状況は良くない。テレビは字幕頼りで、回答は面倒だった。全てが正しいとは思っていない。
- ・ 夫の介護でヘルパーや医師に世話になり、介護職の大変さを感じた。終末期医療には疑問も残り、この先どうなるか分からないが迷惑をかけたくない。
- ・ 老々介護でお互いに自分のことで一杯です。入浴介助はできず、近い将来は外部支援をお願いし、ショートサービス利用やケアマネジャーさんに相談したい。
- ・ 二世帯住宅の場合ヘルパーさんの派遣は全てだめですが、息子も忙しく掃除などをしてもらいたいので、是非考えていただきたい。

④ 施設・住まい

【一般高齢者】

- ・ 古い RC 集合住宅に住んでいるため、耐震工事の補助金制度を早く利用できるようにしてほしい。
- ・ 自宅で家族が面倒を見るのは無理なので、簡単な建物でもよいから施設をたくさん作ってほしい。
- ・ 大津市の高齢者シェアハウスや藤沢市の若者と高齢者の共同住宅に興味を持った。習志野市でも選択肢の一つとしてあるとよい。
- ・ アンケート実施に感謝している。秋津総合福祉センターの運動やお風呂、てんとうむし体操を楽しんでおり、高齢者施設のさらなる充実をお願いしたい。
- ・ 低料金(10 万円前後)で入所できる介護施設を充実してほしい。
- ・ 80 才以上の夫婦 2 人暮らしで、昨年できたことが今年はできなくなってきた。いつまでも住み続けられる習志野市を願っている。
- ・ 住宅に困っている。県営住宅に 4 年間応募しても当たらず、単身者向け住宅が増えることを望む。
- ・ 一人暮らしの高齢者が入れる高齢者用住居の充実。終活支援制度、死後事務に関する支援制度。
- ・ 築年数が古くエレベーターのない団地高層階に住む独居高齢者を積極的に調査し、具体的な支援策を考えてほしい。
- ・ 特別養護老人ホームを増やしてほしい。年金の少ない人は民間施設に入れず、特養が空くのを待つしかないため、待機老人を減らしてほしい。
- ・ 特養を増やして、要介護度の低い人でも入所しやすくしてほしい。
- ・ 年金だけで入居できる軽費老人施設を充実してほしい。在宅での看護は困難だと思う。
- ・ 住まいの補修が必要な時に、信頼できる業者を紹介してもらえるとよい。
- ・ 年金生活で公営住宅の家賃が高く、住宅費の援助があると助かる。今後も住み慣れた地域で暮らしたい。
- ・ 団地に長く住んでいるが、今後住まいに不安がある。以前市役所に助けを求めても支援を受けられなかった経験がある。

【要支援・事業対象者】

- ・ 公営高齢者住宅の設置。特養老人ホームのほか、要介護者でなくても独居老人等が利用できる高齢者用住宅を設置してほしい。
- ・ 年金内で入居できる施設が少なすぎる。空いているマンション等を利用し、年金の少ない人でも入居できるように進めてほしい。
- ・ サービス付きホームに入所している。自分でできることはなるべくしたいが、ホームにできるだけ金銭的な補助をお願いしたい。

- ・ 福祉施設に入りたいが、年金で支払える施設が少なく困っている。要支援でも安く入居できる施設を紹介してほしい。
- ・ 住宅街にコンビニのようなものがあると、駅前まで行けない高齢者も助かる。
- ・ 一人暮らしは不安。
- ・ 年金額が低く施設入所が困難と聞き不安。市の制度が、一人の高齢者でも安心して生活できるよう向上してほしい。
- ・ 習志野市も高齢者の方が多く大変だと思います。デイサービスへ通う場所を多く増やして欲しいです。
- ・ 一人住まいの人が何かあった時にすぐ入所できる、安い遺族年金で入所できる施設。順番を待たずに入所できる施設。
- ・ 老人ホームなど充実してほしい。
- ・ 夫が89才で自分のことができず、施設に入院している。月30万円くらいかかり、私もなるべく顔を見せるようにしている。
- ・ 年金で入れる老人ホームをもっと作って欲しい。

⑤ 経済的負担・支援について

【一般高齢者】

- ・ 非課税より少し所得がある独身の年金受給者が支援を受けられないのは不公平である。
- ・ 年金はわずかなのに生活費や施設費が高すぎる。もっと生活しやすい世の中になってほしい。
- ・ 年金を増やしてほしい。
- ・ 働く意志のある高齢者が働けるようにしてほしい。
- ・ 年金だけでは家賃や光熱費等しか賄えず、預貯金を切り崩している。生活破綻や認知症への不安があり、経済的相談や支援を利用したい。
- ・ 低所得のため、これ以上保険料が高くないでほしい。
- ・ 人間ドックの費用助成を増額してほしい。
- ・ 高齢者の医療費1割負担はありがたい。今後3割になると、年金生活者には厳しい。
- ・ 高齢者に対する国民健康保険が高すぎる。
- ・ 年金生活者の市民税は何とかしてほしい。
- ・ 非課税者だけでなく、ボーダーラインぎりぎりの人にも補助が必要。タクシー券などは必要な人に安く販売するなど、平等になるよう見直してほしい。
- ・ 75才以上の年金生活者でも副収入がある人は対象外にし、医療費は年金生活者一律ではなく高額収入者から徴収すべき。
- ・ 医療費の無料化。

【要支援・事業対象者】

- ・ 支援金申請等は、できれば申請なしで利用できると助かる。自分が該当しているか分からない。
- ・ 市民税を払っている人にこそ、何か利用できるサービスを構築してほしい。
- ・ 買い物支払いの代行など、お金に関する支援ができないことが多いので、何とかできることを増やしてほしい。
- ・ 市民税が高すぎる。
- ・ 非課税世帯にタクシー券が交付されているが、とても元気な人に交付されていると納得がいかない。
- ・ 身辺整理のため粗大ゴミを出したが、支援1では行ってもらえず、お金を出して処理した。生活面の負担が大きすぎる。
- ・ 地域クーポン券などの住民サービスが習志野市では行われておらず、アンケートも「やっている感」に見え、税金の無駄遣いに感じます。
- ・ 妻を介護していますが、自分も聴覚障害があり、コミュニケーションに支障があります。税制上の優遇措置がもう少し上がればと思います。
- ・ 介護制度を利用している人への手厚いサービスに疑問を感じることもある。未利用者で低所得でも努力している高齢者も多く、財政難の中で貯蓄のある人への支援に疑問を感じる。
- ・ 年金所得のみでも医療費負担が1割から2割になった。年収200万円が高所得者扱いになることに不安がある。

⑥ 交流・居場所

【一般高齢者】

- ・ インターネットを利用したボランティア活動を長年しているが、今回の設問は「地域で」「会って」など対面前提が多く、ネット上の交流が無視されているようで悲しかった。
- ・ てんとうむし体操は非常によいが、体操の合間に団らんやレクリエーションを入れると、地域の方とのつながりが増えると思う。
- ・ シニア体操後に小さなカフェがあれば、参加者同士でおしゃべりや情報交換ができ、外出意欲にもつながると思う。
- ・ 昼食、お茶飲み、体操、入浴などを自由に楽しめる高齢者の集いの場があれば、話もでき体も動かせるので利用したい。
- ・ 福祉センターなどの見学会や、人と交流できる機会がほしい。昔話やスポーツなども楽しみたい。
- ・ 高齢者向けフィットネスはゆっくりすぎるため、もう少し動き回って楽しめるエアロビ的なものを作ってほしい。
- ・ 高齢者対象の体操教室は役に立つが、外部委託で経費がかかっている。市民ボランティアを指導者とし、身近な施設で週1回以上行えば、より強力な健康サポートになると思う。

第2章 一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査

- ・ 身近に参加できる場所があれば参加しやすい。地域のつながりが希薄化しているので、町内会の存在を見直せればと思う。
- ・ 交流する場所、認知症予防、健康体操等の教室を開設してほしい。有料でもよい。
- ・ 高齢者だけに特化しすぎるより、若い人や中高年も混ざっている場の方が参加しやすいと思う。
- ・ ボランティアとして運動会やボッチャ等の指導を手伝っている。人と接することが自分のためにもなるので続けたい。
- ・ 近隣にスーパーがなく買い物が大変。公共用のベンチや椅子も少なく、夏の猛暑を考えると住みにくい。
- ・ 高齢者向けに特化したサービスより、若い人も一緒に参加できる活動の方がよい。

【要支援・事業対象者】

- ・ 高齢者の悩みや希望など、どんな些細なことでもいつでも聞いて相談に乗ってくれる受け皿を設けてほしい。
- ・ 高齢者と現役世代の垣根を越えた施策を進め、誰もが楽しく幸せを共有できる習志野を目指してほしい。
- ・ 一人暮らしで寂しいため、近所の方に声かけをしてもらえると明るく楽しい時間が過ごせると思う。
- ・ 地域によって活動が違うので、なるべく年齢差がない人たちで決めてほしい。人柄もよく見てほしい。
- ・ 地域の中に交流できる場を作ることができたらうれしい。
- ・ 息子夫婦が近くに住んでいて安心だが、日中は不安があり、近所の人や友人の声かけが心強い。
- ・ 84才の独り生活者として、近所の方が姿を見せなくなると気がかりでも訪ねようがなく、住宅街の人間関係の薄さにとまどっています。
- ・ 習志野市に引越して4年目で、谷津コミュニティセンターや書道サークルを通じて楽しく過ごしており、老若男女が生き生き過ごせる街づくりを期待しています。
- ・ 高齢者が安心して住める習志野市をよろしくお願いします。
- ・ 習志野市は高齢者への支援が多数あり、ありがたいと思っています。自分でしっかり老後を生き抜き、子供たちに迷惑をかけたくないです。
- ・ 救急車で入院し退院してから閉じこもり、寝たきりにならないよう、つながりをつけて交流を図ることが大切です。対象者の身になって平な気持ちで接し、まず聞くことが大切だと思います。

⑦ 制度・運用への不満

【一般高齢者】

- ・ 手続きの書類は、分かりやすく簡素化してほしい。
- ・ 駐輪場のネット申請が便利になった。窓口の合理化をさらに進め、自宅でできる申請を増やしてほしい。
- ・ 高齢者福祉について他自治体との違いや、理想の形、欠けているものを市民に投げかけてはどうか。
- ・ 高齢者施策を町内会等の地域活動と結び付けたい。
- ・ 住民が言いたいこと、知ってほしいことを行政に容易に伝えられる仕組みを作してほしい。
- ・ 高齢者保健福祉施策について、他自治体との違いや課題を市民に投げかけてはどうか。
- ・ 死別の人は非課税で支援を受けられるようだが、離婚して働いてきた私は市県民税を支払い、タクシー券等の支援が受けられない。年収で区別するなら納得できますが、死別と離婚の差別は何でしょうか。
- ・ 安心して過ごすことができる社会を必ず実現してほしい。
- ・ 現在は元気で不自由はないが、ゆくゆくはお世話になると思うのでよろしくお願ひしたい。
- ・ 他の市町村の施策を学んで、可能な限り取り入れてほしい。
- ・ 子育て支援も大切だが、高齢者の支援も同等にほしい。
- ・ 孤独防止のコミュニティ充実、ペットや子どもとの交流、フリー乗降バス、主治医体制などが必要であり、疾病予防施策を優先してほしい。
- ・ 単身高齢者で身寄りのない人を、認知症になる前から市でサポートし、死後の手続き等がスムーズになる施策を望む。

【要支援・事業対象者】

- ・ 現状にほぼ満足している。今より体の状態が悪化することは考えたくない。考えることを避けている。
- ・ どんな相談にもやさしく対応してくださることに感謝している。今後も気軽に話を聞いていただきたい。
- ・ 要支援2だが、転入前との認定基準の違いが分からない。ケアプランナーの考え一つで決定しているのか。
- ・ 市で実施しているスポーツ関係の募集に対して、要支援を受けている人は利用できないとは残念です。意欲的に参加したいのに本当に残念だと思います。
- ・ 特にありません。習志野市や高齢者相談センターの方はよくやってくれていると思いますが、介護の基準には疑問があります。
- ・ 娘と暮らしていて、いろいろな施策が受けられないことがあります。
- ・ 介護制度を利用している人への手厚いサービスに疑問を感じることもある。未利用者で低所得でも努力している高齢者も多く、財政難の中で貯蓄のある人への支援に疑問を感じる。

- ・ 要支援から要介護になるとケアマネジャーが変更になる点に疑問があります。慣れた担当者の継続が望ましいと思います。
- ・ 身寄りのない高齢者に対しての入院、入所時の公的な身元保証制度を求めます。
- ・ 増加するひとりぼっちの老人のため、身元保証、葬式、死後の事務処理、家具等の処分をお願いします。

⑧ 本調査へのご意見

【一般高齢者】

- ・ 資料到着時点でパソコン・スマホで回答できず、その後もパソコンでアクセスできなかったため、案内や確認体制を改善してほしい。
- ・ 本アンケート調査の対象者が要介護者なのかそうではないのか分からず、回答に困る質問が多い。質問の改善を望む。
- ・ 健康で働いているためアンケートの内容があまりピンとこない。対象年齢を上げるなど工夫してほしい。
- ・ 質問が多すぎる。もっと簡単な質問にしてほしい。
- ・ アンケートが老後や今後の生活について考えるきっかけになった。
- ・ アンケートを通して、高齢の日々には様々な事柄があると実感した。今後の日常を大切にし、自分にできることを求めていきたい。
- ・ アンケートの内容が、高齢者の生活向上に反映されることを願っている。
- ・ アンケート調査の結果・分析を通して、より充実した効果的・効率的なサービスが構築されることを期待している。
- ・ 調査結果が精神論だけでなく、具体的な活動や仕組みの向上に反映されることを望む。
- ・ 回答したことに対して何かあってほしい。
- ・ このアンケートで市の支援を知り、必要な時は市に相談すればよいと安心できた。
- ・ 高齢者対策を色々考えてくださってありがたい。今後お世話になると思うので、よろしくお願いします。
- ・ Web 回答の有効日が依頼書に記載されておらず不親切だった。2 年連続で対象となったため、重複排除も検討してほしい。
- ・ 習志野市の事業のアンケートなのに、小山市に依頼しているのが理解できない。
- ・ 設問に分かりにくい箇所があり、手書きと PC で相違する箇所もある。アンケートの実施方法を改善してほしい。
- ・ 市民の高齢者保健福祉政策の調査を民間会社に委託することに疑問がある。市の職員が足を使って調査すべきだと思う。
- ・ 今回のアンケートを第三者の事業者に依頼していることに疑問がある。市税の使い方を再検討し、事の重要性を軽く考えないでほしい。

【要支援・事業対象者】

- ・ 質問が多すぎて適当に答えてしまった。簡潔にしてほしい。
- ・ 56 歳です。アンケートの最初の回答欄に選択肢がありませんでした。
- ・ 質問が多すぎて最後まで書くのに疲れた。もう少し端的で分かりやすく、○×だけでも答えられる方法があるとよい。
- ・ 質問が多すぎ、個人情報に関する内容も多かったが、情報漏洩は大丈夫なのか。
- ・ この種のアンケートは重要だが、超高齢者は理解力低下で十分な回答になっているか疑問。ケアマネジャー同席での回答も検討してほしい。
- ・ 全体的に答えをどうすればよいのか、分かりにくい設問に即答できませんでした。私の回答が役に立つのか不安です。
- ・ 今回このような調査を行い、今後の反映に期待しています。内容については当事者と介護士で理解に悩むところがありました。
- ・ 今はまだ健康なため、実感に乏しく回答に困ったところもありました。
- ・ 難しい問題だと思います。要望があってもボランティアだけでは無理なのではないでしょうか。
- ・ 今回、習志野市の支援がいろいろあると分かり、ならしのオレンジテラスも利用したいと思います。

第3章 在宅要介護認定者調査

1. 回答者属性

(1) 回答者

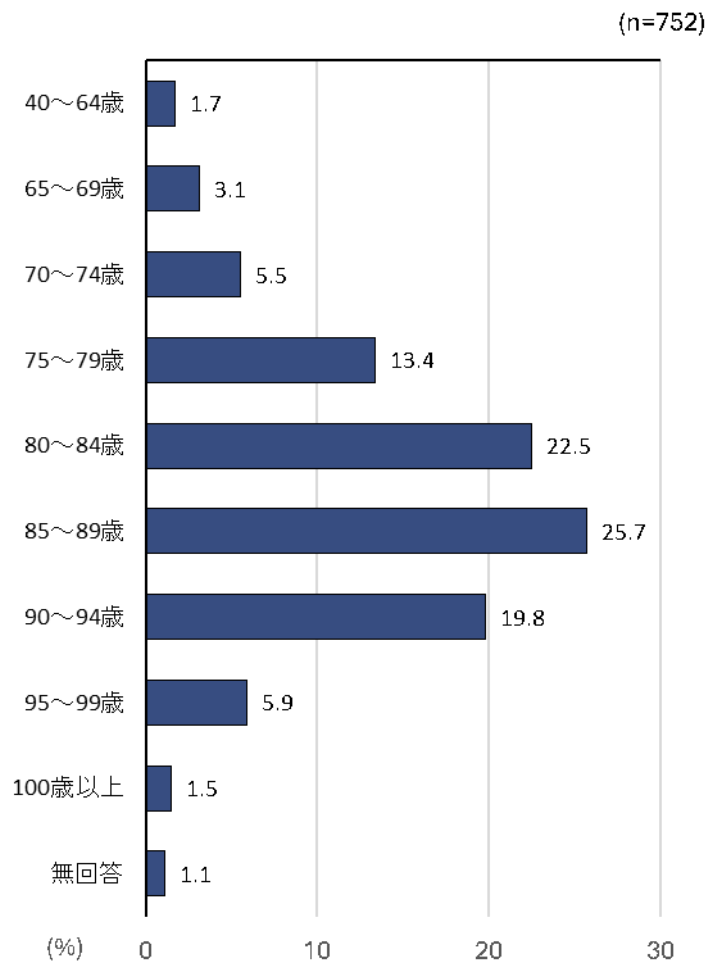
(単位:%)

	あて名 のご本 人	あて名 の方の配偶 者(夫・ 妻)	あて名 の方のこども	あて名 の方の親族	友人・知 人	ケア マネ ジャ ー	施設 の職 員	ホー ムヘル パー	その 他	無回 答
在宅要介護認定者 (回答者数 752)	36.3	16.2	31.9	6.8	0.0	0.8	1.6	0.0	2.5	3.9

(2) 年齢

あなたの年齢をお答えください。

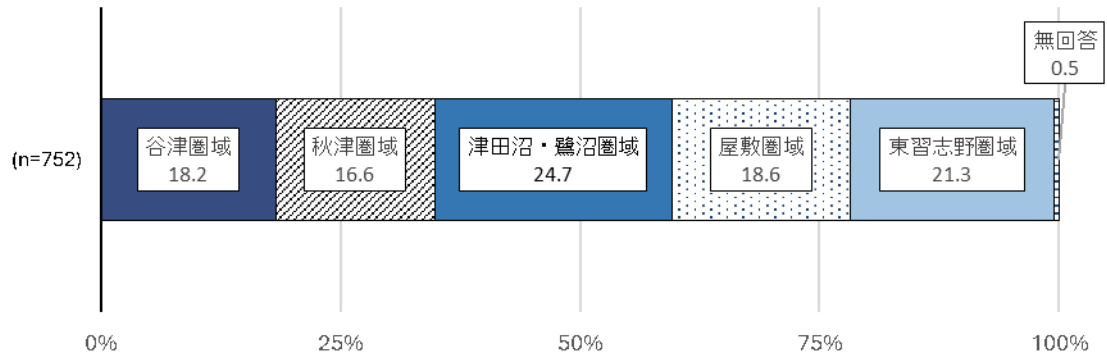
85～89 歳が 25.7%と最も高く、次いで 80～84 歳が 22.5%、90～94 歳が 19.8%となっている。



(3) 居住地区

お住まいの地区名を教えてください。

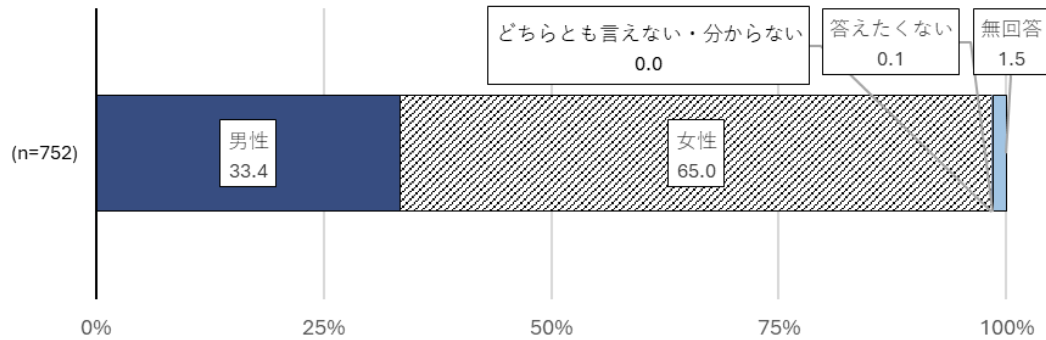
津田沼・鷺沼圏域が24.7%、東習志野圏域が21.3%と比較的高くなっている。



(4) 性別

あなたの性別をお答えください。

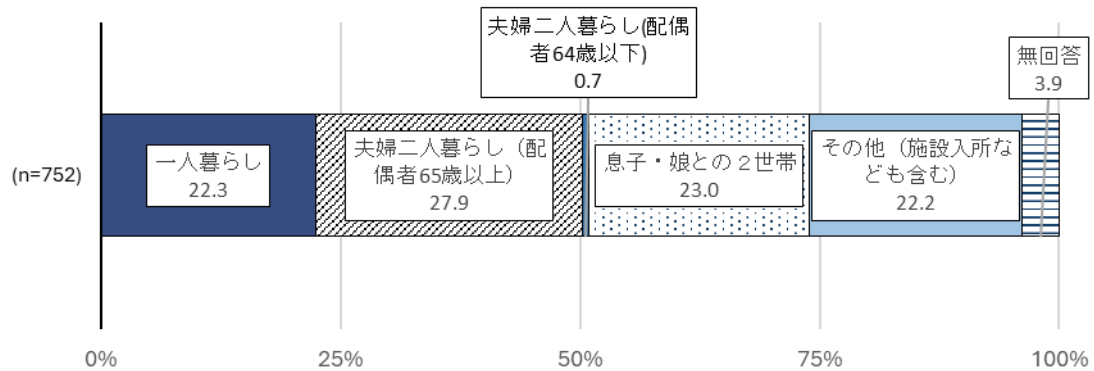
男性が33.4%、女性が65.0%で女性が多い。



(5) 家族構成

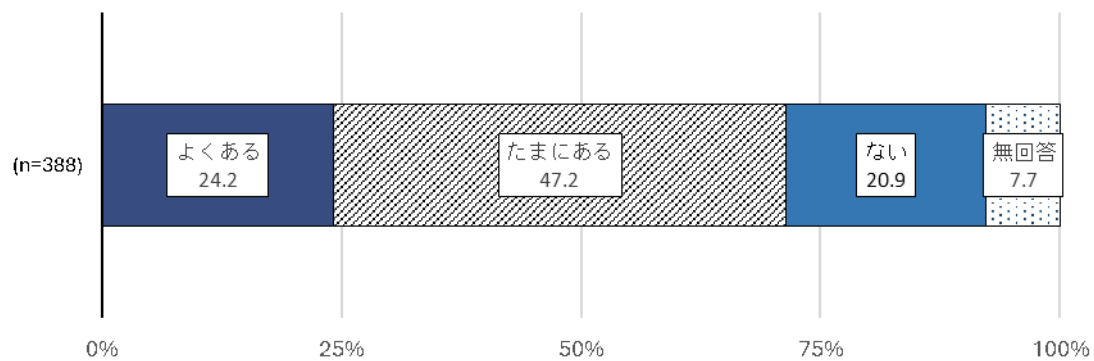
家族構成をお答えください。

「夫婦二人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 27.9%と最も高い。次いで、「息子・娘との2世帯」が 23.0%、「一人暮らし」が 22.3%となっている。



(ご家族と同居されている方)日中、一人になることがありますか。

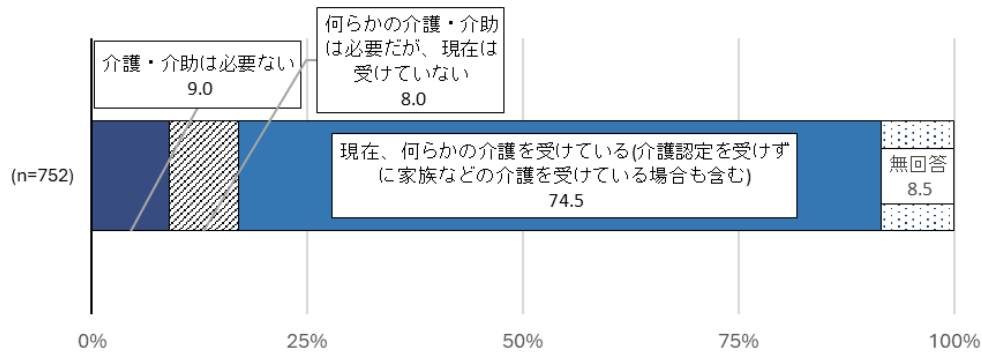
「たまにある」が 47.2%と最も高く、次いで「よくある」が 24.2%となっている。



(6) 介護・介助の状況

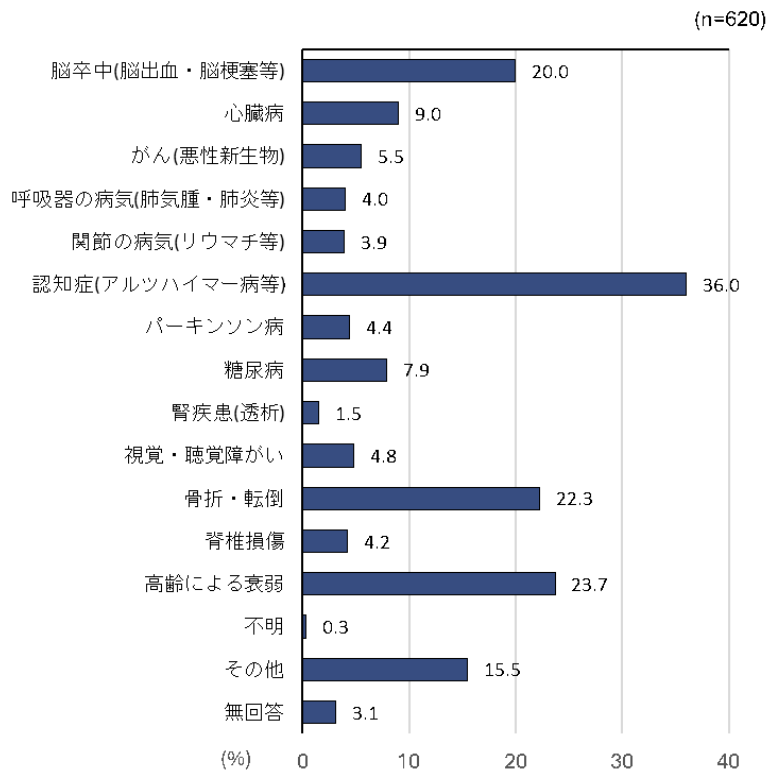
あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。

「現在、何らかの介護を受けている(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)」が74.5%で最も多く、次いで「介護・介助は必要ない」が9.0%となっている。



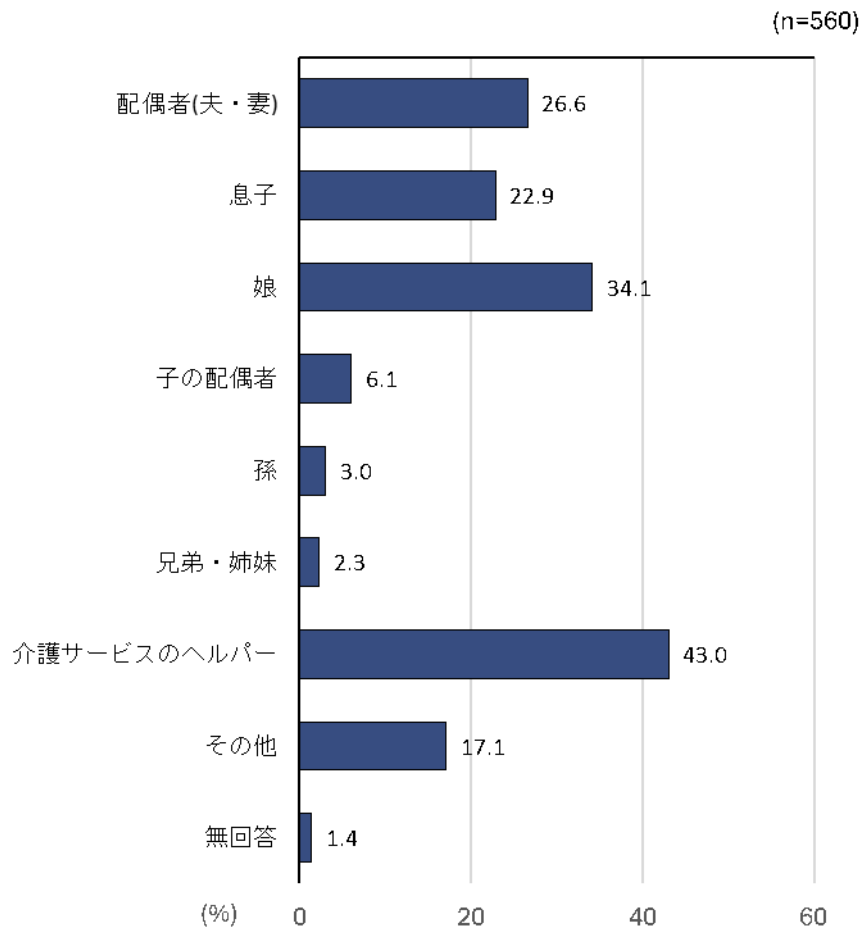
(介護・介助が必要な方)介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(○はいくつでも)

「認知症(アルツハイマー病等)」が36.0%で最も多く、次いで「高齢による衰弱」が23.7%となっている。その他、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(20.0%)、「骨折・転倒」(22.3%)も比較的高くなっている。



(介護・介助が必要な方)主にどなたの介護・介助を受けていますか。(〇はいくつでも)

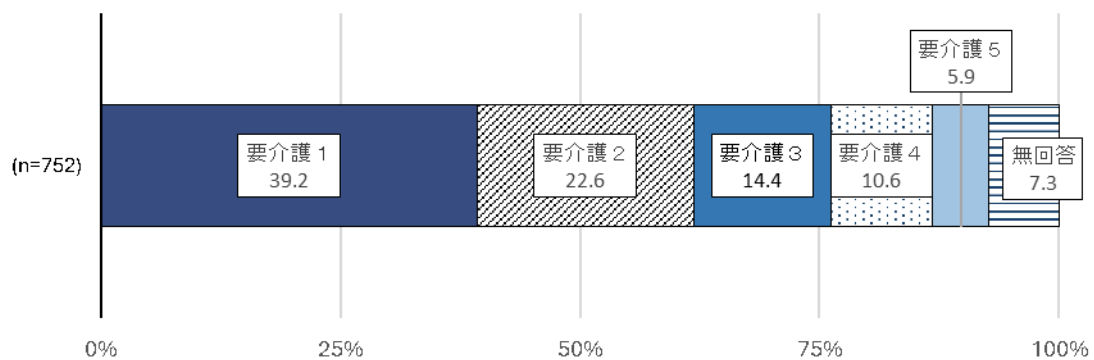
「介護サービスのヘルパー」が43.0%で最も多く、次いで「娘」が34.1%となっている。



(7) 認定区分

あなたの認定区分は次のどれにあたりますか。

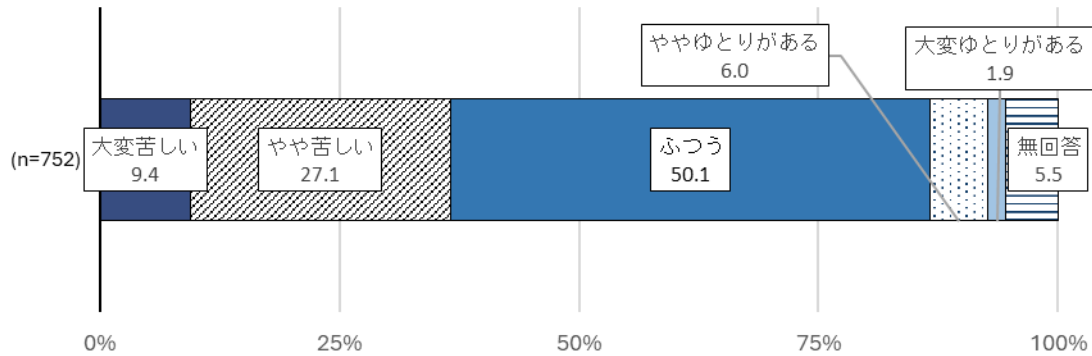
「要介護1」が39.2%で最も多く、次いで「要介護2」が22.6%となっている。



(8) 経済状況

現在の暮らしの状況を経済的に見てどう感じていますか。

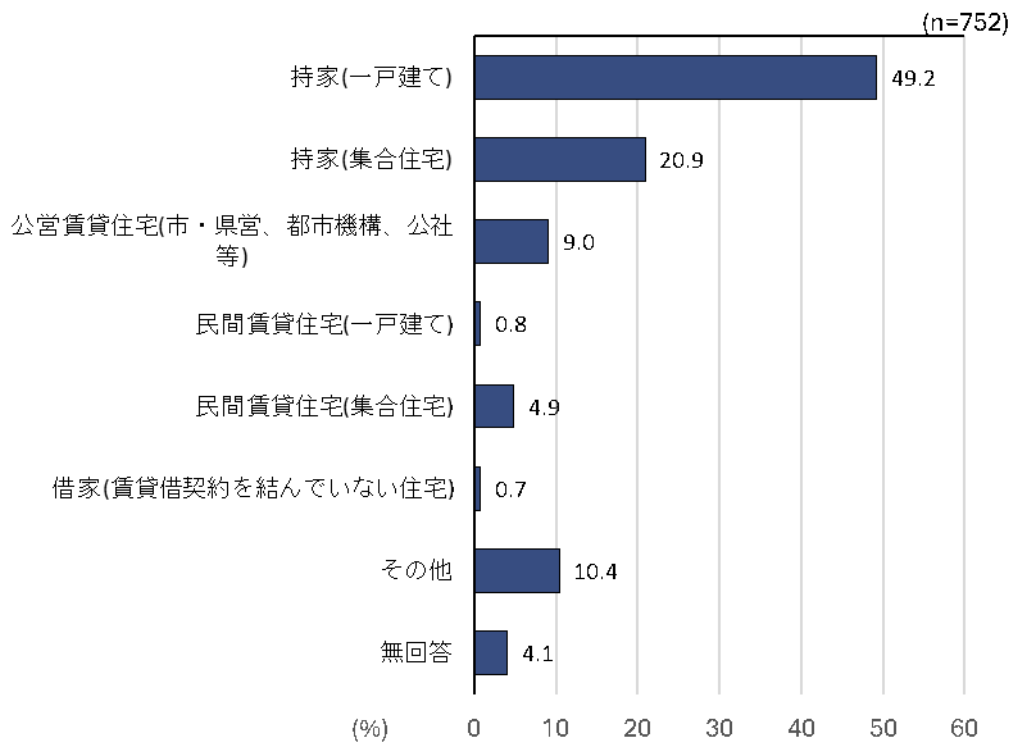
「ふつう」が 50.1%で最も多く、次いで「やや苦しい」が 27.1%となっている。



(9) 住まいの形態

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

「持家(一戸建て)」が 49.2%で最も多く、次いで「持家(集合住宅)」が 20.9%となっている。

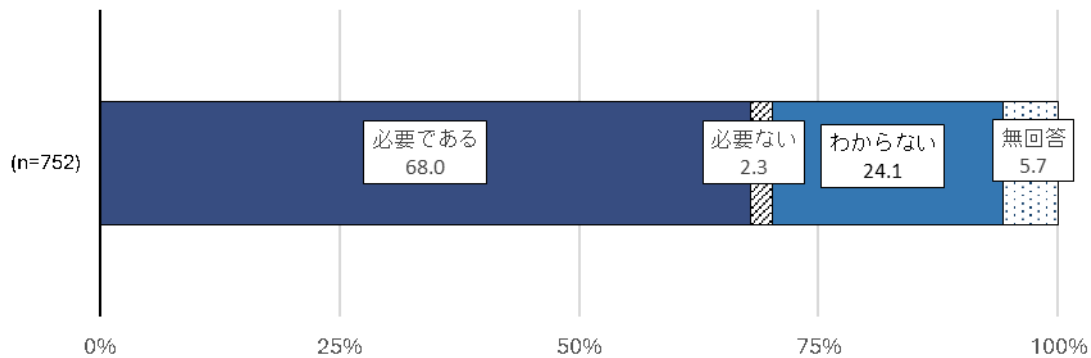


2. 地域交流・ボランティアについて

(1) 地域における支え合いの意識

独居世帯や高齢者世帯が近年増えていますが、隣近所や地域で高齢者を支えることが必要だと思いますか。

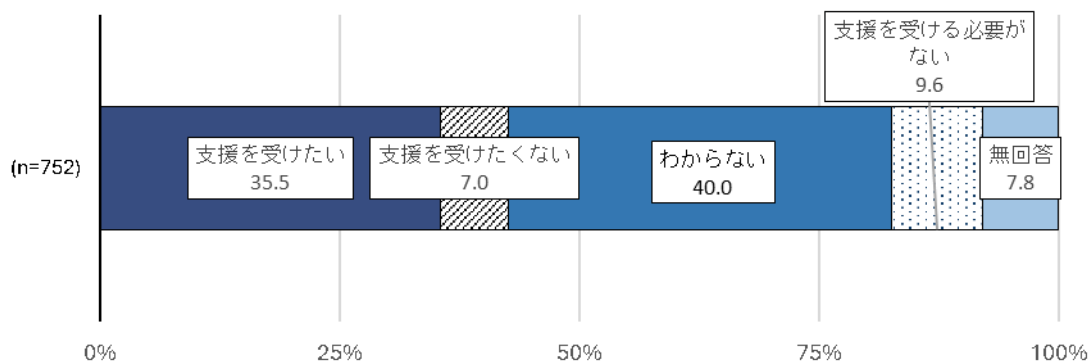
「必要である」が68.0%で最も多く、次いで「わからない」が24.1%となっている。



(2) ボランティア支援の利用意向

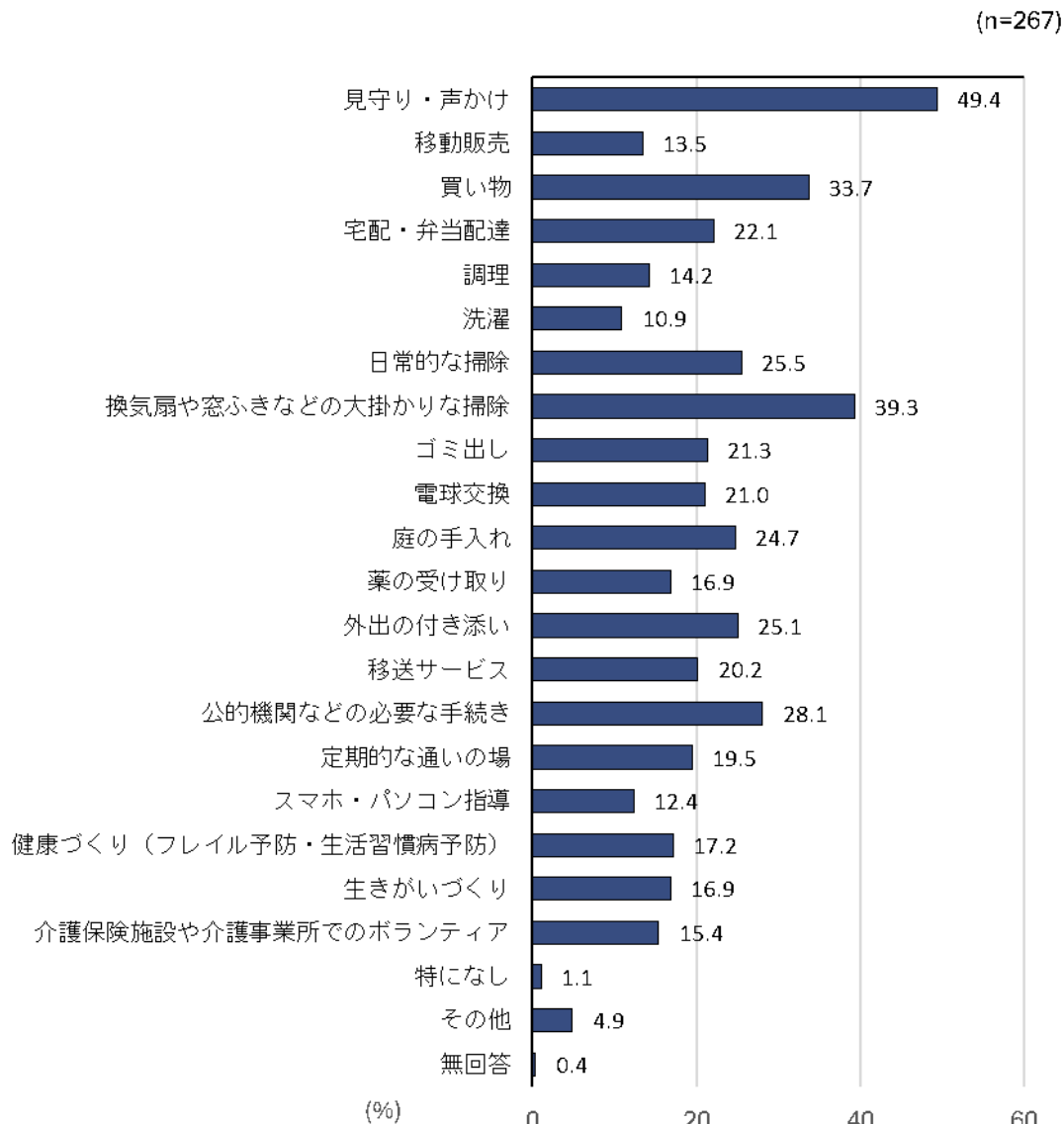
高齢者を支える地域のボランティア活動があれば、支援を受けてみたいと思いますか。

「わからない」が40.0%で最も多く、次いで「支援を受けたい」が35.5%となっている。



(「支援を受けたい」を選択)高齢者を支える地域のボランティア活動で、どの支援を利用したいですか。
(○はいくつでも)

「見守り・声かけ」が49.4%で最も多く、次いで「換気扇や窓ふきなどの大掛かりな掃除」が39.3%となっている。その他、「買い物」(33.7%)、「公的機関などの必要な手続き」(28.1%)が比較的高くなっている。

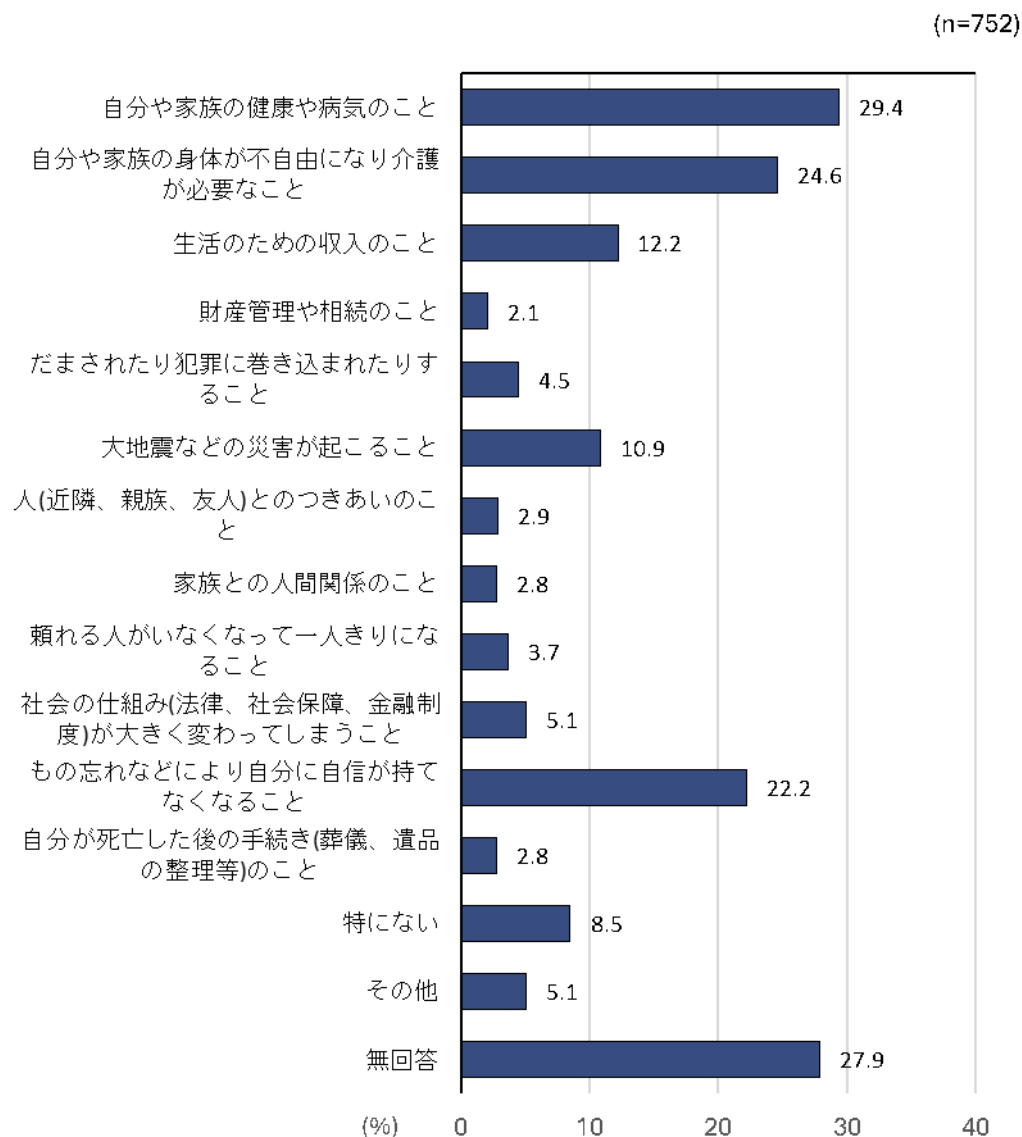


3. 日常生活で困っていることや将来の不安について

現在困っていることと将来についての不安はありますか。あてはまる欄に○を付けてください。(それぞれ○は3つまで)

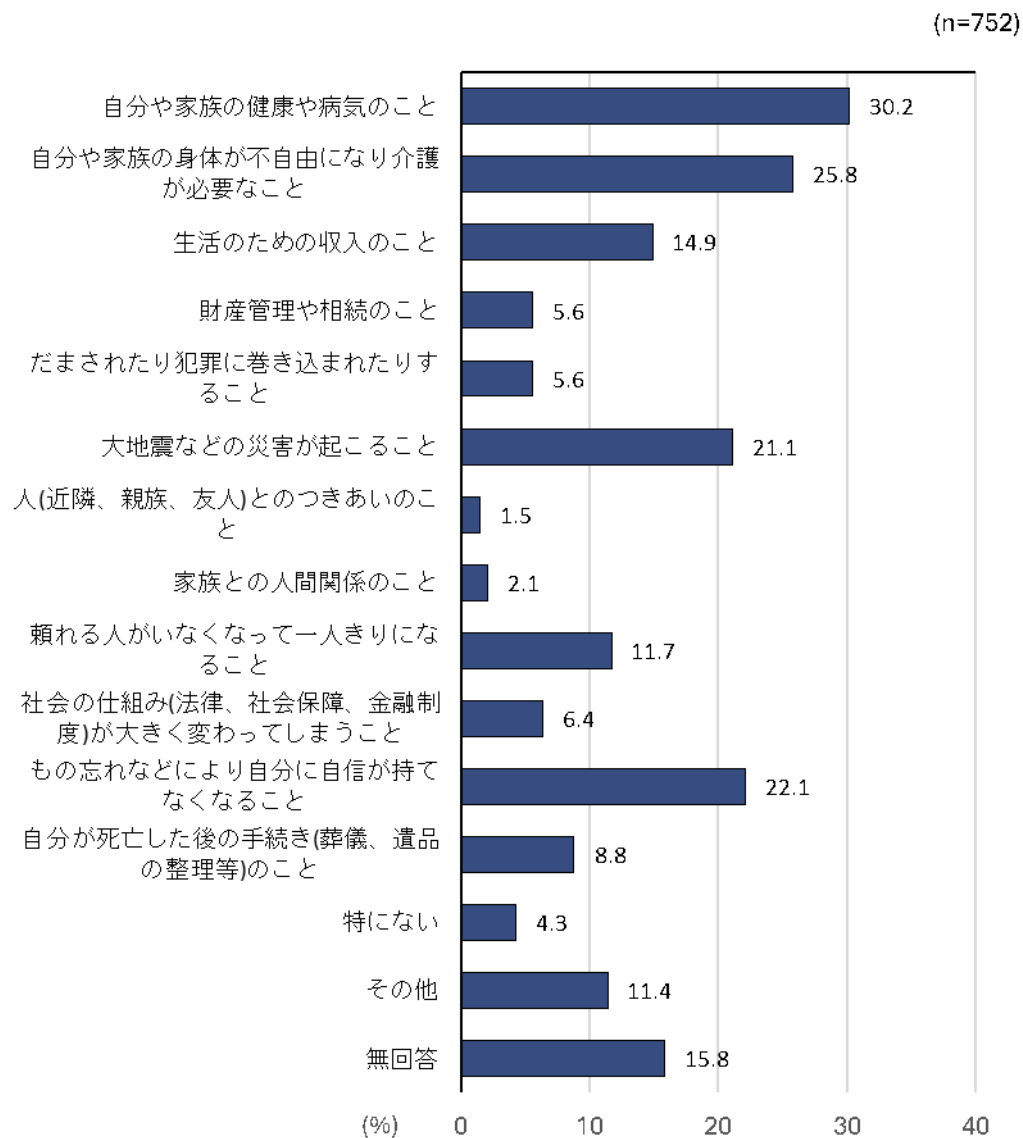
(1) 困っていること

「自分や家族の健康や病気のこと」が29.4%で最も多く、次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」が24.6%となっている。その他、「もの忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」(22.2%)が比較的高くなっている。



(2) 将来についての不安

「自分や家族の健康や病気のこと」が30.2%で最も多く、次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」が25.8%となっている。その他、「もの忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」(22.1%)、「大地震などの災害が起こること」(21.1%)が比較的高くなっている。

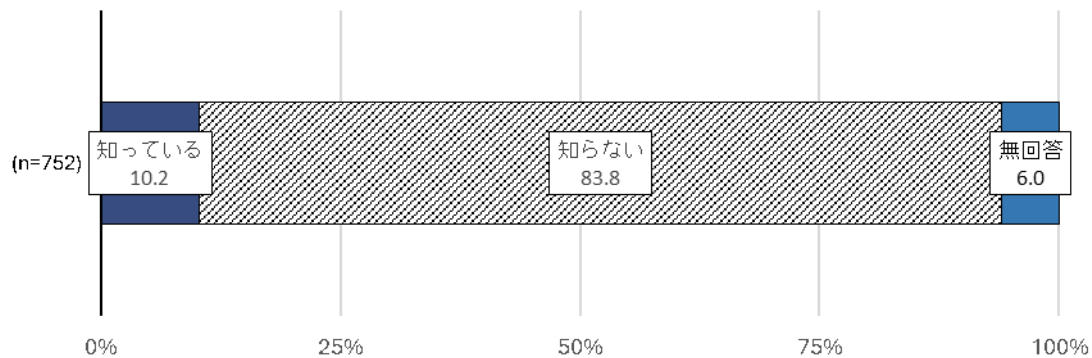


4. 将来への備え等について

(1) 人生会議・ACP の認知度

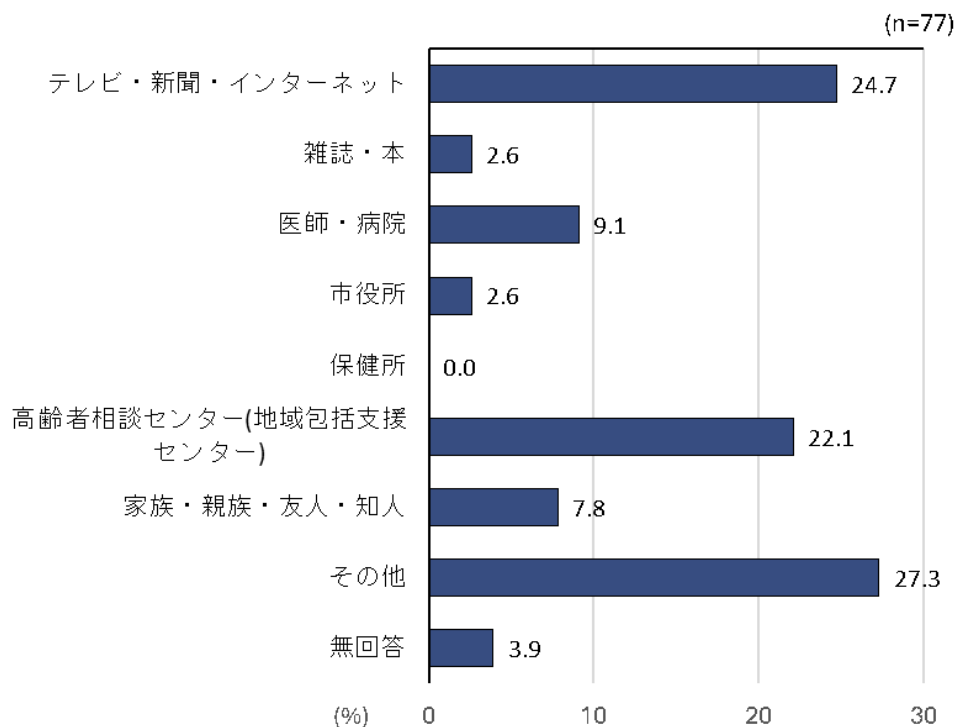
人生会議またはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)という言葉を知っていますか。

「知らない」が 83.8%で最も多く、次いで「知っている」が 10.2%となっている。



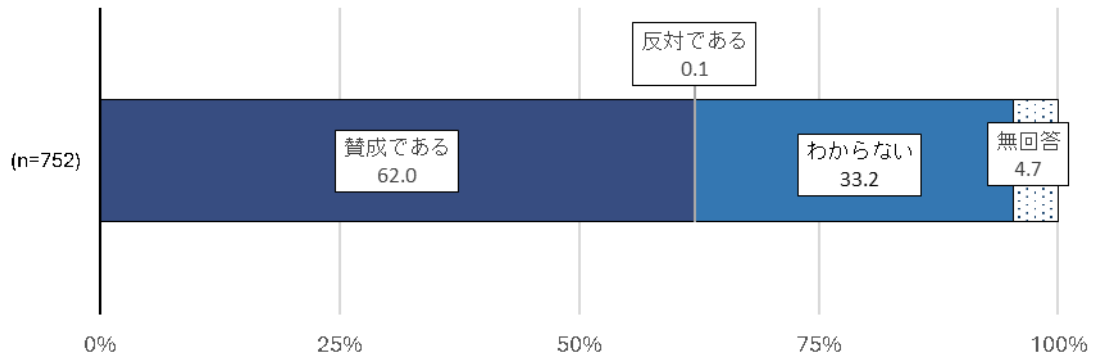
(「知っている」を選択)(1)―1 ACP という言葉をどこで知りましたか。

「テレビ・新聞・インターネット」が 24.7%と最も高く、次いで「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」が 22.1%となっている。



人生の最終段階の医療・療養について、あなたの意思に沿った医療・療養を受けるためには、家族等や医療・ケアチームとあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことが重要といわれています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

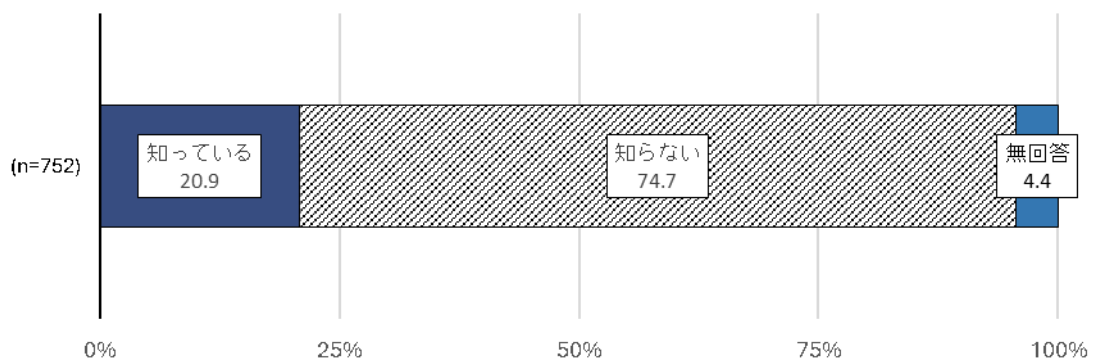
「賛成である」が62.0%で最も多く、次いで「わからない」が33.2%となっている。



(2) 新しい認知症観の認知度

令和6年1月に認知症基本法が策定され、その中の考え方として「新しい認知症観」の普及を推進しています。「新しい認知症観」を知っていますか。

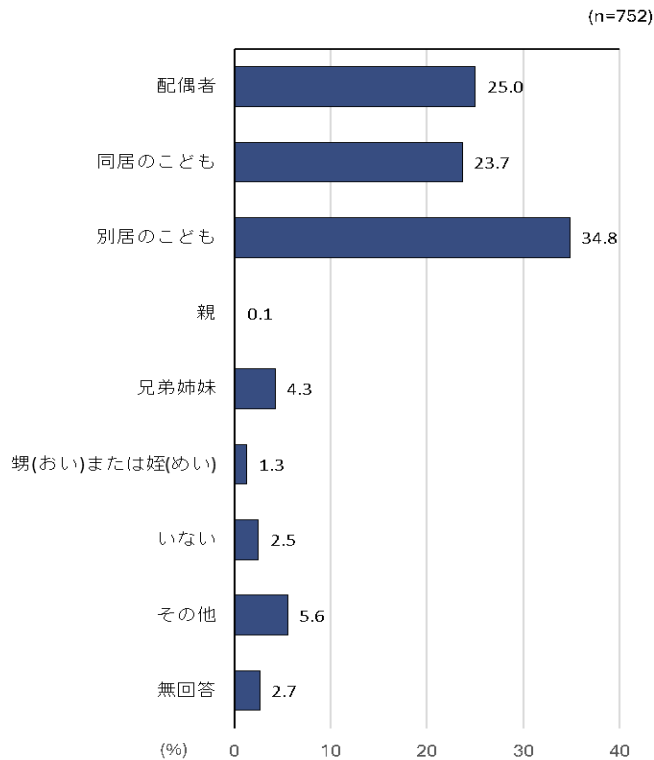
「知らない」が74.7%で最も多く、次いで「知っている」が20.9%となっている。



(3) 緊急時の意思決定・金銭管理を担う人の有無

・あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)、治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいますか。いる場合は、主にどなたですか。(〇は1つ)

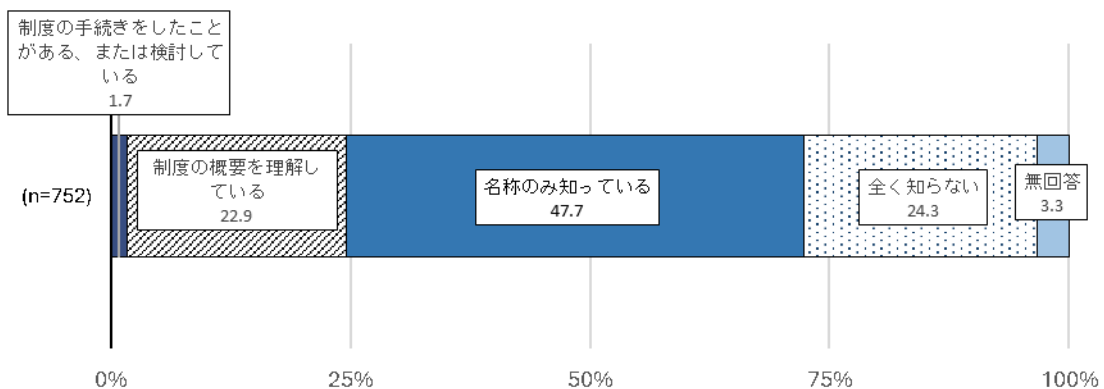
「別居のこども」が34.8%で最も多く、次いで「配偶者」が25.0%となっている。



(4) 成年後見制度の認知度

あなたは「成年後見制度」※について、どの程度ご存知ですか。(〇は1つ)

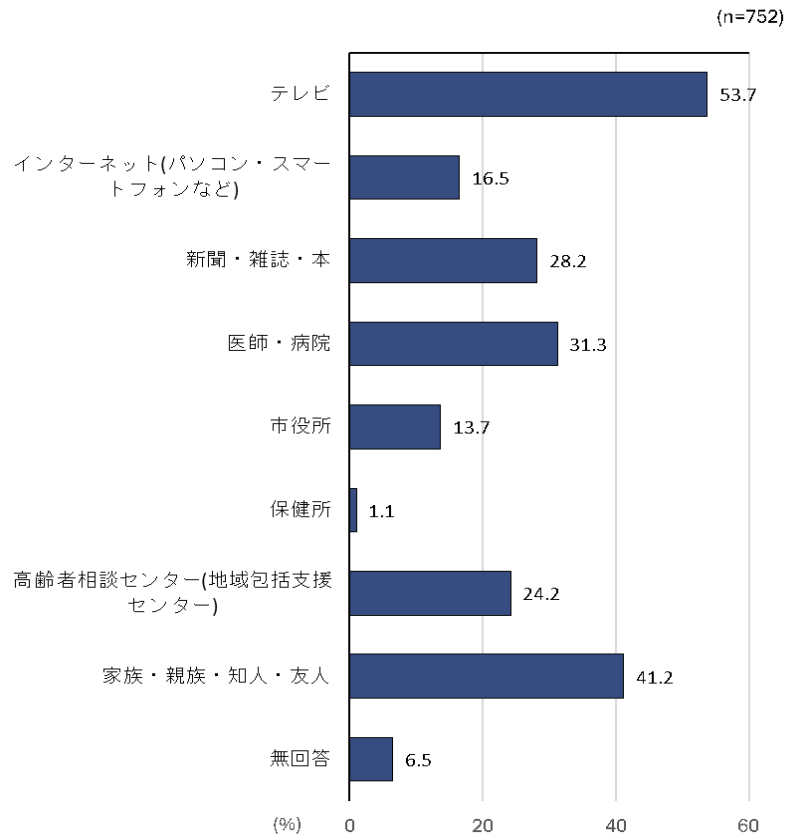
「名称のみ知っている」が47.7%で最も多く、次いで「全く知らない」が24.3%となっている。



(5) 医療・介護情報の入手先

医療や介護についての知識や情報を、何から得ていますか。(〇はいくつでも)

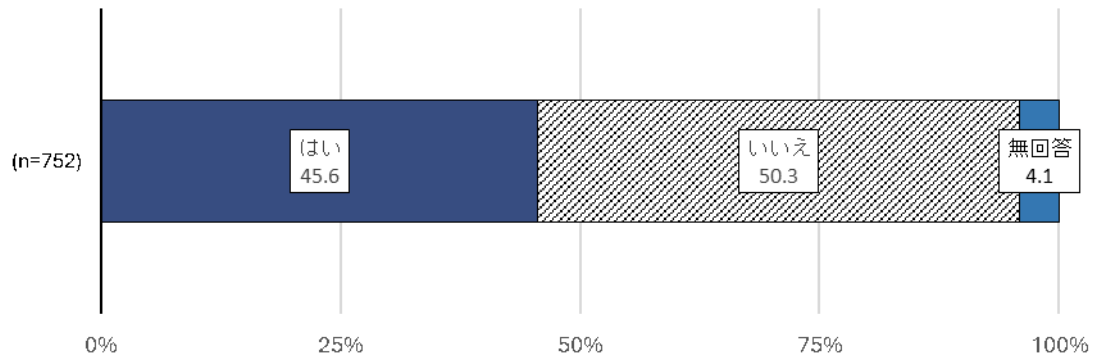
「テレビ」が53.7%で最も多く、次いで「家族・親族・知人・友人」が41.2%となっている。その他、「医師・病院」(31.3%)、「新聞・雑誌・本」(28.2%)が比較的高くなっている。



(6) 認知症の有無(本人・家族)

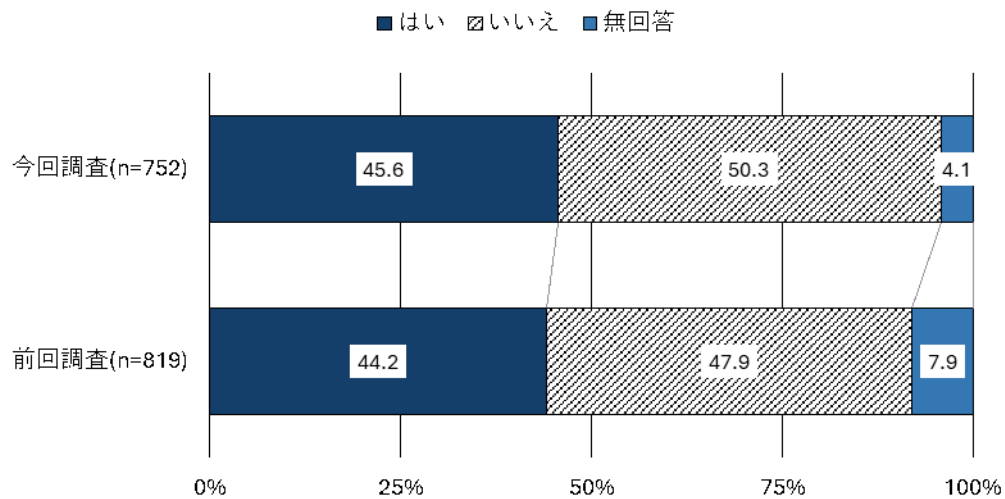
認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいませんか。

「いいえ」が 50.3%で最も多く、次いで「はい」が 45.6%となっている。



【経年比較】

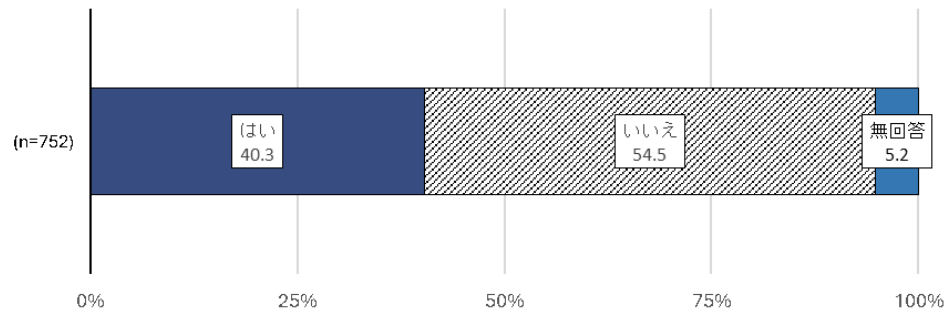
前回調査と比較しても概ね同程度の結果となっている。



(7) 認知症相談窓口の認知度

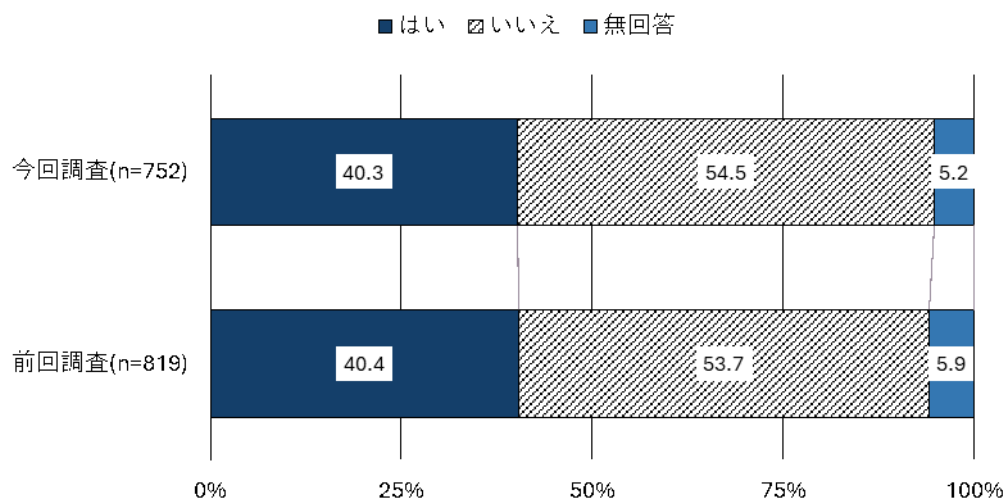
認知症に関する相談窓口を知っていますか。

「いいえ」が 54.5%で最も多く、次いで「はい」が 40.3%となっている。



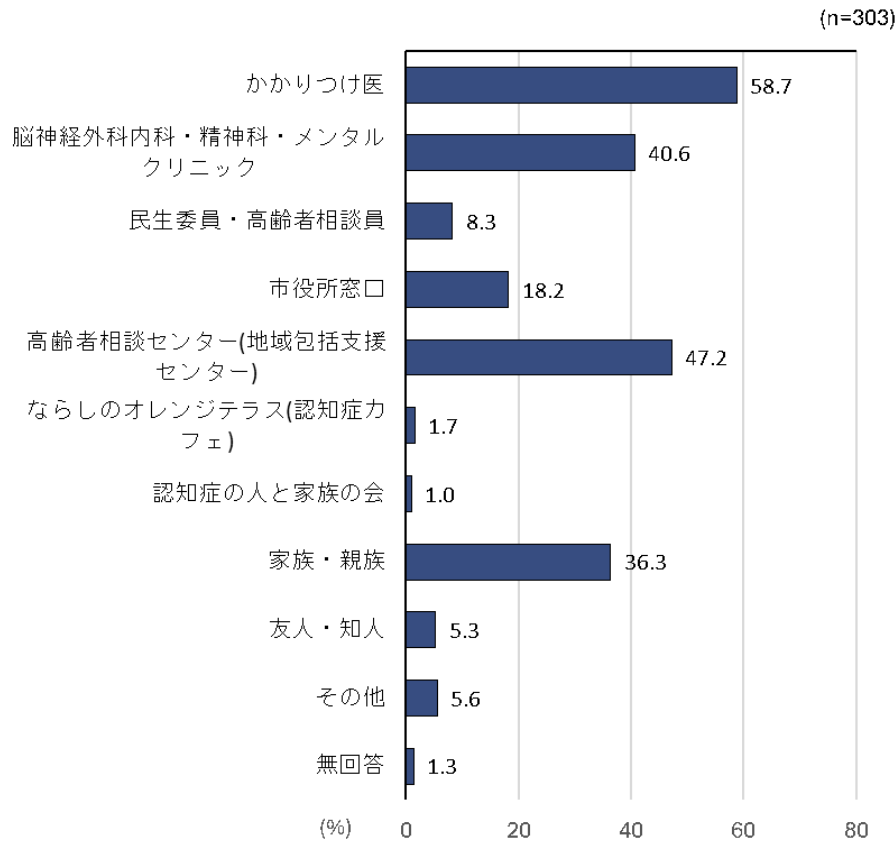
【経年比較】

前回調査と比較しても概ね同程度の結果となっている。



（「はい」を選択された方）（8）－1 どこに相談すると思いますか、または相談しましたか。（○はいくつでも）

「かかりつけ医」が58.7%で最も多く、次いで「高齢者相談センター（地域包括支援センター）」が47.2%となっている。その他、「脳神経外科内科・精神科・メンタルクリニック」（40.6%）、「家族・親族」（36.3%）が比較的高くなっている。

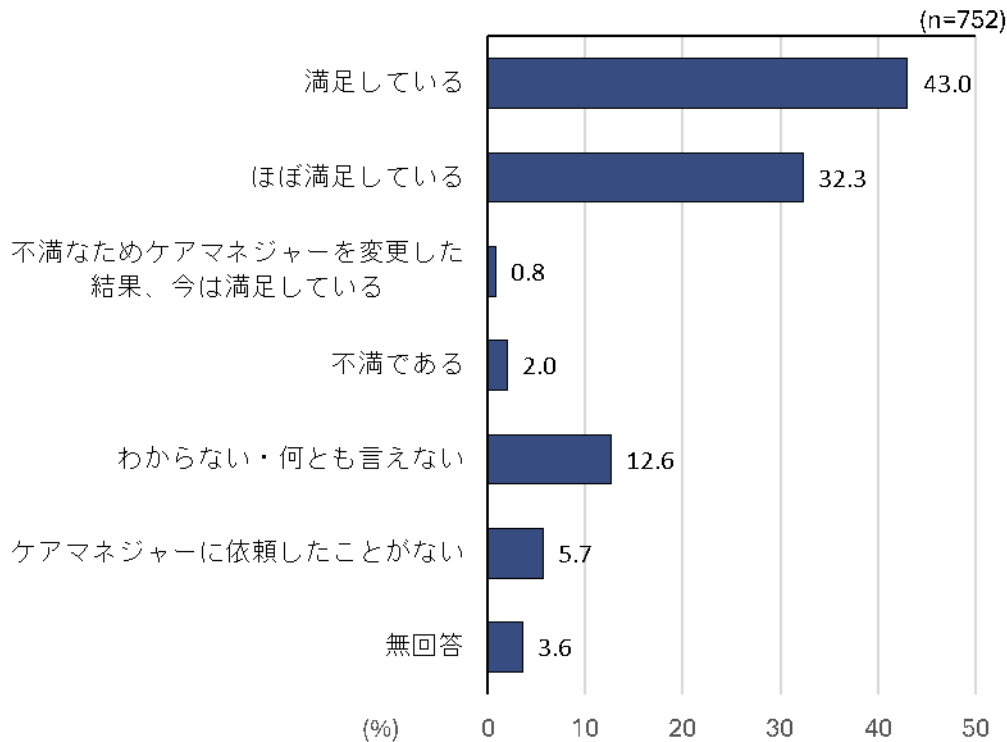


5. 介護保険の利用について

(1) ケアマネジャー対応の満足度

ケアマネジャーの対応に満足していますか。

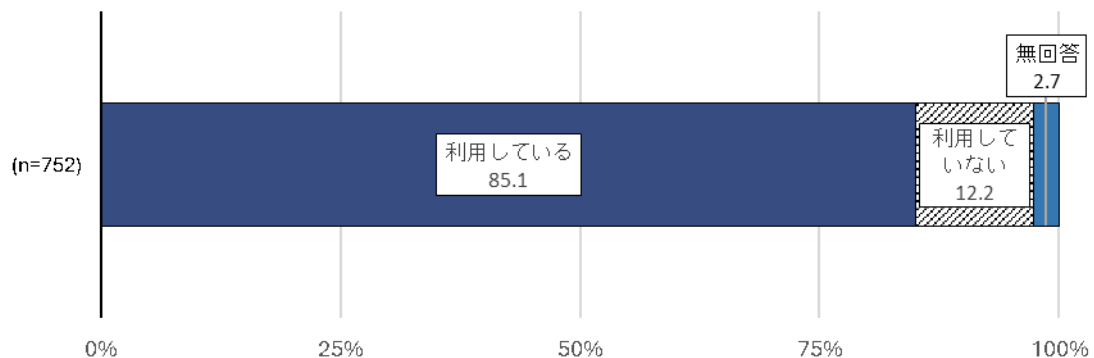
「満足している」が43.0%で最も多く、次いで「ほぼ満足している」が32.3%となっている。



(2) 介護保険サービス利用状況

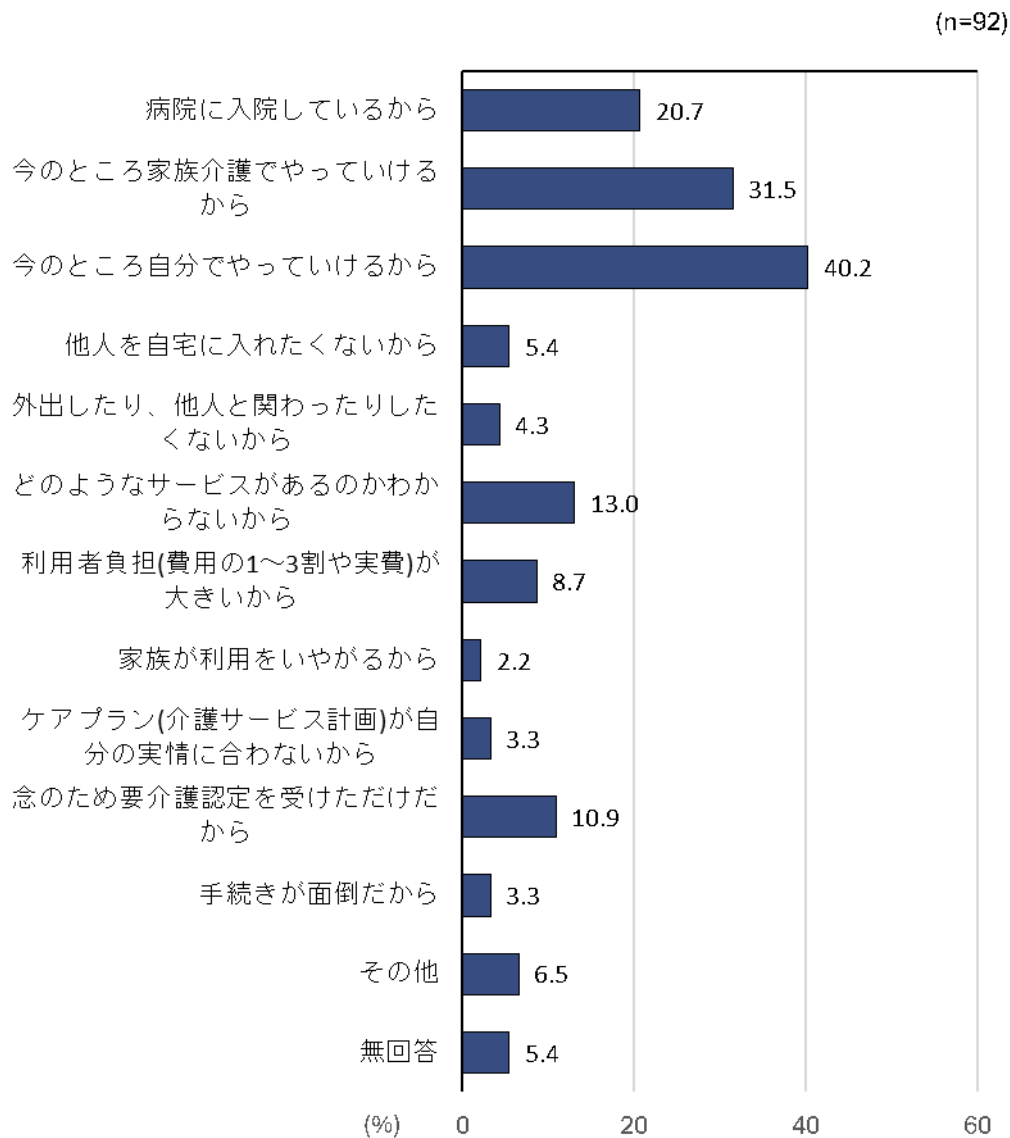
あなたは、この1か月に介護保険のサービスを利用しましたか。

「利用している」が85.1%で最も多く、次いで「利用していない」が12.2%となっている。



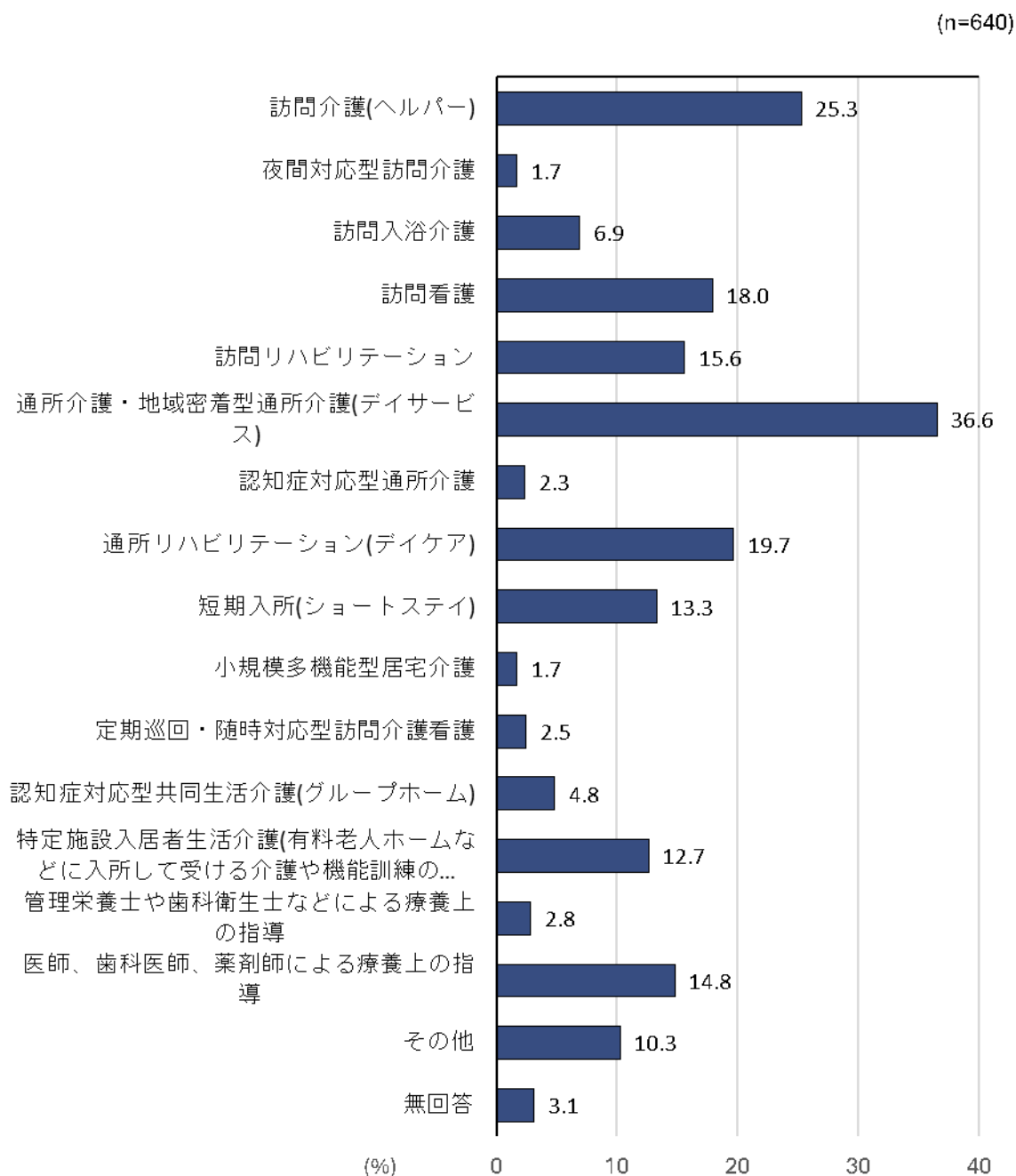
（「利用していない」を選択された方）利用していない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

「今のところ自分でやっていけるから」が40.2%で最も多く、次いで「今のところ家族介護でやっていけるから」が31.5%となっている。その他、「病院に入院しているから」（20.7%）が比較的高くなっている。



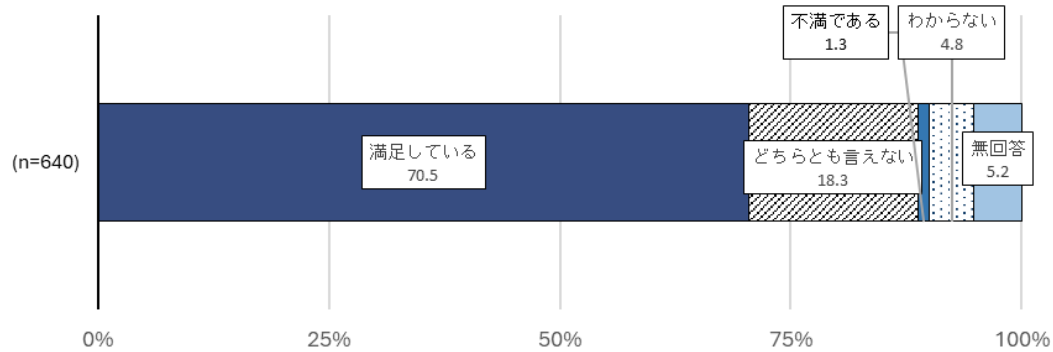
(「利用している」を選択された方)以下のサービスを利用していますか。(〇はいくつでも)

「通所介護・地域密着型通所介護(デイサービス)」が36.6%で最も多く、次いで「訪問介護(ヘルパー)」が25.3%となっている。その他、「通所リハビリテーション(デイケア)」(19.7%)、「訪問看護」(18.0%)、「訪問リハビリテーション」(15.6%)が比較的高くなっている。



(「利用している」を選択された方)利用しているサービスに満足していますか。

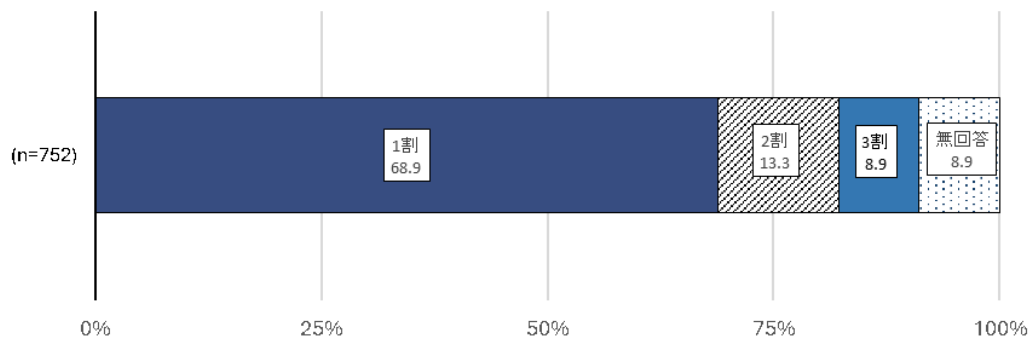
「満足している」が 70.5%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が 18.3%となっている。



介護サービスを受けるためには、所得に応じてサービス利用費用(※食費・居住費を除く)を自己負担していただく必要があります。

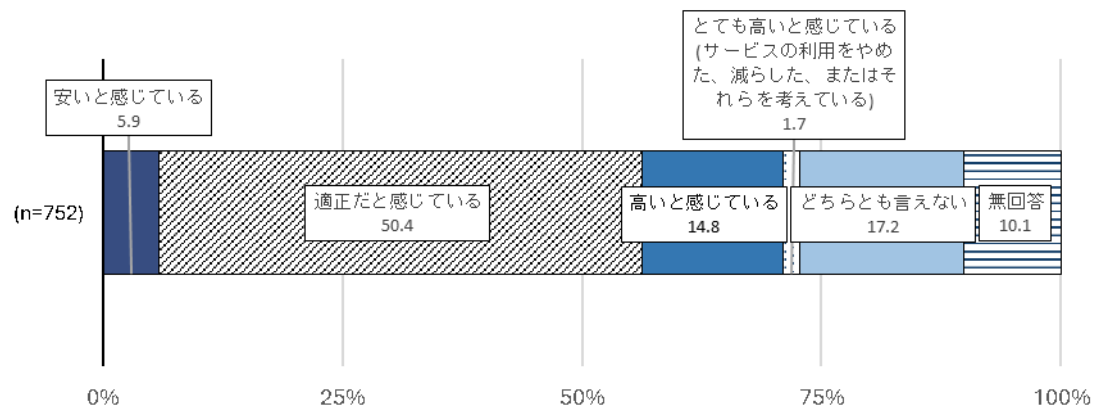
あなたの自己負担割合をお答えください。

「1割」が 68.9%で最も多く、次いで「2割」が 13.3%となっている。



お答えいただいた費用(自己負担分)について、どのように感じていますか。

「適正だと感じている」が50.4%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が17.2%となっている。

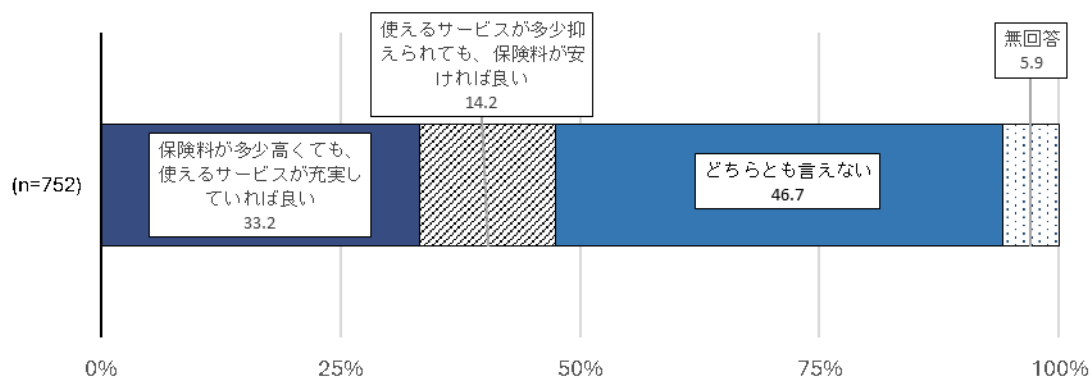


6. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのあり方について

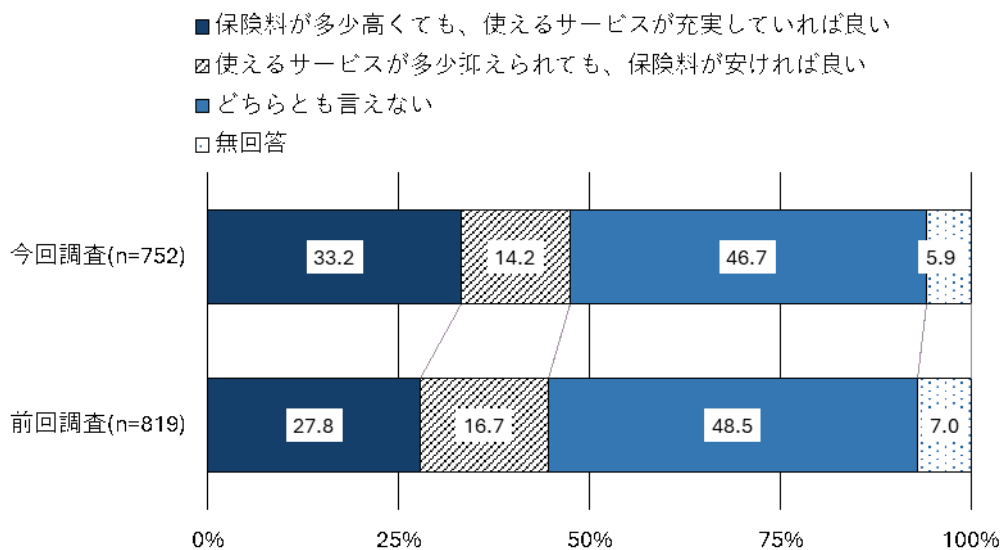
介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用にあてていますが、保険料と介護サービスのあり方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

「どちらとも言えない」が46.7%で最も多く、次いで「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が33.2%となっている。



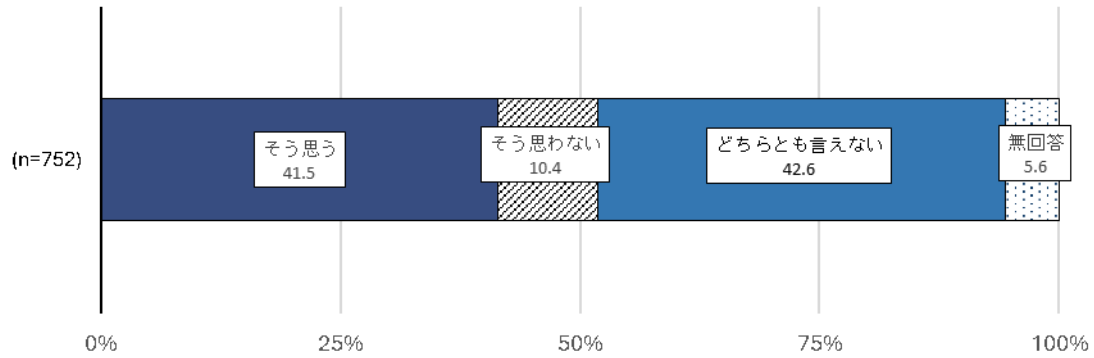
【経年比較】

前回調査と比較すると、保険料が高くてもサービス充実を重視する割合がわずかに上昇している。



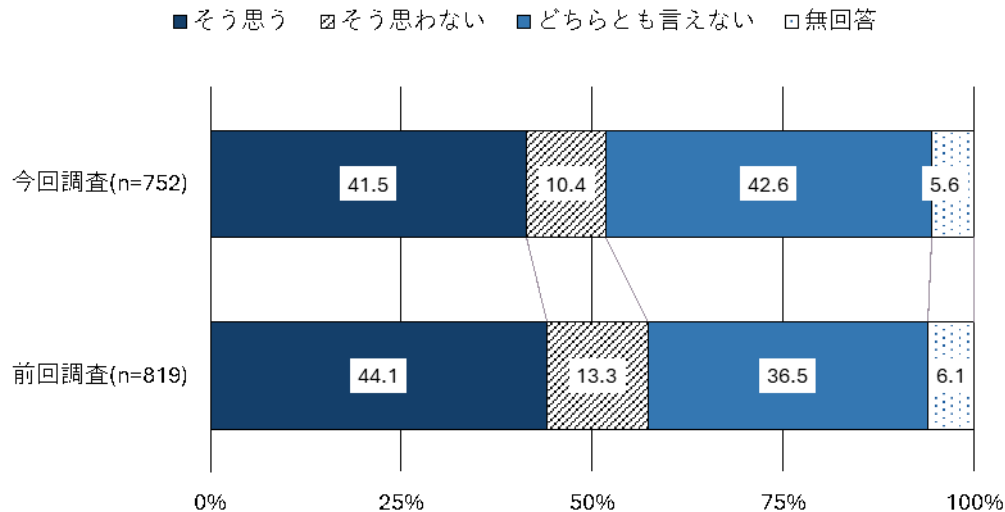
65歳以上の方の保険料に関して「低所得者に配慮するために、高所得者の負担を多少増やすのもやむを得ない」ということについて、あなたはどのようにお考えですか。

「どちらとも言えない」が42.6%で最も多く、次いで「そう思う」が41.5%となっている。



【経年比較】

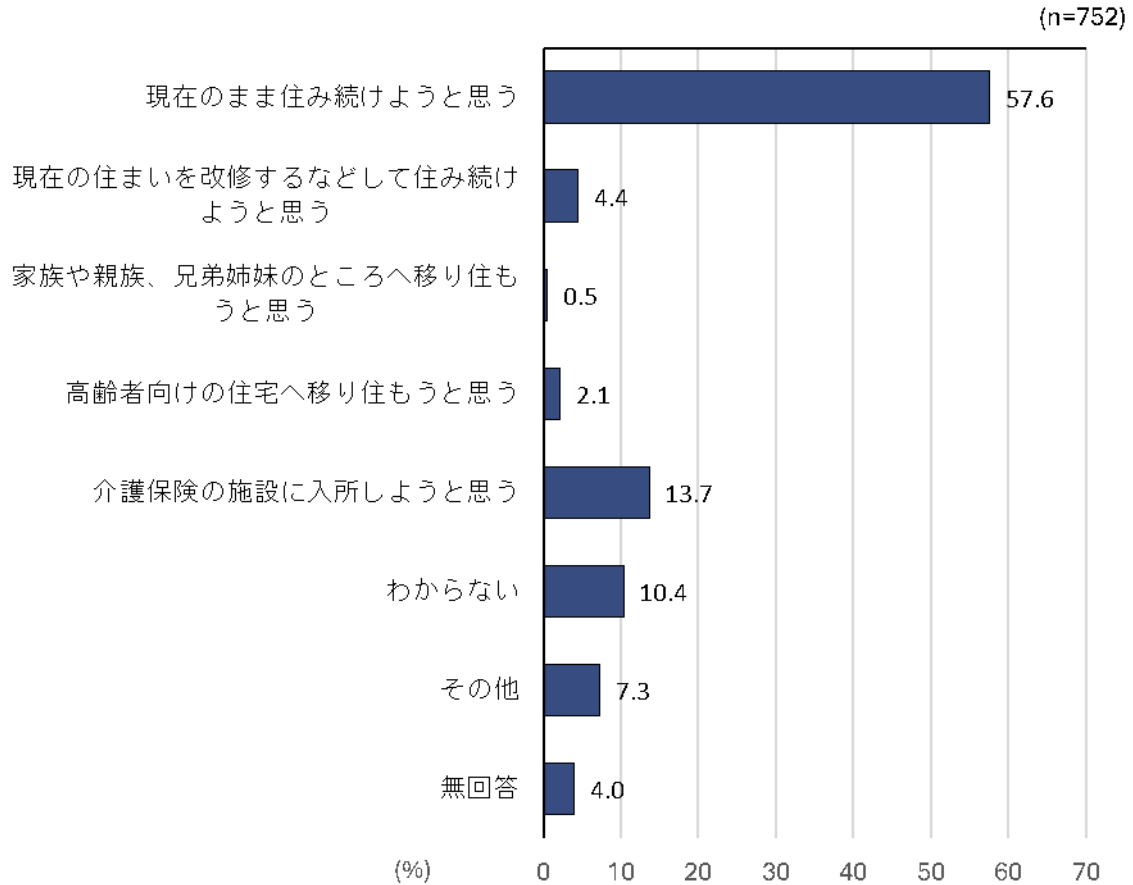
前回調査と比較すると、「そう思う」「そう思わない」がわずかに下がり、「どちらとも言えない」がやや上昇している。



(2) 今後希望する生活場所

今後希望する生活場所についてうかがいます。

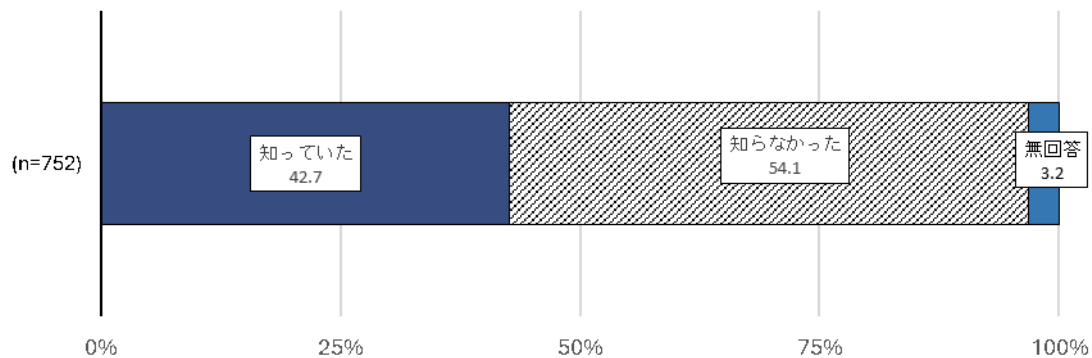
「現在のまま住み続けようと思う」が57.6%で最も高く、他の項目と比べて大きく上回っている。



(3) 高齢者外出支援事業

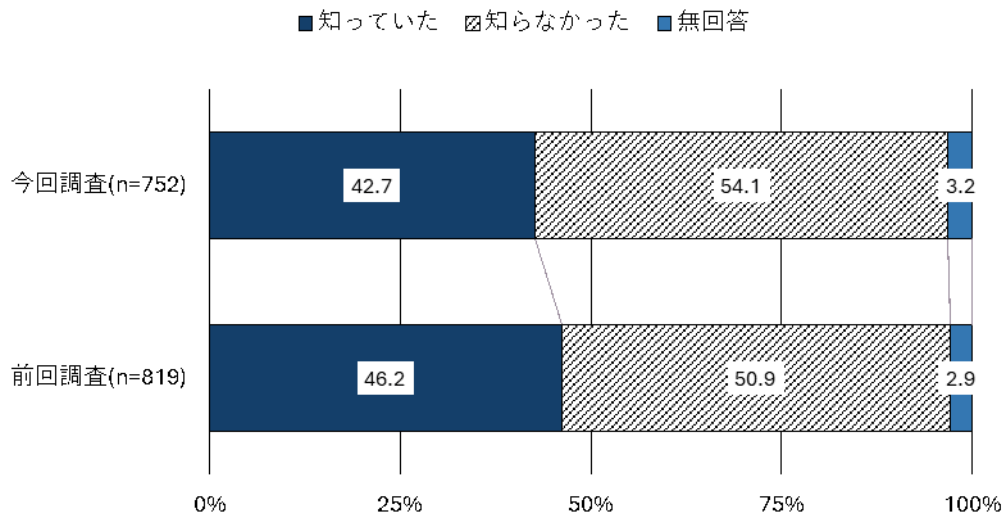
高齢者外出支援事業についてうかがいます。市では、高齢者が自宅にひきこもらず気軽に外出し、健康で自分らしい生活を送っていただくこと、また、経済的負担の軽減を目的として在宅で生活する75歳以上の非課税世帯に対して、高齢者外出支援事業として、1枚500円のタクシー券を月3枚(年間最大36枚)、交付していますが、ご存じですか。

「知らなかった」が54.1%で最も多く、次いで「知っていた」が42.7%となっている。



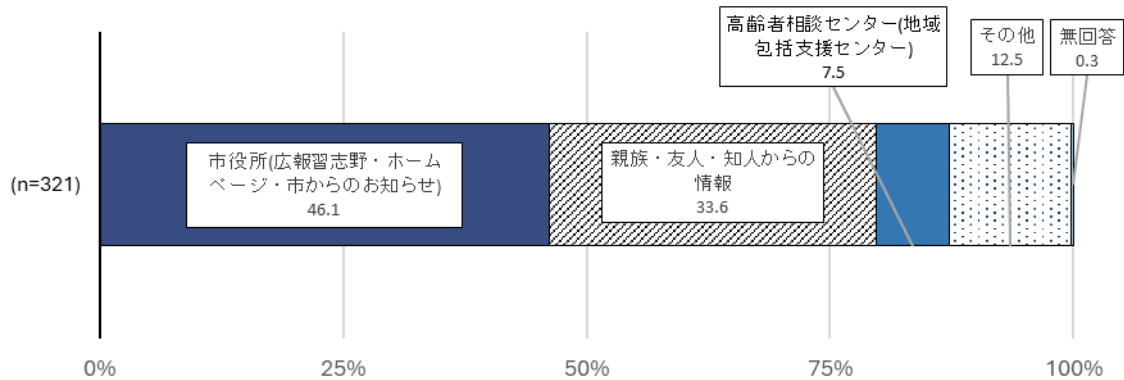
【経年比較】

前回調査に比べ、認知している割合がわずかに下がっている。



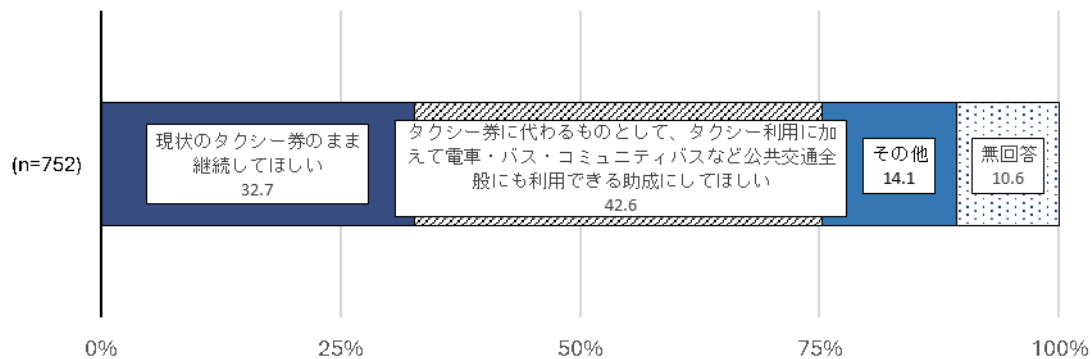
(「知っていた」を選択された方)本事業を何で知りましたか。

「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」が46.1%で最も多く、次いで「親族・友人・知人からの情報」が33.6%となっている。



より良い高齢者の外出支援策とするには、今後どのような事業の見直しを行うのが良いと思いますか。

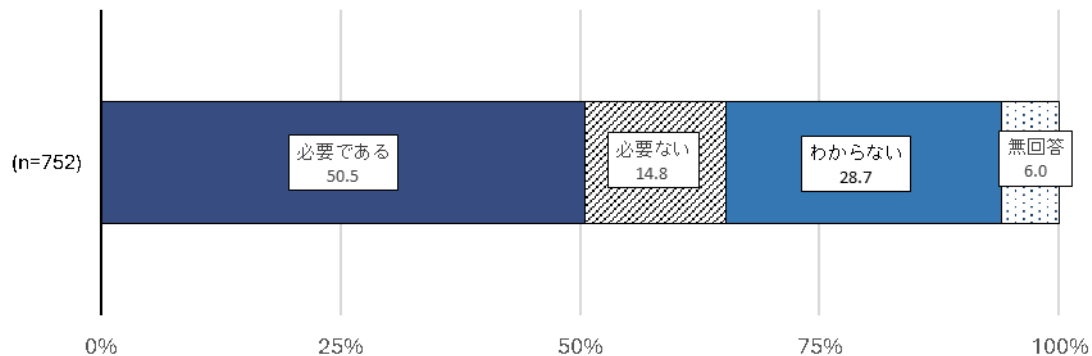
「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が42.6%で最も多く、次いで「現状のタクシー券のまま継続してほしい」が32.7%となっている。



(4) 運転免許証自主返納者への支援

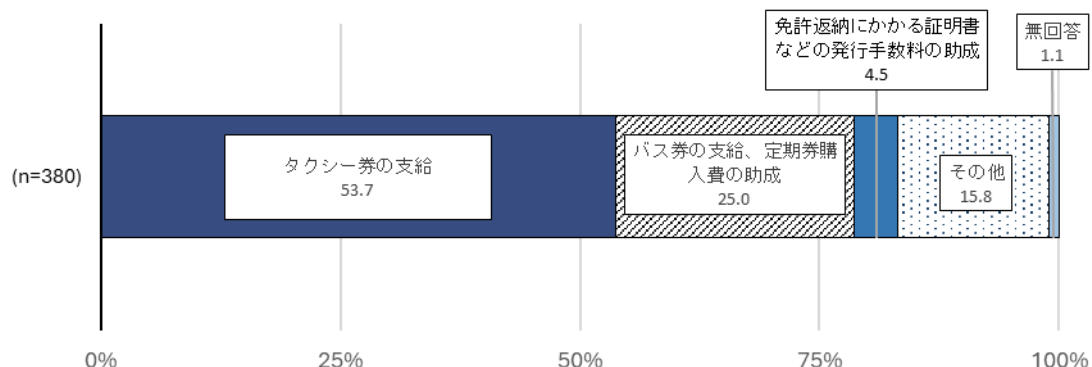
近年、高齢者ドライバーが当事者となる痛ましい事故が多発し、運転免許証の自主返納に大きな関心が集まっています。本市の公共交通は比較的充実していることから、現時点でタクシー券等の支給は行っていないですが、今後、運転免許証を自主返納した方に対する税金を使った支援は必要であると思いますか。

「必要である」が 50.5%で最も多く、次いで「わからない」が 28.7%となっている。



(「必要である」を選択された方)どのような支援が必要であると思いますか。

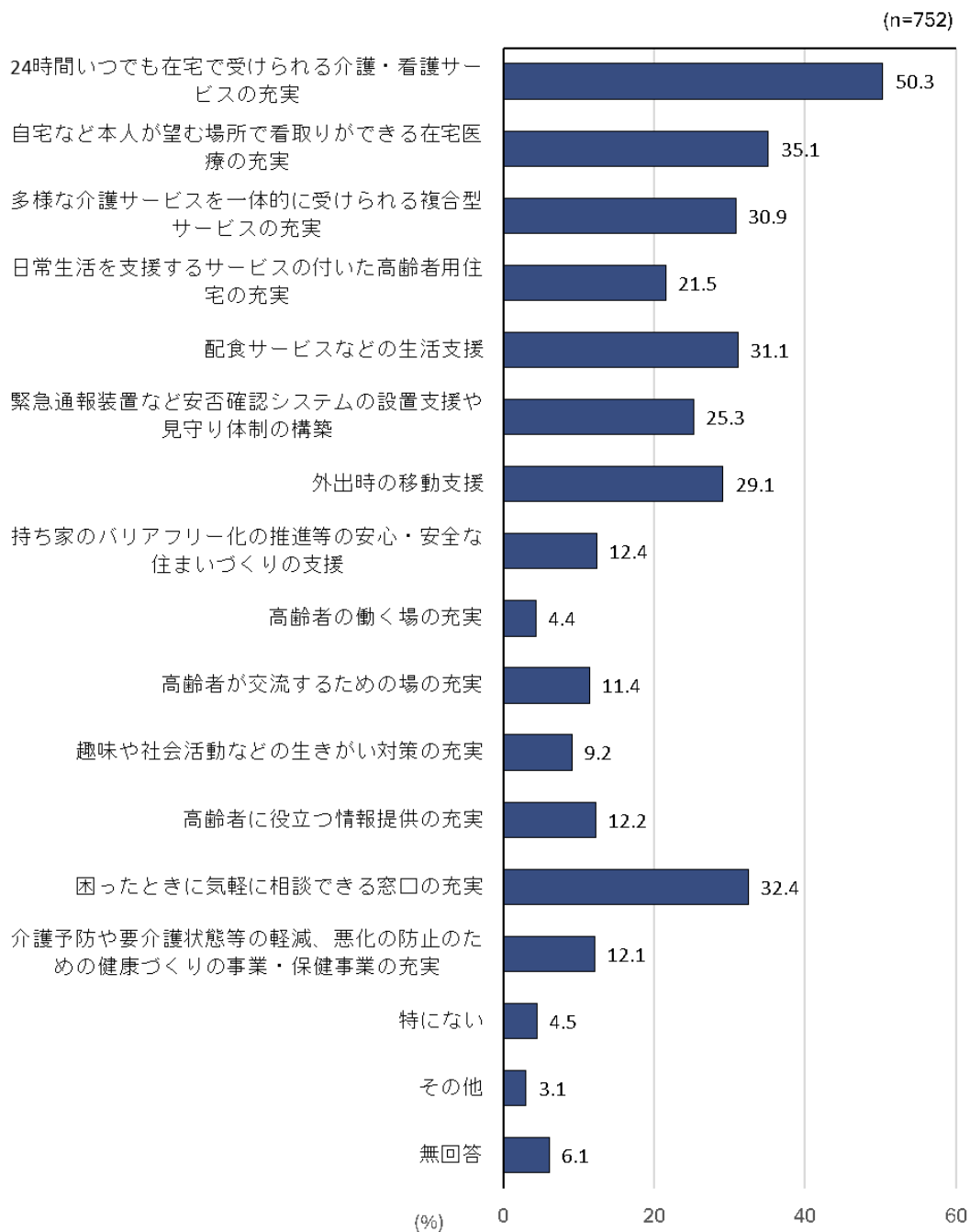
「タクシー券の支給」が 53.7%で最も多く、次いで「バス券の支給、定期券購入費の助成」が 25.0%となっている。



(5) 高齢者が地域で在宅を続けるために必要な施策

あなたは、高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために、主としてどのような施策が必要であると考えますか。(〇は5つまで)

「24時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が50.3%で最も多く、次いで「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」が35.1%となっている。その他、「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」(32.4%)、「配食サービスなどの生活支援」(31.1%)、「多様な介護サービスを一体的に受けられる複合型サービスの充実」(30.9%)が比較的高くなっている。

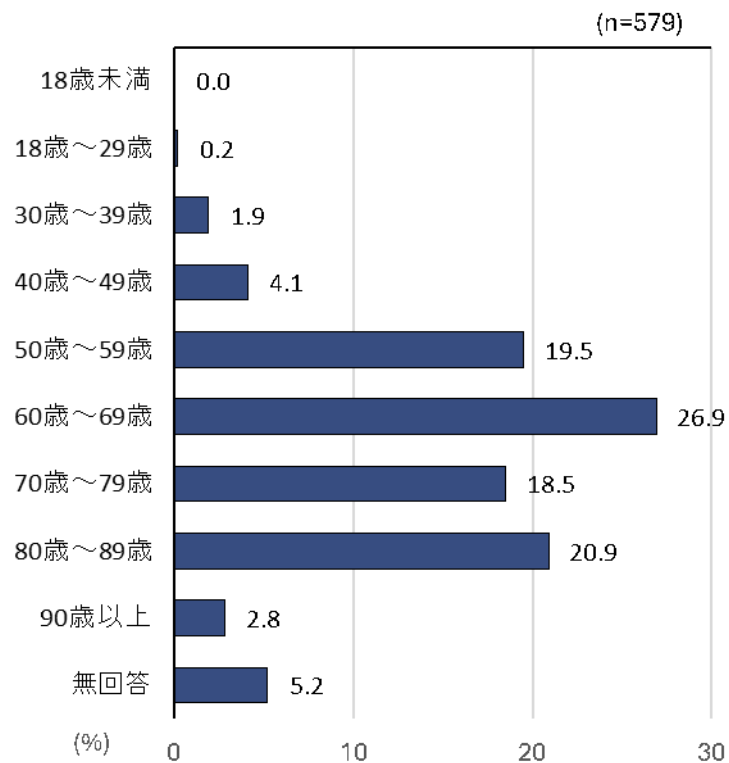


7. 主な介護者の方にうかがいます。

(1) 介護者の年齢

あなたの年齢をお答えください。

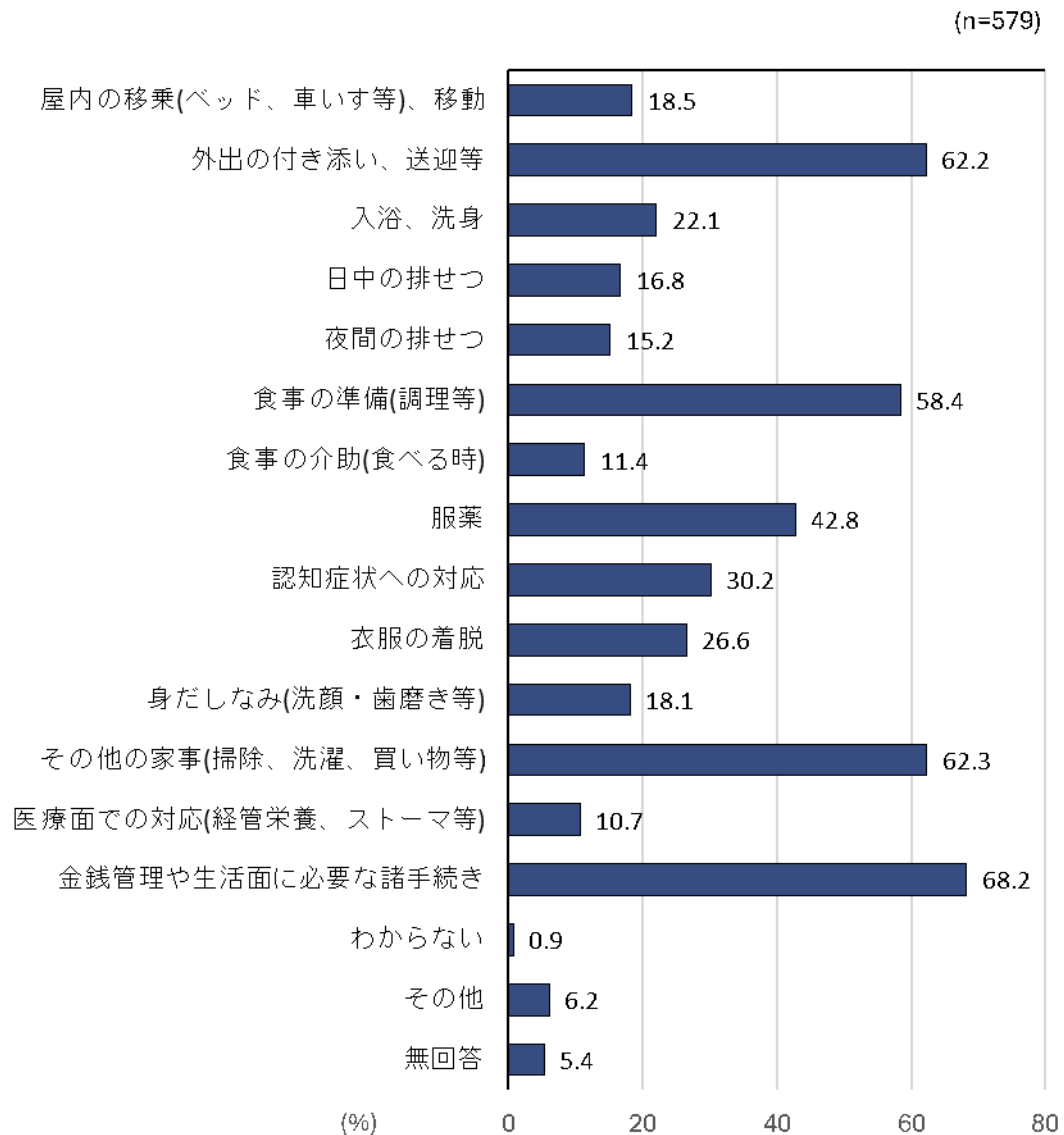
「60歳～69歳」が26.9%で最も多く、次いで「80歳～89歳」が20.9%となっている。



(2) 介護の種類

現在、主な介護者の方が行っている介護等は、次のどれですか。(〇はいくつでも)

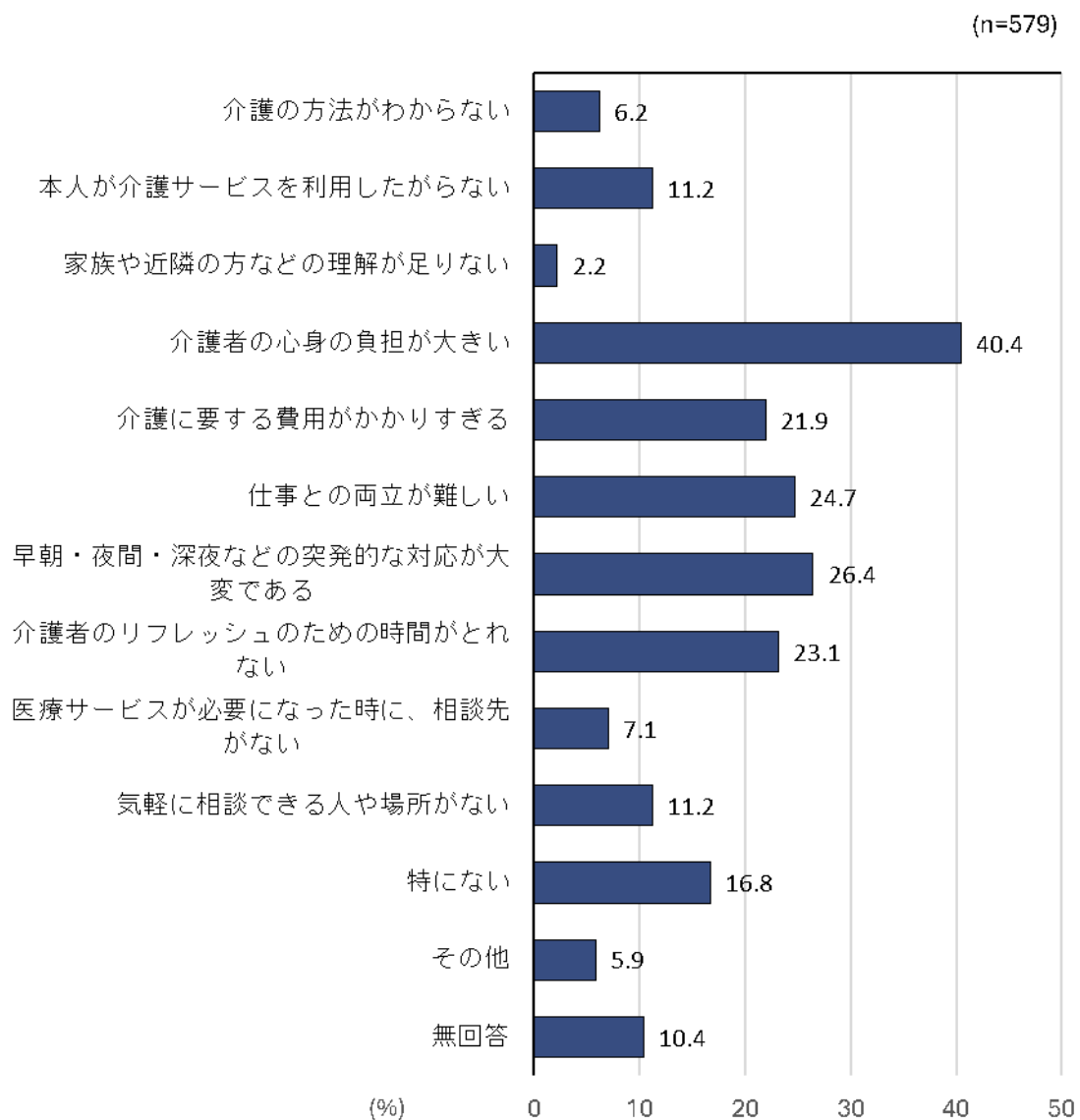
「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が68.2%で最も多く、次いで「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」が62.3%となっている。その他、「外出の付き添い、送迎等」(62.2%)、「食事の準備(調理等)」(58.4%)、「服薬」(42.8%)が比較的高くなっている。



(3) 介護を行う上で困っていること

介護を行う上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

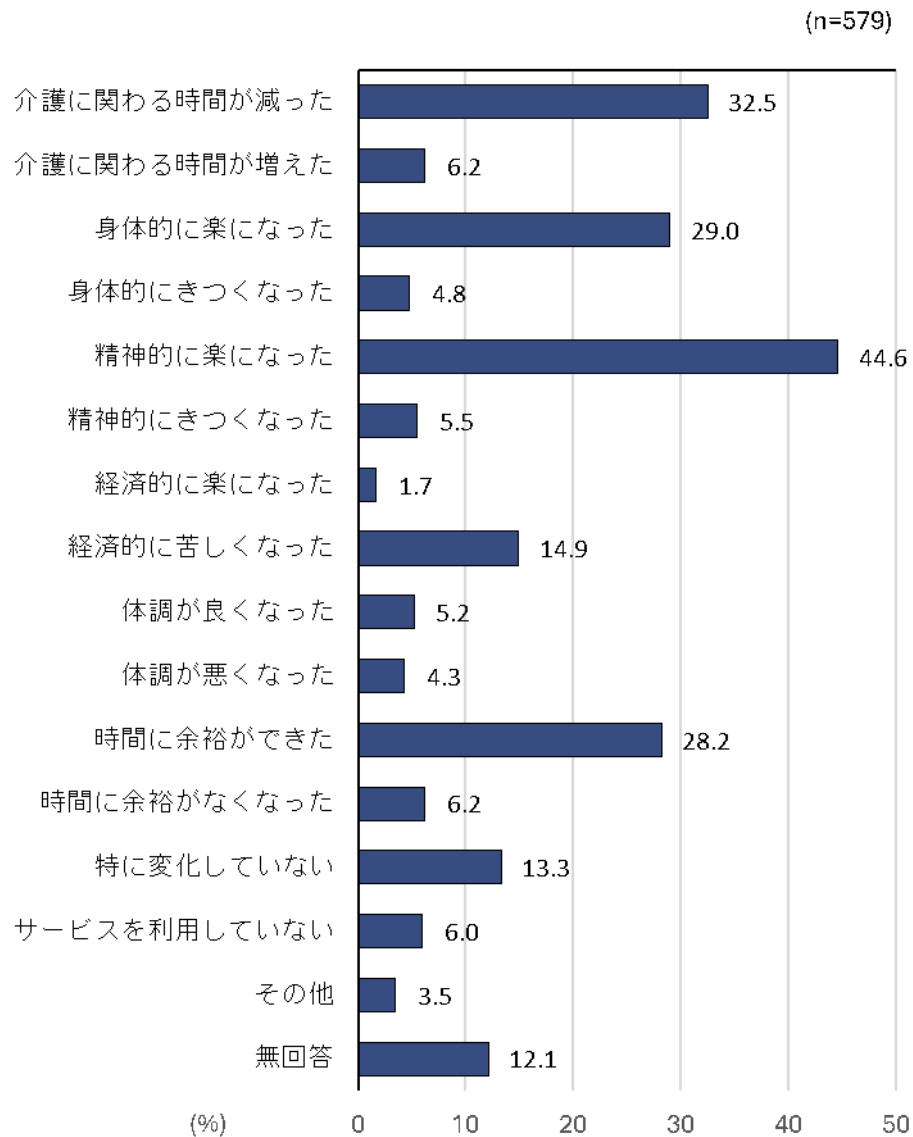
「介護者の心身の負担が大きい」が40.4%で最も多く、次いで「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」が26.4%となっている。その他、「仕事との両立が難しい」(24.7%)、「介護者のリフレッシュのための時間がとれない」(23.1%)、「介護に要する費用がかかりすぎる」(21.9%)が比較的高くなっている。



(4) 介護サービスを利用することによる変化

介護サービスを利用することによって、介護している方はどのように変化しましたか。(○はいくつでも)

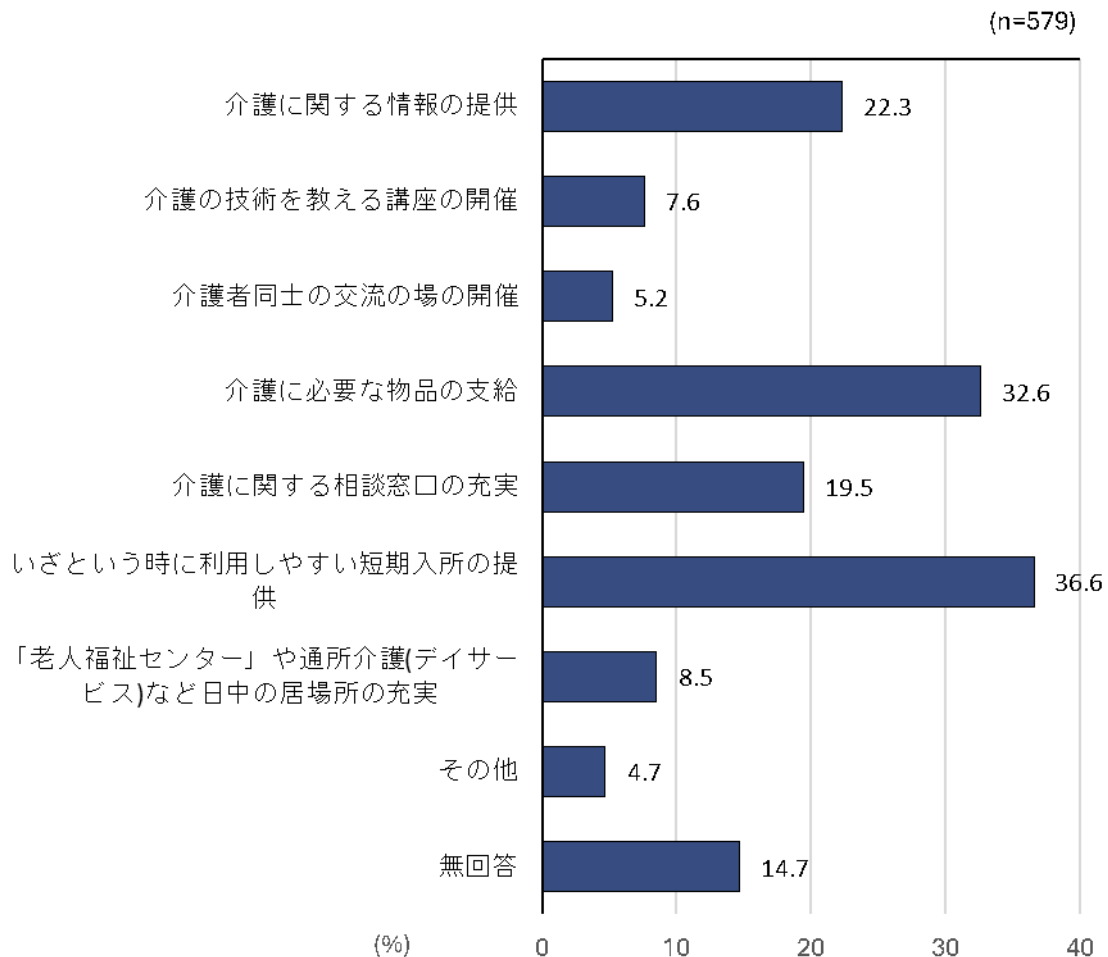
「精神的に楽になった」が44.6%で最も多く、次いで「介護に関わる時間が減った」が32.5%となっている。その他、「身体的に楽になった」(29.0%)、「時間に余裕ができた」(28.2%)が比較的高くなっている。



(5) 介護者としてあったらいいと思う支援

介護者として、介護に関してどのような支援があったらいいと思いますか。(〇は3つまで)

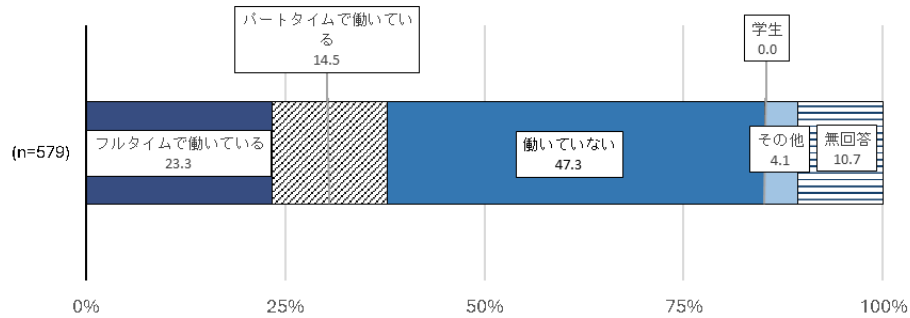
「いざという時に利用しやすい短期入所の提供」が36.6%で最も多く、次いで「介護に必要な物品の支給」が32.6%となっている。その他、「介護に関する情報の提供」(22.3%)「介護に関する相談窓口の充実」(19.5%)が比較的高くなっている。



(6) 介護者の勤務形態

あなたの現在の勤務形態についてお答えください。

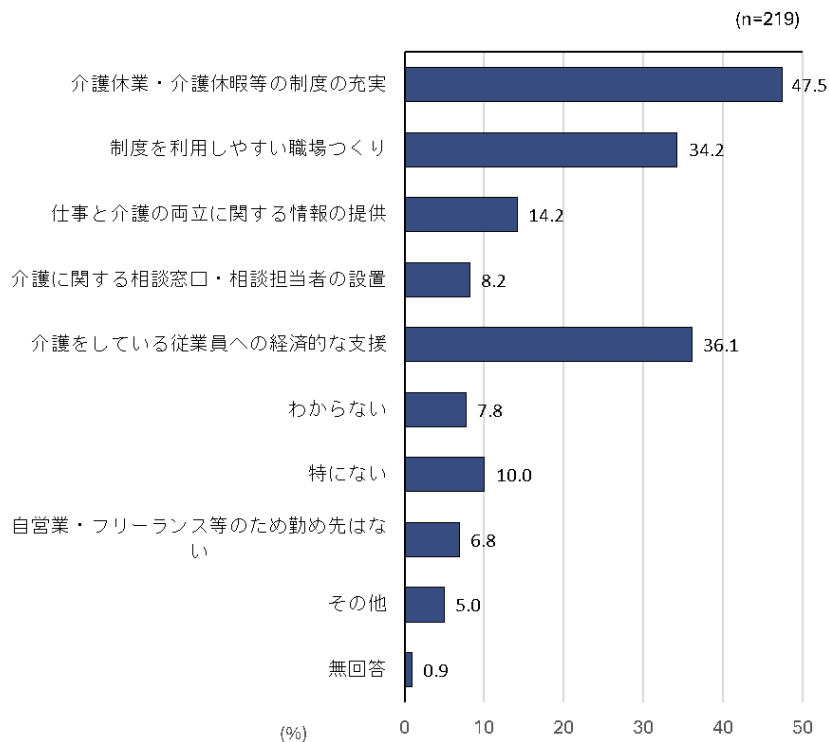
「働いていない」が47.3%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が23.3%となっている。



(7) 仕事と介護の両立に効果のある支援

(フルタイム・パートタイムで働いている方)あなたは、勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(〇は3つまで)

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が47.5%で最も多く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が36.1%となっている。その他、「制度を利用しやすい職場づくり」(34.2%)が比較的高くなっている。



8. ご意見・ご要望

市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

① 情報提供・相談支援・ケアマネジャー連携

- ・ 介護の仕方が当初全くわからず、排泄ケア・移乗・入浴方法・声かけのノウハウを教えてくれる教室や冊子があれば助かった。
- ・ 介護が必要になった時の介護ガイドがあると嬉しい。状態に応じた介護の仕方・支給品・助成金がわかりやすくまとまったもの。冊子の定期配布も希望する。
- ・ 移乗方法やパッド交換などの実技講習があれば、介護する人もされる人もより快適に過ごせ、施設入所を先延ばしできると思う。
- ・ 妻が病院にかかって初めて介護保険のことを知った。事前の情報提供が不足している。
- ・ 介護・障害に関する情報提供が少なく、知っていれば使えたサービスがあった。市が支援している物品・情報をもっと大きくPRしてほしい。
- ・ 役立つ情報の提供と相談窓口の充実を希望する。介護初心者にもわかりやすい手引書を無料配布してほしい。
- ・ 市のアプリやLINEは子育て情報ばかりで介護の情報がない。高齢者が増えることも見据えた発信をしてほしい。
- ・ 別居の子どもも情報を得られるよう、本人以外の希望者宛に情報提供できる制度がほしい。スマホがなく市の福祉情報がわからない人への対応も必要。
- ・ 要介護になった際の具体的なアクションの提案や、経済的な制度の推進、家族へのケアなどを充実してほしい。
- ・ 特養などの施設をもっと積極的に紹介してほしい。施設情報をもっと調べやすくしてほしい。ケアマネジャーだけでなく介護経験者の助言を早く聞ける環境があれば良かった。
- ・ ケアマネジャーを探す方法がわからない。認定後の訪問が不十分で変更を希望しても対応されない。ケアマネジャーの質にばらつきがある。
- ・ ケアマネジャーは計画を作る人であって、介護に関して親身に相談できる存在ではないのか。専門性と寄り添う姿勢に疑問がある。制度そのものの再検討が必要ではないか。
- ・ ケアマネジャーを交代したい時の情報が全くなく言い出しにくい。通所施設のサービスの質や評判も情報交換できるプラットフォームや交流の場を検討してほしい。
- ・ 地域密着型サービスが近隣市より少なく複数施設に問い合わせるなど手間がかかった。
- ・ 介護と看護の境目に対応できる相談窓口がわからない。
- ・ 相談窓口が遠く、近くに相談窓口がほしい。体調不良時に相談できる窓口と総合内科のような医療機関があるとありがたい。
- ・ 介護保険の理解が追いつかないまま状況が進んで大変だった。わからない中手探りでやっている感じで、いろいろ教えてもらえると助かる。

- ・ 市役所窓口でパンフレットを渡されただけで、もう少し丁寧に話を聞いてほしかった。習志野市では初めての方には寄り添った対応をお願いしたい。
- ・ ケアマネジャーの声にも耳を傾けてほしい。

② 施設の整備・拡充・入所支援

- ・ 特養・サ高住・特別養護老人ホームを増やしてほしい。市内の特養は他市と比べて少なく、要介護5でも入れなかった。
- ・ 近隣に施設がなく遠くの施設に入居しており、家族が頻繁に訪問できない。
- ・ インスリン注射をしていると受け入れてくれるショートステイ先が少ない。認知症対応施設も少なく入所待ちになっている。
- ・ 施設費用が高すぎて入所を断念している。低料金・低所得者でも入れる施設を増やしてほしい。
- ・ 特養の費用が年金でまかなえない。施設費用が年金を超え子どもが負担しているケースもある。経済的負担が重く、介護度にかかわらず入居しやすい環境が必要。
- ・ 習志野市はリハビリ施設が少なく、労健も少なく大変苦労した。
- ・ ショートステイ利用前的高額な健康診断料など利用のハードルが高すぎる。介護者が病気・入院した時に緊急対応できる預かり制度が必要。
- ・ 施設入所後の入居者同士の交流機会を設けてほしい。有料老人ホームで話し相手がおらず孤独を感じている。
- ・ 施設職員の態度が悪いケースがある。介護施設の現場監督と苦情・相談窓口の整備を強く求める。楽しみに思えるような施設づくりを。
- ・ 認知症が進み急遽入院させたが、退院後に入所できる施設が見つからず困っている。
- ・ デイサービスの職員給与を上げ、職員数を増やすよう県・国に強く求めている。ヘルパーが不足しており自腹のヘルパーは高すぎる。
- ・ 介護施設で個室に1人でいる入居者への見守りが人手不足で少なくなりがち。

③ 介護者支援・ヤングケアラー・孤立防止

- ・ 役所ではなく気軽に愚痴や相談ができる場が欲しい。燃え尽き症候群になり精神疾患が悪化した経験から、介護者同士の交流の場を検討してほしい。
- ・ 介護者の精神的・経済的な支援をもっと充実させた施策をしてほしい。単独介護・老々介護の方への介護者サポートを充実させてほしい。
- ・ 退職して介護している。相談先がわからない介護者への支援が必要。家族間の暴力増加も懸念される。
- ・ フルタイムで働きながら介護しているが精神的に辛い。施設入所を本人が拒否しており、安価な施設の空きもわからず辛い状況が続いている。
- ・ デイケアの予算枠が増えれば有給なしで働け、食事支援も5日間入れると安心できる。

- ・ 認知症の家族がいても安心して就労できる仕組みがほしい。夜間まで延長できるデイサービスの拡大が今後必要。
- ・ 介護離職者の実態や気持ちを市に知ってほしい。両親の介護で自身のがん発見が遅れた。介護者が抱え込まないような社会になってほしい。
- ・ ヤングケアラーが介護のために学校に通えなかったり収入を全て介護費用に充てることはあってはならない。こうした子どもが普通に生活できるよう制度や支援を増やしてほしい。
- ・ 介護している・されている者を孤立させない仕組み作りを希望する。
- ・ 地域交流・ボランティアは必要だが、個人情報と責任の扱いに課題がある。
- ・ 信頼できるボランティアによる定期的な見回り・声かけ・別居家族への報告などの制度があるとよい。
- ・ 見守りサービス設置支援を習志野市でも展開してほしい。
- ・ 高齢者の1人暮らしは認知症が進みやすいため、地域とのつながりを持てる活動を望む。
- ・ 介護は突然やってくるため、事前に親子で知識を得る講座やYouTube 動画での配信なども有効ではないか。

④ 移動支援・交通・バリアフリー

- ・ タクシー券が同居・世帯分離・介護度などの条件で打ち切りになるケースが多い。一人ひとりの生活を考えた柔軟な対応をしてほしい。
- ・ パーキンソン病・難病・歩行困難など身体状況に応じたタクシー券支給を。障害の程度に応じた支援が必要。
- ・ タクシー券の100円単位化、どの業者でも使えるようにしてほしい。申請に行けない高齢者が使えていないため、申請支援も必要。
- ・ 通院のタクシー代が苦しい。実際に困っている人へのタクシー券給付を考えてほしい。介護度が低くても必要に応じて支給してほしい。
- ・ 介護度が下がるとタクシー券が支給されなくなり通院費が高額になる。介護度にかかわらず必要な人に支給してほしい。
- ・ 免許返納後に移動手段がなくなった。タクシーは3日前予約が必要で緊急時に来ない。ボランティア移動制度や低価格の移動手段を作してほしい。
- ・ コミュニティバスのルートから外れており利用できない。ハッピーバスの増便、八千代方面へのルート広域化、通院路線の新設を望む。
- ・ 足の不自由な方が専用乗り場以外でもタクシーに乗れるようにしてほしい。自動車いすのレンタルがあると便利。
- ・ 東習志野は交通の便が悪く、車がないとスーパーまで30分以上かかる。車がないと何もできない地域があることを知ってほしい。
- ・ 駅の階段など基本的なインフラが高齢者には使いにくい。施策担当者には実際に目で確かめてほしい。

- ・ 玄関の段差に対応できる無償の用具があると助かる。
- ・ 外出が難しくなった際に買い物や通院の介助をお願いできるようにしてほしい。付き添い専門員がいると助かる。

⑤ 費用・経済的負担

- ・ 支援が非課税世帯だけに集中しているが、介護度でも対応してほしい。介護保険・健康保険の負担が大きく大変。
- ・ 介護保険料が高すぎる。3年ごとの改訂のたびに上がり年金受給者には払いきれない。市民税と後期高齢者医療保険も高い。
- ・ 負担割合が上がると利用日数を減らさざるを得ず仕事も減らすことになる。介護5の点数上限の引き上げとオムツ配布を。
- ・ 日常生活用具費のストーマ関係費用が上限を超えるため上限額の引き上げをお願いしたい。吸入酸素ポンペを手軽に借り入れできると助かる。
- ・ おむつ支給は助かるので継続してほしい。同居の有無にかかわらず受けられるサービス・おむつ助成の拡充を。
- ・ 費用がかかりすぎて利用したくても利用できない。デイサービスも費用面で増やせない。
- ・ 介護保険負担限度額の所得区分が大まかすぎる。境界線付近で急に負担額が増えるため、収入に応じた細かい段階設定を。
- ・ 介護保険料が上がってもサービスの充実につながらないことに疑問がある。
- ・ 介護負担割合が変わる際はもう少し早めに知らせてほしい。

⑥ 手続き・行政対応の改善

- ・ 高齢の親宛てに市から還付金の申請書が何通も届く。申請が負担で申請できない人も多い。プッシュ型給付(申請不要)の検討を。
- ・ 各種更新手続きの締切日がバラバラで来所が必要。一度で更新手続きが完了するよう統一してほしい。
- ・ デイサービス等を複数利用するたびに同じ内容の契約書類を書かなければならない。マイナンバーカードを活用した手続き簡略化を。
- ・ マイナンバーカードの更新など、外出できない高齢者には対応不能ことがある。近くの施設で手続きできると助かる。
- ・ 遠隔別居での介護のために、各種手続きが平日のみでなく本人不在でも対応できる支援が必要。
- ・ 難病支援制度の障害者認定など手続き申請が煩雑なため簡素化してほしい。
- ・ 介護認定に時間がかかりすぎる。一ヶ月の間に状態が変わる可能性もある。
- ・ 介護認定の際は状態・状況を十分に調査した上で決定してほしい。
- ・ 成年後見人制度の説明が不十分で死ぬまで報酬を払い続ける仕組みと知らずに利用させられそうになった。

- ・ 高齢者の一人暮らしが増える中、身寄りのない場合の葬儀・遺品整理について市としての取り組みが必要。死亡した時の案内が全くない。
- ・ 施設の契約・見学や役所の手続きを土日祝日にも行えるようにしてほしい

⑦ 医療・介護連携・緊急時

- ・ 病院などの入院時の支援など、おひとり様支援強化、死亡時への対応が必要。
- ・ 夜間・緊急時のサービスが少なく在宅介護の限界を感じた。夜間ヘルパー・緊急対応サービスが充実すれば在宅介護できる人が増える。
- ・ アルツハイマー型認知症の初期治療方針が医師によって大きく異なる。運動機能を損なうような治療の際は施設入所での対応など、支援・治療の在り方を確立してほしい。
- ・ 介護と看護の境目に対応できる相談窓口がわからない。
- ・ 人工呼吸器を24時間使用しており、災害時の電力確保が非常に心配。
- ・ 施設入所中の方が災害時にどう対応するか、食料・医療備蓄や家族への連絡方法など具体的な計画を説明してほしい。
- ・ 市からのお知らせのスピーカーの音が夜間は声が割れて聞き取れない。災害時の情報伝達が心配。
- ・ 外出困難な状態でインフルエンザに罹患した際、往診してくれる医院が全くなかった。緊急時の対応方法をインターネットが使えない人でも知れるよう広報で知らせてほしい。
- ・ 年末年始の長期休所時に何かあった場合の対応が心配。
- ・ 施設職員の中に利用者を否定するような態度をとる者がおり不安を覚える。
- ・ 栄養士監修の宅食デリバリーがあるとよい。
- ・ 吸入酸素ポンペを手軽に借り入れできると助かる。

⑧ その他ご意見・ご要望

- ・ 予防医療の充実を希望する。
- ・ 70歳から毎年認知症検査を在宅でも受けられるよう促してほしい。BPSDが介護認定点数に反映されにくく、家族の精神的負担が大きい。
- ・ 認知症になり1人で生活できなくなった時のために、元気なうちから支援できる仕組みが欲しい。70歳になったら老後の生活プランと一緒に考えてくれる窓口が市役所にあるとよい。
- ・ 難聴が認知症を悪化させるため、65歳以上への定期的な聴力検査と補聴器への補助を求める。
- ・ 骨折を機に要介護状態になる方の増加に備え、特養でのリハビリを継続してほしい。
- ・ 高齢者保健福祉施策は他の市町村より遅れている。もっと充実させてほしい。支援者の養成と介護サービスの充実を願う。
- ・ 市役所の担当者・包括支援センターの方が親身に相談にのってくださり感謝している。高齢者向け配食サービスも味・メニュー・量ともによく、大変助かっている。

- ・ 高齢者にやさしい町づくりをモットーにしてもらえれば、安心して老後を送れると思います。
- ・ 認知症の母のため施設の方々にお世話になっている。今後ともよろしくお願ひしたい。
- ・ 施設で介護してもらっており助かっています。ありがとうございます。
- ・ 施設に入れたことで老老介護の心配がなくなり、わからないことを相談できる環境に大変感謝している。
- ・ 施設の担当者はよく面倒を見てくれています。ありがとう。
- ・ 在宅介護約10年の間、おむつ支給・タクシー券等に大変助かった。今後も支援が必要な方が増えていくと思うので、介護に関わる皆様のご健康をお祈りしている。
- ・ 市役所の窓口では丁寧に対応していただけました。感謝いたします。
- ・ 難病の独居実弟の介護をすることになったが、市の福祉窓口・地域包括支援センター・介護スタッフの方々のサポートがなければ最悪の選択をしていた可能性もあった。感謝するのみです。
- ・ 特にありませんが、施設担当者の方々に感謝しています。ありがとうございます。
- ・ 習志野市は良く行き届いていると思います。今後も続けてもらいたいです。

⑨ 本調査へのご意見

- ・ このアンケートは本人・家族にとっても負担。実態を知りたいなら直接施設に来るべきで、介護が必要な人にやらせすぎだと感じる。

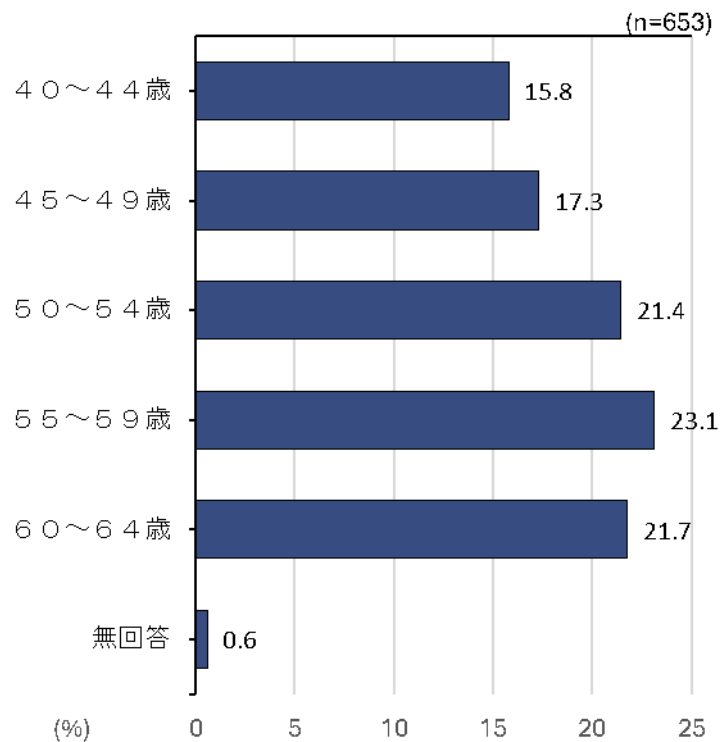
第4章 一般若年者調査

1. 回答者属性

(1) 年齢

あなたの年齢をお答えください。

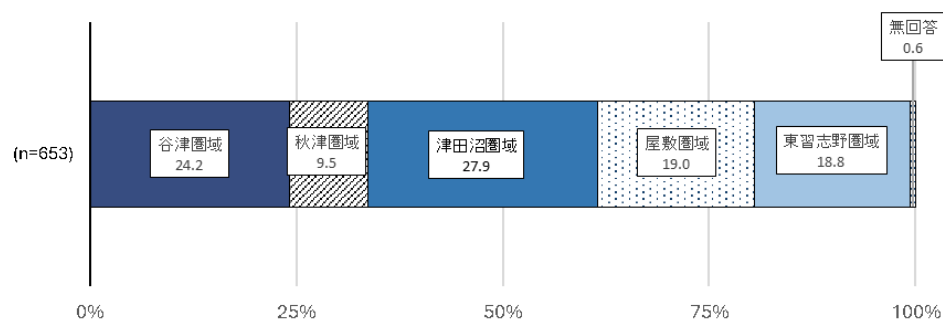
「55～59歳」が23.1%で最も多く、次いで「60～64歳」が21.7%となっている。



(2) 居住地区

お住いの地区名を教えてください。

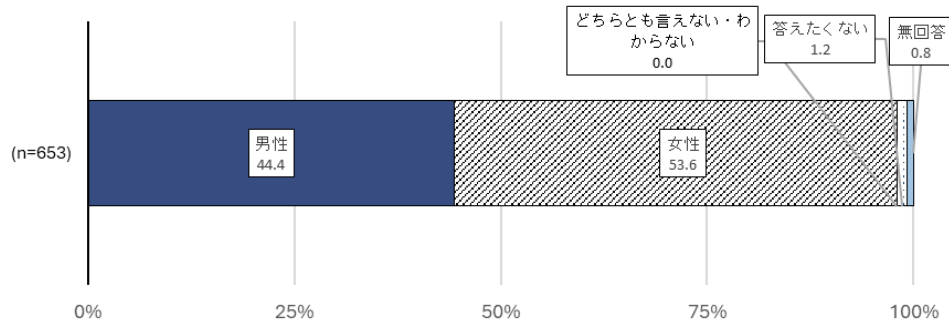
「津田沼圏域」が27.9%で最も多く、次いで「谷津圏域」が24.2%となっている。



(3) 性別

あなたの性別をお答えください。

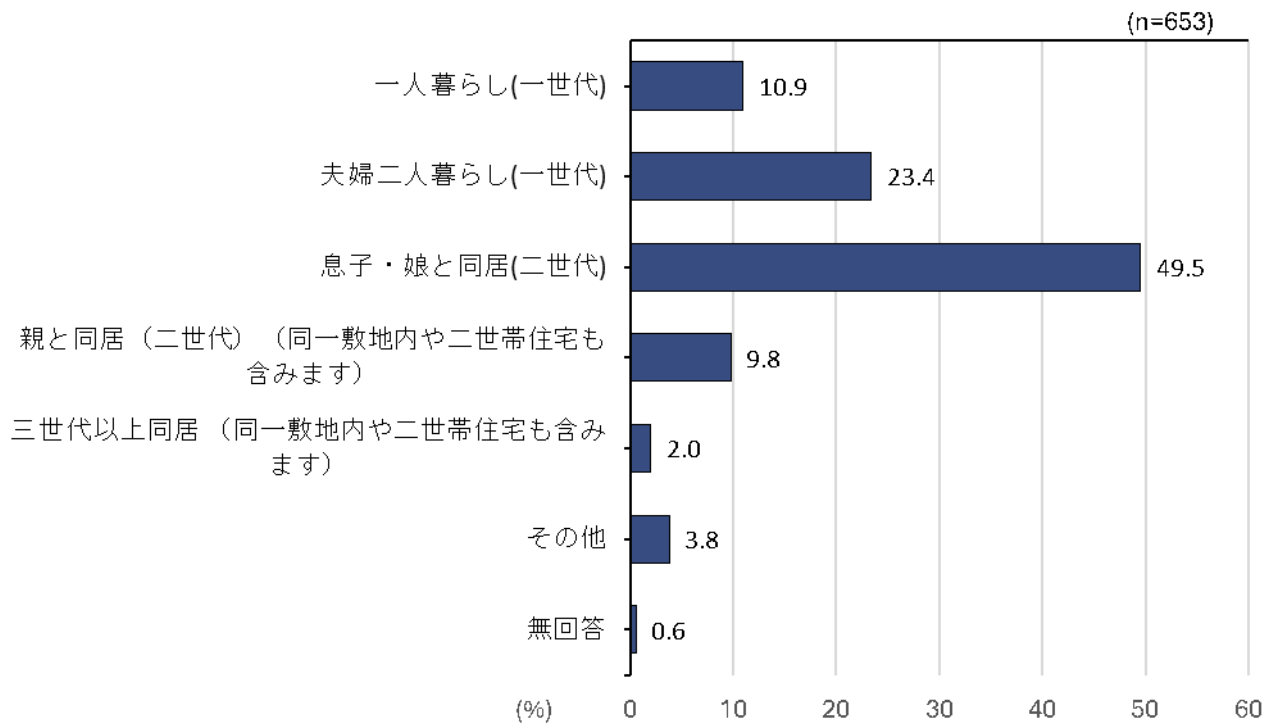
「女性」が53.6%で、「男性」が44.4%となっている。



(4) 家族構成

家族構成をお答えください。

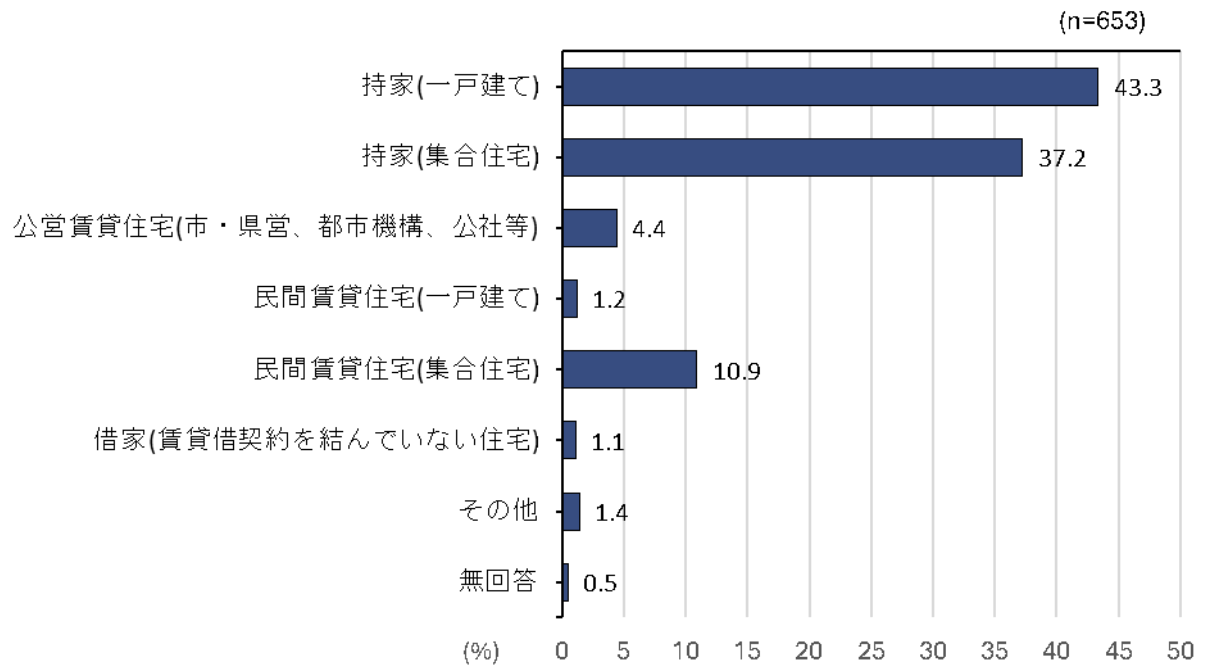
「息子・娘と同居(二世代)」が49.5%で最も多く、次いで「夫婦二人暮らし(一世代)」が23.4%となっている。



(5) 住まいの形態

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

「持家(一戸建て)」が43.3%で最も多く、次いで「持家(集合住宅)」が37.2%となっている。

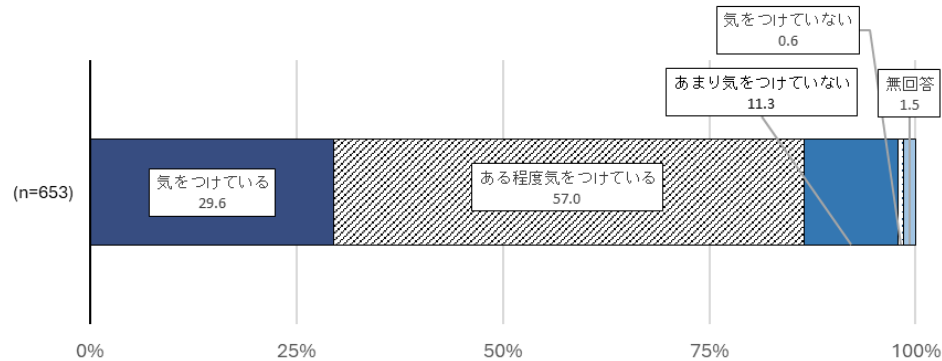


2. 健康について

(1) 健康への配慮

あなたは、日頃、自分の健康に気をつけていますか。

「ある程度気をつけている」が 57.0%で最も高く、次いで「気をつけている」が 29.6%となっている。



【年齢別比較】

各年齢層でみると、「ある程度気をつけている」が最も高くなっている。また、健康に気をつけている層(「気をつけている」「ある程度気をつけている」)の割合は、55 歳以上で 9 割を超えており、高い水準となっている。一方、健康に気をつけていない層(「あまり気をつけていない」「気をつけていない」)の割合は、年齢が若いほど高く、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

上段:度数 下段:%	問6					
	合計	気をつけて いる	ある程度気 をつけてい る	あまり気 をつけてい ない	気をつけて いない	無回答
全体	653 100.0	193 29.6	372 57.0	74 11.3	4 0.6	10 1.5
40～44歳	103 100.0	28 27.2	54 52.4	19 18.4	2 1.9	-
45～49歳	113 100.0	32 28.3	60 53.1	19 16.8	-	2 1.8
50～54歳	140 100.0	33 23.6	86 61.4	16 11.4	1 0.7	4 2.9
55～59歳	151 100.0	47 31.1	92 60.9	11 7.3	-	1 0.7
60～64歳	142 100.0	52 36.6	78 54.9	9 6.3	1 0.7	2 1.4
無回答	4 100.0	1 25.0	2 50.0	-	-	1 25.0

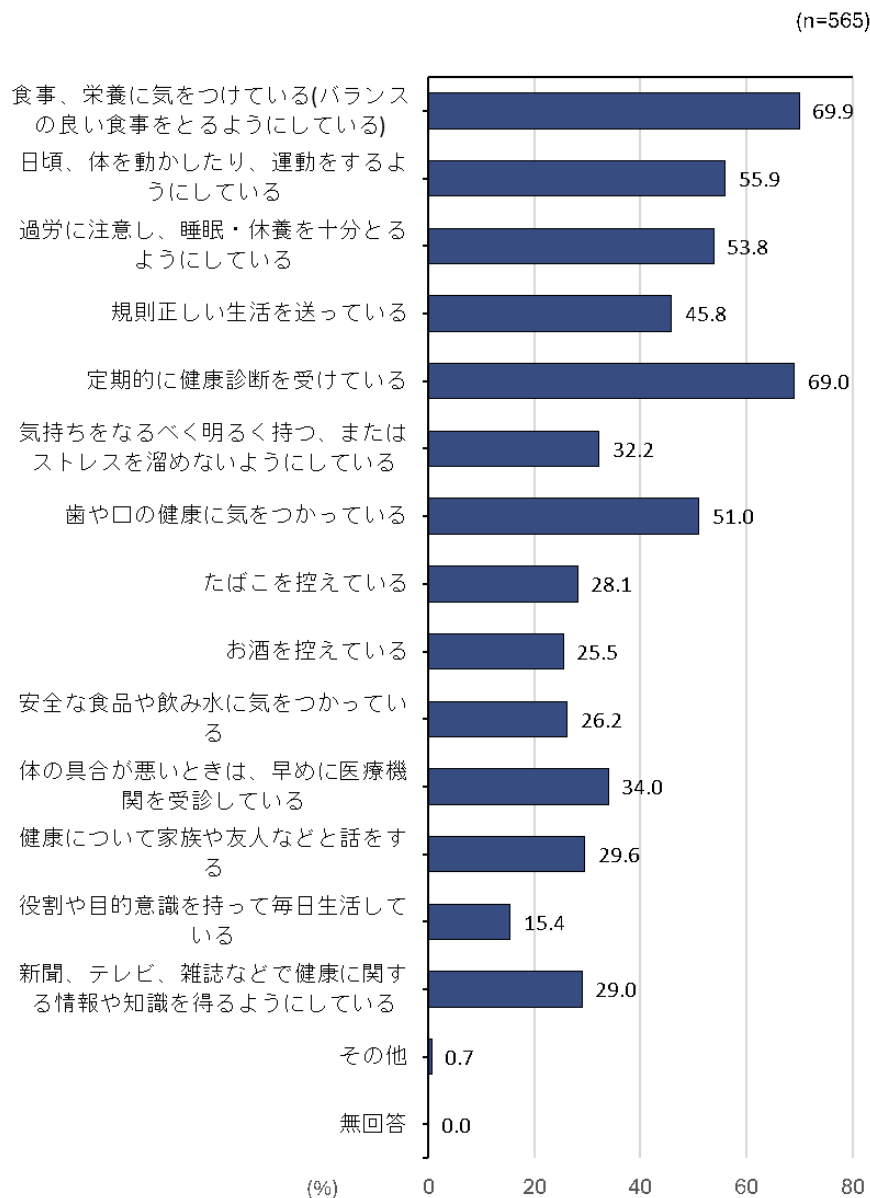
【性別比較】

性別でみると、健康に気をつけている層（「気をつけている」「ある程度気をつけている」）の割合は、女性が88.6%と最も高くなっている。一方、健康に気をつけていない層（「あまり気をつけていない」「気をつけていない」）の割合は、男性が14.8%と最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問6					
	合計	気をつけて いる	ある程度気 をつけてい る	あまり気をつ けていな い	気をつけて いない	無回答
全体	653	193	372	74	4	10
	100.0	29.6	57.0	11.3	0.6	1.5
男性	290	85	159	41	2	3
	100.0	29.3	54.8	14.1	0.7	1.0
女性	350	105	205	32	2	6
	100.0	30.0	58.6	9.1	0.6	1.7
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	2	5	1	-	-
	100.0	25.0	62.5	12.5	-	-
無回答	5	1	3	-	-	1
	100.0	20.0	60.0	-	-	20.0

「気を付けている」もしくは「ある程度気を付けている」を選択された方)何か実行していることがありますか。(〇はいくつでも)

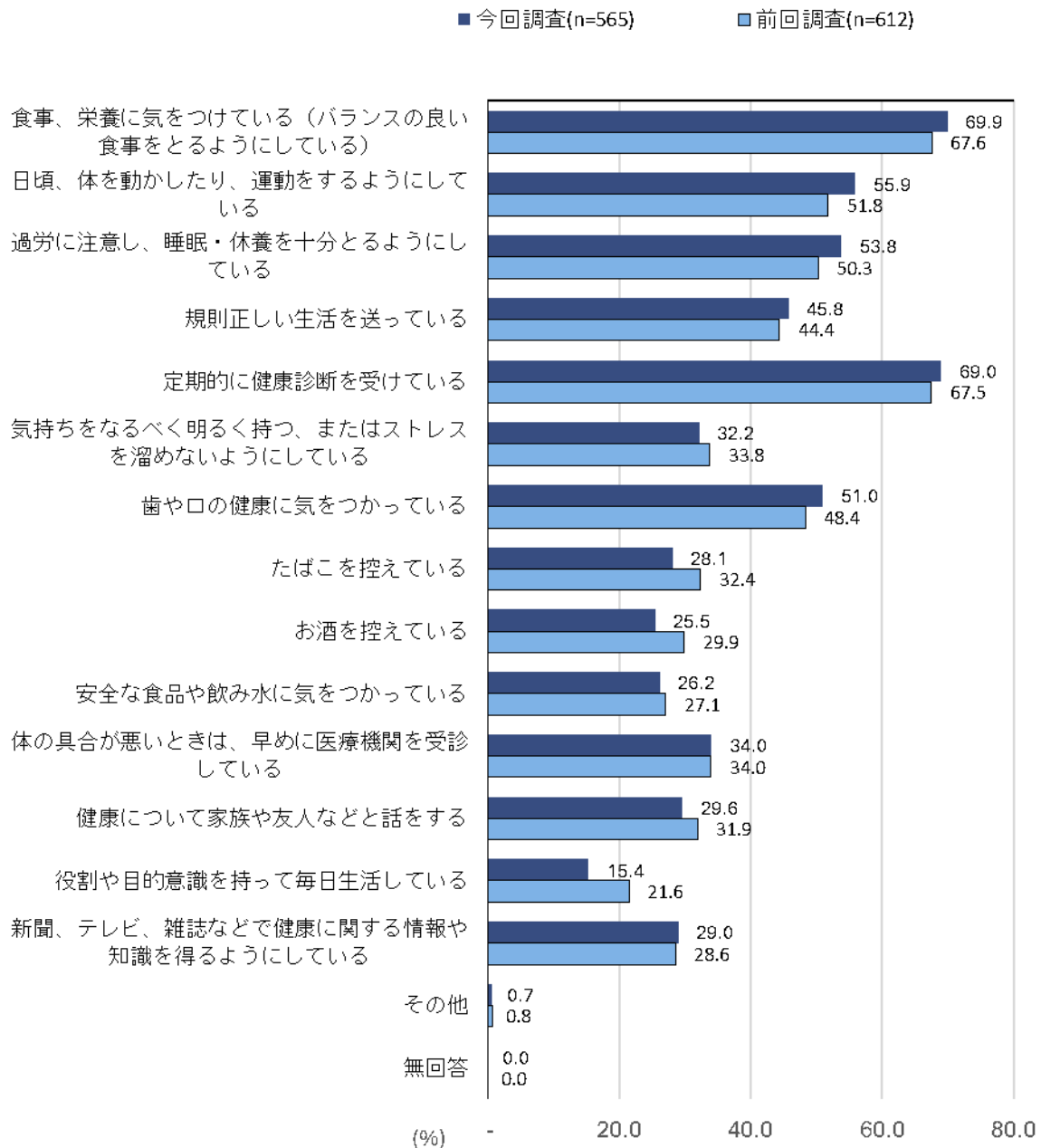
「食事、栄養に気を付けている(バランスの良い食事をとるようにしている)」が69.9%で最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」が69.0%となっている。その他、「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」(55.9%)、「過労に注意し、睡眠・休養を十分とるようにしている」(53.8%)、「歯や口の健康に気を付けている」(51.0%)、「規則正しい生活を送っている」(45.8%)、「体の具合が悪いときは、早めに医療機関を受診している」(34.0%)、「気持ちをなるべく明るく持つ、またはストレスを溜めないようにしている」(32.2%)が比較的高くなっている。



【経年比較】

前回調査と比較すると、「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」(51.8%→55.9%)や「歯や口の健康に気をつけている」(48.4%→51.0%)などで上昇している。

一方、「たばこを控えている」(32.4%→28.1%)や「お酒を控えている」(29.9%→25.5%)、「役割や目的意識を持って毎日生活している」(21.6%→15.4%)などで低下している。



【年齢別比較】

年齢別でみると、いずれの年代においても「食事、栄養に気をつけている」や「定期的に健康診断を受けている」が比較的高くなっており、「食事、栄養に気をつけている」は55歳以上で7割以上となっている。また、「食事、栄養に気をつけている」「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」「過労に注意し、睡眠・休養を十分とるようにしている」「規則正しい生活を送っている」「定期的に健康診断を受けている」「健康について家族や友人などと話をする」「新聞、テレビ、雑誌などで健康に関する情報や知識を得るようにしている」は、いずれも60～64歳が最も高くなっている。

なお、「たばこを控えている」は40～44歳が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問6-1								
	合計	食事、栄養 に気をつけている(パ ランスの良い 食事をする ようにして いる)	日頃、体を 動かしたり、 運動をす るようにな している	過労に注意 し、睡眠・ 休養を十分 とるように している	規則正しい 生活を送っ ている	定期的に健 康診断を受 けている	気持ちをな るべく明る く持つ、ま たはストレ スを溜めな いようにし ている	歯や口の健 康に気をつ かっている	たばこを控 えている
全体	565	395	316	304	259	390	182	288	159
	100.0	69.9	55.9	53.8	45.8	69.0	32.2	51.0	28.1
40～44歳	82	52	47	43	33	49	24	39	28
	100.0	63.4	57.3	52.4	40.2	59.8	29.3	47.6	34.1
45～49歳	92	63	46	46	43	63	31	46	25
	100.0	68.5	50.0	50.0	46.7	68.5	33.7	50.0	27.2
50～54歳	119	78	68	65	43	82	41	59	32
	100.0	65.5	57.1	54.6	36.1	68.9	34.5	49.6	26.9
55～59歳	139	103	78	76	68	99	45	75	37
	100.0	74.1	56.1	54.7	48.9	71.2	32.4	54.0	26.6
60～64歳	130	96	75	72	70	94	39	67	36
	100.0	73.8	57.7	55.4	53.8	72.3	30.0	51.5	27.7
無回答	3	3	2	2	2	3	2	2	1
	100.0	100.0	66.7	66.7	66.7	100.0	66.7	66.7	33.3

上段:回答数 下段:%	問6-1								
	合計	お酒を控え ている	安全な食品 や飲み水に 気をつかっ ている	体の具合が 悪いとき は、早めに 医療機関を 受診してい る	健康につい て家族や友 人などと話 をする	役割や目的 意識を持っ て毎日生活 している	新聞、テレ ビ、雑誌な どで健康に 関する情報 や知識を得 るようにし ている	その他	無回答
全体	565	144	148	192	167	87	164	4	-
	100.0	25.5	26.2	34.0	29.6	15.4	29.0	0.7	-
40～44歳	82	21	21	20	20	11	17	-	-
	100.0	25.6	25.6	24.4	24.4	13.4	20.7	-	-
45～49歳	92	19	23	27	25	15	21	1	-
	100.0	20.7	25.0	29.3	27.2	16.3	22.8	1.1	-
50～54歳	119	35	34	47	30	22	31	1	-
	100.0	29.4	28.6	39.5	25.2	18.5	26.1	0.8	-
55～59歳	139	36	35	49	43	21	46	-	-
	100.0	25.9	25.2	35.3	30.9	15.1	33.1	-	-
60～64歳	130	33	34	48	48	17	48	2	-
	100.0	25.4	26.2	36.9	36.9	13.1	36.9	1.5	-
無回答	3	-	1	1	1	1	1	-	-
	100.0	-	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-

【性別比較】

性別でみると、男性では「定期的に健康診断を受けている」が76.6%と最も高く、次いで「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」(66.8%)、「食事、栄養に気をつけている」(64.8%)となっている。女性では「食事、栄養に気をつけている」が74.2%と最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」(62.9%)、「歯や口の健康に気をつけている」(56.8%)、「過労に注意し、睡眠・休養を十分とるようにしている」(54.2%)となっている。また、「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」は男性の方が高く、「食事、栄養に気をつけている」や「歯や口の健康に気をつけている」、「健康について家族や友人などと話をする」などは女性の方が高くなっている。

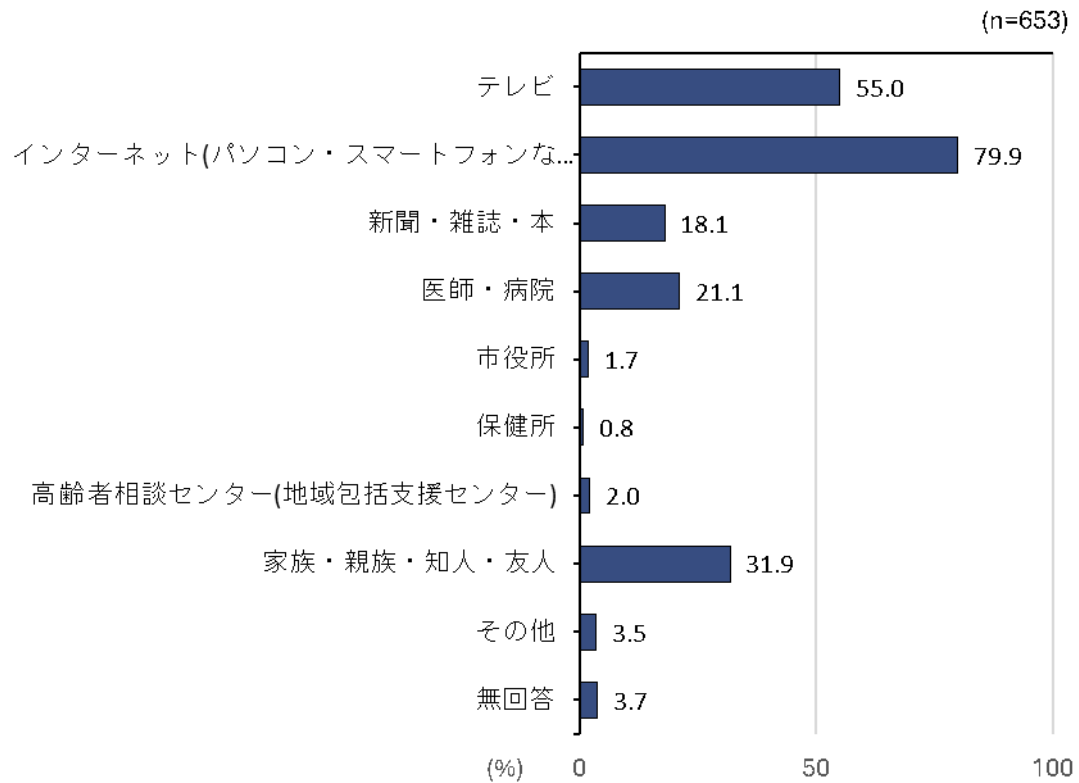
上段:回答数 下段:%	問6-1								
	合計	食事、栄養に気をつけている(バランスの良い食事をするようにしている)	日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている	過労に注意し、睡眠・休養を十分とるようにしている	規則正しい生活を送っている	定期的に健康診断を受けている	気持ちをなるべく明るく持つ、またはストレスを溜めないようにしている	歯や口の健康に気をつけている	たばこを控えている
全体	565	395	316	304	259	390	182	288	159
	100.0	69.9	55.9	53.8	45.8	69.0	32.2	51.0	28.1
男性	244	158	163	132	101	187	65	106	78
	100.0	64.8	66.8	54.1	41.4	76.6	26.6	43.4	32.0
女性	310	230	149	168	154	195	114	176	80
	100.0	74.2	48.1	54.2	49.7	62.9	36.8	56.8	25.8
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	7	4	3	2	2	4	-	5	-
	100.0	57.1	42.9	28.6	28.6	57.1	-	71.4	-
無回答	4	3	1	2	2	4	3	1	1
	100.0	75.0	25.0	50.0	50.0	100.0	75.0	25.0	25.0

上段:回答数 下段:%	問6-1								
	合計	お酒を控えている	安全な食品や飲み水に気をつけている	体の具合が悪いときは、早めに医療機関を受診している	健康について家族や友人などと話をする	役割や目的意識を持って毎日生活している	新聞、テレビ、雑誌などで健康に関する情報や知識を得るようにしている	その他	無回答
全体	565	144	148	192	167	87	164	4	-
	100.0	25.5	26.2	34.0	29.6	15.4	29.0	0.7	-
男性	244	63	51	76	48	31	50	2	-
	100.0	25.8	20.9	31.1	19.7	12.7	20.5	0.8	-
女性	310	80	94	113	116	55	111	2	-
	100.0	25.8	30.3	36.5	37.4	17.7	35.8	0.6	-
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	7	1	1	2	1	-	-	-	-
	100.0	14.3	14.3	28.6	14.3	-	-	-	-
無回答	4	-	2	1	2	1	3	-	-
	100.0	-	50.0	25.0	50.0	25.0	75.0	-	-

(2) 医療・介護情報の入手先

医療や介護の知識や情報を、何から得ていますか。(〇はいくつでも)

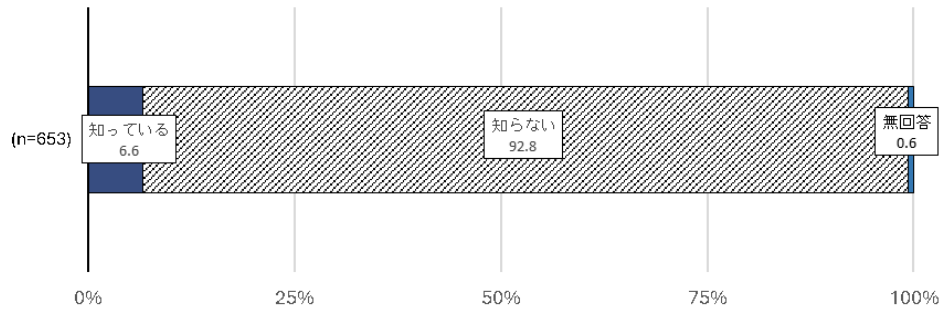
「インターネット(パソコン・スマートフォンなど)」が79.9%で最も高く、次いで「テレビ」が55.0%となっている。その他、「家族・親族・知人・友人」(31.9%)が比較的高くなっている。



(3) ACP の認知度

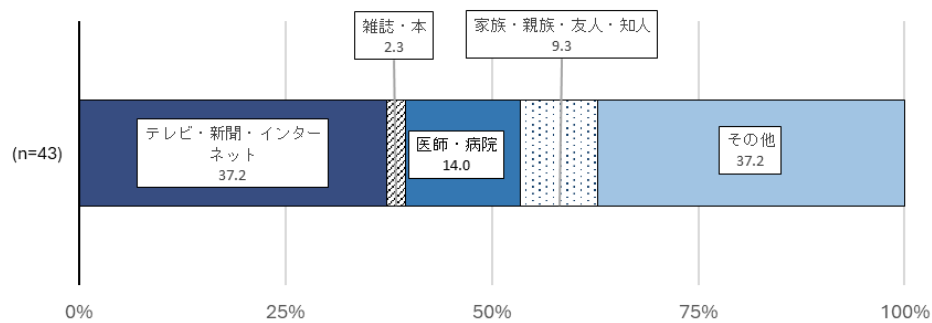
人生会議またはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)という言葉を知っていますか。

「知らない」が92.8%で最も高く、次いで「知っている」が6.6%となっている。



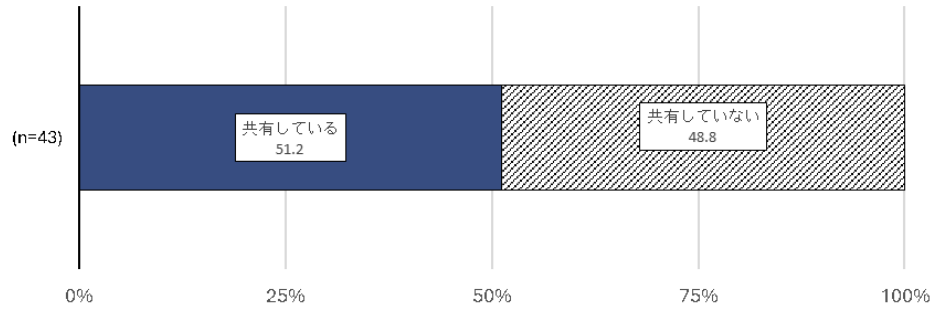
(「知っている」を選択された方) ACP という言葉をどこで知りましたか。

「テレビ・新聞・インターネット」が37.2%で最も高く、次いで「医師・病院」が14.0%となっている。



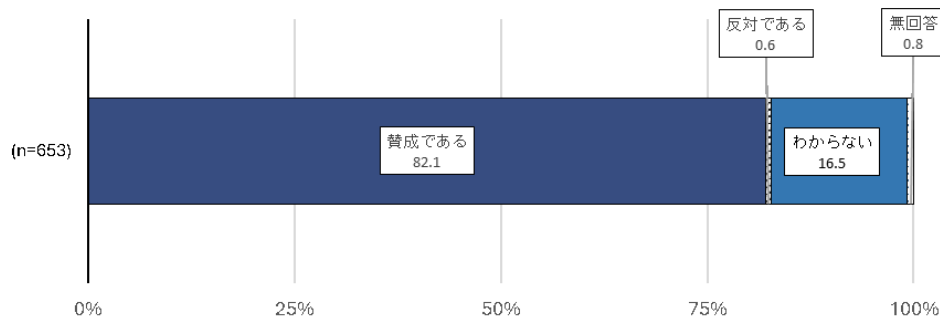
(「知っている」を選択された方)実際に家族や信頼する人たちと自分の考えを話し合ったり、共有していますか。

「共有している」が 51.2%で最も高く、次いで「共有していない」が 48.8%となっている。



人生の最終段階の医療・療養について、あなたの意思に沿った医療・療養を受けるためには、家族等や医療・ケアチームとあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことが重要といわれています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

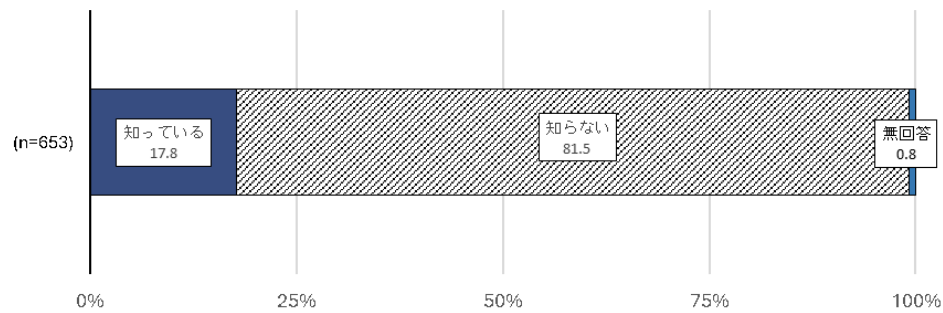
「賛成である」が 82.1%で最も高く、次いで「わからない」が 16.5%となっている。



(4) 認知症について

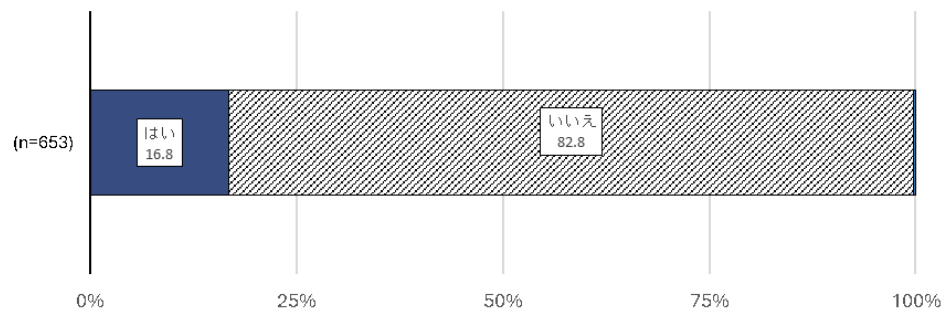
令和6年1月に認知症基本法が策定され、その中の考え方として「新しい認知症観」※の普及を推進しています。「新しい認知症観」を知っていますか。

「知らない」が81.5%で最も高く、次いで「知っている」が17.8%となっている。



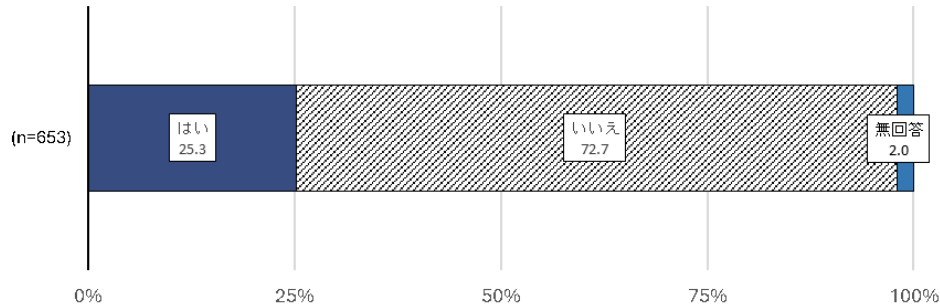
認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。

「いいえ」が82.8%で最も高く、次いで「はい」が16.8%となっている。



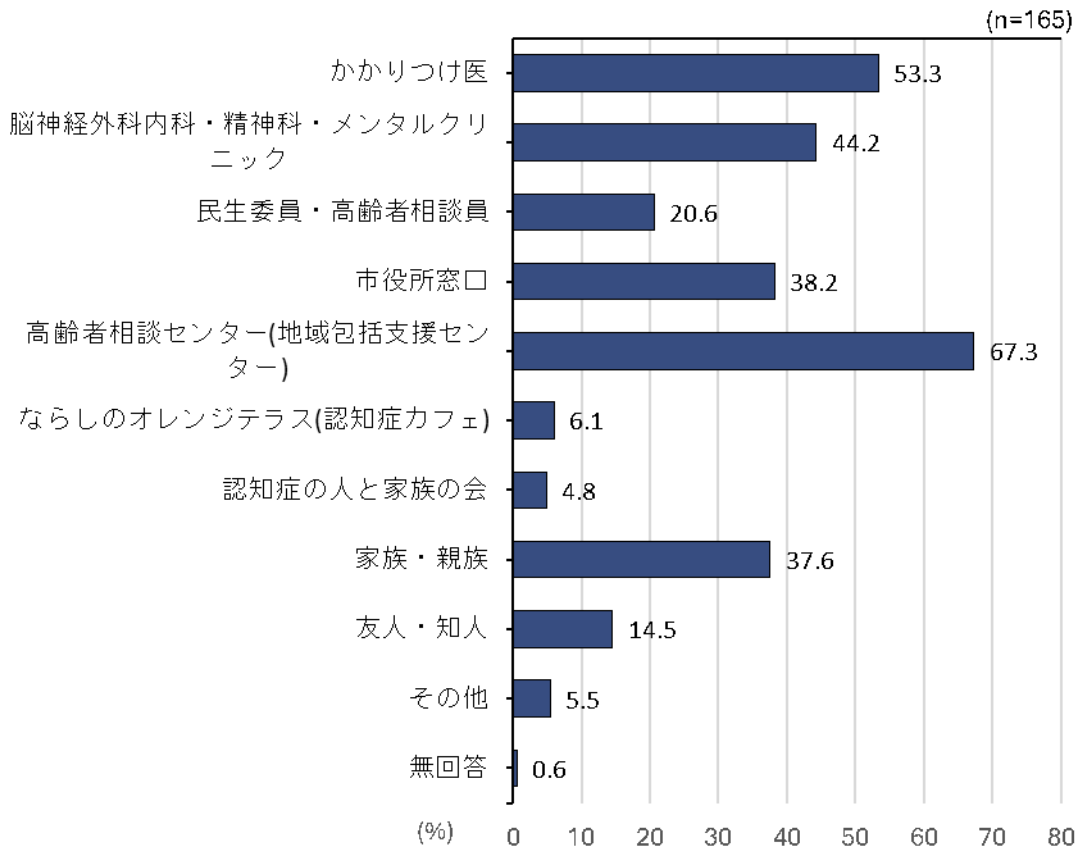
認知症に関する相談窓口を知っていますか。

「いいえ」が72.7%で最も高く、次いで「はい」が25.3%となっている。



(「はい」を選択された方)どこに相談すると思いますか、または相談しましたか。(〇はいくつでも)

「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」が67.3%で最も高く、次いで「かかりつけ医」が53.3%となっている。その他、「脳神経外科内科・精神科・メンタルクリニック」(44.2%)、「市役所窓口」(38.2%)、「家族・親族」(37.6%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

年齢別でみると、40代では「かかりつけ医」が最も高いのに対し、50代以上は「高齢者相談センター」が最も高くなっている。

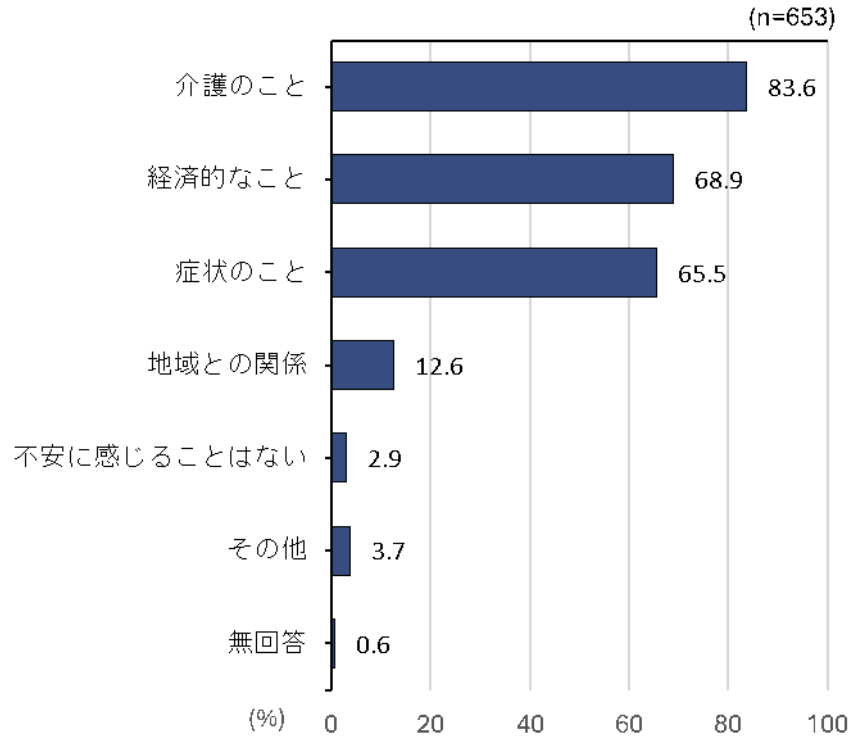
その他、「市役所窓口」、「家族・親族」、「友人・知人」は40～44歳が高い傾向にあるほか、「民生委員・高齢者相談員」は55～59歳が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問12-1						
	合計	かかりつけ医	脳神経外科 内科・精神 科・メンタ ルクリニック	民生委員・ 高齢者相談 員	市役所窓口	高齢者相談 センター(地 域包括支援 センター)	ならしのオ レンジテラ ス(認知症カ フェ)
全体	165	88	73	34	63	111	10
	100.0	53.3	44.2	20.6	38.2	67.3	6.1
40～44歳	15	9	8	3	9	8	2
	100.0	60.0	53.3	20.0	60.0	53.3	13.3
45～49歳	20	14	7	3	10	12	2
	100.0	70.0	35.0	15.0	50.0	60.0	10.0
50～54歳	35	18	17	8	14	22	4
	100.0	51.4	48.6	22.9	40.0	62.9	11.4
55～59歳	48	21	19	13	13	35	-
	100.0	43.8	39.6	27.1	27.1	72.9	-
60～64歳	46	25	21	6	16	33	1
	100.0	54.3	45.7	13.0	34.8	71.7	2.2
無回答	1	1	1	1	1	1	1
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

上段:回答数 下段:%	問12-1					
	合計	認知症の人 と家族の会	家族・親族	友人・知人	その他	無回答
全体	165	8	62	24	9	1
	100.0	4.8	37.6	14.5	5.5	0.6
40～44歳	15	3	9	4	-	-
	100.0	20.0	60.0	26.7	-	-
45～49歳	20	-	9	3	-	-
	100.0	-	45.0	15.0	-	-
50～54歳	35	3	12	5	-	-
	100.0	8.6	34.3	14.3	-	-
55～59歳	48	-	14	6	5	1
	100.0	-	29.2	12.5	10.4	2.1
60～64歳	46	1	17	5	4	-
	100.0	2.2	37.0	10.9	8.7	-
無回答	1	1	1	1	-	-
	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-

自分自身が認知症になったときどうしたらいいのか、不安に感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

「介護のこと」が83.6%で最も高く、次いで「経済的なこと」が68.9%となっている。その他、「症状のこと」(65.5%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

年齢別でみると、「介護のこと」「経済的なこと」「症状のこと」は、いずれの年代においても比較的高くなっており、なかでも「介護のこと」が最も高くなっている。また、「介護のこと」は60～64歳が最も高くなっている。なお、「経済的なこと」は40代が7割以上と高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問13							
	合計	介護のこと	経済的なこと	症状のこと	地域との関係	不安に感じることはない	その他	無回答
全体	653	546	450	428	82	19	24	4
	100.0	83.6	68.9	65.5	12.6	2.9	3.7	0.6
40～44歳	103	84	76	71	16	5	4	-
	100.0	81.6	73.8	68.9	15.5	4.9	3.9	-
45～49歳	113	96	83	70	14	4	2	1
	100.0	85.0	73.5	61.9	12.4	3.5	1.8	0.9
50～54歳	140	113	97	99	18	1	5	-
	100.0	80.7	69.3	70.7	12.9	0.7	3.6	-
55～59歳	151	125	102	101	17	6	7	-
	100.0	82.8	67.5	66.9	11.3	4.0	4.6	-
60～64歳	142	125	91	85	17	3	6	2
	100.0	88.0	64.1	59.9	12.0	2.1	4.2	1.4
無回答	4	3	1	2	-	-	-	1
	100.0	75.0	25.0	50.0	-	-	-	25.0

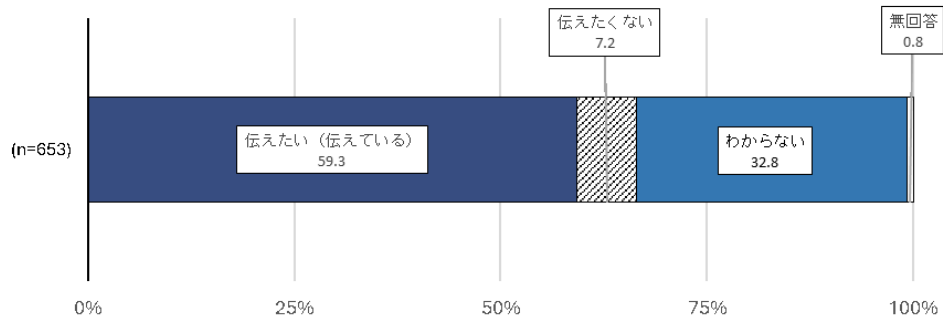
【性別比較】

性別でみると、「介護のこと」は男女ともに最も高くなっている。また、「症状のこと」や「地域との関係」は女性の方が高くなっており、「経済的なこと」は男性の方が高くなっている。

上段:回答数	問13							
下段:%	合計	介護のこと	経済的なこと	症状のこと	地域との関係	不安に感じることはない	その他	無回答
全体	653	546	450	428	82	19	24	4
	100.0	83.6	68.9	65.5	12.6	2.9	3.7	0.6
男性	290	241	203	178	27	10	8	2
	100.0	83.1	70.0	61.4	9.3	3.4	2.8	0.7
女性	350	295	240	243	54	9	16	1
	100.0	84.3	68.6	69.4	15.4	2.6	4.6	0.3
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	6	5	4	1	-	-	-
	100.0	75.0	62.5	50.0	12.5	-	-	-
無回答	5	4	2	3	-	-	-	1
	100.0	80.0	40.0	60.0	-	-	-	20.0

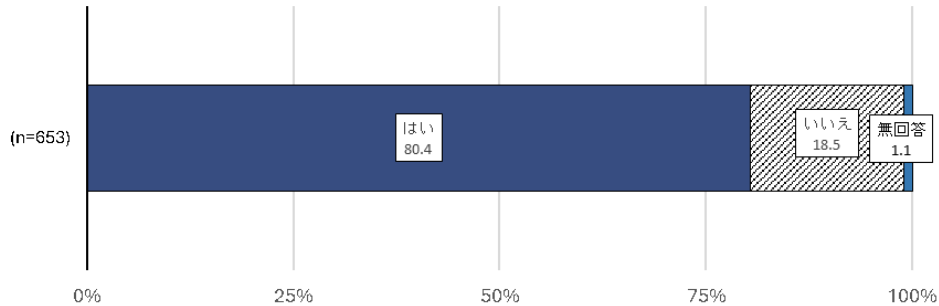
自分や家族が認知症になった場合、周囲に認知症であることを伝えたいと思いますか。

「伝えたい(伝えている)」が 59.3%で最も高く、次いで「わからない」が 32.8%となっている。



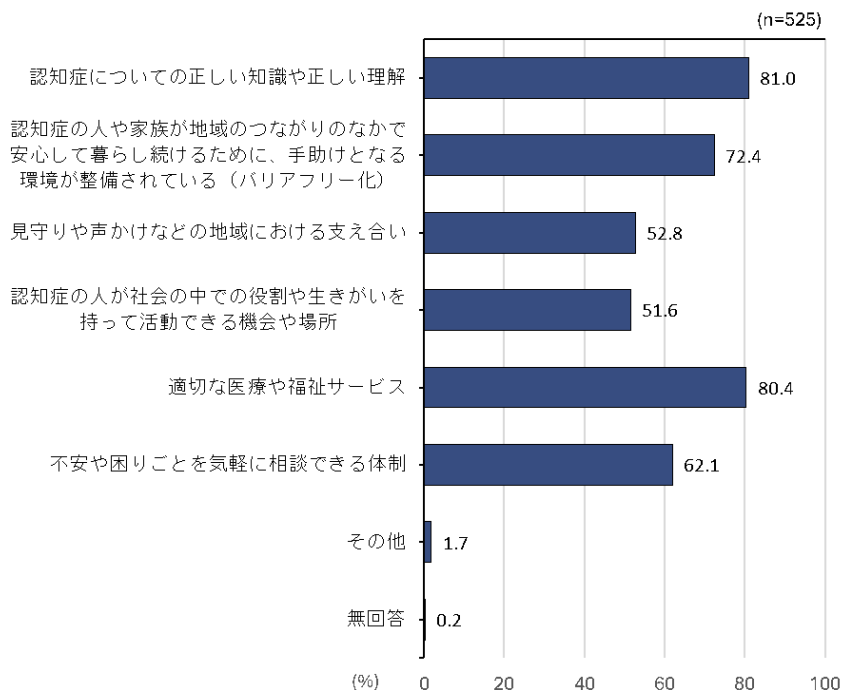
認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思いますか。

「はい」が80.4%で最も高く、次いで「いいえ」が18.5%となっている。



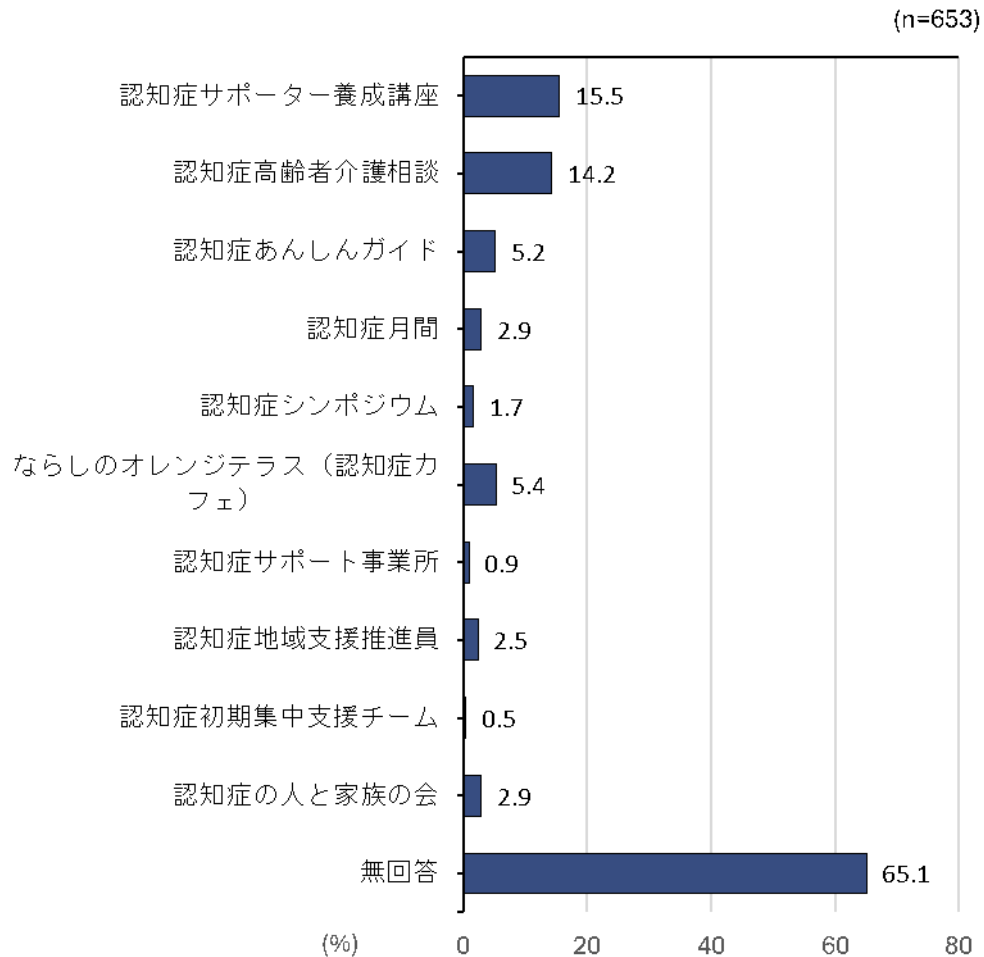
(「はい」を選択された方)認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる地域を作っていくためには必要であると思うことは何ですか。(○はいくつでも)

「認知症についての正しい知識や正しい理解」が81.0%で最も高く、次いで「適切な医療や福祉サービス」が80.4%となっている。その他、「認知症の人や家族が地域のつながりのなかで安心して暮らし続けるために、手助けとなる環境が整備されている(バリアフリー化)」(72.4%)、「不安や困りごとを気軽に相談できる体制」(62.1%)、「見守りや声かけなどの地域における支え合い」(52.8%)、「認知症の人が社会の中での役割や生きがいを持って活動できる機会や場所」(51.6%)が比較的高くなっている。



市が取り組んでいる認知症施策等で知っているものはありますか。

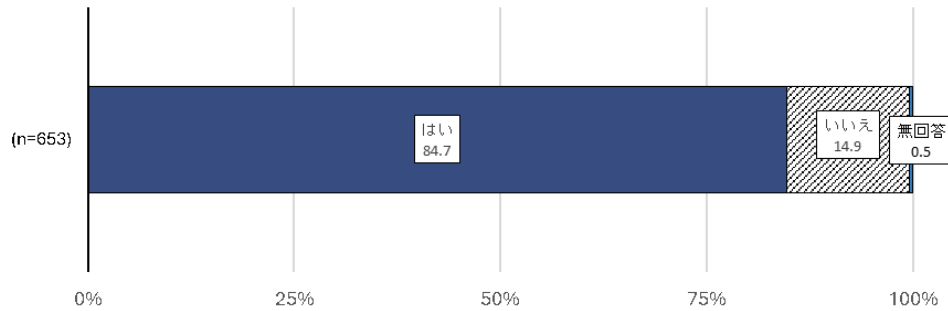
「認知症サポーター養成講座」が15.5%で最も高く、次いで「認知症高齢者介護相談」が14.2%となっている。



(5) 健康診査等の状況

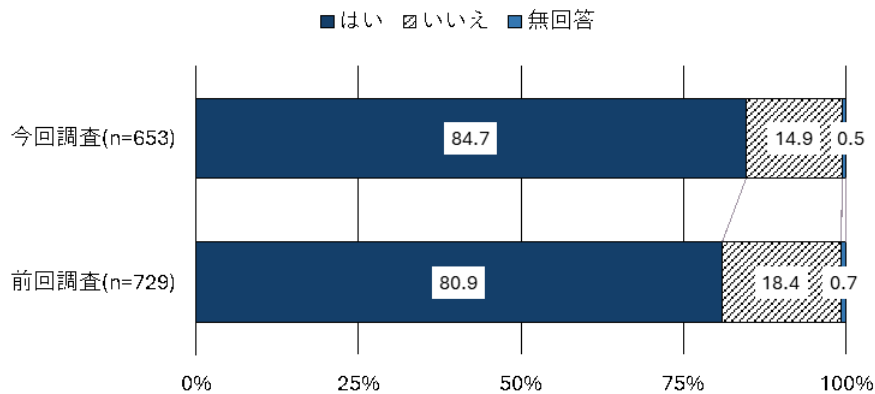
あなたは、1年以内に健康診査(特定健康診査・人間ドック・職場の健診等)を受けましたか。

「はい」が84.7%で最も高く、次いで「いいえ」が14.9%となっている。



【経年比較】

前回調査に比べ、受診割合がわずかに上昇している。



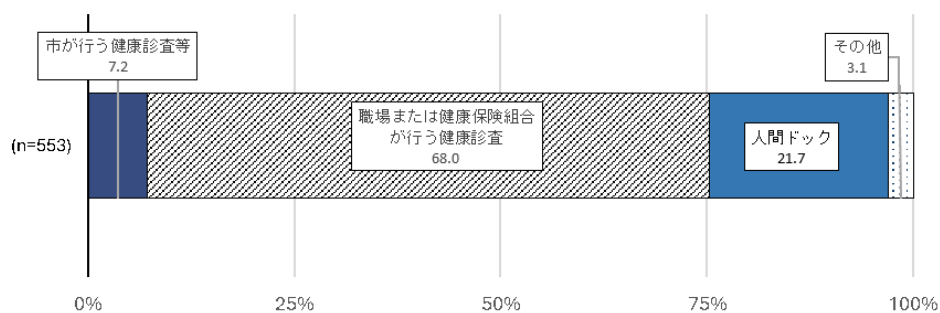
【性別比較】

性別でみると、受診割合は男性が91.0%で女性は79.7%であり、11.1ポイントの差がある。

上段:回答数	問17			
下段:%	合計	はい	いいえ	無回答
全体	653	553	97	3
	100.0	84.7	14.9	0.5
男性	290	264	25	1
	100.0	91.0	8.6	0.3
女性	350	279	70	1
	100.0	79.7	20.0	0.3
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-
答えたくない	8	6	2	-
	100.0	75.0	25.0	-
無回答	5	4	-	1
	100.0	80.0	-	20.0

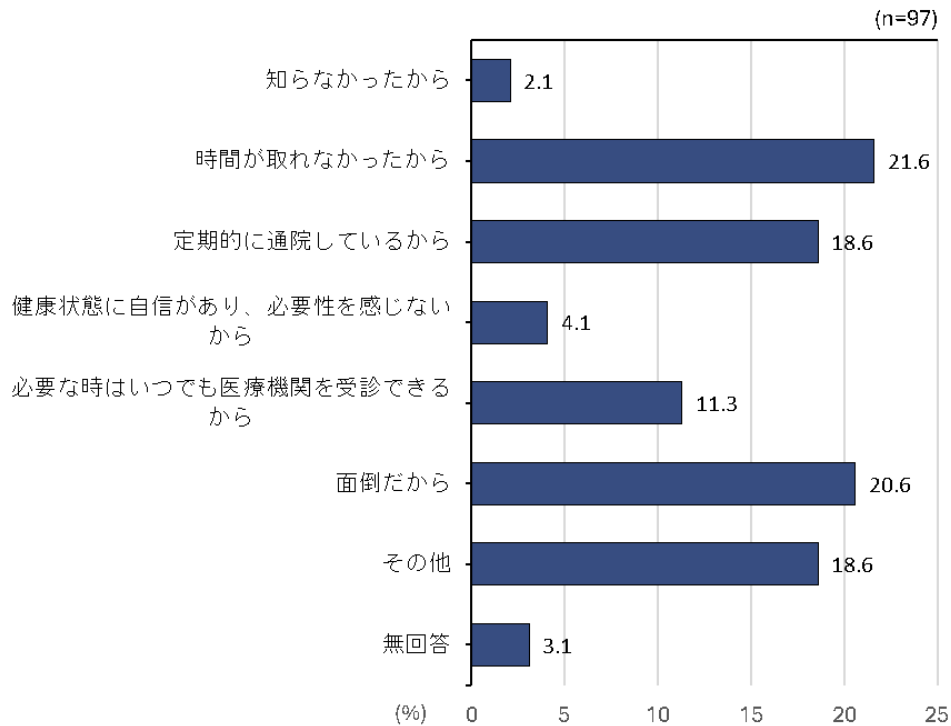
（「はい」を選択された方）どちらで健康診査を受けましたか。

「職場または健康保険組合が行う健康診査」が68.0%で最も高く、次いで「人間ドック」が21.7%となっている。



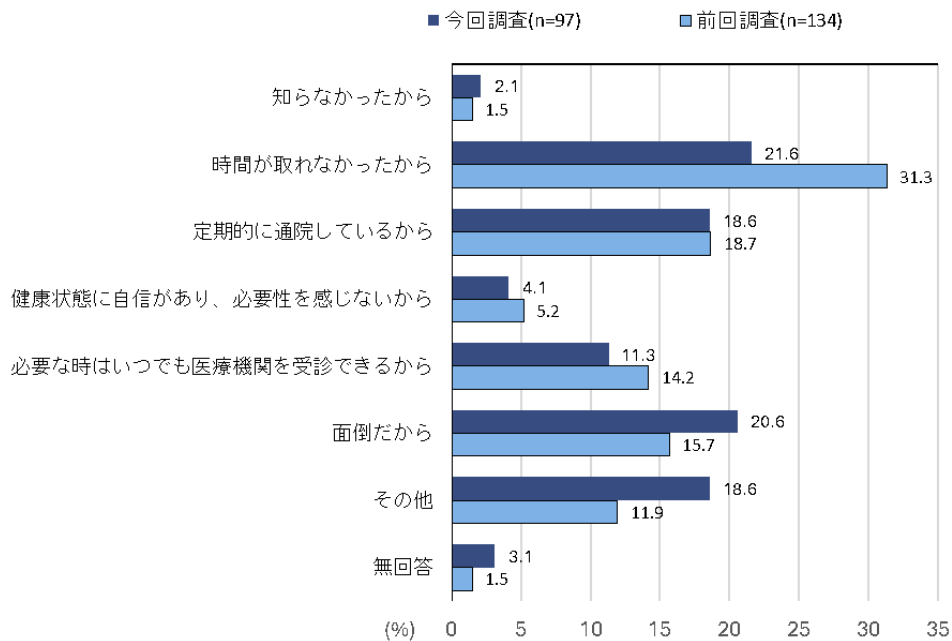
（「いいえ」を選択された方）健康診査を受けなかった理由は何ですか。

「時間が取れなかったから」が21.6%で最も高く、次いで「面倒だから」が20.6%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「時間が取れなかったから」が9.7ポイント下がり、「面倒だから」が4.9ポイント上昇している。



【年齢別】

年齢別でみると、「時間が取れなかったから」はいずれの年代でも2割前後となっており、45～49歳で28.6%と最も高くなっている。また、「面倒だから」は40～54歳で比較的高く、特に50～54歳で30.0%と高くなっている。一方、「定期的に通院しているから」は55～59歳で31.8%、「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」は60～64歳で17.4%と、それぞれ高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問17-2								
	合計	知らなかったから	時間が取れなかったから	定期的に通院しているから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	必要な時はいつでも医療機関を受診できるから	面倒だから	その他	無回答
全体	97	2	21	18	4	11	20	18	3
	100.0	2.1	21.6	18.6	4.1	11.3	20.6	18.6	3.1
40～44歳	18	1	3	1	2	2	5	4	-
	100.0	5.6	16.7	5.6	11.1	11.1	27.8	22.2	-
45～49歳	14	-	4	2	2	1	4	1	-
	100.0	-	28.6	14.3	14.3	7.1	28.6	7.1	-
50～54歳	20	-	4	2	-	2	6	5	1
	100.0	-	20.0	10.0	-	10.0	30.0	25.0	5.0
55～59歳	22	-	5	7	-	2	3	3	2
	100.0	-	22.7	31.8	-	9.1	13.6	13.6	9.1
60～64歳	23	1	5	6	-	4	2	5	-
	100.0	4.3	21.7	26.1	-	17.4	8.7	21.7	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-

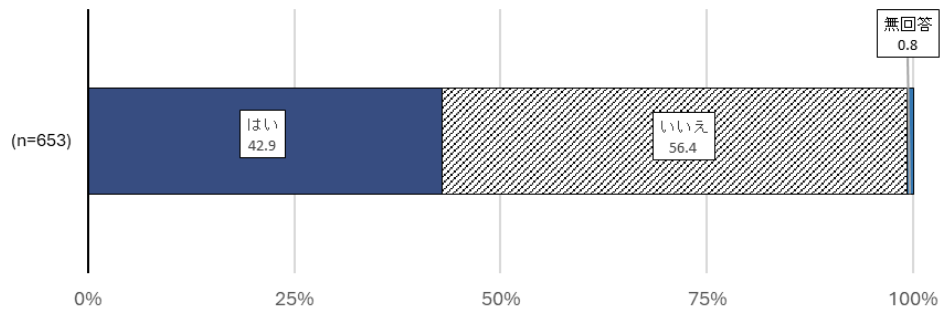
【性別比較】

性別でみると、「時間が取れなかったから」は男女ともに2割程度となっている。また、「面倒だから」は男性で28.0%と女性(17.1%)に比べて高くなっている。一方、「定期的に通院しているから」や「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」は女性の方が高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問17-2								
	合計	知らなかったから	時間が取れなかったから	定期的に通院しているから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	必要な時はいつでも医療機関を受診できるから	面倒だから	その他	無回答
全体	97	2	21	18	4	11	20	18	3
	100.0	2.1	21.6	18.6	4.1	11.3	20.6	18.6	3.1
男性	25	2	5	3	2	-	7	5	1
	100.0	8.0	20.0	12.0	8.0	-	28.0	20.0	4.0
女性	70	-	15	15	2	11	12	13	2
	100.0	-	21.4	21.4	2.9	15.7	17.1	18.6	2.9
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	2	-	1	-	-	-	1	-	-
	100.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-

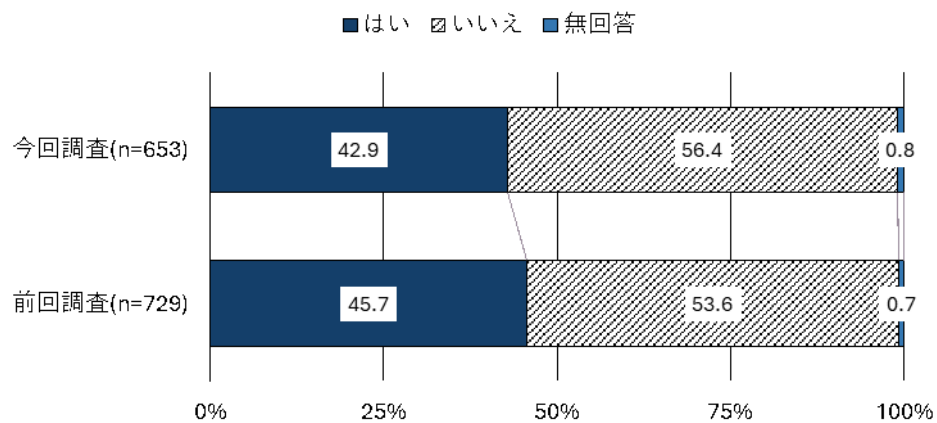
あなたは、1年以内にがん検診を受けましたか。

「いいえ」が56.4%で最も高く、次いで「はい」が42.9%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、受診割合がわずかに上昇している。



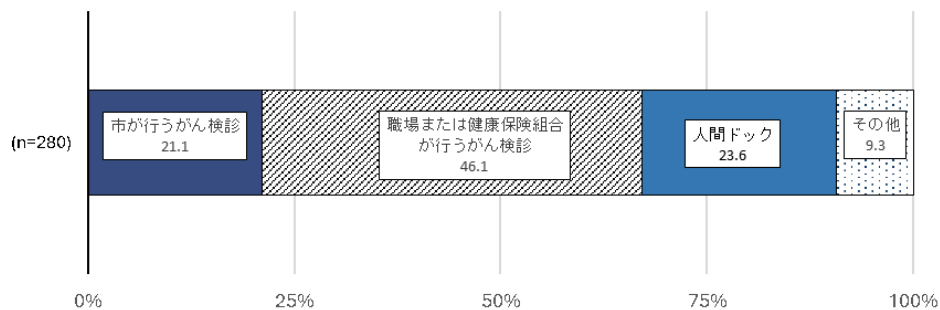
【性別比較】

性別でみると、女性の受診割合が56.6%と男性よりも13.7ポイント高い。

上段:回答数	問18			
下段:%	合計	はい	いいえ	無回答
全体	653	280	368	5
	100.0	42.9	56.4	0.8
男性	290	74	214	2
	100.0	25.5	73.8	0.7
女性	350	198	150	2
	100.0	56.6	42.9	0.6
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-
	-	-	-	-
答えたくない	8	5	3	-
	100.0	62.5	37.5	-
無回答	5	3	1	1
	100.0	60.0	20.0	20.0

(「はい」を選択された方)どちらでがん検診を受けましたか。

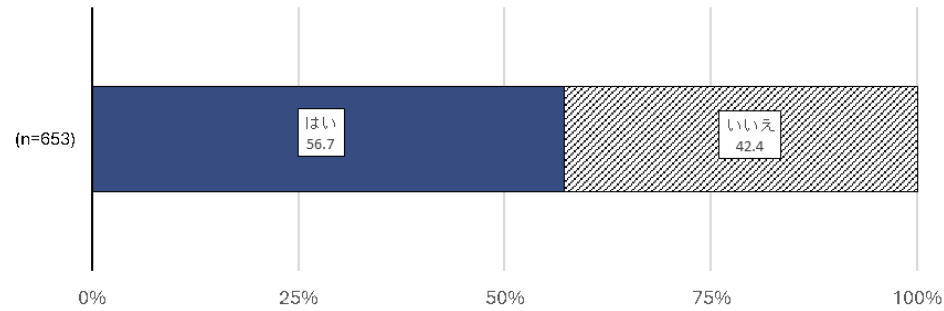
「職場または健康保険組合が行うがん検診」が46.1%で最も高く、次いで「人間ドック」が23.6%となっている。



(6) 口腔機能の状況

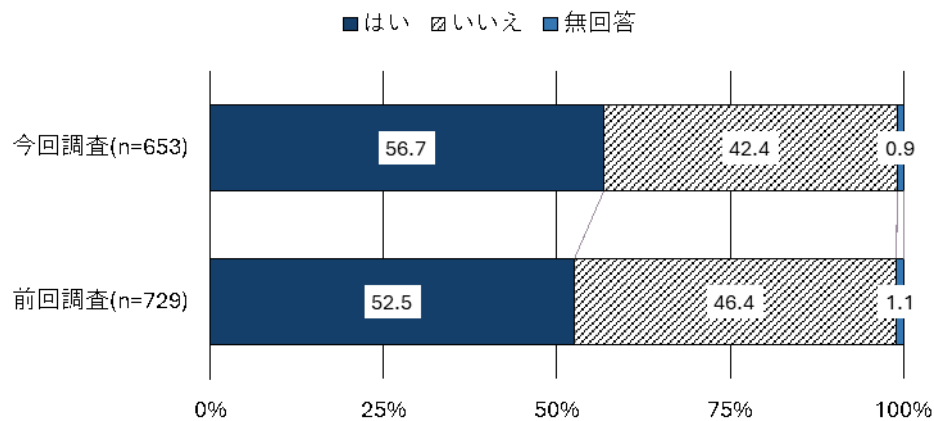
あなたは、1年以内に歯科健康診査を受けましたか。

「はい」が56.7%で最も高く、次いで「いいえ」が42.4%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、受診割合がわずかに上昇している。



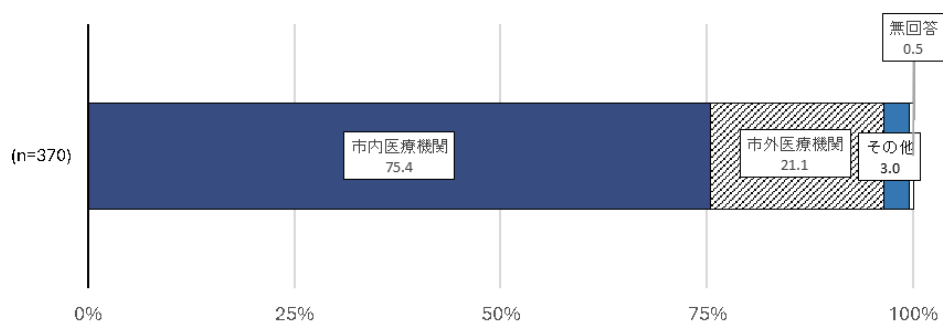
【性別比較】

性別でみると、女性の受診割合が64.3%と男性よりも17.4ポイント高い。

上段:回答数	問19			
下段:%	合計	はい	いいえ	無回答
全体	653	370	277	6
	100.0	56.7	42.4	0.9
男性	290	136	152	2
	100.0	46.9	52.4	0.7
女性	350	225	122	3
	100.0	64.3	34.9	0.9
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-
	-	-	-	-
答えたくない	8	7	1	-
	100.0	87.5	12.5	-
無回答	5	2	2	1
	100.0	40.0	40.0	20.0

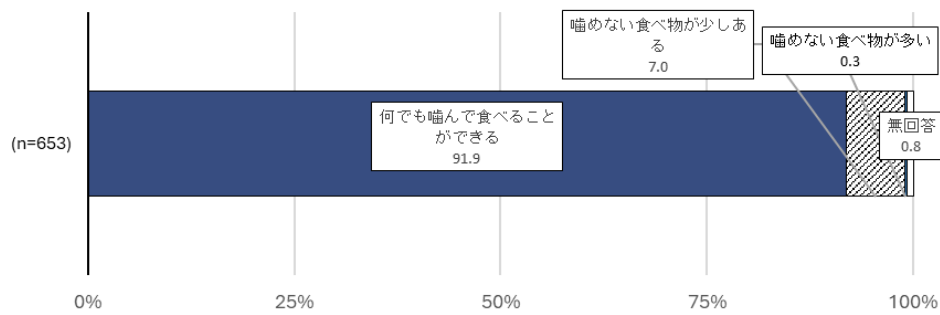
(「はい」を選択された方)どちらで歯科健康診査を受けましたか。

「市内医療機関」が75.4%で最も高く、次いで「市外医療機関」が21.1%となっている。



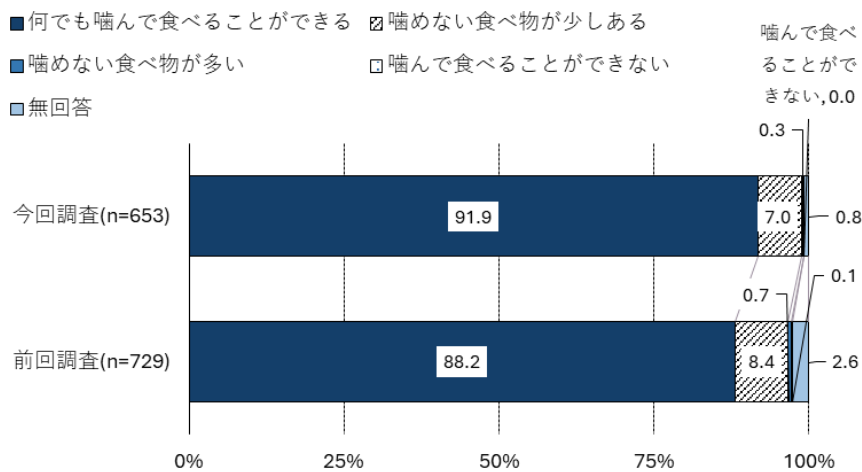
あなたは、ものを噛んで食べるとき、どのような状態ですか。(※入れ歯を使っても結構です。)

「何でも噛んで食べることができる」が91.9%で最も高く、次いで「噛めない食べ物が少しある」が7.0%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「何でも噛んで食べることができる」がわずかに上昇している。

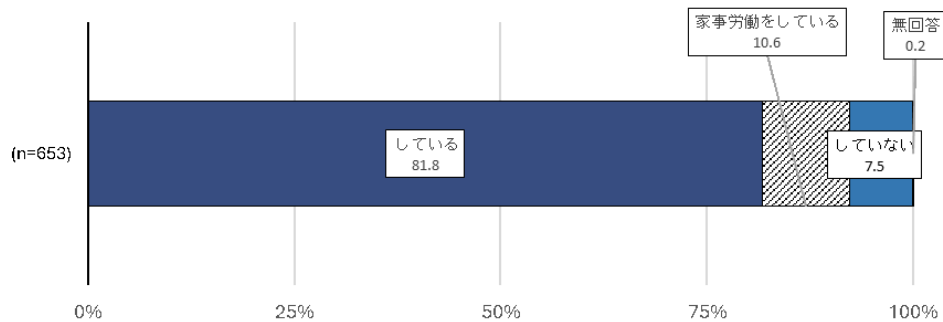


3. 就労や社会参画などについて

(1) 就労の状況

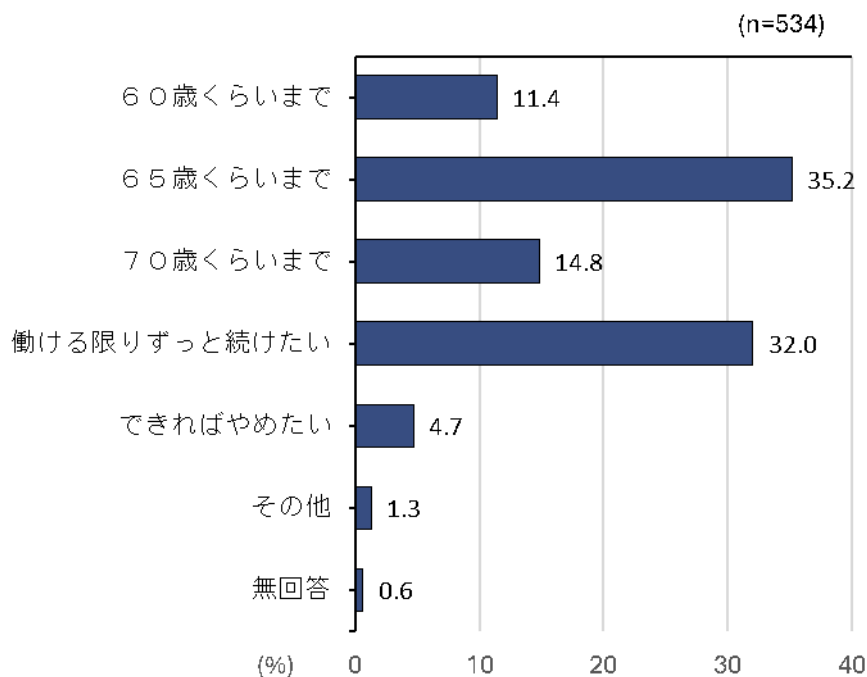
あなたは、現在、仕事をしていますか。

「している」が81.8%で最も高く、次いで「家事労働をしている」が10.6%となっている。



(「している」を選択された方) あなたは何歳ぐらいまで働きたいと思いますか。

「65歳くらいまで」が35.2%で最も高く、次いで「働ける限りずっと続けたい」が32.0%となっている。

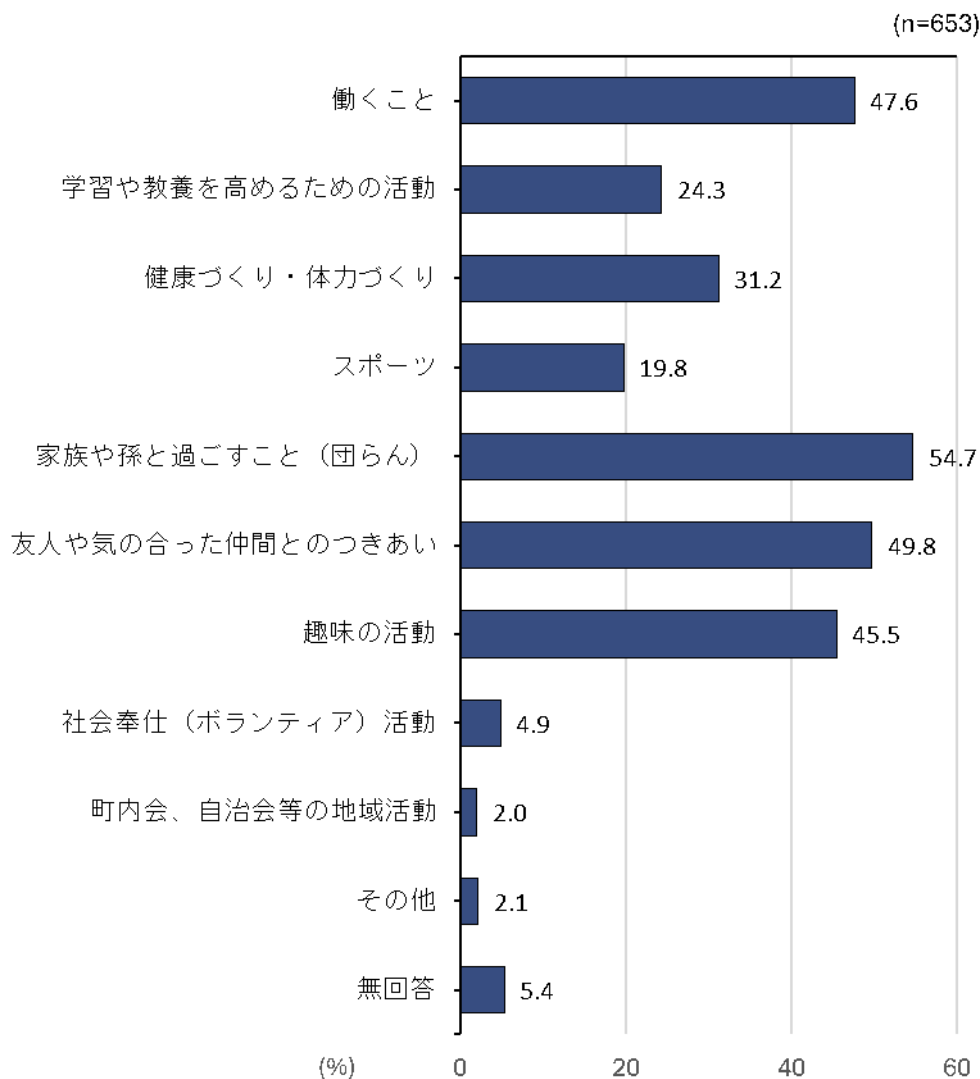


(2) 生きがいや今後やりたいこと

あなたが現在まで行っていることで、生きがいを感じるのとはどんなことですか。また、今後やってみたい(続けたい)ことはどんなことですか。(〇はそれぞれいくつでも)

①生きがいを感じること

「家族や孫と過ごすこと(団らん)」が54.7%で最も高く、次いで「友人や気の合った仲間とのつきあい」が49.8%となっている。その他、「働くこと」(47.6%)、「趣味の活動」(45.5%)、「健康づくり・体力づくり」(31.2%)が比較的高くなっている。



第4章 一般若年者調査

【年齢別比較】

年齢別でみると、55～59歳のみ「友人や気の合った仲間とのつきあい」が57.0%と最も高く、それ以外の年代では「家族や孫と過ごすこと(団らん)」が最も高い。「働くこと」は45～49歳が最も高く、「健康づくり・体力づくり」「スポーツ」は55歳以上が比較的高くなっている。

上段:回答数	問22①											
下段:%	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	311	159	204	129	357	325	297	32	13	14	35
	100.0	47.6	24.3	31.2	19.8	54.7	49.8	45.5	4.9	2.0	2.1	5.4
40～44歳	103	48	31	31	26	62	53	50	7	2	1	2
	100.0	46.6	30.1	30.1	25.2	60.2	51.5	48.5	6.8	1.9	1.0	1.9
45～49歳	113	60	30	31	17	69	58	51	8	4	1	5
	100.0	53.1	26.5	27.4	15.0	61.1	51.3	45.1	7.1	3.5	0.9	4.4
50～54歳	140	59	24	40	17	80	67	62	5	1	3	11
	100.0	42.1	17.1	28.6	12.1	57.1	47.9	44.3	3.6	0.7	2.1	7.9
55～59歳	151	71	33	50	37	79	86	77	4	3	5	4
	100.0	47.0	21.9	33.1	24.5	52.3	57.0	51.0	2.6	2.0	3.3	2.6
60～64歳	142	72	41	52	32	65	58	57	8	3	4	12
	100.0	50.7	28.9	36.6	22.5	45.8	40.8	40.1	5.6	2.1	2.8	8.5
無回答	4	1	-	-	-	2	3	-	-	-	-	1
	100.0	25.0	-	-	-	50.0	75.0	-	-	-	-	25.0

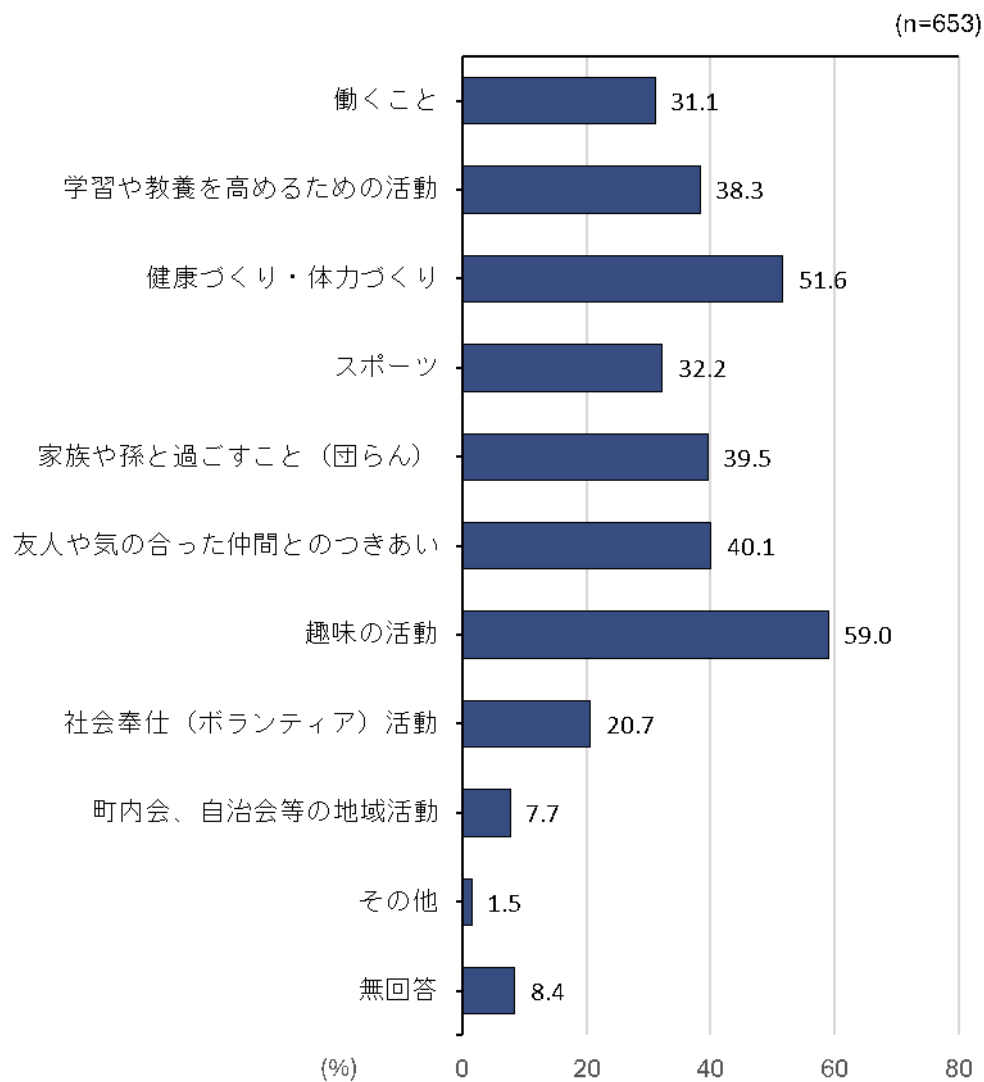
【性別比較】

性別でみると、「家族や孫と過ごすこと」が男女ともに最も高い。「友人や気の合った仲間とのつきあい」や「社会奉仕(ボランティア)活動」は女性の方が高く、「健康づくり・体力づくり」や「スポーツ」は男性の方が高くなっている。

上段:回答数	問22①											
下段:%	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	311	159	204	129	357	325	297	32	13	14	35
	100.0	47.6	24.3	31.2	19.8	54.7	49.8	45.5	4.9	2.0	2.1	5.4
男性	290	134	74	104	82	151	108	139	8	4	6	8
	100.0	46.2	25.5	35.9	28.3	52.1	37.2	47.9	2.8	1.4	2.1	2.8
女性	350	172	84	99	44	201	209	156	24	9	8	25
	100.0	49.1	24.0	28.3	12.6	57.4	59.7	44.6	6.9	2.6	2.3	7.1
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	3	1	1	3	2	4	2	-	-	-	1
	100.0	37.5	12.5	12.5	37.5	25.0	50.0	25.0	-	-	-	12.5
無回答	5	2	-	-	-	3	4	-	-	-	-	1
	100.0	40.0	-	-	-	60.0	80.0	-	-	-	-	20.0

②今後やってみたいこと

「趣味の活動」が59.0%で最も高く、次いで「健康づくり・体力づくり」が51.6%となっている。その他、「友人や気の合った仲間とのつきあい」(40.1%)、「家族や孫と過ごすこと(団らん)」(39.5%)、「学習や教養を高めるための活動」(38.3%)、「スポーツ」(32.2%)、「働くこと」(31.1%)が比較的高くなっている。



第4章 一般若年者調査

【年齢別比較】

年齢別でみると、60～64歳のみ「健康づくり・体力づくり」が最も高く、その他の年代では「趣味の活動」が最も高くなっている。また、「スポーツ」「友人や気の合った仲間とのつきあい」は55～59歳が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問22②											
	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	203	250	337	210	258	262	385	135	50	10	55
	100.0	31.1	38.3	51.6	32.2	39.5	40.1	59.0	20.7	7.7	1.5	8.4
40～44歳	103	29	40	56	37	34	32	68	18	8	2	7
	100.0	28.2	38.8	54.4	35.9	33.0	31.1	66.0	17.5	7.8	1.9	6.8
45～49歳	113	39	46	55	35	42	50	73	27	8	1	7
	100.0	34.5	40.7	48.7	31.0	37.2	44.2	64.6	23.9	7.1	0.9	6.2
50～54歳	140	43	47	77	43	56	55	84	30	11	1	13
	100.0	30.7	33.6	55.0	30.7	40.0	39.3	60.0	21.4	7.9	0.7	9.3
55～59歳	151	51	62	76	55	70	68	88	31	14	4	6
	100.0	33.8	41.1	50.3	36.4	46.4	45.0	58.3	20.5	9.3	2.6	4.0
60～64歳	142	40	54	72	39	55	55	71	28	8	2	21
	100.0	28.2	38.0	50.7	27.5	38.7	38.7	50.0	19.7	5.6	1.4	14.8
無回答	4	1	1	1	1	1	2	1	1	1	-	1
	100.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	-	25.0

【性別比較】

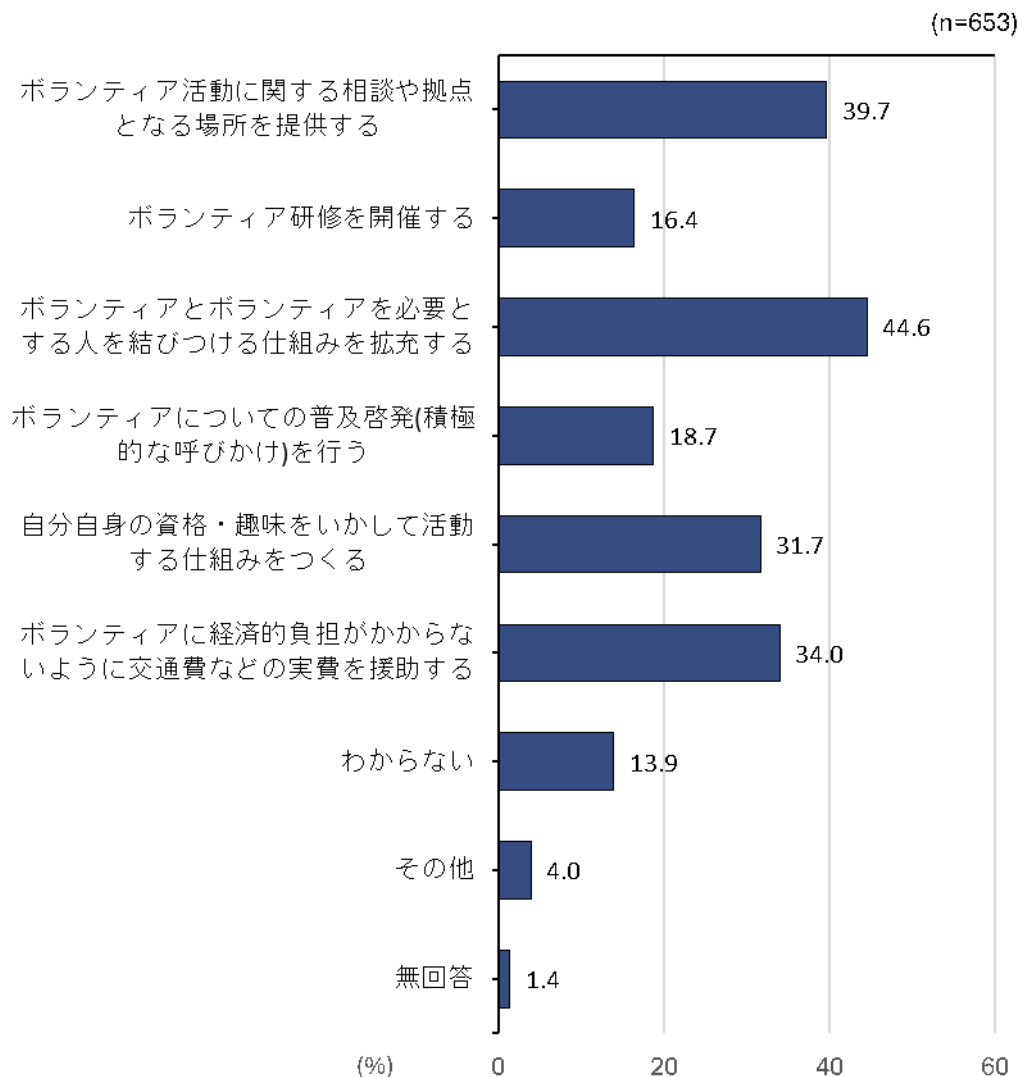
性別でみると、「趣味の活動」は男女ともに最も高くなっている。また、「スポーツ」や「趣味の活動」は男性の方が高く、それ以外の項目は概ね女性の方が高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問22②											
	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	203	250	337	210	258	262	385	135	50	10	55
	100.0	31.1	38.3	51.6	32.2	39.5	40.1	59.0	20.7	7.7	1.5	8.4
男性	290	79	104	141	97	111	101	180	48	18	3	19
	100.0	27.2	35.9	48.6	33.4	38.3	34.8	62.1	16.6	6.2	1.0	6.6
女性	350	120	143	190	107	143	156	202	86	31	7	34
	100.0	34.3	40.9	54.3	30.6	40.9	44.6	57.7	24.6	8.9	2.0	9.7
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	2	2	4	5	2	2	1	-	-	-	1
	100.0	25.0	25.0	50.0	62.5	25.0	25.0	12.5	-	-	-	12.5
無回答	5	2	1	2	1	2	3	2	1	1	-	1
	100.0	40.0	20.0	40.0	20.0	40.0	60.0	40.0	20.0	20.0	-	20.0

4. 地域における交流、支え合いの状況

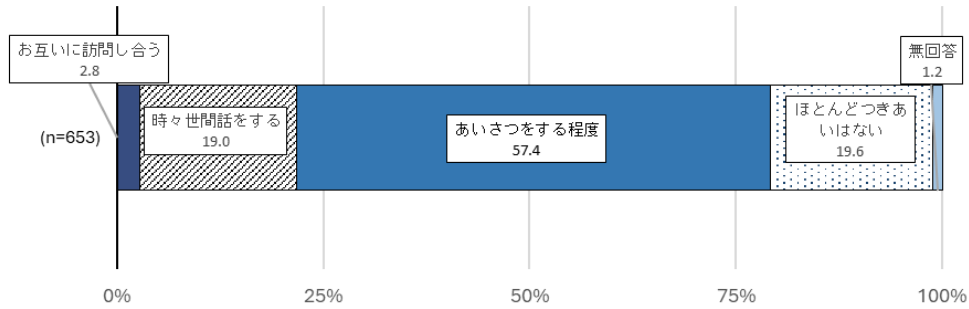
今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「ボランティアとボランティアを必要とする人を結びつける仕組みを拡充する」が44.6%で最も高く、次いで「ボランティア活動に関する相談や拠点となる場所を提供する」が39.7%となっている。その他、「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を援助する」(34.0%)、「自分自身の資格・趣味をいかして活動する仕組みをつくる」(31.7%)が比較的高くなっている。



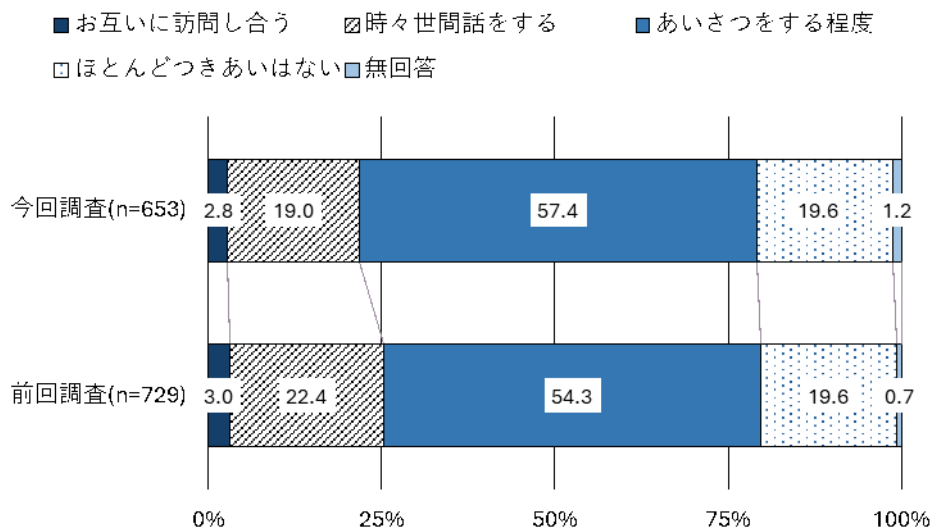
あなたは、隣近所とどの程度のつきあいをしていますか。

「あいさつをする程度」が57.4%で最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」が19.6%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「お互いに訪問し合う」「時々世間話をする」はそれぞれ下がり、「あいさつをする程度」がわずかに上昇している。



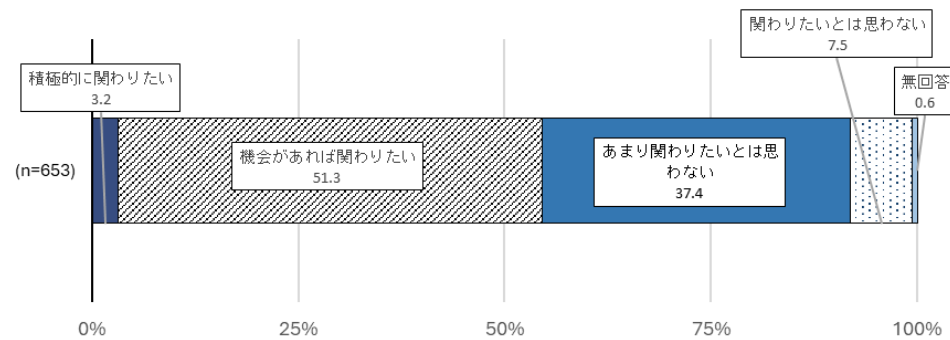
【性別比較】

性別でみると、「あいさつをする程度」が男女ともに最も高くなっている。また、「時々世間話をする」は女性(24.3%)の方が男性(12.4%)より高く、「ほとんどつきあいはない」は男性(22.1%)の方が女性(16.9%)より高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問24					
	合計	お互いに訪 問し合う	時々世間話 をする	あいさつを する程度	ほとんどつ きあいはな い	無回答
全体	653	18	124	375	128	8
	100.0	2.8	19.0	57.4	19.6	1.2
男性	290	5	36	182	64	3
	100.0	1.7	12.4	62.8	22.1	1.0
女性	350	12	85	190	59	4
	100.0	3.4	24.3	54.3	16.9	1.1
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	1	-	2	5	-
	100.0	12.5	-	25.0	62.5	-
無回答	5	-	3	1	-	1
	100.0	-	60.0	20.0	-	20.0

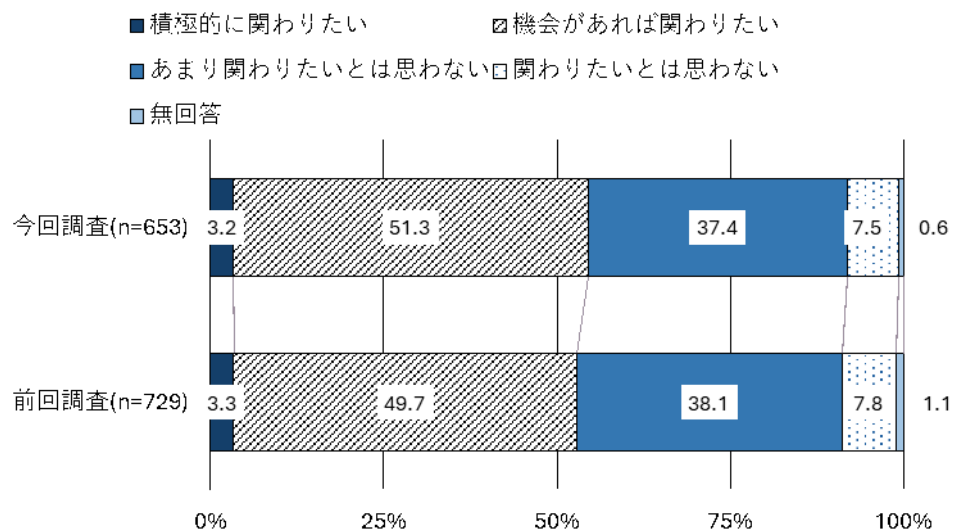
あなたは、隣近所の方々とどの程度望まれていますか。

「機会があれば関わりたい」が51.3%で最も高く、次いで「あまり関わりたいとは思わない」が37.4%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較しても概ね同程度の結果となっている。



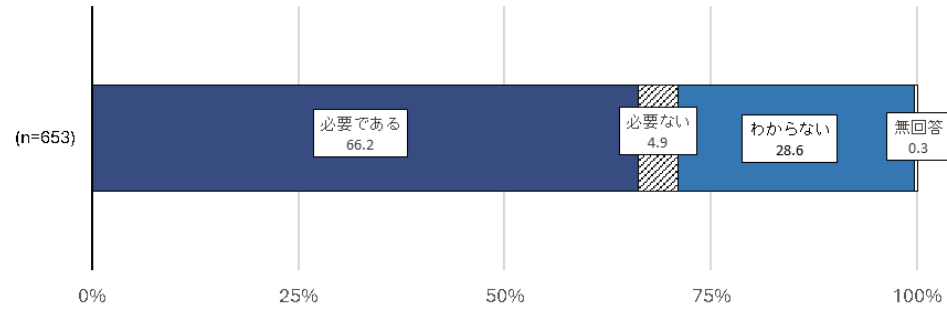
【性別比較】

性別でみると、男女ともに「機会があれば関わりたい」が最も高くなっている。また、関わりたいと思う割合（「積極的に関わりたい」「機会があれば関わりたい」）は女性が59.7%で男性（49.7%）よりも高くなっている。

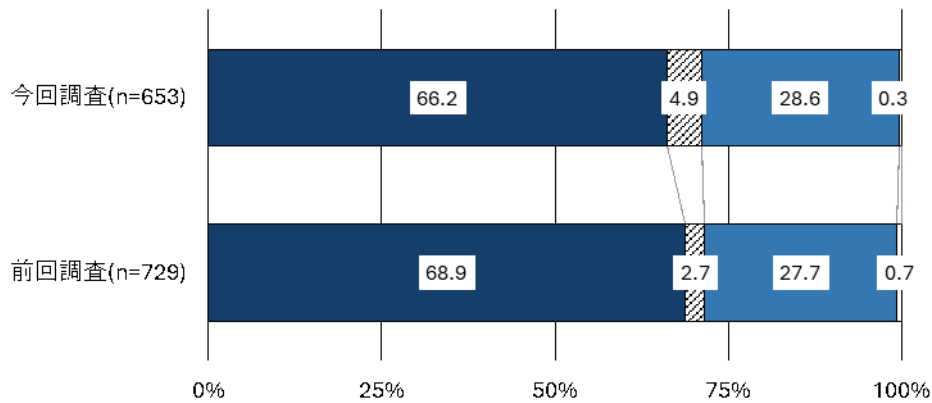
上段:回答数 下段:%	問25					
	合計	積極的に 関わりたい	機会があ れば関わ りたい	あまり関 わりたい とは思わ ない	関わりたい とは思わ ない	無回答
全体	653	21	335	244	49	4
	100.0	3.2	51.3	37.4	7.5	0.6
男性	290	8	136	111	34	1
	100.0	2.8	46.9	38.3	11.7	0.3
女性	350	13	196	125	14	2
	100.0	3.7	56.0	35.7	4.0	0.6
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	-	2	5	1	-
	100.0	-	25.0	62.5	12.5	-
無回答	5	-	1	3	-	1
	100.0	-	20.0	60.0	-	20.0

独居世帯や高齢者世帯が近年増えていますが、隣近所や地域で高齢者を支えることが必要だと思いますか。

「必要である」が66.2%で最も高く、次いで「わからない」が28.6%となっている。



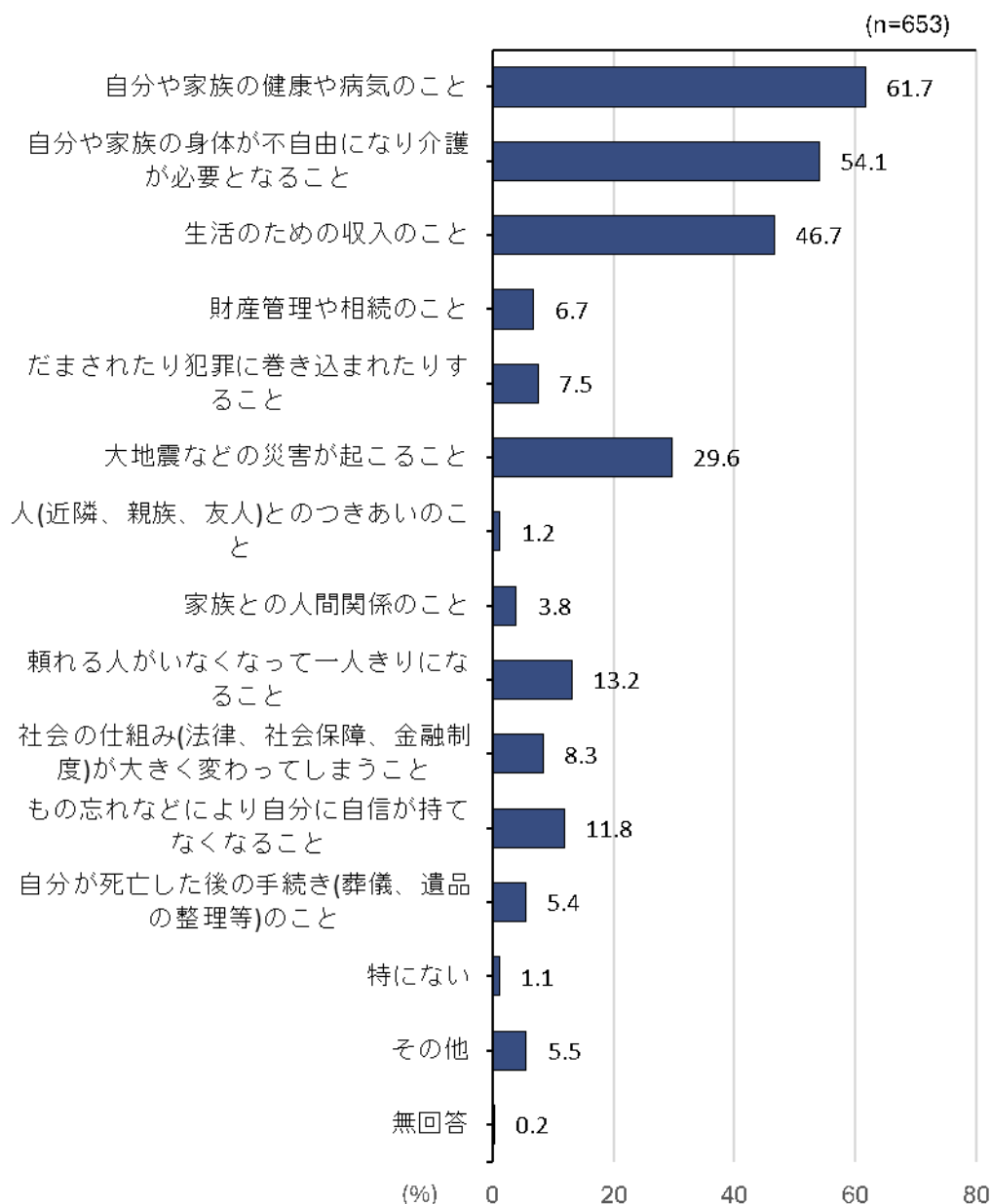
■ 必要である ▨ 必要ない ■ わからない □ 無回答



5. 将来の不安、備えについて

あなたは、ご自分の将来についてどんな不安がありますか。(〇は3つまで)

「自分や家族の健康や病気のこと」が61.7%で最も高く、次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要となること」が54.1%となっている。その他、「生活のための収入のこと」(46.7%)、「大地震などの災害が起こること」(29.6%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

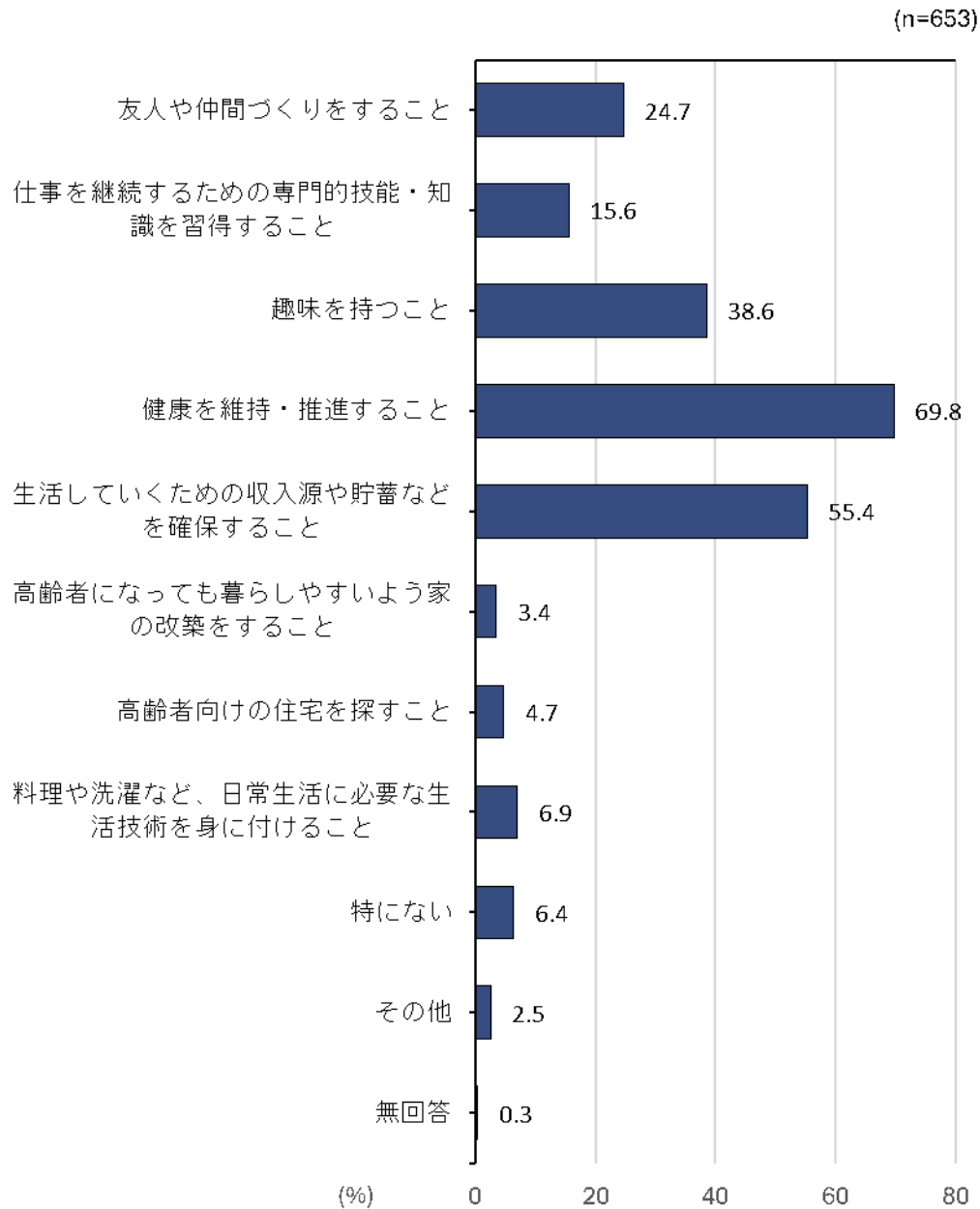
年齢別でみると、いずれの年代においても「自分や家族の健康や病気のこと」が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問27								
	合計	自分や家族の健康や病気のこと	自分や家族の身体が不自由になり介護が必要となること	生活のための収入のこと	財産管理や相続のこと	だまされたり犯罪に巻き込まれたりすること	大地震などの災害が起こること	人(近隣、親族、友人)とのつきあいのこと	家族との人間関係のこと
全体	653	403	353	305	44	49	193	8	25
	100.0	61.7	54.1	46.7	6.7	7.5	29.6	1.2	3.8
40～44歳	103	68	53	62	11	11	29	-	2
	100.0	66.0	51.5	60.2	10.7	10.7	28.2	-	1.9
45～49歳	113	66	55	59	8	12	41	1	7
	100.0	58.4	48.7	52.2	7.1	10.6	36.3	0.9	6.2
50～54歳	140	83	71	70	7	4	39	1	3
	100.0	59.3	50.7	50.0	5.0	2.9	27.9	0.7	2.1
55～59歳	151	95	84	57	7	8	45	5	8
	100.0	62.9	55.6	37.7	4.6	5.3	29.8	3.3	5.3
60～64歳	142	90	87	56	11	14	37	1	5
	100.0	63.4	61.3	39.4	7.7	9.9	26.1	0.7	3.5
無回答	4	1	3	1	-	-	2	-	-
	100.0	25.0	75.0	25.0	-	-	50.0	-	-

上段:回答数 下段:%	問27							
	合計	頼れる人がいなくなっ て一人きりになること	社会の仕組み(法律、社 会保障、金融制度)が大 きく変わってしまうこと	もの忘れなどにより自 分に自信が持てなくな ること	自分が死亡した後の手 続き(葬儀、遺品の整理 等)のこと	特にない	その他	無回答
全体	653	86	54	77	35	7	36	1
	100.0	13.2	8.3	11.8	5.4	1.1	5.5	0.2
40～44歳	103	10	9	3	5	1	3	-
	100.0	9.7	8.7	2.9	4.9	1.0	2.9	-
45～49歳	113	11	13	7	5	3	3	-
	100.0	9.7	11.5	6.2	4.4	2.7	2.7	-
50～54歳	140	24	10	20	8	2	11	-
	100.0	17.1	7.1	14.3	5.7	1.4	7.9	-
55～59歳	151	26	12	23	9	1	8	-
	100.0	17.2	7.9	15.2	6.0	0.7	5.3	-
60～64歳	142	14	10	23	8	-	11	-
	100.0	9.9	7.0	16.2	5.6	-	7.7	-
無回答	4	1	-	1	-	-	-	1
	100.0	25.0	-	25.0	-	-	-	25.0

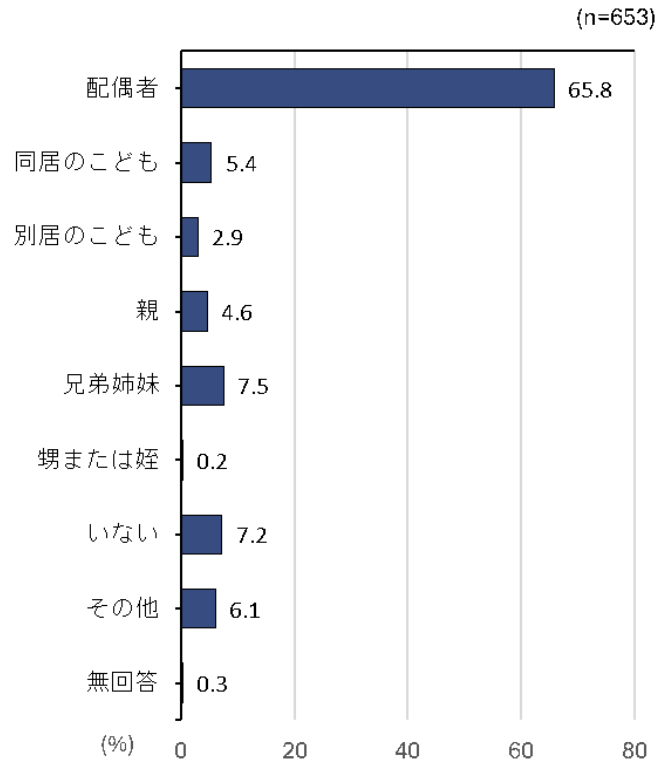
あなたは、ご自分の将来、特に老後の生活に備えて、現在どのようなことをしていますか、またはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「健康を維持・推進すること」が69.8%で最も高く、次いで「生活していくための収入源や貯蓄などを確保すること」が55.4%となっている。その他、「趣味を持つこと」(38.6%)が比較的高くなっている。



あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)に、治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいますか。いる場合は、主にどなたですか。(〇は1つ)

「配偶者」が 65.8%と最も高く、次いで「兄弟姉妹」が 7.5%となっている。



【年齢別比較】

年齢別にみると、全ての年代で「配偶者」が 6 割以上と最も高くなっている。また、「親」は 40～44 歳で比較的高く、「兄弟姉妹」は 55～59 歳で比較的高い。なお、「いない」は各年代で 7%程度となっている。

上段:回答数 下段:%	問29									
	合計	配偶者	同居のこども	別居のこども	親	兄弟姉妹	甥または姪	いない	その他	無回答
全体	653	430	35	19	30	49	1	47	40	2
	100.0	65.8	5.4	2.9	4.6	7.5	0.2	7.2	6.1	0.3
40～44歳	103	68	3	-	16	5	-	8	3	-
	100.0	66.0	2.9	-	15.5	4.9	-	7.8	2.9	-
45～49歳	113	83	3	-	3	9	-	8	7	-
	100.0	73.5	2.7	-	2.7	8.0	-	7.1	6.2	-
50～54歳	140	91	10	2	9	7	-	10	10	1
	100.0	65.0	7.1	1.4	6.4	5.0	-	7.1	7.1	0.7
55～59歳	151	99	9	5	1	18	1	11	7	-
	100.0	65.6	6.0	3.3	0.7	11.9	0.7	7.3	4.6	-
60～64歳	142	87	10	12	1	10	-	10	12	-
	100.0	61.3	7.0	8.5	0.7	7.0	-	7.0	8.5	-
無回答	4	2	-	-	-	-	-	-	1	1
	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0

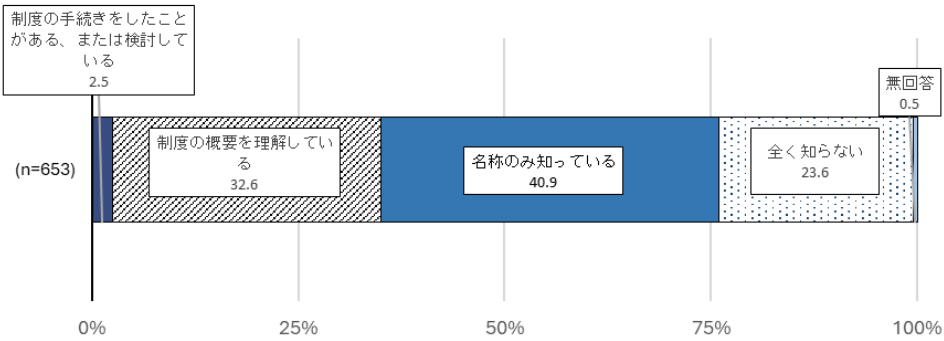
【性別比較】

性別でみると、それぞれで「配偶者」が最も高くなっている。

上段:回答数	問29									
下段:%	合計	配偶者	同居のこども	別居のこども	親	兄弟姉妹	甥または姪	いない	その他	無回答
全体	653	430	35	19	30	49	1	47	40	2
	100.0	65.8	5.4	2.9	4.6	7.5	0.2	7.2	6.1	0.3
男性	290	198	6	7	17	24	-	24	14	-
	100.0	68.3	2.1	2.4	5.9	8.3	-	8.3	4.8	-
女性	350	225	27	12	13	24	1	23	24	1
	100.0	64.3	7.7	3.4	3.7	6.9	0.3	6.6	6.9	0.3
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	6	-	-	-	1	-	-	1	-
	100.0	75.0	-	-	-	12.5	-	-	12.5	-
無回答	5	1	2	-	-	-	-	-	1	1
	100.0	20.0	40.0	-	-	-	-	-	20.0	20.0

あなたは「成年後見制度」※について、どの程度ご存知ですか。(○は1つ)

「名称のみ知っている」が 40.9%で最も高く、次いで「制度の概要を理解している」が 32.6%となっている。

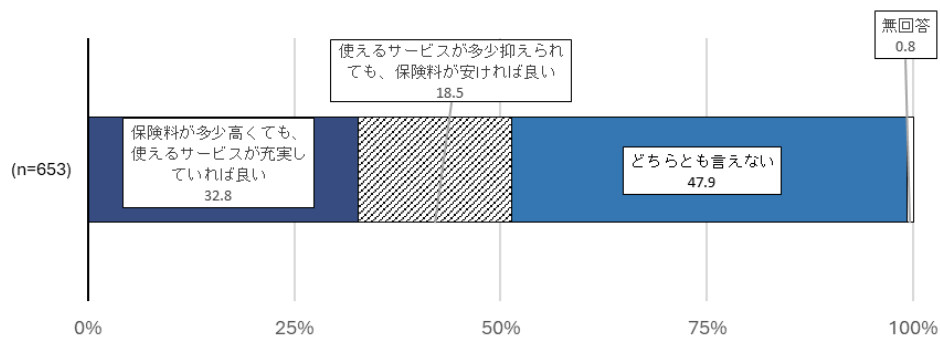


6. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのありかたについて

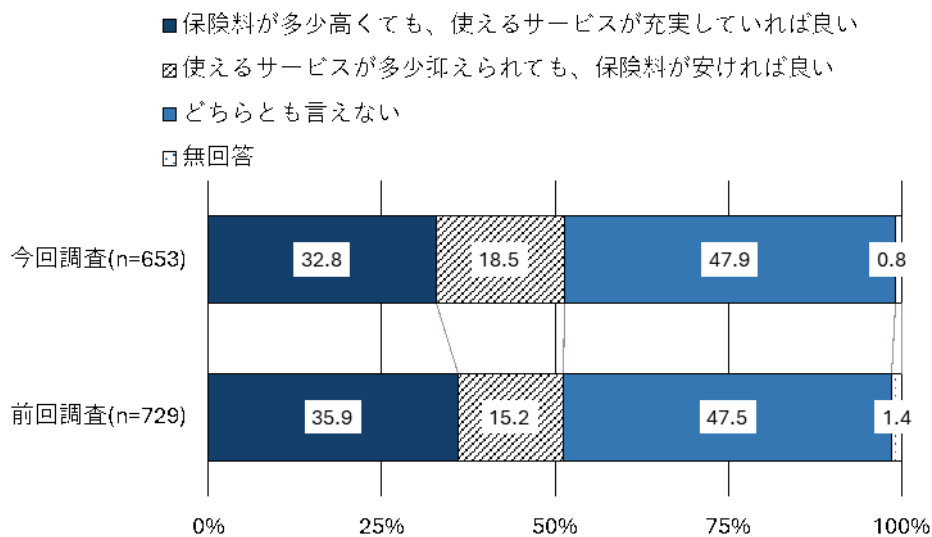
介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用にあてていますが、保険料と介護サービスのあり方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。（○は1つ）

「どちらとも言えない」が47.9%で最も高く、次いで「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が32.8%となっている。



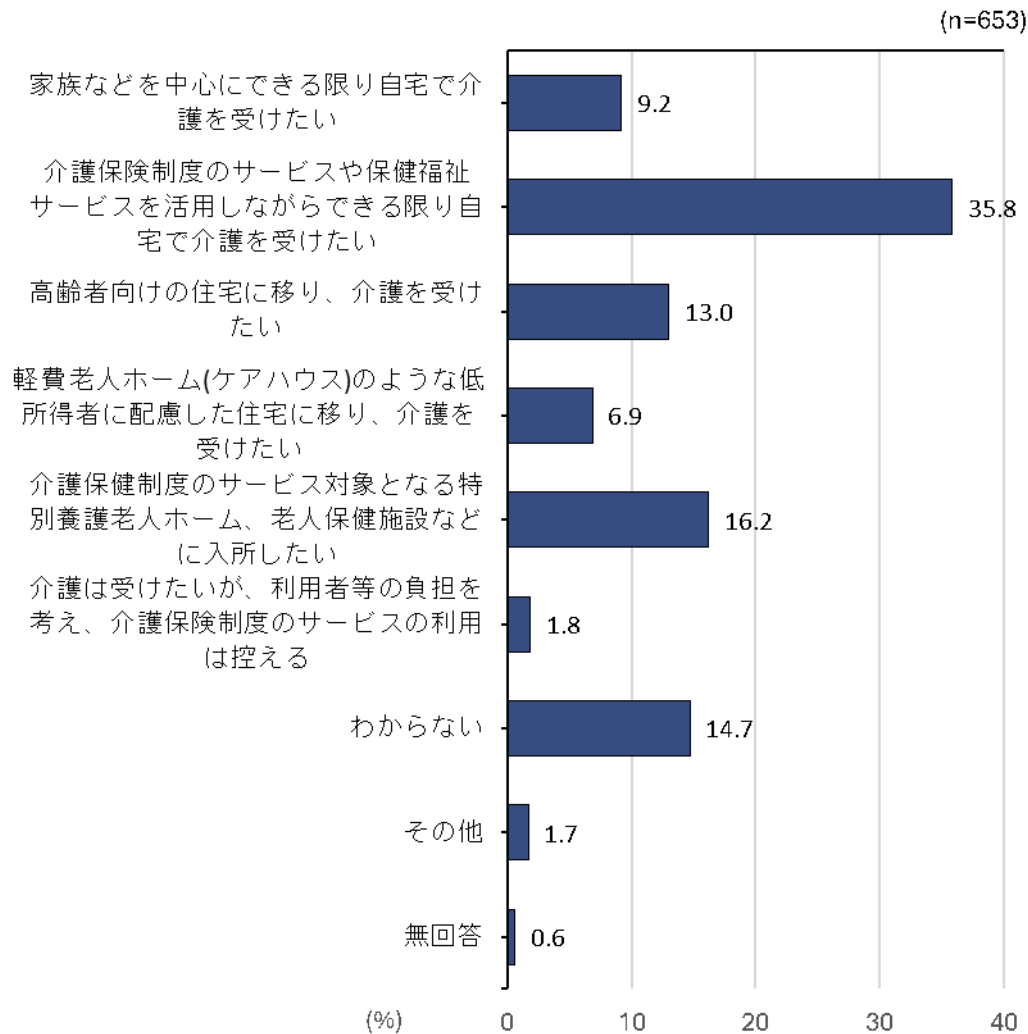
【経年比較】

前回調査と比較すると、保険料が高くてもサービス充実を重視する割合はわずかに下がり、サービス抑制でも保険料の低さを重視する割合がわずかに上昇している。



今後、もしあなたご自身が介護が必要となった場合、どのようにしたいとお考えですか。(〇は1つ)

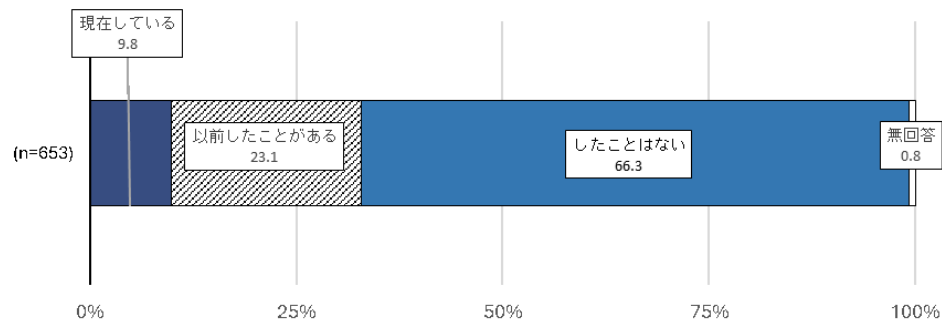
「介護保険制度のサービスや保健福祉サービスを活用しながらできる限り自宅で介護を受けたい」が35.8%で最も高く、次いで「介護保健制度のサービス対象となる特別養護老人ホーム、老人保健施設などに入所したい」が16.2%となっている。



(2) 介護の経験

あなたは、ご家族などの介護をしたことがありますか。

「したことはない」が 66.3%で最も高く、次いで「以前したことがある」が 23.1%となっている。



【年齢別比較】

年齢別でみると、「したことはない」が各年代で最も高くなっている。また、介護経験がある割合(「現在している」「以前したことがある」)は、40～44 歳で 14.5%、60～64 歳で 47.2%となっており、年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

上段:回答数 下段:%	問33				
	合計	現在してい る	以前したこ とがある	したことは ない	無回答
全体	653 100.0	64 9.8	151 23.1	433 66.3	5 0.8
40～44歳	103 100.0	2 1.9	13 12.6	88 85.4	- -
45～49歳	113 100.0	9 8.0	16 14.2	87 77.0	1 0.9
50～54歳	140 100.0	14 10.0	34 24.3	91 65.0	1 0.7
55～59歳	151 100.0	21 13.9	37 24.5	92 60.9	1 0.7
60～64歳	142 100.0	17 12.0	50 35.2	74 52.1	1 0.7
無回答	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0

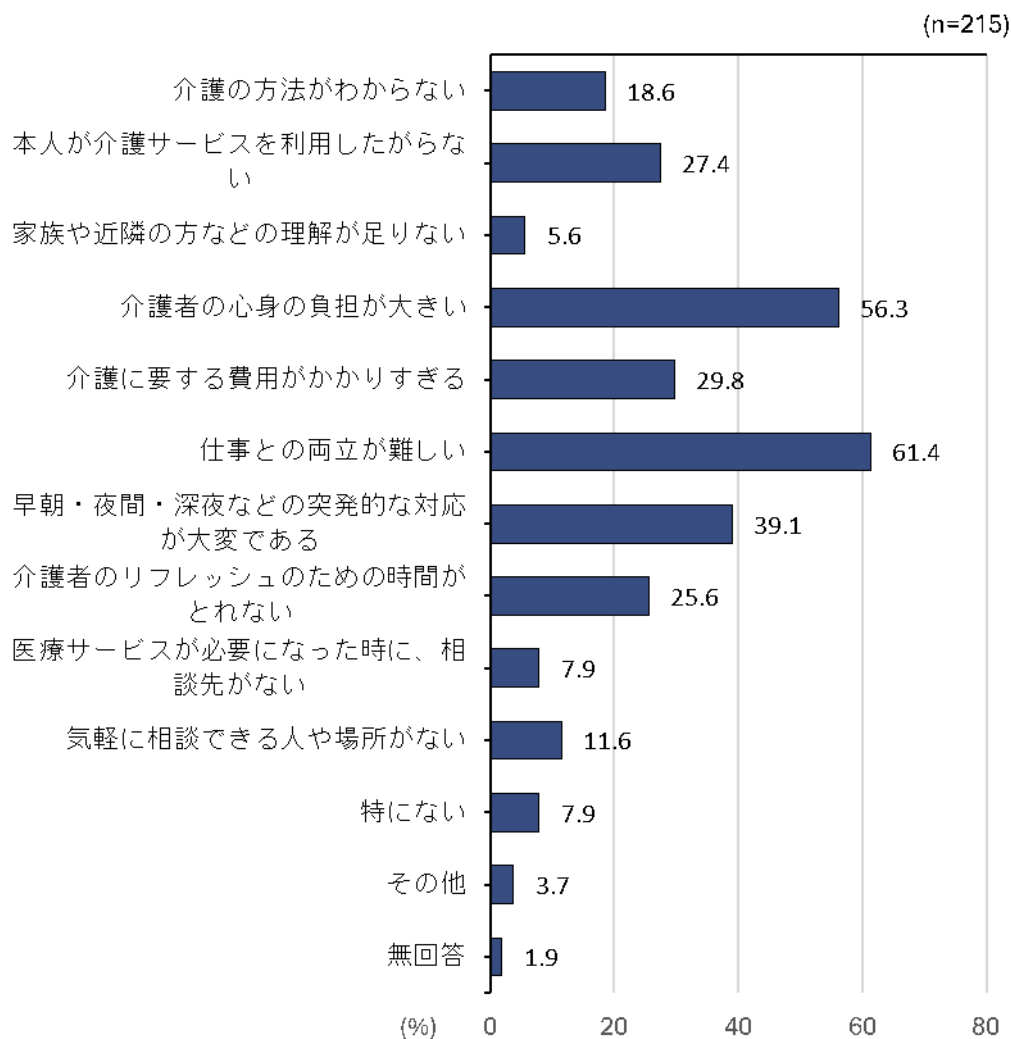
【性別比較】

性別でみると、それぞれ「したことはない」が最も高くなっている。、介護経験がある割合（「現在している」「以前したことがある」）は男性が27.3%、女性が37.4%となっており、女性が10.1ポイント高い。

上段:回答数 下段:%	問33				
	合計	現在している	以前したことがある	したことはない	無回答
全体	653	64	151	433	5
	100.0	9.8	23.1	66.3	0.8
男性	290	26	53	209	2
	100.0	9.0	18.3	72.1	0.7
女性	350	36	95	217	2
	100.0	10.3	27.1	62.0	0.6
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
答えたくない	8	1	2	5	-
	100.0	12.5	25.0	62.5	-
無回答	5	1	1	2	1
	100.0	20.0	20.0	40.0	20.0

(「現在している」「以前したことがある」を選択された方)介護を行う上で困っていること(困ったこと)について教えてください。(○はいくつでも)

「仕事との両立が難しい」が61.4%で最も高く、次いで「介護者の心身の負担が大きい」が56.3%となっている。その他、「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」(39.1%)、「介護に要する費用がかかりすぎる」(29.8%)、「本人が介護サービスを利用したがない」(27.4%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

年齢別でみると、「仕事との両立が難しい」や「介護者の心身の負担が大きい」は、いずれの年代においても高くなっている。また、「介護者の心身の負担が大きい」は45～49歳で68.0%と最も高く、「仕事との両立が難しい」が50～54歳、60～64歳で高くなっている。さらに、「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」が50～54歳で高く、「本人が介護サービスを利用したがない」は60～64歳で高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問33-1													
	合計	介護の方法 がわからない	本人が介護 サービスを利用したがない	家族や近隣 の方などの 理解が足りない	介護者の心 身の負担が 大きい	介護に要す る費用がか かりすぎる	仕事との両 立が難しい	早朝・夜 間・深夜な どの突発的 な対応が大 変である	介護者のリ フレッシュ のための時 間がとれない	医療サービ スが必要に なった時 に、相談先 がない	気軽に相談 できる人や 場所がない	特にない	その他	無回答
全体	215 100.0	40 18.6	59 27.4	12 5.6	121 56.3	64 29.8	132 61.4	84 39.1	55 25.6	17 7.9	25 11.6	17 7.9	8 3.7	4 1.9
40～44歳	15 100.0	4 26.7	4 26.7	1 6.7	6 40.0	5 33.3	9 60.0	6 40.0	2 13.3	1 6.7	2 13.3	2 13.3	2 13.3	-
45～49歳	25 100.0	5 20.0	4 16.0	-	17 68.0	4 16.0	14 56.0	9 36.0	8 32.0	3 12.0	8 32.0	-	1 4.0	1 4.0
50～54歳	48 100.0	10 20.8	12 25.0	2 4.2	27 56.3	13 27.1	31 64.6	22 45.8	15 31.3	3 6.3	4 8.3	2 4.2	1 2.1	1 2.1
55～59歳	58 100.0	9 15.5	14 24.1	7 12.1	27 46.6	20 34.5	34 58.6	22 37.9	13 22.4	5 8.6	6 10.3	5 8.6	2 3.4	2 3.4
60～64歳	67 100.0	12 17.9	24 35.8	2 3.0	43 64.2	20 29.9	43 64.2	24 35.8	16 23.9	5 7.5	4 6.0	8 11.9	2 3.0	-
無回答	2 100.0	-	1 50.0	-	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-

【性別比較】

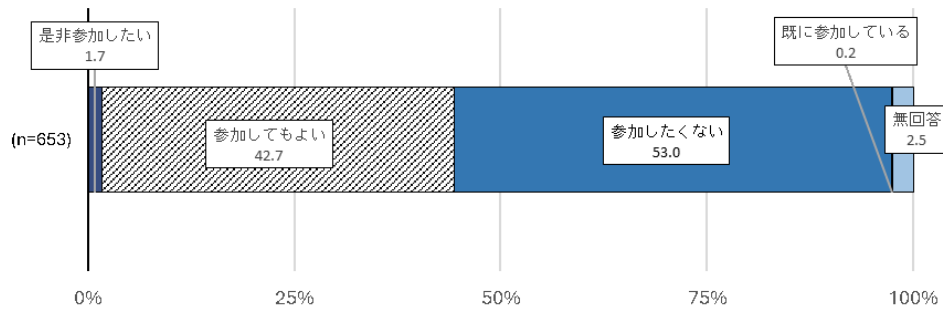
性別でみると、「仕事との両立が難しい」や「介護者の心身の負担が大きい」がそれぞれ高くなっている。「介護者のリフレッシュのための時間がとれない」は女性が28.2%、男性が21.5%となっており、女性の方がやや高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問33-1													
	合計	介護の方法 がわからない	本人が介護 サービスを利用したがない	家族や近隣 の方などの 理解が足りない	介護者の心 身の負担が 大きい	介護に要す る費用がか かりすぎる	仕事との両 立が難しい	早朝・夜 間・深夜な どの突発的 な対応が大 変である	介護者のリ フレッシュ のための時 間がとれない	医療サービ スが必要に なった時 に、相談先 がない	気軽に相談 できる人や 場所がない	特にない	その他	無回答
全体	215 100.0	40 18.6	59 27.4	12 5.6	121 56.3	64 29.8	132 61.4	84 39.1	55 25.6	17 7.9	25 11.6	17 7.9	8 3.7	4 1.9
男性	79 100.0	14 17.7	22 27.8	4 5.1	47 59.5	23 29.1	50 63.3	31 39.2	17 21.5	7 8.9	9 11.4	6 7.6	1 1.3	2 2.5
女性	131 100.0	26 19.8	37 26.7	8 6.1	70 53.4	36 27.5	79 60.3	50 38.2	37 28.2	10 7.6	15 11.5	11 8.4	7 5.3	2 1.5
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	3 100.0	-	2 66.7	-	3 100.0	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	-	1 33.3	-	-	-
無回答	2 100.0	-	-	-	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-	-

(3) ボランティアの参加意向

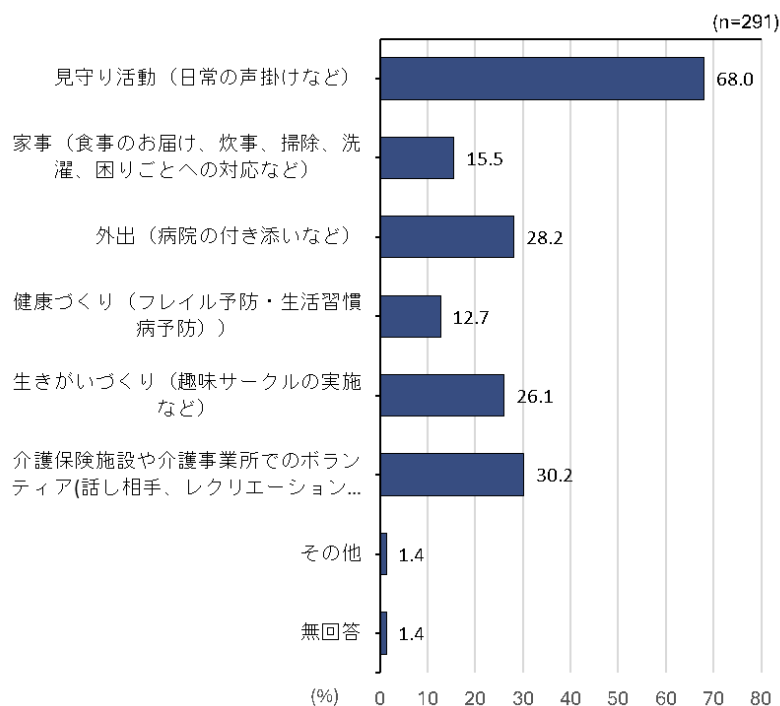
支援を必要とする高齢者を支える地域のボランティア活動があれば、あなたはその活動に支援者として参加してみたいと思いますか。

「参加したくない」が53.0%で最も高く、次いで「参加してもよい」が42.7%となっている。



(「参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を選択された方) 支援を必要とする高齢者を支える地域のボランティア活動では、支援者としてどの活動に参加したいですか。また、どの活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

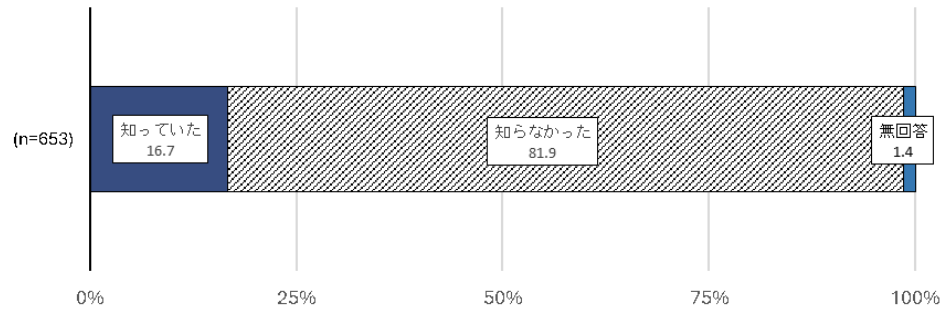
「見守り活動(日常の声掛けなど)」が68.0%で最も高く、次いで「介護保険施設や介護事業所でのボランティア(話し相手、レクリエーションの補助、職員の補助など)」が30.2%となっている。その他、「外出(病院の付き添いなど)」(28.2%)、「生きがいづくり(趣味サークルの実施など)」(26.1%)が比較的高くなっている。



(4) 高齢者外出支援事業について

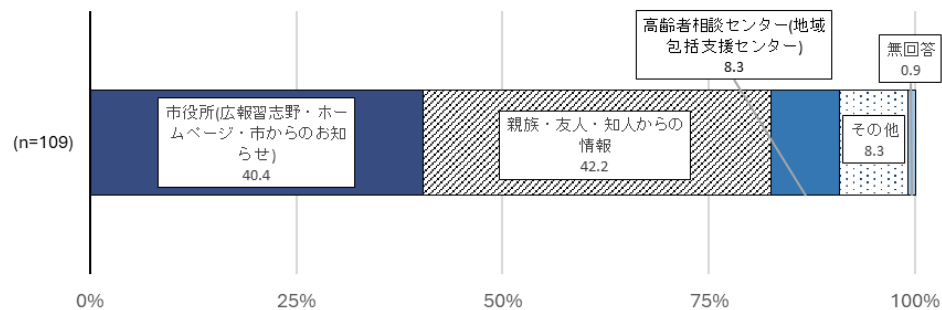
高齢者外出支援事業についてうかがいます。

「知らなかった」が81.9%で最も高く、次いで「知っていた」が16.7%となっている。



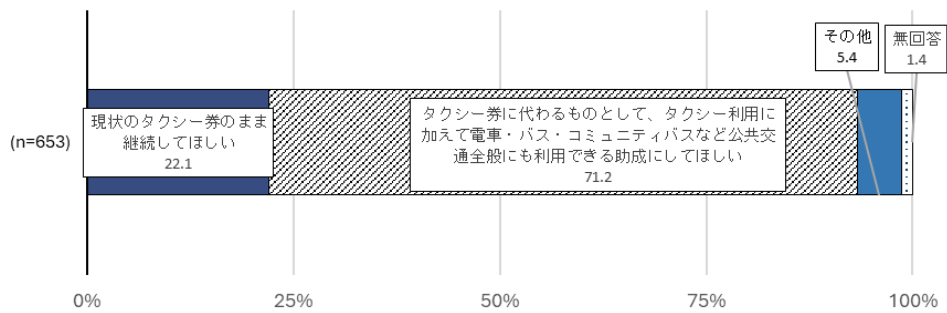
(「知っていた」を選択された方)本事業を何で知りましたか。

「親族・友人・知人からの情報」が42.2%で最も高く、次いで「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」が40.4%となっている。



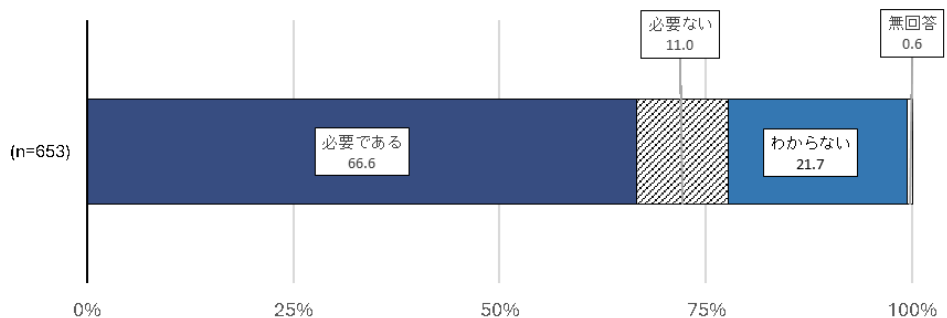
より良い高齢者の外出支援策とするには、今後どのような事業の見直しを行うのが良いと思いますか。

「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が71.2%で最も高く、次いで「現状のタクシー券のまま継続してほしい」が22.1%となっている。



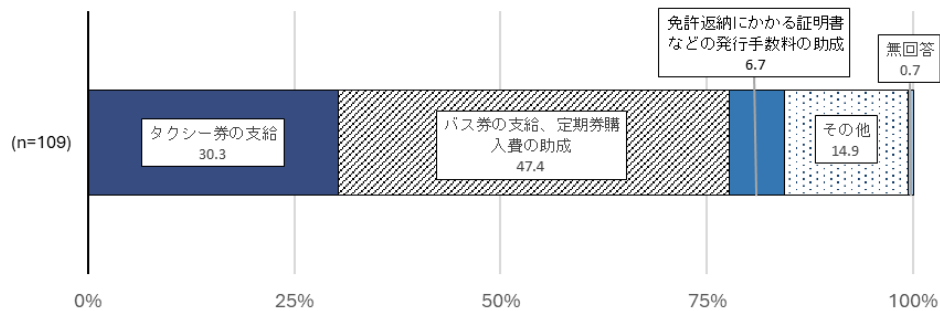
近年、高齢者ドライバーが当事者となる痛ましい事故が多発し、運転免許証の自主返納に大きな関心が集まっています。本市の公共交通は比較的充実していることから、現時点でタクシー券等の支給は行っていないですが、今後、運転免許証を自主返納した方に対する税金を使った支援は必要であると思いますか。

「必要である」が66.6%で最も高く、次いで「わからない」が21.7%となっている。



（「必要である」を選択された方）どのような支援が必要だと思いますか。

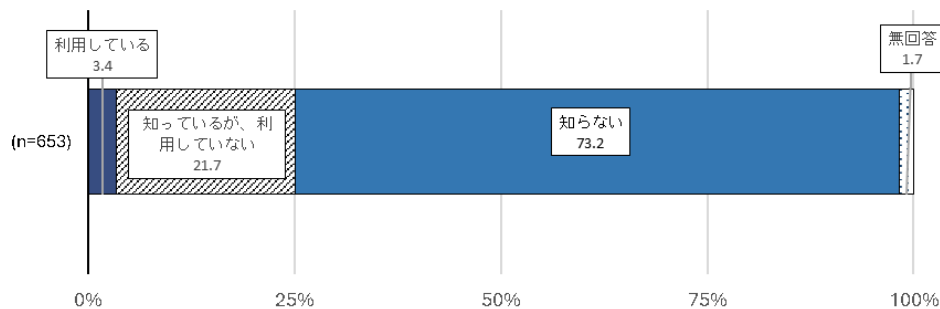
「バス券の支給、定期券購入費の助成」が47.4%で最も高く、次いで「タクシー券の支給」が30.3%となっている。



（5）高齢者相談センターの相談窓口の認知度

高齢者相談センターで、センター内での生活支援や介護予防についての相談ができることをご存じですか。もしくは利用していますか。

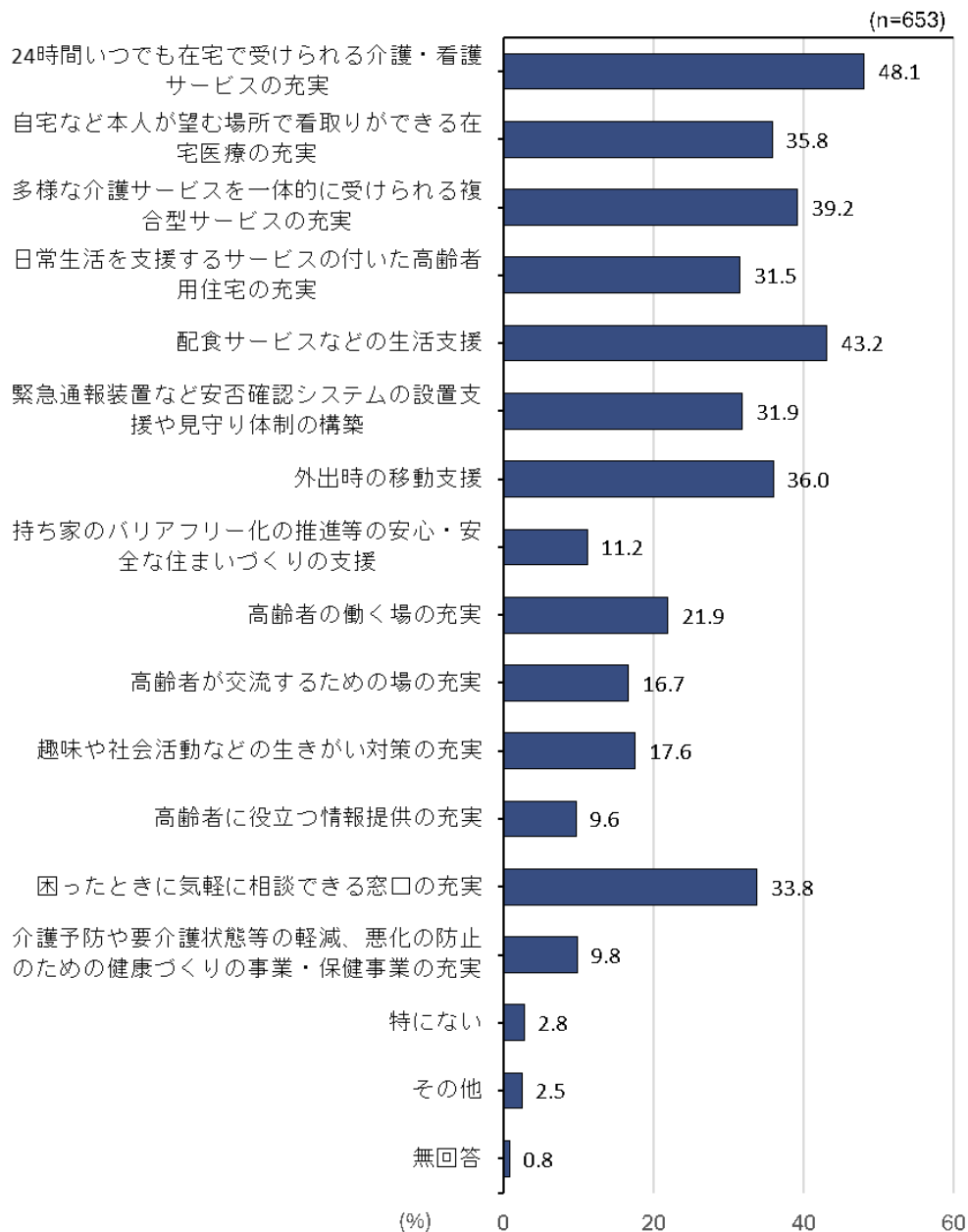
「知らない」が73.2%で最も高く、次いで「知っているが、利用していない」が21.7%となっている。



(6) 高齢者が地域で在宅生活を続けるために必要な施策

あなたは、高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために、主としてどのような施策が必要であると考えますか。(〇は5つまで)

「24時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が48.1%で最も高く、次いで「配食サービスなどの生活支援」が43.2%となっている。その他、「多様な介護サービスを一体的に受けられる複合型サービスの充実」(39.2%)、「外出時の移動支援」(36.0%)、「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」(35.8%)、「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」(33.8%)、「緊急通報装置など安否確認システムの設置支援や見守り体制の構築」(31.9%)、「日常生活を支援するサービスの付いた高齢者用住宅の充実」(31.5%)が比較的高くなっている。



7. ご意見・ご要望

最後に、市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

① 情報提供・周知方法の改善

- ・ 介護が必要になった時にまずどこに相談すればよいかわからない。インターネットでの情報へのアクセス入口をわかりやすくしてほしい。
- ・ 市のホームページは最初のページが暗く、選択肢の文字も小さくわかりにくいいため改善してほしい。
- ・ 施策の周知方法をわかりやすくし、予算の使途をホームページからアクセスできるようにしてほしい。
- ・ 市の高齢者健康福祉施策についての詳しいパンフレットを整備し、65歳以上へ毎年送付してほしい。
- ・ 介護サービスを含め市民への周知が不足している。知っている人だけが得をしている状況を改善してほしい。
- ・ スマホが使えない情報弱者の高齢者に対し、地域 TV や紙媒体など多様な手段で情報を届けてほしい。
- ・ 地域包括支援センターの存在を知らない人が多い。もっと周知されるべき機関だと思う。
- ・ 高齢者が受けられる福祉サービスを把握できていないため、説明会の開催などで理解を深める機会を設けてほしい。
- ・ アンケート結果と市の施策を広報等で市民に知らせてほしい。
- ・ 認知症かなと思った時にまずどこに相談すべきかを理解している人は非常に少なく、初動で躓いている人が多い。相談先を明確に周知してほしい。
- ・ 若いうちから認知症について理解が広まることはよいことで、学校での認知症講習などを検討してほしい。
- ・ 子育て支援だけでなく、高齢者・障害者の福祉施策の具体的内容を一般市民に徹底周知してほしい。
- ・ タウンミーティングなど話し合いの機会もほしい。

② 相談窓口・介護者支援の充実

- ・ 気軽に相談できる窓口や個々に寄り添う支援者がいるとよい。他の相談窓口で冷やかな対応をされ辛かった経験がある。経験者を置くなど親身な相談体制を整えてほしい。
- ・ 介護が必要になった時に何ができるのか全くわからず、問い合わせてもたらい回しで何も利用できなかった経験がある。習志野市では親身な対応を期待している。

- ・ 介護で精神的に大変苦しかった経験がある。相談にのってもらえる窓口と実際に手を貸してもらえる支援があると心が軽くなる。
- ・ 多様な介護サービスを気軽に相談・選択できるような体制を整えてほしい。
- ・ 遠距離介護で精神的・身体的負担を抱えながら頑張っている人が多くいる。援助でなくても相談できる窓口があるとよい。
- ・ 単身世帯で老後の経済面への不安が大きく、老後に金銭的負担なく相談できる場所があると助かる。
- ・ 家族など近親者に介護が必要になった際、自力での対応は困難だと感じている。相談支援の充実を。
- ・ 利用者と担当ケアマネジャーのマッチングがスムーズにできるとよい。相性がある場合にスムーズに交代できる仕組みもお願いしたい。
- ・ 要介護認定が下がり必要なサービスを受けられなくなるケースがある。ケアマネジャー・デイ職員・訪問看護師などの現場の意見を認定に反映してほしい。
- ・ 要介護度の変更は元に戻せないなど柔軟な対応が難しいと聞いた。十分な説明や体験の機会があるとよい。介護される本人も介護する側もより良い生活を送れる環境整備を。
- ・ 各所でスタッフが退職するたびに関係を一から築き直さなければならない。介護スタッフへの支援も考慮してほしい。
- ・ 高齢者が本当に何に困っているのか、現場の声をきちんと聞いて施策に反映してほしい。

③ 施設・サービスの拡充と費用負担

- ・ 特養の数が少なく入所できないため離職して自宅介護を余儀なくされた事例がある。特養をはじめとする施設を充実させてほしい。
- ・ 高齢者が安心して生活できる施設の数が圧倒的に足りない。一人暮らしや老々介護問題の軽減にもつながる。
- ・ 安くても安心して入れる施設が必要。認知症対応施設も不足している。
- ・ 介護施設の老朽化が進んでいるが補助金が使えない。施設改修への補助金対応を市で検討してほしい。
- ・ 施設費用を手頃にしてほしい。利用料がまちまちで年金ではまかなえないケースが多い。
- ・ 施設に入所すると過剰サービスを目にする。費用と内容の適正化を求める。
- ・ 介護サービス提供者への十分な待遇があってこそサービスが成り立つ。介護職の給与改善が必要。
- ・ 提供者への適切な待遇と同時に、利用者へのルール説明など対等な関係づくりも大事。
- ・ 病院・高齢者施設の逼迫した現状を変えなければ、どんな施策も現場(家族・救急・警察)が疲弊するだけ。
- ・ サービスの一元管理・集約化を進め、行政の無駄を省いてほしい。

- ・ 安定した介護保険制度の確立と、住み慣れた家で充実した介護・看護を受けられる体制を整えてほしい。

④ 交通・移動支援

- ・ タクシー券ではなく上限ありの割引カードにすると使いやすいのではないか。
- ・ バスが無料または低価格で利用できるとよい。東京都シルバーパスのようなバス乗り放題パスの検討を。
- ・ 70歳以上へ公共交通機関の割引制度の検討を。免許返納しやすいよう低価格のバス路線充実も。
- ・ コミュニティバスが自宅近くを通るコースを検討してほしい。東習志野地区から実籾・八千代台へのアクセス改善と増便を。
- ・ バス停までの道の段差が激しく車いすで通行困難。介助する・される立場で実際に体験してほしい。
- ・ 津田沼駅のエスカレーター増設・手すり強化・ベンチ設置など、足の不自由な人に温かい街になってほしい。
- ・ 車椅子が安全に通れる道づくりを望む。
- ・ 自動運転・自動ブレーキ車両への補助充実と介護タクシーのサービス拡大を望む。
- ・ 急いで出られない・バスで急かされるなど、元気でない人が生活しにくい場面が多い。ゆっくりした生活も許される環境になってほしい。
- ・ 足が不自由でも気軽に外出できる環境が整っていないため、閉じこもりが認知症発症や身体機能低下につながる悪循環がある。
- ・ 高齢になり自力でできなくなった時に気軽に頼める「お手伝い券」のような仕組みを検討してほしい。
- ・ 単身生活をしており、高齢になった時に不調があっても気軽に話せたり困りごとを手伝ってもらえる仕組みがほしい。
- ・ 津田沼駅南側の歩道整備、自転車走行エリアの整備、駅前の活性化、市役所分所の機能充実なども望む。
- ・ 高齢者が安心して暮らせる市政を作り、市側・市民側それぞれができることを明確にしてほしい。

⑤ 介護予防・健康増進

- ・ 健康寿命にフォーカスした施策を希望する。
- ・ 介護予防段階での支援を充実してほしい。スポーツクラブ費用への助成があれば筋力維持・介護予防につながる。
- ・ 介護になる前の予防段階の人への声かけや相談窓口・予防サークルの周知が有効。

- ・ 認知症の早期発見のために、在宅での定期的な認知症検査受診を促してほしい。
- ・ 介護予防事業の充実により健康寿命を延ばす施策を望む。
- ・ 高齢者が生き甲斐を感じられるサークル活動などが充実するとよい。交流・認知予防・見守りにもつながる。役所への掲示など周知も。
- ・ 犬や猫と暮らすことは高齢者のメンタルに良い。ペットと住める高齢者向け住宅や、施設でのペット飼育の取り組みがあると嬉しい。

⑥ 孤立防止・見守り・地域つながり

- ・ 高齢になると本人が相談に行くことが難しく、子どもが近くにいない人は孤立していく。さまざまなサービスを利用できる仕組みが必要。
- ・ 単身高齢者の生存確認・財産手続き・死後の手続きなど、見守りサービスの充実を求める。
- ・ 身寄りがない状態で認知症になった場合や死亡後の手続きへの不安が切実。元気なうちに相談・登録できて定期的に気にかけてもらえる機関やシステムがほしい。
- ・ 独身単身の高齢者が直面する保証人・死亡時手続きなどの課題への行政対応を充実させてほしい。
- ・ 高齢者の GPS 活用による行方不明・迷子防止対策の検討を進めてほしい。
- ・ 近所で家族・行政から放置されているとみられる高齢者を複数見かける。何らかの対策を求める。
- ・ 施策について地域で交流しながら理解を深める場を増やしてほしい。
- ・ 高齢者が異なる地域・外国の方と気軽に交流できる機会が増えれば良い刺激になる。コストのかからない方法で。
- ・ 民生委員のなり手が少ない中、問題のある民生委員への対応方法を住民が知れる仕組みが必要。
- ・ 見守りや介護予防などに AI を活用した支援技術の発展が望ましい。
- ・ 防犯カメラの設置を望む。詐欺や不審訪問など犯罪に巻き込まれないための対策も検討してほしい。
- ・ 高齢化で町会役員のなり手が減っているため、町会の在り方を見直してほしい。

⑦ 高齢者の就労・社会参加

- ・ まだ働く意欲のある高齢者が働く機会を失っている。生き生きと働きたい高齢者の雇用機会を整えてほしい。
- ・ 60 歳を過ぎると有資格でも求人がほとんどなく、月々の収入を上げられる場が必要。
- ・ 高齢者が自分の知識・技能を活かして収入を得られる場の提供が生き甲斐につながる。
- ・ ボランティアではなく少額でも報酬があれば、元気な高齢者が弱っている高齢者を助ける仕組みへの参加者が増える。

- ・ ボランティア活動を「福祉ポイント」として積み立て、施設利用時に還元できる仕組みがあるとよい。
- ・ 高齢者自身も支援に参加し、活躍の場や社会参画の機会になるとよい。
- ・ 近所で高齢者見守りをされているボランティアへの報酬が年間 5000 円では少なすぎる。もう少し報酬が必要。
- ・ 無償ボランティアを続けるには参加者側にもメリットが必要。一方で過剰な無償支援は資源の無駄遣いにもなりかねない。
- ・ ボランティアを呼びかける前に、働ける高齢者に正しい賃金で労働できる場の提供こそ必要ではないか。

⑧ 医療・福祉制度について

- ・ 将来自分が高齢者になった時に同じサービスを受けられるか疑問。無駄のない持続可能な施策をお願いしたい。
- ・ 現高齢者への支援は必要だが、若い世代への税負担が大きすぎて老後の備えができないことへの不安と不満が増している。
- ・ 高齢者が医療費を逼迫させている一因となっていることは問題。若い世代の負担を軽減させる取り組みのほうが重要との意見がある。
- ・ 必要以上の医療費助成や現役世代の負担増は避けてほしい。
- ・ 看護師・ケアマネジャー・ヘルパーの医療行為の範囲を拡張し、現場が効率的に動ける制度整備を望む。
- ・ 同伴受診を促す仕組みや服薬・塗布介助に特化した訪問支援システムがあれば、高齢者の受診理解と安全が高まる。
- ・ 災害時、避難所では生活できない状態の方への個人情報を守りながら対応できる仕組みを行政として整備してほしい。
- ・ 住民税が上がったとしても財源を増やし、介護関連施策を充実させてほしい。
- ・ 他市町村との比較を踏まえ、市全体の介護・高齢者施策の水準を高めてほしい。
- ・ 本人の意思による尊厳死・自然死の受け入れや安楽死制度についての検討を求める。
- ・ アンケートコストに見合う調査結果と市政の改善を切に願う。高齢者介護をボランティアのみで賄う発想は改めてほしい。

⑨ 本調査へのご意見

- ・ アンケート自体が長く読むだけでも大変。内容をもう少し精査したほうがよい。

第5章 施設入所者調査

1. 回答者属性

(1) 回答者

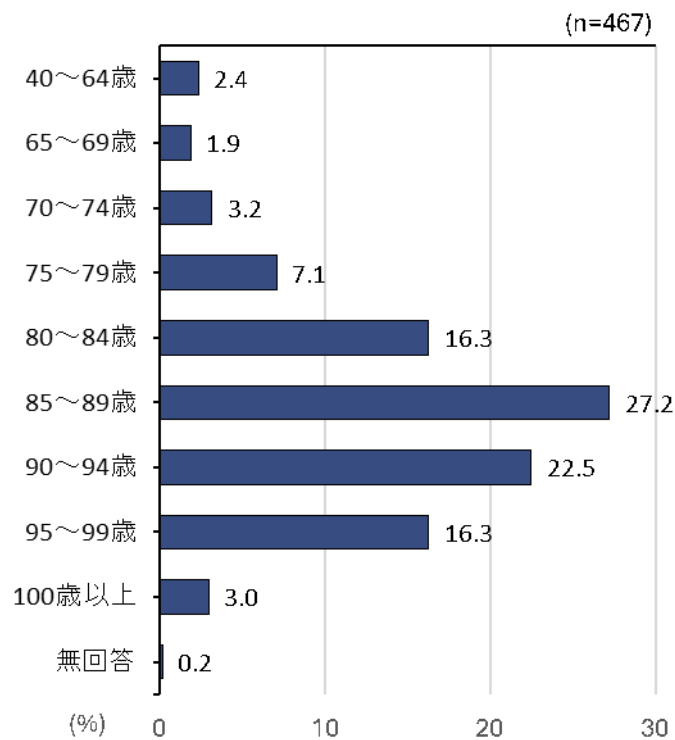
(単位:%)

	あて名 のご本 人	あて名 の方の配偶 者(夫・ 妻)	あて名 の方のこども	あて名 の方の親族	ケアマネ ジャー	施設 の職員	その 他	不明
施設入所者 (回答者数 467)	11.1	6.6	33.6	7.7	0.0	15.4	18.0	7.5

(2) 年齢

あなたの年齢をお答えください。

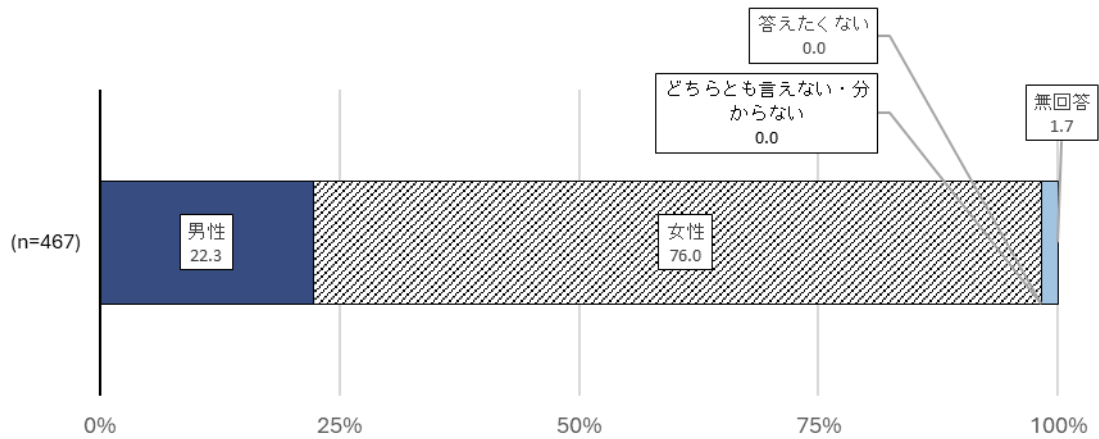
「85～89 歳」が 27.2%で最も高く、次いで「90～94 歳」が 22.5%となっている。



(3) 性別

あなたの性別をお答えください。

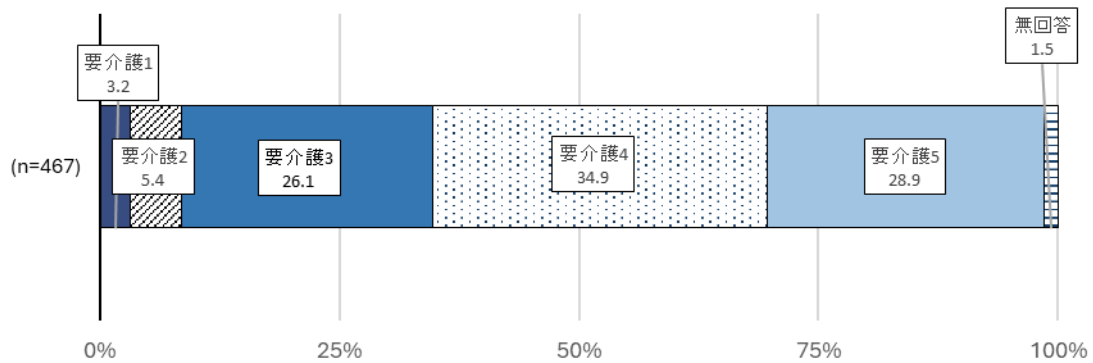
「女性」が76.0%で最も高く、次いで「男性」が22.3%となっている。



(4) 認定区分

あなたの認定区分は次のどれにあたりますか。

「要介護4」が34.9%で最も高く、次いで「要介護5」が28.9%となっている。

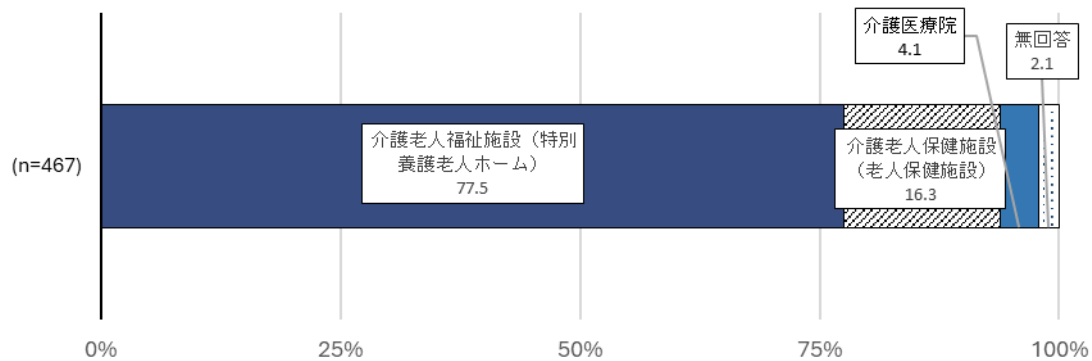


2. 入所している施設について

(1) 入所している施設の種類の

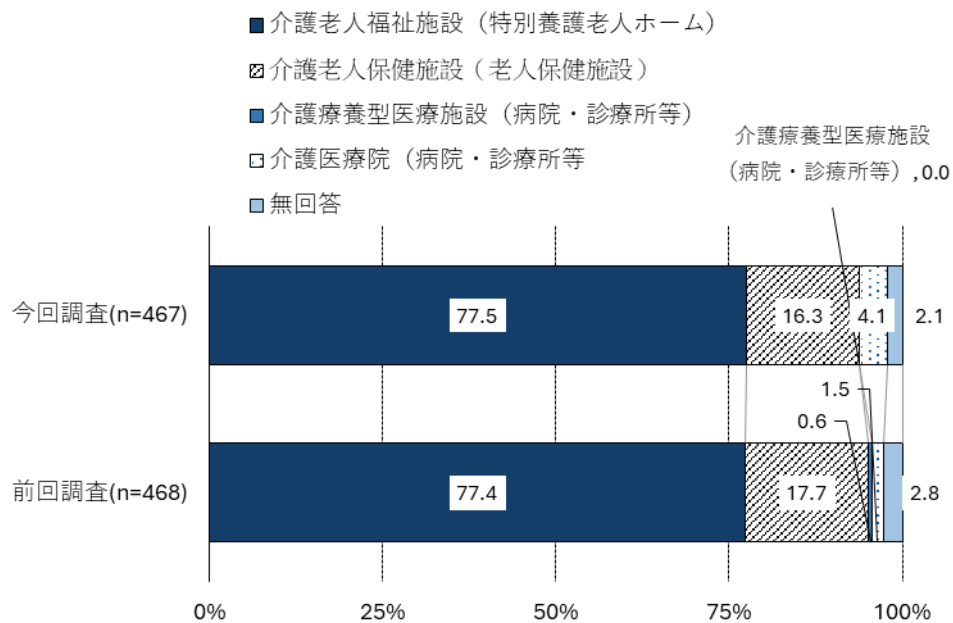
あなたは現在、どの施設に入所していますか。

「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」が77.5%で最も高く、次いで「介護老人保健施設(老人保健施設)」が16.3%となっている。



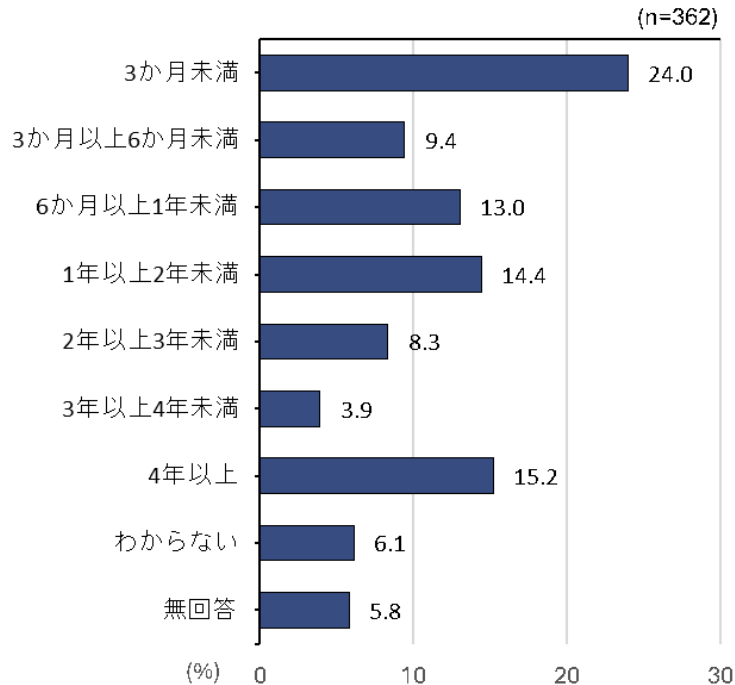
【経年比較】

前回調査と比較しても概ね同程度の結果となっている。



（「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)」を選択された方）入所申込をされてから、入所するまでの期間はどの程度でしたか。

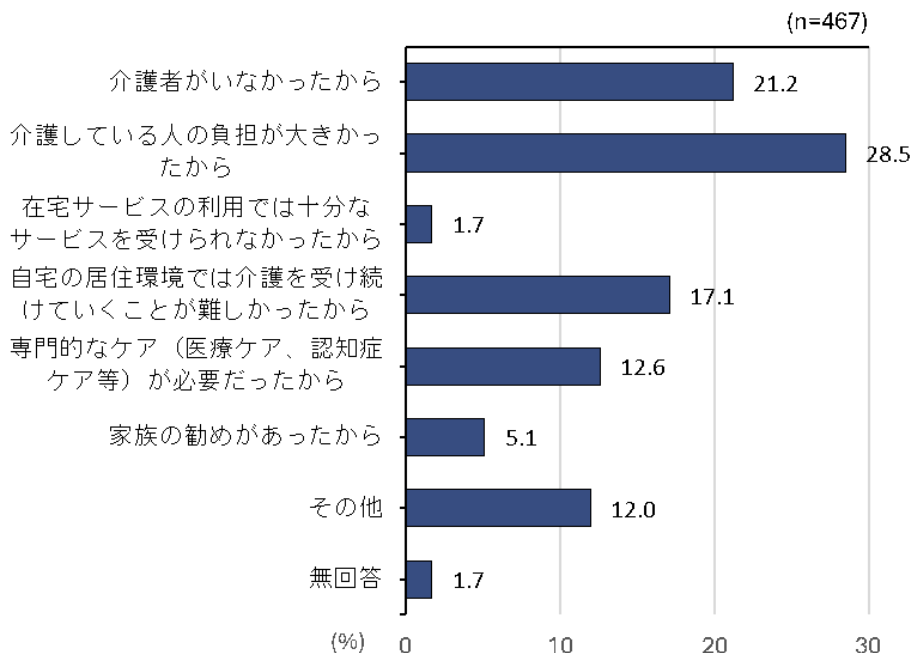
「3か月未満」が24.0%で最も高く、次いで「4年以上」が15.2%となっている。



(2) 入所の理由

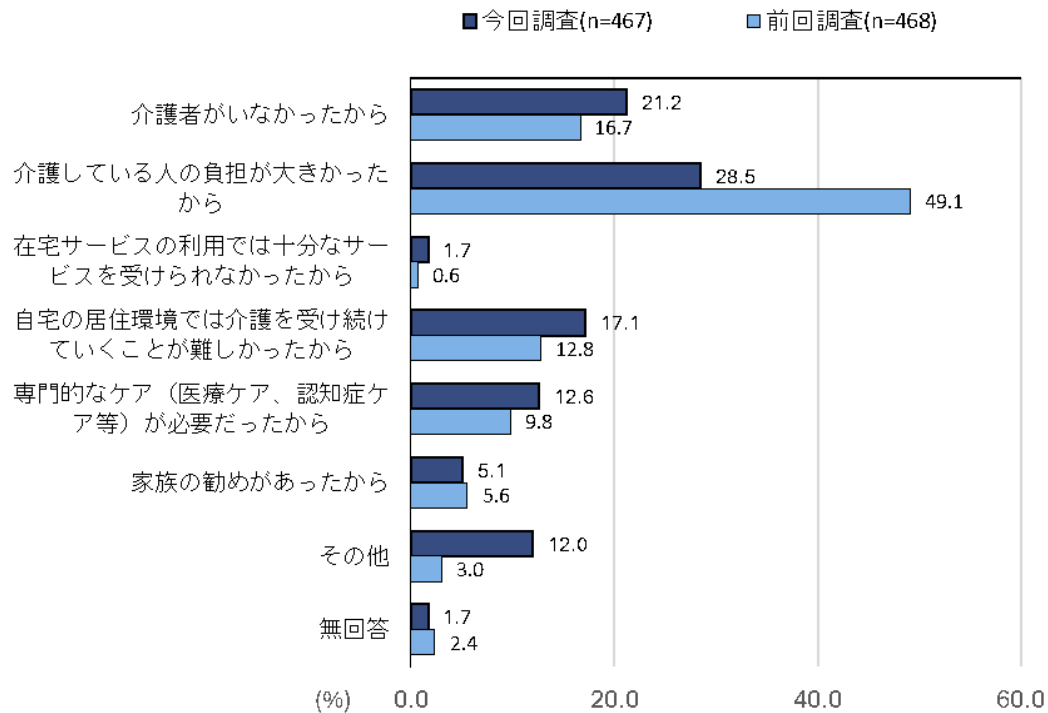
施設の入所を選んだ主な理由は何ですか。

「介護している人の負担が大きかったから」が28.5%で最も高く、次いで「介護者がいなかったから」が21.2%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「介護している人の負担が大きかったから」が20.6ポイント下がり、「介護者がいなかったから」「自宅の居住環境では介護を受け続けていくことが難しかったから」等がわずかに上昇している。



【認定区分別比較】

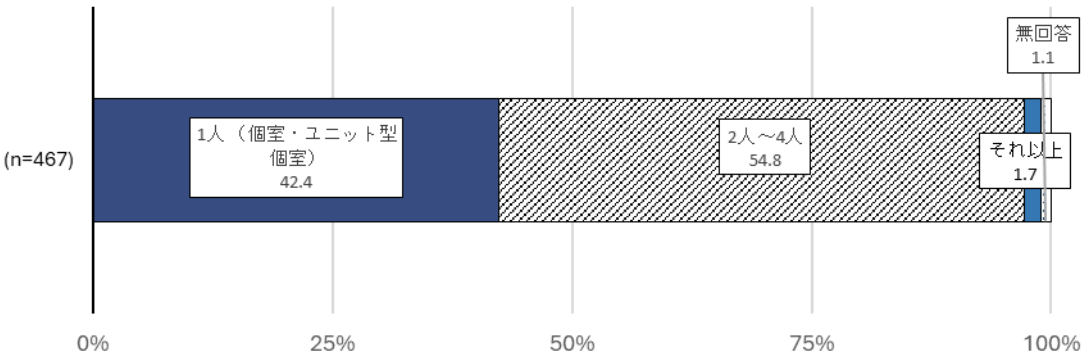
認定区分別でみると、要介護1では「介護者がいなかったから」が最も高く、要介護2では「自宅の居住環境では介護を受け続けていくことが難しかったから」が最も高い。要介護3～5では「介護している人の負担が大きかったから」が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問5								
	合計	介護者がいなかったから	介護している人の負担が大きかったから	在宅サービスの利用では十分なサービスを受けられなかったから	自宅の居住環境では介護を受け続けていくことが難しかったから	専門的なケア（医療ケア、認知症ケア等）が必要だったから	家族の勧めがあったから	その他	無回答
全体	467	99	133	8	80	59	24	56	8
	100.0	21.2	28.5	1.7	17.1	12.6	5.1	12.0	1.7
要介護1	15	5	-	-	4	1	2	3	-
	100.0	33.3	-	-	26.7	6.7	13.3	20.0	-
要介護2	25	6	5	-	7	2	2	2	1
	100.0	24.0	20.0	-	28.0	8.0	8.0	8.0	4.0
要介護3	122	31	32	3	20	11	5	17	3
	100.0	25.4	26.2	2.5	16.4	9.0	4.1	13.9	2.5
要介護4	163	32	50	3	33	17	10	16	2
	100.0	19.6	30.7	1.8	20.2	10.4	6.1	9.8	1.2
要介護5	135	23	46	2	14	27	3	18	2
	100.0	17.0	34.1	1.5	10.4	20.0	2.2	13.3	1.5
無回答	7	2	-	-	2	1	2	-	-
	100.0	28.6	-	-	28.6	14.3	28.6	-	-

(3) 部屋について

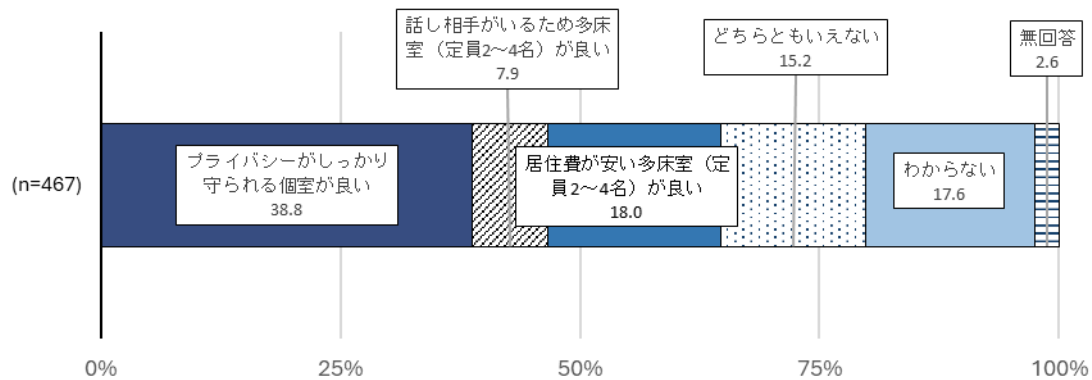
あなたの部屋の定員は何人ですか。

「2人～4人」が54.8%で最も高く、次いで「1人(個室・ユニット型個室)」が42.4%となっている。



部屋は個室と多床室のどちらを望まれますか。

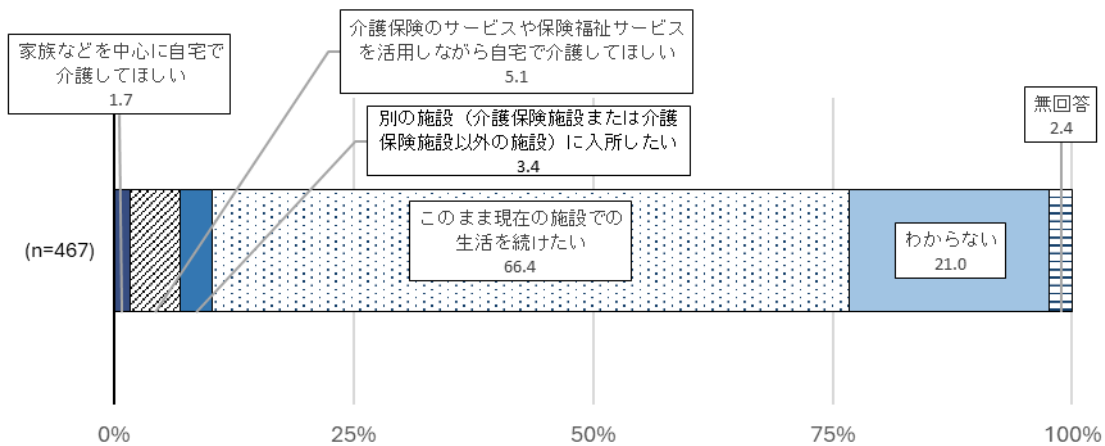
「プライバシーがしっかり守られる個室が良い」が38.8%で最も高く、次いで「居住費が安い多床室（定員2～4名）が良い」が18.0%となっている。



(4) 今後希望する介護

今後、あなたはどのような介護を希望しますか。

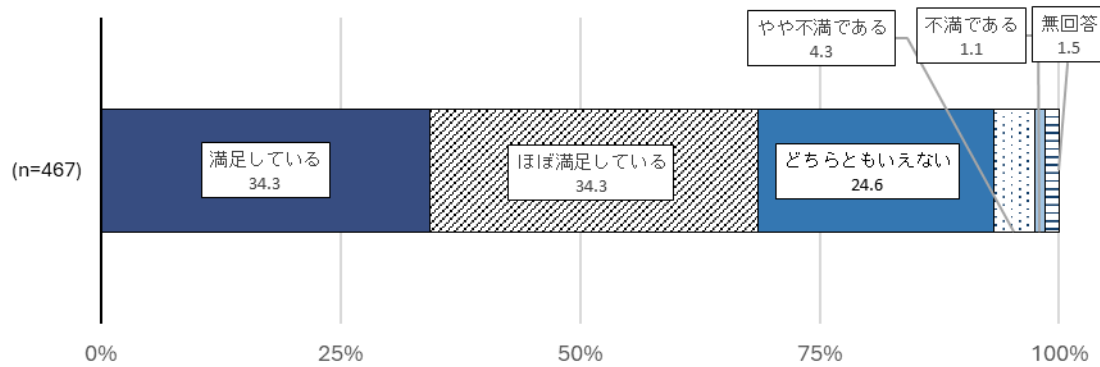
「このまま現在の施設での生活を続けたい」が66.4%で最も高く、次いで「わからない」が21.0%となっている。



(5) 入所先の満足度

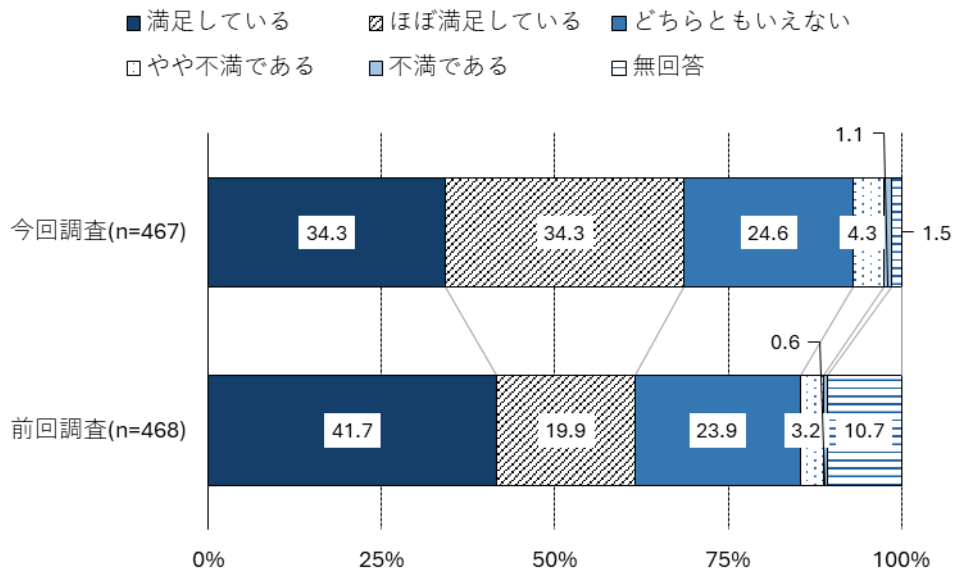
現在入所している施設のサービスに満足していますか。

「満足している」「ほぼ満足している」がともに 34.3%で、半数以上が「満足」となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「満足」(満足している、ほぼ満足している)の割合は上昇しているものの、「満足している」の割合は 7.4 ポイント下がっている。



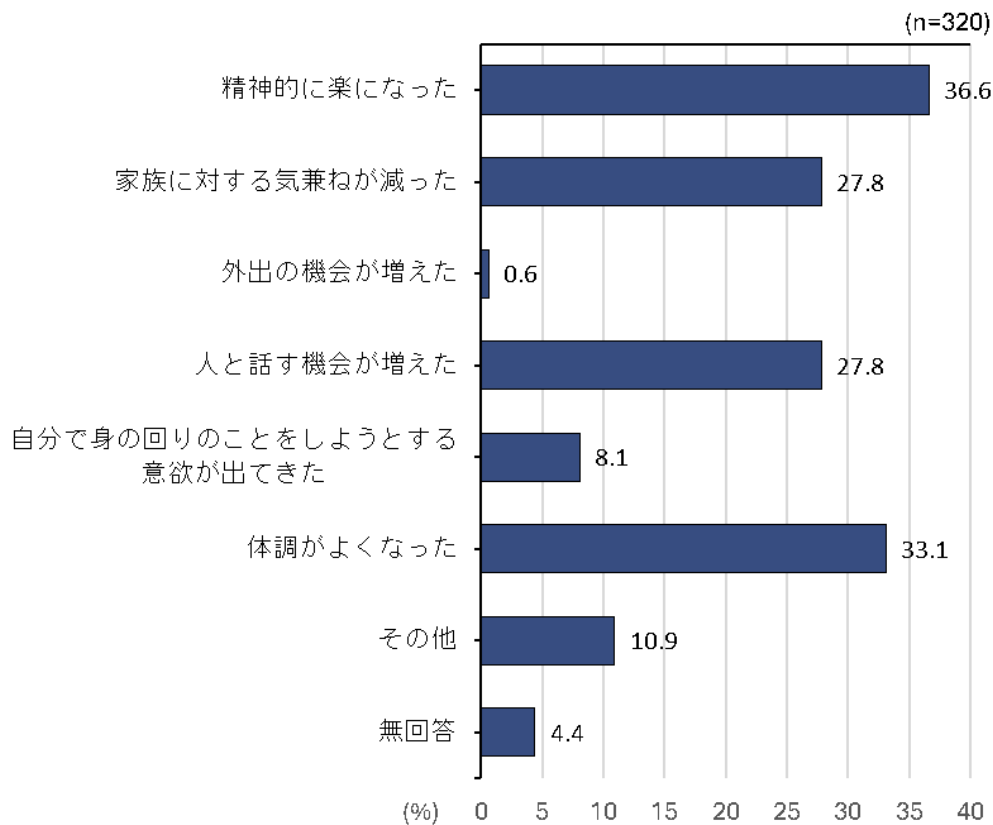
【入居施設別比較】

入居施設別でみると、施設によってばらつきはあるものの、いずれの施設でも満足している割合（「満足している」「ほぼ満足している」）の方が、不満に感じている割合（「やや不満である」「不満である」）よりも高くなっている。また、満足している割合は介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）で70.4%と最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問9						
	合計	満足している	ほぼ満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	無回答
全体	467	160	160	115	20	5	7
	100.0	 34.3	 34.3	 24.6	 4.3	 1.1	 1.5
介護老人福祉施設 （特別養護老人ホーム）	362	130	125	85	13	5	4
	100.0	 35.9	 34.5	 23.5	 3.6	 1.4	 1.1
介護老人保健施設 （老人保健施設）	76	24	27	19	4	-	2
	100.0	 31.6	 35.5	 25.0	 5.3	 -	 2.6
介護療養型医療施設 （病院・診療所等）	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-
介護医療院	19	3	5	8	2	-	1
	100.0	 15.8	 26.3	 42.1	 10.5	 -	 5.3
無回答	10	3	3	3	1	-	-
	100.0	 30.0	 30.0	 30.0	 10.0	 -	 -

(「満足」もしくは「ほぼ満足」を選択された方)あなたにとって、現在の施設サービスを受けて良かったと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

「精神的に楽になった」が36.6%で最も高く、次いで「体調がよくなった」が33.1%となっている。その他、「家族に対する気兼ねが減った」(27.8%)、「人と話す機会が増えた」(27.8%)が比較的高くなっている。



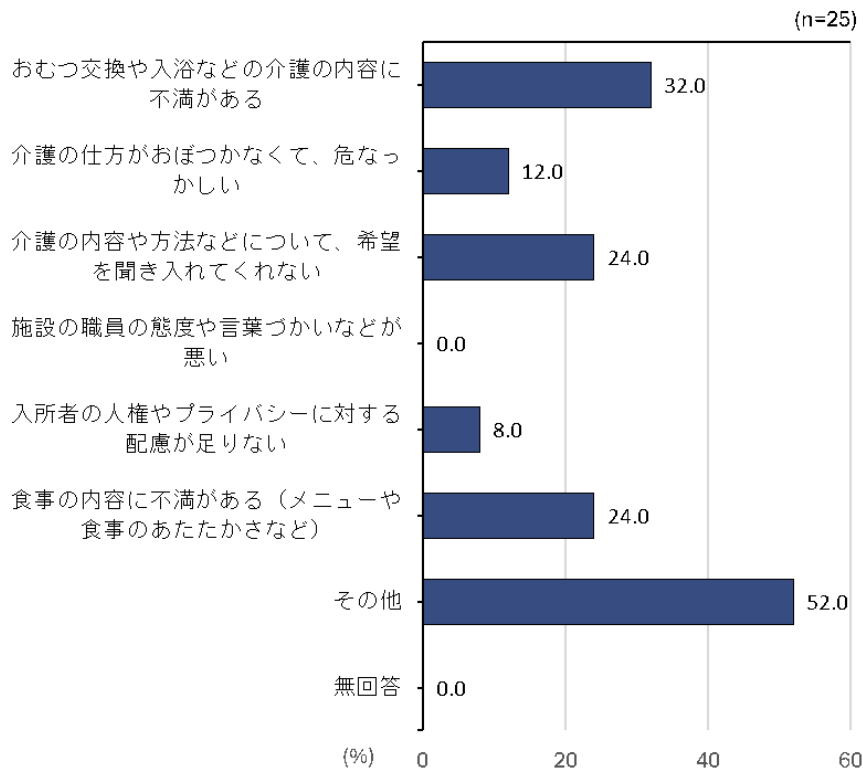
【入居施設別比較】

入居施設別でみると、「精神的に楽になった」は介護医療院が50.0%と高く、「体調が良くなった」と「人と話す機会が増えた」は介護老人保健施設(老人保健施設)が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問10								
	合計	精神的に楽 になった	家族に対す る気兼ねが 減った	外出の機会 が増えた	人と話す機 会が増えた	自分で身の 回りのこと をしようと する意欲が 出てきた	体調がよく なった	その他	無回答
全体	320	117	89	2	89	26	106	35	14
	100.0	36.6	27.8	0.6	27.8	8.1	33.1	10.9	4.4
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	255	94	73	2	63	18	76	31	10
	100.0	36.9	28.6	0.8	24.7	7.1	29.8	12.2	3.9
介護老人保健施設 (老人保健施設)	51	18	12	-	22	6	26	3	3
	100.0	35.3	23.5	-	43.1	11.8	51.0	5.9	5.9
介護療養型医療施設 (病院・診療所等)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
介護医療院	8	4	2	-	3	-	3	1	-
	100.0	50.0	25.0	-	37.5	-	37.5	12.5	-
無回答	6	1	2	-	1	2	1	-	1
	100.0	16.7	33.3	-	16.7	33.3	16.7	-	16.7

(「やや不満」もしくは「不満」を選択された方)あなたが、現在の施設サービスを受けて不満に思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)。

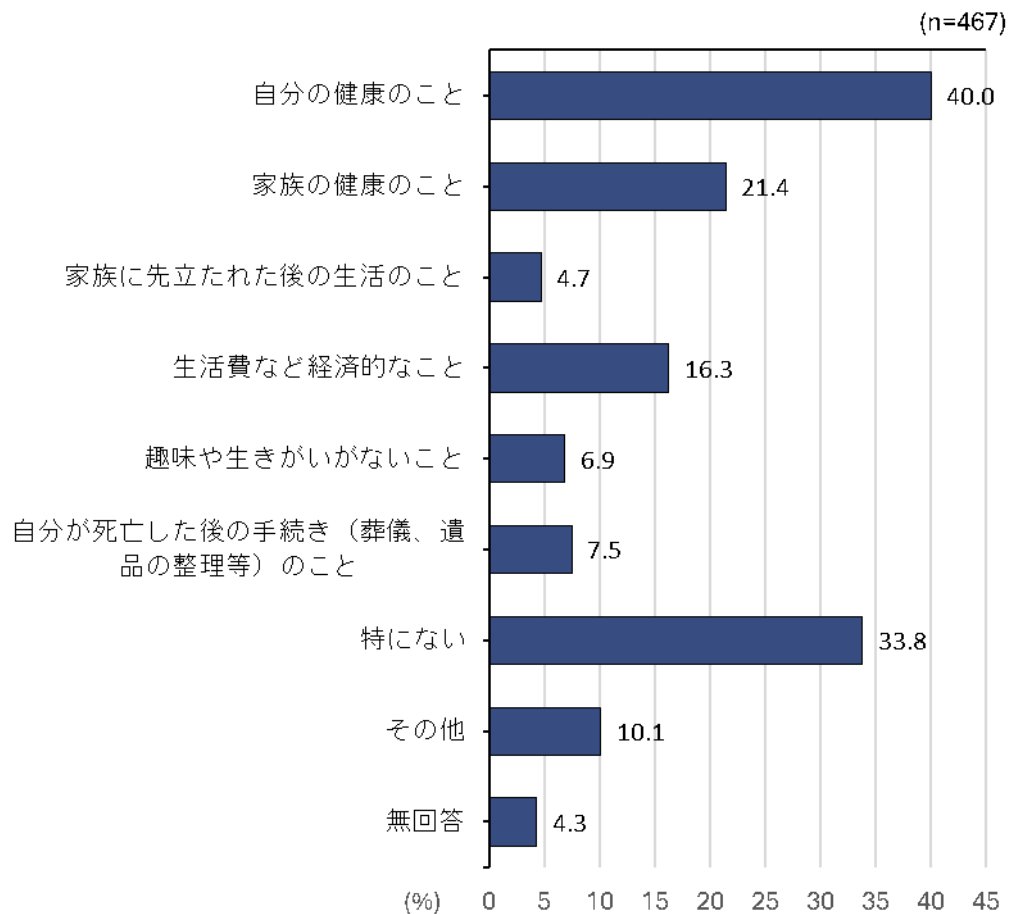
「おむつ交換や入浴などの介護の内容に不満がある」が32.0%と最も高く、次いで、「介護の内容や方法などについて、希望を聞き入れてくれない」「食事の内容に不満がある(メニューやあたたかさなど)」が24.0%となっている。



3. 現在の心配ごとや悩みごとについて

あなたには、現在、心配ごとや悩みごとがありますか。

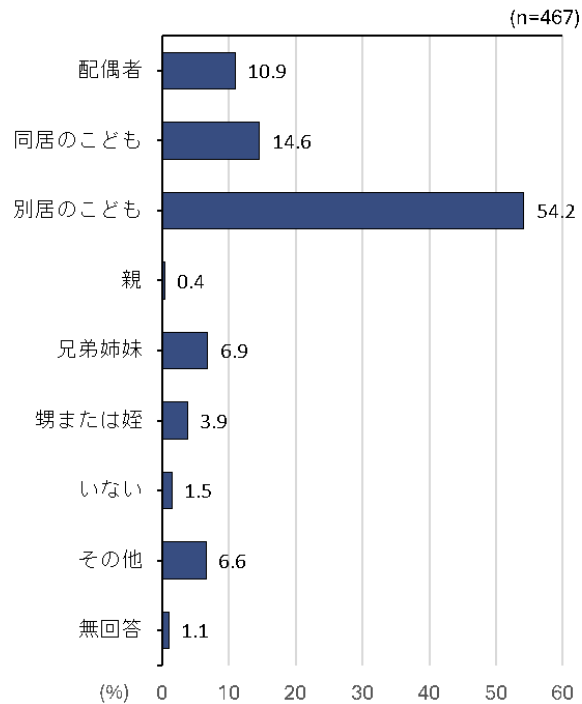
「自分の健康のこと」が40.0%で最も高く、次いで「特にない」が33.8%となっている。その他、「家族の健康のこと」(21.4%)が比較的高くなっている。



4. 将来への備えについて

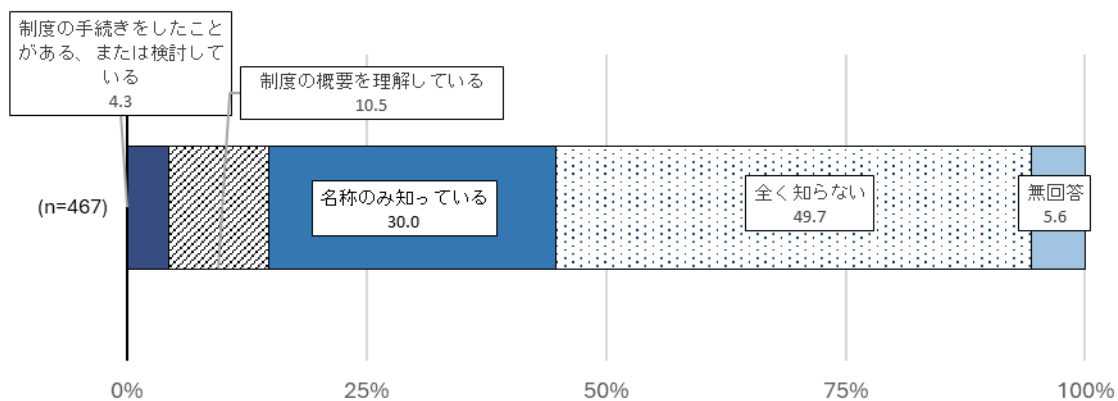
あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)、治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいますか。いる場合は、主にどなたですか。(○は1つ)

「別居のこども」が 54.2%で最も高く、次いで「同居のこども」が 14.6%となっている。



あなたは「成年後見制度」について、どの程度ご存知ですか。(○は1つ)

「全く知らない」が 49.7%で最も高く、次いで「名称のみ知っている」が 30.0%となっている。

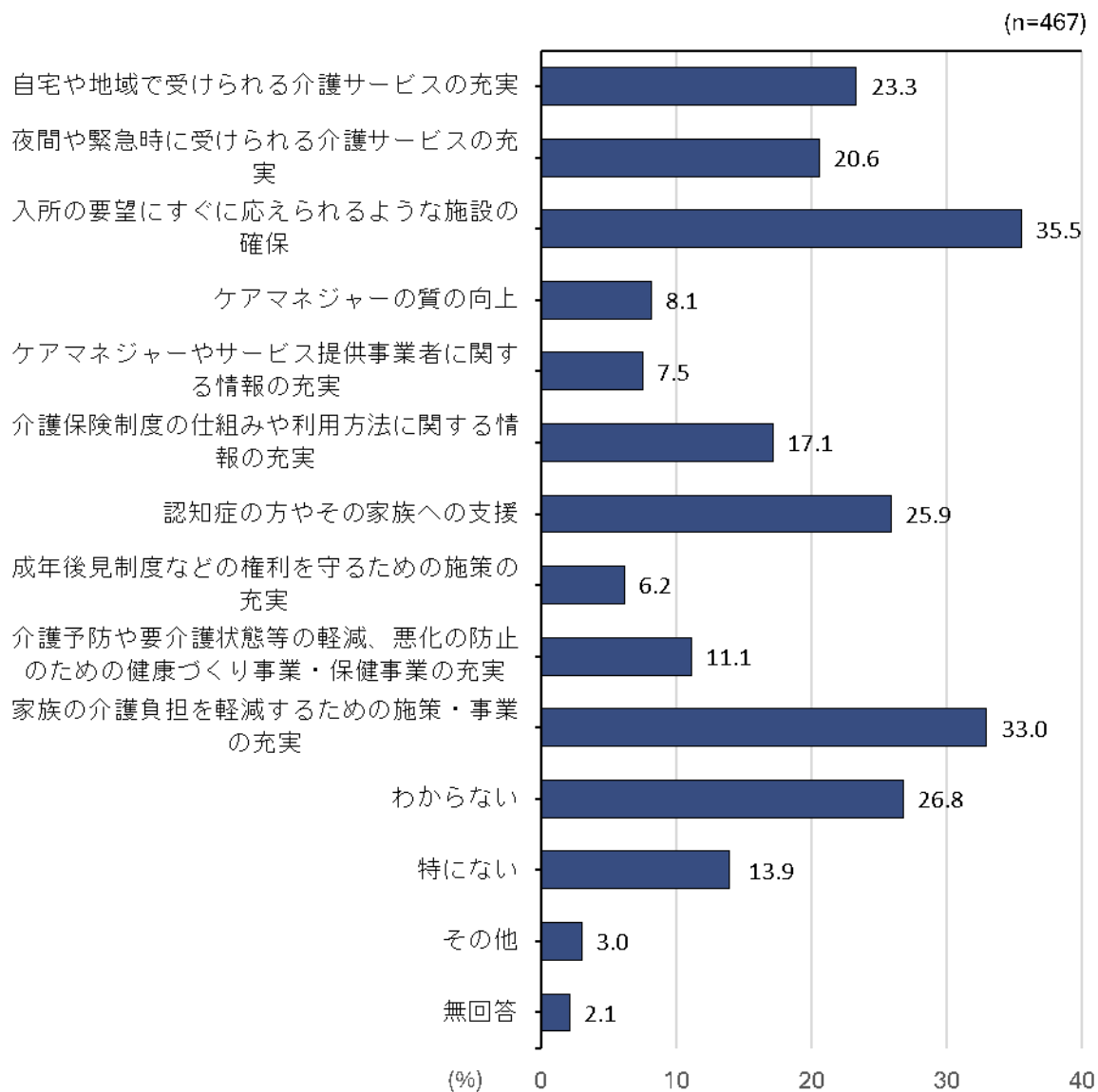


5. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのあり方

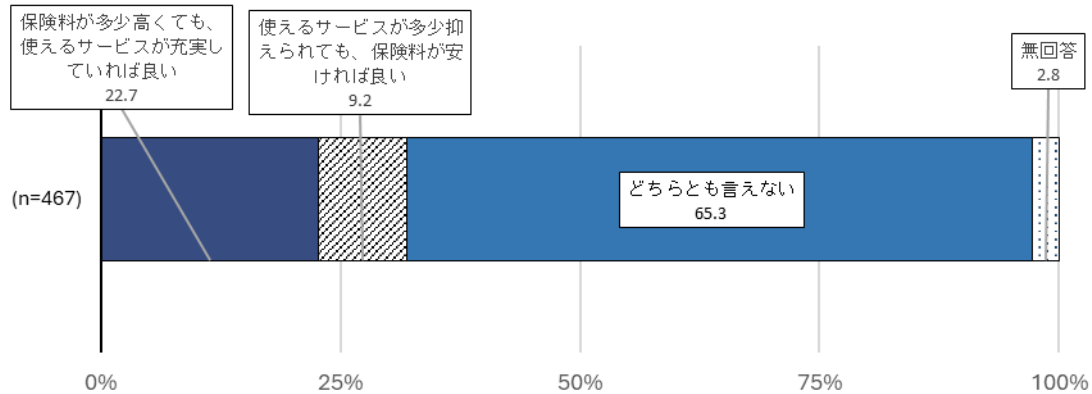
介護保険制度をはじめ、介護に関わるこれからの施策のあり方について、特に力を入れるべきことは何だと思いますか。(〇は5つまで)

「入所の要望にすぐに応えられるような施設の確保」が35.5%で最も高く、次いで「家族の介護負担を軽減するための施策・事業の充実」が33.0%となっている。その他、「わからない」(26.8%)、「認知症の方やその家族への支援」(25.9%)が比較的高くなっている。



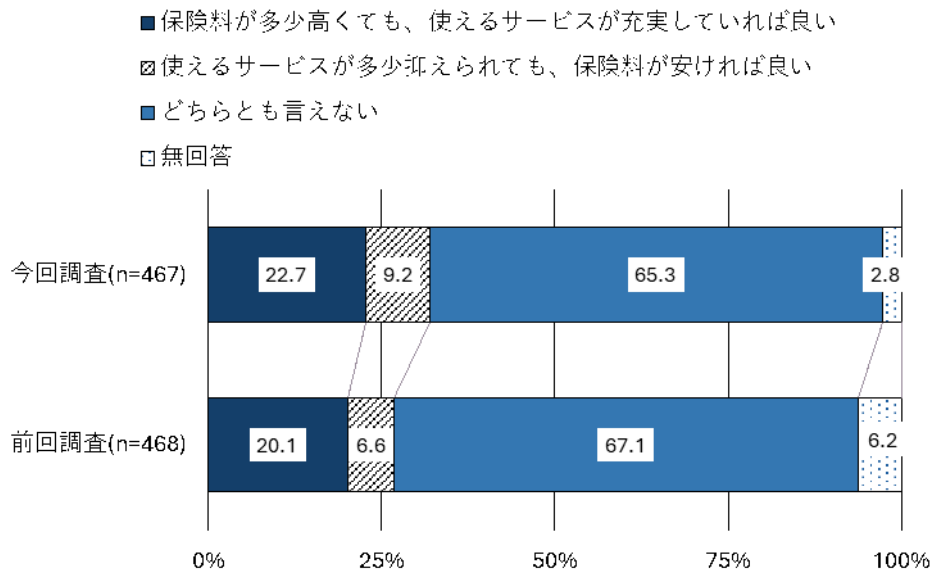
介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用に充てていますが、保険料と介護サービスの在り方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

「どちらとも言えない」が65.3%で最も高く、次いで「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が22.7%となっている。



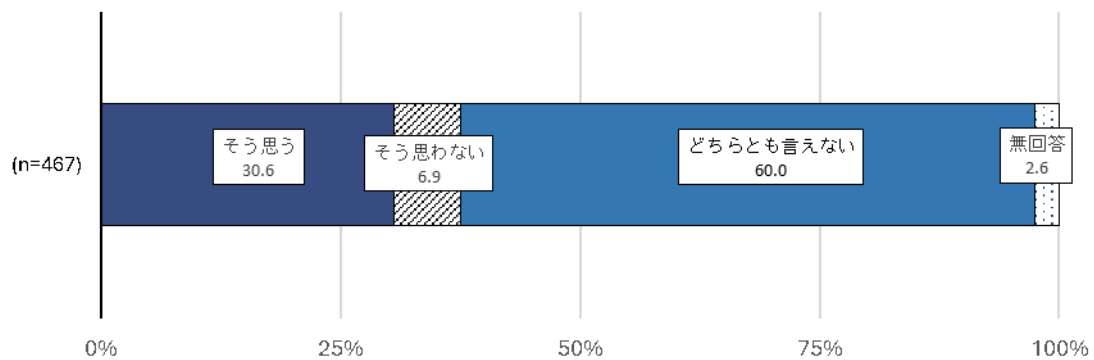
【経年比較】

前回調査と比較すると、大きな差はないものの、保険料が高くてもサービス充実を重視する割合、サービス抑制でも保険料の低さを重視する割合がそれぞれわずかに上昇している。



65 歳以上の方の保険料に関して「低所得者に配慮するために、高所得者の負担を多少増やすのもやむを得ない」ということについて、あなたはどのようにお考えですか。

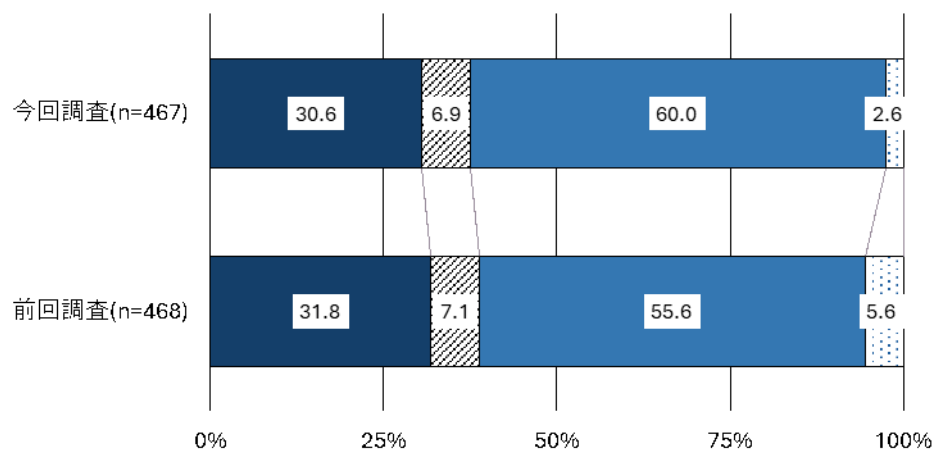
「どちらとも言えない」が 60.0%で最も高く、次いで「そう思う」が 30.6%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較しても概ね同程度の結果となっている。

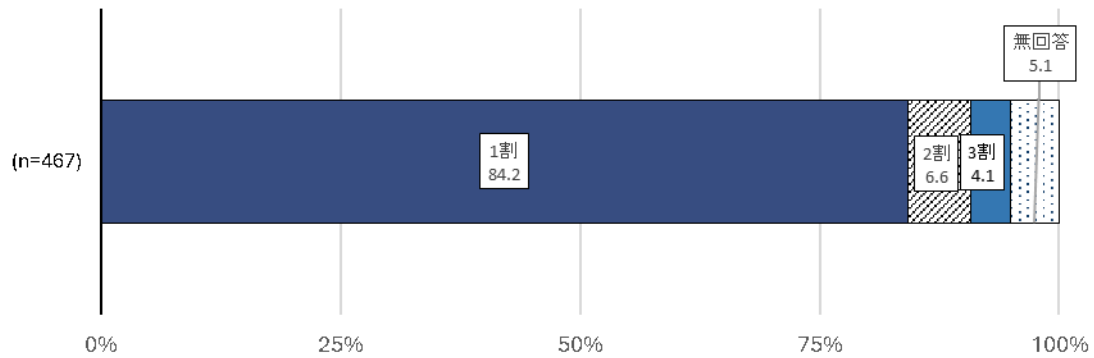
■ そう思う ▨ そう思わない ■ どちらとも言えない ▤ 無回答



(2) 介護サービスの自己負担割合と負担感

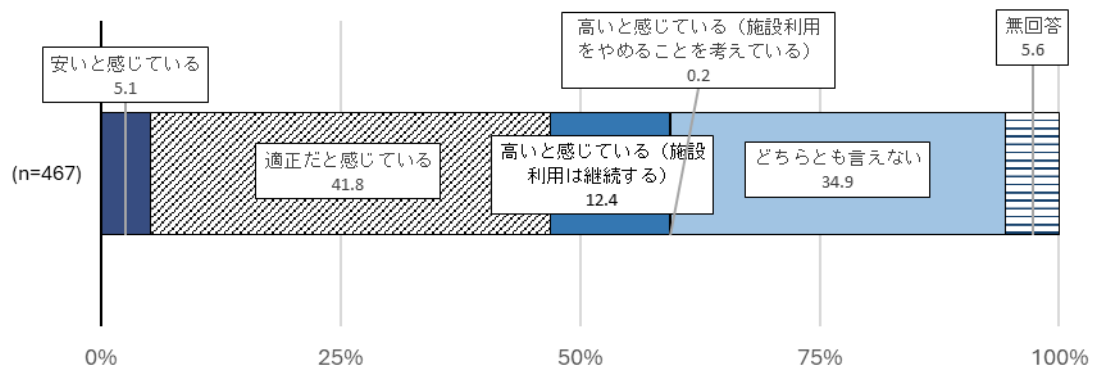
あなたの自己負担割合をお答えください。

「1割」が84.2%で最も高く、次いで「2割」が6.6%となっている。



お答えいただいた費用(自己負担分)について、どのように感じていますか。

「適正だと感じている」が41.8%で最も高く、次いで「どちらとも言えない」が34.9%となっている。



【自己負担割合別比較】

自己負担割合別でみると、「適正だと感じている」は 1 割および 2 割負担で高くなっている。一方、「高いと感じている(施設利用は継続する)」は、1 割負担に比べて 2 割および 3 割負担で高くなっている。

上段:件数 下段:%	問18(2)						
	合計	安いと感じ ている	適正だと感 じている	高いと感じ ている(施 設利用は継 続する)	高いと感じ ている(施 設利用をや めることを 考えてい る)	どちらとも 言えない	無回答
全体	467	24	195	58	1	163	26
	100.0	5.1	41.8	12.4	0.2	34.9	5.6
1割	393	24	174	37	-	150	8
	100.0	6.1	44.3	9.4	-	38.2	2.0
2割	31	-	14	12	-	4	1
	100.0	-	45.2	38.7	-	12.9	3.2
3割	19	-	4	9	-	5	1
	100.0	-	21.1	47.4	-	26.3	5.3
無回答	24	-	3	-	1	4	16
	100.0	-	12.5	-	4.2	16.7	66.7

6. ご意見・ご要望

最後に、市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

① 施設整備・アクセス

- ・ 習志野市内の特養を希望していたが空きがなく、他市の特養に移った。市内で入所できるよう希望する。
- ・ 近隣に入所できる施設がなく遠くの施設に入居している。近隣に施設があれば家族が頻繁に訪問できる。
- ・ 要望する施設に入れる数があればよいと思う。
- ・ 市内の特養・療養型病院が少なく待機者が多すぎる。市内の特養をもっと増やしてほしい。
- ・ 習志野市内に人工透析者が入居できる施設がない。施設が遠く交通の便も悪いため家族が会いに行けない。
- ・ 保健施設に入所しているが、長男が施設入居できれば在宅介護も検討できる。制度の矛盾があれば改善してほしい。
- ・ 小規模多機能施設への補助があれば入居の選択肢が広がると思う。
- ・ 入所している特養の面会可能日が平日のみで、会社勤めのため出向くことが難しい。土日も対応していただけると大変助かる。
- ・ 施設入所後も家族や地域とのつながりが生きがいになるため、コロナ前のような外出の自由を大切にしてほしい。
- ・ お正月の面会・外出ができなかったことは残念だった。
- ・ 県外に住んでいるためオンラインでの交流がより気軽にできる環境を期待している。
- ・ 夜間のロボットを活用した見守りの普及を期待している。

② 介護人材・処遇改善

- ・ 福祉施設の従業員の給与支援をより充実してほしい。
- ・ 介護士の賃金を上げ、スタッフが十分に足りている施設が当たり前になるとよい。
- ・ 福祉関係者の給与をもっと高くして、より多くの方に働いていただきたい。人手不足で大変です。
- ・ 介護スタッフの入れ替わりが多く、人手不足で爪切りなど細かいケアまで手が回らない感じがある。
- ・ 習志野市の福祉施策には手厚くお世話になり感謝している。介護福祉従事者の処遇改善をお願いしたい。
- ・ 介護の世界を知って 1 年ほどだが、費用や定員の問題で入所できない人も多いのではないかなと思う。

- ・ ケアマネの賃金アップを求める。
- ・ 介護スタッフの給料が高くないのか(安いと聞く)。
- ・ 地域包括センターも当たり外れが大きく、施設指導や家族への紹介が機能していないケースがある。

③ 施設の質・環境

- ・ 特養で週 2 回しか入浴できず乾燥・べたつきが気になる。せめて週 3 回にしてほしい。
- ・ 施設での排泄介助が介護者の都合でおむつ対応になることへの懸念がある。食事面でも食べたいものが制限されており楽しみが限られている。
- ・ 介護スタッフの入れ替わりが多く、日中の声かけや時間の過ごし方にも工夫がほしい。
- ・ 衛生面(床・壁・ベッド周り・洗面台)が気になる。
- ・ 楽しく明るく過ごせるような施設づくりを。
- ・ 死を目の前にして、囲碁・将棋など何か楽しめることをみんなでできるように考えてほしい。
- ・ 人手不足でリハビリが十分にできないため、外部リハビリの施設内受け入れも検討してほしい。
- ・ 予算や介護度の問題はあると思うが、在宅・施設でのリハビリやレクリエーションの時間割り当てがあるとよい。
- ・ 骨折を機に要介護状態になる方の増加に備え、老健での入所期間延長または特養でのリハビリ継続をしてほしい。
- ・ 難聴が認知症を悪化させるため、65 歳以上への定期的な聴力検査と補聴器への国の補助を求める。

④ 経済的負担・支援について

- ・ 特養の利用料が年金でまかなえず困っている。
- ・ 3 年ごとの介護保険改訂のたびに保険料が上がり、年金受給者本人でも払うのがやっとで配偶者分は払いきれない。
- ・ 千葉の特養は他県より料金が高いと感じる。市が施設への負担を増やすことで料金が下がらないか。
- ・ 市議会議員の給与は増えているが、要介護者のおむつ付与は納税額により少なくなる。福祉対策のお金の使い方を考えてほしい。
- ・ 年に一度の介護保険負担限度額認定申請の手続きを簡易化できないか。
- ・ 胃ろうの栄養量が減っても食費が変わらず疑問を感じている。

⑤ 在宅介護・地域支援

- ・ 夜間や緊急時に受けられるサービスが少なく在宅介護の限界を感じた経験がある。夜間・緊急時のサービスが充実することで在宅介護できる人が増えるのではないかな。
- ・ 介護サービスが時間制限なく来てもらえれば利用したいと思う。
- ・ 夜間ヘルパーの充実で在宅介護できる人が増えると思う。
- ・ 在宅介護約10年の間、おむつ支給・タクシー券等に変助かった。今後も支援が必要な方が増えていくと思う。
- ・ 認知症予防のために地域でのつながりやコミュニケーションの場が必要。運動・会話・手芸・ボランティアなど、自分が社会の役に立てると感じられる仕組みがあればよい。
- ・ 施設入所中の方が地震等の災害時にどう対応するか、食料・医療備蓄や家族への連絡方法など具体的な計画を入所時に説明してほしい。

⑥ 情報提供・行政対応

- ・ 自分が利用する立場になるまでサービスの仕組みを全くわからなかった。専門職からの都度丁寧な説明があるとありがたい。
- ・ 地域のケアマネと施設のケアマネそれぞれに説明が必要で連携が薄いと感じる。毎回一から説明しなければならず負担が大きい。
- ・ 市の高齢者保健福祉施策の内容を冊子の冒頭でわかりやすく示してほしい。
- ・ アンケートが本人・家族にとっても負担。実態を知りたいなら直接施設に来るべきで、介護が必要な人にやらせすぎだと感じる。
- ・ 死亡した時の案内が全くない。高い税金を払っているのだから習志野市でもっと考えてほしい。
- ・ 投薬ミスの際の市への連絡が不要と説明されたが、他自治体では家族が署名する書類があると聞いており、自治体によって対応が異なることへの不信感がある。

⑦ その他

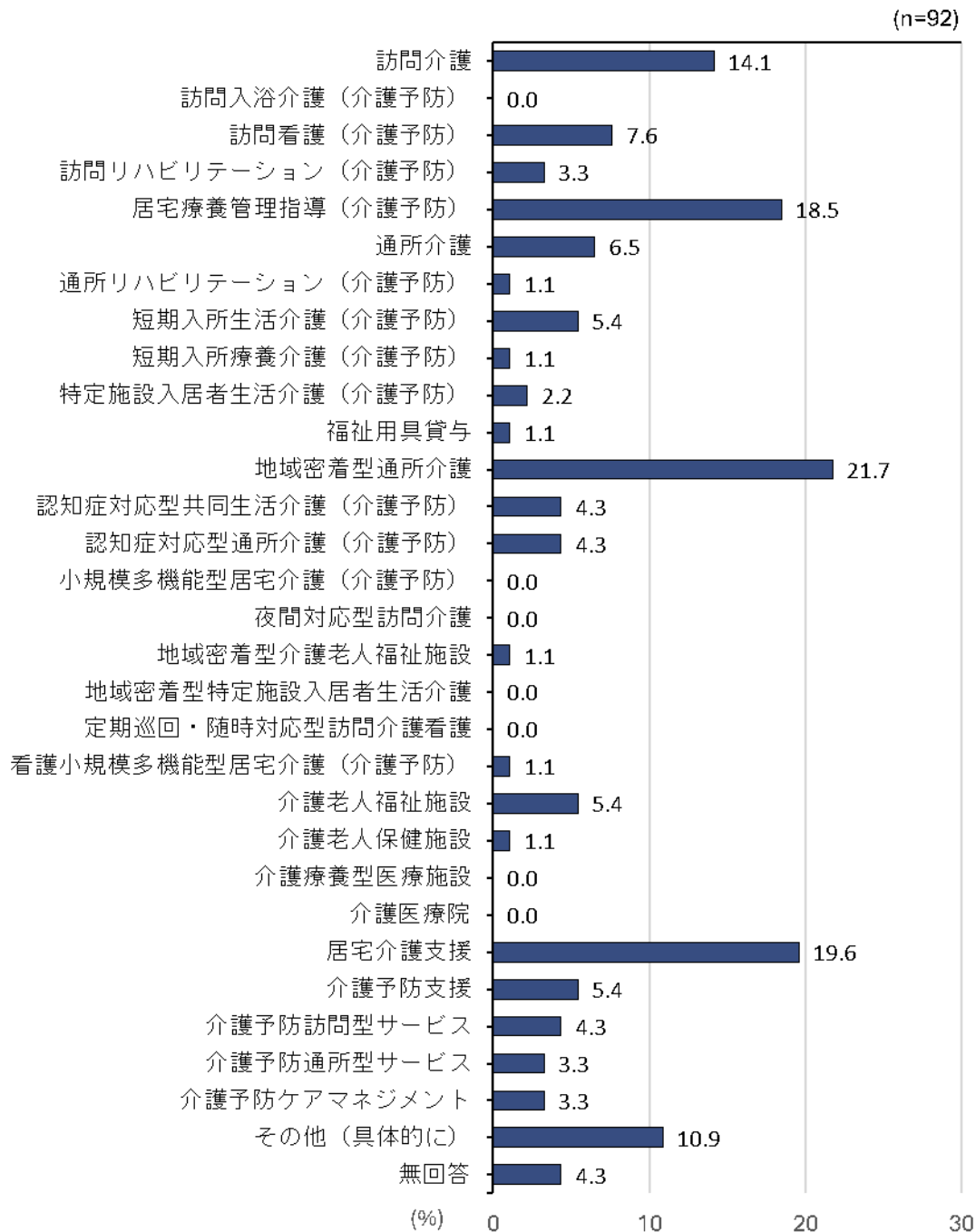
- ・ 市役所の担当者・包括支援センターの方が親身に相談にのってくださり感謝している。高齢者向け配食サービスも味・メニュー・量ともによく、大変助かっている。

第6章 サービス提供事業者調査

1. 貴事業者の概要について

貴事業者が現在、本市で実施しているサービスは何ですか。(○はいくつでも)

「地域密着型通所介護」が21.7%で最も高く、次いで「居宅介護支援」が19.6%となっている。その他、「居宅療養管理指導(介護予防)」(18.5%)、「訪問介護」(14.1%)が比較的高くなっている。



2. 介護保険サービスについて

次の①から⑳までのサービスのうち、貴事業者において提供しているサービスについて、(1)から(3)のそれぞれ当てはまるものに○をご記入ください。

(1)利用者からの利用申込みへの対応

「余裕はない」の割合が高いサービスとしては、「介護療養型医療施設」「介護予防ケアマネジメント」がいずれも100.0%で最も高く、次いで「介護予防支援」「介護予防訪問型サービス」がいずれも85.7%となっている。「余裕はややある」が高いサービスとしては、「地域密着型通所介護」が65.2%で最も高く、次いで「居宅療養管理指導(介護予防)」が63.6%、「通所介護」が60.0%となっている。「余裕は十分ある」の割合が高いサービスとしては、「訪問看護(介護予防)」が55.6%で最も高く、次いで「福祉用具貸与」が50.0%、「認知症対応型通所介護(介護予防)」が42.9%となっている。

上段: 回答数 下段: 割合	総回答数	余裕はない	余裕はややある	余裕は十分ある
①訪問介護	15	10 66.7%	3 20.0%	2 13.3%
②訪問入浴介護(介護予防)	3	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%
③訪問看護(介護予防)	9	2 22.2%	2 22.2%	5 55.6%
④訪問リハビリテーション(介護予防)	6	3 50.0%	2 33.3%	1 16.7%
⑤居宅療養管理指導(介護予防)	22	5 22.7%	14 63.6%	3 13.6%
⑥通所介護	10	2 20.0%	6 60.0%	2 20.0%
⑦通所リハビリテーション(介護予防)	5	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%
⑧短期入所生活介護(介護予防)	8	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%
⑨短期入所療養介護(介護予防)	4	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%
⑩特定施設入居者生活介護(介護予防)	5	4 80.0%	1 20.0%	0 0.0%
⑪福祉用具貸与	4	2 50.0%	0 0.0%	2 50.0%
⑫地域密着型通所介護	23	5 21.7%	15 65.2%	3 13.0%
⑬認知症対応型共同生活介護(介護予防)	7	4 57.1%	2 28.6%	1 14.3%
⑭認知症対応型通所介護(介護予防)	7	2 28.6%	2 28.6%	3 42.9%
⑮小規模多機能型居宅介護(介護予防)	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%
⑯夜間対応型訪問介護	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%
⑰地域密着型介護老人福祉施設	4	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%
⑱地域密着型特定施設入居者生活介護	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%
⑲定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%
⑳看護小規模多機能型居宅介護(介護予防)	4	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%
㉑介護老人福祉施設	8	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%
㉒介護老人保健施設	4	3 75.0%	0 0.0%	1 25.0%
㉓介護療養型医療施設	3	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
㉔介護医療院	4	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%
㉕居宅介護支援	21	11 52.4%	9 42.9%	1 4.8%
㉖介護予防支援	7	6 85.7%	1 14.3%	0 0.0%
㉗介護予防訪問型サービス	7	6 85.7%	0 0.0%	1 14.3%
㉘介護予防通所型サービス	10	5 50.0%	5 50.0%	0 0.0%
㉙介護予防ケアマネジメント	7	7 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
㉚その他(具体的に)	8	5 62.5%	3 37.5%	0 0.0%

(2)事業者の収支状況

「赤字である」の割合が比較的高いサービスとしては、「地域密着型通所介護」が50.0%、「介護予防ケアマネジメント」が50.0%、「訪問看護(介護予防)」「介護予防通所型サービス」が37.5%となっている。「収支はほぼ均衡」の割合が高いサービスとしては、「訪問リハビリテーション(介護予防)」が80.0%、「通所介護」が77.8%、「居宅療養管理指導(介護予防)」が55.0%となっている。「黒字である」の割合が比較的高いサービスとしては、「特定施設入居者生活介護(介護予防)」が50.0%、「介護予防訪問型サービス」が40.0%、「認知症対応型共同生活介護(介護予防)」が33.3%となっている。

上段:回答数 下段:割合	総回答数	赤字である	収支はほぼ均衡	黒字である
①訪問介護	14	4 28.6%	6 42.9%	4 28.6%
②訪問入浴介護(介護予防)	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
③訪問看護(介護予防)	8	3 37.5%	5 62.5%	0 0.0%
④訪問リハビリテーション(介護予防)	5	1 20.0%	4 80.0%	0 0.0%
⑤居宅療養管理指導(介護予防)	20	5 25.0%	11 55.0%	4 20.0%
⑥通所介護	9	1 11.1%	7 77.8%	1 11.1%
⑦通所リハビリテーション(介護予防)	4	0 0.0%	3 75.0%	1 25.0%
⑧短期入所生活介護(介護予防)	7	2 28.6%	3 42.9%	2 28.6%
⑨短期入所療養介護(介護予防)	3	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
⑩特定施設入居者生活介護(介護予防)	4	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%
⑪福祉用具貸与	3	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
⑫地域密着型通所介護	22	11 50.0%	6 27.3%	5 22.7%
⑬認知症対応型共同生活介護(介護予防)	6	0 0.0%	4 66.7%	2 33.3%
⑭認知症対応型通所介護(介護予防)	6	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%
⑮小規模多機能型居宅介護(介護予防)	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
⑯夜間対応型訪問介護	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
⑰地域密着型介護老人福祉施設	3	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%
⑱地域密着型特定施設入居者生活介護	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
⑲定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
⑳看護小規模多機能型居宅介護(介護予防)	3	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
㉑介護老人福祉施設	7	2 28.6%	5 71.4%	0 0.0%
㉒介護老人保健施設	3	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%
㉓介護療養型医療施設	2	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%
㉔介護医療院	3	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
㉕居宅介護支援	20	7 35.0%	10 50.0%	3 15.0%
㉖介護予防支援	6	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%
㉗介護予防訪問型サービス	5	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%
㉘介護予防通所型サービス	8	3 37.5%	4 50.0%	1 12.5%
㉙介護予防ケアマネジメント	6	3 50.0%	3 50.0%	0 0.0%
㉚その他(具体的に)	8	2 25.0%	4 50.0%	2 25.0%

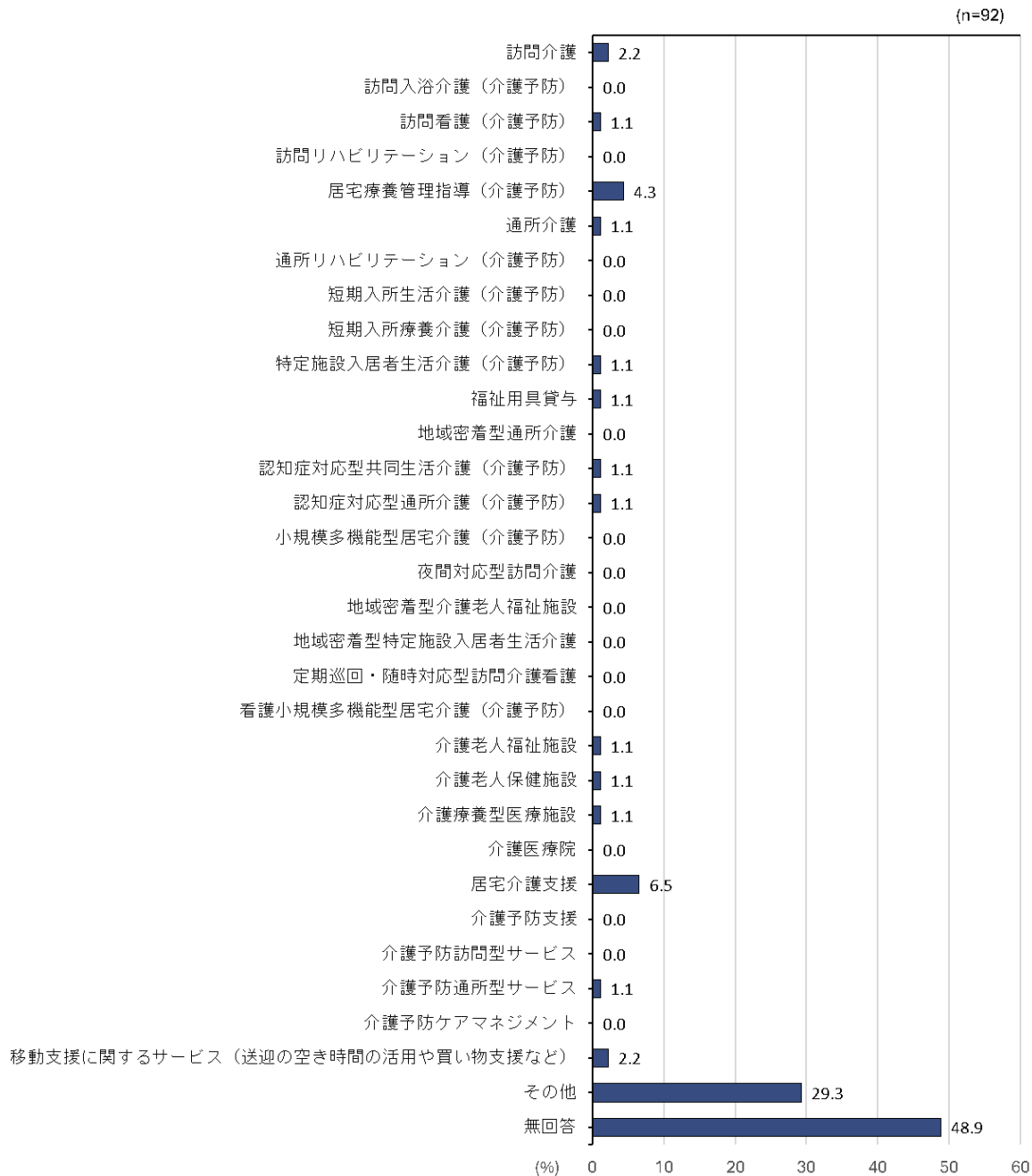
(3)今後の事業展開

「縮小を考えている」がみられるサービスとしては、「介護予防支援」が16.7%、「介護予防ケアマネジメント」が16.7%となっている。「現状のまま」が高いサービスとしては、「介護予防通所型サービス」が62.5%、「訪問介護」が50.0%、「居宅介護支援」が50.0%となっている。「拡大を考えている」が比較的高いサービスとしては、「訪問看護(介護予防)」が50.0%、「通所介護」が44.4%、「特定施設入居者生活介護(介護予防)」が40.0%となっている。

上段:回答数 下段:割合	総回答数	現時点ではわからない	縮小を考えている	現状のまま	拡大を考えている
①訪問介護	14	2 14.3%	2 14.3%	7 50.0%	3 21.4%
②訪問入浴介護(介護予防)	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
③訪問看護(介護予防)	8	3 37.5%	0 0.0%	1 12.5%	4 50.0%
④訪問リハビリテーション(介護予防)	5	3 60.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%
⑤居宅療養管理指導(介護予防)	19	6 31.6%	2 10.5%	10 52.6%	1 5.3%
⑥通所介護	9	3 33.3%	0 0.0%	2 22.2%	4 44.4%
⑦通所リハビリテーション(介護予防)	4	3 75.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
⑧短期入所生活介護(介護予防)	7	3 42.9%	0 0.0%	3 42.9%	1 14.3%
⑨短期入所療養介護(介護予防)	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
⑩特定施設入居者生活介護(介護予防)	5	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%
⑪福祉用具貸与	3	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%
⑫地域密着型通所介護	22	9 40.9%	0 0.0%	9 40.9%	4 18.2%
⑬認知症対応型共同生活介護(介護予防)	6	2 33.3%	0 0.0%	3 50.0%	1 16.7%
⑭認知症対応型通所介護(介護予防)	6	3 50.0%	0 0.0%	3 50.0%	0 0.0%
⑮小規模多機能型居宅介護(介護予防)	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑯夜間対応型訪問介護	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑰地域密着型介護老人福祉施設	3	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑱地域密着型特定施設入居者生活介護	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑲定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑳看護小規模多機能型居宅介護(介護予防)	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
㉑介護老人福祉施設	7	3 42.9%	0 0.0%	3 42.9%	1 14.3%
㉒介護老人保健施設	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
㉓介護療養型医療施設	2	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
㉔介護医療院	3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
㉕居宅介護支援	20	6 30.0%	1 5.0%	10 50.0%	3 15.0%
㉖介護予防支援	6	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%
㉗介護予防訪問型サービス	5	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%
㉘介護予防通所型サービス	8	3 37.5%	0 0.0%	5 62.5%	0 0.0%
㉙介護予防ケアマネジメント	6	3 50.0%	1 16.7%	2 33.3%	0 0.0%
㉚その他(具体的に)	7	3 42.9%	0 0.0%	3 42.9%	1 14.3%

貴事業者が今後、新たに実施したいサービスは何ですか。(〇はいくつでも)

「居宅介護支援」が6.5%で最も高く、次いで「居宅療養管理指導(介護予防)」が4.3%となっている。

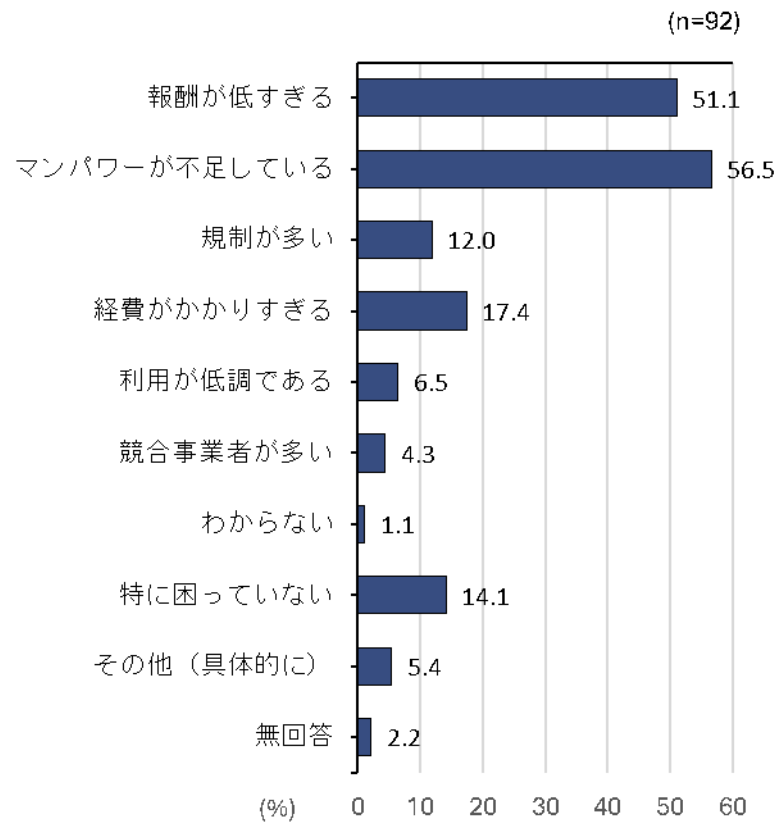


上記を選択した理由をお教えてください。

新たに実施したいサービス	理由
訪問介護	デイサービスは人手がなかなか集まらない
訪問看護(介護予防)	習志野市の福祉・医療サービスを発展・充実させたいから。
居宅療養管理指導(介護予防)	・それ以上はできない ・継続 ・歯科を通じてフレイル予防に貢献する為
通所介護	ニーズはあると考えているため
福祉用具貸与	ご利用者様の状態は、よく把握しているため、都度どのような福祉用具が必要あるか、サポートできるため。
認知症対応型共同生活介護(介護予防)	グループホーム中心に全国展開している為
介護老人福祉施設	歯科を通じて、フレイル予防に貢献する為
介護老人保健施設	歯科を通じて、フレイル予防に貢献する為
介護療養型医療施設	歯科を通じて、フレイル予防に貢献する為
居宅介護支援	・ケアマネの人数を増やしたい ・居宅介護支援事業所として入退職(入替)が激しい現状がある。人員的に現状維持が精いっぱいであり、いかに現状の規模を維持できるかが課題となっている。 ・現在休止中だから ・歯科を通じて、フレイル予防に貢献する為
介護予防通所型サービス	地域高齢者の自立支援と要介護化予防を図るため
移動支援に関するサービス(送迎の空き時間の活用や買い物支援など)	実際に通所施設に通われている方で、非常に困っているケースを目の当たりにしたから。
その他	・リハビリ、訪問看護の看護師、居宅介護支援のケアマネ人材不足により拡大していくのは現状難しい。常に募集は出し続けている ・金銭的、人材的にも新しい物を行う余裕が無いから。 ・現状として今後新たに展開する事業の予定ない。 ・今のまま地域に貢献したい。 ・市との契約で行っている業務だから ・時間と人手の不足 ・自立の入居者がおらずほぼ全員が要介護・要支援認定を受けているため。 ・食事面のサポートが難しい為、サービスと連動して配食も出来ると良いと考えている為。 ・人的余裕が無い ・調剤薬局ができることには限りがあるため ・不明なため ・報酬が低く経営が難しい ・本部の事業展開に則して対応いたします。 ・余裕がない

貴事業者がサービスを提供する上で困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

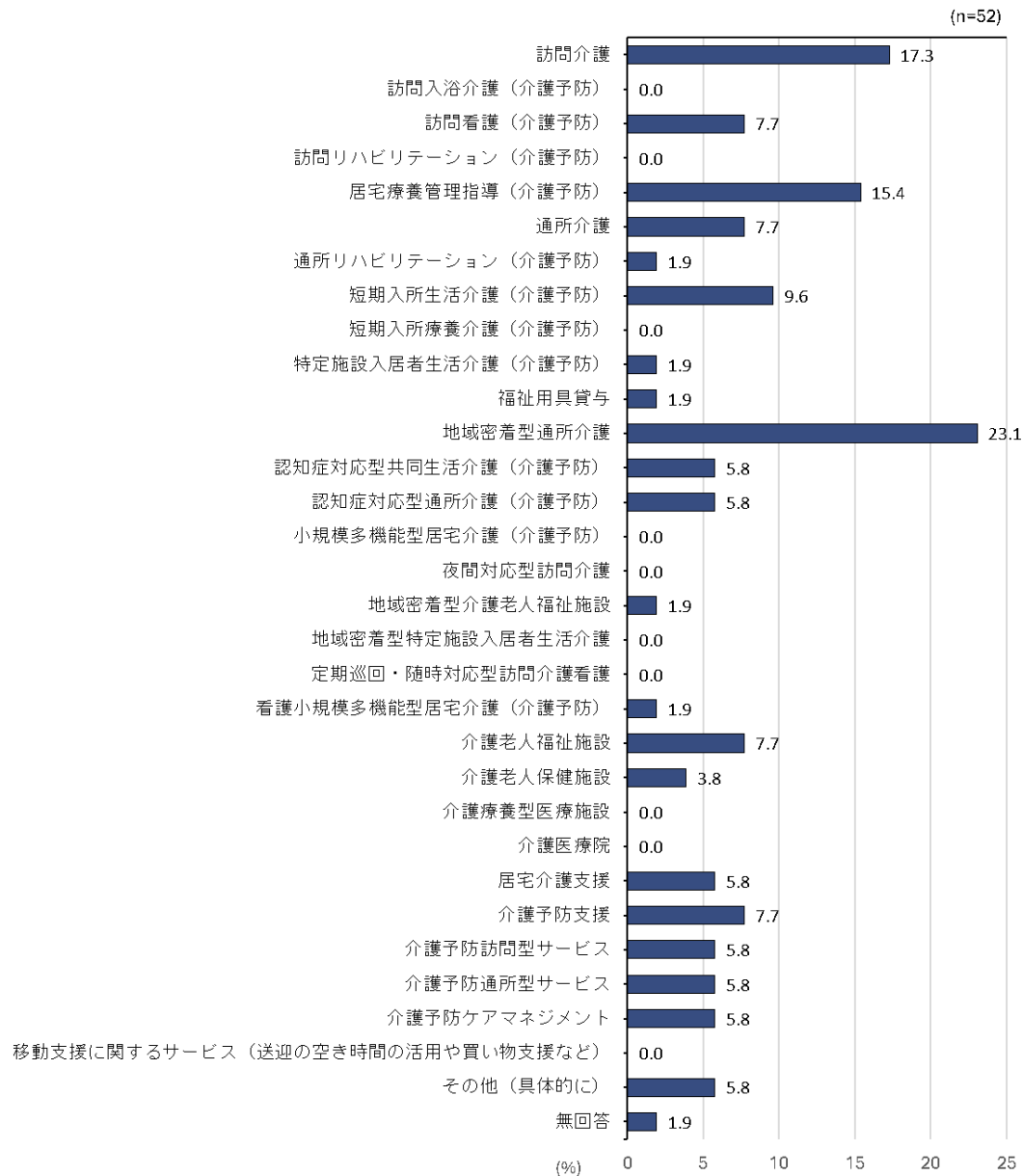
「マンパワーが不足している」が56.5%で最も高く、次いで「報酬が低すぎる」が51.1%となっている。その他、「経費がかかりすぎる」(17.4%)、「特に困っていない」(14.1%)が比較的高くなっている。



「マンパワーが不足している」を選択された方)不足しているのはどのサービスですか。また、どの職種ですか。(〇はいくつでも)

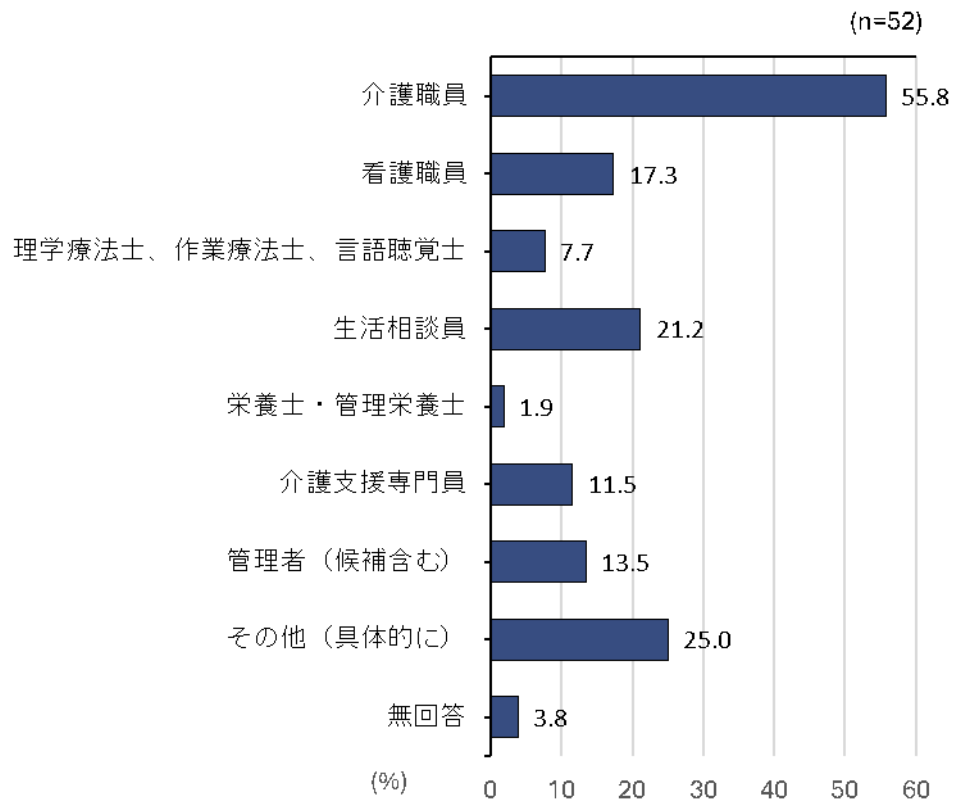
①マンパワーが不足しているサービス

「地域密着型通所介護」が23.1%で最も高く、次いで「訪問介護」が17.3%となっている。その他、「居宅療養管理指導(介護予防)」(15.4%)が比較的高くなっている。



②マンパワーが不足している職種

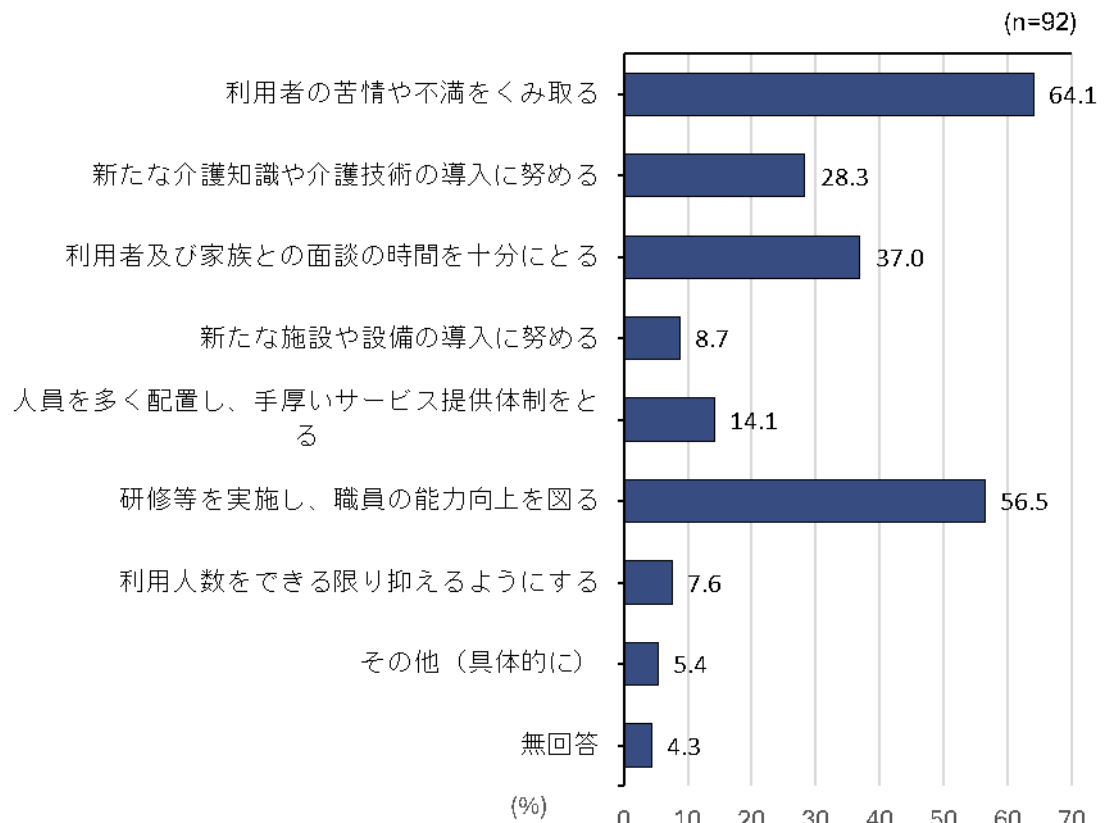
「介護職員」が55.8%で最も高く、次いで「生活相談員」が21.2%となっている。その他、「看護職員」(17.3%)が比較的高くなっている。



3. サービスの質の向上について

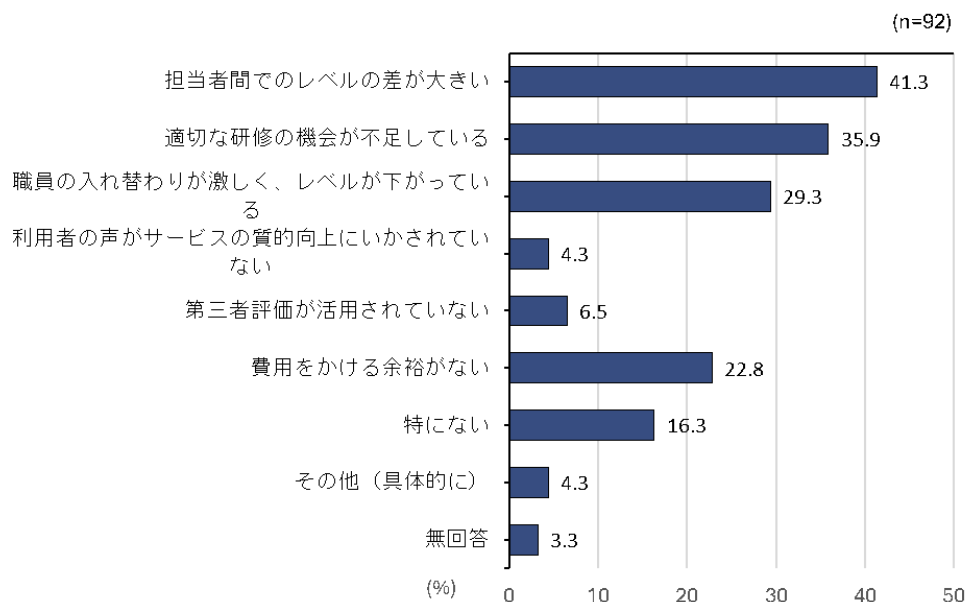
サービスの質を高めるために貴事業者が行っていることはどんなことですか。(○はいくつでも)

「利用者の苦情や不満をくみ取る」が64.1%で最も高く、次いで「研修等を実施し、職員の能力向上を図る」が56.5%となっている。その他、「利用者及び家族との面談の時間を十分にとる」(37.0%)が比較的高くなっている。



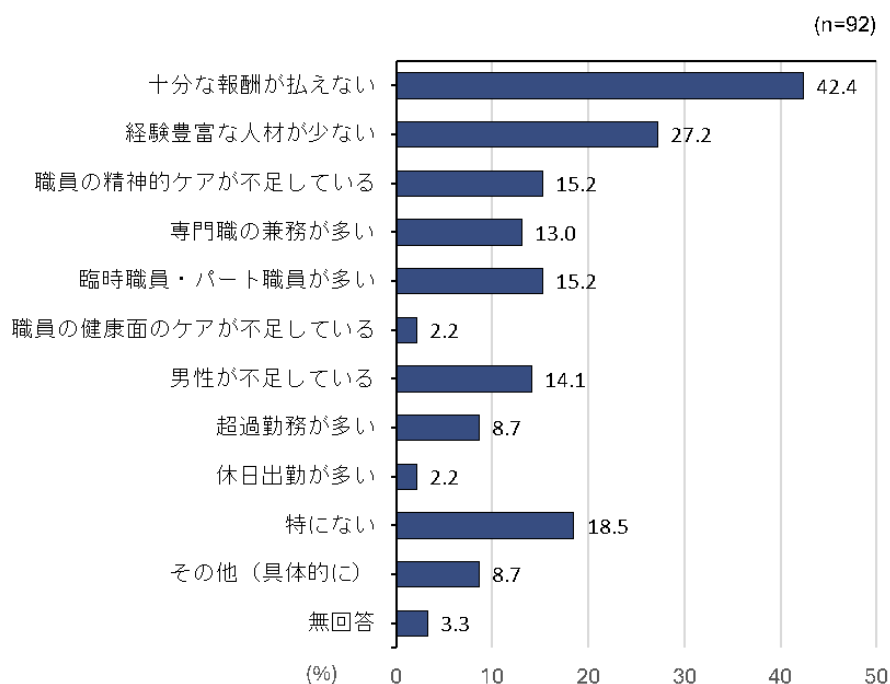
介護知識や介護技術などをレベルアップし、サービスの質的向上を図るうえでの課題は何だと思いますか。(○はいくつでも)

「担当者間でのレベルの差が大きい」が41.3%で最も高く、次いで「適切な研修の機会が不足している」が35.9%となっている。その他、「職員の入れ替わりが激しく、レベルが下がっている」(29.3%)が比較的高くなっている。



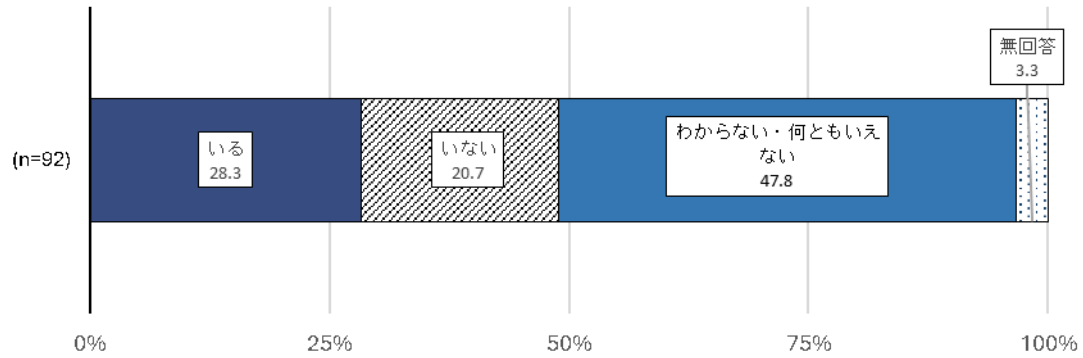
事業者における職員の雇用・勤務面での課題は何ですか。(○はいくつでも)

「十分な報酬が払えない」が42.4%で最も高く、次いで「経験豊富な人材が少ない」が27.2%となっている。その他、「特にない」(18.5%)が比較的高くなっている。



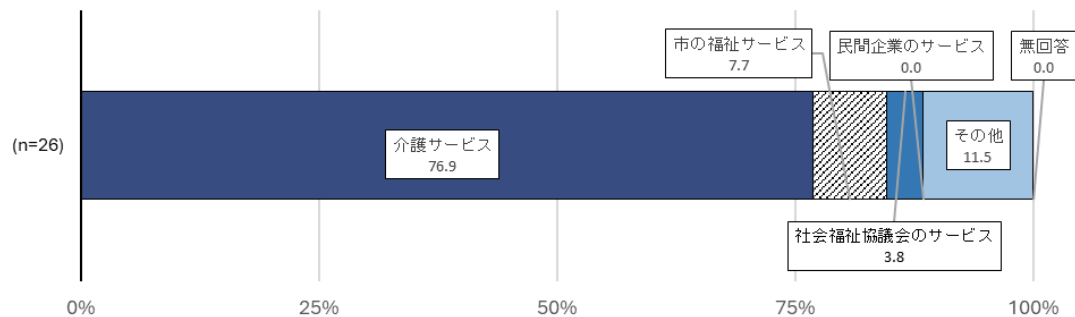
貴事業者がサービスを提供したり利用者から声を聞く中で、支援が必要であるにもかかわらず、福祉サービスの利用に結びついていない高齢者はいますか。

「わからない・何ともいえない」が47.8%で最も高く、次いで「いる」が28.3%となっている。



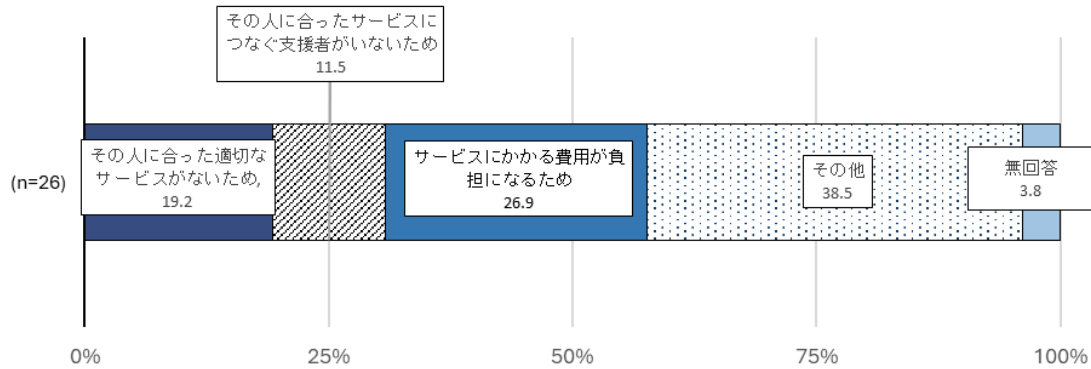
(「いる」を選択された方) 結びついていないサービスは次のうちどれですか。

「介護サービス」が76.9%で最も高く、次いで「市の福祉サービス」が7.7%となっている。



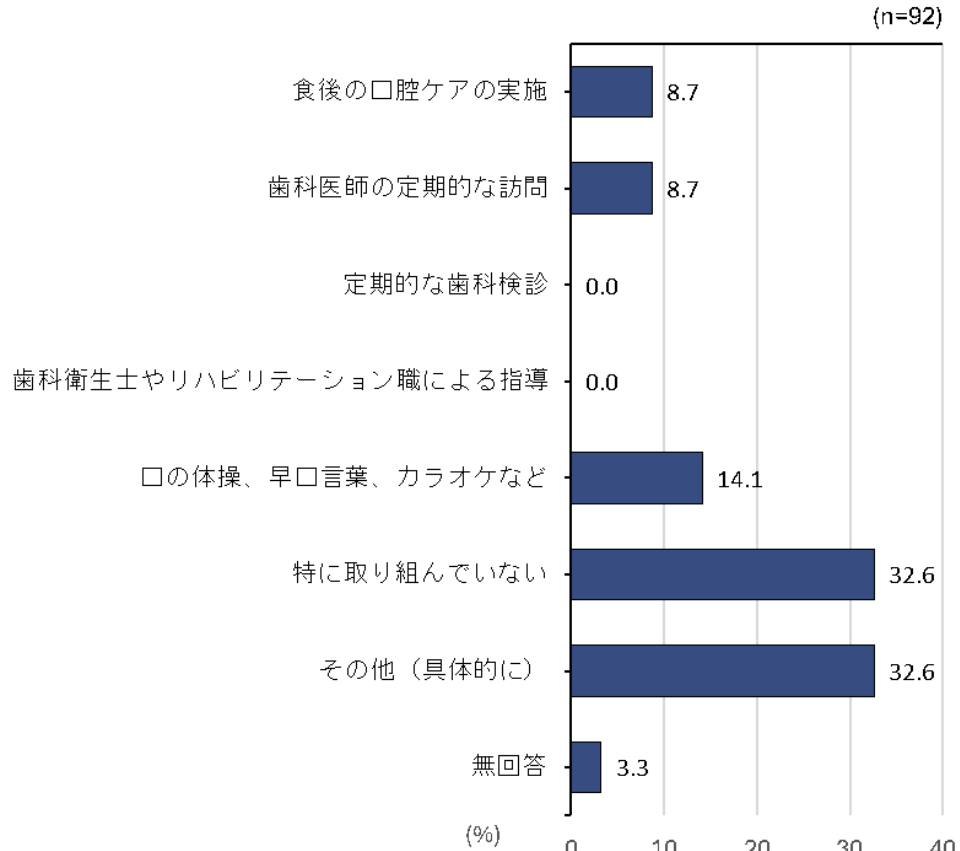
（「いる」を選択された方）結びついていない理由は次のうちどれですか。

「サービスにかかる費用が負担になるため」が 26.9%と最も高く、次いで「その人に合った適切なサービスがないため」が 19.2%となっている。



貴事業者は、歯や口腔の健康づくりについて、どのようなことに取り組んでいますか。

「特に取り組んでいない」が 32.6%で最も高く、次いで「口の体操、早口言葉、カラオケなど」が 14.1%となっている。



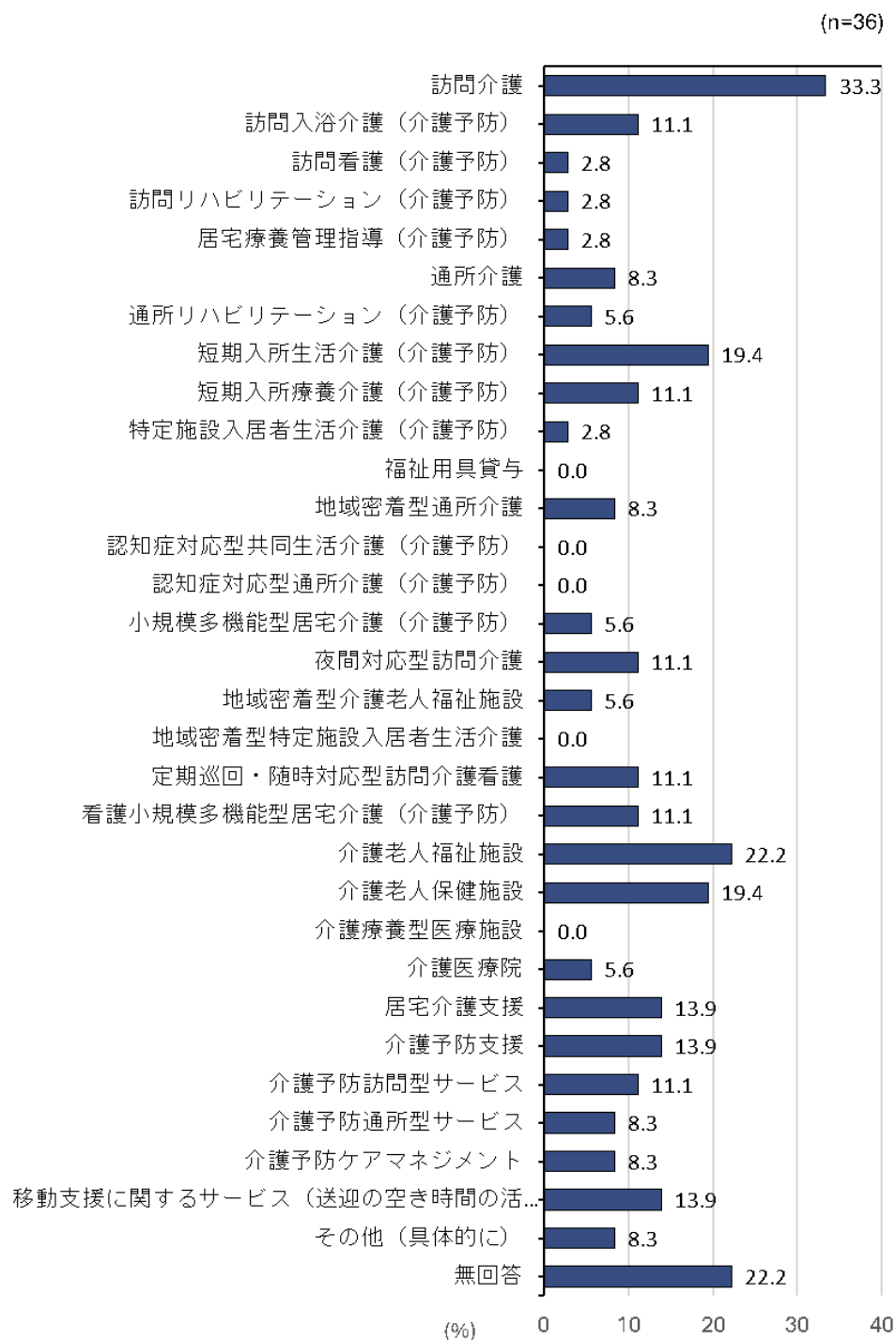
貴事業者では、利用者からどのような声をよく聞きますか。

- 運動の必要性や、自宅でできる運動等。
- 感謝の言葉が多い。
- 独居の方は非常に多く、通所サービス・訪問介護等のサービスを受けていても、生活自体は成り立っているが、心のケア(さみしさ、充実感の欠如)はなかなか埋まらない。近親者もなかなか来れない状況の方が多くいる。
- 事業所単位では聞いたことがない
- 最近の利用者家族もテレビでのニュースで情報を得ていることもあり、ケアマネジャーに対する「シャドーワーク」の問題が認識され始めていると感じる。ケアマネジャーのシャドーワーク問題が認知されるようになれば、医療機関や介護サービス事業所も含めて、雑用的なことをケアマネジャーに依頼してくることも少なくなってくるのではないかと。
- 感謝の言葉を多くいただきますが、サービスとしてまだまだいろいろできるため、薬局ができるサービスをもっと周知したいです。≡患者様が薬局がどういうサービスができるか理解していない
- 感謝の言葉をいただいている。「こんなにやってもらって(サービス)ありがとうございます。」
- 一人暮らしだからデイサービスでみんなとお話できるのが嬉しい。
- 一人暮らしで昼食、夕食を食べて帰ることができて安心。
- 利用者は認知症が進行して意思疎通が困難な方が多い。施設入居者の家族に訪問歯科診療の希望を確認してから行っている
- 楽しい
- 庭の手入れ、ペットの世話、窓掃除
- 訪問看護なのに、ここまでしてくれて助かると言ったお声を頂いております。
- サービスの空きがない
- タクシー券が欲しい。何かあった時、すぐに入れる施設はないか、美味しい配食サービスはないか。
- ”リハビリをもっとやりたいという声はよく聞く。リハビリのセラピストの介入はもちろん、介護職もフロアリハビリを実施。それでも足りない部分があるが、レクの実施や日中の過ごし方の工夫により改善していきたい。
- 助かります。ありがとう。

4. ケアマネジメントについて(該当事業者のみ)

現在不足していると感じるサービスは何ですか。(〇はいくつでも)

「訪問介護」が 33.3%で最も高く、次いで「介護老人福祉施設」が 22.2%となっている。その他、「短期入所生活介護(介護予防)」(19.4%)、「介護老人保健施設」(19.4%)が比較的高くなっている。

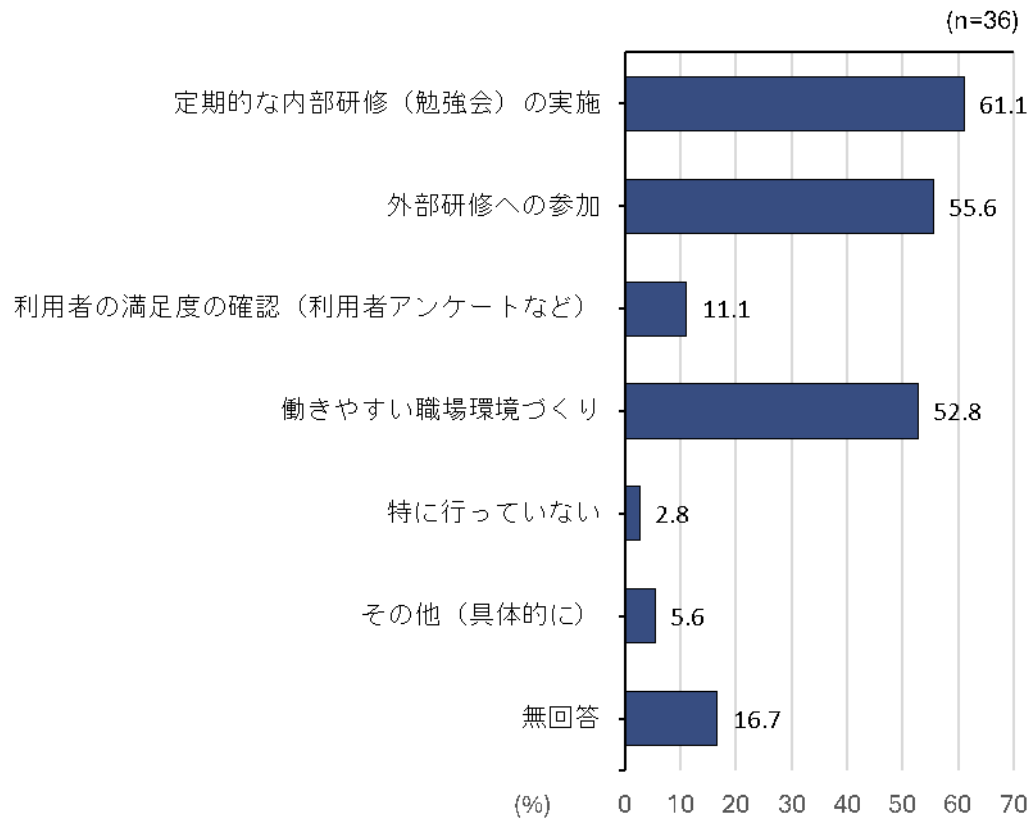


不足と感じている理由は何ですか。

- 受入を断られる。
- ショートステイ、ロングショートステイの空きがない。
- 介護老人福祉施設の空きが出ないためなかなか入所できない。
- 訪問入浴の事業所が市内に 3 事業所のみ。
- 働き方改革もあり、土日や時間帯によってヘルパーが不足。ヘルパーの高齢化や成り手不足もあり、依頼しても断られるケースが増えている。
- 通所リハ・市内通所リハが2か所しかなく選択肢が少ない。
- 夜間対応が大変で、在宅での生活を希望している人が疲れている。
- PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)がいない。OT、ST の充実で在宅生活が続けられることも多い。
- 予防の方を受けてもらえないので依頼しても待つことがある。
- 受け入れがない事業所があり、決まるまで利用者は待たされる。
- 病院受診の同行サービス(送迎付き)が必要。高齢、認知症、独居で家族も仕事で多忙だと受診すること自体困難になりがち。通院できず、薬もないまま状態が悪化する恐れがある。
- 認知症で医師の話や薬のことを覚えていられない方は、同行者が必要だが、家族が対応できない場合、ケアマネが同行することがある(数時間かかるが、無報酬)。
- 介護予防訪問型サービスでは他市の事業所が習志野市へ登録(申請)をしていないと依頼できないため、選択肢が少なくなってしまう。予防の報酬が少なく、支援を受けない事業所が増えたから。
- 買い物支援などの場合、近くにスーパー等がなく、少し離れると時間に制限があるため、ヘルパー不足により行けない。
- 介護度にあった回数での利用ができない(要支 2 で週 2 回使えるはずでも、空きがない)
- 有料老人ホームは値段が高い。
- ケアマネ自体の応募がない。介護老人保健施設のケアマネはいるが、年齢層も高くなってきており、将来的に不安である。居宅は現在 3 名、最低でも 4 名体制にし、地域のニーズに応えられる体制を作りたい。

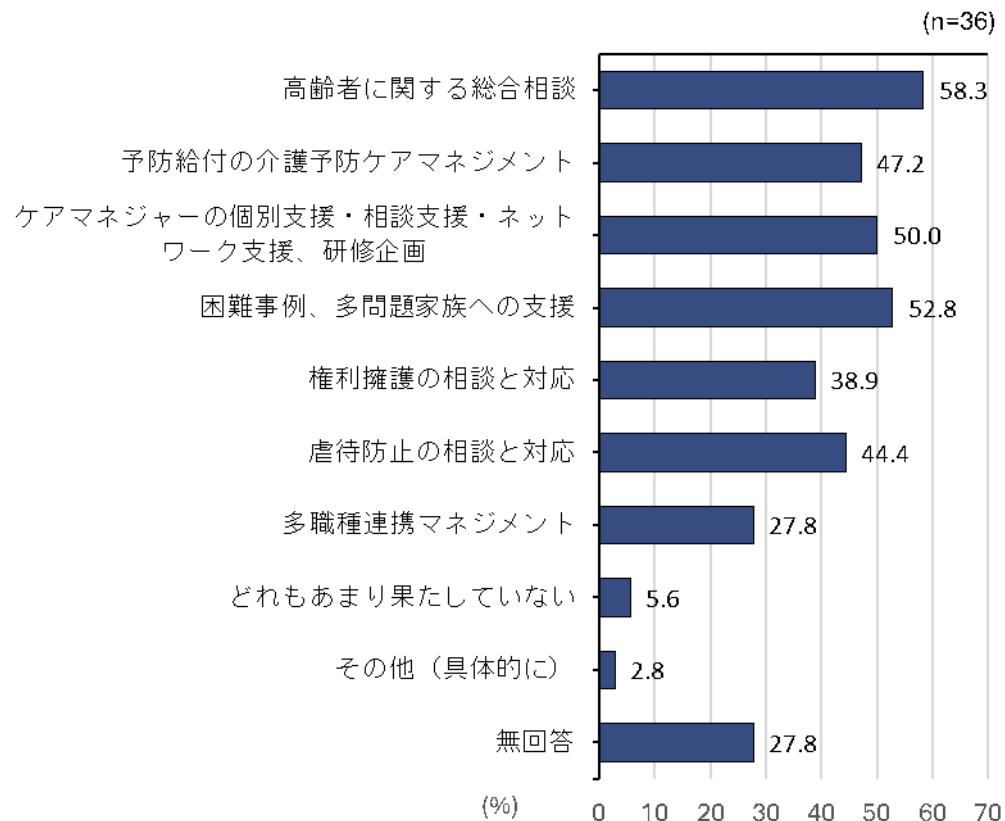
ケアマネジャーの質を高めるために行っていることは、どんなことですか。(〇はいくつでも)

「定期的な内部研修(勉強会)の実施」が61.1%で最も高く、次いで「外部研修への参加」が55.6%となっている。その他、「働きやすい職場環境づくり」(52.8%)が比較的高くなっている。



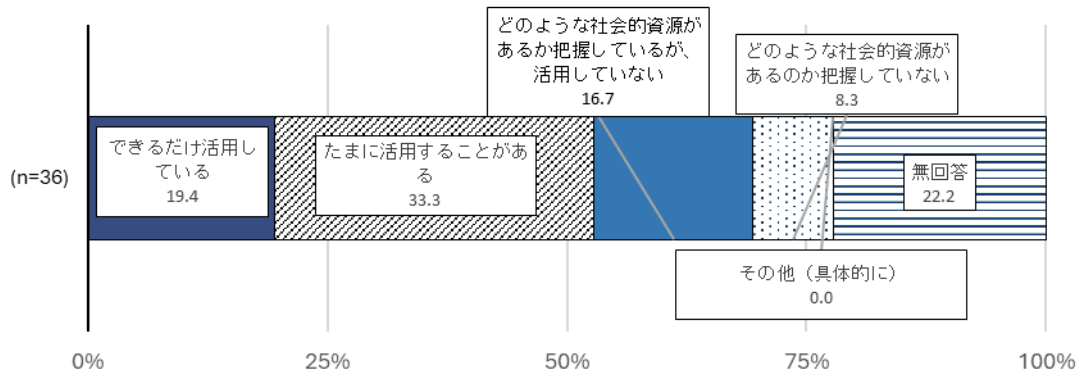
高齢者相談センター(地域包括支援センター)は、次のような役割を担っております。役割を果たしていると考えるものを選んでください。(〇はいくつでも)

「高齢者に関する総合相談」が58.3%で最も高く、次いで「困難事例、多問題家族への支援」が52.8%となっている。その他、「ケアマネジャーの個別支援・相談支援・ネットワーク支援、研修企画」(50.0%)、「予防給付の介護予防ケアマネジメント」(47.2%)、「虐待防止の相談と対応」(44.4%)が比較的高くなっている。



ケアプランを作成する際に、インフォーマルなサービスを活用して立っていますか。

「たまに活用することがある」が33.3%で最も高く、次いで「できるだけ活用している」が19.4%となっている。

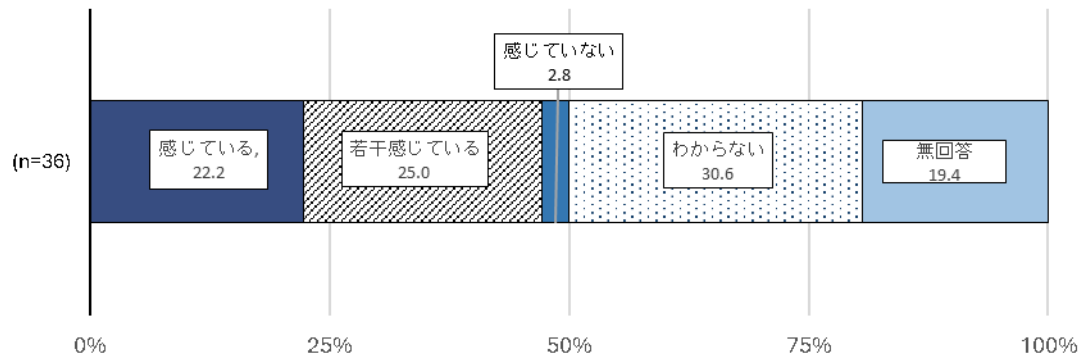


（「できるだけ活用」または「たまに活用」を選択された方）活用した／しているのはどのようなインフォーマルサービスですか。

- ☐ ワンコインサービスや傾聴ボランティアなど
- ☐ 日常生活自立支援事業、社協の外出支援（無料）
- ☐ 訪問理容
- ☐ 介護保険外の福祉要員、訪問介護
- ☐ 高齢者の集いの場
- ☐ 高齢者の体操
- ☐ ゴミ収集事業
- ☐ オムツ給付
- ☐ 介護タクシー
- ☐ 地域の見守り（配食サービス、新聞配達 etc.）、安否確認
- ☐ 家族、社会資源
- ☐ 近隣住民との協働
- ☐ 戸口収集、保険外のマッサージ
- ☐ 訪問マッサージ等
- ☐ 知人、友人、民生委員・地域の体操教室
- ☐ 緊急通報装置 福祉電話
- ☐ 自費ヘルパー、病院受診の送迎

他事業所のケアマネジャーについて、ケアマネジャーの対応に差があると感じていますか。

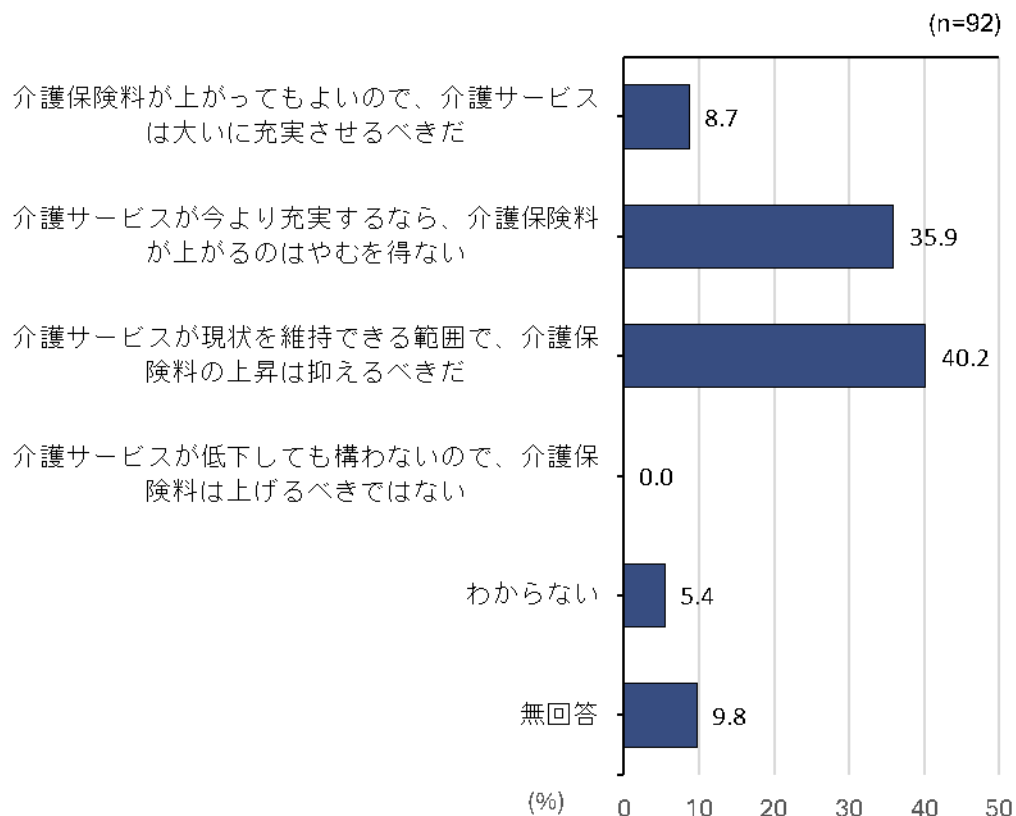
「わからない」が 30.6%で最も高く、次いで「若干感じている」が 25.0%となっている。



5. 今後の高齢者介護について

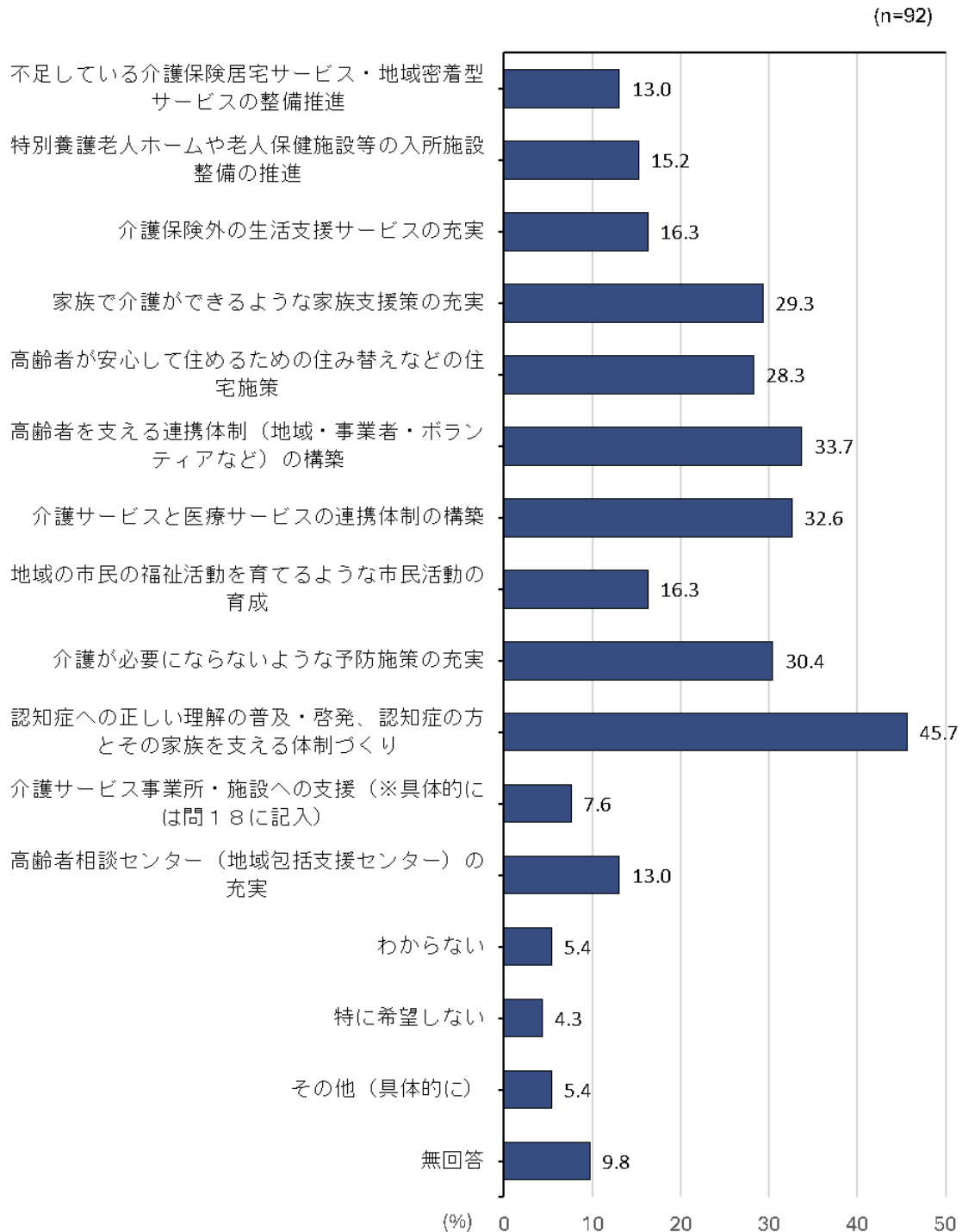
介護保険は急速に利用が増え、現状のまま伸びていくと、将来の介護保険料は現在よりかなり高額になることが予測されます。介護サービスの維持・充実と介護保険料のバランスについて、どう考えますか。

「介護サービスが現状を維持できる範囲で、介護保険料の上昇は抑えるべきだ」が40.2%で最も高く、次いで「介護サービスが今より充実するなら、介護保険料が上がるのはやむを得ない」が35.9%となっている。



高齢者への介護サービスの充実のため、行政にどのようなことを希望しますか。(○はいくつでも)

「認知症への正しい理解の普及・啓発、認知症の方とその家族を支える体制づくり」が45.7%で最も高く、次いで「高齢者を支える連携体制(地域・事業者・ボランティアなど)の構築」が33.7%となっている。その他、「介護サービスと医療サービスの連携体制の構築」(32.6%)、「介護が必要にならないような予防施策の充実」(30.4%)、「家族で介護ができるような家族支援策の充実」(29.3%)、「高齢者が安心して住めるための住み替えなどの住宅施策」(28.3%)が比較的高くなっている。



6. ご意見・ご要望

貴事業者は、自治体にどのような支援をしてほしいですか。

①人材・人手不足

- ・ 人手不足の解消のため、給与が安定するとよく、医療と同様に必要な分野として介護への関心を高める必要がある。
- ・ 給与は増えない一方で業務量が増加しており、介護職の負担が大きくなっている。
- ・ 離職率が高く、人間関係や事業所方針への不一致などが影響している。
- ・ 人材確保と育成により、質の高いサービス提供を維持・向上させる必要がある。
- ・ 介護予防や自立支援を進めるためには、職員の確保と定着が不可欠である。
- ・ 福祉体験の機会や資格取得支援、移住支援など人材確保につながる施策が必要である。
- ・ 人材不足や財源の状況から、現状の介護保険サービスの維持が難しいと感じる。

②介護保険制度について

- ・ 制度が将来にわたり継続できるよう、公平性や自立支援を重視した見直しが必要である。
- ・ 必要な人に必要なサービスを提供できる制度とし、利用者のニーズに応じた選択が可能となるようにする必要がある。
- ・ 要支援のまま介護度が変わらず、サービス量を増やせないケースがある。
- ・ 財源制約の中で制度運営が難しく、公正中立な支援のあり方が求められる。
- ・ 今後の制度改正が事業所経営に大きな影響を与えると考えられる。
- ・ 介護保険を利用しない人への保険料減額制度の検討が必要である。

③サービス提供体制

- ・ 事業所間の横の連携が取りづらく、連携を支援する仕組みが必要である。
- ・ 医療から介護への引き継ぎ時に、医療側の制度理解が不十分な場合がある。
- ・ サービス終了後の利用者の引継ぎやフォロー体制に課題がある。
- ・ 職場環境が良好であることが、利用者へのサービスにも影響すると考えられる。
- ・ 事業所の大規模化により人件費を確保し、マンパワーを維持して安定したサービス提供にかなげる必要がある。
- ・ サービスの維持が難しくなっており、過剰なサービスの見直しも必要である。
- ・ 医療依存度の高い利用者が増え、老健の運営が厳しくなっている。
- ・ 加算取得のための書類業務が多く、業務負担に見合っていない。
- ・ ケアマネジャーのシャドーワークが課題とされているが十分に解消されていない。

④利用者の経済的負担

- ・ 単位数の上限により自費負担が発生しているケースがある。
- ・ 利用者の生活費負担が増加しており、これ以上の自己負担増は困難な状況である。
- ・ 低所得者に対する通院介助などの支援が不足している。
- ・ 自治体による運営費や処遇改善の補助制度の導入が必要である。
- ・ 独居高齢者の増加を見据え、金銭管理や保証サービスを含めた支援が必要である。

⑤情報提供・理解促進

- ・ 介護サービスの利用方法や制度への理解が十分でない利用者がある。
- ・ 有償ボランティアの仕組みが理解しづらく、内容が分かりにくい。

⑥予防・自立支援

- ・ 介護度の維持・改善を進めることが介護費の増加抑制につながると考えられる。
- ・ 認知症は予防段階での介入が重要であり、早期対応が必要である。

第Ⅱ部 総括・整理

第7章 生活機能等の状況(一般高齢者、在宅要支援認定者・事業対象者調査結果より)

本章では、一般高齢者及び要支援者・事業対象者への調査結果を基に、日常生活における生活機能や社会参加の状況を把握するとともに圏域ごとにその傾向を整理している。

1. 生活機能

(1) 運動器の機能低下

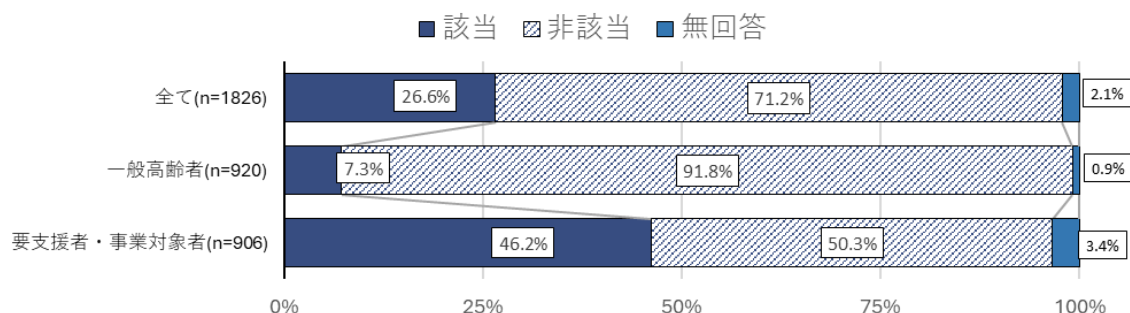
国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、5 項目のうち 3 項目に該当する人を「運動器の機能低下」のリスク該当者として整理した。

【判定設問】

設問	該当する選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
15 分位続けて歩いていますか	できない
過去 1 年間に転んだ経験がありますか	何度もある 1 度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である やや不安である

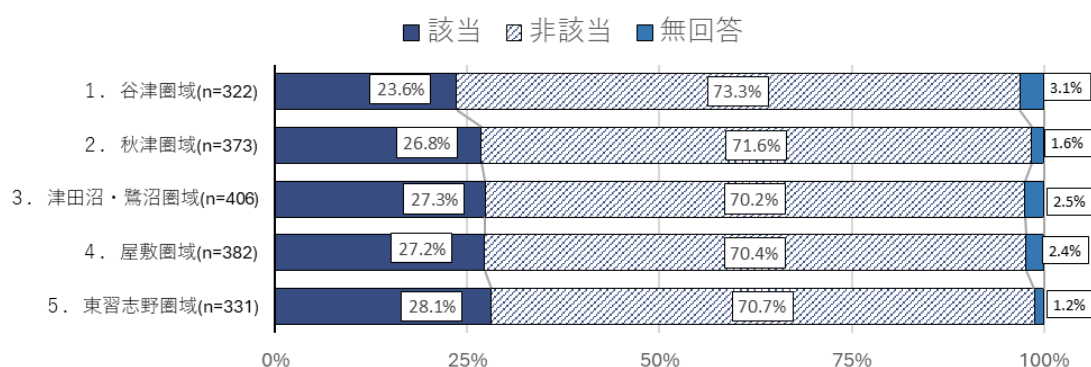
【調査区分別】

「運動器の機能低下」のリスク該当者は、全体で26.6%となっている。調査区分別に見ると、要支援者・事業対象者が46.2%と、一般高齢者よりも38.9ポイント高い。



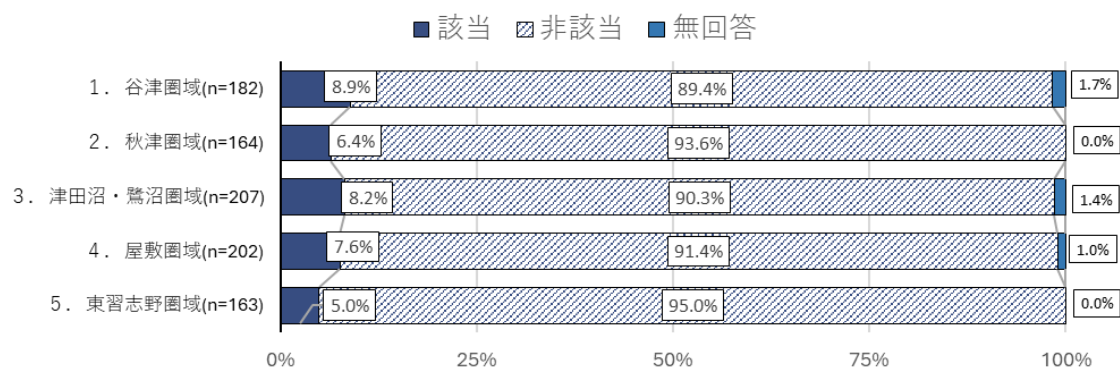
【圏域別】

圏域別で見ると、谷津圏域がわずかに低いものの、いずれの圏域も大きな差はみられない。



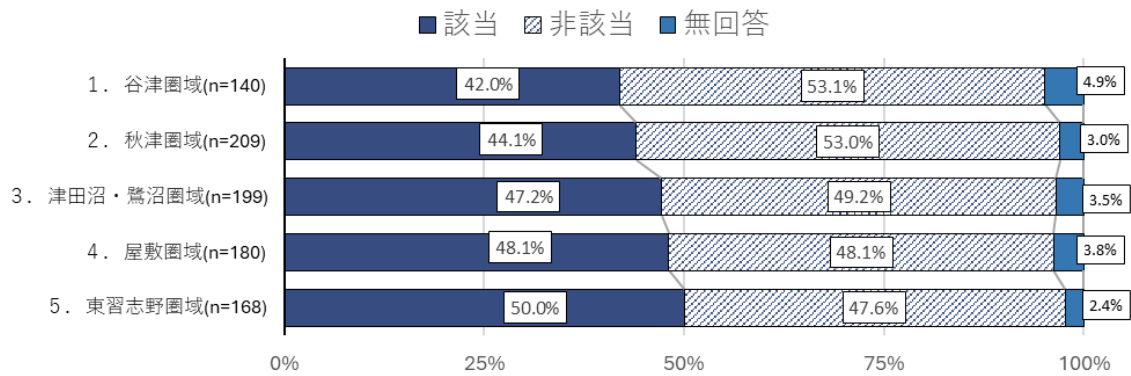
■一般高齢者

一般高齢者を圏域ごとに見ると、該当者はいずれの圏域でも1割弱である。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、東習志野圏域で該当者の割合がやや高い。



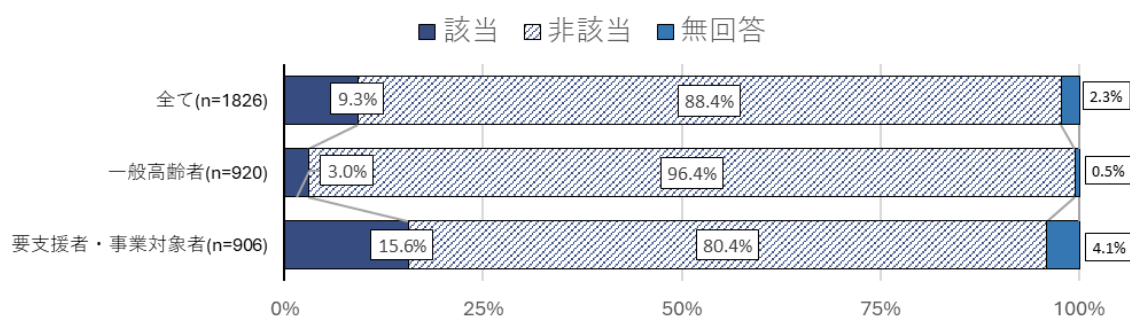
(2) 閉じこもり傾向

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を閉じこもり傾向のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない 週1回
令和6年と比べて外出の回数が減っていますか	とても減っている 減っている

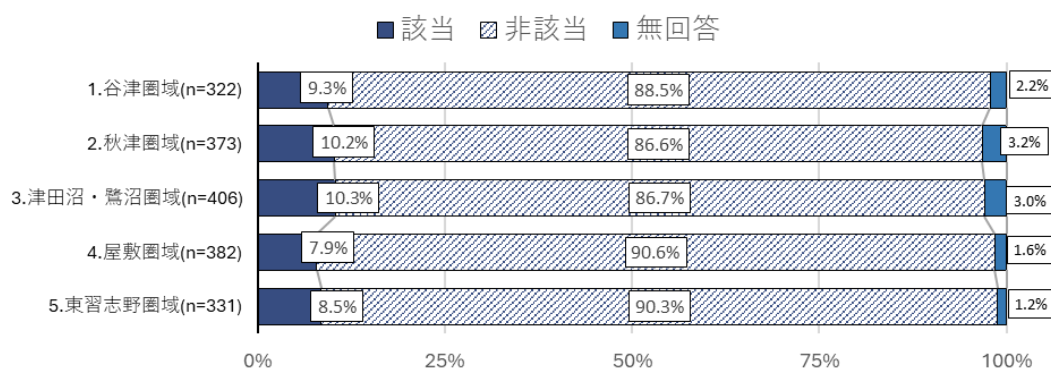
【調査区分別】

調査区分別に見ると、要支援者・事業対象者で該当者の割合が高く、15.6%となっている。



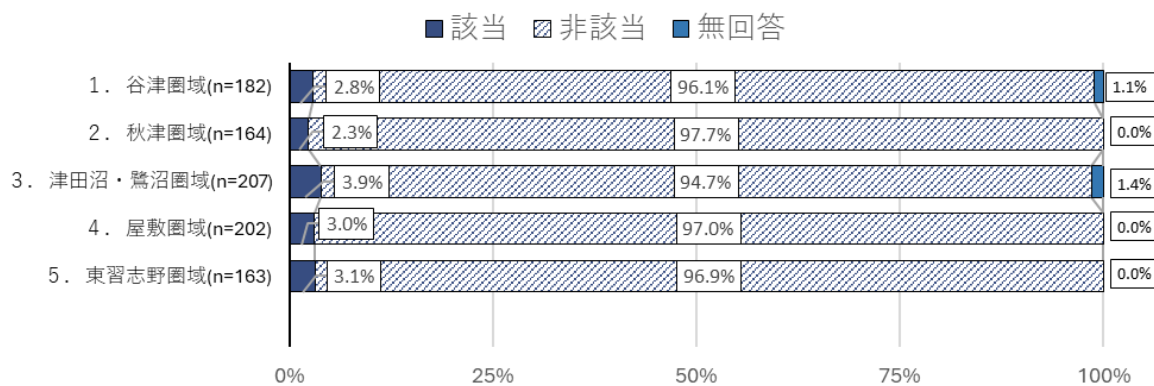
【圏域別】

全体的には、圏域ごとの大きな差はない。



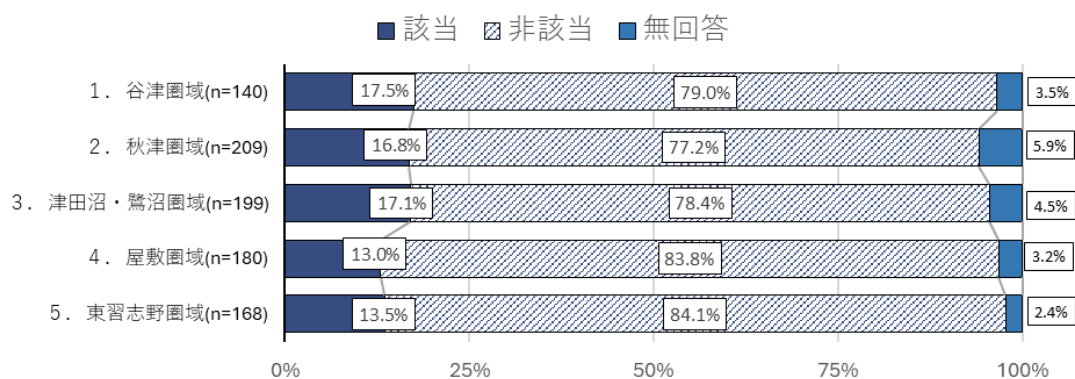
■一般高齢者

一般高齢者の該当者を圏域ごとに見ると、圏域ごとの大きな差はなく、全体的に 3%前後に収まっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者の該当者を圏域ごとに見ると、谷津、秋津、津田沼・鷺沼圏域の該当者の割合が17%前後とわずかに高い。



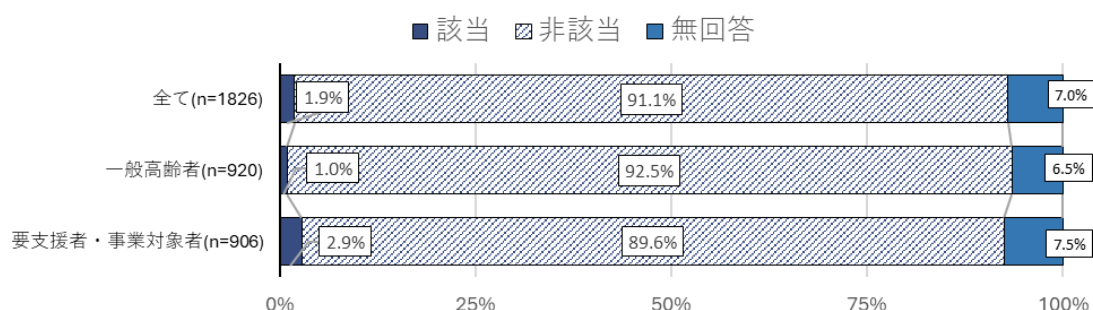
(3) 低栄養の傾向

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、2項目ともに該当する人を「低栄養傾向」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
身長・体重をご記入ください。	BMI18.5 未満
6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	はい

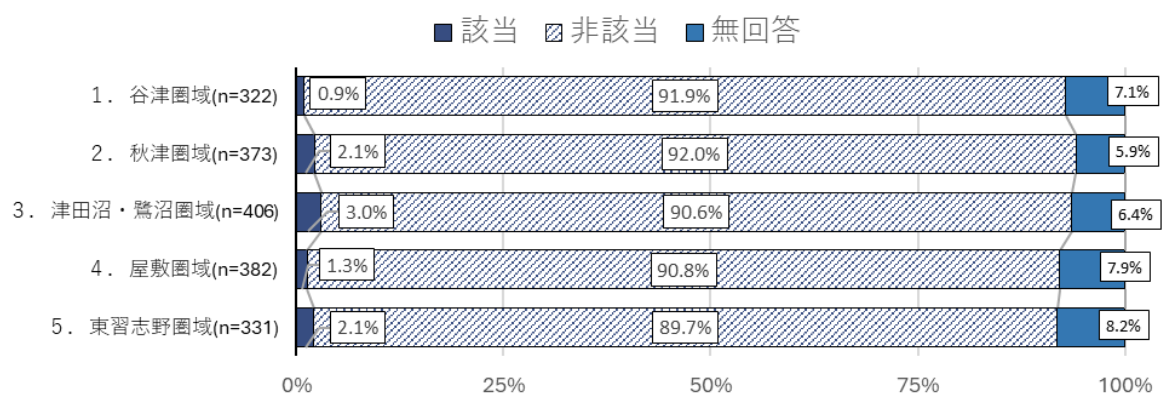
【調査区分別】

全体で見ると、低栄養の該当者は 1.9%となっている。区分ごとの大きな差は見られない。



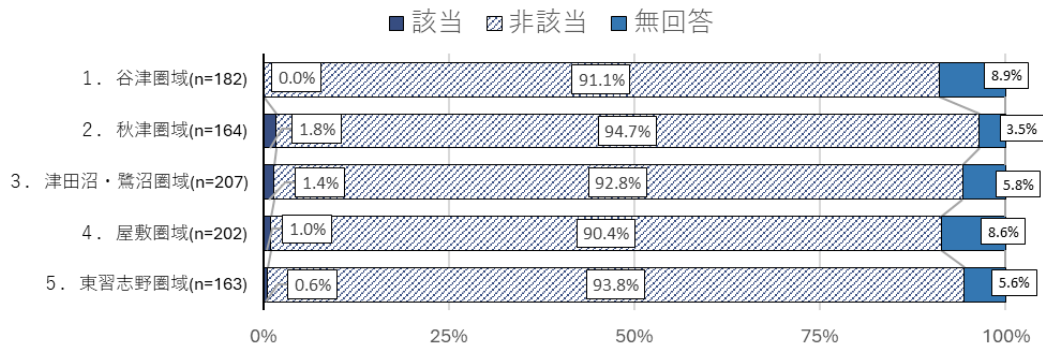
【圏域別】

圏域ごとでの大きな差は見られない。



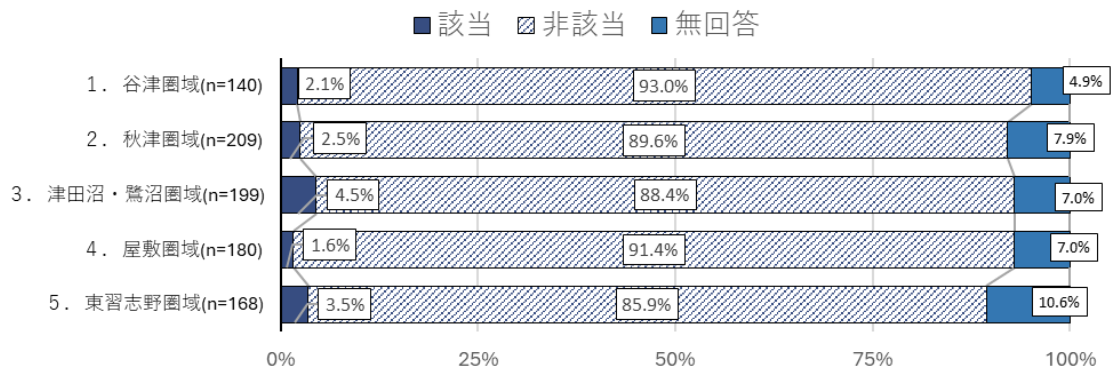
■一般高齢者

圏域ごとでの大きな差は見られず、該当者は2%以内に収まっている。



■要支援者・事業対象者

圏域ごとでの大きな差は見られず、該当者は5%以内に収まっている。



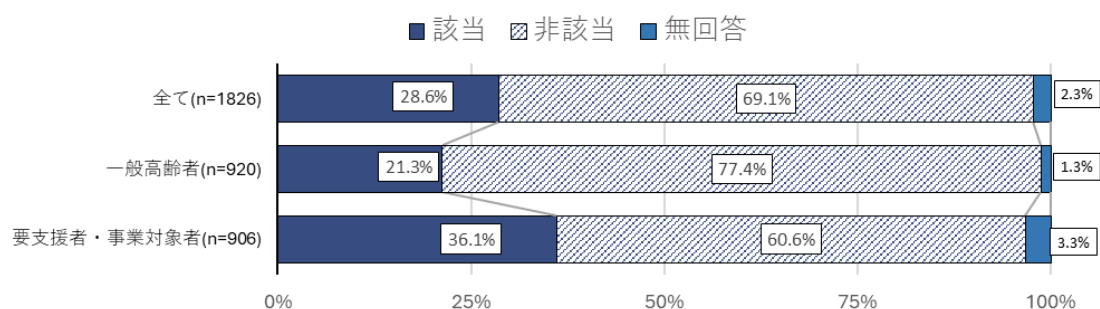
(4) 口腔機能の低下

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を「口腔機能低下」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
口の渇きが気になりますか	はい

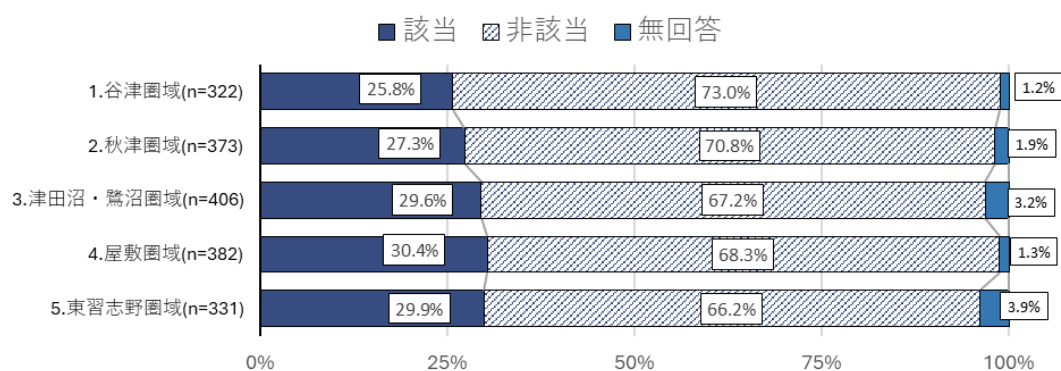
【調査区分別】

全体で見ると、該当者の割合は3割未満だが、調査区分ごとに見ると、要支援者・事業対象者では該当者の割合が36.1%と高くなっている。



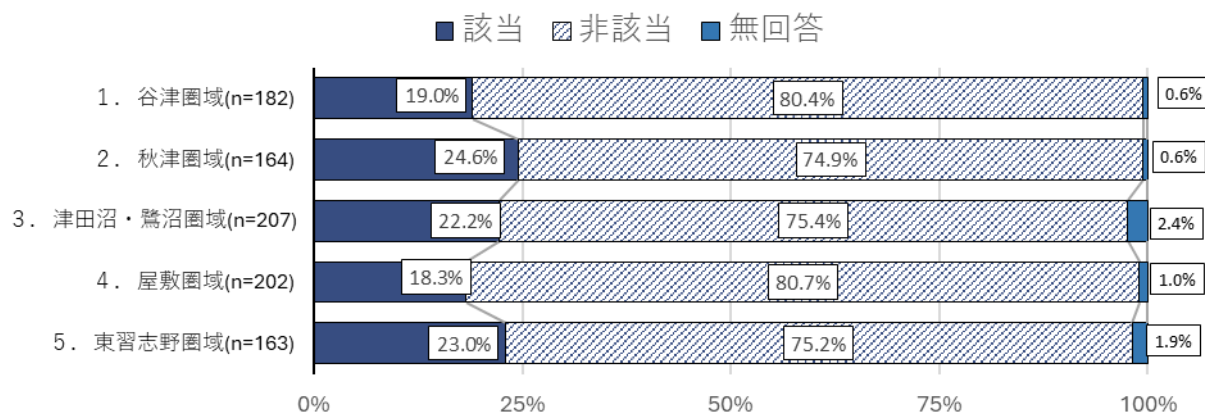
【圏域別】

圏域ごとに見ると、該当者の割合は谷津圏域においてわずかに低いものの、いずれの圏域も3割程度となっている。



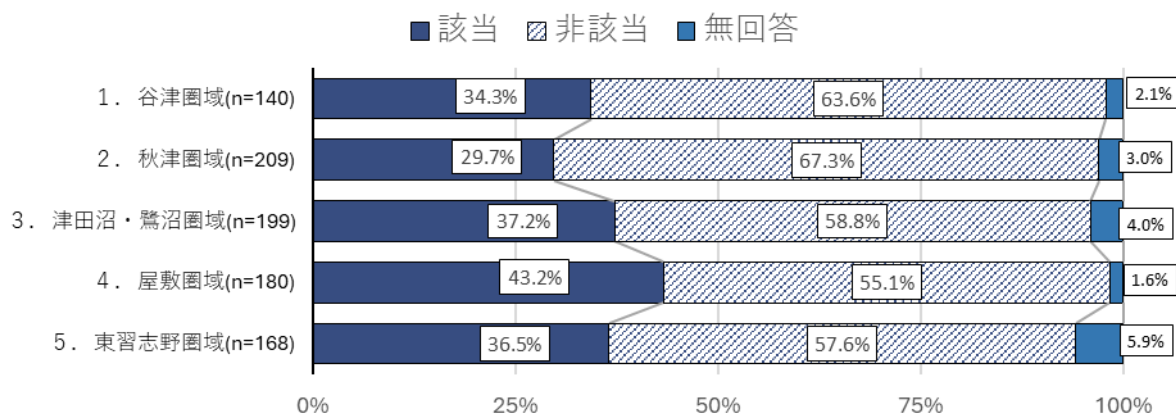
■一般高齢者

一般高齢者の該当者を圏域ごとに見ると、大きな差は見られないが、秋津、東習志野、津田沼・鷺沼圏域がわずかに高い。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、該当者の割合はそれぞれ3割～4割程度と大差はないものの、屋敷圏域が比較的高い。



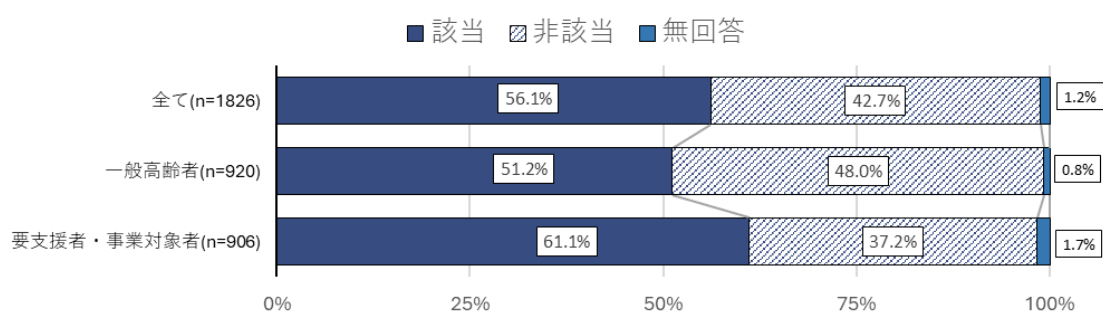
(5) 認知機能の低下

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち1項目以上に該当する人を「認知機能の低下」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
物忘れが多いと感じますか	はい
自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	いいえ
今日が何月何日かわからない時がありますか	はい

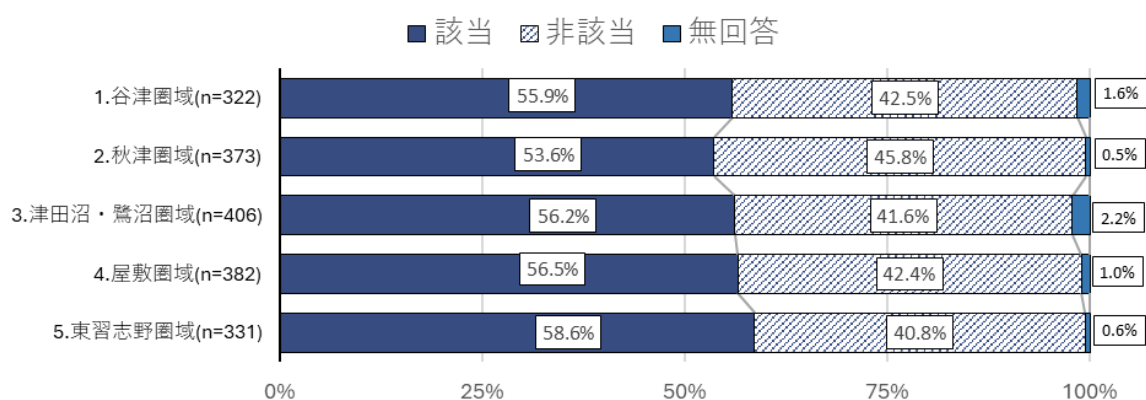
【調査区分別】

全体で見ると、半数以上が該当者である。また、調査区分ごとに見ると要支援者・事業対象者で6割以上が該当者である。



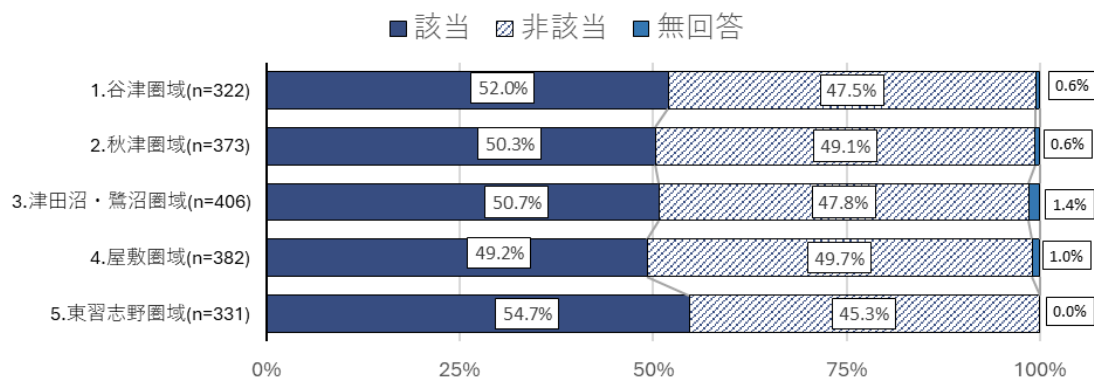
【圏域ごと】

圏域ごとでの大きな差は見られない。



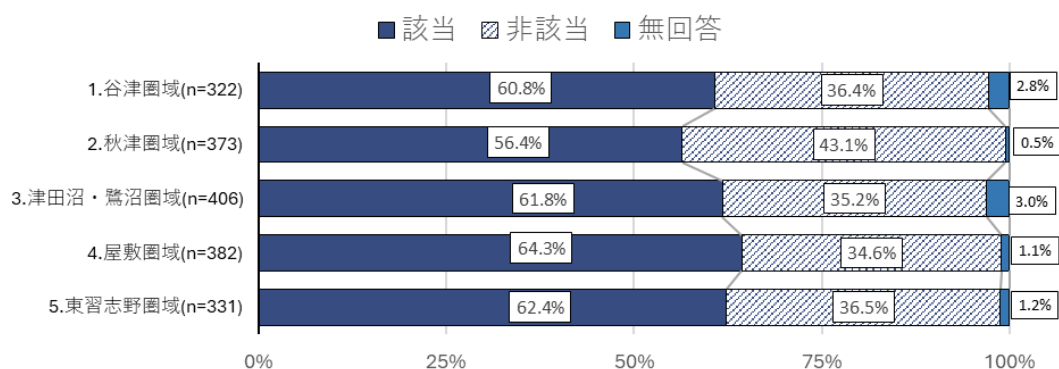
■一般高齢者

一般高齢者を圏域ごとに見ると、東習志野圏域の該当者の割合が54.7%とわずかに高くなっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者の該当者を圏域ごとに見ると、屋敷圏域が64.3%とわずかに高くなっている。



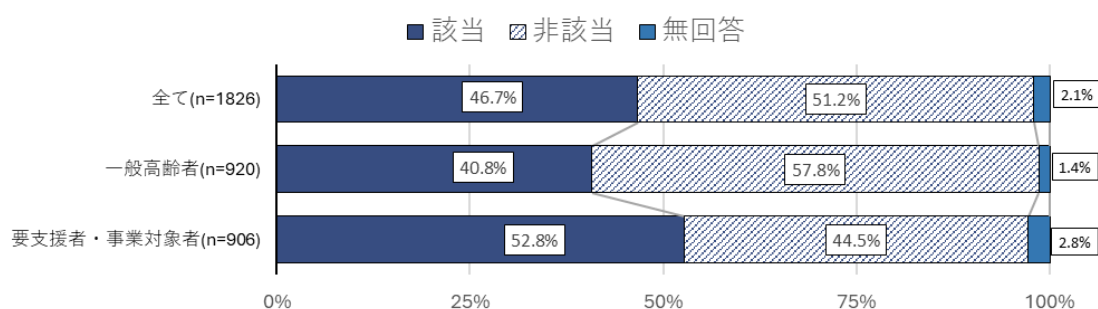
(6) うつ傾向

国の手引きに基づき、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のいずれかに該当する人を「うつ傾向」のリスク該当者として整理した。

設問	該当する選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい

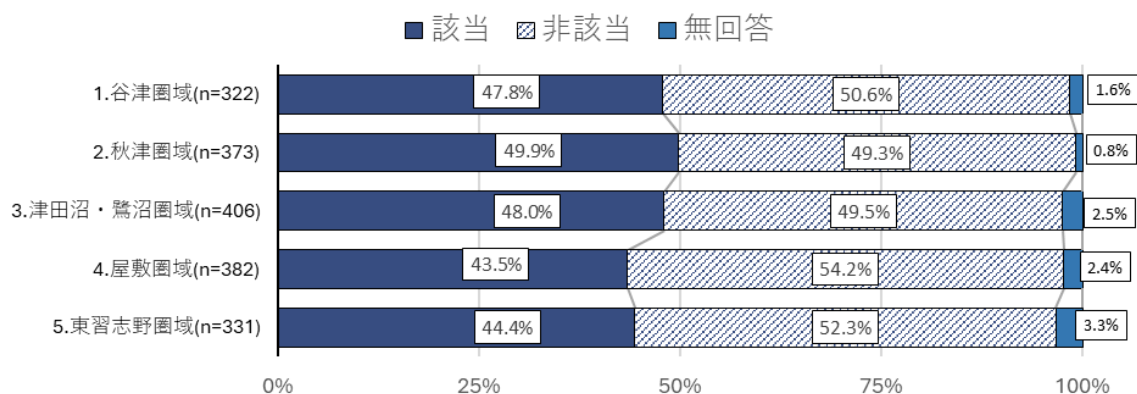
【調査区分別】

全体で見ると、該当者の割合は46.7%だが、要支援者・事業対象者においては52.8%と6.1ポイント高い。



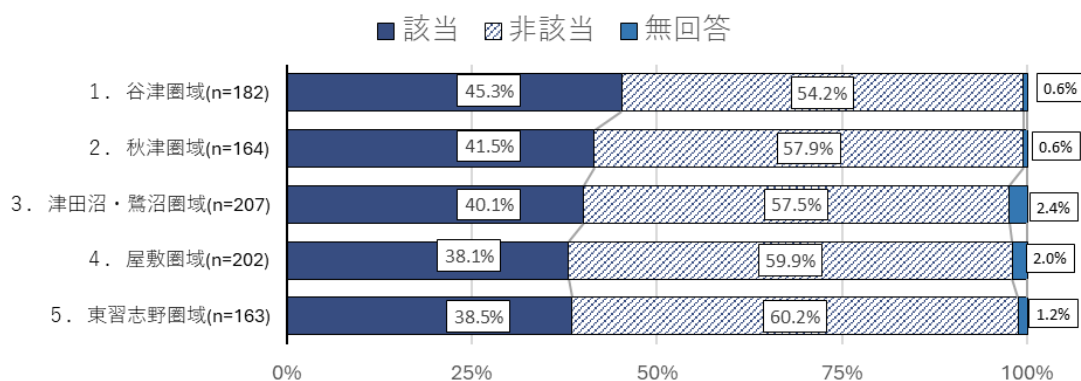
【圏域別】

圏域別に見ると、秋津圏域の該当者の割合が49.9%とわずかに高くなっている。



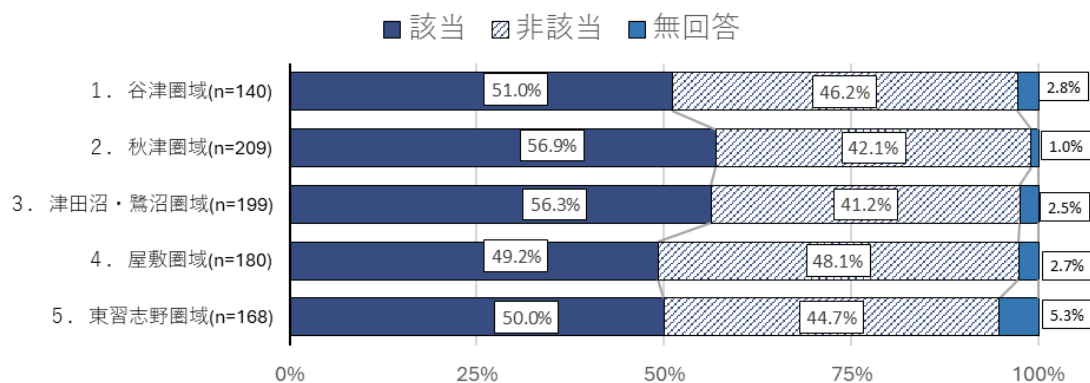
■一般高齢者

一般高齢者の該当者を圏域ごとに見ると、それぞれ 40%前後となっており、谷津圏域がわずかに高い。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、該当者の割合が秋津圏域で 56.9%、津田沼・鷺沼圏域で 56.3%とやや高くなっている。



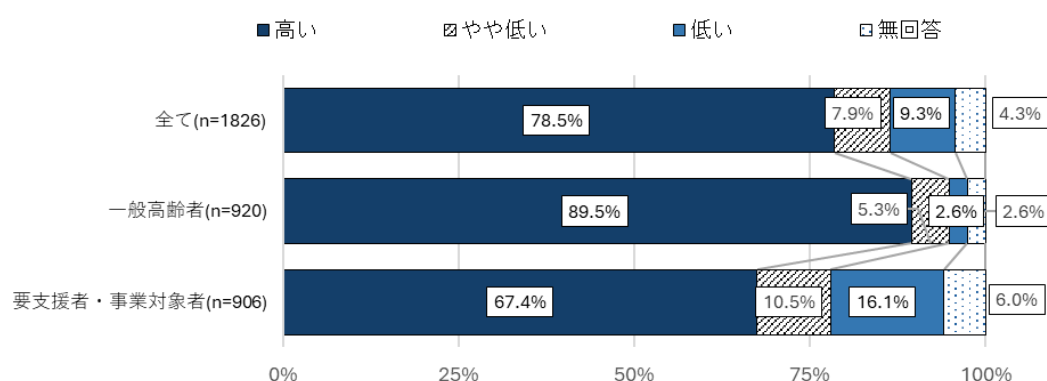
2. 手段的自立度(IADL)

老研式活動能力指標に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力(手段的自立度:IADL)が低下している人の状況を把握する。評価は、以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価し、整理した。

設問	該当する選択肢
バスや電車を使って1人で外出していますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で食品・日用品の買い物をしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で食事の用意をしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で請求書の支払いをしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)
自分で預貯金の出し入れをしていますか	できるし、している(1点) できるけどしていない(1点)

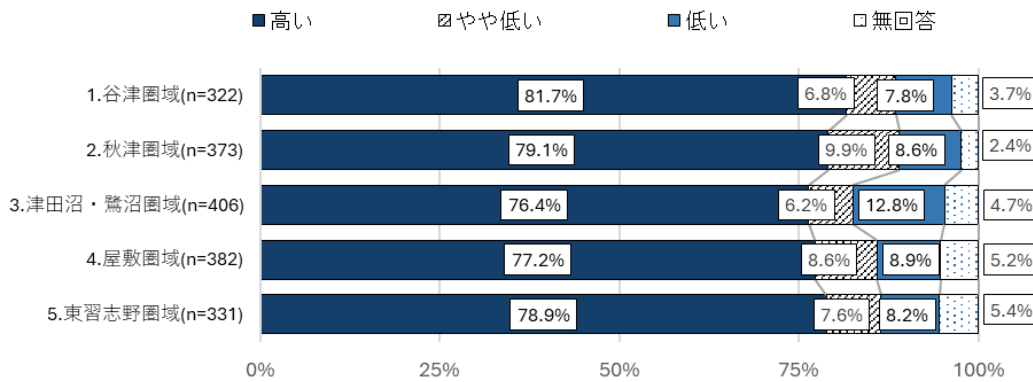
【調査区分別】

全体で見ると低下者(「やや低い」「低い」の計)の割合は17.2%となっている。調査区分ごとに見ると、要支援者・事業対象者で低下者の割合が26.6%と高くなっている。



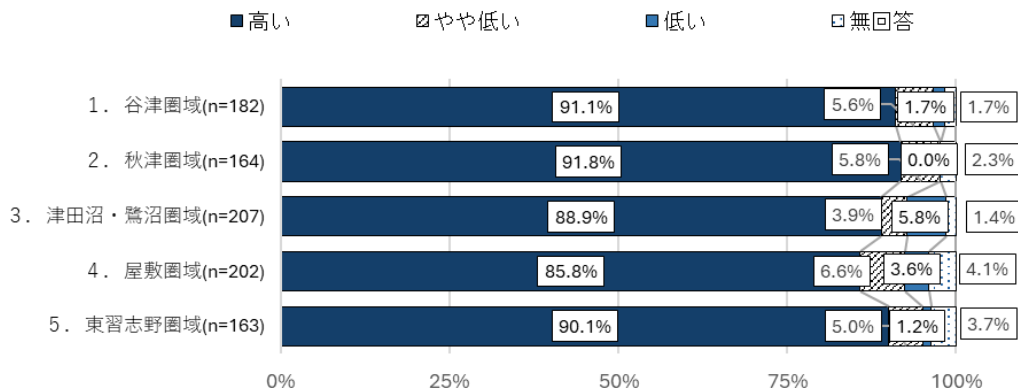
【圏域別】

圏域別に見ると、津田沼・鷺沼圏域の低下者が 19.0%とわずかに高くなっている。



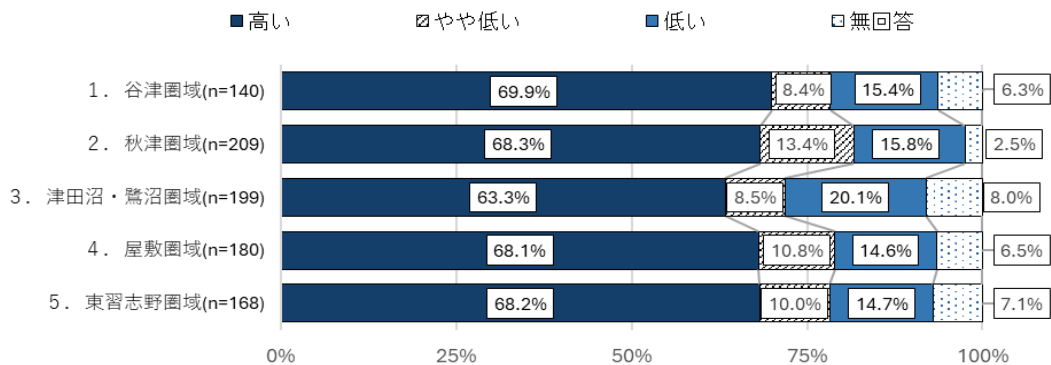
■一般高齢者

一般高齢者では圏域ごとに大差はない。低下者はそれぞれ 1 割程度となっている。



■要支援者・事業対象者

秋津圏域において低下者の割合が 29.2%とやや高くなっている。



3. 社会参加

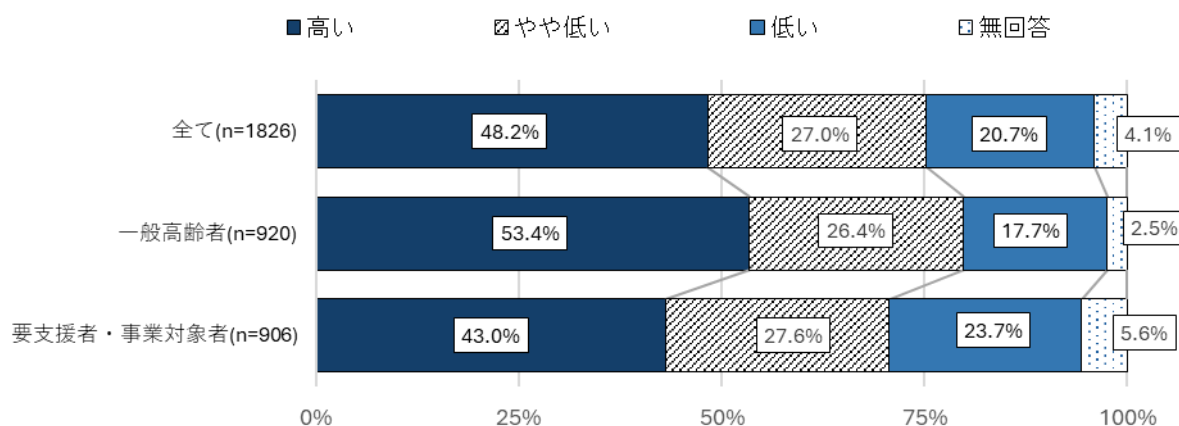
(1) 知的能動性

国の手引きに基づき、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力(知的能動性)の低下している人を把握する。調査票の以下の設問を抽出「はい」と回答した場合を 1 点として、4 点を「高い」、3 点を「やや低い」、2 点以下を「低い」として整理した。

設問	該当する選択肢
年金などの書類が書けますか	はい(1 点)
新聞を読んでいますか	はい(1 点)
本や雑誌を読んでいますか	はい(1 点)
健康についての記事や番組に関心がありますか	はい(1 点)

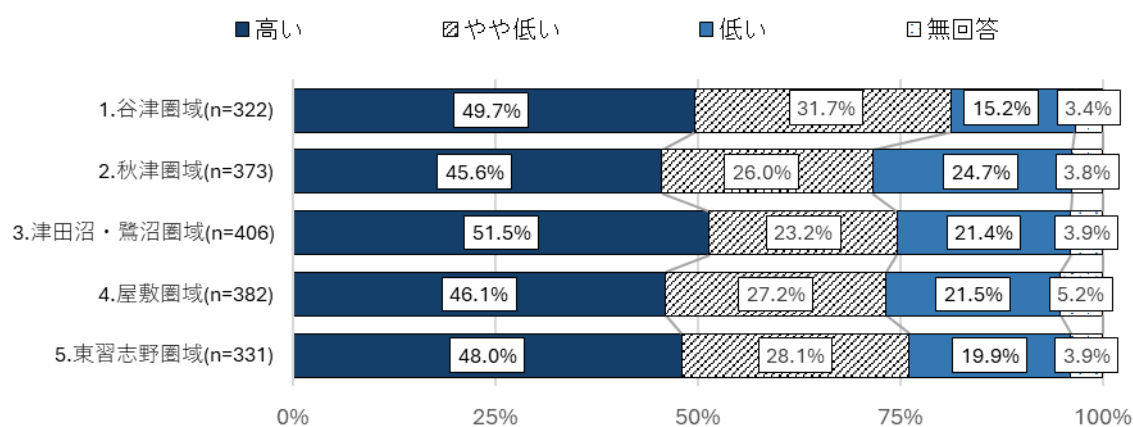
【調査区分別】

全体を見ると、低下者(「やや低い」と「低い」の計)が半数程度である。調査区分ごとに見ると、要支援者・事業対象者において低下者が 51.3%とやや高い。



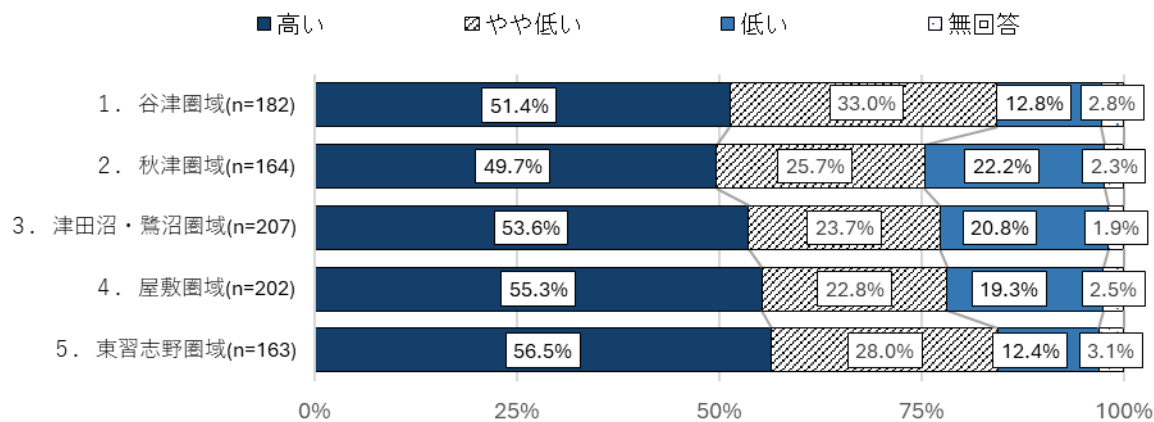
【圏域別】

圏域別に見ると、秋津圏域の低下者が50.7%とやや高くなっている。



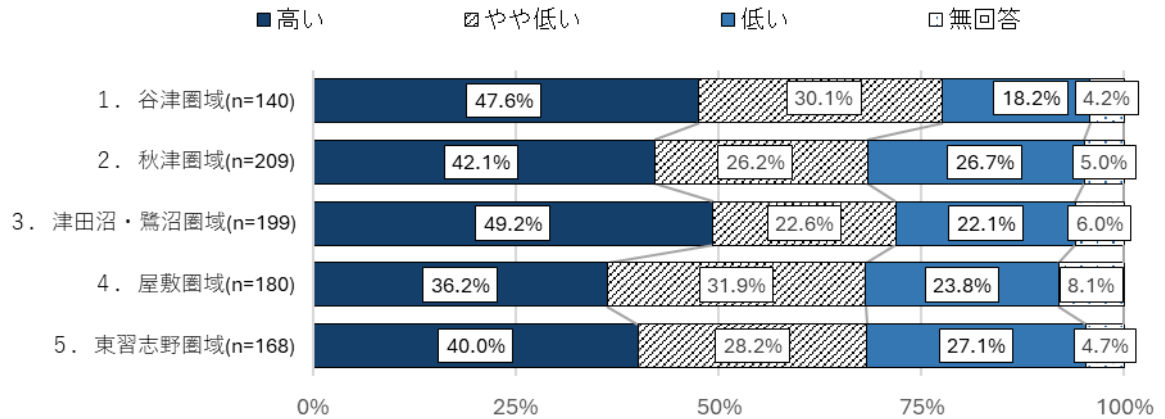
■一般高齢者

一般高齢者を圏域ごとに見ると、秋津圏域において、低下者が47.9%とやや高くなっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、東習志野圏域、屋敷圏域の低下者がそれぞれ 55%以上となっている。



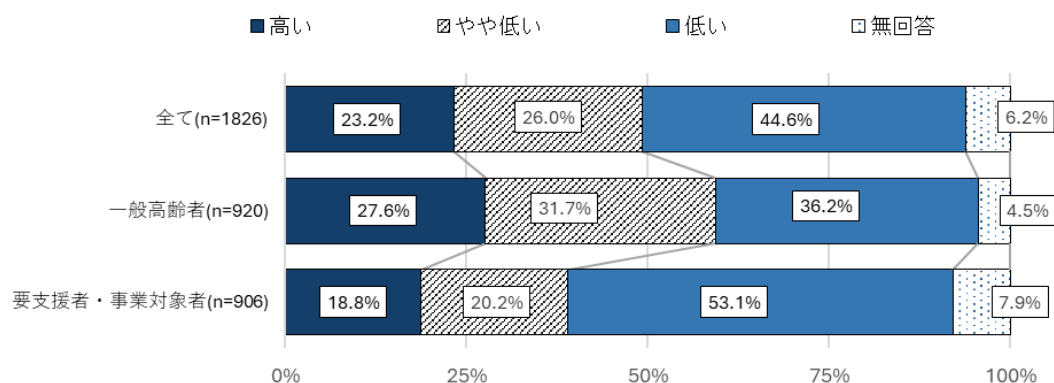
(2) 社会的役割

国の手引きに基づき、地域で社会的な役割を果たす能力(社会的役割)の低下している人を把握する。調査票の以下の設問を抽出「はい」と回答した場合を1点として、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」として整理した。

設問	該当する選択肢
友人の家を訪ねていますか	はい(1点)
家族や友人の相談にのっていますか	はい(1点)
病人を見舞うことができますか	はい(1点)
若い人に自分から話しかけることがありますか	はい(1点)

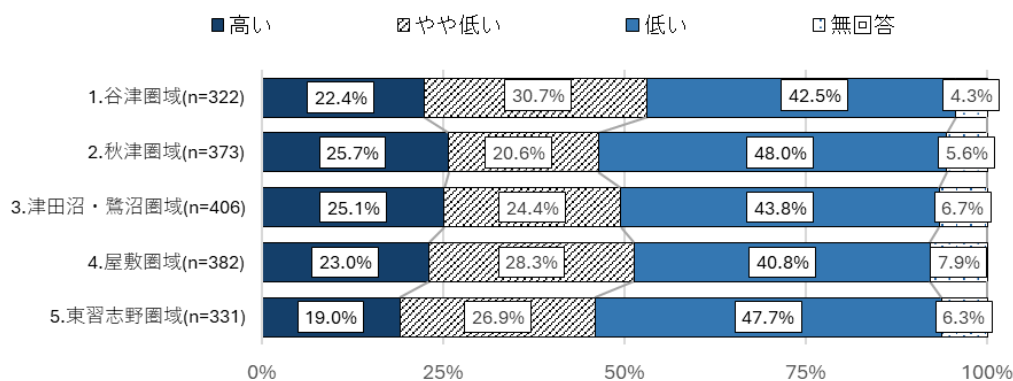
【調査区分別】

全体で見ると、低下者(「やや低い」と「低い」の計)が7割以上ある。要支援者・事業対象者においては73.3%とより高くなっている。



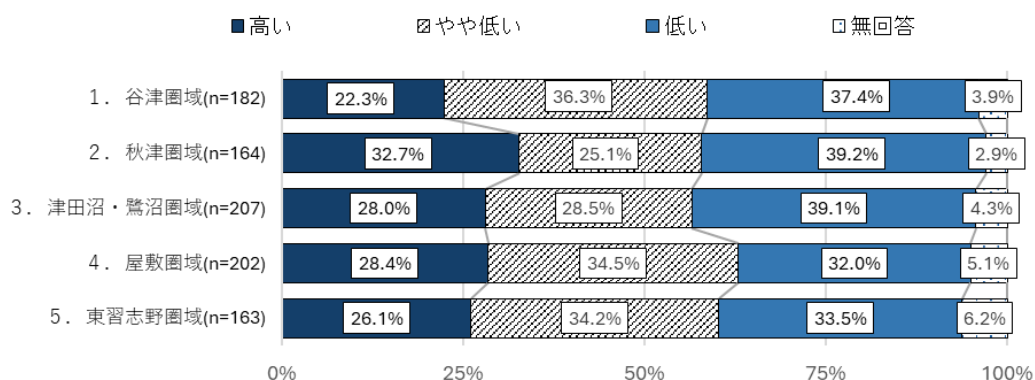
【圏域別】

圏域別に見ると、東習志野圏域の低下者が74.6%とやや高くなっている。



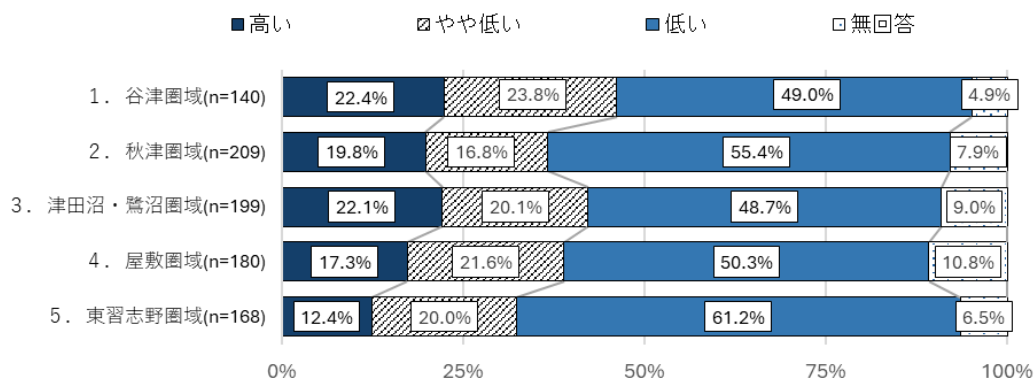
■一般高齢者

一般高齢者を圏域ごとに見ると、谷津圏域で、低下者が 73.7%と高くなっている。



■要支援者・事業対象者

要支援者・事業対象者を圏域ごとに見ると、東習志野圏域で、低下者が 81.2%と高くなっている。



第8章 認知症に関する状況

1. 認知症への理解

(1) 「新しい認知症観」について

調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者)それぞれで半数以上が「知らない」と回答した。共生社会の実現のために、より一層の普及啓発が重要である。

(2) 認知症の相談窓口について

「認知症に関する相談窓口を知っているか」の設問では、調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者)それぞれで半数以上が「いいえ」と回答した。相談窓口の周知が引き続き重要である。

(3) 市が取り組んでいる認知症施策について

「認知症高齢者介護相談」や「認知症サポーター養成講座」に一定の認知度が見られるものの、調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、一般若年者)の回答者数のそれぞれ 6 割超が無回答としており、「知っている施策がない」人が大半である可能性があり、施策の周知が引き続き重要である。

2. 認知症に対する不安・実態

(1) 認知症の要介護状況

要介護認定者における介護・介助が必要となった主な原因については、「認知症(アルツハイマー病等)」が 36.0%と最も高く、前回調査の 31.0%と比べて 5.0 ポイント上昇している。

また、自分や家族に認知症の症状があると回答した割合は、一般高齢者で 10.3%、要支援者・事業対象者で 16.2%、要介護認定者で 45.6%、一般若年者で 16.8%となっており、要介護認定者において他の調査区分と比較して高い割合となっている。

認知症は介護が必要となる要因の一つとして大きな割合を占めており、今後の高齢者施策においても引き続き注力する必要がある。

(2) 認知症向け介護サービスの状況

サービス提供事業者調査における利用申込みへの対応状況について、認知症対応型共同生活介護では 7 件の回答のうち 4 件が「余裕はない」となっており、対応余力が限られている状況がみられる。一方、認知症対応型通所介護では 7 件の回答のうち 2 件が「余裕はない」となっている。

(3) 認知症への不安

「自分自身が認知症になったときにどうしたらいいのか、不安に感じる事」について、「介護のこと」が各調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、一般若年者)で最も高い。特に一般若年者では83.6%となっており、比較的高い割合となっている。

3. 今後の共生社会への展望

(1) 認知症になった場合のイメージ

「自分や家族が認知症になった場合、周囲に認知症であることを伝えたいか」を問う設問では各調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、一般若年者)で「伝えたい(伝えている)」が比較的高い結果となった。特に一般若年者で59.3%と比較的高い割合となっている。その一方で、「わからない」が各調査区分で3割あり、認知症に対する受容的な意識が一定程度みられるものの、実際の対応や周囲への伝え方については判断が定まっていない層も多いことがうかがえる。

「認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか」を問う設問では、一般高齢者、要支援者・事業対象者、一般若年者共に「はい」が8割台で最も高い結果となった。

(2) 共生社会に向けて必要なこと

「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる地域を作っていくために必要であると思うことは何ですか」の設問では、「認知症についての正しい知識や正しい理解」、「適切な医療や福祉サービス」が各調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、一般若年者)でそれぞれ上位となっている。また、「認知症の人や家族が地域のつながりの中で安心して暮らし続けるために、手助けとなる環境が整備されている」や「不安や困りごとを気軽に相談できる体制」も比較的高い結果となり、正しい知識の普及、医療・サービスや相談体制の整備が求められている。

(3) 認知症向け介護サービスの今後の事業展開

認知症対応型共同生活介護及び認知症対応型通所介護については、今後の事業展開に関して「現状維持」または「現時点ではわからない」とする回答の割合が高く、ほとんどの事業所で事業規模の大きな変化は想定されていない状況がみられる。また、「縮小を考えている」とする回答はみられなかった一方で、「拡大を考えている」とする事業所も一部にみられる。

第9章 将来への備えに関する状況

1. 将来への備えに関する理解

(1) ACP

- アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の認知度について、「知っている」と回答する割合は、各調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、要介護者、一般若年者)で1割台にとどまっており、低い状況となっている。特に一般若年者では6.6%と1割にも満たない結果となっている。
- ACPをどこで知ったかを問う設問では、「テレビ・新聞・インターネット」が各調査区分で最も高い結果となっている。
- 人生の最終段階の医療・療養についてあらかじめ、繰り返し話し合うことについて、「賛成である」が各調査区分で最も高い結果となった。反対意見は極めて少なく、1%未満となっている。一方で、「わからない」とする回答も一定程度みられることから、ACPについて具体的な考えや判断に至らない状況がうかがえる。

(2) 身元保証制度

- 緊急事態が起きた時、金銭管理をしてくれる身内について、一般高齢者と一般若年者では「配偶者」が最も高いのに対し、要支援者・事業対象者、要介護認定者、施設入所者では「別居のことも」が最も高い結果となっている。
- なお、親族以外が身元保証等を行う制度の必要性について、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「わからない」が最も高く、それぞれ4割程度となっている。「必要性を感じる」はそれぞれ3割程度と一定程度ある一方で「必要性を感じない」とする回答も2割程度あることから、必要性に対する認識は一様ではなく、制度の理解が十分に浸透していない状況がうかがえる。

(3) 成年後見制度

成年後見制度の認知度について、「名称のみ知っている」が一般高齢者、要支援者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者でいずれにおいても4割以上と最も高い結果となっている。一方、施設入所者では「全く知らない」が49.7%と最も高い。このことから、成年後見制度については、名称の認知は一定程度みられるものの、内容の理解や具体的な活用に至っていない状況がうかがえる。

2. 将来への備えの状況

(1) ACP の状況

ACP を知っている人のうち、実際に家族や信頼する人たちと自分の考えを「共有している」とする回答は、「共有している」が各調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、一般若年者)で半数程度となっており、一定の取組がみられる。一方で、「共有していない」が一般高齢者で 41.1%、一般若年者で 48.8%となっており、ACP を知っていても話し合いの実践にまでは結び付いていない状況もまた一定程度確認できる。

(2) 終活

- 終活について、「既に準備している」「まだ始めていないが、今後、準備を進めたい」「関心がある」を合わせると、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに 8 割程度が関心を示している。そのうち、「既に準備している」は一般高齢者で 12.7%、要支援者・事業対象者で 17.3%にとどまっており、関心は高いものの、実際の準備までは至っていない状況がみられる。
- 終活に関心がある層のうち、終活のために準備している(または準備を進めたい)内容について、一般高齢者、要支援者・事業対象者ともに「家財等の整理・処分」が最も高い結果となった。その他、「エンディングノートの作成」「終末期医療や介護」が比較的高い結果となっている。

(3) 老後の生活に必要なだと思うこと

一般若年者における「自分の将来、特に老後の生活に備えて現在していることや必要だと思うこと」について、「健康を維持・推進すること」が 69.8%で最も高く、次いで「生活していくための収入源や貯蓄などを確保すること」が 55.4%となっている。その他、「趣味を持つこと」(38.6%)が比較的高くなっている。将来に向けた備えとして、健康面や経済面に加え、生活の充実に関する意識がみられる。

第10章 住み慣れた地域での生活継続に関する状況

1. 生活継続に対する意向

一般高齢者、一般若年者における「もし介護が必要となった場合の生活場所等」については、「介護保険制度のサービスや保健福祉サービスを活用しながらできる限り自宅で介護を受けたい」が一般高齢者(39.6%)、一般若年者(35.8%)ともに最も高く、在宅での生活継続に対する意向がみられる。

また、要支援者・事業対象者及び要介護認定者における「今後希望する生活場所」については、「現在のまま住み続けようと思う」がいずれも最も高くなっている。さらに、施設入所者における「今後希望する介護」についても、「このまま現在の施設での生活を続けたい」が最も高い結果となっている。

これらのことから、各調査区分において、現在の生活環境や在宅生活の継続に対するニーズの高さがうかがえる。

2. 生活継続に向けた支援ニーズ

(1) 住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な施策

一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者における高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために必要な施策としては、各調査区分に共通して「24 時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が最も高く、それぞれ 4～5 割程度を占めている。

また、「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」、「配食サービスなどの生活支援」、「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」も比較的高く、医療・介護サービスの充実に加え、日常生活支援や相談体制の整備が求められている。

さらに、一般若年者においては「配食サービスなどの生活支援」や「外出時の移動支援」などの割合が他の調査区分と比較して高く、生活支援や移動支援に対するニーズの高さがうかがえる。

(2) 自宅での生活を続けるために必要なサービス

一般高齢者、要支援認定者・事業対象者における自宅での生活を続けるために必要だと思うサービスについて比較すると、両者ともに「見守り・声かけ」や「換気扇や窓ふきなどの大掛かりな掃除」が上位となっている点は共通している。

3. 日常生活における困りごと・不安

(1) 現在困っていること

一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者における現在困っていることについては、「自分や家族の健康や病気のこと」が各調査区分で最も高い結果となっており、共通した不安としてみられる。

なお、一般高齢者では「特にない」が17.7%と一定程度みられるのに対し、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者においては、「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」や「もの忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」が比較的高くなっている。

施設入所者における現在の心配ごとや悩みごとについて、「自分の健康のこと」が40.0%で最も高く、次いで「特にない」が33.8%、「家族の健康のこと」が21.4%となっている。

いずれの調査区分においても「自分や家族の健康や病気のこと」「自分の健康のこと」は依然として高い割合となっており、健康に対する不安が中心的な課題となっている。

(2) 将来についての不安

一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者における将来の不安については、いずれの調査区分においても「自分や家族の健康や病気のこと」が最も高く、共通した不安となっている。

また、「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要なこと」、「もの忘れなどにより自分に自信が持てなくなること」、「大地震などの災害が起こること」も比較的高くなっている。

一方で、一般若年者では、上記に加えて「生活のための収入のこと」(46.7%)が高くなっている。

これらのことから、高齢者においては健康や介護に関する不安が中心であるのに対し、若年層では経済面を含めた幅広い不安が認識されている状況がうかがえる。

4. 外出・移動環境の状況

(1) 高齢者外出支援事業の認知度

- 一般高齢者、要介護認定者、一般若年者における高齢者外出支援事業(タクシー券の支給)の認知度については、全体的に「知らなかった」とする回答が高い傾向にある。
一方で、要支援認定者・事業対象者においては、「知っていた」が54.9%と半数を超えており、他の調査区分と比較して認知度が高い結果となっている。
また、一般若年者においては「知らなかった」が81.9%と、他の調査区分と比較して認知が進んでいない状況がみられる。
- 高齢者外出支援事業(タクシー券の支給)を知っている人の情報の入手経路については、一般高齢者、一般若年者では「親族・友人・知人からの情報」が最も高く、次いで「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」が高くなっている。
一方で、要支援認定者・事業対象者及び要介護認定者では、「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」が最も高くなっている。

(2) 高齢者外出支援事業の見直しについて

高齢者外出支援事業(タクシー券の支給)の見直しについては、いずれの調査区分においても「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が最も高く、共通して公共交通を含めた支援の拡充を求める意向がみられる。

また、「現状のタクシー券のまま継続してほしい」とする回答は、要支援認定者・事業対象者で28.7%、要介護認定者で32.7%と比較的高くなっており、現行制度の継続を求める意向も一定程度みられる。

(3) 運転免許証を自主返納した方への支援

- 運転免許証を自主返納した方への支援の必要性については、いずれの調査区分においても「必要である」とする回答が最も高く、全体的に支援の必要性が認識されている。
- 運転免許証を自主返納した方への支援として必要な内容については、一般高齢者及び一般若年者では「バス券の支給、定期券購入費の助成」がそれぞれ43.0%、47.4%で最も高くなっている。
一方で、要支援認定者・事業対象者及び要介護認定者では「タクシー券の支給」がそれぞれ最も高くなっている。

5. 在宅生活を支える介護者の状況

(1) 介護者の年齢

主な介護者の年齢について、要支援認定者・事業対象者の介護者では「80 歳～89 歳」が 36.3% で最も高く、次いで「60 歳～69 歳」(17.5%)、「70 歳～79 歳」(16.4%)となっている。

また、要介護認定者の介護者においては「60 歳～69 歳」が 26.9% で最も高く、次いで「80 歳～89 歳」(20.9%)、「70 歳～79 歳」(18.5%)、「50 歳～59 歳」(19.5%)と、幅広い年代に分布している。

これらのことから、主な介護者は 60 歳以上の高齢者の割合が高く、いわゆる「老老介護」の状況がみられる。

(2) 介護を行う上で困っている(困った)こと

いずれの調査区分においても「介護者の心身の負担が大きい」や「仕事との両立が難しい」、「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」が比較的高く、共通した課題としてみられる。

要介護認定者では「介護者の心身の負担が大きい」が 40.4% と高く、加えて「介護に要する費用がかかりすぎる」などの経済的な負担も比較的高くなっている。

一般若年者のうち、介護者の経験がある人について、「仕事との両立が難しい」が 61.4% と特に高くなっている。

(3) 仕事との両立

- 主な介護者の勤務形態について、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者ともに「働いていない」が高い割合となっている。一方で、「フルタイムで働いている」は要支援認定者・事業対象者で 16.9%、要介護認定者で 23.3%、「パートタイムで働いている」はそれぞれ 9.6%、14.5% となっており、一定程度の介護者が就労しながら介護を担っている状況がみられる。
- 「勤め先からどのような支援があれば仕事と介護の両立に効果があると思うか」については、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者のいずれにおいても「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も高くなっている。

また、「制度を利用しやすい職場づくり」や「介護をしている従業員への経済的な支援」も比較的高くなっており、制度の整備に加えて、職場環境や経済面に関する支援ニーズがみられる。

第11章 社会参加・地域との関わりの状況

1. 地域の活動

(1) 参加状況

全ての項目で、「参加していない」が過半数となっている。一方で、参加している割合では、一般高齢者、要支援認定者・事業対象者ともに「趣味」が最も高く、一般高齢者で 29.7%、要支援認定者・事業対象者で 23.8%の参加がみられる。

(2) 参加の意向

「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」を「参加意向あり」とすると、一般高齢者では 58.1%、要支援者・事業対象者は 51.9%が「参加意向あり」となった。

このうち、「ぜひ参加したい」は一般高齢者で 5.4%、要支援認定者・事業対象者で 9.1%と低い割合にとどまっているほか、「参加したくない」がそれぞれ 35.0%、35.5%と一定程度みられる。

これらのことから、積極的な参加意向は高くないものの、参加してもよいと考える層が一定程度確認できた。

(3) 隣近所や地域で高齢者を支えることについて

隣近所や地域で高齢者を支えることの必要性についてみると、要支援認定者・事業対象者で 72.6%、要介護認定者で 68.0%、一般若年者で 66.2%が「必要である」と回答しており、いずれの調査区分においても高い割合となっている。

一方で、「必要ない」とする回答はいずれの調査区分においても低く、地域で支え合うことの重要性が広く認識されている状況がみられる。

第12章 介護サービスの利用・供給の状況

1. 介護保険制度に対する意識

(1) 介護保険制度における保険料と介護サービスのあり方

介護保険制度における保険料と介護サービスのあり方について、一般高齢者、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者、一般若年者のいずれにおいても「どちらとも言えない」が最も高い。

一方で、「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」は各調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、要介護者、一般若年者、施設利用者)で3割程度みられるのに対し、「使えるサービスが多少抑えられても、保険料が安ければ良い」は1割程度にとどまっている。

(2) 低所得者への配慮

低所得者に配慮するために、高所得者の65歳以上の方の保険料負担を増やすことについて、一般高齢者では「そう思う」が52.1%で最も高く、要支援認定者・事業対象者では45.5%、要介護認定者では41.5%と、いずれの調査区分(一般高齢者、要支援者・事業対象者、要介護者、施設利用者)においても一定の割合を占め、「そう思わない」はそれぞれ1割程度にとどまっている。

2. 介護サービスの利用状況

(1) サービスの利用状況

この1か月における介護保険サービスの利用状況についてみると、要支援認定者・事業対象者では「利用している」が47.8%、「利用していない」が46.8%と拮抗している。

一方で、要介護認定者では「利用している」が85.1%と大半を占めており、「利用していない」は12.2%にとどまっている。

これらのことから、要支援認定者・事業対象者ではサービスの利用が分かれている状況であるのに対し、要介護認定者ではサービス利用が進んでいる状況がみられる。

(2) 利用しているサービス

介護保険サービスの利用内容については、要支援者・事業対象者においては「通所リハビリテーション(デイケア)」が50.3%と最も高く、次いで「福祉用具貸与」が33.7%、「訪問介護(ヘルパー)」が18.9%となっている。

要介護者においては、「通所介護・地域密着型通所介護(デイサービス)」が36.6%で最も多く、次いで「訪問介護(ヘルパー)」が25.3%となっている。その他、「通所リハビリテーション(デイケア)」(19.7%)、「訪問看護」(18.0%)、「訪問リハビリテーション」(15.6%)が比較的高くなっている。

(3) 介護者サービス利用による介護者の変化

介護サービスを利用することによる介護者の変化について、要支援認定者・事業対象者の介護者、要介護認定者の介護者のいずれにおいても「精神的に楽になった」が比較的高く、サービス利用による精神的な負担軽減がみられる。

また、要介護認定者では「介護に関わる時間が減った」(32.5%)、「身体的に楽になった」(29.0%)、「時間に余裕ができた」(28.2%)なども高く、身体的・時間的な負担の軽減もみられる。

一方で、「経済的に苦しくなった」は要支援認定者・事業対象者で4.6%、要介護認定者で14.9%と一定程度みられ、特に要介護認定者においては費用負担の影響もうかがえる。

なお、要支援認定者・事業対象者では「特に変化していない」が23.0%で最も高く、サービス利用による変化の実感が相対的に小さい状況も一定程度みられる。

(4) 利用していない理由

介護保険サービスを利用していない理由について、要支援認定者・事業対象者、要介護認定者のいずれにおいても「今のところ自分でやっていけるから」及び「今のところ家族介護でやっていけるから」が高く、サービスを必要としていないと考えている層が多い状況がみられる。

一方で、要介護認定者では「病院に入院しているから」(20.7%)が比較的高く、家族による対応や入院等の状況が影響していると考えられる。

また、「どのようなサービスがあるのかわからないから」や「利用者負担が大きいから」といった理由も一定程度みられ、サービスの認知や費用面が利用に影響している状況もうかがえる。

(5) サービスの自己負担感

介護保険サービスの自己負担割合に対する負担感について、要支援認定者・事業対象者では「適正だと感じている」が42.7%、要介護認定者では50.4%でそれぞれ最も高く、一定程度の納得感がみられる。

一方で、「高いと感じている」及び「とても高いと感じている」を合わせると、要支援認定者・事業対象者で9.6%、要介護認定者で16.5%となっており、特に要介護認定者において負担感を感じている割合が比較的高くなっている。

施設利用者においては、「適正だと感じている」が41.8%、「高いと感じている」割合が12.6%となっている。

(6) 福祉サービスの利用に結び付いていない高齢者

サービス提供事業者調査において、支援が必要であるにもかかわらずサービスの利用に結びついていない高齢者については、「いる」が28.3%となっており、一定数存在している状況がみられる。

結びついていないサービスの内容としては、「介護サービス」が76.9%で最も高くなっている。

また、結びつかない理由については、「サービスにかかる費用が負担になるため」が26.9%で最も高いものの、その他の自由記述では「本人の拒否」が最も多く挙がっており、費用面に加えて本人の意向が影響している状況がうかがえる。

3. サービスの供給状況

(1) 事業者の人手不足

サービス提供事業者調査におけるサービスを提供する上で困っていることについて、「マンパワーが不足している」が56.5%で最も高く、次いで「報酬が低すぎる」が51.1%となっている。

マンパワーが不足しているサービスは、「地域密着型通所介護」が23.1%で最も高く、次いで「訪問介護」が17.3%、「居宅療養管理指導」が15.4%となっている。

マンパワーが不足している職種は、「介護職員」が55.8%で最も高く、他の職種と比べて大きく上回っている。また、「生活相談員」が21.2%、「看護職員」が17.3%、「管理者(候補含む)」が13.5%、「介護支援専門員」が11.5%と続いており、現場職員に加えて、相談・調整機能を担う職種においても不足がみられる。

(2) インフォーマルサービスの利用

サービス提供事業者調査におけるインフォーマルサービスの活用状況について、「たまに活用することがある」「できるだけ活用している」を合わせて活用している層が5割程度あり、一定程度活用されている状況がみられる。

インフォーマルサービスの内容については、「配食サービス」や「安否確認」、「ゴミ収集事業」などの日常生活支援に関するものが多くみられる。また、「訪問理容」や「訪問マッサージ」、「介護タクシー」などの外出支援・訪問サービスのほか、「高齢者の集いの場」、「知人・友人による支援」など、地域や人とのつながりを活用した支援もみられる。

(3) 地域のボランティア意向

一般高齢者、要支援者・事業対象者における「ボランティアとして活動できるとしたら協力できる内容」について、「見守り・声かけ」が特に高く、その他「買い物」「ゴミ出し」「薬の受け取り」も一定数挙げられている。

一般若年者においては、支援を必要とする高齢者を支えるボランティア活動への参加意向について、「是非参加したい」、「参加してもよい」、「既に参加している」を合わせた参加意向のある層は44.6%となっている。

一般若年者の支援者として参加したい活動について、「見守り活動(日常の声掛けなど)」が68.0%で最も高く、他の項目と比べて大きく上回っている。次いで、「介護保険施設や介護事業所でのボランティア」、「外出(病院の付き添いなど)」、「生きがづくり(趣味サークルの実施など)」が比較的高くな

っている。

これらのことから、見守りや声かけなど、比較的参加しやすい活動を入口としながら、地域住民の参加意向を把握し、無理なく活動につながる仕組みや、インフォーマルサービスとの連携のあり方を検討していくことが重要である。

以上